kamipro 123 DREAM奇跡の大爆発!!
2008年6月5日
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社

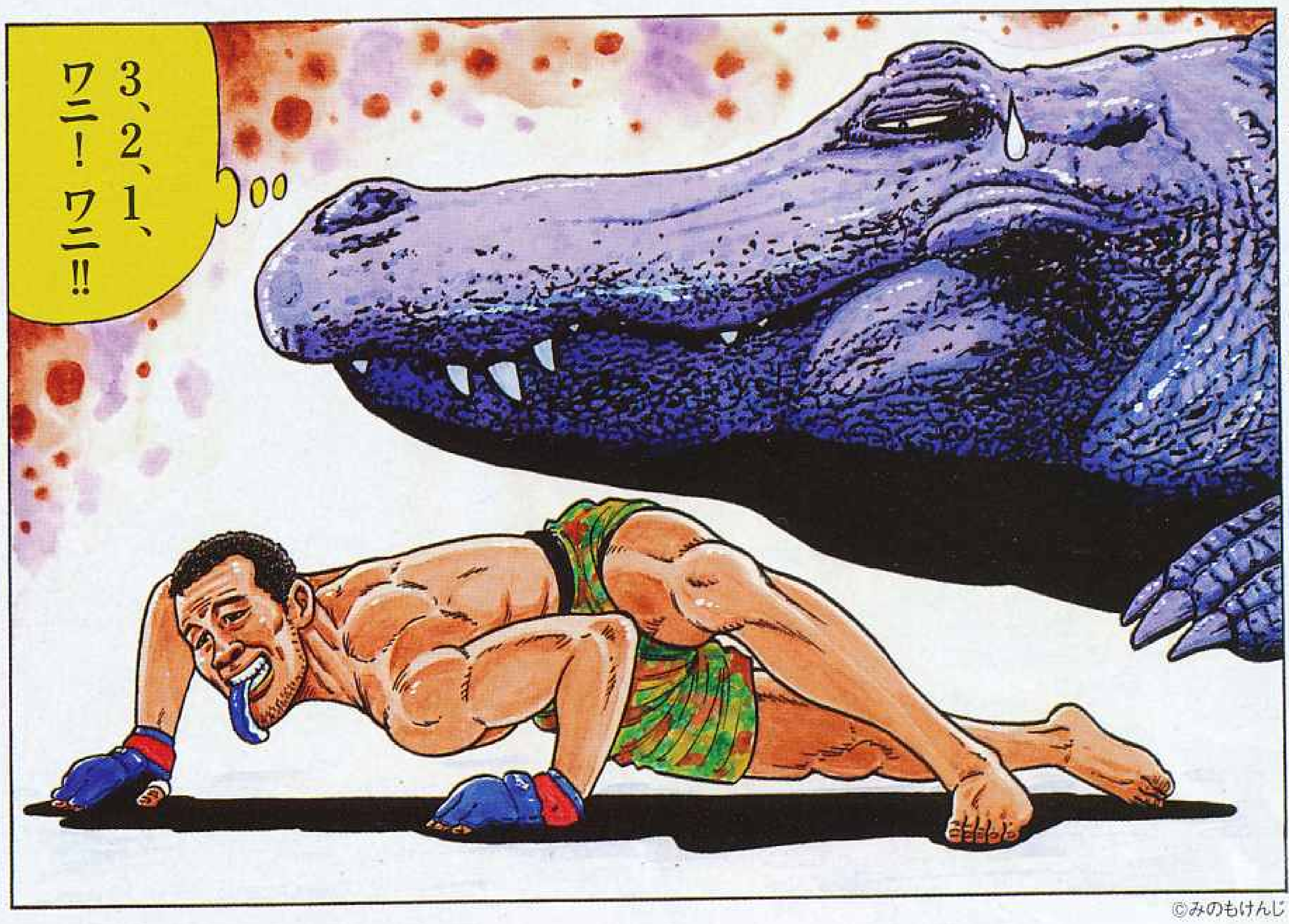
enterbrain

うわ〜ん、うわ〜ん、ワニ男だよ〜。



さらばリンリン! こんにちはジャカレイ!!

パンダよりワニが好き




うわ～ん、うわ～ん、ワニ男だよ～。

©みのもけんじ


2008 No.123 CONTENTS

kamipro

表紙写真／菊池茂夫



３の数字がつくとき盛り上がります！『DREAM・3』、オモロー!!



生き残った日本マット界——!!
もっとやれんのか!



バカと芸術は紙一重!!

奇才対談

×須藤元気

“キング・オブ・HERO'S” J.Z.カルバンを見事に撃破し、“世界のワオ木さん”となった青木真也と、“トリックスター” 須藤元気の対談が実現! かつて独特の感性と表現力で格闘技界を彩った元気は、「バカ」を公言する奇才グラップラーをどう見ているのか? バカと芸術は紙一重! シュールでキャッチーなトークをじっくり味わえ!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也



格闘奇

青木真也

——青木選手がJZカルバン撃破という大仕事を成し遂げてくれたので、本誌も（増刊号から）2号連続で表紙いっちゃおうかなということで、今回はビッグ対談を組ませていただきました！

青木　ありがたいですね！

——というわけで、今日は須藤元気さんに来ていただいたんですけど、もともと面識はあったんですか？

青木　じつは一回、練習させてもらったことがあるんですよ。

須藤　そうです。あれ今成（正和）さんのジムですよね？

青木　はい。いまはなき（笑）。

須藤　あ、もうないんですか（笑）。僕が『HERO'S』に出てた頃、今成さんにちょっと稽古つけてもらおうと思って、高田馬場にあったジムに出稽古に行かせてもらったんですよ。そしたら青木選手もいて、一緒に練習させてもらって。

——もちろん、まだ青木選手がPRIDEに出てない頃ですか？

青木　出てないですね。まだマッハさんとやる前でしたから、修斗の2戦目とかですよ。それで一緒にスパーリングやって、帰りに須藤さんからユンケルの粉をもらったのをいまでも覚えてますよ。

須藤　いろいろ教えてもらったんで、感謝の気持ちを示そうと思って、持ってた粉末のユンケルをあげたんですよ。

青木　粉ッスよ！　初めて見ましたよ。

須藤　あれは瓶に入った液体のやつよりリーズナブルだし、持ち運びも便利でいいんですよ。

青木　元気さんが帰ったあとに、僕と十段の二人で「これが強さの源か！　夜も眠れないはずだ！」とか言って。

——そういう目的であげたわけじゃないですよ！（笑）。そのときのお互いの印象はどうだったんですか？

試合前に必ず『ランボー』を観るんですよ あれ、ムチャクチャやる気出ますよ！



青木　僕は「スターが来た！」としか思ってなかったですね。

須藤　僕は青木選手が得意にしてる、がぶりのチョークがあるじゃないですか。そのイメージが凄くあって、この機会にちょっと学びたいなと思ったんですよ。それで実際にスパーリング中も、その体勢になると「きた！」って思いながらやってましたね（笑）。

——その当時から今成さんのところって、いまのNTT（ニホン・トップ・チーム）みたいなメンバーが揃ってたんですか？

青木　いや、僕と十段の二人っきりです。

也〉須藤元気

——そうでしたか（笑）。

須藤　僕はデビュー前から出稽古生活をしてて、トータルで30カ所ぐらいのジムに行きましたけど、あそこの雰囲気は異様でしたね。一番マニアックだったというか。

青木　道場がビルの3階なんですけど、シャワーがないんで、夏は何もない屋上に行って、二人で水かけっことかしてましたから。

須藤　僕が行ったときも、ジムに入ったらあまり広くないスペースに、今成さんが体育座りでたたずんでて「これは普通じゃないぞ」って（笑）。

青木　一般開放してるとは思えないジムでしたからね。一般の会員さんに、腕立て200回とかやらせてるんですよ。「それ、おまえの練習だろ」って（笑）。

須藤　今成さんをこんなにイジッていいのかなあ？

——まあ、そんな過去があり、それから3年ぐらい経ったわけですが、あのとき今成さんのジムにいた青木選手が、このあいだJZカルバンを見事に破りましたけど、元気さんはリングサイドでご覧になっていかがでしたか？

須藤　凄かったですね。宮本武蔵と佐々木小次郎の闘いを彷彿とさせるような試合でした。やっぱり1回試合が流れて、2回目も決着がつかず、3回目じゃないですか。だから、お互いちょっと痺れを切らしてる部分があるのかなって感じていて、先に仕掛けたらやられるんじゃないか、と思ってたんですけど。そういうのは感じてなかった？

青木　僕はカルバンがどうとかというより、自分勝手に、自分のことだけやろうと思ってたんですよ。

須藤　そうやって自分のペースでできたのがよかったんでしょうね。カルバンは焦ったというか、痺れを切らして仕掛けて、〝佐々木小次郎〟になったんですよ。カルバンは自分の動きができてませんでしたから。

——試合中、自分のペースでできてるなって、ご自分でも感じてましたか？

青木　いや、そんなになかったですけどね。必死でしたから。だって本気で殴ってくるんですよ！

須藤　あれ試合だから。本気だよ（笑）。

青木　全部のパンチが一生懸命なんですよ。厄介だな、と思って。

——どれを食らっても痛いという。

青木　痛いですねえ。で、カルバンも頭がいいから、ルールの中で許される攻撃を研究してくるのがうまいですよね。いままでの『HERO'S』ではカカト蹴りとかないじゃないですか。ああいうのもルールで認めると、すぐ研究して実戦で出せるっていうね。

須藤　あのとき一瞬、意識が飛ばなかった？

青木　気づいたら、バック取られて立ってましたね。

須藤　解説席で観てて、一瞬「あ、意識飛んだ！」ってわかったんですよ。あそこからよくリカバーしたなって。

青木　覚えてねえですから。あそこの記憶がないんで、僕の中では1ラウンド終わったとき、一方的に圧倒してたんですよ。

——ダハハ！　KO寸前まで殴られたところだけ記憶がないから（笑）。

青木　インターバル中、セコンドの中井（祐樹）さんに「俺、余裕ッスね」とか言ってたんですけど。そのとき、中井さんは「これ、ちょっとおかしいな」って思ってたらしいですね。

——記憶飛んでるだろうって（笑）。

須藤　あれ、もう一発ちょっといいとこ入ってたら、ヤバかったですね。

青木　でも、ビデオで見直すと、カルバンは逆にあれで疲れた感じがしましたね。勘のいい選手なんで、一気にきたから、逆にスタミナ消耗しただろうなって。

須藤　前回、3月にヒジを首に落とされたダメージはなかったんですか？

青木　やっぱり首だったんで、しんどかったんですけど、「痛みを無視しろ」って心の声が聞こえてきたんで。『ランボー』のワンシーンにあった「どうだい？　痛むか？　痛みを無視しろ！」「わかりました」って感じでしたね。

須藤　……ちょっとわかりづらい比喩でしたね（笑）。

青木　わかりにくいですか？　俺、試合前に絶対に『ランボー』を観るんですよ。ムチャクチャやる気出ますよ！

須藤　『ロッキー』はよく聞くけど『ランボー』は……。

——同じスタローン主演でもあまり聞きませんよね（笑）。

須藤　試合で銃使わないし（笑）。

青木　（聞かずに）やっぱ『ランボー』ですよ！『ランボー』は幸せに完結するんで、観終わったあと、自分も強くなった気になるんです。

——お手軽なメンタルトレーニングですか（笑）。

青木　ホントそうですよ。試合3日前でできますもん。

須藤　その気持ちはなんかわかります。

青木　そうですよね！

須藤　僕は『ランボー』じゃなくて、『タイタニック』を観るんです！

——それ、沈んじゃってるじゃないですか！（笑）。

須藤　いや、「俺は沈まない！　沈んでも絶対に助かる！」っていうふうに思うように（笑）。

——ガハハハハ！　俺はディカプリオにはならない！と（笑）。

須藤　たまたま学生時代、試合前に『タイタニック』を観て、それでテンションが上がったんですね。俺もあのぐらいのドラマチックな人生を送ろうって。

——青木選手は『タイタニック』はどうですか？

青木　あれ長いじゃないですか。僕は展開が早くないと。映画って我慢できないんですよ。やっぱやっぱ『あぶ刑事』（『あぶない刑事』）とかみたいに、バンバン撃って展開していかないと。

須藤　『あぶ刑事』って……略してるし。いやあ、青木選手がこういうキャラだとは思いませんでしたね。

青木　いつもこんな感じで適当なんですけど。

——ウチのインタビューでは、とくにこんな感じですよね（笑）。

須藤　寝技とか見ると、凄くしつこくいくじゃないですか。だからこんな、適当だとは……。

青木　ホントはしつこいんですけどね。

須藤　しつこいところはしつこい？

青木　そうですね、来る者は拒まず、去る者は追いますからね。

須藤　追っちゃうんだ（笑）。

——それ女性関係の話ですよね（笑）。

須藤　あと僕は青木選手の泣いてる姿を何度か見ているので、ちょっとイメージが違うなって。

青木　泣いてばっかですからね。

須藤　もうニックネームも変えたらいいと思うんですよ。「バカサバイバー」じゃなくて「闘う泣き虫王子」とか。

青木　〝王子〟はないなあ。

須藤　でも、ちょっと泣き虫キャラを定着させたほうがいいと思うんですよね。



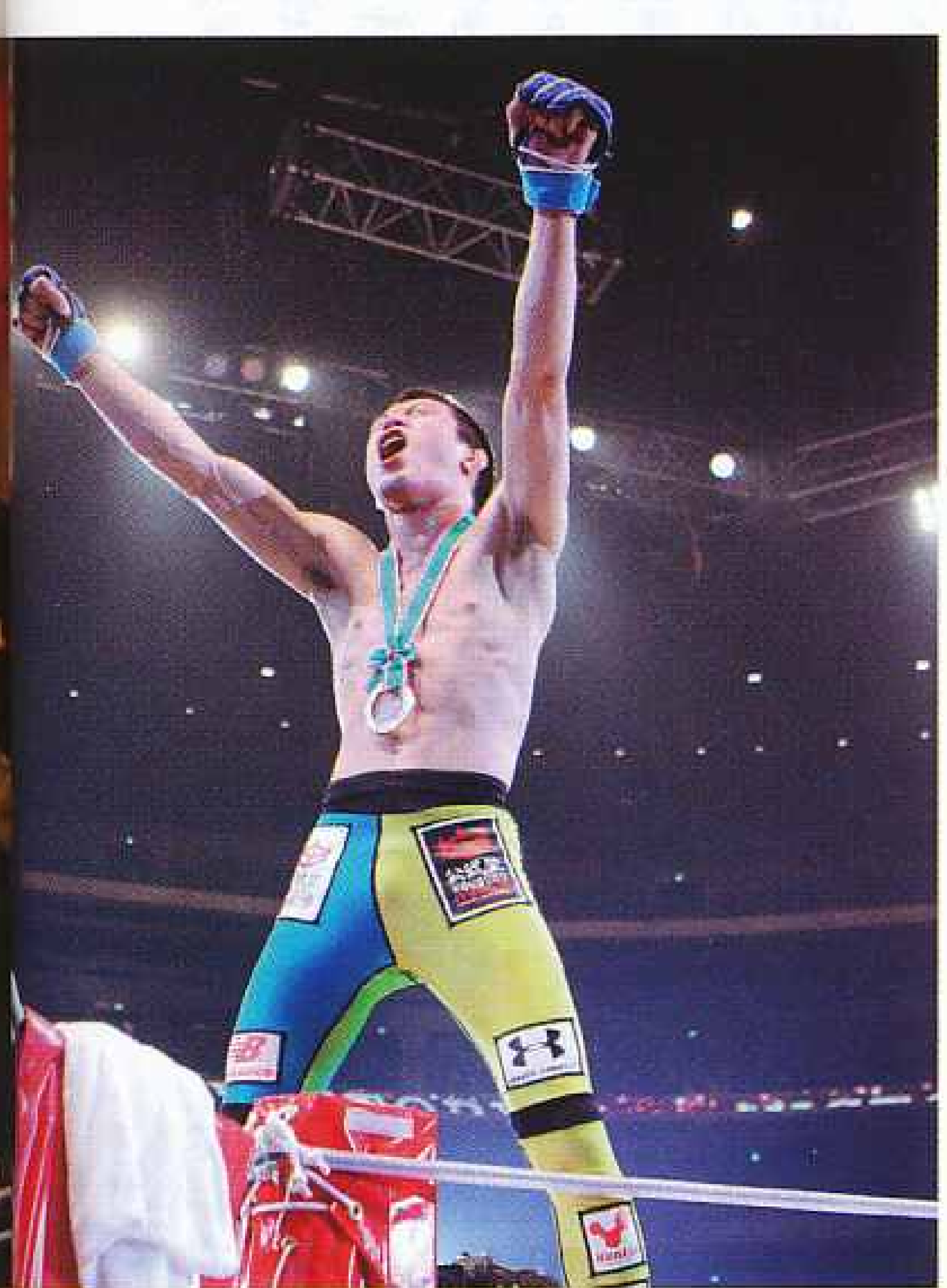
僕は『タイタニック』を観ますね。「俺は沈まない！」「絶対に助かる！」って（笑）

青木真也×須

青木　泣き虫先生みたいな（笑）。
――『スクール☆ウォーズ』ですか（笑）。
須藤　人の魅力っていうのはギャップであり振り幅なんで。強いのにすぐ泣くっていうのは、凄くいいと思うんですよね。気質はのび太なのに、腕っ節はジャイアンっていう魅力が。
青木　（唐突に）須藤さん、もう復帰はしないんですか？
須藤　この話の飛び方は、一瞬、美濃輪さんかと思いました（笑）。
――いきなり話が飛びますね（笑）。
青木　（気にせず）もう格闘技やんなくなって1年ぐらいですか？
須藤　1年半弱ぐらいかな。そろそろちょっと身体を鍛えだして。
――おっ！
青木　そろそろやるのかなって思ってたんですよ。
須藤　でも、いまは選手より、興行を観るのが楽しくなってきてる。引退したら引退したなりの格闘技の魅力っていうのがわかるようになって。現役だとどうしても「現役の視点」で、技術面ばかりを見てしまうんだけど、いまはべつに求められてないのに、興行面を考えながら観てるんですよ。「あの花火のタイミングは……」とか。
――そんなことまで考えてますか（笑）。では、このあいだの『DREAM.2』で第一試合から青木vsカルバンっていうのは、興行的にはどうでした？
須藤　一試合目が青木vsカルバンっていうのは、最高でしたね。

「バカサバイバー」から「闘う泣き虫王子」にニックネームも変えたほうがいいよ（元気）

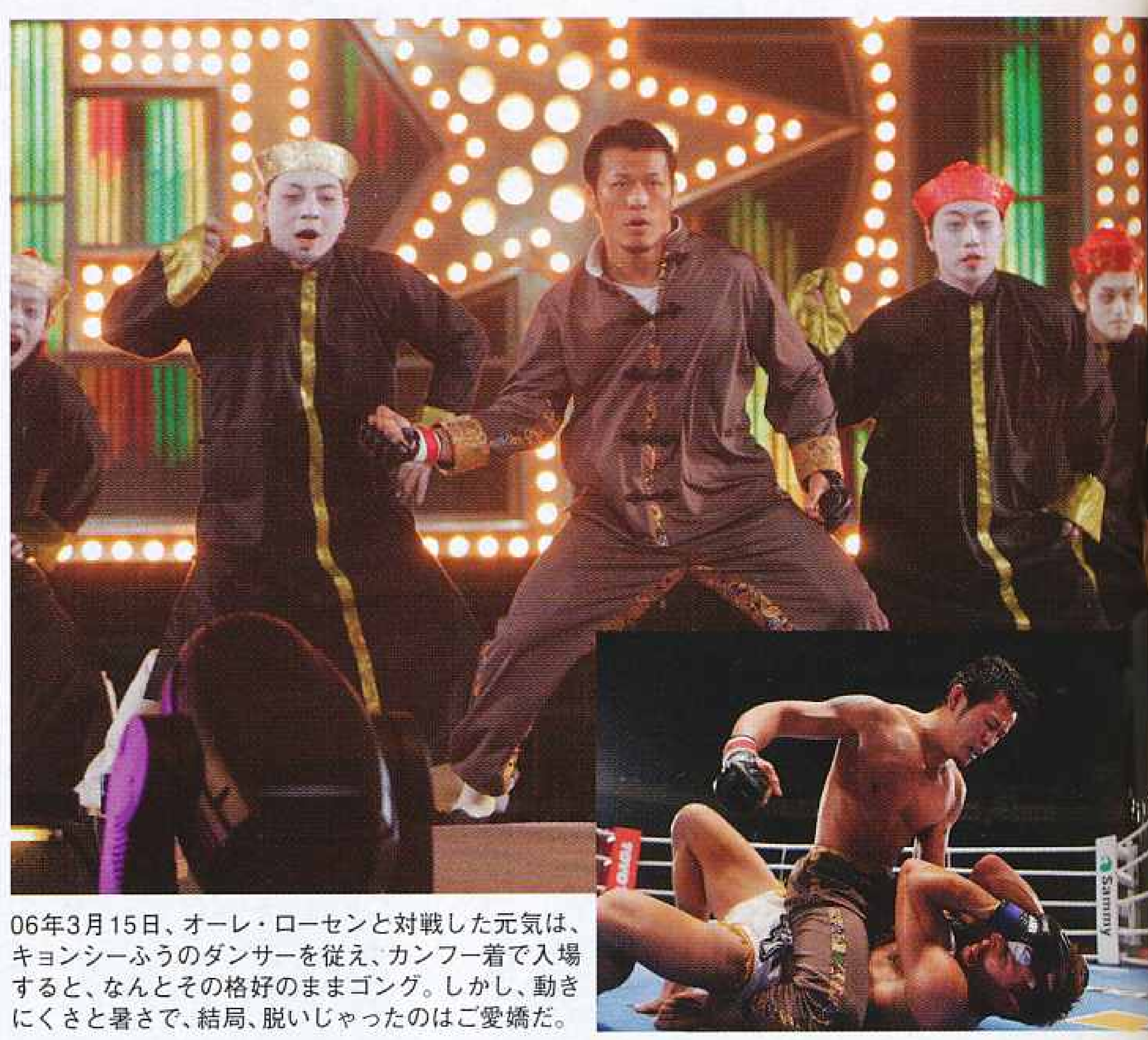
青木　そうですか？　俺は最初「第一試合だから」って言われて悲しかったんですけどね。俺の中ではセミぐらいのイメージだったんですよ。
須藤　でも、興行面だけじゃなく、選手のコンディションを考えても第一試合でよかったと思う。メインとかセミになってくると、精神的にプレッシャーが出てくるから、最初のほうが楽なんですよ。興行ってなんだかんだで4時間ぐらいありますからね。メインやセミだと、4時間待つのが疲れてくるんですよね。
青木　ああ、疲れますね。
須藤　だから体調も考えて第一試合っていうのは、あれはうまいなって。
青木　そういうのもあるんだ（笑）。僕、興行のこと考えてないですから（笑）。でも、あらためてトーナメントってしんどいですよね。
須藤　大変だよね（笑）。
青木　須藤さん、『HERO'S』のトーナメントで、1日で宮田（和幸）選手と高谷（裕之）選手に連続一本勝ちしたじゃない


『やれんのか！』、『DREAM.1』、『DREAM.2』と3大会連続で泣いている青木真也。このキャラが定着し、「新・涙のカリスマ」「闘う泣き虫王子」と呼ばれる日は来るのか？

也 ×須藤元気

ですか。あれ凄かったな。とくに宮田さんから取ったのはすげえな、と思ったんですよ。あれは絶対やりづらいッスよ。とくにまだ、あの当時は総合格闘技を知らない頃だから、よけいやりづらかったと思うんですよ。あと高谷選手もやりづらいですよね。オラオラしてるもんなあ。
――オラオラしてやりづらい（笑）。
青木　ああいうオラオラしてる相手は、どうやっていなすんですか？
須藤　「やめてくれー」って（笑）。逃げて逃げて、隙を見て極める感じかな。あのとき試合後、高谷のところに行って「ありがとう」って挨拶したら、「道で会ったら覚えとけ」って言われましたから（笑）。
――ガハハハ！
青木　それ凄いですねえ！（笑）
須藤　道で会ったら覚えてるだろうけど。まあ、同い年で仲がよかったっていうのもあるんで。僕が学生時代でも高谷は有名でしたからね。
――ワルで有名だったんですか？
須藤　チーマーですからね。だから「道で会ったら覚えとけ」って言われたとき、やっぱり気質は変わらないんだなって（笑）。
――まさにジ・アウトサイダー（笑）。
須藤　リアル・アウトサイダー。スーパーバイザーの域ですよ。
――元気さんから見て、青木真也っていうプロファイターのキャラクターはどう思いますか？
須藤　そうですね、ロングスパッツがいいですね。とくに色合いがいい。なんであんな色合いなんですか？
青木　狂った感はありますよね（笑）。
須藤　やっぱりね、少し壊れてるほうがいいんですよ。あの色彩で、色白じゃないですか。いままでのファイターとちょっと違いますよね。自分を強そうに見せてないという。
青木　いや……オシャレに見せたいんですけど。
須藤　あ、オシャレに見せたいんだ（笑）。
青木　ホントはタータンチェックとかにしたかったんですよ。
――ガハハハ！　スカートじゃないんだから（笑）。
青木　でも、流行の先取り感があるじゃないですか。
須藤　流行するかどうかはわからないけど、確かに新しい。
青木　もう7月の試合は、アロハ柄でいこうと思ってるんですよ。これもオシャレですよね。絶対にモテるって言ってるんですけどね。
須藤　モテるかどうかはわからないけど、熱帯系の花柄だったりするの？
青木　そうそう。6月15日は梅雨なんで難しいですけどね。
――あじさい柄とかどうですか？（笑）。
青木　あ、いいね！　会場が横浜アリーナだから、鎌倉も近いしね。なんか最近、短パンの人が多いじゃないですか。
須藤　いや、短パンって昔からあるから。
青木　前はみんなスパッツだったじゃないですか。それが半ズボンになるのは、よくないっスよ。みんなモッコリを嫌うんですよね。いつの間にやら隠す文化になりつつあるんで、出す文化にしないと。
須藤　逆に上も隠してみるってどう？　ロングタイツ穿いて、上半身はレスリン

グの吊りパンみたいにして。
青木 ああ、安生洋二みたいな感じで。
——ガハハハ！ 確かに安生さんはそんな感じですね（笑）。
須藤 いいじゃないですか！ スリムな人が安生氏スパッツ穿いてたら、これはキャッチーだね！
青木 カッコいいですよね。いまUFCに出てるダミアン・マイアってわかります？ あいつ昔、Tシャツ着て総合やってたんですよ。すべらないために。これはいいな、と思って。Tシャツ着たままやったら、あんまりすべらないし、緊張しなさそうじゃないですか。
須藤 練習の感覚に近くていいかもね。
——そういうもんですか。
須藤 だから試合が近くなると、選手はTシャツ脱いで練習するんですよ。なるべく試合の感覚に近くなるように。僕も試合の1カ月前はファールカップ着けてマウスピースして、オープンフィンガーグローブにテーピングをちゃんとして、ホントに試合の感覚で練習してました。でも、その練習してる格好そのままで闘うって新しいね。
青木 いいッスよね！ 練習着のまんまリングに上がったら、たぶんそんな緊張しないと思うんですよ。
須藤 ホントに練習で着てたTシャツでね。
青木 そう。首の周りにダルダル感のあるやつで（笑）。
——DREAMのルール的にTシャツっていうのはどうなんですか？
青木 ダメなのかな？
須藤 いやいや、こういうのは選手が「着たい」ってごり押しすれば絶対OKになりますよ。
——そういうもんですか（笑）。
須藤 僕も一回カンフー着で試合をやったことがありますからね。
——ありましたね！ オーレ・ローセン戦。
須藤 あれは本来ルールで禁止なんですけど。「そっちのほうが絶対に視聴率獲れますよ」って話して、特別ルールにしてもらったんです。
——ガハハハ！ わざわざ特別ルールまで作りましたか（笑）。
須藤 そのほうがキャッチーだと思ったんで。
青木 やりやすかったですか？
須藤 やりづらいね。あれは作ったんですけど、生地が破けるっていうんで、裏地にベロアの生地をつけたんですよ。そしたら暑くて暑くて。動きづらいし。あれは苦しかったですねえ……。それで途中で脱いだんですよ。
——わざわざ特別ルールにしてまで着たのに（笑）。K－1系ってけっこうそういうのが許されますよね。昔、佐竹雅昭さんなんか『ストリートファイターⅡ』みたいな袖のない道衣で出てましたからね（笑）。
須藤 ああ、あれは新しかったなあ。いまやったら一周してカッコいいですよね。
青木 北尾（光司）みたいでいいっスよね。
——空拳道みたいで（笑）。
青木 北尾とかってロマンありますよね。最強感漂うなあ。そういう選手とも闘ってみたいんですよ。
——北尾みたいなデカいのと闘いたいんですか!?（笑）。
青木 無差別級の試合をやってみたいんですよね。デカいっていうのはやっぱすげえですよ。だから、ミルコとやってる美濃輪さんとか観て、カッコいいなと思いますからね。
須藤 ミルコとやるんだったらグローブをちょっと大きくしてもらったりとか、ヒザサポーターしたりとか、規制すればいいんじゃない？
青木 それでも殺されそうだし、怖いもんは怖いけど。
須藤 でも、いまその言葉を聞いたら、ぜひやってもらいたいな。僕がマッチメイカーだったら、絶対いまの言葉を聞き逃さないですよ（笑）。じゃあ、大晦日は青木vsミルコで決まりだな！
青木 ああ～、ミルコとやってみてえ。でも、怖いだろうな～。
須藤 もしミルコと「やる」って決めたら、それだけで青木選手はもうヒーローですよ！ 大晦日のメイン決定！
青木 それいいですねえ！ ミルコとやれたらすげえなあ。あと俺、ケージ（金網）もやってみたいんですよ。
須藤 ケージは楽しいよ。俺はリングより好きだな。オクタゴンは空間を広く使えてやりやすいよ。グラップラーはスタンドで距離も取れるし、ケージのほうがやりやすいと思う。
青木 やりてえなあ～。なんか、たいてい僕がやりたいことって、須藤さんが先にやってるんですよね。バタービーンと無差別級の試合もやってるし、ケージもやってるし。あとK－1もやってるんですもんね。すげえなあ……ロマンがある話ですねえ。
——元気さんにまったく打撃のイメージがない頃、K－1に参戦したわけですからね。
須藤 あれはもう、メジャーになるには魔裟斗選手に乗っかるしかないと思って出たんですよ（笑）。
——ガハハハ！ これはくるぞ、と。
須藤 その当時はテレビでやってるのはヘビー級ばっかりだったんで、自分の階



06年3月15日、オーレ・ローセンと対戦した元気は、キョンシーふうのダンサーを従え、カンフー着で入場すると、なんとその格好のままゴング。しかし、動きにくさと暑さで、結局、脱いじゃったのはご愛嬌だ。



無差別級とかケージとか、俺がやりたいことはだいたい須藤さんがやってるね（青木）

青木真也×須



級でテレビに出られるなら、どんなルールでもいいやって感じですね。青木選手も一度、K―1ルールでどうですか？

青木　なんか「やれ」って言われたらやっちゃいそうだなあ。

――去年、PRIDEが休止になってるとき、シュートボクシングからオファーが来たんですよね？

青木　来ましたね。だけど佐伯さんが「絶対やめろ」って強行に反対したんで、なくなっちゃったんですけど。

――佐伯さんいなかったらノリでやっちゃってたかもしれませんね（笑）。

青木　やりそうッスよね。あとはヒジありのルールでやってみたいですね。格闘技って、本来なんでもありなんだから、目突きとかはダメですけど、ヒジや踏みつけはありにしてほしいですね。そのほうがロマンあふれますよ。

須藤　ヒジがあると、緊張感が全然違うよ。僕はパンクラスでの2戦目がパンクラチオンルールだったんですけど、ヒジだけじゃなく頭突きまでありでしたからね（笑）。

――ああ、そういえばそうですね。

須藤　あれは「ちょっと無茶しすぎだよ！」って思いながらやってましたけどね。あの当時、パンクラスはまだグローブしないで掌底のルールだったんですよ。でも、バーリ・トゥードをやることになって、修斗と差別化をしようとして「ヒジ、頭突きあり」になったんだけど、極端すぎだろって（笑）。

――ほかの試合は顔面パンチすらなしなのに、一方では顔面頭突きまであり（笑）。

青木　頭突きやっぱいいッスよ！　技術体系まったく変わりますよ。いまだって、コムロックみたいなかたちあるじゃないですか。あれとかも、たぶん意味なくなりますよ。

須藤　なくなるね。

青木　抱えられたら、頭突きをガンガンッてやられて終わりですからね。こないだ十段と研究してたんですよ、下から片手巻いて三角とか。「けどさあ、ケンカだったら意味ねえよな？」って。

――ガハハハ！　そんな話をしてますか（笑）。

青木　「頭突きで終わりだよな」って。頭突きはやっぱロマンありますねえ。

――じゃあ、須藤元気プロデュースで一回、パンクラチオンマッチをやってみますか（笑）。

青木　それヤバいッスねえ！　後楽園ホールとかでワンマッチでやったりして。

須藤　自主興行っていいですね。青木真也vsミルコ・クロコップのパンクラチオンマッチを後楽園ホールでやりたいな（笑）。チケットは一律10万円とかで。

青木　ミルコとそのルールはキツいなあ。

――ミルコが踏みつけ、サッカーボールキックあり（笑）。あと青木さん絡みの夢のカードとしては、元気さんもよくご存知の五味隆典選手との対戦も実現が期待されてますけどね。

須藤　それは観たいね！　五味とはどう？

青木　五味さんは強いッスよね。『戦極』を観て、やっぱつええなって思った。ハンドスピードがハンパじゃないッスよ。パンチが強すぎて、打たれ強すぎて、相打ちでいいんだもん。相打ちなら必ず相手が倒れてるっていうのが凄いですよ。スペシャルなファイターです。あれはすげえ！

須藤　でも五味はけっこう小細工系に弱いんですよ。

トーナメントが終わったら青木選手を僕にプロデュースさせてほしいですね（元気）

――あ、そうなんですか！

須藤　スパーリングとかも、ちょっとズルいことで引っかけて極めると、「元ちゃんズルいよ！」って、タップしたのに怒るんです。そこが、かわいい（笑）。

――五味隆典はズルに弱い（笑）。

須藤　そう。だからあいつと正面からケンカしたらダメなんです。あいつにケンカで勝てるヤツいないですよ。だって「ダウンしたことない」って言ってましたからね。

青木　いなし続けないといけないですよね。それで集中力を途切れさせる。「こいつウゼえよ」って思わせないと。まあ、イジメられっ子の発想ですけどね。マッハさんとやったときもそうですけど、強い選手と闘うときは、「やってらんねえ」って思わせるほど組みつかなきゃダメ。

須藤　でも戦略としては正しいよね。自分のスタイルを崩さないのは、いまの強さでもあるし。人に何を言われてもペースを崩さないって大事ですよね。

――いやあ、夢が広がりますねえ。

須藤　でも、その前にトーナメントで永田（克彦）選手とやらなきゃいけないですからね。次、永田選手とやるにあたって何か作戦は？　けっこうやりづらいんじゃないかなって俺は感じてるんだけど。

青木　たぶん相手は俺を固め殺したいはずなんですよ。「動かざること永田のごとし」って言うぐらいですから。

――ダハハハ！　そんなふうに言われてますか（笑）。

青木　そこをいかに動かすかってことだと思うんですけど、まあ、動かすのは得意なんで、大丈夫だと思いますけどね。

須藤　僕は永田選手ってデビュー戦からずっと観ていて、前回の試合で自分が言うのもなんですけど、成長してるなっていうのを感じたんですよ。対戦相手のウマハノフはけっこうヤバい相手だって聞いてたんで。それを固めて、パウンドも無駄のない真っすぐなのを打って勝ったんで、けっこうやりにくいだろうなって。

青木　でも、俺的にやりやすいと思うのは、向こうは倒す武器がないんですよ。

須藤　ここデカく載るよ、「あいつ武器がない」って（笑）。

青木　でも、ホントにあの固める力は凄いと思いますけど、自分がパウンドアウトされることもないし、極められることもないと思うんで、固められることだけ気をつければいけますよ！

――いやあ、頼もしいですね。では、そろそろお開きの時間ですけど、元気さん、青木選手と初の対談はいかがでしたか？

須藤　いやあ、青木選手おもしろいですね。いまトーナメントの最中なので、僕もあんまりふざけたことは言えないですけど、青木選手はライト級トーナメント終わった次が楽しみです。ぜひ、僕にプロデュースさせてくださいよ。安生スパッツ穿いてのミルコ・クロコップ戦。これ凄いなあ。こんな試合組んだら、煽り番組だけで視聴率10パーセント超えてしまったりして。

青木　俺、視聴率のことって全然わかんないんですけど、そういうもんですかね？

須藤　うん。これは新しいよ。

青木　煽りだけで視聴率10パーセントか。そしたら絶対モテますね。ククク。

――では、夢が広がったところでお開きにさせていただきます。ありがとうございました！

【08年5月8日／『kamipro』編集部にて収録】



青木真也×須藤元気

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。柔道、柔術をバックボーンにした奇才グラップラー。03年にDEEPでプロデビュー。05年より修斗に参戦し、世界ミドル級王者となる 。06年にPRIDEデビュー。大物ヨアキム・ハンセンをフットチョークで破るなど大活躍しブレイク。DREAMライト級GPの優勝候補。180cm、70kg。

すどう・げんき■1978年3月8日、東京都出身 。98年に渡米しデビュー前に海外修行を経て、99年に帰国。パンクラス、UFC、リングスなどで活躍 。02年にK-1 MAXに出場し、ブレイク。『HERO`S』でも変幻自在な闘いでファンを魅了したが 、06年の『Dynamite!!』で突如引退。現在はタレント、執筆活動などで、幅広く活躍中。

三崎和雄

あの大晦日の感動がよみがえる！
〝男〟伝承対談
男が訊く男の人生!!

髙田延彦



昨年大晦日の『やれんのか!』で、“魔王”討伐をはたし、
会場を熱狂の渦に巻き込んだ三崎和雄。しかし試合後、
フィニッシュのサッカーボールキックが物議を醸し、結局、
裁定はノーコンテストへと覆ってしまったが、ブログ等を通じ、
一貫して「三崎勝利」を支持していたのが、かつての
PRIDE統括本部長、髙田延彦だ。そんな二人が、あの大晦日以来
初めての再会！ “男”伝承対談がここに実現した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／山口比佐夫、平工幸雄



和雄、おまえは男だ！

――今日は大晦日の感動がよみがえるような夢の対談が実現したわけですけど、お二人のそもそものご関係というのは？

三崎　髙田さんにはPRIDE時代から、いつも試合前、試合後に声をかけていただいてたんですよ。

髙田　ただ、二人の関係で一番象徴的なのは、『やれんのか！』で和雄が勝った瞬間、GRABAKAとは関係ない私がリングに飛び込んでったことだよね。

――ガハハハハ！　関係ないのにリングに上がっちゃいましたか（笑）。

髙田　プライベートでなんの付き合いもないのに、一番おいしい場面で出ちゃった（笑）。

三崎　髙田さんに上がっていただいて、光栄でした。ありがとうございます。

――あの髙田さんと三崎さんの抱擁は感動のシーンでしたよね。

三崎　気づいたら髙田さんが目の前にいらして、もう感極まったというか、言葉では言い表わせない状態でしたね。

髙田　たぶん、あのときはね、会場にいるファンが全員、私と同じ気持ちだったと思う。リングに上がって和雄を抱きしめたいっていうね。ただ、みんなでそれをやっちゃうと危ないから、私が代表してやったのよ（笑）。

――ファンを代表してましたか（笑）。

髙田　だから周りの熱が私をリングに押し上げた部分もあるんだよ。ホントに感動的で嬉しくてね。あれだけの熱を持ったシチュエーションの中での試合というのはひさしいよね。

――『kamipro』の携帯サイトでも、2007年の年間ベストバウトをファンから募集したんですよ。そしたら、大晦日が明けた元旦から募集したこともあって、

髙田さんが目の前にいらしたとき言葉ではいい表わせない状態でしたね





極限のプレッシャーであの勝ち方ができるやっぱり和雄は選ばれた人間なんだよ

9割以上が三崎vs秋山戦だったんです。

髙田　なるほどね。今回の大晦日の試合というのは、和雄の中でハイレベルな緊張感とプレッシャーがあったと思うんだよね。そんな中で、あの試合内容で、あの勝ち方ができるのは、やっぱり選ばれた人間なんだよ。要するに、強運の持ち主なんだよね。あのPRIDEウェルター級GPの優勝を思い出すよ。

三崎　いま髙田さんがおっしゃったように、ウェルター級GPや秋山選手との試合、そういった場所に立たせてもらえることを、ホントにありがたいと心から思ってるんですけど。正直、試合前は緊張感とプレッシャーの大きさで、凄く苦しい日々を送ってたんです。だけど、こういう経験ができるだけで俺は幸せなんだ、俺はこのリングで生きるんだと自分に言い聞かせて、リングに向かいましたね。

髙田　選手だったらみんな、大舞台に上がりたいし、頂上まで登り詰めたいものなんだよ。でも、到達したときには、それだけのプレッシャーが待っているし、苦しい思いもする。そこがゴールじゃないからね。でも、そのプレッシャーを自分のものにできる人間は、強いよね。そういえば、試合中、和雄の動きが硬く見えたんだけど、ダウンを奪われたあと、よけいな力がスッと抜けた部分はあったの？

三崎　正直、動きは硬かったと思います。それは「絶対に勝たなければならない」という思いが強すぎたのと、あの会場の声援がそうさせたんだと思うんですけど。ダウンした瞬間、何か吹っ切れたというか。「勝ち負けじゃない。こいつに殴りかかることが俺の生き方だ」って思い直して、たぶん前に出る姿勢に変わっていったと思うんですね。

髙田　どんな競技でも、ピンチのあとに悪い力が抜けて、好転することがあるんだよ。だから、結果論で言えば、あの一発をもらってよかったのかもしれないね。

三崎　そうですね。「俺はなんのためにこのリングに上がってきたんだ。見合って牽制し合って自分を守るために上がったんじゃない」って。

髙田　ただね、あの見合って牽制し合ってがよかったんだよ！　あれはもっと観てもよかったな。見合って牽制し合うっていうのは、本来、観てる側は退屈なんだよ。だけど、あの試合の"間合い地獄"からは、お互いが真剣を構えてるのが見えたよ！

――真剣が見えましたか！

髙田　見えた！　お互いが剣先を合わせながら、斬りつけたら、どちらかの肉から血が吹き出るというさ、そういう間合いだったからね。もう片時も目を離すことができない。退屈の対極だよ。

――空気が濃密でしたもんね。

髙田　ああ、いい空気だった！

三崎　そういうふうに観ていただけたのは本当に嬉しいですね。ホントにどちらが先に相手を斬るのかという、真剣を持った闘いだったと思います。だから僕も無防備に斬りかかることはできませんで



三崎が秋山をKOした直後、リングに上がった高田がビンタ一発のあと、ガッチリと三崎を抱きしめた。まさに熱血。『やれんのか！』感動の名シーンだ。

したし、やっぱり騙し合い、相手の気持ちの読み合いになってしまうんですよね。それがああいう緊張感を生んだのではないかと思うんですけど。

高田 あの緊張感を呼んだ一つの要因としては、やっぱり観客の感情移入だね。みんな求めるものは同じなんだよ。ファンも試合にどっぷり引き込まれたいし、そういうマッチメイクを求めているの。

——ああいうのが観たくて格闘技を観続けてるのかもしれないですね。

高田 あと、和雄の試合で忘れてはならないのは、あのダン・ヘンダーソンとフルタイムを2回もやってるんだよ。これがあるから、私なんかは和雄が誰と闘っても安心して観ていられる。秋山戦にしてもダンヘン戦にしても、激しい空間に突入したときの和雄がまた強いじゃない。驚異的なスタミナもあるしね。自分でもスタミナには自信あるの？

三崎 そんなに自信があるというほどではないですけど、切れたあと作動する、もう一つのエンジンが自分のどこかにあると思ってますから。郷野さんにもよく言われるんですけど、「おまえには第二エンジンがある」と。

高田 なるほどね、それだよな。一発もらうまでの展開も、やっぱり動きの量は和雄のほうが多かったからね。それに対して秋山選手は、すり足でゆっくりとした

髙田延彦×三崎和雄

独特な動きをしていた。その彼と相対したときの圧迫感、あるいは恐怖感、嫌だなって感じはなかった？

三崎 正直、ありましたね。それはスタンドの技術じゃなくて、本能の強さを感じたんですよ。僕は相手を読む本能を持った人間が強いと思ってるんですけど、秋山選手は何を秘めているんだという不気味さがあって、僕の動きをストップさせたんですね。

高田 これだけハートが強くて経験豊富で、自信もしっかり持ってる三崎和雄が、その男の正面に立ったとき、イヤな思いを感じるわけだ。そして、いま和雄が言った、秋山選手に対戦相手として感じたことと、我々が客席から観て感じた秋山選手のイメージとまったく同じだよね。その不気味な感じと、ものごとに動じない「静寂」のメンタル。とにかく自分のペースで試合を回していく能力も天才的だよ。

三崎 秋山さんっていうのはホントにゆっくりの動きだと思うんですけども、僕も「なんだろうな、この動き、気持ち悪いな」って正直思ったんですね。だから、僕は試合中、跳びヒザをやるような感じで何度か跳んでたと思うんですけど、あれは練習したわけじゃなくて、何か相手の動きを崩して、誘ってみようというのがあの跳びヒザになったんですよ。そして、案の定、僕が跳ぶたびに彼の瞳の奥に「あ、探ってる、探ってる」っていうのは感じたんで。何度もプレッシャーをかけてるうちに、おそらく秋山選手も前に出づらくなっていったと思うんです。だから、気持ちの中でずっとつばぜり合いをして探り合ってるような試合でしたね。

高田 おもしろいねえ！ いままでの試合と比較してもハードな闘いだった？

三崎 そうですね。想像以上に本能の強さを感じて、ダンヘンと重なるものがありましたね。僕はダンヘンと向かい合ったとき、初めて「怖い」と思ったんですけど、秋山選手と相対したときも、似たような怖さを感じました。

高田 ホントの怖さっていうのは、静寂の中にあるんだよね。ヒョードルなんかもそうだけど、ホントに淡々と怖い。淡々と襲ってくるダンヘン、淡々と向かってくる秋山。そういう奥底から来る恐怖みたいなものっていうのかな。そこに強さを感じるね。

——怖さを見せようとしなくても、にじみ出てきてるんですかね。

高田 そうだね。作る必要は一切ないからね。黙って自分の生き方どおりに立ち振る舞っていればそれが表に出てくるもの。べつに刺青を彫る必要もない。ラップを踊りながら出てくる必要もない。

——秋山選手が踊りながら出てきたら、それはそれで怖いですけどね（笑）。高田さんの現役時代で言うと、ヒクソン・グレイシーにもそういう怖さがありました？

高田 もちろん。同じ種類の「静かなる強さ」だよ。凄まじかった。

——やっぱり向かい合ってるときにそういう恐怖が。

高田 うん、あったな。

——とんでもない緊張感でしたもんね。

三崎 じつは僕、髙田さんとヒクソンの試合を観て、この世界に入ろうと思ったんですよ。

高田 あ、そうなんだ。

三崎 だから、いまここに座っているのは僕の中で、非常に感慨深いものがあるんですよ。

高田 デビューしてどれぐらい経つの？

三崎　8年目になります。

高田　いま31歳？

三崎　はい。今週、32歳になります

高田　今年32歳ということは、24～25歳から始めたのか。早くはないね。

三崎　そうですね。23歳ぐらいに心を決めたんで。正式には24歳からですね。

高田　それまでは？

三崎　それまでは……適当に遊んでました（笑）。

高田　ヤンチャしながら？

三崎　ヤンチャ……もそこそこに（笑）。僕はもともと柔道を中学、高校とやってまして、そのあと実業団のほうに進んだんですけども、高校卒業の頃にはもう遊びたいという気持ちが先行してたんで、大学進学が決まってたんですが、大学をドタキャンしてしまったんですね。

高田　そうなんだ。

三崎　そこで実業団に拾ってもらったんですけど、そのときは正直、柔道に対してあまり気持ちがなく、会社の柔道部には所属しながらも、遊びのほうに5年間、18歳から23歳ぐらいまでどっぷりとつかってたんです。その遊びっていうのはサーフィンだったんですけど、最初は軟派な気持ちでサーフィンを始めたんですよ。女の子にモテるだろうな、とか。

高田　モテたの？

三崎　……モテなかったですね（笑）。でも、自分はハマりやすいというか、サーフィンにどんどんのめり込んでいったんですよ。次の日も次の日も海に通いつめて、年間350日ぐらい、5年間、海にいるような生活をずっとしていたんです。

高田　へぇ～っ！

三崎　そして、海の中で「サーフィンって何かな？」って考えたとき、僕が思ったのは「道」だったんですよ。僕は柔道をずっとやってて、柔道って「道」がつくじゃないですか。サーフィンもサーフィン道だったんです。だから、サーフィンをやりながら「この先に何かあるんじゃないか」と、ずっと来る日も来る日も海に通ってたんですね。でも、結局答えが出ないまま、22～23歳ぐらいのときにテレビを観ていたら、かつて柔道で自分のライバルだった相手が、テレビの中で活躍している姿を観たんですよ。

高田　かつてのライバルが、柔道で上のほうまで行ってたんだ。

三崎　そのとき「俺がいるべきところは、海の中じゃなくて、畳の上だったんじゃないかな」って、ちょっと寂しくなって。そこから昔を思い出してトレーニングをしたりとか、筋トレやったり走ったりして。オリンピックを目指して柔道をやりたかったんですけど、オリンピックを目指す年齢でもなかったんで、ずっと途方に暮れてたんです。そのとき、初めて総合格闘技、高田さんとヒクソンの試合を観たんですよ。

――それが原点だったんですか。

三崎　初めて観た総合格闘技というものは、僕の目にはケンカに映ったんですけど、男はケンカが強い男に憧れるじゃな

女の子にモテたくてサーフィン始めて髪の毛もロン毛に茶髪でしたね（笑）

写真が見たいね。サーフボード立ててたロン毛のイメージできないよ（笑）

髙田延彦×三崎和雄



いですか。そして、俺はこの世界で頂点に立とうって思ったんですね。

高田　でも、5年間丸々、柔道もやってなかったんでしょ？

三崎　柔道は遊びでたまに、年間数回程度ですね。

高田　でも年間350日サーフィンやってたら、いいトレーニングになるか。

三崎　そうですね、おそらく身体もそうなんですけど、「自然を読む」ということが養われるというか。

高田　ああ、サーフィンはやったことないけど、わかるような気がするね。年間350日海の中にいればね、強くなるよ。毎日、風や空や海のエネルギーを感じてね。

三崎　そうですね。波に逆らってはサーフィンできないですし、やっぱり海っていうのはいつも表情が違うんですよ。そういう自然の流れに乗るということ、自然に逆らってはいけないんだなということを勉強しましたね。だから、PRIDEウェルター級GPのベルトを獲ったときですとか、自分が試合に勝ってちょっと調子に乗ってしまいそうなとき、一人で夜、荒れた海に行ってですね、「ああ、怖いな」って恐怖を感じに行くわけです。

高田　へぇ、わざわざ夜の荒れた海の恐怖を感じに！

三崎　泳ぎはしないんですけど「もしこの海に飛び込んだら、勝てないな」とか思って。そうすると「あ、俺って小せえな、宇宙の中の点にすぎないな。いくらベルトを獲ろうが周りが騒ごうが、俺って小さいな」って思って帰ってくると、また自分を取り戻せるというか。自然はそういうことを教えてくれる場所だって、あらためて思います。

高田　ということは、その5年間っていうのは有意義な5年間だったんだね。

三崎　いま思えばそうですね。

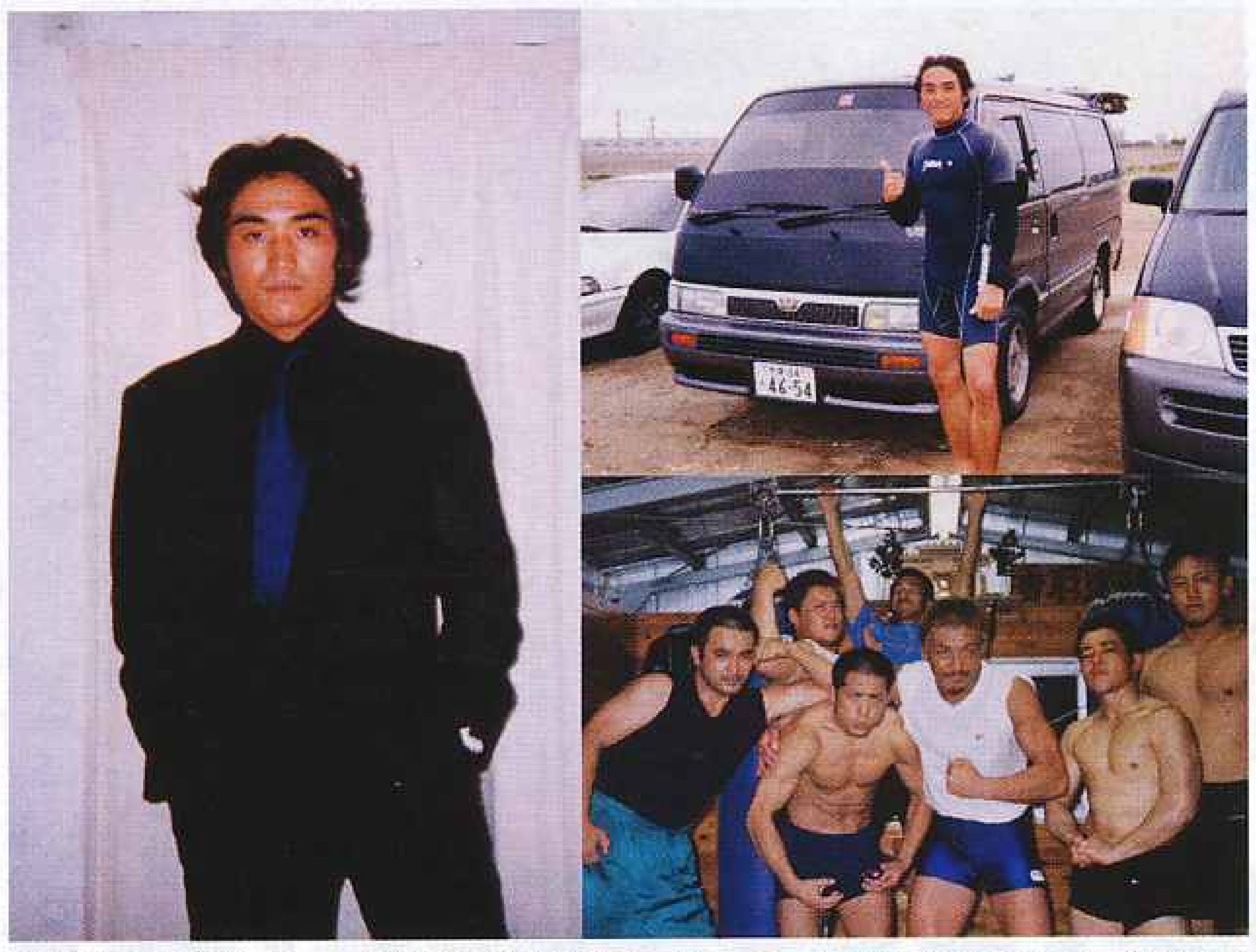
高田　モテたいと思ったのはよかったんだよ。もしモテたいという意識がなかったらサーフィンやってなかったかもしれないからね。

三崎　そうですね（笑）。

高田　入り口はそこでしょ？

三崎　はい、完全に（笑）。

高田　でも、それって凄くピュアだよね。中学、高校と柔道をしっかりやってきて、「もうそろそろ柔道いいわ、女にモテたいな」って、そこからサーフィンに入ったおかげで、いまの和雄が持ってる哲学をしっかり学んだわけだからね。当然のことながら、サーフィンって平らなところでやらないわけでしょ。常にバランス悪いとこだよね。



超貴重！ これがサーファー時代の三崎和雄だ！　ウェットスーツ姿もいいが、スーツ姿の三崎は、クソ高いパーティチケット売ってそうなスーパーフリーぶりで、じつにカッコいい。プレハブ道場時代もワルそうで最高だ！

三崎　そうですね。海の上なんで。

高田　だから、いま一番言われてる、体幹を自然の中で鍛錬することができた。メンタル面も鍛え、作り上げることができた。そういう意味では、非常に大きい5年間だったってことだね。

三崎　自然の中からいろんなことを学ばせてもらいましたね。

高田　おもしろいね。当時はサーファーだけどスポーツ刈りだったの？

三崎　ええとですねえ……（笑）。

高田　女にモテたいっていうのから入ってるんだから、たとえば髪型なんかも格好から入ったんじゃないの？

三崎　格好から入ってますね（笑）。柔道やってた頃は短髪だったんですけど、そこからは地元が田舎なので。田舎のファッションというと、いわゆるヤンキー的な、いまではちょっと見かけないようなパーマだったんですね（笑）。

高田　ワルいパーマだ（笑）。

三崎　でも、やっぱり女の子にモテるにはこれじゃいけないなっていうことで、髪の毛もストレートにしまして、ちょっと伸ばして。いまのサーファーのファッションというような格好をしてましたね。

高田　じゃあ今度写真見せろ。イメージできなから（笑）。

——三崎選手の茶髪でロン毛は見てみたいですね（笑）。

高田　イケてた？

三崎　自分ではそう思ってるんですけど、モテなかったっていうことはイケてなかったんじゃないですかね（笑）。

高田　その写真が見たいね。サーフボード立てて、ロン毛の和雄ね。全然イメージが違うよ。間違いなく武道や格闘技一本っていうイメージをみんなが持ってると思う。

三崎　生意気なことは言えないんですけど、自分には昔の武芸者というか、武士の気持ちが必ずあると思うんですよ。だから見た目はサーファーでチャラチャラしてるけども、やっぱり中身は違うって僕はいつも思ってたので。

——サーフィン道ですもんね。

高田　360日×5年だよ！　よっぽどのめり込まなきゃ、あるいは究めようとしなければ通えないよね。

——逆にサーフィンをやめたあとは完全に格闘技にのめり込んだわけですか？

三崎　そうですね。それをやめてからは、世界一強い男になりたいっていう気持ちから格闘技を始めたんですけど、もう一つきっかけがあって。地元にはホントに大切にしていた親友のグループが、僕も含めて3人いたんですけど、その中の一人が事故で亡くなってしまったんですよ。そのお葬式のとき、彼のお母さんに言われた「息子のぶんも生きてね」っていう言葉がずっと僕の心に残ってて。そして、こいつのぶんも一緒に生きようって強く思ったんですね。

高田　うんうん。

三崎　自分のその思いを、ほかの仲間たちに伝えたら、やっぱり熱い仲間たちなんで「おまえがそこまで思うんなら、俺の力をすべて貸す」って言ってくれる仲間が自然に集まったんですよ。そこから小さな十六畳のプレハブ小屋に、柔道経験者の仲間たちが集まって、自己流で総合格闘技の練習を始めたんですよ。

高田　最初は誰かに習ったんじゃなかったんだ。

三崎　総合格闘技の情報なんて何もなかったんで、あるのは自分たちの柔道とケ

ンカの経験ですよね。そこから、「この技は使えるんじゃないか」とか話しながら、相手が殴ってきたら払い腰で投げようとか、そういうノリで半年ぐらい練習してたんです。それで自分たちに力がついてきたと思ったんで、じゃあ力試ししてみようってことで、初めて出たのが、茨城県で行なわれた全日本異種格闘技戦という大会なんです。

――そんな大会があったんですか。

三崎　いまのプロ選手も何人か出てたんですけど、そこで優勝したんですね。

髙田　その十六畳のプレハブ道場からGRABAKAに入るまでは、どれぐらいの年数があるの？

三崎　1年半ぐらい、プレハブで練習してました。

髙田　どうやってGRABAKAに入ることになったの？

三崎　当時、僕の母校にですね、菊田さんが柔道の講師に来るっていう話が、高校の恩師からありまして。僕が総合格闘技をやってるっていう噂もちょっと聞いてたみたいなんで、「学校に菊田早苗が柔道の講師で来るぞ」って電話をもらって、柔道着も持たずにTシャツと短パンだけ持って行ったんです。僕も全日本異種格闘技戦で運よく優勝してしまったんで、ちょっと調子に乗ってて、力試ししてみようって、図々しくも、菊田さんに「寝技スパーリングお願いします」って言って。まあ、こてんぱんにやられましたよね（笑）。

髙田　早苗にやられたんだ（笑）。

三崎　でも、菊田さんも「ずいぶん威勢のいい兄ちゃんがいるな」ということで「一回、僕たちのとこに練習に来てみるか？」って誘っていただいて。連絡先を交換して、当時、菊田さんたちが練習されてた新宿スポーツセンターに練習に行かせてもらったんです。そこで10人ぐらいの選手とスパーリングやったと思うんですけど、ことごとくこてんぱんにやられまして。

髙田　そのときは誰がいたの？

三崎　菊田さん、郷野さん、佐々木（有生）とかですね。そういったメンバーにこてんぱんにやられて、「この野郎！ こいつらだけは絶対許さねえぞ」って思ったんですよ。田舎者なんで（笑）。そこから片道3時間かけて練習に通うようになって、毎回、帰りに「クソーッ、あいつらムカつくなあ！」ってずっと思ってたんですね。当時はケンカでは負けたことがない、ヤンチャで怖さを知らない時期だったんで。そうやって、毎回、「クソッ！」と思いながら、地元と東京で練習する生活を半年ぐらい続けたとき、菊田さんのほうから「GRABAKAとしてパンクラスのネオブラッド・トーナメントに出てみるか？」って言ってもらって。そこからプロになるという流れですね。

髙田　自分が格闘技を始めようとしたタイミングで、そういう出会いがあったというのは、素晴らしい幸運だね。時期がズレてたら出会えないし、GRABAKAという選択肢もなかったよ。

三崎　人の出会いっていうものに僕は恵まれてて。ホントにありがたいなっていつも思いますね。いま、こんなタイミングで言うのもおかしいですけど、人に助けられたという意味では、PRIDEの会場でいつも髙田さんが僕に声をかけてくれたじゃないですか。あの声というのが、僕の中では凄く大きくて、「髙田さんに、こんなふうに言っていただけた」っていうのが、凄く自信になってたんです！

髙田　それは和雄の気持ちに弾力性、受け皿があるんだからだよ。やっぱり試合前になると、人の言葉が入ってこない選手もいるからね。でも、和雄は試合前でも心に吸収できるキャパシティがあって、言葉を栄養にしてしまう。そういうメンタルの強さも持っているんだね。

和雄はマイクで話さなくてもいいんじゃないの？ マイクがうまくなったら逆に気持ち悪いよ（笑）（髙田）

――それも三崎選手の強さなんでしょうね。

髙田　いま和雄は『戦極』で試合をしているけど、しばらくは『戦極』一本でやっていくの？ それともUFCはもちろん、アメリカ進出というものも視野に入っているのか。そのへんはどうなの？

三崎　じつは先日、海外の試合の契約をしたんです。どうしてもこの世界、縛りが厳しいので、日本なら日本だけ、アメリカならアメリカだけというのが多いんですけど、ちゃんとした契約の中で出られる舞台として、『ストライク・フォース』という団体と契約させてもらいました。

髙田　それは『戦極』を離れるわけじゃなくて、どっちも出るの？

三崎　そうですね。本来、僕はどんなリングにも上がっていきたい気持ちがあって、いままでの壁をぶち壊したいとも思ってるんですけど、いまはできる限りの範囲で、自分の視野を広げていきたいと思ってますね。

髙田　客を呼べる、ファンに大きな強いメッセージを与えることができる選手の数っていうのは限られてるんだよ。だから、その選手が一つのところに縛られるというのは、じつは魅力的なカード実現の夢を断つということにもなるわけだ。だから本来であれば昔のプロレス団体のようにね、団体が選手を囲って外に出さないっていうシステムは、選手のためにもファンのためにも、ひいては団体のためにもよくないわけだよ。やっぱりファンあってのジャンルだから、その期待に沿ってファイターが試合をする環境をイベンターが作り続けるシステムが、何よりも望ましいと思うんだけどね。だから、和雄ができる範囲で闘いの場を広げていくというのは、和雄自身はもちろん、ジャンルのためにもいいことだと思うね。

――ファンなら当然、日本で三崎選手が観たいというのと同時に、いま一番盛り上がっているアメリカで勝負してほしいという気持ちもあるでしょうからね。

髙田　アメリカのファンだって和雄を待ってるよ。でも、日本であれだけ激闘を繰り広げてきた三崎和雄が、前回、アメリカで闘ったとき、言葉は悪いけど、ドしょっぱい試合をしたんだよ！

――ああ、PRIDEラスベガス大会のフランク・トリッグ戦ですね。

髙田　あのときの和雄はね、GPで優勝して、もの凄い武士の匂いと雰囲気を醸し出して、最高の状態でアメリカのリングに立ったんだよ。私もベガスでそんな三崎和雄を観るのを楽しみにしてたの。ところが、試合が始まると「あれっ⁉ これ三崎和雄じゃないよ！」っていうような内容でね。

三崎　ホントに反省点ばかりの試合でしたね……。

髙田　もう、私はそれが心残りで、その晩ちょっと……、まあ、ちょっとじゃないけど（笑）、その気持ちを（菊田）早苗にぶつけたのよ。「しっかりしろよ！ もったいないよ！ ここまでこんないいペースで来てるのに」ってね。アメリカのファンだって期待していたんだよ。初めて生で王者、三崎和雄を観るんだからね。それなのに、本来の三崎和雄が見せられなかった

ことに、私は悔しかった。もちろん誰よりも本人が悔しかったと思うけどね。

三崎　確かに、あの悔しさは忘れられないですね。

髙田　だから次はね、日本の侍魂を、ぜひストライク・フォースに乗り込んだときには見せてもらいたい。最高の状態で三崎和雄の日本人魂を見せてもらいたいね。

三崎　ありがとうございます。自分もその思いだけですね。

髙田　そうやって三崎和雄のメッセージを世界中のファンにも伝え続けてもらいたいよ。

——そのメッセージを試合からだけでなく、言葉でも伝えるために、どうやったら三崎選手がマイクがうまくなるのかっていうのを髙田さんにアドバイスしていただけたらと思うんですけど（笑）。

三崎　来ましたね、マイクネタが（苦笑）。

髙田　マイクは私が言わなくても、横にうまいのがいるじゃん。DJ GOZMAってヤツが。彼はしゃべりも一級品だよ。でも、彼と和雄はキャラクターが違うからね。

——三崎さんがあのキャラになったら凄いですけどね（笑）。

髙田　それじゃ三崎らしくなくなっちゃうからね。いいんじゃないの？　朴訥で淡々として、和雄らしくしゃべれば。べつにマイクで話さなくたって、試合でメッセージを送ればいいのよ。それだけの存在感あるんだから。うまくなったら逆に気持ち悪いよね。

三崎　そうですね（笑）。

髙田　それこそ、マイクが好きになっちゃってさ、試合は3分で終わってるのにマイクで5分しゃべったりするのって、和雄じゃないよ（笑）。

——でも、髙田さんも昔はマイクが苦手でしたよね？

髙田　好きじゃなかったね。

——好きになっていったんですか？

髙田　いや、仕事よ。しーごーと！

——ダハハ！

髙田　それが私の仕事だからさ（笑）。

——わかりました。では最後に、髙田さんのほうから三崎さんに何か言葉をかけていただけませんか？

髙田　とにかく大きなケガがないように、頑張ってほしいね。みんな和雄には期待してるんだから。何かデカいことを、やらかし続けてほしいです。

三崎　ありがとうございます。

髙田　まだ結婚はしてないの？

三崎　はい、してないですね。

髙田　予定は？



髙田延彦×三崎和雄

たかだ・のぶひこ■1962年4月12日、神奈川県出身。80年に新日本プロレス入門。UWF、Uインターを経て、97年に『PRIDE.1』でヒクソン・グレイシーと対戦。02年11月に田村潔司戦で引退。PRIDEでは統括本部長として、"顔"を務めた。現在は髙田道場代表。テレビを中心に幅広く活躍中。183cm、98kg。

みさき・かずお■1976年4月25日、千葉県出身。01年7月にパンクラスでプロデビュー。04年よりPRIDEに出場。06年には見事『PRIDEウェルター級GP』で優勝。昨年大晦日には"魔王"秋山成勲をKOし、一躍、時の人となるが、その後、ノーコンテストに。現在は『戦極』を主戦場としている。179cm、83kg。

三崎　予定もないです（笑）。どうしても格闘技をやってるあいだは難しいな、と思ってるんですよ。家族や奥さんを励みに頑張るっていう人もいますけど、僕は現役中は一人のほうがいいかな、と。

髙田　でも、こういうタイプは家族を持ったら、もっと頑張れちゃうような気がするよ。求道者だからさ、「この子たちのためにも！」とか「妻のために！」っていう。

三崎　そうかもしれないですね。

髙田　でも、出会いがないんだもんな、しょうがないよな。

——ガハハハ！

三崎　そうなんですよね、ハッキリ言えば（笑）。

髙田　でも、子どもは早いほうがいい。

三崎　そうですか。

髙田　子育てっていうのは、やっぱり体力勝負だからね。どれだけ身体を鍛えてもね、子育ては関係ないんだよ。和雄は子どもができたら、ムチャクチャかわいがるタイプだと思うな。

三崎　そうですね。僕の頭の中では、子孫はどこかに残していきたいなとは思うんですよ。ただ、自分は自分の世界があって、横に家族があるって思うんじゃないかと考えてるんですけど、人に言わせれば「たぶん家庭ができて子どもができたら、子どもだけの生活になるよ」って。

髙田　なめ回すと思うよ、こういうタイプは。

三崎　髙田さんは？

髙田　俺もなめ回した！

——なめ回しましたか（笑）。

髙田　最近は「とーたん、つばが臭い」って言われるよ（笑）。

三崎　いまおいくつですか？

髙田　4歳。小さな怪獣だからね。

——かわいい盛りじゃないですか。

髙田　かわいい盛り。ホントにかわいい盛りだよ。

三崎　素直ですからね。

髙田　まっすぐだしね。昨日、『ダイヤモンド・キッズ・カレッジ』に行ってさ、息子が初めてレスリングとボクシングを全部通しで体験したんだよ。今度、和雄も時間があったらさ、コンディションのいいときに、『ダイヤモンド』のほうにも遊びに来てよ。

三崎　はい、ありがとうございます。

髙田　それこそ、和雄が来てくれることによってさ、子どもたちにも頑張ることの大切さや、勇気というエネルギーを感じてもらえるからね。

三崎　はい、ぜひよろしくお願いします。

【08年4月21日／品川区・ラフォーレ東京にて収録】

見たぞ！“真剣勝負”!!

PRIDE vs HERO'Sニッポンの大ゲンカ、ついに開戦！
次は宇野vs川尻、やれんのか！
やるしかねえ!!



5.11 DREAM.3
宇野薫vs石田光洋
残酷なる存在の消し合い！



























宇野薫

次は誰とやれんのか!?

『HERO'S』にも誇りはあります

5・11『DREAM・3』のメインは、主催者推薦でライト級GP2回戦から登場となった宇野薫と、それを批判した石田光洋という刺激的な一戦。この試合で石田からタップを奪った宇野の前に、すぐさま現われ挑戦状を叩きつけたのが石田の盟友の川尻達也だ！ 準決勝進出者が決定した瞬間から、すでに次なるドリームへ向け、動き出した感のあるライト級GPだが、『HERO'S』を背負った宇野薫は、いったい誰とやれんのか!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合撮影／乾晋也



――昨日の石田戦はホントに素晴らしい試合でしたね。おめでとうございます！

宇野　ありがとうございます。

――試合後は、かなり喜びを爆発させていましたけど、宇野選手があそこまで感情を剥き出しにするシーンは珍しいなと思ったんですが、ご自身としてもそれだけの会心の勝利だったと？

宇野　そうですね。試合自体がひさしぶりだったのと、いい試合ができたのではないかというのもありましたので、それが出たのだと思います。

――昨年の9月のアンドレ・ジダ戦以来ですから約8ヵ月ぶりの試合でしたからね。今回の石田戦は、やはり特別負けられない試合という意識はあったんですか？

宇野　特別この試合だけが負けられないというわけではないですが、負けたくないというのはありました。

――日本人対決で、しかも世代がちょっと下で、宇野選手にとっては初めてのDREAMという舞台ですからね。入場のときから注目して見ていたんですけど、いつもよりも若干緊張したような表情に見えたんですが。

宇野　ひさしぶりの緊張感というのはありました。緊張感でもあり、プレッシャーでもありという感じで……。

――DREAMという舞台って、『HERO.S』と旧PRIDEが一緒になったというのもあるんですけど、『やれんのか！』の延長みたいなところもあったじゃないですか。アウェイ感みたいなものは感じました？

宇野　いや、とくにそれは感じませんでした。リングに変わりはないですから。

――宇野選手は修斗やUFCなど、これまでもいろんな場所で闘ってきたわけですけど、そういうのはあまり関係なく？

宇野　周りのことは気にせず、僕はリング上の試合だけに集中するという意識だったので。

――実際、闘ってみていかがでした、石田選手は？

宇野　本当に、いい選手です。以前から、いい選手ということは知っていましたし、凄く強い選手だというのもわかってましたけど。

――石田選手の得意なタックルに対する対処とか、打撃もそうですし、かなり研究してるなと思ったんですけど、そのへんは自分が思ったとおりに闘えました？

宇野　身体が勝手に動いたというか……。総合格闘技なので、どの場面にも対応できるような練習はしたつもりですし、集中しないといけないと思ってました。

――宇野選手のアッパーとフックがいいかたちで入ったあとは、凄く動きがリラックスしてるような感じがしたんですけど。

宇野　確かに、全体を通して落ち着いて試合が運べたと思います。

――1ラウンドが終わったぐらいから、「これはイケるかな？」っていう手応えはありました？

宇野　同じ場所での（ヨアキム・）ハンセン戦のときのことがありますから、そういう気持ちは押し殺して、集中するように心がけました。「守りに入るな」とセコンドにも言われました。

――一発目での『HERO.S』でのハンセン戦は最後のヒザ蹴りを食らうまでは、宇野選手のペースでしたからね。

宇野　ハンセン戦も決して守りに入ったわけではないのですが、「あとどれぐらい攻めないといけないんだろう？」という気持ちもあったと思います。そういう状況でもハンセンはあのようなヒザを出せるという強さがありますし、凄くいい勉強になりましたね。

――最後は集中力の差も出たというか、フィニッシュのタックルからバックを取ってのスリーパーまでの流れは寝技のカウンターみたいな感じでしたね。

宇野　あ、そうですか？ 正直、あまり覚えていないです。映像もまだ見てないので。でも、覚えていないということは、普段練習したことが自然にできたことだと思います。

――勝利後のマイクアピールでは『HERO.S』代表の宇野薫です」と言ってましたけど、最初からそういう意識でリングに上がったんですか？

宇野　試合前の煽りVでも『HERO.S』を代表する」と言われていましたし。ただ、試合後に最初からそれを言うと決めていたわけではないです。

――谷川代表によると、『HERO.S』がなくなってDREAMになると選手に伝えたのは、DREAM発表会見のほんの数日前だったみたいですね。



宇野　はい。新しい団体が旗揚げする……と、そんな感じで聞きました。

——でも、それも凄い話ですよね（笑）。会見の直前まで『HERO'S』の中心的な選手にも知らせてなかったたっていうのは。

宇野　でも、DREAMの旗揚げというのは悪いニュースではないですし、PRIDE、『HERO'S』がなくなる流れの中で、何か新しいものを作っていくのではないかなという予感はしていました。

——でも、正直ちょっと寂しさっていうのはあったんじゃないですか。

宇野　やはり、『HERO'S』で育てていただき、新しい部分というか、UFC、修斗とはまた違う世界で、勉強させていただいたという気持ちはあるので、確かに残念ですね。僕以外の『HERO'S』の選手もそういうふうに思っているでしょうけど、もう決まってしまったことですし、新しいところでやっていくというのも流れだと思います。

——宇野選手もそうだと思うんですけど、『HERO'S』という世界を作り上げてきたっていう自負はもちろんあったと思いますし、そういうものを若干否定されたみたいな気持ちっていうのは？

宇野　いや、べつにそれはないです。『HERO'S』の選手も出ていますし、スタッフの方々も……、現にTBSのスタッフもお会いしている方々ばかりですから（笑）。

——そこは変わってないですからね（笑）。で、今回、宇野選手はDREAMには初参戦だったわけですけど、予想以上にハマるというか、凄く魅力的に見えましたね。佐藤大輔さんの煽りVでも、カッコいい感じでしたし。

宇野　あのVTRはやはりおもしろい。あのVTRを観て選手個人個人もテンションが上がったりすると思います。それに、あのVTRがよければよいほど、お客さんも盛り上がると思います。

——その煽りVでは必要以上に『HERO'S』vs旧PRIDEっていうかたちで対抗心を煽ってましたよね（笑）。あれで自分自身も対抗心が燃えてきちゃった部分ってあります？

宇野　はい。あのVTRの中で〝英雄〟とか〝誇り〟という言葉が出ていましたけど、『HERO'S』に対する誇りはもちろんありますし、続けてVTRで『HERO'S』系の選手が敗れるシーンが流されたので、ちょっと燃えましたね。

——前回の『DREAM・2』でのJZカルバンと青木選手の試合をご覧になった感想はいかがですか？

宇野　やはり青木選手は強いと思いました。



[5.11『DREAM.3』ライト級グランプリ2回戦]
さいたまスーパーアリーナ

◯宇野薫 vs 石田光洋×

（2R 1分39秒 チョークスリーパー）

『やれんのか!』ロゴ入りウェアで入場の石田に続き、宇野も気合いの入った表情でリングイン。試合は、石田の得意のタックルを切り、リーチ差を活かしてパンチをヒットさせた宇野が優位に進める。最終R、またしてもタックルを切った宇野は素速く石田のバックに回り込み、電光石火のスリーパーで見事一本勝ち！

——「あのJZが負けた」っていう部分ってありました？　JZとは実際、宇野選手も闘っていますし。

宇野　JZとは一緒に『HERO'S』でやってきたという意識はあります。でも、試合を観たら、青木選手の強さをあらためて感じましたね。

——その青木真也を自分が倒したいっていう気持ちはありますか？

宇野　それは、決まってからじゃないと。まだ何も決まっていないですし。

——同じく決まってはいないですけども、昨日の試合後、川尻選手から強引に対戦をアピールされましたよね。

宇野　そうですね。

——コーナーに挨拶に行ったら、川尻選手が手を離さずに対戦をアピールされてましたけど、あれはやられたとか、ご自身としてはどう感じました？

宇野　いや、川尻選手サイドからすれば、そういう気持ちになったのだと思います。僕も試合が終わった直後で興奮していましたし、会場内の歓声で、（川尻選手の）言葉があまり聞き取れなかったところもあるんです。

——対戦相手に関しては、当然、宇野選手の一存では決められないことだとは思いますが、一夜明けて、川尻選手と闘ってもいいなっていう気持ちは？

宇野　もちろん、川尻選手も闘ってみたい選手ですし、青木選手も永田（克彦）選手も、（エディ・）アルバレスも闘ってみたいと思っています。まあ、対戦が決まらないと何も言えないですけど。

——ただ、川尻選手に関しては、公衆の面前で挑戦状を叩きつけられたような感じでしたけど、そういうのって気持ち的には一歩リードというか、ほかの選手とはちょっと違う感情もあるんじゃないかなと思うんですけど。

宇野　どうなんでしょう。川尻選手がアピールしてくれたことは嬉しいですし、決してやらないとか、そういうわけでもないです。試合後の時点で僕が言えるのは、あれだけなので。

——「検討します」と（笑）。

宇野　はい。僕が決めることでもないですから。

——プロレスじゃないですけど、「やってやるって！」って、その場で決められるような話でもないですしね（笑）。

宇野　そうですね（笑）。

——プロレスという意味では、DREAMには、宇野選手の憧れでもあった船木誠勝選手も上がってるわけですが、どうですか、大晦日とか船木vs宇野戦っていうのは？（笑）。

宇野　いや〜、だって全然階級が違うじゃないですか（笑）。

——でも、去年の大晦日には田村潔司vs所英男戦とかもあったじゃないですか。

宇野　ありましたね。でも、僕の場合、具体的なお話をいただいたわけではないですし、もしお話をいただくことがありましたら検討させていただきます（笑）。

——こちらも検討ですか（笑）。

宇野　でも、UWFルールでエキシビションだったら……いいですよね。

——UWFルールですか（笑）。ちょっと脱線してしまいましたが、総合のマッチメイクっていうのは、選手個人の意向というか、主催者やチームの方々との話し合いで決まるって感じなんですよね。

宇野　はい。いつも久保社長と守山代表と話し合って決めていますね。（川尻戦の）話があって決まればそれでいいですし、



うの・かおる■1975年5月8日、神奈川県出身。高校時代はレスリング部で活躍、96年の全日本アマ修斗選手権で準優勝。同年10月の桜井"マッハ"速人戦でプロデビュー。その後、佐藤ルミナを下し、第4代修斗ウェルター級王者となった後はUFC、『Dynamite!!』、『HERO'S』で活躍。年齢は違うものの川尻とは誕生日が一緒だったりする。172cm、70kg。

決してやらないとか、そういうわけではないので。

——煽りVでチラッと映ってましたけど、『DREAM・1』のときも川尻さんとは小競り合いみたいな感じがあったみたいで（笑）。

宇野　べつにそれも特別な感情はありません。川尻選手には川尻選手の考えもあることと思いますし。

——川尻選手とは修斗で一度対戦されてますけど、そのときの印象といまの印象って違います？

宇野　やはり身体つきも変わっていますし、技術的にも変わっていると思います。

——でも、宇野選手も当然進化してるわけですよね。

宇野　いろいろ経験して、お互い大きくなっている部分はあると思います。

——GP準決勝に残っている選手は、みんな強い選手ばっかりですけど、楽しみですか、それともツライなって感じですか？（笑）。

宇野　どうでしょうねぇ。正直、大変だなというか（苦笑）。でも凄くやりがいもありますね。誰と当たっても、それぞれに意味のある試合ができるんじゃないかなと思います。

——誰とやっても意味があって、しかも一日2試合ですからね（笑）。

宇野　そうですね……でも、できるんですかね、2試合も（笑）。

——ガハハハハ！　宇野さんはいつまでも若いイメージがありましたけど、気がつけばベテランの域になってきましたからね（笑）。

宇野　はい（苦笑）。

——ご自身では年齢的なものって感じたりします？

宇野　感じない……ようにしています（笑）。

——石田戦を観てもスタミナもまだまだありそうでしたし、2試合ぐらい全然イケそうなイメージはありますけど。

宇野　ホントですか？　ありがとうございます。でも、いままで2試合目で勝ってないので、そこはやはり年齢は関係なく、気持ちで負けないようにしないと。

——修斗でベルトを獲って以来、UFCではベルトまでもう一歩って感じで、次の『DREAM・4』では、ひさびさのベルト奪取のチャンスとなるわけですけど、意気込みを聞かせてください。

宇野　意気込みは……そうですね、もうどの選手と当たっても強い相手ばかりですから……。

——青木選手が休憩明けにリングに上がって、「今回のトーナメントは勝手に俺のためのものだと思っている」とアピールしてましたけど。

宇野　そうなんですか？

——はい、言ってました（笑）。宇野選手もそういう意識ってあります？

宇野　僕も試合後のファンの歓声を聞くと、期待されている部分は大きいような感じはしました。そういう意味では、誰が相手でも期待に応えられるような試合をしたいです。

——わかりました。次の試合期待してます！

【08年5月12日／都内ホテルにて収録】





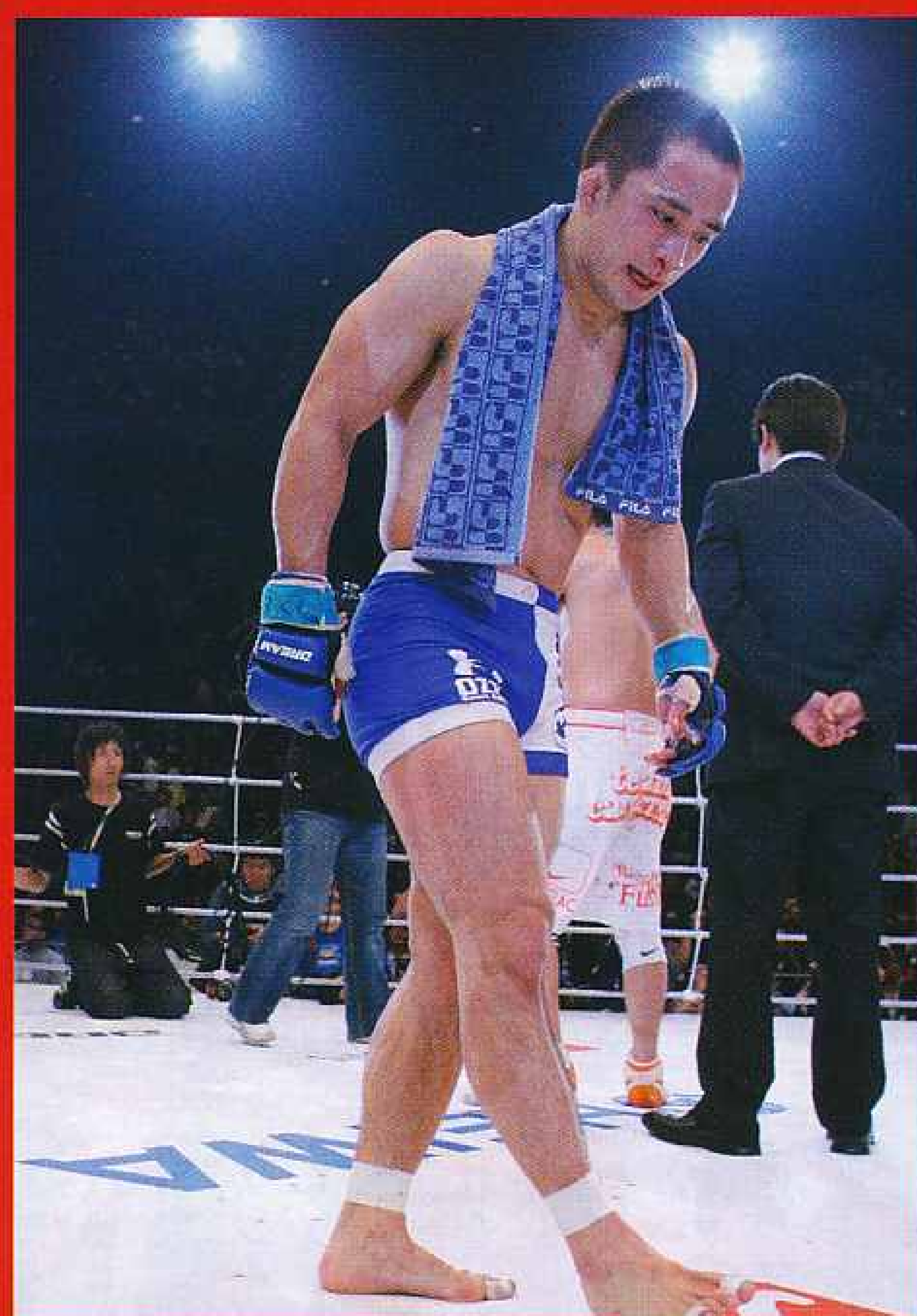
川尻達也

ブレーキの壊れたクラッシャー

「俺は噛みつくほうが気持ちいいんですよ」

川尻達也が夢の舞台の主役候補に躍り出た！　GP2回戦でルイス・ブスカペを破り決勝トーナメントにコマを進めた川尻は、メインで盟友・石田光洋が宇野薫に敗れると感情を抑えきれず、いまにも飛びかからんばかりの勢いで対戦表明！　一夜明け会見で川尻はこの非礼を詫びたが、その抑えきれない"男の子"な気持ちを本誌は断固支持！　極上のドラマを見せてくれそうなこの男、いまの気持ちははたして原稿用紙何枚ぶんか？

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合撮影／乾晋也





——昨日はお疲れさまでした。

川尻　お疲れさまです。

——判定決着ながら完勝でしたし、宇野さんとの絡みもかなり刺激的でおもしろかったです。

川尻　いやあ、あれはよくないですよ。熱くなりすぎちゃって、もう反省してます。

——まあ、観る側の勝手な意見なんですけどね（笑）。まずは試合のことからおうかがいしたいと思います。2回目の対戦になりましたけど、（ルイス・）ブスカペ選手はいかがでした？

川尻　うーん。前回とあまり印象は変わらなかったですね。

——反省点が多かったと自省された前回のブラックマンバ戦と比べて、今回の満足度はどうでしょう？

川尻　殺気を込めてパンチを打てたんで、KOできなかったんですけど、おもいきりリングで闘えたという充実感はありますね。この勢いのまま今度はKOできるようにしたいです。

——で、メインの宇野vs石田戦に熱くなってしまったと言っていましたが、石田選手と試合後にお話しはされました？

川尻　少しだけですね。石田くんと宇野選手の凄くいい試合に水を差したようなかたちになっちゃったんで、「ごめんね」って謝ったら、むこうから「優勝してくれ」っていうことを言われて。それぐらいですかね。

——あそこまで熱くなってしまった原因はどうしてでしょう？

川尻　うーん、個人的感情があったというか、宇野選手とは修斗で一度闘って個人的にはボクが勝ったと思ってたんですけど、そのときは引き分けだったんですね。だからまだ決着がついてないというか、自分の中で気になる選手というか……。宇野選手が『HERO'S』で闘っていればほかの誰よりも結果が気になるし、ほかの会場で見かけなければ必要以上に意識しちゃうし。いい意味でも悪い意味でも、自分の中で意識しちゃう選手なんですよ。

——ライバル視していたわけですね。

川尻　ファイトスタイル一つとっても僕と正反対っていうか、僕はたとえば外国人が相手でも正面衝突でぶつかって、フィジカルで勝負して勝ちたいと思っているんですけど、宇野選手は柳に風みたいなスタイルだと思うんですよ。そういう意味でも僕は僕のスタイルを信じて闘ってるんで、宇野選手に負けたくない思いが少なからずあって、あの結果を受けてスイッチが入ったというか、かなり熱くなってしまって。

——なかなか川尻さんってあそこまで熱くなることってないですよね。

川尻　ないですね。平和主義ですから（苦笑）。

——でも、試合前の煽り映像でも、『DREAM・1』のときに宇野選手に絡んだシーンがちょっとだけ流れてたじゃないですか。「筋を通してください」って詰めよる姿。

川尻　あ、そうなんですよ。さっき『格通』さんに言われて初めて気がついたんですよ。あれ、声だけ録られてたんですか？

——映像も流れてましたよ。「オレはおまえのかませ犬じゃないぞ!!」って吠える姿が。

川尻　そんなこと言ってないですよ!!（笑）。あれも失礼なことしたなっていう。

——あのときも熱くなっていたんですか？

川尻　そのときも試合が終わって、次の試合を観ようと思ってリングサイドに行ったら宇野選手がいて。それで宇野選手に対する思いをストレートに伝えちゃって。もの凄く失礼な話なんですけど。

——うーん、高倉健的に言うと、川尻さんは「自分、不器用な男ですから」っていう感じなんですかね？

川尻　そ、そうなんですかね（苦笑）。

——それで向こう側が許してくれるとは思いませんけど（笑）。昨日の大会のバックステージや今日の会見前に宇野さんとはお話しされたんですか？

川尻　昨日のバックステージで謝罪しました。今日は挨拶だけはしました。

——でも、その感情はホンモノだし、抑えきれないほどの想いがあったということですよね。

川尻　はい。それはリング上で出せばいいんじゃないかなと思って。四の五の言ってもしょうがないんで。

——え～、雑誌的にはあらためて四の五の言ってほしいというところがあるんですけど。

川尻　そうですよね。雑誌はそうですよね。でも、僕の立場も考えてください（笑）。

川尻達也

──はあ（笑）。百歩譲ってあの方法論が間違っていたとしても、あれはまぎれもなく生の感情だった。何が正しくて何が悪いかはわからないですが、自分には何か刺激的な未来を予感しました。

川尻　誤解しないでほしいのは、宇野選手が嫌いだとかそういうんじゃなくて、純粋にファイターとして凄いなって思ったし、だからこそ闘いたいなって。それだけなんですね。

──それは石田さんが負けたことも理由の一つなんですか？

川尻　それも少なからずありますけど、一番は自分の個人的な感情ですね。

──あの〜。川尻さんって、まばたきをあんまりしないじゃないですか？

川尻　そうですか？（笑）。

──入場のときもそうですけど、まばたきしないまま宇野選手に向かい合うからホント怖くて。

川尻　たぶん、興奮して、まばたきするのを忘れているんじゃないですか（笑）。

──それぐらい熱くなっていた、と。

川尻　はい。だって覚えてないです。「あ、言っちゃった」みたいな。落ち着いてから「やっちゃった……。何やってるんだ、俺」って思いましたよ。

──前にＰＲＩＤＥのリングで五味さんに対戦要求したじゃないですか。誤解を恐れずに言うと、あれは主催者側からの要請もあったように見えたんですよ。

川尻　そう見えても仕方ないですね。五味くんとは心の底から闘いたかったけど、なんかもの凄く大根役者でしたし（笑）。

──ダハハハハ！　賛否両論あるかもしれないですけど、ファンの声って入ってきます？

川尻　いや、入ってきてないです。どんな感じですか？

──どうなんでしょう。最近は世知辛い世の中ですからねぇ。ボクが思うに、モノの見方が窮屈になってるところはありますね。

川尻　じゃあ、ダメじゃないですか。僕、ヒールじゃないですか（苦笑）。

──でも、時代によってその価値観は振り子のように行ったり来たりするもんですから。競技的な志向が高まれば高まるほど、どうしても窮屈さを感じてくるでしょうし。その逆もしかりで。

川尻　まあ、しばらくは飼い猫のようにしてます（笑）。

──格闘技って難しいですよね。さっきの記者会見でも「青木vs永田、どっちが勝つ？」って質問がありましたけど、簡単には答えられないじゃないですか。

川尻　言えないですねぇ。

──そういった窮屈さってあります？



［5.11『DREAM.3』ライト級グランプリ2回戦］
さいたまスーパーアリーナ

○川尻達也 vs ルイス・ブスカペ×

（2R 判定3-0）

ブラックマンバ戦での不本意な内容を打ち消すかのように、そして前日会見で「ブサイク」と挑発してきたブスカペにお仕置きするかのように、川尻は序盤から強烈なパンチを連発! ブスカペもねばり強くグラウンドに持ち込むが、打撃中心に終始ペースを握った川尻はKOこそできなかったものの文句なしの判定勝利を収めた。

リング内で自分を表現するのは思うがままに闘えばいいじゃないですか。でも、リングを降りるといろいろと……。

川尻　いろいろありますねぇ。本当、相手に対して失礼なことを言いたくもないし、言われるのも嫌だしっていう気持ちもあるから。

──格闘技のリングで選手自身がドラマを演出するのって難しいですよね。

川尻　あんまり演出する気もないですけどね。

──だけど、盟友が目の前で倒されたのに、普通に宇野さんとおとなしく並んだいるほうがよっぽどアレですよ。そっちのほうが大人かもしれませんけど、闘いは感じられないですね。

川尻　あの〜、ボクとしてはね、ホントにスッキリしたいんですよね。宇野選手は僕の身勝手な行動に腹を立てているから、試合が終わってもスッキリしないかもしれないですけど……。僕はとにかくスッキリしたいですね。

──ＤＲＥＡＭもいまはやっと落ち着き始めましたけど、ドタバタの余韻はまだ残ってますからね。宇野選手との対戦は準決勝だろうが決勝だろうが……。

川尻　（さえぎって）関係ないですね！

──たとえば青木さん相手にああいう感情って出さないですよね？

川尻　出しようがないですね。まったくそういう感情になんないですよ。そこはやっぱり年代も違うし。俺は噛みつくほうが気持ちいいんですよ。

──ああ、それはわかりますねぇ。今回のブスカペにしろ、マンバにしろ、アゼレードにしろ、実力者との対戦が続きましたけど、極端な話、川尻さんが勝ってあたりまえという見方が確実にあったじゃないですか。

川尻　まあ、そんな簡単な話じゃないですけどね（笑）。

──すいません（笑）。で、何か巨大な敵に立ち向かったり、大きな障害を飛び越えるというテーマのほうがいまの川尻さんは光りますよね。五味さんもそういう障害的な部分があったと思うんですけど、宇野さんに対する感情とはまた違うんですか？

川尻　そうですね。五味くんはどっちかっていうと、僕の勝手な意見としては似ているところがあると思うんですけど。五味くんも不器用っていうか、たぶん格闘技しかできないだろうなって思うんですよね。そういう意味では、自分の中での勝手な思いですけど、五味くんとは通じるものがあるんですよ。だからこそやりたいなっていう感じだったんですけど、宇野選手とは真逆ですよね。違うからこそ負けたくないっていうか。

──宇野さんは『ＨＥＲＯ'Ｓ』代表という立場をアピールしてましたけど、そのへんはどうですか？　川尻さんは『ＨＥＲＯ'Ｓ』もＰＲＩＤＥも関係ないっておっしゃってましたが。

川尻　いまはもうあんまり関係ないですね。関係あったほうがいいですか？

──雑誌的にはそう言っていただいたほうが大変ありがたいんですけど（笑）。

川尻　アハハハハ。

──ところで、宇野選手には原稿用紙何枚ぶんぐらいの思いがあるんですか？

川尻　いまはもう２００文字ぐらいですよ（笑）。

──たったの２００文字!!（笑）。

川尻　あとはリング上でやるだけですね。宇野選手、強いなあと思いましたよ。石田

川尻達也

くんの強さって僕とか仲間が一番知っているとと思うんですよ。ずっと練習してきてるんで。石田くんの気持ちの強さも知ってるんで、それをすべて飲み込んだ上で勝ったっていうか、凄いなあって思いました。正直、年齢的にもピークはすぎているのかなっていう見方もあったんですけど、全然そんなことはなくて、むしろ、僕がいままで観てきた中で一番強い宇野選手だったんで。

――逆に石田さんと川尻さんの発言や存在が、火をつけたっていうのはあるかもしれないですね。

川尻 そうかもしれないですね。たぶん僕が修斗で闘ったときも、僕が観たことがない宇野さんだったんですよ。

――あのときも「宇野選手がベルトに挑戦はおかしい」とか絡んでましたし(笑)。

川尻 で、闘っているときは無我夢中で気がつかなかったんですけど、あとからビデオで観たらこんな宇野選手は観たことないなって。今回はあのとき以上に強かったですね。

――石田さんが宇野薫の本性を暴き出した、と言ったらへんですけど。

川尻 ああ、石田くんがその強さを導き出したんじゃないですか。

――もし決勝1回戦で川尻さんとの試合が実現したら、その〝観たことのない宇野薫〟が登場しそうですね。

川尻 だと思いますね。僕もそうなると思います。



かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。T-BLOOD所属。00年4月にプロ修斗でデビュー。04年12月に修斗ウェルター級王座に。05年のPRIDEライト級GP 1回戦の五味隆典戦では歴史に残る勝負を展開した。08年3月からDREAMに参戦、7月開催のライト級GPの決勝トーナメントに進出が決定している。そのアグレッシブなファイトスタイルから“クラッシャー”の異名を持つ。171cm、69.9kg。

――〝観たことのない川尻達也〟!! 最後の質問なんですけど、川尻さんが宇野さんの立場だったらどう思います?

川尻 凄く失礼なヤツだと思いますよ!(キッパリ)。

――ダハハハ!

川尻 ハッキリ言って、「ふざけんな!」って思いますね(笑)。年下のわけわからんヤツに突っかかられて、本当に宇野さんが大人で助かったっていうか、申し訳なかったっていうか。逆の立場を考えたら、本当申し訳ないっていう気持ちです。

――川尻さんだったらどんな対応を取りますかね?

川尻 僕は乗っちゃいますね。

――最近、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○じゃないですか。伏せ字にしますけど(笑)。

川尻 あ、ボクってそういう感じなんですか?

――いやあ、あれは全然ワクワクしないんですよ。だってつなげる気がなさそうだし、それならやめたほうがいいと思うんですよね。

川尻 ああ、そうですね。それって意味がないですよね。だからといって、僕のやり方もどうかと思うんだけど(苦笑)。

――いや、つながってますよ。

川尻 だからこそ、ちゃんと向き合ってくれた宇野選手は大人ですね。

――勉強になりますねぇ、新しいリングは(笑)。

川尻 日々これ勉強です(笑)。

――じゃあ、リング外は大人で、リング内はヤンチャな川尻さんの試合を期待してますので。

川尻 ありがとうございました!

【08年5月12日/都内・某ホテルにて収録】

この決闘を選手・関係者はどう見た!!

宇野薫vs石田光洋 証言集

構成／松下ミワ　撮影／乾真也





宇野薫のセコンド&和術慧舟會・東京本部代表

守山竜介

（宇野は）前に同じ場所でやった（ヨアキム・）ハンセン戦で最後にヒザ蹴りを食らって負けてるんで、試合中に一回『守りに入るな』って言ったんだけど、作戦っていうよりリズムに乗れたって感じかな。ひさしぶりの試合だったんでちょっと心配もあったんだけど、身体も動けてたしよくやったんじゃないですか。本人的にはメインだとか、『HERO'S』vsPRIDEとか、いろんなプレッシャーもあったのかもしれないけど、俺はそんなことはわかんないから（笑）。

次の試合？　誰とやっても弱い相手はいないし、どうなるんだろう。優勝できればいいけど、そこまで行ったためしがないからね（笑）。まあ、セコンドとしては、ケガさえしなければいいかなって思ってます。応援よろしくお願いします。



石田光洋のセコンド&トレーナー

山田武士

石田はもっと最初からいくはずだったんだけど、いけなかった。そのへんが宇野薫なんじゃないの？　リングの中ではやっぱり宇野薫なんだよね。右アッパーに左フックを合わせる練習をしてたんだけど、先に当てられちゃった。そこは時の運というか、

しょうがない。でもよく打ち合ったと思うよ。石田くんは闘い方が殻に入ってると思ってたんだけど、昨日はちょっと殻を破ったよね。勝負論としては間違ってたかもしれないけど、宇野くんのおかげでスイングしたところはある。それをどう活かすかはこれからの石田くん次第だし、僕の課題でもあるし。セコンドについてて、すっげーおもしろかったから。だから、次は勝って沸かそうぜって。

リング上で「すみません」って言うから、胸を張れって言ったんだ。恥ずかしい試合じゃなかったから。おもしろい試合をしつつ、勝たなきゃいけないのかっていうのがやっぱり難しいなあ。誰もいない道場で宇野くんと石田くんがやったら勝負はわかんないよ。だけどやっぱり、あの煽られ方の中で、何万人もの中で勝つのはやっぱり宇野薫の場数だよ。でも昨日の石田くんのはっちゃけ方は、やっぱり男だったよ。ケンカしに行ったんだね。ジーンとしたよ。

石田光洋のセコンドであり T－BLOODの盟友

桜井隆多



最初に宇野さんに殴られたこともあって、ちょっとで熱くなって、いつもどおりの動きできなかったですね。いつもだったらタックルにいくところで打ち合いにいっちゃいましたからねえ、そこがいつもどおりじゃなかったかなって。

プレッシャーですか？　それはいい方向に捉えて、その期待に応えようという感じでした。まあ、メインイベントということもあるし、彼の中では、いままでよりも一つ上のランクの闘いをしたいというのがあったと思うんですよ。なので、よけいに彼の中で熱くなったところがあって、そこで宇野くんを見ちゃったんで「やるぞ！」という感じになっちゃったんですよね。それが空回りしちゃったのかなって。

最初に自分の流れを作れればよかったんですけど、硬かったところもあって、本来の動きがなかなかできないってところがあったと思うんで。いつもだったら打撃を当ててすぐタックルにいくんですけど、普通みんな石田のタックルを警戒して打撃をしなかったというのがあったと思うんですけど、そこは宇野くんに合わせちゃったんで、結果的には宇野くんのペースになってましたよねえ。セコンドもこれから反省するところがありますね。

川尻ですか？　川尻は石田が絶対に勝つと信じてたと思うんですよ。ただ、打撃でやられたあとに石田が盛り返してた、でも、そのあとに一本取られたというところでけっこう彼はショックだったと思うんですよね。悔しいのは悔しいけど、石田本人もこれを次につなげるということは言ってたんで、それを聞いて僕らは練習するだけです。



宇野薫のお手伝い

高瀬大樹

今回は（宇野の）セコンドまではやってないですけど、お手伝いしました。ま、先輩なんで。でも、俺は一本取るとは思わなかった（笑）。判定で宇野さんかなというか、まあ2ラウンドは盛り返すとは思ってたんですけど、まさかあそこまで盛り返すとは

思わなかったです！　嬉しい驚きでしたね。ただ、ちょっと川尻選手はあんなにやっちゃって大丈夫かなと思いますけどねぇ。宇野さんは普通に正々堂々と闘ったのに。



ライト級GP2回戦進出を決めたバカサバイバー

青木真也

試合は控室のモニターで観てました。TBSアナウンサーの青木裕子がいましたけど、ボクは背が低くて、ポッチャリ系が好みなんですよね。だから谷亮子のほうが……（以下、延々と続くので省略）。宇野選手、強いっすよね。それに男前だし、黄色い声援も飛んでいるし……。まあ、ボクのほうが男前ですけど。石田選手はいつものスタイルじゃなくて、宇野選手のパンチに合わせてしまった感じですね。背負おう、背負おうという気持ちがそうさせてしまったのかもしれません。

『やれんのか！』vs『HERO'S』について？　そこはよくわかりません。だって、〝ミスター・やれんのか！〟はボクですし、向こうの代表は『HERO'S』チャンピオンのカルバンじゃないですか。そこは宇野選手じゃないですよ。それはもう決着はついてる話ですから。

アルバレスの印象？　モミアゲが男色ですねぇ、ディーノですねぇ。一番強いのはボクです！



ライト級GP2回戦進出を決めた永田さん

永田克彦

ライト級GPの3試合は、どの試合もみんな決勝大会に勝ち上がるんだっていう意気込みが感じられたし、みんな勝ちに来ていて、どれもいい試合でしたね。とくにメインはPRIDE vs『HERO'S』っていう図式で。僕自身はDREAMになってから、PRIDEとか『HERO'S』とか意識はしてなかったんですけど、どんどんPRIDE一色になってくるとやっぱり悔しいし、そういう意味で『HERO'S』の選手が勝って嬉しかったし、自分の中に『HERO'S』魂があるって気づかされました（笑）。あの試合を観て、俺も宇野選手に負けてらんないなって思いましたね。

ただ、次の青木選手との試合はPRIDEの選手に負けたくないっていうよりも、青木選手個人に負けたくないって気持ちが大きいですけどね。やっぱり『HERO'S』のトーナメントを2連覇した、あのカルバンに勝った青木真也に勝つっていうのは、もの凄く大きいことだと思うんですよ。だから6・15にすべてを懸ける意気込みでやりますよ。このチャンスを活かさなかったら、なんのためにプロに転向したんだって思いますからね。

婚約者の優華さんがヨガのインストラクターなんで、試合までの練習では、そういうものも取り入れながら頑張りたいと思います（笑）。



DEEP代表

佐伯繁

主催者推薦枠に関しては、やっぱり宇野くん自身のケガの問題があってこうなってるんだから、逆に宇野くんにも凄くプレッシャーがかかったと思うんだよね。反対に、そこに噛みついた石田のプレッシャーも凄かったと思うけど。そういう意味では両方負けられない潰し合いの試合だったんで、逆にエディ vs ハンセンというセミの素晴らしい内容の試合とは違った意味で、感情的なものが大きな意味を持つ試合だったよね。

ただ、やっぱりああいう場面に強いのが宇野くんなんだよね。それはね、本当に凄いなと思うよ。逆に言ったら石田くんも目標ができるでしょう。

それに、同じチームに川尻が残ってるんで、またここで気持ちが入ると思うよ。やっぱりそういう意味では今回の試合は重たい試合だったんじゃないかな。

4人目は決まってないけど、役者的にはこれで青木が出てきたら青木、川尻、エディ、宇野。もうやっぱり凄いよ。なんで次が大阪なんだというね（苦笑）。そのくらいもったいないカードだと思うよ。もう最高の4人。ライト級が凄いなと思うのは、やっぱり日本人が勝つからね！





米格闘技WEBサイト『MMAウィークリー』総帥

スコット・ピーターソン

宇野は途中からのGP参加だったから、石田やチームメイトである川尻に不満があったのは理解できるよ。試合で驚いたのは、宇野だね。石田は非常にいいテイクダウン技

構成／松下ミワ　撮影／乾真也

宇野薫vs石田光洋 証言集

術を持っているのに、宇野は石田にテイクダウンを取らせず、常に上をキープしていた。彼はレスリングのバックボーンもあるし、柔術もできる。そして何より長く闘ってきた経験がある。宇野は石田に比べてリラックスしていたし、経験の差が出たね。

いま、宇野がこの階級のトップにいるとは言えないけど、まだまだデンジャラスなファイターだし、成長を続けていると思う。逆に石田は、現在赤丸急上昇中のファイターで、将来はトップ5に入る可能性のある選手だよ。ただ、ちょっと安定感に欠けるかなあ。ギルバート・メレンデスとやったときは驚くほど素晴らしかった。かと思えば、次に消化不良の試合をしたり。スタイル的にちょっと〝ジャパニーズ・ランデルマン〟みたいな雰囲気があるかな？ ハッハッハッハ！ まあ、これは冗談ね（笑）。

とにかく、今日はセミの試合もよかったし、DREAMとしてはこれまで最高のショーだった！ カードもよくなってきて、ニューフェイスもたくさんやってきた。これからに期待を持たせるような大会だったよ！

須藤元気

DREAM解説者&マルチタレント



（勝利後、客席に向かって吠える宇野のプレイバックを見ながら）感情が溜まってる部分があったんじゃないですかね。途中から、準々決勝から出るという部分でキッチリ一本取ったというところで、いままでの鬱憤を出した感じがしましたね。

【PPV解説より】

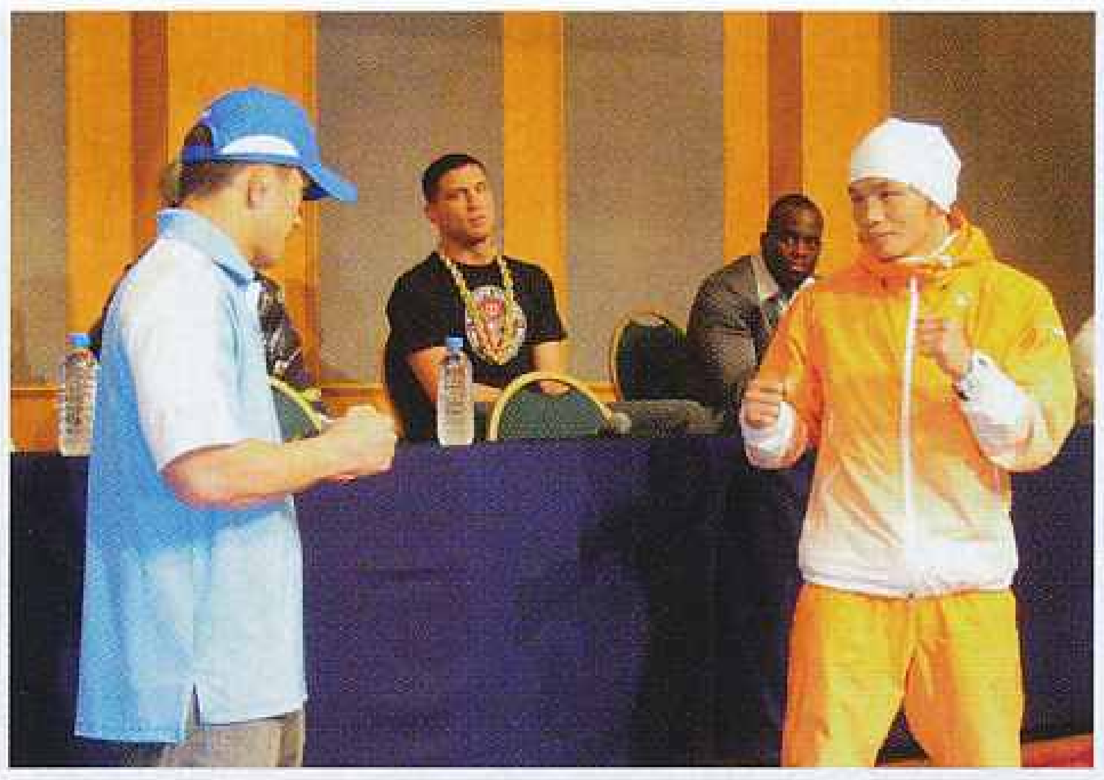
髙阪剛

DREAM解説者&本誌の格闘技ご意見番



これはもう試合の中身を観たら誰も何も言えないでしょ。

でも、もしこれが喧嘩四つだったらわかんなかったかなって気もしてるんですよね。今回は相四つ同士、しかも右サウスポー同士で、決めのパンチが右のフックか右のアッパーっていうね。その状態があるという前提のもとでの距離の取り方だったんで、それは打ち合いになったりするとリーチの長い宇野が有利になりますよね。やっぱり当たるのも宇野のパンチだし、振りきれるパンチを宇野が打ってたんで、右サウスポー同士の相四つというのが、勝敗を分けるキーになったかなって。



試合前日を迎え、いよいよボルテージが高まる宇野と石田であるが、前日会見の写真は、二人の微妙な距離感がじつにたまらない。

でも、あのスリーパーはあそこで極めることにこだわってるからこそのスリーパーだったと思うんですよ。あの時点でバックにつけたということは、2ラウンド目だし、すでに1分半そこそこ経ってたんで、あと1分寝技で潰しておけば判定だったら間違いなく勝ってるじゃないですか。そういう試合をやってもよかったんだろうけど、「極める！」っていう気持ちがあったからこそ一本取れたと思いますよ。

それに、あれはたしか、石田が片足タックルにいって、宇野がそれを切って石田に追いかけさせないようにしてうしろに回り込んだんだと思うんだけど、石田にしては倒そうとしている状態なんで、アゴが空いてたんですよね。石田にとってみたら、宇野の足に手がかかってて「まだ倒せるかもしれない」っていう状態だったから、宇野のあのスリーパーは予測できないんですよ。だけど、宇野のほうが最後に極めるというのが頭の中にあるから、まだ完全にタックルが切れてない状態だったけども、身体が勝手に反応してスリーパーにいったんだと思うんですよね。

そういう意味では勝負を懸けてた中での決着だったし、どっちかがガッチリ守るとか、どっちかが攻め込まれてとか、そういう状態じゃなかった。石田にとっては攻めようとしている中での敗戦だったんで、これはまあ誰も責められないと思いますけどね。

でも、石田も気持ちが強いですから、昨日は凄く落ち込んだと思うんですけど、それを払拭してほしいですね。石田はまだまだ引き出しがありますから。それをいかにして使うかというのと、それをいつでも使える精神状態にしておくのが大事なことで、まだまだ行けますよ。

決勝ラウンドですか？ いやあ、残ってる日本人はみんなもう自分の〝子ども〟みたいなもんなんで、なんとかうまく全員優勝してくれないかなって（笑）。っていうのはできないんですけど、勝負は厳しい世界だから。一番があるだけで、準優勝はあってないようなもんだから、頑張ってほしいとしか言いようがないよね。

宇野薫vs石田光洋の激闘後 あの川尻発言について両者がコメント!

宇野薫



「今日は楽しく試合ができました。推薦枠ですか？ でも、因縁とかはないですね。逆の立場になれば、自分もそう思うことはあると思いますし、石田選手は勢いのある選手だったんで試合を受けました。実際に闘って力強さは凄く感じました。でも、練習したとおりの動きができたのでそれが一番嬉しかったですし、自分でもビックリしました。

セコンドの守山（竜介）さんからは『守りに入るな』と言われました。さいたまスーパーアリーナの試合で思い出すのは『HERO'S』のヨアキム・ハンセンに負けた試合なので、守りに入ろうとしたらあの試合にみたいになると思ったんで、最後は攻めようって。1ラウンドの打ち合いも落ち着いて見れましたね。タックルも打撃に対してもそうだし。総合格闘技ですから、どの局面に対しても自分の闘いができたらいい、と思ってました。


（試合後、川尻が握手を拒否したが）いや、とくに何も……。川尻くんからすれば、おもしろくないと感じると思いますし、あたりまえだと思います。対戦表明に即答できなかったのは、試合直後だったので、コメントの切り返しができなかったんですが、それは検討します。まだ青木vs永田戦もありますし、僕が一概に言えることではないです。でも、決まったらやるだけです」

石田光洋



「悔しいです。必死に闘ったんで。もうちょっとできたっていうと言い訳になりますから。リングで出たものがすべてだと思うんで、結果がすべてです。（川尻が宇野に対戦表明したことは？）負けたので、何も言いようがありません。結果がすべてです。

右アッパーですか？ いや、右アッパーでは倒れてないと思うんですけど、鼻が痛いなったぐらいで、そこまでのダメージはないのかなって。ただ鼻血は出てたんで、印象は悪いなとは思いましたけど。宇野選手は強い選手でしたし、まだまだ僕も練習不足なんだなって思います。現段階で負けてしまったので、また機会があれば、これから勝ち上がって発言権が出れば挑戦したいです」



ぼくたちが好きだった 桜庭和志 “変態”座談会

あの素晴らしい“サク”をもう一度!!

ダメな大人に大好評!

“変態”座談会シリーズ

毎度おなじみ、30代以上のダメな大人たちに大好評の変態座談会シリーズ。今回は比較的若い読者も大注目、お待たせしました、我らが桜庭和志の登場だ! プロレスから総合格闘技へと時代を作っていった最大の功労者であるサク。そんなサクをデビュー当時から見続けてきた変態たちが、その素晴らしき数々の偉業についてたっぷりと語ります。これを読めば、サクがあらためて好きになる!

サクは普段はもの静かだけど、酔っぱらうと「俺が一番強い」って言ってたらしいね（椎名）

タコ　というわけで、毎度おなじみ変態座談会なんですが、今回は金曜日の夜10時30分スタートなんですよ。

椎名　なんでこんな遅い時間にスタートなの!?

井上　いつも変態座談会は2時間はしゃべるから、終電なくなっちゃうよ！

タコ　僕はまた井上くんか椎名さんが忙しいのかと思ってたんですけど……ガンツに聞いたら、ここの店（変態座談会会場としておなじみ『リビングバー新宿』）の個室が、この時間にならんと空いてへんかったって言うんですよ。

椎名　そんな理由なの？（笑）。

ガンツ　はい。やっぱり変態座談会は、花の金曜日にこの会場で、いい大人がくだらないこと話さないと（笑）。

井上　俺、ちょっと引いてるよ！　そんなこだわり、いらねえぞ（笑）。

タコ　宮戸（優光）が髙田vsバービック戦のとき、「猪木vsアリ戦のときと国旗の位置が逆だ！」って言ってたぐらいのこだわりを持ってるよね。

ガンツ　そこは、今日のテーマが「桜庭和志」ということで、Uインターイズムで（笑）。

タコ　というわけで、今日は桜庭和志選手に並々ならぬ思い入れを持ってる皆さんに集まっていただきました！

ガンツ　例によって皆さん、デビュー当時からご覧になってるわけですよね？

井上　俺、桜庭のデビュー戦を武道館で観てますからね。

タコ　デビュー当時の桜庭の印象いうたら、地味っていうだけやと思うんやけど。

ガンツ　あとはコスチュームが、パンツが黒なのにレガースが赤でへんだな、とか（笑）。

井上　あ、そうそう！　ベイダーっぽいカラーリングなんだよな。

ガンツ　「なんで一緒じゃないの？」っていう。

井上　あれは当初は違和感あったね。長州と一緒だよね。「黒のパンツに白のリングシューズ、どういうカラーコーディネートなの？」っていう。

タコ　長州といえば、サクはデビュー当時、なぜかサソリ固めを得意技にしてたんですよね。

ガンツ　やたら声出しながらサソリやってましたね。「オラーッ！」とか言って。

椎名　桜庭が天山みたいに声出してたの？

ガンツ　そうです。攻めるときも、やられるときも声出してたおかげで、宮戸に「桜庭はプロの試合をしてる」って気に入られたらしいです（笑）。

一同　ガハハハハ！

ガンツ　でも、かなりわざとらしい声の出し方でしたけどね。

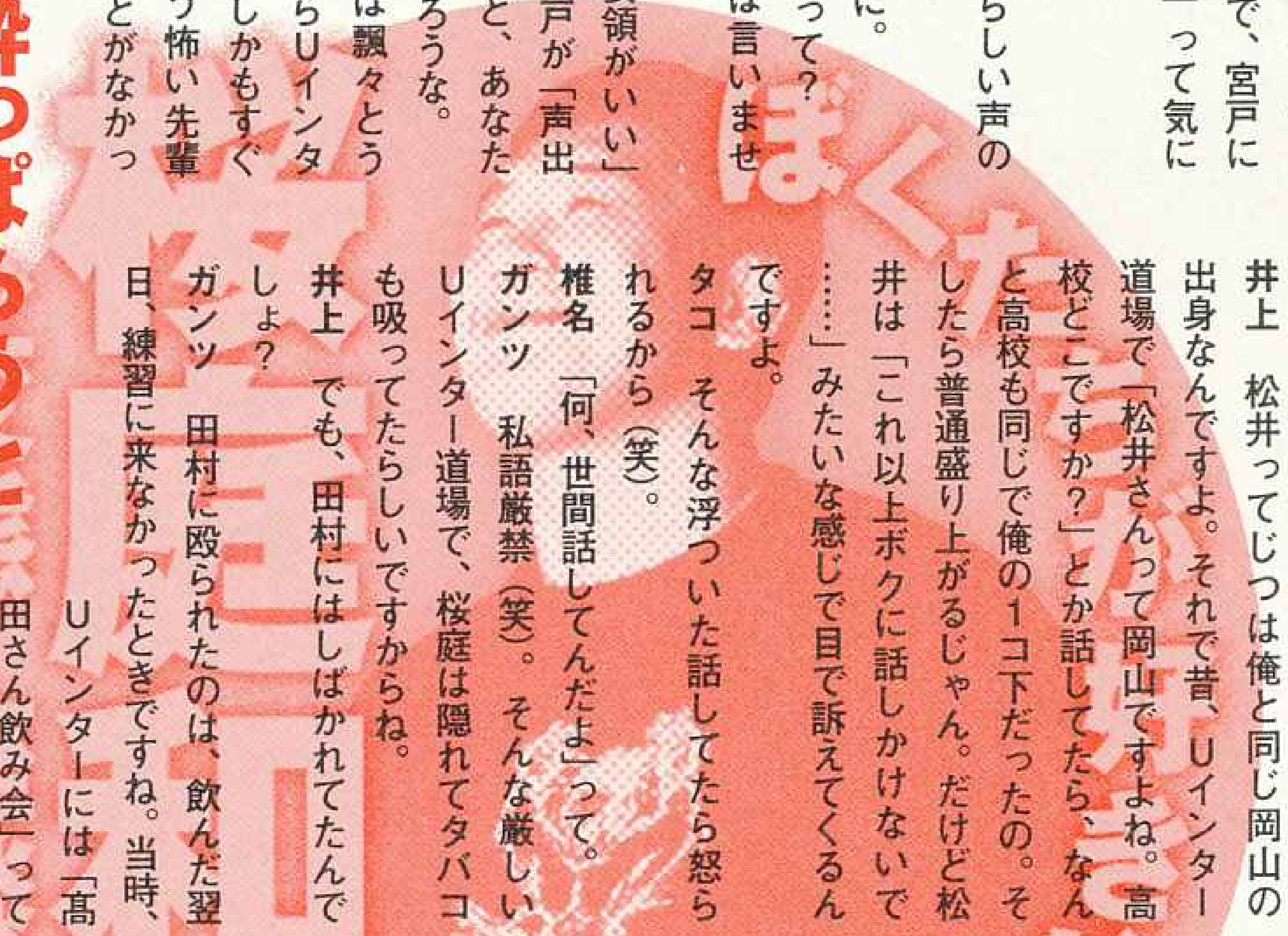
井上　キラー・カーンみたいに。

椎名　キエ〜〜ッ！　とか言って？

ガンツ　キエ〜〜ッ！　とは言いませんよ（笑）。

タコ　サクって、のちに「要領がいい」って言われるだけあって、宮戸が「声出すヤツがいいんだ」って言うと、あなた色に染まることができたんやろうな。

ガンツ　ホントにそのへんは飄々とうまかったらしいですね。だからUインター道場のあの縦社会の中で、しかもすぐ上の先輩が高山善廣っていう怖い先輩なのに、まったく殴られることがなかったらしいです。そのあとの松井とか上山とかは頭が変形するぐらい殴られた伝説があるのに（笑）。



井上　松井ってじつは俺と同じ岡山の出身なんですよ。それで昔、Uインター道場で「松井さんって岡山ですよね。高校どこですか？」とか話してたら、なんと高校も同じで俺の1コ下だったの。そしたら普通盛り上がるじゃん。だけど松井は「これ以上ボクに話しかけないで……」みたいな感じで目で訴えてくるんですよ。

タコ　そんな浮ついた話してたら怒られるから（笑）。

椎名　「何、世間話してんだよ」って。

ガンツ　私語厳禁（笑）。そんな厳しいUインター道場で、桜庭は隠れてタバコも吸ってたらしいですからね。

井上　でも、田村にはしばかれてたんでしょ？

ガンツ　田村に殴られたのは、飲んだ翌日、練習に来なかったときですね。当時、Uインターには「髙田さん飲み会」っていう、髙田が若手を連れて、朝までメチャクチャ飲むっていうのがあったらしいんですよ。とにかくメチャクチャ飲むから、その翌日は練習に出てこれないのは宮戸ですら黙認してたのが、飲み会に呼ばれてない田村は、朝からちゃんと練習に来て。桜庭は一応、先輩が来てるかもしれないってことで、フラフラ遅れて道場に行ったら「なんでおまえ、練習してないんだ！」ってボコボコに殴られたって話です。

タコ　そういうことなんや……。

ガンツ　で、そこから因縁が生まれたらしいですね（笑）。

椎名　そこがスタートなんだ（笑）。

タコ　でも、田村以外の先輩とはうまいことやっとったわけやな。

井上　ずっと髙田の付き人だったんですよね。そういや初期『サムライ！』の『BG道場』の収録でUインターの道場に行ったことがあるんですけど。

椎名　あったね〜。よく観てたよ。ただ道場の風景を流すだけなんだよね。

井上　そう。BGMにちなんで『BG道場』。ただ各団体の道場の風景を垂れ流すだけという（笑）。

ガンツ　バック・グラウンド・道場ですか（笑）。

井上　その収録に行ったとき、リング上で何組かが二人一組でスパーリングやってたり、ウェイトやってる人がいたりとみんな真面目に練習してるんですけど、桜庭とボーウィー・チョーワイクンだけ、二人でずっとニヤニヤしながらスタンドの練習っていうか、じゃれ合いみたいなことしてたの。それを見て俺は「こいつは絶対に弱い！　なんて不真面目な若手なんだ」と思ってたら、のちにあんなに強くなっちゃった。あれは遊んでるように見えて何か理にかなった練習だったんだろうなぁ……というお話です（笑）。

ガンツ　当時は見る目がなかったわけですね（笑）。

椎名　俺は強い弱いはともかく、桜庭とか金原とかUインターの若手って、どうしてスター性のないヤツばかりなんだろうって思ってた。U系って上のほうはみんなスター性あったじゃん。

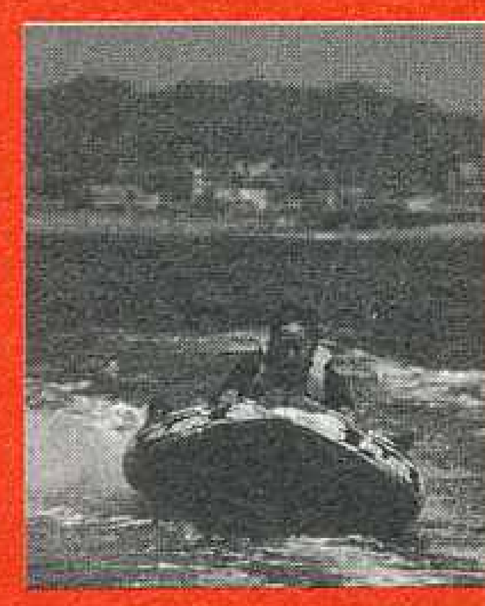
ガンツ　前田、髙田、船木とか、みんなカッコよかったですよね。

椎名　でも、若手はスター性ないなって。中野龍雄なんかの時代よりはよくな

毎度おなじみダメな30代 変態座談会出席者プロフィール

椎名基樹

本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負にあくなきこだわりを持ち、初期、桜庭の大勝負はすべて生観戦で大炎上。UWFの血が流れていることを公言し、自らも木口道場で格闘技を習った経験を持つ。



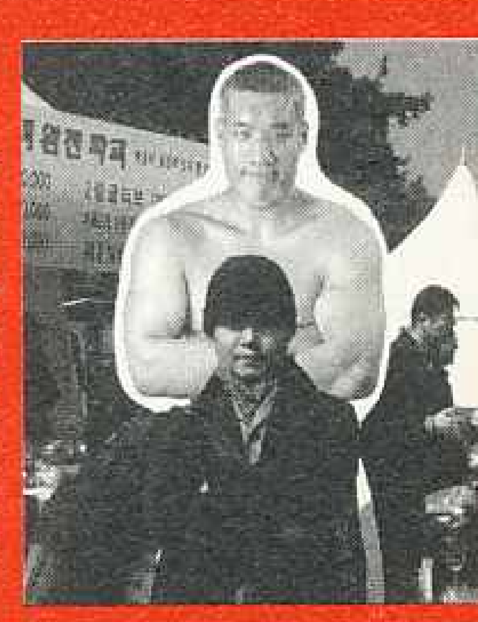
井上崇宏

携帯サイト『スカパー！　バトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。UWFインターナショナルにあくなきこだわりを持ち、かつてはショップ『グレート・アントニオ』のプロデューサーとして、名作サクマシンフィギュア（写真）を発売。荒稼ぎした実績を持つ。



原タコヤキ君

元・小さい版型の頃の『紙のプロレス』編集者。現在は音楽プロデューサー兼変態座談会のカリスマ司会者。自転車とギターとジャイ子へのセクハラに夢中な37歳。この変態座談会だけでなく、『kamipro.com』のポッドキャストでも司会を務め、毎回、どっきりに遭っている。



堀江ガンツ

本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称。変態座談会主宰者でもあるカリスマ的変態。写真はサクを追ってブラジル、クリチバのシュートボクセ・アカデミーに行ったときの一枚。



ったかもしれないけど。

ガンツ 中野、宮戸、安生世代よりはまだいいけど（笑）。

椎名 増田明美からQちゃんになったぐらいの違いだけどね（笑）。

タコ 桜庭は華がないとか言われとったよな～。そんな桜庭が注目されだしたのは、田村戦とか新日本との対抗戦とかあったけど、一番はやっぱり『S―cup』でやったキモ戦やないですか？

椎名 俺は完全にそこからだよ！ 当時、U系の選手がバーリ・トゥードに出たら、応援に行かずにはいられなかったから。

タコ 僕と井上くんは一緒に有明コロシアムに観に行ったよね。ほんでキモに負けた桜庭を見て「なんやこいつ弱いなあ？」って言うて（笑）。

ガンツ そこでも、まったく見る目がなかった、と（笑）。

井上 ただ、あのキモ戦はワークだったって話ですけどね。

椎名 なんかそうだって聞いた！ 俺、それ聞いて凄い納得したもん。なんで若手時代とはいえ、桜庭がキモに負けたんだろうって、ずっと疑問だったから。

ガンツ キモは桜庭、高山が負けて、最後に神宮球場で安生が取るって計画だったらしいですけど、Uインターがキモのマネージャーに騙されたかなんかで、2回勝った時点で安生とやらずに逃げられたって聞きますよね。

井上 ブロック・レスナーパターンだ。

ガンツ しかも、キモ自身はシュートだと思ってたらしくて、それで高山を頭突きで血まみれにしちゃったという。

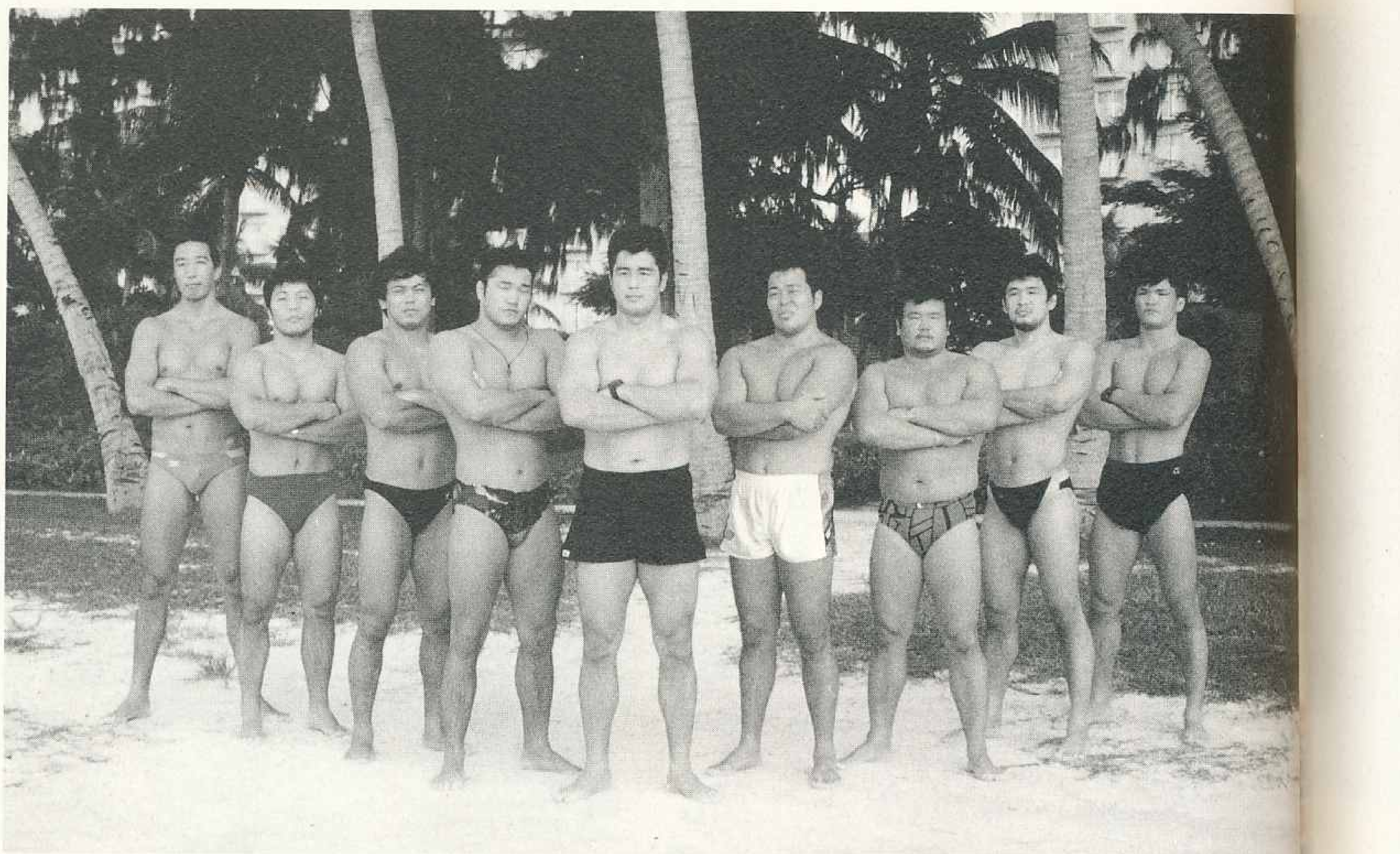
椎名 キモは桜庭戦のあと「こんなちっちゃいヤツ、ぶっ壊しちゃうかと思ったけど、けっこう強くて驚いた」みたいなこと言ってたよね。

井上 桜庭のほうは全然、本気出してないのに（笑）。

ガンツ それで桜庭は裏で「あれは全然イケますね」言ってたんですよね。

タコ サクって、そういうことちょいちょい言うよね。グレイシーとやる前とかも「イケそうですよね」って言っとったし。

ガンツ サクって、若手のときから普段はもの静かだけど、酔っぱらうと本心を出してくるとか聞きますよね。



95年9月、新日本プロレスとの全面対抗戦突入前に、サイパンで強化合宿に参加したUWFインター勢。当時、プロレスに手を染めたことで、UWFファン非難が上がったUインターだったが、じつはこの頃から道場では充実した練習が行なわれていたのだ。

椎名 それはみんな言うよね。酔っぱらうと「俺が一番強いんだ」って言いだすとか。そういう人だったんだろうね。

ガンツ Uインター時代の試合の話でいうと、田村との3連戦の初戦がシュートだったって話ですね。

井上 あれ1戦目だけなんだ。

ガンツ らしいですよ。1試合目取ったら、そのあとの2試合は桜庭にリベンジのチャンスはなかったという（笑）。

タコ そら田村、嫌われるで（笑）。

ガンツ でも、2試合目はサクがチョーク取りそうになったんですよね。その試合について、サクが昔『kamipro』のインタビューで話してるんですけど「チョークを仕掛けたとき、田村さん落ちそうになったんですよ。落としときゃよかったですね。エヘヘヘ」みたいなこと言ってて。桜庭の中では取ったことになってるんだろうなって思ったんですけど。

タコ 2戦目もシュートだったら俺が勝ってた的な。

ガンツ だからおもしろいのは、田村vs桜庭については、お互いが勝つ自信がある的な発言をチョコチョコしてるんですよね。それは田村にしたら「俺はシュートで桜庭に勝ってる」っていうのがあるんだろうし、桜庭にしてみたら「あのときチョーク取れてた」っていうのがある。

椎名 田村がヘンゾに勝ったあとぐらいの『kamipro』のインタビューで、桜庭に対して「勝てると思うんだけどな」みたいなこと言ってたよね。

タコ 先輩として精神的に気後れするところもないんやろうし。

井上 でも田村って実際、強いよね？

ガンツ なんだかんだいって要所要所、落としてないですよね。

井上 ヘンゾに勝ったり、ミノワマンとか船木をキッチリ秒殺するし。

椎名 あと美濃輪が一番いい時期に、DEEPが完勝したじゃん。あの貯金ってけっこう大きかったと思う。

井上 余談ですけど、昨日、○○とたまたま話す機会があって、オフレコで「××さんってどれぐらい強いんですか？」って聞いたら「超弱い」って言ってたんだけどね（笑）。

一同 ガハハハハ！

ガンツ なんてことを！

井上 「でも運動神経いいですよねえ？」って言ったら「えぇ～っ？ いいかなあ？」って言ってましたね。

タコ いま聞くと、ちょっと納得してしまうけどなあ（笑）。

椎名 でもさ、桜庭と田村の話に戻すけど、なんで田村がUインターを辞める前、桜庭と3連戦だったんだろう。あのときから、もう確執はあったんでしょ？

井上 でも、リング上では同志みたいな感じだったよね。

タコ そうやな。田村としては、桜庭とのUWFスタイルの技術の攻防が理想の試合ってことやんか。だから、新日本の対抗戦に背を向けて同じカードを3戦もしたし。でも、サクと田村は感情的によくない関係だったにも関わらず、なんでなん？

ガンツ 要は、田村は先輩だから桜庭にどうこうという個人的感情はまだなくて、桜庭もまだ若手だから、内心、田村を嫌ってても、その気持ちを表には出してなかったんじゃないですかね。

タコ ああ、ムカつく先輩だけど、言われた仕事を黙々とこなしてた、と。

井上 当時はホントに下から二番目ぐらいの若手だもんね。

タコ そんな桜庭が一躍、名を挙げたのは、やっぱりUFC―Jでマーカス・コナンに勝ったときですよね。

井上 あれはビックリしましたね。

椎名 会場行ったよ！

タコ 試合もさることながら、セコンドのキングダム勢の喜びようがビックリしたよ。団体が一丸となってて。

井上 あの団結力はちょっと憧れますよね。

タコ 憧れる。新日本プロレスの猪木さん全盛のときも、猪木さんが大一番で勝

ったらセコンドが大喜びして、リングに雪崩れ込んでたやん。あのへんがリアリティになってくるんですよね。

井上　でも、桜庭が試合後にマイクで言った「プロレスラーはホントは強いんです」って、あれ一歩間違えば、髙田への嫌味ですよね（笑）。

ガンツ　〝あれ〟をプロレスラーの実力だと思わないでください、と（笑）。

井上　髙田も花道を引き揚げる途中にあのマイクを聞いて、クルッと振り向いて「うまい！」みたいにウケてたけど（笑）。あれ、ヒクソン戦の直後だもんね。

タコ　1カ月半後ぐらいやもんなあ。ホンマ、我々がどん底まで落ち込んでるときにね……。

椎名　溜飲を下げたよね。

タコ　下げましたよ！

井上　だから、あの結束力の重要性がのちのち思い知らされたのが、秋山成勲戦だよね。あのUインターの連中がセコンドについてたら、ああはならなかっただろうって。

椎名　きっと桜庭が「すべる！」ってアピールしてるとき、リングに雪崩れ込んでただろうね。

タコ　試合後は金原あたりがリングに居座っただろうし。そうやなあ。

ガンツ　これは余談なんですけど、桜庭は宮戸にセコンドを頼もうとしてたらしいんですよ。

井上　え⁉　いつ？

ガンツ　『HERO'S』になってからだから、たぶん秋山戦のときだと思いますけど……。

井上　ちょっと、全然余談じゃないよ、それ！

タコ　大事な話やんか！

ガンツ　桜庭は宮戸に頼もうとしたんだけど、スーパーバイザーが「宮戸はあかん」って言ったらしいです。

椎名　なんで！　前田、頼むよ～。それぐらい許してやってくれよ！

タコ　そんな間違ったスーパーバイズを……。

井上　でも、なんでサクは宮戸をセコンドにつけようと思ったんだろう？

ガンツ　宮戸っていうか、自分が新人時代の先輩についてもらいたかったんでしょうね。

椎名　ああ。技術的にどうのこうのじゃなくて、安心するんだろうね。

ガンツ　やっぱり若手時代の怖い先輩って、田村vs船木戦の煽りVじゃないですけど、スクワット2000回やって体力の限界なのに、「もう1000回やれ！」って言われたら、できちゃったりするわけじゃないですか。それと同じように、試合中、「もうダメだ……」と思っても「まだまだ大丈夫だ！　立て！」って言われたら、立ち上がれちゃったりする感じになるらしいですね。

椎名　ホイスが大一番のとき、エリオをセコンドにつけるのと一緒だ。

ガンツ　桜庭にとってのそういう存在って、宮戸や安生なんじゃないですかね。

タコ　ちなみに、サクがUインター時代に技術を教えてもらったのは、安生ってことになるの？

ガンツ　いや、技術的にはみんなでスパーリングをやるようになって、飛躍的に伸びたらしいですよ。田村がいた頃までのUインターは、ちゃんと格がある練習で。要はスパーリングをやるにしても、必ず先輩と新人というペアで、先輩が上のポジションから始めて極めまくるっていう練習だったらしいんですよ。それが田村と宮戸が抜けたあと、道場では上が安生ぐらいしかいなくなって、「先輩も後輩もなく、みんなでスパーリングやろう」となった、と。

井上　そこからなんだ！

ガンツ　いわゆる、いまの総合格闘技で

ぼくたちが好きだった



UWF系の団体でいち早くオープンフィンガー・グローブを導入したキングダムで、メキメキと頭角を現してきた桜庭。Uインターでは一若手だった男が、金原弘光とともにキングダムの二枚看板と呼ばれるようにまでなった。

桜庭和志 入場パフォーマンス“爆笑”大全

[2000.10.31 PRIDE.11]
vs　シャノン・“ザ・キャノン”・リッチ

ミル・マスカラス



桜庭和志、二度目のマスクでの登場は、伝説のPRIDEファイター（？）リッチ戦でのマスカラス。やっぱりマスクマンと言えばこの人でしょう。

[00.12.23 PRIDE.12]
vs　ハイアン・グレイシー

サンタクロース



クリスマス直前に行なわれたハイアン戦では、プレゼントを抱えてサンタのマスクで登場。しかし、ファンに一本勝ちはプレゼントできなかった。

[01.11.3 PRIDE.17]
vs　ヴァンダレイ・シウバ

ザ・グレート・ムタ



ドームで行なわれたシウバとの再戦では、ザ・グレート・ムタの頭巾で登場。さらにその下にはムタのペイント風のお面も着けていた。

Uインターって紐解けば紐解くほどホントにカッコいい団体だったって思うよね（井上）

桜庭和志

やってる本来のスパーリングですよね。Uインターは上が抜けたことで、はからずも、いち早くそれができたってことですよね。

タコ　さっきから聞いてたら、田村が抜けていいことしかないっていうのはどういうこと?（笑）。

ガンツ　田村と宮戸が抜けて、興行的には坂道を転げ落ちていきましたけど、道場内部は若手が力をつけて、充実してたんでしょうね。

タコ　道場はメッチャ活気づいてたんや。

ガンツ　その頃からエンセン井上も練習に来るようになって、これまたいち早く、柔術の練習もできて、みんな強くなっていったという。

井上　当時、エンセンが佐山サトルに「Uインターに一人強いのがいますよ」って言ったたって話があるけど。

椎名　それが桜庭なんだろうね。

井上　だから、やっぱりサクは強かったってことだよね。

ガンツ　桜庭は当時のUインター勢で唯一、テイクダウンっていう概念があったんですよ。

井上　ああ、レスリング出身だから。

ガンツ　それまでのUWFスタイルっていうのは、スタンドはスタンド、グラウンドはグラウンドだったじゃないですか。でも、桜庭は打撃はタックルにいくためのフェイントとして使ってたんですよね。だから、本当は蹴りのセンスがあるのに、そんなに練習しなかった。

タコ　ああ、よくサクは本来ストライカーだって言ったりもするよね。

ガンツ　でも、フェイントで使うだけだから、バシバシをKO狙うような練習はしなかったんですよ。蹴りのタイミングをつかむ練習はボーウィーと仲がいいから、よくやってたみたいですけどね。

井上　それだよ！　俺が『BG道場』で見たのは！（笑）。タイミングつかむ程度だから、ニヤニヤしながら、じゃれ合うように練習してたんだ。

ガンツ　だからボーウィーと仲良く蹴りのタイミングつかむ練習して、そのあと一緒にパチンコ行って、タバコ吸って（笑）。

タコ　そうやって学んどったんや。キングダムでオープンフィンガー・グローブを導入したのは誰の案?

ガンツ　あれは安生ですね。「バーリ・トゥードで勝つために、グローブ着けてやろう。でも、ちょっと俺らが有利なルールでね」ってことで、キングダムルールはできたらしいです（笑）。

井上　だからUインターって紐解けば紐解くほど、ホントに凄くカッコいい集団だよね。いわゆるU系の中では、表向きは一番「プロレス」だと思われてたわけじゃん。

タコ　そうそう、なんやったらちょっとファンからナメられてた部分があったりして。

ガンツ　一番自堕落な団体みたいに言われてましたよね（笑）。

井上　それが道場内はじつは一番進んでいて、一番強かったって、ホントにカッコいいと思う。当時はそんなバーリ・トゥードや真剣勝負で勝つ練習なんて、極端に言えば、やる必要ないわけじゃないですか。総合の人気が出るのなんて、まだまだ先の話だし、プロレスラーがそこまで強さを求める必要はないわけでしょ。

タコ　新日本やWARと対抗戦やりながら、バーリ・トゥードで強くなる練習してたわけやもんなあ。仕込みの時期があるっていうのが凄いよね。プロレスって贅沢やなあ。

ガンツ　キングダムなんかも、ボクらホントにバカにしてたじゃないですか。

タコ　してたねえ。

椎名　旗揚げ戦は行ったけどね。なぜか実況が会場に流れるっていう。

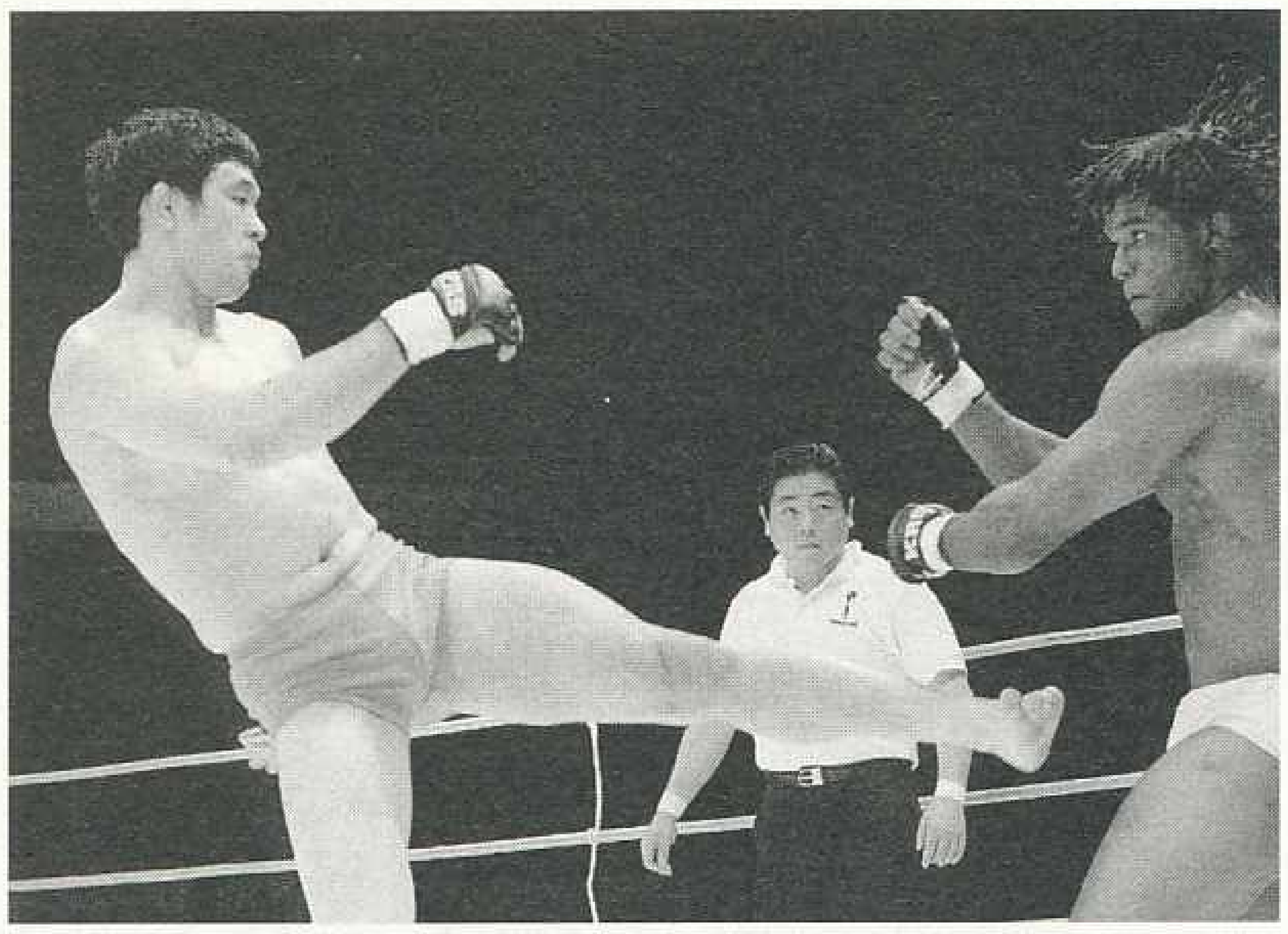
井上　早すぎた西口プロレス方式（笑）。

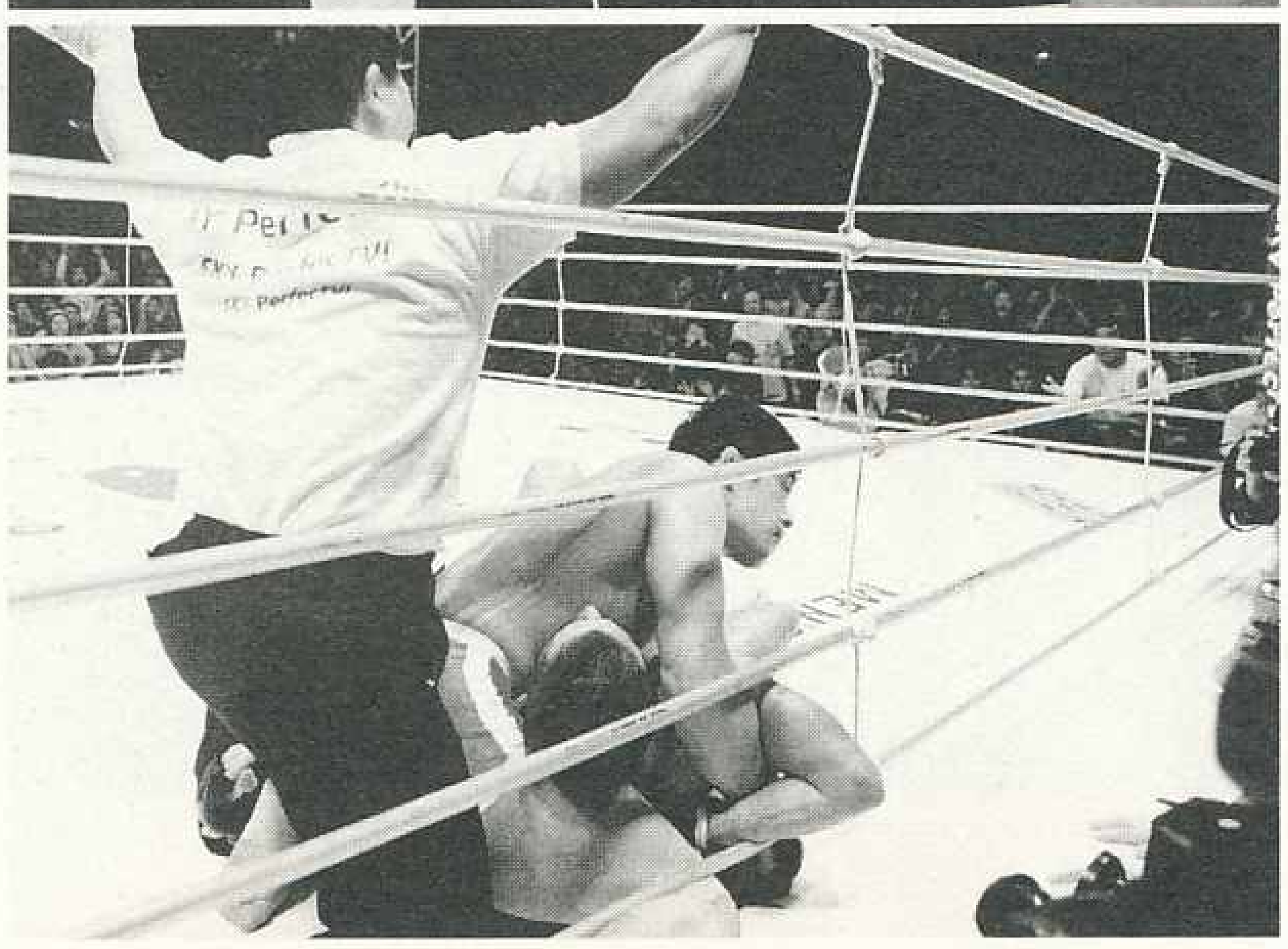
ガンツ　でも、桜庭が一番強くなったのって、あの時期だっていいますよね。ヒクソン戦のために高田が極秘で呼んだ、セルジオ・ペーニャっていう柔術の達人から、キングダム勢はいろんな技術を教えてもらって。そこで初めて、スパーリングじゃなくて、技術の反復練習をやり始めたらしいんですよ。

椎名　打ち込みだよね。

ガンツ　こう来たらこう返す、みたいな動きを身体に覚え込ませて。そうやって、技術をどんどん自分のものにしていったという。そんな練習方法も当時の最先端だったんでしょうね。

椎名　ここに来る前、昔のPRIDEのビデオ観てたら、高田が二度目のヒクソン戦の前にビバリーヒルズで特訓してるビデオが出てきてさ、そこでサクのス





キングダム崩壊後、高田道場所属として、PRIDEに主戦場を移した桜庭は、ニュートン、ブラガ、ホイラー等、強豪を次々撃破。この初期PRIDEでの桜庭の快進撃こそ、現在の総合格闘技人気の礎を築いたといって間違いない。

[03.8.10 PRIDE GP 2003 開幕戦]
vs　ヴァンダレイ・シウバ
ザ・ロード・ウォリアーズ



シウバとの運命の3度目の一戦。サクはウォリアーズふうのプロテクターで登場。さらにペイント風のお面には、ちゃんと舌まで出していた。

[03.3.16 PRIDE.25]
vs　ニーノ・シェンブリ
ザ・グレート・カブキ



この頃からパフォーマンスも増えてきたサク。カブキの隈取り風のお面を被るだけでなく、なんとヌンチャクも披露。さらに蜘蛛の糸も発射。

[02.11.24 PRIDE.23]
vs　ジル・アーセン
タイガーマスク3人



髙田延彦引退試合が行なわれたドーム大会。メインを務めたサクは、かつて憧れたタイガーマスクの覆面を被って初めて登場した。

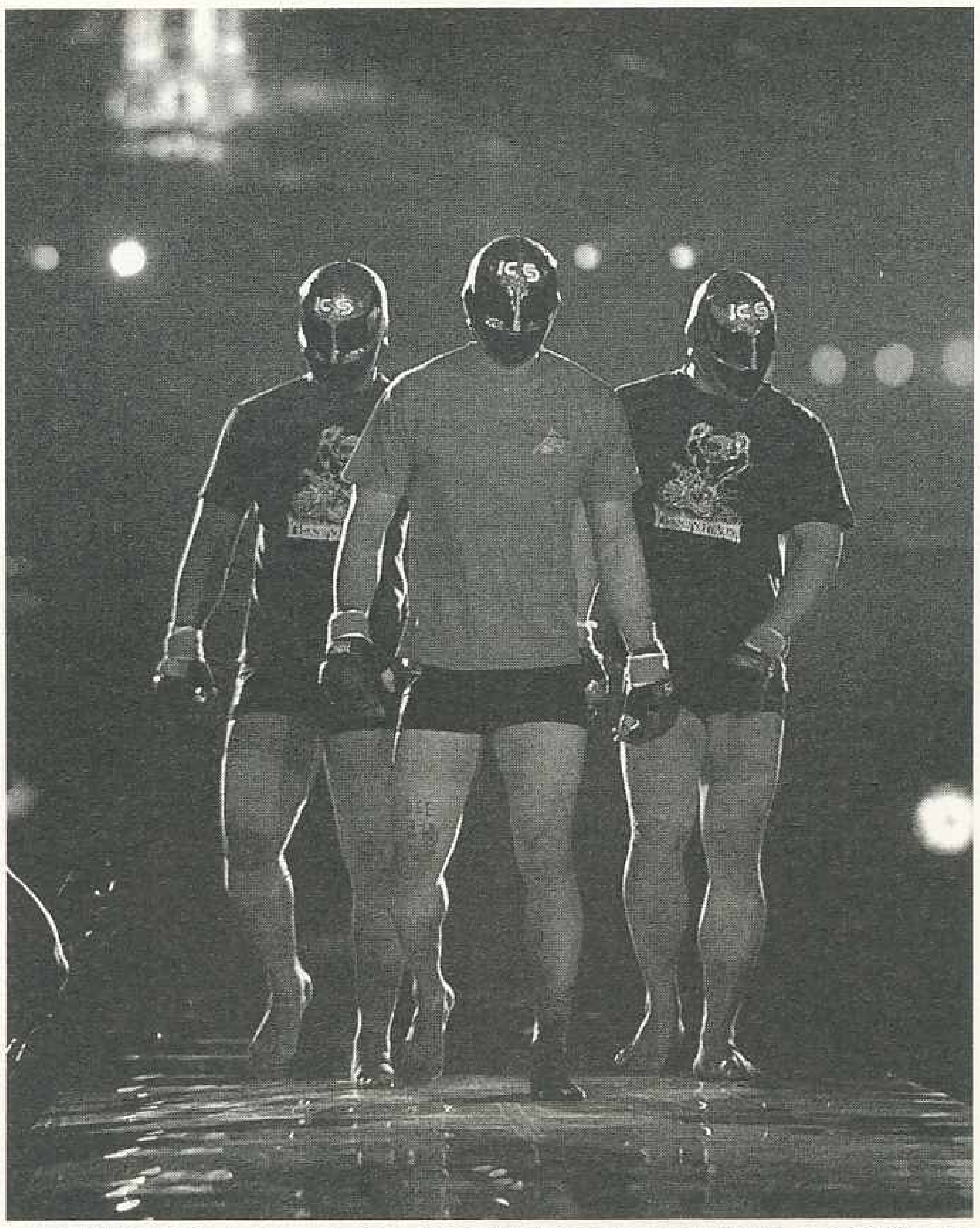
[02.8.28 Dynamite!]
vs　ミルコ・クロコップ
ビッグバン・ベイダー



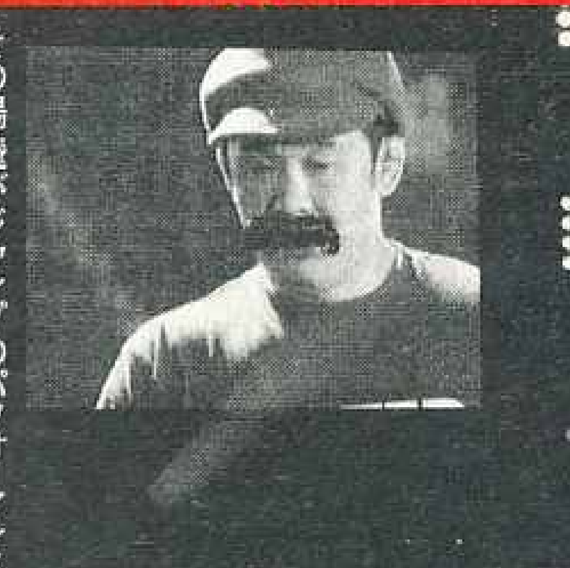
史上空前9万人を集めた国立競技場のミルコ戦では、手製の甲冑を被りベイダーで登場。その下には、ベイダー風のひもマスクも被っていた。

サクがPRIDEでスターに駆け上がって
いく過程は思い出すだけでうっとりする（タコ）

パーリング映像もあったんだけど、けっこう一本取ってたんだよ。
井上　極めまくってたらしいですね。
椎名　全然ガチで極めてた。あらためて、すげえ！　って思ったよ。
ガンツ　キングダムってUFC－Jと提携してたじゃないですか。だからUFC－Jに出るガイジン選手って、けっこうキングダム道場に来て一緒に練習してたらしいんですよ。そこでビクトー・ベウフォートとか、当時の大物選手と寝技やっても、「たいしたことない」って言ってたらしいんですよね。
タコ　どんだけ強いねん！
井上　いいコメントだなぁ（笑）。
ガンツ　だから桜庭がPRIDEがスタートした頃、「グレイシーって一本取れそうですね」って言ったのって、当時の柔術家の実力を知ってたから言えたんでしょうね。
井上　ちょっと待って。じゃあガンツくんがいつも言う「Uインター勢はみんな口を揃えて『髙田さんが一番強い』と言っている」っていう説はなんなの？
ガンツ　それはUインター時代の話で、キングダムになってからは、一緒に練習してないんですよね。
井上　じゃあ「髙田さんが一番強い」って言うのはその頃の本心なんだ？
ガンツ　本心ですよ。とにかく体力がズバ抜けてて、さっき言ったように、Uインターのスパーリングは先輩が上になって始めるスタイルだったわけじゃないですか。髙田に上になられたら、ホントに誰も勝てなかったらしいです。
井上　確かに下から極める技術って、あの時代はまだなかったもんね。
ガンツ　このあいだの田村vs船木の煽りVでも、髙田が横四方から新弟子を極めまくってる映像が出てたじゃないですか（笑）。
タコ　やってたやってた！　あれか。
井上　あのVTRの中で、一番当時の時代を象徴してるシーンだったよね（笑）。
ガンツ　あれが〝最強のポジション〟なんですよ。

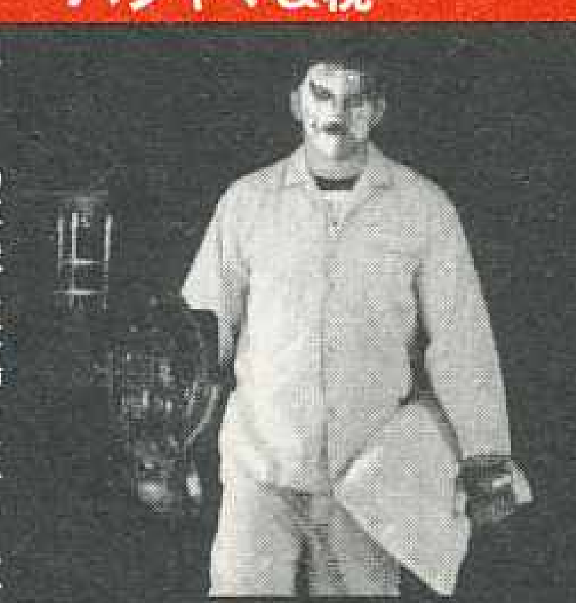

いまも語り継がれる、ホイス・グレイシー戦での〝芋づるマスクマン軍団〟サクマシンの増殖入場。グレイシー幻想を、リング上だけでなく、ユーモアでも破壊した。

タコ　納得しました。じゃあ、サクに話を戻します。
椎名　やっぱり桜庭の何が凄いって、コナン戦でブレイクしてから、ホイス戦でスーパースターになるっていう、駆け上がっていく過程を俺たちが全部観てるってことだよね。そんな選手、ほかに一人もいない。その噛み合い方が凄い。
井上　〝変態〟世代との同時代感ってことですよね。
椎名　そうそう、自慢できるっていうか。
タコ　デビュー戦から観てるし。そこまで駆け上がるまでのって、思い出すだけでうっとりですよね。
井上　うっとりですよ、ホントに。
タコ　もうこんな思いすることはないよね。
井上　あるわけない！
タコ　どんな選手が出てきても絶対にないわ。一番、プロレスファンとして自信をなくしてたとき救ってくれたのがサクやし、総合格闘技人気を作ってくれたのもサクやもんな。
井上　だから、その時代を経験してないファンが、平気でいまの桜庭を叩いたりするのって、俺はちょっと耐えられないんですよねえ。
椎名　そうだよね！　おまえら、桜庭の凄さ知らねえじゃん！　って。
井上　いまのファンって、けっこう先駆者に対して冷たいじゃないですか。すぐ「いらない」とか「ロートル」とか言うでしょ。
ガンツ　負ける姿をちょっとでも見せたら、あっと間に雑魚扱いですもんね。たぶんヒョードルだって2回負けたらボロクソだと思いますよ。
井上　そうだよね、「辞めちゃえ」だよね。オレ、そういうのが耐えられないんだよな、ホントに。あのミルコだって、そろそろ「ミルコさん」とか呼ばれそうだもんね。
タコ　永田さんみたいに（笑）。
井上　たとえばアレクなんていうのは、マルコ・ファスに勝った貯金なんて、もう完璧ないじゃないですか。
タコ　全然ない！
井上　それでも、あの日俺を最高に興奮させてくれたって思いがあるから、一生、バカにする気にはなれないんですよ。だから桜庭をけなしたりする人がいると、自分を否定されてるような気持ちになるんですよね。
タコ　今後、どんなことがあっても、残高が残り続けるぐらいのものを見せてもらったもんなあ。ニュートン戦、ブラガ戦ときたあとのホイラー戦のときは

[03.11.9 PRIDE GP 2003 決勝戦]
vs　ケビン・ランデルマン
マリオ

その場飛びジャンプのパフォーマンスから、ドンキーコングの異名を持つランデルマンに対し、サクはなんとヒゲをつけてマリオで登場！

[03.12.31 PRIDE男祭り 2003]
vs　アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
小林幸子（?）

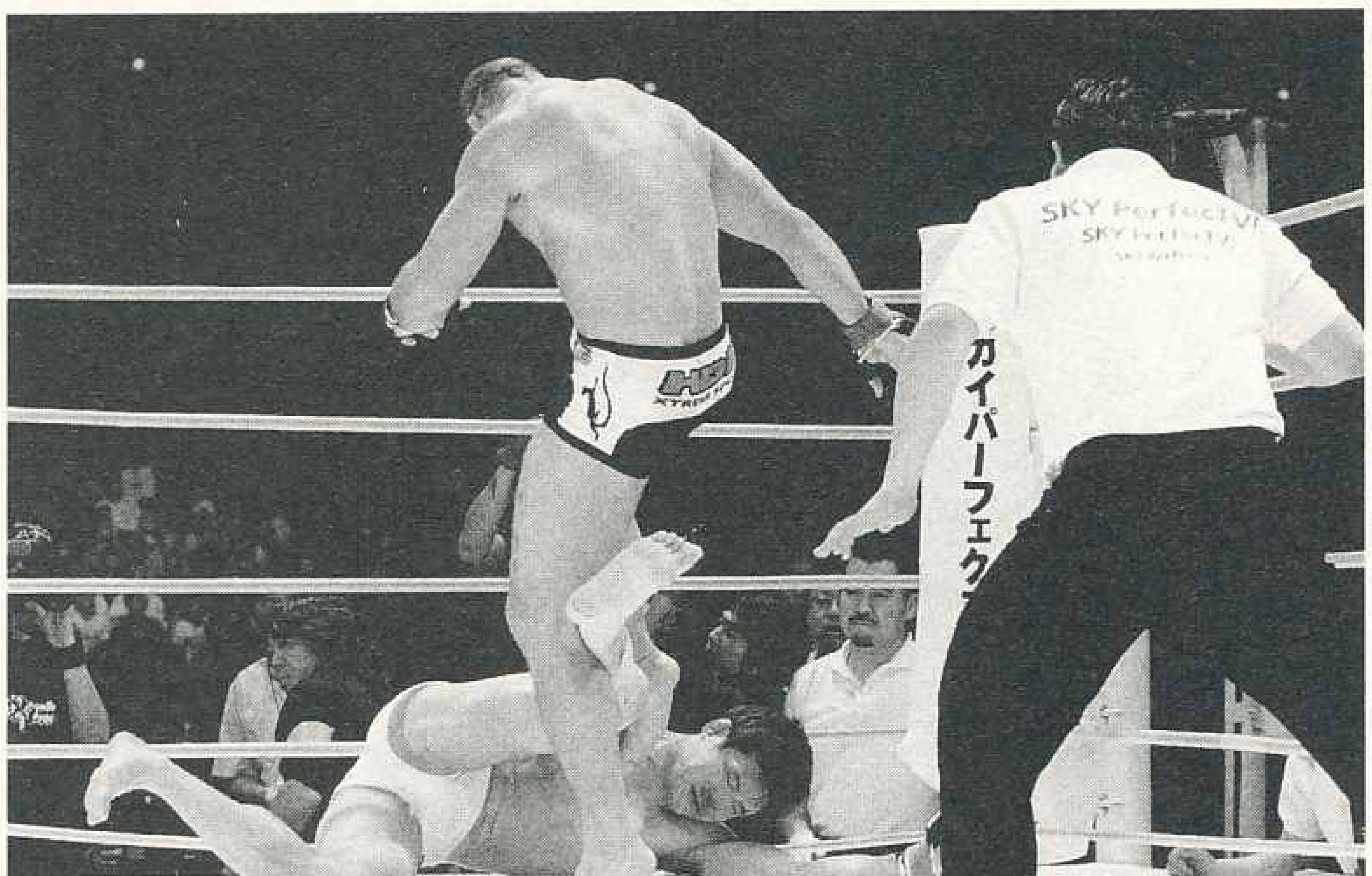
PRIDE初となる大晦日興行。サクは裏番組の紅白で行なわれる豪華衣装対決に対抗するような電飾コスチュームで登場！

[04.6.20 PRIDE GP 2004 2nd ROUND]
vs　ニーノ・シェンブリ
パジャマ&枕

ニーノとの再戦に登場したサクは、前回、反則のヘッドバッドで眠らされたことから、パジャマ姿で枕を抱えて登場。

[05.4.23 PRIDE GP 2005 開幕戦]
vs　ユン・ドンシク
小学生

新入学の時期に合わせて、野球帽にランドセルを背負って、小学生スタイルで登場。ランドセルに給食袋をぶら下げてるのがポイントだ。

もう……。
椎名　総合格闘技の大会で、あんなに一体になって喜んだのって、初めてだったよ。
ガンツ　会場が万歳三唱でしたよね。
椎名　俺、周りの席の知らない人と、みんなで抱き合って喜んだもん。いま思うと、なんで自分がそんなふうになったのかわからない。俺はなんでそんなにグレイシーが憎かったんだろう？
一同　ガハハハハ！
タコ　サクの物語とグレイシーの物語、どっちも凄かったもんね。
井上　そしてホイス戦がクライマックスでしょ！
タコ　興奮っていう意味で言うたら、人生で一番かなぁ……。何回も観たい試合じゃないけどね。
ガンツ　まあ、90分間もありますからね（笑）。
井上　でも、あの入場シーンは100回ぐらい観ましたよ。あれはホントに名作。十何人もセコンドを引き連れてくるグレイシーに対抗して、増殖するストロングマシン軍団というね。
タコ　あれこそ格闘技vsプロレスの理想ですよ！
井上　舞台の下からせり上がってくるんですよね。そしたらマシンの顔が出てきて「えーーーっ！」て。ホント震えたわ、あれ。
椎名　その後の桜庭の入場パフォーマンスって、あのときの貯金だけで生きてるよね。やればやるほど微妙になってきて（笑）。
タコ　もうマスクいらんやろ、とか（笑）。ランドセル背負ったりするのスベッてると思うけど、貯金の残高は減ってないねんな。
椎名　ホイス戦は試合も素晴らしかったよね。1時間以上、決闘してるんだから。
井上　15分1ラウンドで6ラウンド終了までやってるから、総試合時間90分ですからね。


01年3月『PRIDE.13』。4点ポジションのヒザ蹴りと、サッカーボールキックが解禁となったこの日、桜庭は総合格闘技で初となるTKO負けを喫した。この日から総合の歴史自体も変わっていった。

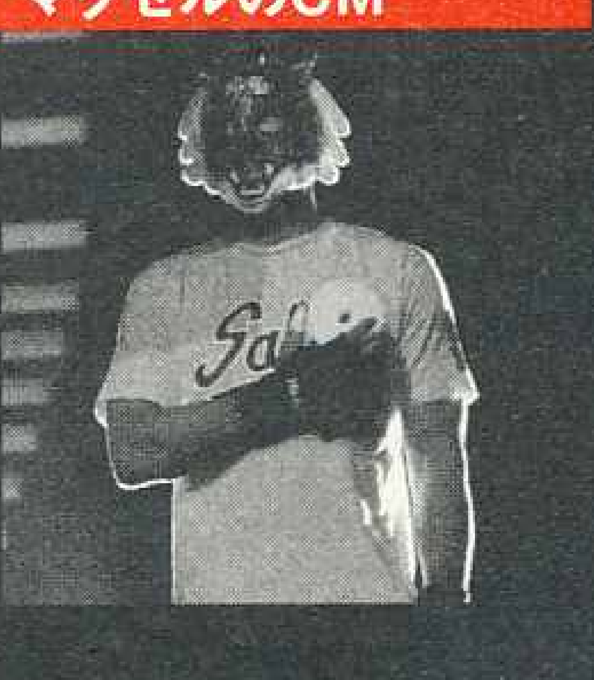
椎名　いまは5分3ラウンドが主流でしょ？　もう二度とあんなの観れないよね。
タコ　トーナメントなのに、あの一試合だけルールが全然違うんやもん。そんなトーナメントあるかいなって（笑）。
井上　あの日、桜庭vsホイスが90分やったおかげで、時間が押しちゃって終電が間に合わないとかで、決勝戦が1ラウンド制に急遽変わったんだよね。コールマンがすぐに勝ってくれて事なきを得たけど。
ガンツ　確か10時半を超えたぐらいから、文京区の警察から指導が入り始めたんですよ。
椎名　いいねえ！　それだけで楽しいよね（笑）。
タコ　女子プロのオールスター戦みたいな感じで（笑）。
ガンツ　夜中まで興行やるっていう届け出なんて当然出てないから、終電終わったあと5万人が夜の街に飛び出したらマズいってことで、警察が動いちゃったという。
椎名　みんな興奮してるわけだしね。
井上　真夜中に5万人の暴徒ですよ。調子に乗ったプロレスファンほど怖いものはないからね（笑）。
椎名　でも、そういう経験がすべて思い出になってるよね。
タコ　一生、忘れへんでしょう。そしてボクたちが幸せだった時代は、やっぱりサクがヴァンダレイ・シウバとやる前までかなあ。
椎名　あそこからPRIDEが変わったよね。俺はあれ以降のPRIDEは最高だと思ってるけど。桜庭に関してはね……。
井上　ヴァンダレイとの再戦で負けたあと、サクが負ける風景っていうのがけっこう普通になってきちゃいましたからね。
タコ　そして苦闘の歴史を経て、06年から『HERO'S』に移籍するわけやけど。あの『HERO'S』のリングに突然上がるっていうのは、たしか僕は試合当日、井上くんから聞いたんですよ。
井上　ああ、電話しましたよね。「このあとじつは桜庭が来るみたいなんですよ」って。でも、僕自身、それを聞いたとき「そんなバカな！」でしたけどね。
ガンツ　僕は前日の夜中に聞いたんですけど「嘘ぉ！」でしたよ。
井上　桜庭が『HERO'S』に行くっていう動機がわからなかったよね。
ガンツ　たまたま僕はその10日ぐらい前に、榊原元代表のインタビューをして「PRIDEウェルター級GPに桜庭を出したい」とか、そんな話を延々聞いてたんですよ。それだけに、「嘘だろ!?」っていうね。
井上　サクはそれが嫌だっていうのもあったんじゃない？　『PRIDE武士道』に行きなさい、みたいに感じて。
ガンツ　要は二軍落ちを通告されたみたいな感じで受け取っちゃって。
井上　それが耐えられなかったんじゃないかって。
ガンツ　バラさんは「そうじゃないよ。『武士道』も地上波ゴールデン放送が始まるし、サクは新しいものをずっと作ってきたんだから、今度はこっちで作ろうよ」って話したらしいんですけどね。
タコ　でも、当時の『武士道』やったら、どう考えてもナンバーシリーズより一枚落ちてたもんなあ。
井上　サクを入れて、当時赤字だった『武士道』を盛り上げたいという考えもあったんでしょう。
タコ　いろんな思惑があったんやろうね。
井上　たしか、あの年は無差別級GPもやってて、サクはウェルター級じゃなく

[2005.6.26 PRIDE GP 2005 2nd ROUND]
vs　ヒカルド・アローナ
中学生

GP2回戦に進出したサクは、中学生に進級。ヘルメットを被った自転車通学。蛍光テープ付き鞄と、いかにもな自転車がポイント。

[2005.12.31 PRIDE男祭り 2005]
vs　美濃輪育久
レイザーラモンHG

桜庭のPRIDEでの最後の試合。この年、大ブレイクしたハードゲイのコスチュームで登場。しかし、あっという間に脱いでしまった。

[2006.8.5 HERO'S]
vs　ケスタティス・スミルノヴァス
マクセルのCM

サクの『HERO'S』デビュー戦。この当時、サクが出演していたマクセルのコマーシャルふうに、DVDを持って登場。ずっとずっと。

[2006.12.31 Dynamite!!]
vs　秋山成勲
タイガーマスク二人

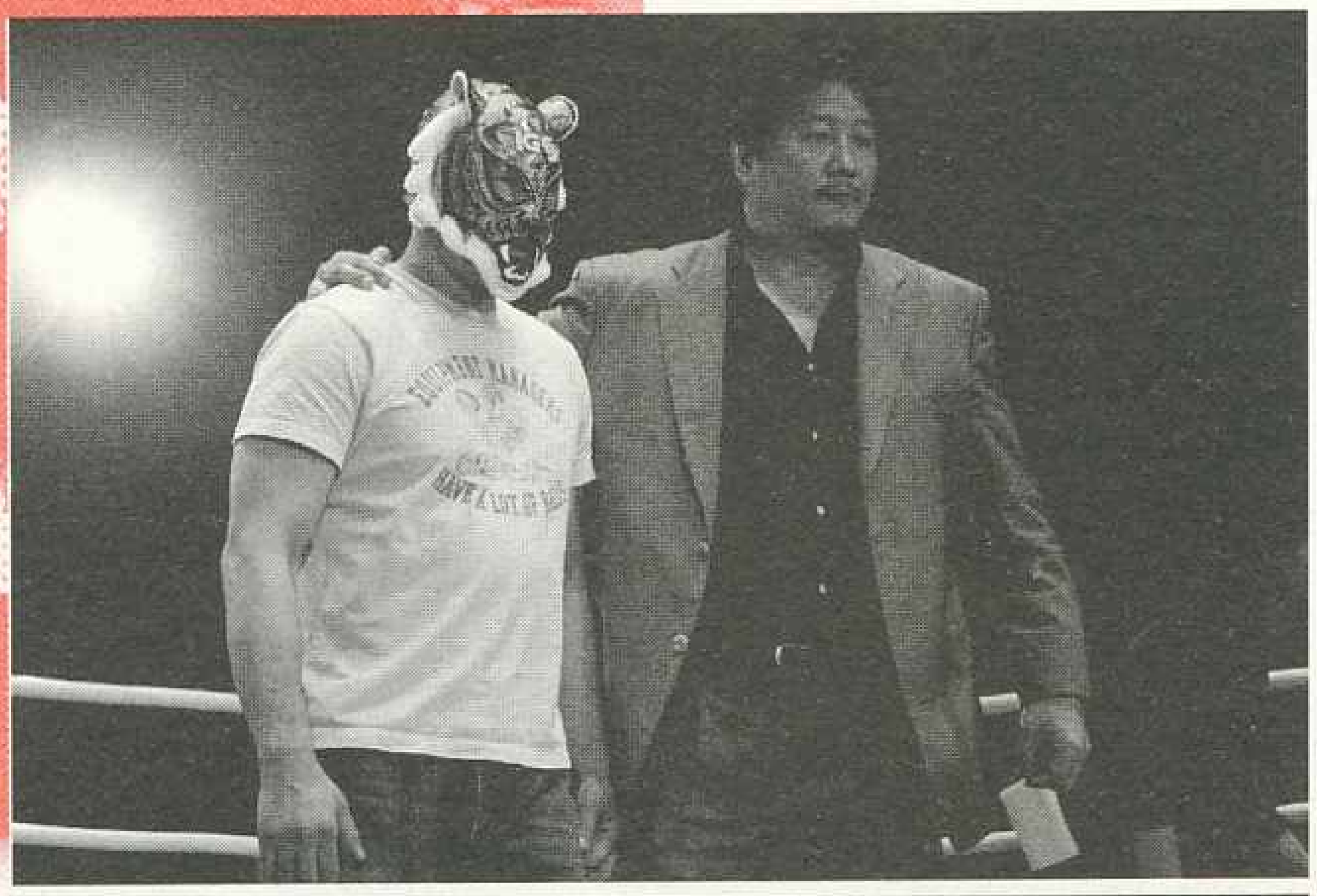
"ヌルヌル事件"があった秋山成勲戦。ブラジルのシュートボクセで柔術特訓を終えてきたサクは、阪神の下柳投手とともにタイガーで登場。

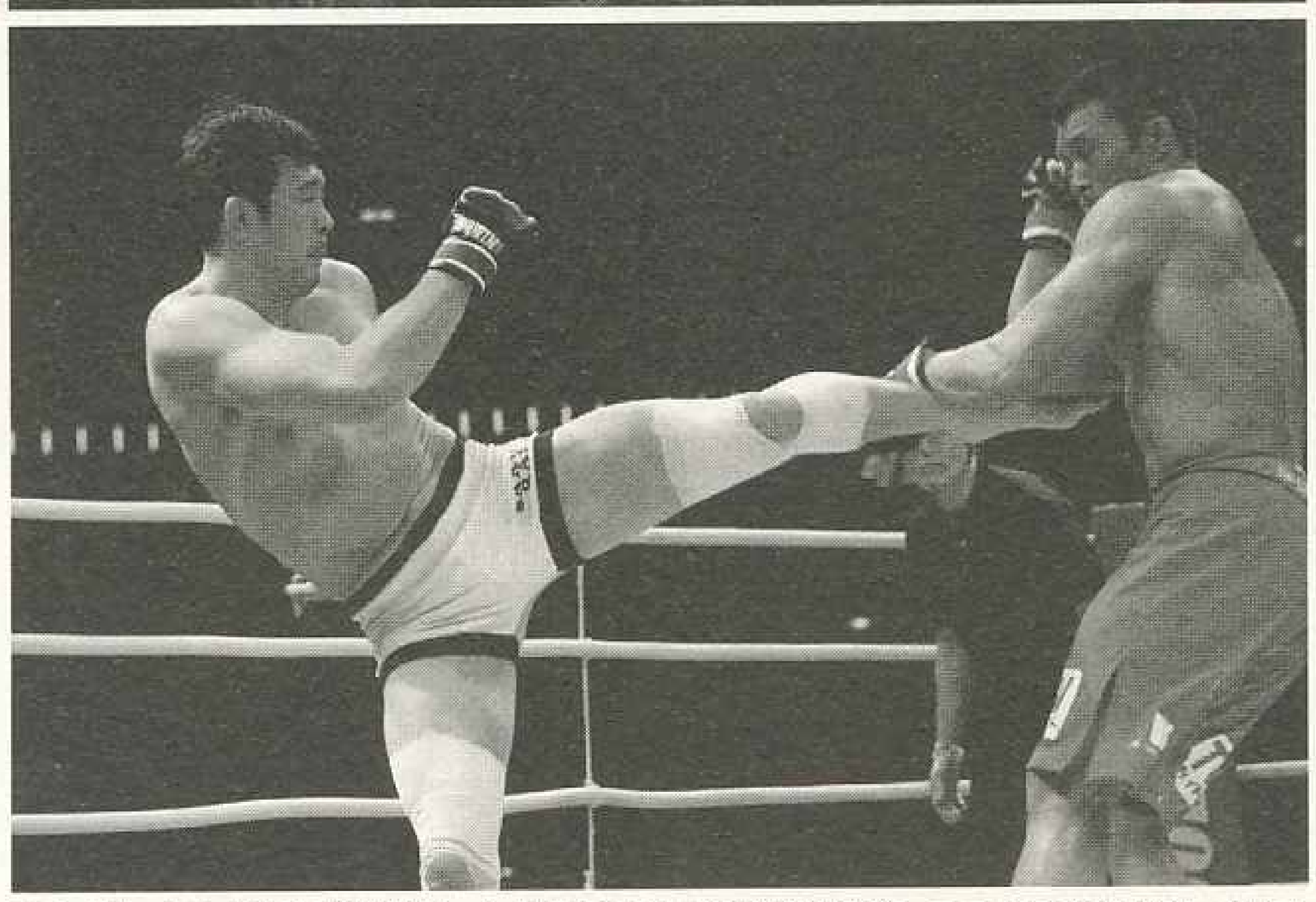
ホイス戦のように本気で感情移入する試合にもう一回でいいから立ち会いたい（ガンツ）

桜庭和志“変態”座談会

て、そっちに出たいって言ってたんだよね。そのとき、無差別級に出るなら相手は誰だって言われたんだっけ？　たしかひどい相手なんだよね。
ガンツ　一回戦でエメリヤーエンコ・アレキサンダーですよ（笑）。
一同　ガハハハハ！
椎名　ひでえ（笑）。
井上　そんな鬼のようなことをバラさんに言われたんだよね（笑）。
ガンツ　無差別ならアレキサンダー。ウェルター級GPのほうがいいでしょ？　っていう（笑）。
タコ　だから、あそこからPRIDEに残るサクっていうのも、なかなかビジョンが見えなかったから、『HERO'S』に移ったときは「また違う展開が見えてええんちゃう？」とも思ったんやけど……。スミルノヴァス戦やら、秋山戦やらで、PRIDEにおる以上に凄惨な目に遭うとは、まさか思わへんかったもんね。
井上　秋山戦のあと、的確な表現だなと思ったのが、浅草キッドの玉ちゃん（玉袋筋太郎）が言ってた「友人が外国に旅行に行って、現地で射殺されたような気分」っていうやつで。なんでそんな無法地帯に旅に行っちゃったんだっていうね。
タコ　その無法地帯も、どっちかっていうといいところにいい待遇で行ったはずやから、リゾート地に行ったのに射殺されたぐらいの感じかもしれへんな。
ガンツ　あまりにやるせない感じはありましたよね。では、いま桜庭和志はDREAMミドル級GP1回戦を突破しましたけど、これからのサクに期待することってなんでしょうか？
椎名　誰とやりゃあいいんだろうね。ヒクソン戦も時期逃したしね。
タコ　秋山と再戦っていうのは、してほしいと思いますか？
ガンツ　僕は秋山云々というか、もう一回、本気になって応援するような大勝負が観たいですね。みんなが全員「サク、勝ってくれ！」って思うようなカード。それが、いまでいうと秋山しかないとは思うんですよ。
井上　僕は、桜庭ぐらいの人なんで、本人のやりたいようにっていうか、自由にやってほしいっていうのはあるけど。ただ、やっぱり秋山戦は観たいよね。勝っても負けてもいいから、その大一番で燃え上がりまくりたいなって。
ガンツ　死ぬほど応援するシチュエーションにもう一回立ち会いたいですよね。
井上　そうそうそう！　それは桜庭がどうのじゃないよね。業界全体を見渡しても、そこまで感情移入して観るカードってないと思う。それこそ桜庭vsホイス戦のときのテンションになりますよ。
椎名　いいテーマだよね。それこそ、いろんなことを背負うだろうし。その秋山戦でまた、ストロングマシンみたいなパフォーマンスで出てきたらしびれるだろうしね。
タコ　ここ数年の入場パフォーマンスはかなり微妙やったけど、それは乗れるなあ。
椎名　だけど、入場じゃなくて、公開練習とかでやるギブスとかのギャクはけっこう好きだよ。常にブラックなことやるじゃん。そこが好き。もちろんハズすこともあるけど（笑）。
井上　でも俺思うんですけど、スーパースターってギャグとかキレまくってちゃダメだと思うんですよ。
タコ　それは俺も常々思ってる！　スーパースターって、言うたらKYなわけやんか。それは猪木さんのダジャレもそうやし、前田がバラエティ番組に出たりすると、観てるこっちがヒヤヒヤするじゃないですか。
椎名　確かにね。テレビ消したくなる（笑）。
タコ　そんな場の空気読んで的確なこと言うてるヤツは、スーパースターじゃないんですよ。
井上　だから、ボクなんかギャグセンスがあるのがコンプレックスですもん。
一同　ガハハハハ！
井上　「今日も凄い笑わせちゃった」みたいな。
椎名　スーパースターにはなれねえなって（笑）。
井上　「そこがダメなんだ」って家で落ち込みますもん、一人で。
タコ　「なんでおもしろいんだ、オレは」って（笑）。
井上　「今日も冴えまくった！　何人笑わせたことか……」みたいな（笑）。
ガンツ　というわけで、我々、変態はスーパースターにはなれないということで、今日はお開きにします！　また次回をお楽しみに〜。

【08年5月2日／『リビングバー新宿』にて収録】





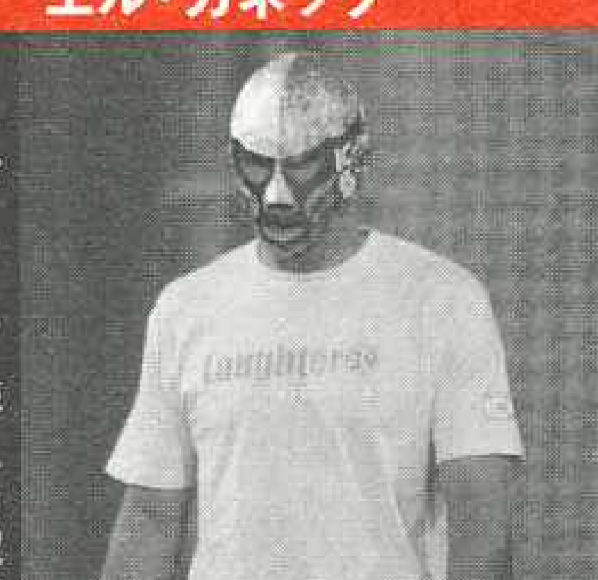
06年5月、あまりにも衝撃的だった『HERO'S』への突然の移籍。ここから帝国と化していたPRIDEが徐々に崩壊していった（写真・上）。同年大晦日の秋山成勲戦では忌々しい“ヌルヌル事件”が発生。格闘技界に暗い影を落としたこの一戦が、リング上で決着をつける日はくるのか？

【07.3.12 HERO'S】
vs　ユーリー・キセリオ
マスクド・スーパースター



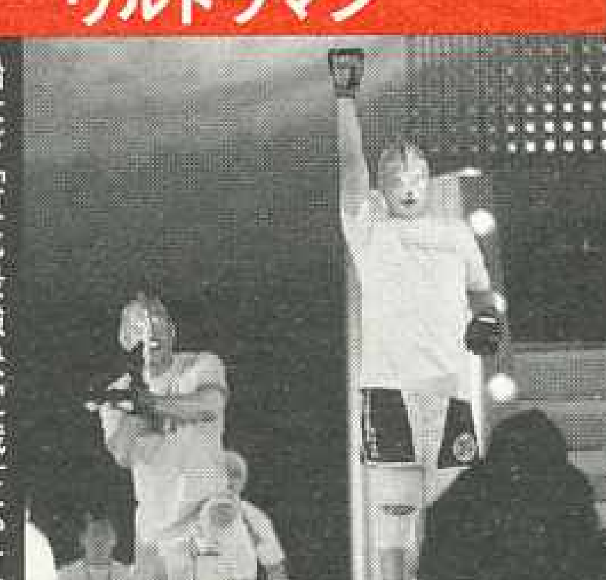
ヌルヌル事件からの復帰戦。サクは「今回は自分は主役ではない」という意味合いから“名脇役”マスクド・スーパースターで登場。

【07.9.17 HERO'S】
vs　柴田勝頼
エル・カネック



M・スーパースターから続く“名脇役”シリーズの第二弾としてエル・カネックで登場。しかし、もちろん敵前逃亡はせず。

【07.12.31 Dynamite!!】
vs　船木誠勝
ウルトラマン



船木が「東北最強決定戦」にかけて「ねぶた」マスクで登場に対し、ブラジル帰りのサクは下柳投手とともに「帰ってきたウルトラマン」。

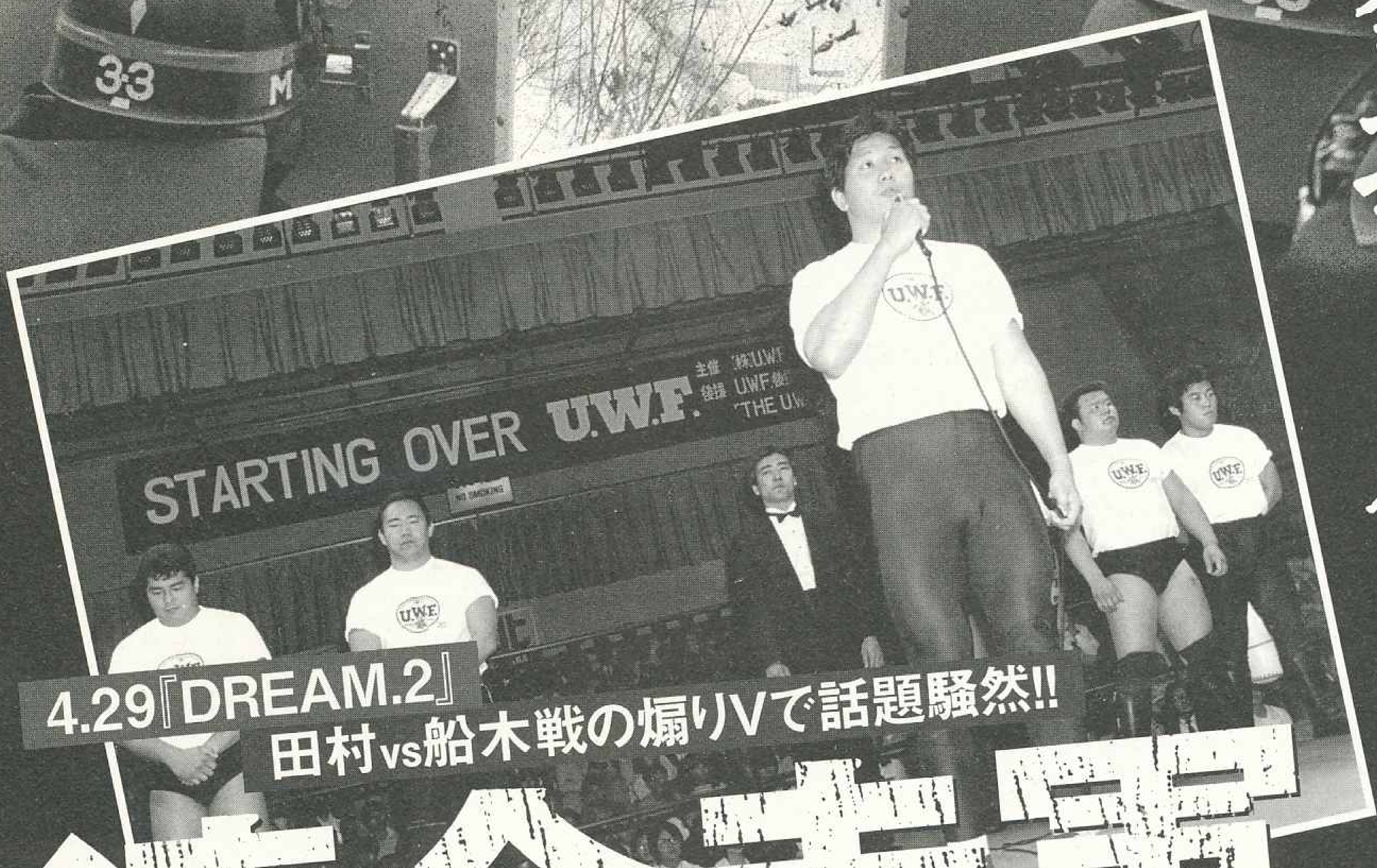
【08.4.29 DREAM.2】
vs　アンドリュース・ナカハラ
ストロングマシン



サクのDREAM第一戦は、あのホイス戦を彷彿とさせるマシン増殖で登場。DREAMと書かれたマスクにサクの思い入れが伝わる。



〝狂った季節〟とは何か?



4.29『DREAM.2』田村vs船木戦の煽りVで話題騒然!!

連合赤軍とUWF

「狂った季節」。4.29『DREAM.2』田村vs船木戦の煽りVは、狂信的な集団としてのUWFと連合赤軍が対比された度肝を抜く出来映えで大きな話題となった。だが、そもそも連合赤軍とは、UWFとはなんなのか? “狂気”の集合体の真実を探る!



新右翼の活動家が語った

UWFの革命と内ゲバとは？

マット界刮目！ これはUだけの話ではない!!

鈴木邦男

右翼団体『一水会』の顧問であり、かつてUWFを学生運動とシンクロさせて語っていた重要な論客でもある鈴木邦男氏が登場！ 全共闘とUWFを目撃してきた鈴木氏にその革命と内ゲバの歴史をズバリ直撃！

聞き手/ジャン斎藤

少人数の革命運動は、そのベクトルがドンドン内に向かっていくんです

――今日は、『DREAM・2』で話題になったUWFと連合赤軍の件でお話をうかがいたいんですが……。

鈴木 （さえぎって）いや～、あの映像にはビックリしたねぇ！ あの映像を作った方はいくつぐらい？

――佐藤大輔さんといって、30代前半の方ですね。

鈴木 じゃあ、学生運動世代じゃないね。学生運動に憧れてる世代って感じでもなさそうだけど。

――非常に格闘技に愛がある人で、田村潔司vs船木誠勝戦をどうやっていまのファンに伝えることができるかを丹念に取材して出た結論が〝狂った季節〟というコピーと全共闘だったみたいで。

鈴木 「狂乱の時代」とかね。よくあの内容でテレビ局は納得しましたね。あの映像を流したこと自体、革命ですよ！

――ガハハハハ！ ただ、PRIDEから格闘技を見始めたような人は、UWFはもちろん全共闘との関連性はわからないと思うので、かつてUWFを学生運動と対比して語っていた論客であり、新右翼の活動家である鈴木さんにお話をうかがえればと思います。

鈴木 わかりました。あの～、連合赤軍の起源である学生運動も、UWFの起源である猪木プロレスも、大衆が相手だったということが重要なんですね。それなりに市民権があったんですよ。

――確かに大衆を巻き込んでましたよね。

鈴木 異種格闘技戦みたいに、敵を外へ求めていたし、大衆の視界に入るドラマチックな闘いをしていた。それで一方、学生運動の起点となった安保闘争（日米安全保障条約改定をめぐる反対運動）は日本とアメリカが軍事同盟を結んで一緒にやっていくか？ 中立になるか？ というときに「アメリカと一緒じゃ嫌だ！」って学生たちが左翼運動を展開したんです。そこで懲りたから70年安保は政府が必死になって潰した。それで学生運動の連中はほとんどいなくなっちゃった。

――学生運動も60年代ほどの勢いはなくなってきた、と。

鈴木 69年の東大安田講堂事件（★注1）が最後くらい。それまで東大闘争とか日大闘争とか早稲田闘争とか、全国の大学でストライキがあって、何万人規模というデモをやるんです。60年代の闘争は、毎日のように何百人、何千人単位で逮捕されてるんだから。

――まさに大衆を巻き込んでなかったら、実現できない運動ですね。

鈴木 でも、70年代を前に壊滅してしまったし、安保自体が通ってしまったから、そのあとほとんどの活動家は故郷や学校に帰ったり、就職したんです。ところが、70年3月に赤軍派（連合赤軍とは別の組織）による、よど号ハイジャック事件（★注2）が起きた。それでみんな「左翼って残ってるんだ！」とビックリしたんです。

――そんな時期の大事件だったんですね。

鈴木 ただし、右翼も左翼も、60年代のように大衆の動員はできなかった。そこで

彼らが少ない人数でやれることは何か？って考えた結果が、よど号ハイジャック事件や70年11月に起こった三島由紀夫事件（★注3）になったんです。そういうふうに小人数で社会に衝撃を与えるなら、より過激にエスカレートするしかない、と。その流れの中で72年に連合赤軍事件が起きるんです。

──煽りVでも大フィーチャーされた、あさま山荘事件（★注4）ですね。

鈴木 連合赤軍も、やっぱり小人数で山に登って「革命を起こすんだ！」と。

──UWFも既存のプロレスの転覆を目論んで。

鈴木 ただし、少人数だと一人一人の革命性が凄く問われてくるよね。ドンドン内へ向いてくるわけです。それまで60年代なんかは、デモでも1万人以上いたから、いいかげんなヤツはドンドンやめてもかまわなかったんです。ところが70年にはほんの20～30人しかいなくなっちゃった。人里離れた山中で闘いの拠点を作ると、ベクトルが内に向いて、「革命家として我々は妥当か？」とか、指輪してるだけで「ブルジョワ的だ」とか責められたり。

──「山荘にスキーウェアで来たから」って理由だけで、批判されたらしいですし。

鈴木 何やったって文句言われるんですよ。僕の知り合いで連合赤軍事件で27年間刑務所に入ってた人がいるんです。植垣康博さんという人ですが、彼に聞いたら、連合赤軍リーダーの森恒夫（★注5）は、他人の欠点を見つける天才だったらしいんですよ。

──イヤな天才ですね。

狂った季節とは何か？
連合赤軍とUWF

鈴木 ただ、僕らも学生運動のとき、同じ考え方の人間が集まると、「おまえよりこの点で優れてる」とか言い合ったし、右翼は、「俺は天皇のために、いつでも共産主義者を殺して死んでやる。そんな決意はないだろ？」とか。左翼は「俺は革命的な決意があるが、おまえはまだブルジョワ的な精神が残ってる！」とか、みんなでけなし合うわけです。で、批判されるほうも逃げればいいんだけど、なぜか逃げないんですよね。

──まさに自己内面との闘いなんですね。

鈴木 あさま山荘事件のときも、行く前に逃げた人は何人もいるんです。そういう人たちは「俺は正しかった！」と表舞台に出てきてもいいはずなのに出てこないのは「自分は脱落した……」と思ってるんですよ。山荘に行ったヤツらは突き詰めたのに、自分には勇気はなかった、卑怯者だと思ってる。

──本誌にも登場していただいているドキュメンタリー作家の森（達也）さんも一時期、学生運動から逃げたらしいですね。だからうしろめたさがあるって。

鈴木 そういう挫折感はあったでしょうね。話を戻すと、UWFの原点である猪木プロレスは明るくて大衆受けをしていた。ボクサーや柔道家を呼んできたり、ほかのジャンルに敵を見い出して、「プロレスが最強！」と叫んだ。内部より、外や世間に目が向いてたから、そこは60年代の学生運動と同じなんですよ。

──なるほど。

鈴木 それがUWFの時代になると、今度は連合赤軍みたいに非常に閉鎖的な集団になって、目がドンドン内に向く。猪木

“UWF革命”の志士たち



木戸修
ゴッチの薦めもあって第一次UWFに参加。グラウンド技術を開花させ、公式リーグ戦では優勝もはたした、生粋のいぶし銀レスラー。第一次UWF崩壊後は、新日本プロレスの中堅として活躍。現在はアパートを経営。



藤原喜明
前田との関係から新日本プロレスより第一次UWFへ。カール・ゴッチ直伝の技術で活躍し、指導も務めてUWFを支えた“関節技の鬼”。第二次UWFには船木&鈴木と途中参加。解散後は藤原組を旗揚げ。現在はフリー。



佐山サトル
初代タイガーマスクを人気絶頂で引退。第一次UWFで格闘スタイルやルールを提唱していくが、内部の反発を呼び、前田とのケンカマッチにまで発展して退団。その後、修斗を創設。現在は掣圏真陰流協会会長。



前田日明
第一次、第二次UWFを通じて格闘技色のプロレスを標榜したリーダー。総合格闘技の起点を作ったが、第二次UWF解散後は疎外され、一人でリングスを旗揚げ。現在は、不良を集めた大会『THE OUTSIDER』主宰。



安生洋二
第一次UWF、第二次UWFに参加したが、宮戸とともに前田に反発してUインターを旗揚げ。99年にはリングスとの確執から会場で前田を背後から襲う“襲撃事件”も起こす。現在は、ハッスルでアン・ジョー司令長官として活躍。



宮戸優光
第一次UWFでプロデビュー。第二次UWFに参加したが、第二次UWF解散時に前田体制に異を唱え、分裂の要因となる。Uインターでは“Uインターの頭脳。”としてフロントで活躍。現在は、『U.W.F.スネークピットジャパン』ジム代表。



山崎一夫
佐山とともに第一次UWFに参加。第二次UWFでは旗揚げ戦で前田とシングル戦を行なうなど、“前高山”と呼ばれる3強の一角として活躍。崩壊後は髙田らとUインターに参加。現在は試合解説や整体治療院を経営。



髙田延彦
藤原と第一次UWFに参加。第二次UWFでは準エースとして活躍も、崩壊後は“兄弟分”前田とたもとを分かち、Uインターを旗揚げ。“黒船”ヒクソン・グレイシーに歴史的敗北もPRIDEの扉を明けた。現在はハッスルなどで活躍。



田村潔司
第二次UWF、初の生え抜きレスラー。だが5試合目で前田と対戦時に、ヒザ蹴りで眼窩底骨折し1年間欠場する洗礼を浴びる。崩壊後はUインターで実力を開花させていく。現在は、Uの意志を継ぐ『U-FILE CAMP』ジムを主宰。



鈴木実（現・みのる）
新日本プロレスの若手だったが、“盟友”船木と第二次UWFへ移籍。上下関係の厳しいUWF内でもものおじしない態度を貫いた。解散後は船木と行動をともにし、理想の団体パンクラス設立。現在は、フリーとして活躍。



船木誠勝
新日本プロレスの次代のエースと期待されるも、海外遠征中に第二次UWFに移籍。UWFの急進派だったが真剣勝負を上層部に拒まれ、第二次UWF解散後は藤原組を経て、パンクラスを設立。現在、DREAMにて現役復帰。



中野龍雄（現・巽耀）
ラッシャー木村に憧れ、第一次UWFに入門した変わり種の無骨ファイター。第二次UWFで突進ファイトが注目を浴び、とくに博多で“博多男”と呼ばれる人気者に。第二次UWF解散後はUインターで活躍。現在は、フリー。



1969年の東大安田講堂事件。60年代に全国へと波及した学園紛争は、最盛期に都内で55の大学がバリケード封鎖など大衆を巻き込んだが、闘争が次々と敗北したことで学生のあいだではシラケが進行、逆に一部は急速に過激化&武装化し、やがて連合赤軍という怪物を生む。

前田と佐山の温度差はあったけど、UWFは肉体を使った政治闘争だね

的なプロレスを否定して「そんなのはインチキだ」「大衆受けを狙っちゃいけない」とか。だから連合赤軍もUWFも真面目なんですよ。それで、自身の資質をずっと考えて「飛んだり跳ねたり、ロープに跳んで戻ってくるのもおかしい」とかね。

──「ロープに戻ってくるなんて、ブルジョワ的だ」と(笑)。

鈴木 まさに共産主義者のように、「格闘家とは何か?」と自問自答していく。そういう突き詰めた考え方のUWFを牽引した佐山(サトル)とか前田(日明)はある種、パンドラの箱を開けちゃったんでしょう。だから、見ていて息苦しかったですね。

──熱狂しながらも。

鈴木 煽りVにも映っていたけど、当時のファンは「いままで俺たちが観てたのはウソだった!」とか「これがホントの格闘技だ!」とか、洗脳されるムードがあった。試合がずっと膠着しても、「わかんないけど凄いことが起きてる。わかんない俺たちがバカなんだ」と変わってきた。

──とくに第二次Uって試合はつまらなかったですけど、革命への熱狂だけで押しきっていた印象はありますね。

鈴木 「自分たちはUWFから教わってる」って感じで、ある種の教科書だったんでしょう。実際、僕もそう観てましたし。

──ただ、連合赤軍もUWFもホントに「革命ができる」と信じてたんですか?

鈴木 う~ん。思ってたんじゃないですか。煽りVにもあったけど、「もしかしたら今日この場で人が死ぬかもしれない」とか。凄いこと考えてたよね(笑)。そこを期待して来てるんだもん。歴史の証人になるかもしれない、とか。単なる格闘技の話じゃない、世界的な革命の縮小された場だと思ったんでしょう。同じように、連合赤軍も命を懸けてたんですよ。実際、人も殺してるし、「単なる山の中の小さな争いじゃない。全世界の歴史を背負って自分たちは闘ってる!!」と信じてたんでしょう。それに煽りVで前田も言ってたけど、UWFも練習生が死んでるわけですよね。いままであういうことって言わなかったんじゃない?

──ええ。一回だけ雑誌のインタビューで言ってましたけど。

鈴木 あれは「よく言ったなあ」ってビックリしましたね。昔はタブーだったけど、いまは「命を懸けていた」と証明するためにあえて出してる感もある。まぁ、人によって温度差はあるだろうけど。前田と佐山にも温度差もあったし。

──UWFを生み出したその二人とも革命家っぽいですね。前田はロベスピエール(マクシミリアン・ロベスピエール、フランス革命期の政治家)って言われてましたし(笑)。

鈴木 古舘伊知郎が作ったんでしょ。〝黒髪のロベスピエール〟だっけ(笑)。

──いま考えるとハマッてますよね。ドン中矢ニールセン戦にしても、アンドレ・ザ・ジャイアント戦にしても、抗争や陰謀のイメージがあるし。

鈴木 うん。だから前田はどこまでいっ

ても格闘技というより政治闘争だよね。やっぱりUWFは肉体を使った政治闘争だったんですね。その佐山も政治的な方向に行っちゃったし、二人とも極右になっちゃったよね。僕なんかとっくに超えられたよ！

――ダハハハハ！

鈴木　とっくに超えられてます。佐山も前田もたまに会うと「鈴木さんはダメだ！」と言われるから。まぁ、二人とも完璧にイデオローグ（思想家）ですよね。思想があったからこそ、あれだけのものができたし、もの凄く本を読んでる。だから、あの二人が仲が悪いのは不思議もあるんだけど。

――同族嫌悪ってことですかね。

鈴木　まぁ、そこも内ゲバですよ！

――ダハハハハ！　思想を求めて似た人が集まると逆に内ゲバが起こってしまう、と。しかし、大衆を巻き込まないといけないという点では、UWFも運動体としては巨大ですね。

鈴木　それとメディア的にはターザン山本さんが『週刊プロレス』（ベースボール・マガジン社）でUWFを応援したのは大きかったよね。「これは単なる格闘技じゃない！　政治路線だ！」と煽ってましたから。彼は学生運動の直撃世代じゃないですか？　それか近い世代でしょ。

――山本さんはいま62歳ですから。やや乗り遅れた感はあったかもしれないですね。

鈴木　で、山本さんが『週プロ』でUWFを政治的にガンガン煽って、プロレスラーも「俺たちは明治維新の志士なのか？」「黒船に驚いた坂本竜馬なのか？」とか、徐々に洗脳されていったんじゃない？　メディアは勝手に言ってたけど、本人たちはそんな意識ないんじゃないかなって。でも、そうやって煽るのは、学生運動あがりが多かったかもしれない。

UWFをメディアで煽ったのは、学生運動あがりが多かったかも

――学生運動の怨念をぶつけていたというか。

鈴木　昔は映画雑誌でもヤクザ映画を論じながら、映画の筋も書かないで、「これは革命だ！」とか。革命運動に引き寄せて書いてる文章がよくあった。それがプロレスメディアに移行していったんでしょう。ただ、現実に運動をやっていた人たちはそういう書き方はしないけど。

――学生運動に幻想がある人の代替行為だった部分もあるんでしょうね。

鈴木　やめたとか、追い出されたとか。そういう人がライターになって。運動家崩れや、若い世代が憧れて書いてるとか。学生運動はないから、映画の世界に運動の熱を見ようとか、プロレスの世界に見ようとか。

――当時のプロレスマスコミや関係者もUWFに失望や挫折をして、ガチガチの格闘技原理主義者になった人がけっこういるんですよ。いまだに引きずってる人が多くて、そこは似てるなと思ったんですけど。

鈴木　そういう意味でUWFは一つの宗教革命でもあったよね。僕はミッションスクール（キリスト教主義学校）だったからわかったけど、マルティン・ルターとかが、宗教改革で「いままでのキリスト教は全部インチキなんだ！」とか、「免罪符は金で買えた。だから金で罪は許された。そんなのがキリスト教か！」って批判をして作ったのがプロテスタント（★注6）ですね。

――まさにUWF的な改革派ですよね。

鈴木　ところが！　そういう批判を展開してプロテスタントを作ったんだったら、いまのキリスト教は、すべてプロテスタントになってるはずなんです。でも否定されたカトリック（★注7）もいまだに残っていて、しかもずっと大きい規模じゃない？　なぜかというと、プロテスタントは正しかったかもしれないけど、凄く偏狂的だったんですね。指導者の（ジャン・）カルヴァンの本なんか読んでると、とにかく徹底的に悪を追求する天才なんですよ。つまり、森恒夫なんですよ。

――ガハハハハ！　またもやイヤな天才。

鈴木　そこで「まあ、いいじゃない」って感じで、おおらかなのがカトリックなんですよ。プロレスだってUWFができるまでは、「流血で血ノリを使ってるかもしれないけど、まぁいいじゃないか」ってところがあったでしょ。

――わかっちゃいるけど、仕方ない、と。

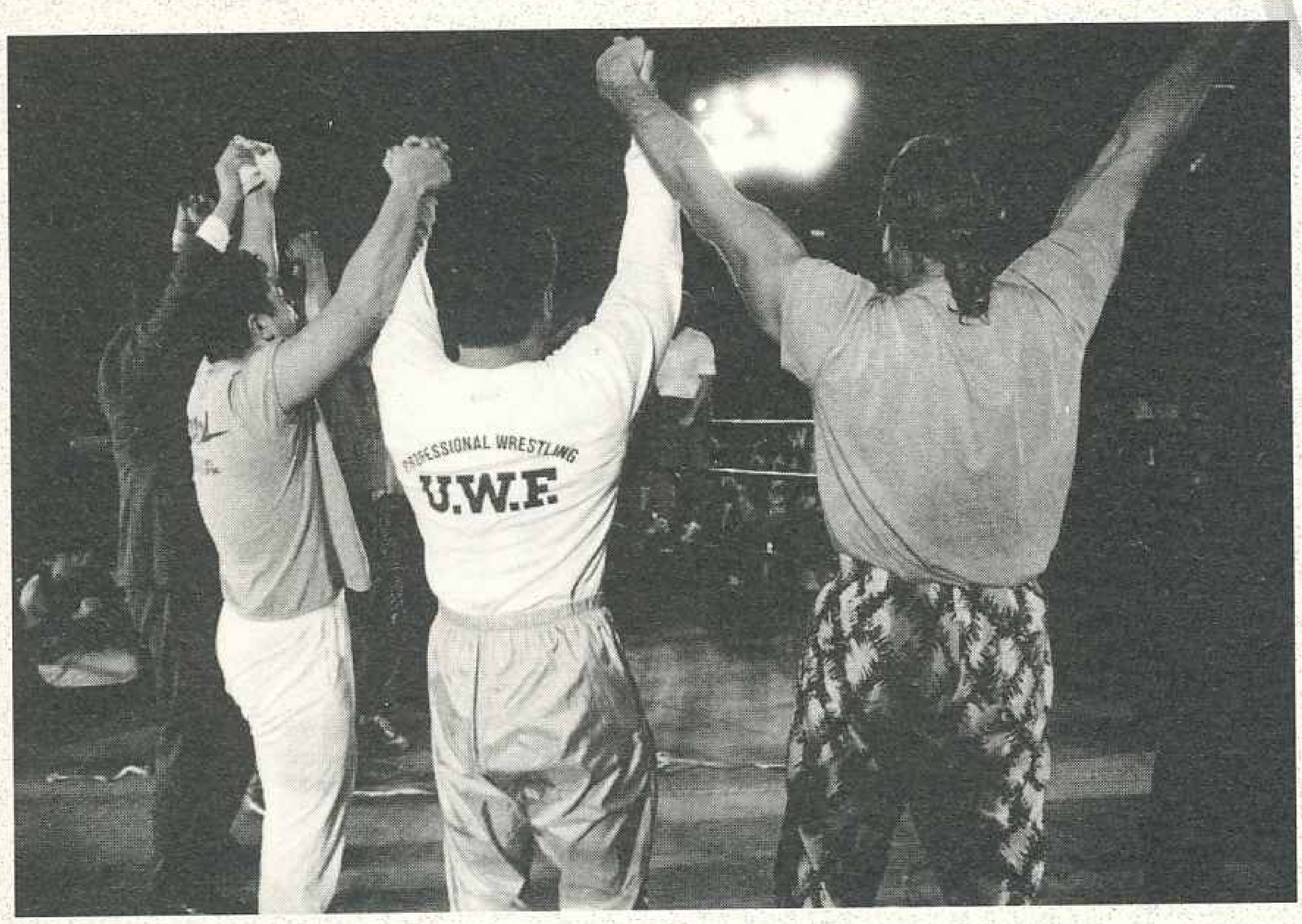
鈴木　それがUWFでは、「そういうおおらかさが許せない」となった。だからドンドン試合も過激になっていったんです。

――分裂するのもうなずける話ですよね。たとえば髙田（延彦）とかは完全にスポーツマンノリですから。そりゃ、前田とは合わないですよね。

鈴木　本来、前田は大学の先生や、評論家や政治家になるべきでしょう。でも、そういう世界にいたら、単なるワン・オブ・ゼム（その他大勢）なんでしょう。須藤元気さんと対談して感じたことなんだけど、須藤さんの主張は「世界は一つだ」とか反戦平和的でしょ。前田、佐山とは逆じゃないですか？

――考えたこともなかったですけど、そういえばそうですね（笑）。

鈴木　で、須藤さんは、「自分が学者や評論家になったり、『朝まで生テレビ』に出て発言してもワン・オブ・ゼムだし、裏づけがないから誰も納得しない。でも格闘技は勝負がつく」と。彼は勝負がついた上で、「ウィー・アー・オール・ワン」とメッセージを出してたでしょ。「だから説得力



第二次UWFは、金銭問題に発するフロント陣と選手の溝から、前田と神新二社長が対立。1990年12月の長野大会で、船木の呼びかけで前田と全選手が勢揃いして一致団結をアピールも、興行は二度と開催されることはなかった。





があるんだ」と。それは感心しましたね。だから、主張は違うけど前田や佐山もそういう部分があるかもしれない。実際、佐山は選挙に出たしね。

――出ましたね。「暴走族を撃ち殺せ！」っていう名フレーズを掲げて。

鈴木 それで当選しても、一人の政治家としてワン・オブ・ゼムですから。その点、格闘家は結果が出せるし、その上で発言すると説得力がある、と。それってまさに肉体言語ですね。

――なるほど。プロレス団体っていうのはトップに理論家がいないと、なかなか熱を帯びてこないもんですね。

鈴木 そこは思想ですよ！ 単なるおもしろがり屋じゃあダメだし。最終的には思想を持ってる人が勝つと思います。というのも、いまは情報がパソコンでなんでも手に入るけど、自分の考え方がないでしょ？ 若手の評論家の本を読んでも、情報を交通整理するのはうまいけど自分がないんです。なぜなら闘った体験も思想もない。全共闘世代ならみんな捕まったことがあるし、そういう体験が思想として血肉化してるじゃない。

――佐山とか前田は、血肉化してる感じがありますね。

鈴木 そういう意味では思想的にも強いんじゃないですかね。まぁ、プロレスとか格闘技は存在があやふやなジャンルだから、選手は「自分は何者なのか？」って考えさせられるんじゃないですか？ 趣味でスポーツやってる人は、健康のためとか、目的意識がハッキリしてるけど、格闘家って一般社会では闘っちゃあいけないから、「擬似戦争を俺たちが代理してるんだ」みたいな部分がある。

――「ぶっ殺してやる！」なんて普通の会社で言えないですから。

鈴木 その場でクビだよね（笑）。唯一許されているのが格闘家なんだけど、社会



「狂った季節」をキーワードに会場、PPV、地上波放送でもほぼ同じ状態で流された約7分にわたる田村vs船木戦の長編煽りV。「格闘技を食えるようにしたのはUWF」とゴッドファーザー・前田日明が葉巻をふかし練習生の死を語り、田村の道場でのシゴキの様子の独白に加えて、連合赤軍や学生運動の映像がオーバーラップ。UWFの理想と現実、異様な熱と内ゲバの歴史が浮き彫りになった。

猪木が共産党なら、UWFは新左翼 急進派の連中は過激になっていく

的には非常に矛盾した存在なんです。昔の侍なら、正統な理由があったら斬り殺しても無罪だけどいまはありえない。そういう意味で、格闘技は脈々と受け継がれる日本文化なんだろうけど。突き詰めたら内向きになるじゃないですか？

――それで、内向きにならない運動するには、やっぱり大衆性が必要ですよね。

鈴木 そう。猪木のように割りきってプレイするとか（笑）。でも、それが若い世代には納得できなかったという歴史ですね。だから猪木が共産党とすれば、UWFは新左翼でしょう。共産党は、「警察に捕まらないように、合法的にデモをやろう！」という政治的で常識的な部分もあったけど、急進派の新左翼の連中は「石を投げて火炎瓶投げて、捕まってもいいから激烈なデモで大衆を目覚めさせるんだ！」と過激になっていく。連合赤軍はもともと赤軍派と京浜安保という組織が合体して生まれたんですけど合体する前にトンデモないことをやってたんですよ。赤軍派なんか資金集めで、銀行ギャングや郵便局ギャングをやったりして、全部成功してるんですよ。

――確かにトンデモないですね。

鈴木 しかも実行部隊は包丁1本で銀行に行ってるんですよ！ でも、当時はガードマンもいないし、防犯カメラもなかったから包丁1本でも気合いがあれば制圧できる、と。

――それは歯止めが効かなくなりますね。

鈴木 もう一つの京浜安保も栃木県の猟銃店を襲って銃を片っ端から盗んでる。あさま山荘事件で使われた銃は、その銃ですから。で、片方は銃がある、片方は金があるので、合体したら鬼に金棒で一緒になった。ただし、考えてみりゃ学生ですからね。犯罪のプロじゃないから。たまたま成功して、その経験から学んでるんですよね。

――綿密な計画性があったわけじゃないんですね。鈴木さんは、以前に著書でこういった運動を指して、「日和見が必要だ」っておっしゃってましたけど。

鈴木 つまり第三者の存在ということですね。連合赤軍のように組織内部で批判

★注1＝東大安田講堂事件
1969年1月18日、19日、前年に東大の医学部学生が「インターン制度に代わる登録医制度」に反対したことに端を発し、全学共闘会議が不法占拠していた東大本郷キャンパスを警視庁が封鎖解除を行なった事件。

★注2＝よど号ハイジャック事件
1970年3月31日、共産主義者同盟・赤軍派は9人のメンバーで日本航空のボーイング727「よど号」のハイジャックを敢行。犯人グループは希望とおりに北朝鮮に亡命した。日本初のハイジャック事件。

★注3＝三島由紀夫事件
1970年11月25日、作家・三島由紀夫が自身の組織「盾の会」メンバーを引き連れ、陸上自衛隊東部方面総監部に立てこもった。三島はバルコニーへ出て自衛官蜂起の演説を行なうも、最後は刀で割腹自決。

★注4＝あさま山荘事件
1972年2月19日より、長野県の「浅間山荘」にて新左翼武装戦闘組織・連合赤軍のメンバー5人が10日間にわたって立てこもった事件。2月28日に警察が強行突入、その模様がテレビで生中継され全国に衝撃を与えた。

★注5＝森恒夫
大学時に学生運動の道へ。連合赤軍を結成し、総括と称する暴力行為で、メンバーの永田洋子と独裁体制を引き、12人の同志を殺害する山岳ベース事件を指揮。1972年に逮捕、翌年に独房で首吊り自殺。

★注6＝プロテスタント
マルティン・ルターの宗教改革から生まれたキリスト教各宗派の総称。ルターの改革運動はローマ・カトリック教会の刷新運動だったが、それらの神学思想が伝統的な教理と対立、カトリックから分派した独自の教会が乱立した。

★注7＝カトリック
ローマ教皇を中心とする、伝統的なキリスト教の最大教派として知られる、ローマ・カトリック教会の略称。現在のキリスト教の総信徒数は18億人以上とされるが、そのうち10億人はカトリックの信徒とされる。

★注8＝新撰組
江戸幕末期、京都などで、反幕府勢力弾圧や警察活動に従事した浪士集団。旧幕府軍の一員として戊辰戦争を闘った。ドラマ、映画の素材として人気があるが、内規に反し、粛清された者も相当数にのぼる。

し合うのは、企業の研修でもあるんですよ。いまはあまりないかもしれないけど、飢えさせてギリギリまで人間を追い込んで忠誠心を試したり。自分の欠点を言い合わせて、悪い点を直すとか。でも、べつに殺しも殴りもしないから、ホントの地獄じゃない。ただ、それが大学の中とか、マスコミの前なら殺し合いにならないけど、山の中で誰もいないんだから……。



厳しい上下関係だったUWFだが、安生と宮戸は第二次UWF崩壊後に前田体制を非難し、解散の起点となった。安生はその9年後、リングスとの交渉トラブルの末、前田をUFC-Jの会場で背後から襲撃。まさにUWFは分裂と内ゲバの歴史である。

UWFは一人一人が革命家だった でも組織に思想家は一人でいい

——だからこそストッパーになるような第三者が必要だ、と。前田の長州顔面蹴り事件のときの髙田延彦のように（笑）。

鈴木 ああ、確かにそうだよねぇ～。

——マサ斎藤と一緒に止めてましたから。

鈴木 しかも、連合赤軍ではそういう粛正の雰囲気になると、森恒夫とか永田洋子とかトップ連中がやったんじゃなく、むしろ下のほうから「こいつをやれ！」って盛り上がるらしい。

——第二次UWFに真剣勝負を求めて暴走した船木や鈴木みのると同じですねぇ。

鈴木 だから連合赤軍の内情は、組織の中の小さな戦争なんだよね。戦争って軍隊の中で裁判があるでしょ。軍隊の中で刑務所もあるから、もう小さな国家なんだよ。国家内国家だ。連合赤軍も内部で裁判して、処刑したりする国家なんです。だから自分たちでは、内ゲバって意識はないんでしょう。

——お話を聞いて思ったのが、以前に安生（洋二）が前田を背後から殴ったとき（99年11月14日）も、絶対に許されるべきじゃない事件なのに、UWFという国家の中の事件としてのムードが確実にありましたね。

鈴木 UWFも結局、一人一人が革命家になっちゃったんじゃない？ だから組織に思想家は一人でいいんじゃないですか。あとは命を預ける兵隊がいっぱいいればいい。船も船頭を多くしちゃったらヤバイじゃないですか。

——ただ、こうしてお話を聞くと、UWFや連合赤軍みたいな狂気はジワリジワリといまも続いてるんだなって思いますね。

鈴木 やはりね、時代がすぎればすぎるほど伝説になるんじゃないですか？ いまは人気のある新撰組（★注8）だってじつは内ゲバで滅んだんです。英雄みたいに言われてるけど、自分たちの内ゲバで殺した人のほうが圧倒的に多いんだよね。だって、僕らが子どもの頃は新撰組なんては、ただの悪党扱いですからね。だから、今回の煽りVを観て思ったのは、「連合赤軍も新撰組になるんだな」と。

——時代、時代によって違うんですね。

鈴木 連合赤軍も、もう50年ぐらい経ったら新撰組みたいにNHKの大河ドラマになるかもしれない（笑）。でも、連合赤軍も事件の直後なら、あんなビデオにならないよね。あの映像を革命といったのはそういうことです。だって、いまだってオウム事件と絡めてはやれないでしょ？

——さすがにやれないですね。

鈴木 だからUWFも伝説になりつつあるのかもしれない。こういった凄い人たちが、本物を求めて命を懸けていた、というね。

——UWFも時代によって、見方が変わっていくわけですね。

鈴木 あとUWFはやっぱり佐山の影響力が大きいって部分で、初代タイガーマスクで飛んだり跳ねたりしてもの凄い人気があった。でも佐山は「これは本物じゃない」と全共闘みたいに一時期、自己否定したわけでしょ。それで再生したのが大きいと思うんです。だから連合赤軍の森恒夫も一回逃げ出して、仲間に引き戻されて、それで幹部になったら、「自分はかつてヘマをやった。今度は絶対に頑張んなくちゃ」と異様に奮起した。同じように、佐山も自分を全否定するところからUWFを出発させたわけですよ。パソコンに向かってルールを毎日考えたり、「これをやるといままでのプロレスと思われる」とか。かつての自分の失敗を取り戻そうと思って激しくなる。そういう人は、大衆に目が向かないんですよね。

——確かに佐山さんは大衆のずっと先を歩く人でしたからねぇ。

鈴木 そう。外に向かった革命を起こすためには大衆は必要ですよ。なんだって時代が動いたのは大衆と一緒ですから。

——革命を起こしたければ大衆を扇動しろ！ と。いまのマット界にも言えることですね。ありがとうございました!!

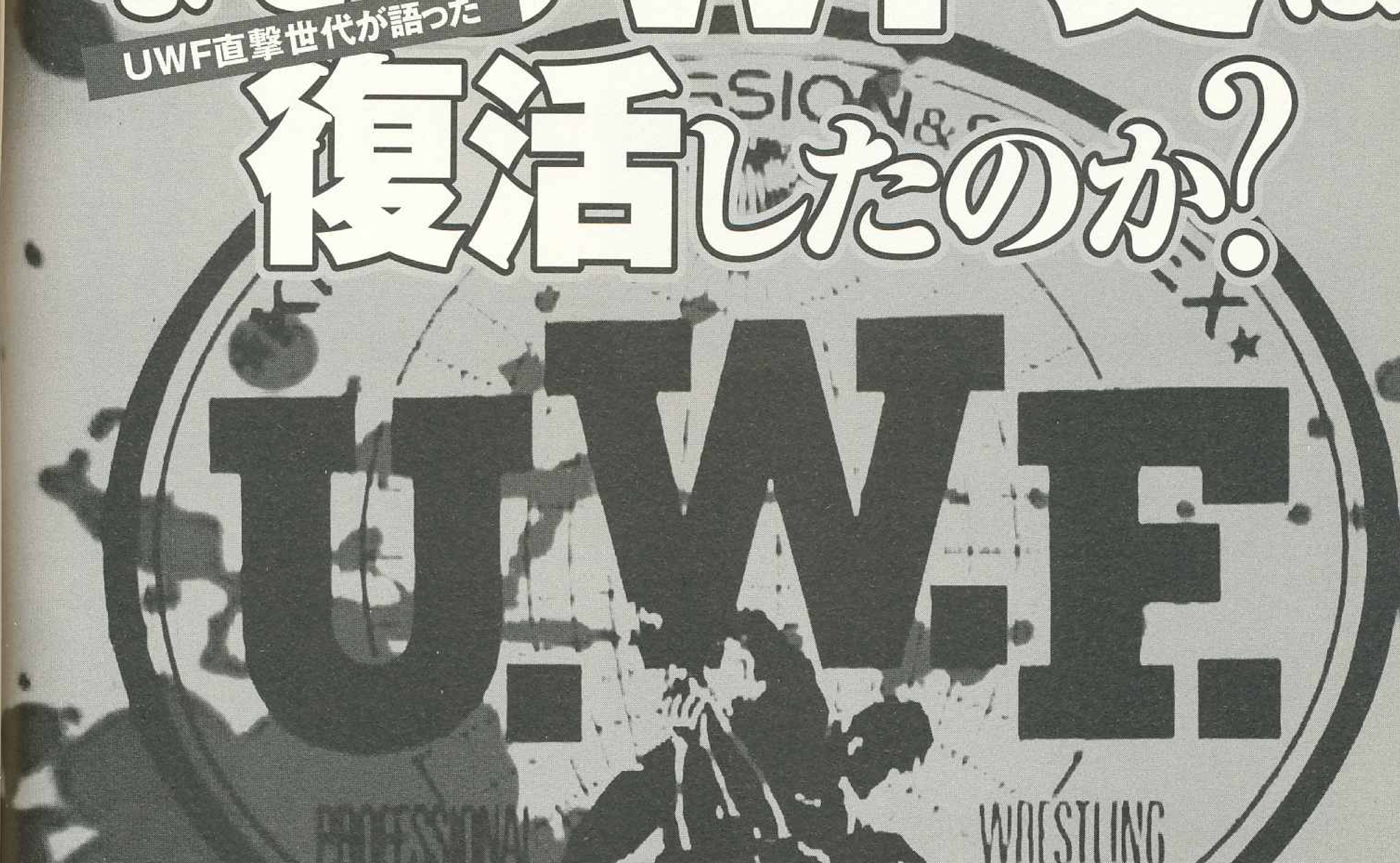
［08年5月6日／都内・「喫茶室ルノアール」高田馬場店にて収録］



すずき・くにお■1943年、福岡県生まれ。早稲田政治経済学部卒業。学生時代から右翼・民族運動に参加し、産経新聞社に勤務した後、72年に「一水会」創設。新右翼の代表的存在に。99年12月に「一水会」代表を辞任し顧問となる。前田日明、佐山サトル、須藤元気らと親交を持ち、UWFを中心にしたプロレス&格闘技の論客としても知られる。

UWF直撃世代が語った

なぜUWF史は復活したのか？



歴史は常に“封殺”される!?

菊地成孔



狂った季節とは何か？
連合赤軍とUWF

毎回、鋭い言論を展開して好評の“音楽家にして文筆家”の菊地成孔氏が、今回はまたまた佐藤氏の煽りVについて、そして自身も直撃世代だったUWF史の復活、その裏側に潜むものについて、ズバリと提言!!

聞き手／ジャン斎藤　大会撮影／乾晋也

―菊地さん、今回は『DREAM・2』で話題になった、UWFと連合赤軍の煽りVのお話をうかがいたいんですが。

菊地　はい。とはいえ、毎度毎度申し訳ないんですが、現在新作をレコーディング中で時間がなくて、今回もDVDで拝見させていただいただけなんですが。

―お忙しいところ、すみません（笑）。

菊地　いやいや、おかげで観れるんで（笑）。で、私がいただいたのは地上波放映ぶんですよね？　ということは、『DREAM・1』みたいに検閲で短くなってる？

―いや、今回はナレーションが変わってたのと、セリフがちょっとわかりやすくなってるくらいで。前みたいな異常な違和感は感じなかったですね。

菊地　なるほど。前回はTBS編集によって佐藤Vではないと思っていたんですが、今回もちょっと佐藤さんだとしたら作風が変わったのかな？　という気がしました。あの～、「狂った季節」って言ってたじゃないですか？

―煽りVの最大のキーワードですよね。

菊地　ハッキリ言ってますよね……。「大丈夫なのかな？」ってけっこうドキドキしたんですけど。普通なら「狂った」はいかなる文脈でもダメだと思うんですが。

―放送メディアでは「狂った」はダメですよね（笑）。

菊地　ですから、それに一番ビックリしました（笑）。今回は「連合赤軍の映像を使っている」という話は聞いていたんで、そっちはそんなに驚きませんでしたが。

―心の準備があったわけですね。

菊地　はい。逆に妄想をたくましくしてしまって（笑）。UWF映像もさることながら、どの程度の連合赤軍映像が使われているのか、と。もちろんガッカリはしま

せんでしたし、思ったどおりの使い方だったんですが。とにかく「狂った季節」を通したのにはビックリしました。いまの佐藤さんのあり方は絶頂期の古館伊知郎さんとターザン山本さんの力を足してアンプにつないだような感じがあります。

——『DREAM・3』の石田vs宇野戦の煽りVでは、『DREAM・1』のバックステージで川尻が宇野と揉めた映像も流してるんです。凄く暗い映像で荒いんですけど、一瞬だけ「筋通せよ！」みたいな言葉とともに。

菊地 UWFを"80年代全共闘"とアナロジー（換喩）するのは、私が発案したわけではなくて、そもそも80年代研究家がみんな言ってたことですね。大塚英志さんが最初ではないかと記憶してますが。

——サブカル的視点で、読み解いた。

菊地 その考えは25年前の段階で、ちょっとした歴史主義だったわけですが、いずれにせよアイデアだけではなく、佐藤さんは実際にやって見せたのが凄いと思います。アイデアだけだったら、たとえば「UWFはオウムだった」というアナロジーも可能は可能ですからね。

——あ、そこは今回お話をうかがった鈴木邦男さんも指摘されてましたね。

菊地 とはいえ、いまはそれは絶対できません。でも、あさま山荘のインパクトはオウム以上のものがあったかもしれませんし、オウムだって50〜60年経って、宗教カルトによる犯罪が日本からある程度根絶されたら、格闘技の大会の煽りVぐらいには使えるかも知れない。DREAMいくつになるかわかりませんが。

——現段階では、ちょっと想像できないですけどね。

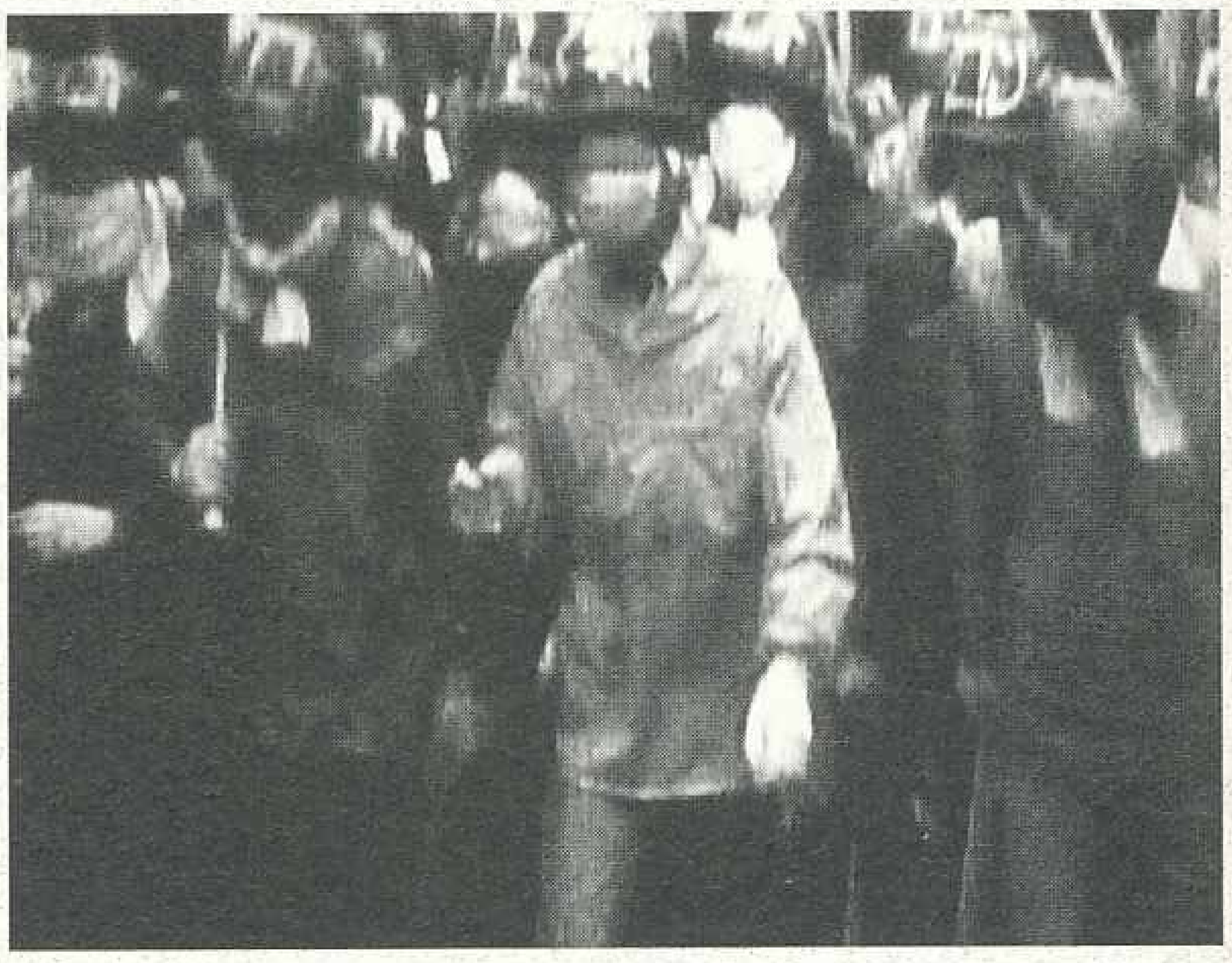
菊地 集合、離散、内ゲバ、テロ、国家に殲滅される原形的な動きは多かれ少なかれどんな集団にもあるので、いちいちアナロジーの適応性をジャッジしても仕方がないですが、佐藤さんが"UWF＝80年代全共闘"をてらいなくハッキリ打ち出したのは、なんというか時間の魔法というか。

——前田と船木がくっついたり。いまだに集合と離散を繰り返しますからね。佐藤さんは、今回はイメージ優先だったみたいですね。最初に「あさま山荘のイメージ」って決めてから、前田（日明）に話を聞いたり、『kamipro』の宮戸（優光）のインタビューにまで同席したりして。

菊地 なるほど。あとはタイムリー感、トレンド感もあったんでしょうかね。靖国とかあさま山荘とか、戦後の学生運動とか、日本の終戦直後っていうのは最近の若者、つまりロストジェネレーションの人たちの教養と生活感覚からは文字どおりロストしてるんで、再獲得の動きが出てると思うんですよ。

——ええ。靖国、あさま山荘もちょうど映画になってますし。

菊地 80年代はバブルとか言いながらも、そういう残骸がいっぱいあったけど、95年のオウムがとどめを刺しちゃうかたちで抑えつけられちゃったと思うんですね。なので「歴史を再獲得しよう」って動きが出てると思うんですけど、そういう動きに目配せがあったかなかったか。



狂乱の季節だった60年代&70年代の学生運動。この激しい時代に乗り遅れた者たちは、やがてほかのメディアでの代替行為を模索することになる。80年代当時、知識人のあいだではUWFの革命運動もまさにそのラインで語られていた。

——ただ、昔のUWFファンとかからすると、「連合赤軍なんかにたとえてくれるな」って声もあるんですよ。

菊地 それはある種、犯罪者みたいなイメージだからってことですか？

——ええ。佐藤さんも単に人が死んだから、当てはめてるわけじゃないと思いますが。

菊地 そんなことだとしたらトンデモないですけど、でも暗喩って恐ろしくて、あのVでは若干そう見えちゃうんですよね。道場の中で人が死んでるってことは、UWFのトラウマになってる。「とにかくたとえてくれるな」という気持ちもわかりますけどね。デオドラント&幼児化社会というのは昔からですが、いまは加速がついてるから、ちょっとでも嫌なことはとにかく嫌っていう時代ですから。

——凄く反射的な感情なんでしょうね。

菊地 ともかく、あのVがどのぐらい意識的かはわかりませんが、あさま山荘とかUWFを出すってことは、「若い人に日本史をもう一回インストールし直す」という効果は持たざるをえないと思う。だからこそ前田日明さんも偉く見えたし。

——ひさびさに偉くて格好いい前田でしたね。ゴッドファーザーって感じで。

菊地 「あの葉巻吸ってる人、こんなに偉いんだ？」と、認識を新たにした青少年も多数いたでしょう。そういうことが起こるということ自体が、歴史がたやすく抑圧されたり切断されたりするという性質を持っていることの証明です。昨日、本屋に行ったら、週プロ25周年とかいうムック（『週プロ回顧録〜四半世紀の真実記〜』ベースボール・マガジン社）が出てるわけ。「あっ！」と思って見たら、やっぱりターザン山本さんはまったく出てなかった。

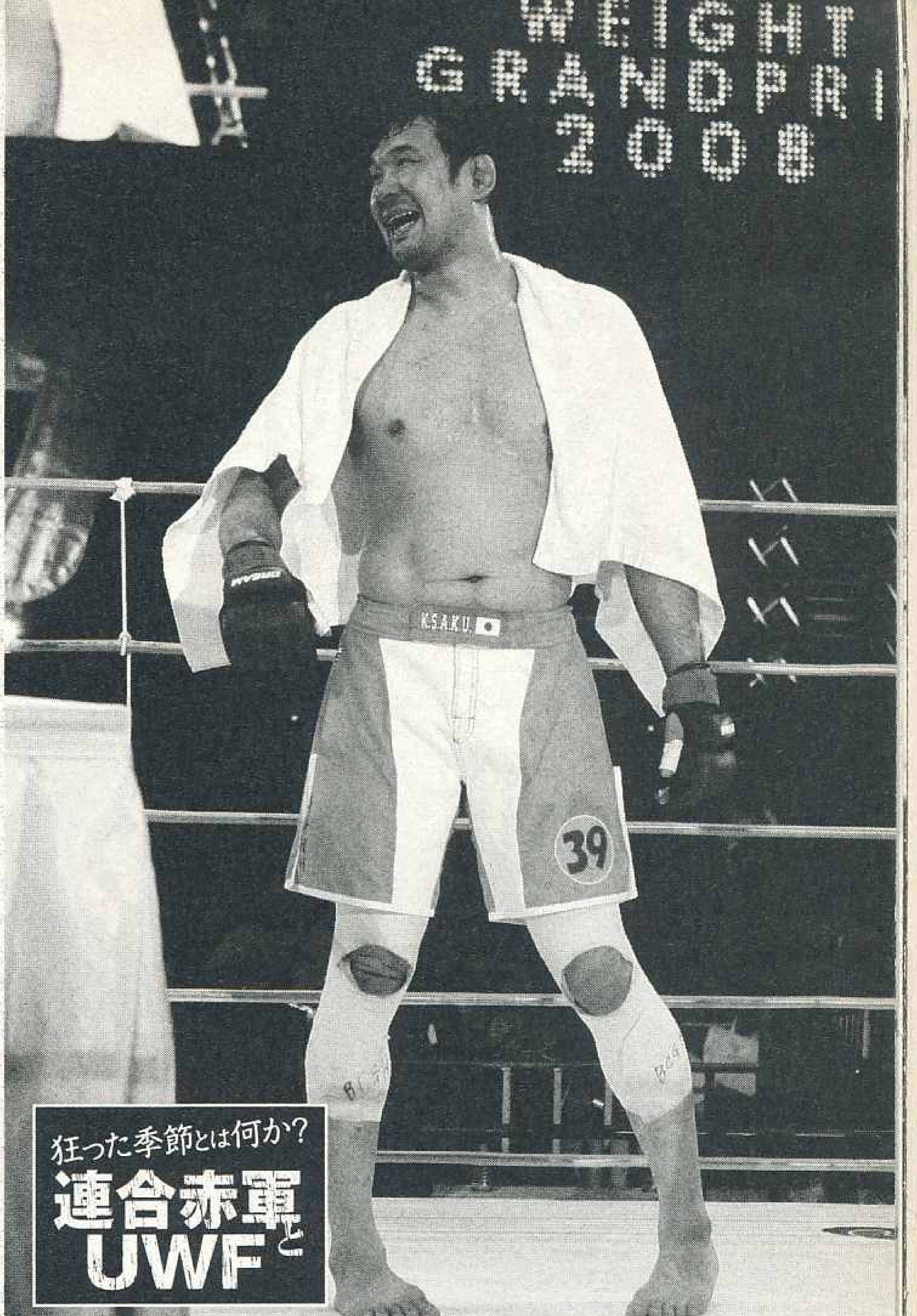
——ダハハ！ そこも歴史が切断されてましたか。菊地さんはターザンを『週プロ』の"黒歴史"と指摘されてましたし。

菊地 あくまで現在の山本さんの状況によって、ですけどね。黒歴史は個人にも国家にもありえるわけですが、いま言ったように歴史というのはその性質上、抑圧され、切断されてナンボであり、同時に常に、「ここで再インストールしよう」という欲望を喚起し続けます。その往復、それ自体が歴史なわけです。そういう意味で、凄く象徴的だったのが、たとえば『DREAM・2』では、桜庭選手が凄くひさしぶりに元気だった気がするんですね。

——精神的にも、肉体的にも。

菊地 私は桜庭選手は、本来は意地悪とか嫌がらせをするタイプなのに、ホイス戦でブレイクして善良なヒーローの役割を託されてしまった。それにずっと苦しいんだということを一貫して言い続けてるんですが、そういう抑圧感が『DREAM・2』ではまったく見えませんでした。

あさま山荘とかUWFを出すってことは「日本史をインストールし直す」ということ



煽りVで「さいたま、いいっすねぇ～」と目を輝かせていた桜庭和志がついに帰還！『DREAM.2』では、ゴールドバーグばりに入場前のスキットを入れ、懐かしのサクマシンマスク3人衆という"正装"で登場するノリノリっぷり。これは桜庭の抑圧からの解放を意味するものなのか？

WF史は
たのか？

――故郷に帰還したっていう安堵感や開放感はありましたけど。

菊地　それは、言っちゃえば髙田元・統括本部長がいなかったからだと思うんです。

――あ～（笑）。

菊地　前田さんはあの煽りVで象徴化されちゃったんで生々しくない。で、髙田さんもいない、と。桜庭選手ののびのびした感じを見て、ホントにそう思いました。

――完全にリセットされた感じで。

菊地　ここ数年の、言わば〝桜庭黒歴史〟のアイコンがほとんど払拭されたように思えます。そしたらサクマシンマスクも復活して絶好調だし、最後のフェイスロックも綺麗に決まって、あんなに首を捻っちゃって。空手の人はかわいそうだったね、あのケイン・コスギみたいな人（笑）。

――アンドリュース・ナカハラですね。

菊地　桜庭選手の関節技が極まって説得力があるって絵をひさしぶりに観たし、ファンは喜んだと思う。ただ、この復活は、ここ5～6年の桜庭選手の歴史を抑圧、切断した上での〝晴れ晴れ〟だったと思います。ヴァンダレイ・シウバ選手まで含めた桜庭選手の近過去を参照すれば、ブラジル極真vsシュートボクセといった見立ても不可能ではない。でもそんなものは余裕でスキップなわけです。あらゆるここ数年の桜庭選手の歴史とともに。

――歴史をさかのぼって、桜庭和志を観る感じの関係者やファンは多いですよね。

菊地　「意地悪なのはサクじゃなくておまえだろ」と言われそうですが、あの〝晴れ晴れ〟ぶりは、誰にも皮肉を言ったり意地悪する必要がなくなったと同時に、別人のようにのびのびしているということ自体が、すべての関係者に対する壮大な皮

桜庭が別人のようにのびのびしてること自体が関係者への壮大な皮肉

肉とも言えるわけです。頭のいい子どもの典型ですね。周囲が期待をかけてコントロールしようとしているあいだは死んだようにグッタリしてるのに、みんなが手を引いたら突然元気になって「ウチらのせいだったのか」と気づかせる。逆説的に、一番皮肉なことでしょう。

――なるほど（笑）。

菊地　これは批判でもなんでもありませんが、私も含めた日本人はホントに〝痛み〟が嫌な人種で、水に流すと言って許すのが早いし、揉めるくらいなら自己犠牲に走る美徳も持っています。桜庭選手の近過去をすべて踏まえた上での現在を見ている人がどれぐらいいるのかわかりませんが、知らないならともかく、知っているのにボーッと乖離して「サクは長いあいだつらかったけど、やっと春が来たんだ」「最終コーナーに入って覚悟を決めたんだ」といった単純で安全なイメージに還元し、根源的な部分は思い出したくも見たくもないという人も多いでしょう。

――それは「UWFを全共闘にたとえてくれるな」って気分ともつながりますね。

菊地　そうですね。そしていずれにせよ今回の〝桜庭晴れ晴れ〟は、先ほど言った歴史の抑圧し、切断させる力が基盤にあると思いますし、その一方で船木vs田村戦は歴史の再インストールを志向しているわけですから、興行全体のメッセージにアンビバレンツが含まれている。その点も凄くよかったと思います。

――タブーという意味では、桜庭の煽りVに〝魔王〟がチラチラ出てくるんです。

菊地　抑圧にも階層があって、秋山選手の件はみんなが知っている上の階層のほうの抑圧じゃないですか。公然の抑圧と言うかな。もうちょっと前の、マジで痛い部分は抑えちゃってる

――もっと深い意識下であえて忘れているわけですね。

菊地　桜庭選手は〝電撃移籍〟をして、うしろ指を差されなかった数少ない英雄だったと思います。恩人に砂をかけるようにして出て行った悪人というふうに、ファンも関係者さえも、誰もがさせなかった。あれほど慮られ、優しくされ、善人にされた人はいないでしょう。善良さ、純粋さに対する集団的な欲望を一心に背負ったわけで「つらかったのではないかな」と思いますね。一回罵られ、しかるのちに許されるほうが、日本の社会ではスッキリするんですね。秋山選手のように。でも、そのあと桜庭選手個人を超えた事情が何かゴタゴタしているうちに気がつくと近過去のアイコン一掃、といった状況が用意された感じがします。秋山戦が迫られたらまた崩れるでしょうが、全然まだ元気ですよね。ちまたで言われる〝桜庭最終コーナー説〟を、私はとりません。

――凄いなぁ。菊地さん、桜庭としゃべってるわけじゃないですよね（笑）。

菊地　いやでも、ほとんどの人には、私の話は説得力ないと思いますよ。谷川黒魔術と、武蔵のノーパソコンは痛みのない話なので通じやすいですが（笑）。話を戻

遠過去のUWFを再インストールし、近過去のPRIDEは抑圧されるのか？

せば、歴史を抑圧して、その国の歴史を封じ込めてしまう存在っていうのが帝国です。PRIDEはUWFから流れてる歴史を一度全部遮断して完成させた帝国ですよね。〝元Uインター〟というフォーカスは内輪だけに絞られ、多くの若き帝国民には届いてなかったように思いますし。

――歴史をコントロールしている、と。

菊地　たとえばノアだって元全日本プロレスっていう歴史は封殺したいと思うんですよ。ノアがいま元全日本だってことをどれぐらいの強さで抑えてるかはまったくわからないですが（笑）。

――まったく触れてないですね、ジャイアント馬場でさえタブー化してる感じで。



解説席で、UWFへの憧憬を素直に表現した須藤元気。柴田勝頼も会見で煽りVに「感動しました」とコメントしていたが、高坂剛をはじめ、Uの歴史に直接、間接的に通じる人間には、いまだに生々しさを含む問題だ。

菊地　ノアですら帝国化して歴史をくい止めてる。歴史というのは学校でも習うし、過去があって現在があるなどということは自明だと誰もが思っていますが、実際は抑圧、切断、捏造が不可避的に繰り返されるものですから。

――簡単に塗り替えられちゃう、と。

菊地　ですから、「さらに書き換えろ、書き換えろ、忘れろ、書き換えろ」というエネルギーで進むわけです。若きPRIDE帝国民は、PRIDEの歴史の中に、初期PRIDEという古代もあり、どうやら高田vsヒクソン戦という起源があって年表はできていたと思います。「その前の歴史？　まあ、あるだろうけど関係ないよ」という感じだった。今回の煽りVを30代である佐藤さんが作ったとして、はたして歴史主義としてのマジ度がどれほどだったかは、45歳のワタシにはまったく読めません。なんちゃってかもしれないし、大マジかもしれない。少なくとも取材時には大マジでないとあれは作れなかったでしょう。しかし、先ほど言ったように、遠過去は再インストール、近過去は抑圧というアンビバレンツがありますから。

――分裂してますね。あるいは、UWFは思い出してもいい過去になったのか。

菊地　その分裂は本質的なことだからいいとしても、桜庭選手の近過去を胸にちゃんと秘めて現在を見つめている人々と、桜庭選手の近過去を抑圧している人々とのあいだにあさま山荘とUWFがどう違って見えたか？　あるいは違いなかったのか？」に興味があります。印象的なのは、田村vs船木戦の感想を聞かれた須藤元気さんが「歴史を感じますねえ〜」ってワクワクした口調で言ったんですが、演技か本気がわかりづらい人だからこその〝本気でウットリしている感〟が迫ってきました。ビバリーヒルズ柔術クラブからこの世界にアクセス、早々と引退という流れを考えると、UWFはホントに神話であり、歴史を感じるのだろうな、と。でもさすがに隣の席の高阪さんは「いやあ、歴史を感じますねえ。ワクワクするなあ」とは言えないじゃないですか（笑）。

――ある意味、当事者の一人ですし（笑）。

菊地　そういう意味では、DREAMという団体がPRIDEの歴史を再抑圧するのか、それともPRIDE史を大切にしていくのかに凄い興味があるんですね。DREAMが帝国化するかどうかということですからこれは。

――そこがポイントなのかもしれないですね、DREAMは。

菊地　「時間は悔恨に発し、空間は屈辱に発する」と言ったのは心理学者の岸田秀ですが、人は〝離散〟に傷つきます。結びつけてく段階で夢を見て、離散のときには傷つく。UWFならずとも、そんなこと言ったら日本プロレスのファンだった人々は全日本と新日本に分かれたときに傷ついてるかもしれないけど（笑）。

――想像もできません（笑）。

菊地　20年後には「UWFが解散したときに傷ついてたのかなあ？」って。私なんて、ハッキリ傷つきましたが（笑）。

――あ、菊地さんも傷ついてましたか。

菊地　やっぱり、あの最後の松本大会のことは忘れられないですよ（しみじみと）。しかし「どうせ人間の結びつきなんて野合であって、必ず会ったら別れるんだ」といったタフさは、離散の経験でしか培われないですからね。格闘技が青少年に教育的な側面を持つとするならば、身体が触れ合うとか肉体的な痛みを知るとかいう側面のほかにも、離散劇を見せ続けることも含まれると思いますから。抑圧せずに受け止めるべきですよね（笑）。抑え込むと、へんな幽霊みたいなかたちになって残っちゃいますから。

――つまり〝呪い〟ですね。

菊地　そうですね。だから今後はDREAMがはたしてどれぐらいPRIDEの反復という自意識として持つのか？　選手や観客は『戦極』とDREAMに分かれてしまった傷をどれぐらい痛みとして持ち続けるのかが問われますし、佐藤さんはそのキーマンになると思うんですよ。それこそPRIDE時代以上に。

――そこをドラマとして構築できるのは、佐藤さんでしょうね。

菊地　少なくともいまDREAMでそこをもっとも意識的に表現してるのは佐藤さん、無意識的に元気でのびのび表現しているのが桜庭選手だと思います（笑）。

――逆説的に表現してましたか。今回もありがとうございました。

【08年5月11日／都内・菊地氏の事務所にて収録】



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家であり文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、批評家として音楽、映画、料理、ファッションなどに関する著作も多数発表。格闘技批評本には『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍〜僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった〜』（白夜書房）がある。

発言から
読み解く
本音&変節

語録で振り返る一カ月

『kami-pro』人気企画が唐突に復活！　ここではマット界の住人が発した名言からトンデモな一言までを一挙網羅！　声に出して読みたくなる、味わい深いフレーズの数々をご堪能あれ!!　それでは～、1、2、3、4、ゴッロク、ゴッロク！（語呂わるし）。

負けたらホームレスになります！（青木真也）

▼4月24日（木）『DREAM・2』青木真也座禅特訓

なぜか新宿中央公園で青木真也がカルバン戦ド直前に公開練習！　休日のお父さんふうなジャージ姿の佐伯代表と謎の座禅特訓を行なったあと「燃えてきたあああ！」と織田裕二のように絶叫し、上半身裸&スパッツ一丁で公園を疾走するバカサバイバーぶり。さらに「勝ったらセレブ、負けたらここでホームレス！」と不適切な表現で闘志を燃やした青木。カルバン戦で完璧な勝利を挙げたことで、今後は〝セレブ青木〟として小川直也に成り代わってゴールデンチェアを振り回してもらいたい。チャオ!!（←みんな覚えてる？）。

俺はほかの選手の悪口を言ったことはないぜ！（JZカルバン）

▼4月25日（金）『DREAM・2』JZカルバン会見

3・15『DREAM・1』青木vsJZ戦にて偶発的なヒジ攻撃でうずくまってしまった青木の行動に対し、JZが海外サイトの取材で「アオキはウソツキだ！　あいう行動をとったのは彼が試合に戻りたくないからだね！」と衝撃発言しているとの情報が乱入！　その真意を聞くために、さっそく『DREAM・2』のために来日したJZに直撃したマスコミ陣営だったが……。JZ本人が言ってないのだとしたら、またしても『UFC79』で本誌を惑わせた〝ニセJZ〟の仕業か。



殴れますよ。そういうルールなんで（船木誠勝）

▼4月26日（土）『DREAM・2』船木誠勝公開練習

田村潔司戦を3日後に控えた4月26日、船木誠勝が公開練習を行ない、打撃の上達ぶりをアピール。トレーナーである前田憲作にミットを持たせ、鋭いパンチを次々と叩き込む船木。報道陣から田村が船木の顔面を殴ることに複雑な心境があることを伝え聞くと「俺は殴れますよ。そういうルールなので」とキッパリ。「向こうが殴らなくても勝てると思ってるならナメてるな」と語った船木だが、試合ではナメずに向かってきた田村の顔面パンチの前に鮮やかにマットに沈んだのであった。

中学の頃にスーパーのアイスコーナーで闘ったことがある（飯伏幸太）

▼4月27日（日）『本屋プロレス』旗揚げ戦

4月27日、DDT社長の高木三四郎の自伝出版を記念し旗揚げされた『本屋プロレス』。店内のみならず路上でも激しい試合を繰り広げた両者だったが、最後は飯伏がアスファルトへのジャーマンで三四郎に勝利。試合後は「中学の頃にスーパーのアイスコーナーで闘ったんですけど、そのときのほうが激しかった」とトンデモエピソードを明かしつつ反省モードの飯伏。コンビニ、コミケ会場、そして今回の本屋。次に飯伏が闘う場所はどこなんだ？　……え？　こせ喜がいいって？　アチャー!!　というわけで、今日の四文字熟語は〝夢香微笑〟なのだ（オチに意味なし）。



イニシャルどおりKYで、空気読めない、『なんで勝っちゃうのかな？』っていう試合でした（パンクラス・坂本常務）

▼4月28日（月）パンクラス有明大会一夜明け会見

かつての古巣に参戦した現GRABAKAのKEI山宮。近藤有己戦では会場から山宮コールを発生させるなどの熱を生み出して見事に勝利。試合後にはパンクラス愛あふれるコメントを残したにもかかわらず、翌日会見で坂本常務は山宮をKY呼ばわり。なぜか表舞台に姿を見せなくなった尾崎允実代表に代わり、フロントの顔役として会見でウケ狙いのコメントを出すなどサービス精神旺盛な坂本常務。まあ、近藤の「イニシャルどおりKYで、空気読めない、『なんで負けちゃうのかな？』っていう試合でした」という言い方もできるだが。

KYなのは誰？　いくら旧知の間柄とはいえ、あれはいかがなものか（郷野聡寛）

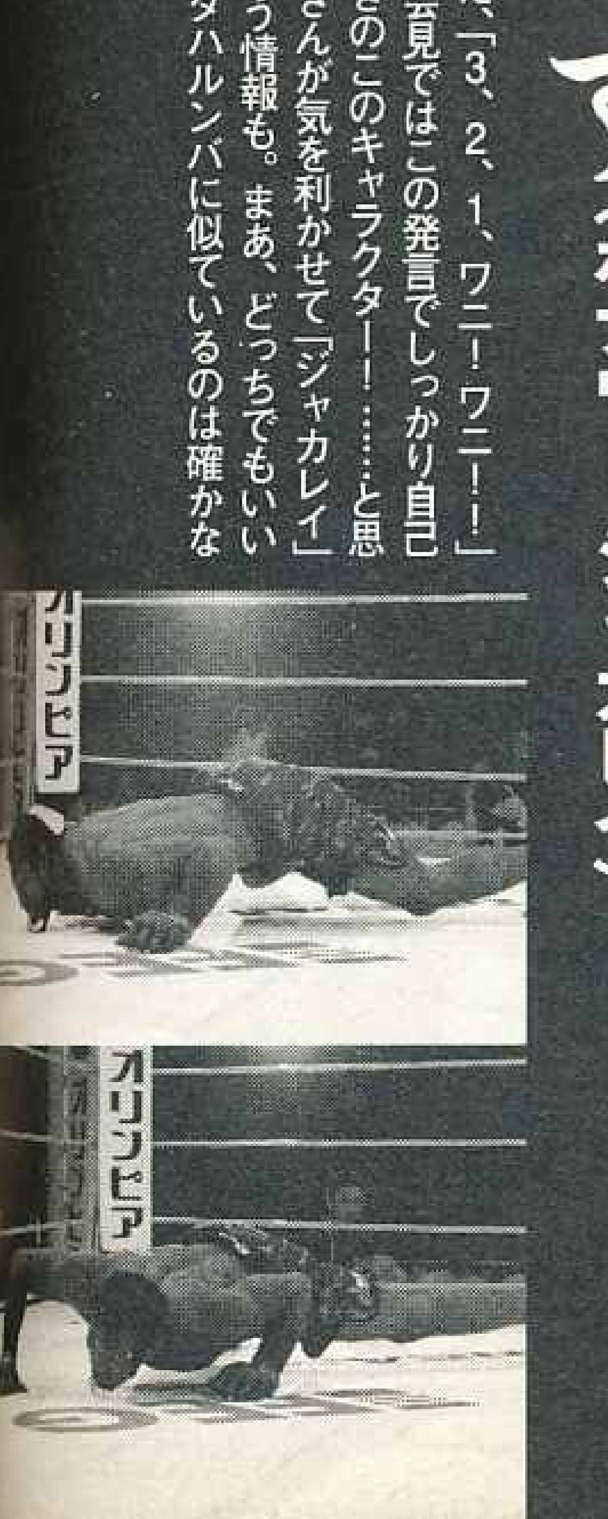
▼4月29日（月）郷野聡寛の不定期コラム「Gの文豪」

KY発言が〝GRABAKAの火薬庫〟の導火線に引火⁉　パンクラス・坂本常務がKEI山宮に発したコメントに対して、郷野が自身のブログで苦言。当の山宮は「僕なりに一生懸命頑張りました」と言葉少なに語っただけだったが、郷野は山宮をGRABAKAに誘った張本人だけに、パンクラスを去るときの山宮の複雑な心境を察してか黙っちゃいられなかった模様だ。ちなみに郷野が山宮との絆を描いたコラムは携帯サイト『kami-pro Hand』で読めます！（宣伝）。

私はジャカレイです、〝ワニ〟（ポルトガル語での意）です（ホナウド・ジャカレイ）

▼4月28日（月）『DREAM・2』前日会見

4・29『DREAM・2』で日本初試合を迎えた、「3、2、1、ワニ！ワニ！」でおなじみのホナウド・ジャカレイさん。前日会見ではこの発言でしっかり自己アピール。う～ん、まさに『kami-pro』向きのこのキャラクター！……と思いきや、どうやら「ワニです」のコメントは通訳さんが気を利かせて「ジャカレイ」をわざわざ日本語訳でリピートしてくれたという情報も。まあ、どっちでもいいけど、日焼け具合やちょっぴり薄毛の髪型はサダハルンバに似ているのは確かなのだ。「3、2、1、ワニ・ンア～!!」



格闘技を食えるようにしたのは『UWF』ですよ（前田日明）

▼4月29日（日）『DREAM・2』田村潔司vs船木誠勝煽りV
DREAMミドル級GP1回戦として組まれた田村潔司vs船木誠勝の〝UWF対決〟。この一戦の〝煽りV〟に、UWFの象徴たる前田日明が登場！ かつてPRIDE消滅時「ざまあみろ！」と発言した前田を佐藤大輔がインタビューし、UWFを総括すると葉巻を吸いながら前田は「格闘技を食えるようにしたのはUWF」ときっぱり。確かにいまの総合格闘技界はUWFなしではありえなかったであろう。まあ、UWF自体が格闘技だったかどうかは別問題であるが。

殴っちゃいましたね（田村潔司）

▼4月29日（日）『DREAM・2』
新人時代の兄貴分であった船木誠勝との対戦が決定した田村潔司。かつて、高田延彦の引退試合の相手に選ばれた際、なかなか高田の顔面を殴れなかった田村。今回も船木戦を前に微妙な気持ちを吐露していたが……。いざ、ゴングが鳴ると、クリンチからのアッパー&フックでしこたま船木を殴ったあと、グラウンドでは鉄槌で船木の顔面をメッタ打ち！ 結局、ほとんど顔面パンチでKO勝ちを奪った。田村、殴りすぎ！



2回戦に進出した方はおめでとうございます。僕は関係ないので頑張ってください（桜庭和志）

▼4月29日（日）『DREAM・2』
おまえもガンバレよ（ジミー大西）。

俺が新日本プロレスの会社、関係者を潤してやる！（武藤敬司）

▼4月27日（日）新日本プロレス大阪大会
IWGPヘビー級選手権で王者・中邑真輔からフォール勝ちを奪った挑戦者・武藤敬司。NWAの時代から、王者は常にその団体を潤す存在であると言われているが、「新日本の社員が3カ月後にボーナスをもらえるようにする」と具体的なマニフェスト（公約）まで掲げたのは史上初!? そもそも新日本の社員は武藤にここまで言われるほどに薄給でボーナスをもらっていなかったのだろうか？ この口ぶりからすると出てないのかなぁ……。



限りなくゼロに近いですね（笹原圭一 DREAMイベントプロデューサー）

▼4月30日（水）『DREAM・2』一夜明け会見
『DREAMミドル級GP』の主役の一人と目されていた秋山成勲が鼻の負傷によりまさかの欠場表明。負傷翌日にパチスロに興じるわ、サングラスを購入するわ（鼻は大丈夫なのかよ！）、映画鑑賞するわ、『Number』の取材は受けるわのさすがの魔王ぶりなのだが、ケガなんだから仕方がない。主催者推薦枠の登板もあっさり否定され、多くの謎を残した欠場となった。世の中って不思議だね！



過去の王者を振り返ると、俺が一番弱いんじゃないか？（諏訪魔）

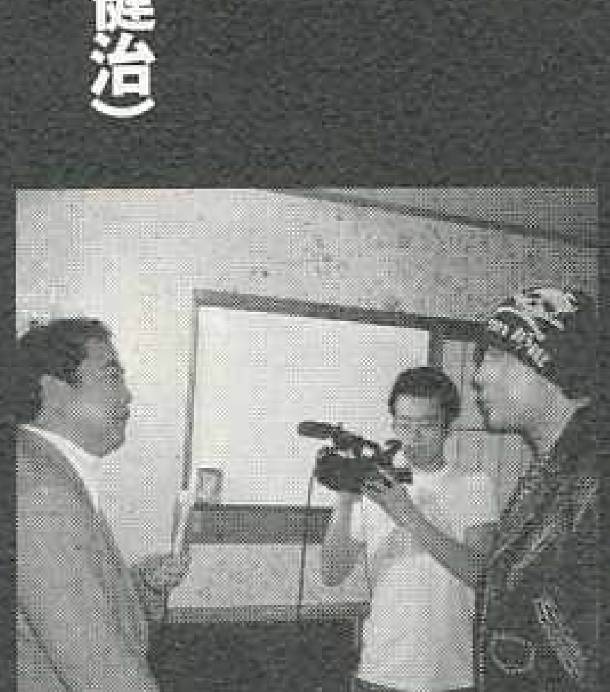
▼4月28日（月）全日本プロレス愛知大会一夜明け会見
チャンピオンカーニバル制覇に続き、全日本の至宝・三冠ベルトを佐々木健介から奪取したキャリア3年半の諏訪魔。タイトル戦前は「俺の時代を作る」と吠えていたが、いざ王座を奪取すると「俺なんかが巻いていいのか」「身震いします……」と見てるこっちが心配になるほどうつむき恥じらうばかり。……おい、何が目的だ。とりあえず、せっかくの強面&恵まれた体格を持つグッドルッキングガイ（not中尾KISS）なのだから堂々と胸を張っていただきたいものである。

たまたま金村が来てるらしいんだけど、何の話かわからん（大仁田厚）

おい、俺をネタに復帰しようとしてんだろ？（金村キンタロー）

メタボは関係ない！ 茶番にするな！（若林健治）

▼5月2日（金）大仁田厚会見
何度目かの復帰を表明した大仁田厚が5月2日、都内にて会見。その現場に〝たまたま来ていた〟のが大仁田から今年1月のセクハラ騒動を批判されていた金村キンタロー。数年前からの因縁を引きずる両者は顔を合わせるとつかみ合いに発展。騒動後は混乱を見守っていた若林健治アナと新大仁田劇場開始。なぜかプロレスデビューを進める大仁田に若林アナは「茶番にするな！」と一喝。ゴールの見えない、この争いの結末はどうなるん邪？



勝って佐伯さんに『ざまあみろ！』と言いたい（三島☆ド根性ノ助）

▼5月2日（金）三島☆ド根性ノ助公開練習
かつてDEEP&PRIDEを主戦場としていた三島だが、DEEP佐伯繁代表と意見の食い違いから、ライバル団体『HERO'S』と関係の深い「TEAM Kings」に入団するなど、二人はリアルな確執関係。UFCで2連敗してDEEPに出戻った三島に仕向けられたのは、絶好調の今成正和という刺客。三島は以前、今成に完勝しているが、いまでは完全に立場が逆転している。タイトルマッチにつられて試合をOKした三島だが、はたして勝って佐伯代表に前田日明ばりに『ざまあみろ』と言えるのか？ そして条件反射で谷川さんが謝罪するかどうかも注目しよう。

夢、勝ちます！（柴田勝頼）

▼5月2日（金）『DREAM・3』会見
5・11『DREAM・3』でミドル級GP最後の一枠への参戦が決まった柴田勝頼。大会前に行なわれた二度の会見では、ほかの選手が普通のファイティングポーズを決める中、素足に両手を広げる昭和のプロレスラーを意識したポーズを決めた柴田。意気込みを聞かれると、かつて所属し、自身も何度か出場した新日本プロレスの若手中心興行の大会名と『DREAM』をかけ「夢、勝ちます！」とアピール。うまいこと言う前に勝ってくれ！

俺が戻ってきたからには大丈夫だから（永田裕志）

▼5月2日（金）新日本プロレス後楽園大会・永田裕志復帰戦煽りV
我らが永田さんが帰ってきた！ 2・10両国大会を「脳に異常」が見つかり緊急欠場。しばらく療養に務め、本誌でもGK隊長＆小松隊員がお見舞いにかけつけるなど、ファンを心配させていたが5・2後楽園ホール大会で華麗に復活！ 試合前の煽りVでは自信満々にこの一言を炸裂させ、試合でも白目を剥いてアームロックなど得意の永田さんムーブが爆発！「やっちゃっていいんだね？」とばかりに元気ハツラツな永田さんを応援しよう。敬礼！



たぶんGRABAKA道場の女性は、山崎選手の女なんじゃないかな（笑）（佐伯繁DREAM広報）

▼5月2日（金）『DREAM・3』会見
DREAM初となるフェザー級戦に出場が急遽決定したGRABAKAの山崎剛。GRABAKAでは一般の会員を指導するプロ選手が10名近く在籍しているが、郷野いわくその中でも山崎は「丁寧な指導と、会員さんたちが出場する柔術の大会にたくさんのおにぎりを作って応援に行くような人柄」で、会員たちから大人気だとか。それを知らずか、山崎がイケメンということだけで「うっしっしっ！」と中学生ばりの推察力を働かせる佐伯繁DREAM広報はさすがだ。



所属はジムの名前でなく許されるなら、所属を高校の名前にすることも考えてます（谷川貞治FEG代表）

▼5月3日（土）「K－1甲子園」会見
この夏、「K－1甲子園」が全国展開！ 各地の高校生を集めて予選大会を実施ッ！「日本の格闘業界が変わる。一般の企業もアマチュアということで応援してくれるでしょう」と『K－1甲子園』の校長先生・谷川FEG代表はヤル気マンマン！ なんと所属を高校名にするプランまでブチ上げたのだから、さすがは名プロデューサー。早くもサダハルバは「PL学園とかいいねぇ～」とうっとり。校内暴力、裏口入学、登校拒否、国歌斉唱拒否など、リアルな不祥事で出場辞退にならないことを願うばかりである。んあ～！

ウダウダやってるおかげで6・15は新日本プロレスの後楽園大会と重なり、俺は会場に行けなくなったけど（永田裕志）

もし僕が弟さんに勝てたら、大晦日に僕と白黒つけてもいいんじゃないかと思います！（青木真也）

▼5月5日（月）『DREAM・3』記者会見
青木真也のドクターストップによって、ライト級トーナメント2回戦が6月15日に延期となったのだが、その会見の席上で読み上げられたミスター大晦日・永田さんのプロレス心あふれるコメントに青木が凄い切り返し。ひさびさにプロレスファンと格闘技ファンの垣根を越えて大注目の因縁が勃発。実現度はかなり低いものの、事態の推移を本気で心配するプロレスファンがちらほら。永田さんのMMAって、プロレスファンのトラウマになってるんだなあ。



東京千代田区のプロレス・グッズショップに、二人組の男が押し入り、現金を奪って逃走しました（滝川クリステル）

▼5月5日（月）フジテレビ系「ニュースJAPAN」
プロレス界に大激震！ もちろん水道橋のプロレスショップ「プロレス・マニア館」に強盗が押し入り、70歳という高齢の店員に暴行したのも事件だが、美しく見えるために机に対して斜めに座る〝モナリザの角度〟で有名な滝川クリステルが、「プロレス」という四文字言葉を口に！ かつてクリスマスに開催された『ハッスル』のオープニング映像で「メリー滝川クリステル！」と挨拶した金村キンタローも、これにはきっと興奮を隠せなかっただろう。

二人とも勝者だと思います（エディ・アルバレス）

▼5月11日（日）『DREAM・3』
エディ・アルバレスvsヨアキム・ハンセンの一進一退の攻防に観客はスタンディングオベーション！ しかし本当の感動はここからだった。ハンセンは「いままで戦った選手の中で一番強かった。勝てればもっとよいが、負けてもそれもよし」と、なんともニクいマイク。するとアルバレスは「こんな凄い試合は二人がだからこそできた。だから二人とも勝者だと思います」と、浪花節好きな日本人のツボを突きまくり！ 日本で外国人選手二人が生み出した感動……、地球に生まれてよかった～！（織田裕二調）。



肺にチューブが入っているので忍耐強い動きを強いられたね（メルヴィン・マヌーフ）

▼5月11日（日）『DREAM・3』
DREAM参戦直前のvsレミー・ボンヤスキー戦で負ったケガの状態を明かしたマヌーフ。いわく「肺の後ろに溜まった血を抜かないと闘えないので手術したばかり。じつは主催者には言ってないんだ」とか。……おい、誰か止めなさいよ！

PRIDEとかHERO'Sとかまったく関係ないんですけど、宇野薫選手、オレと戦ってください（川尻達也）

▼5月11日（日）『DREAM・3』
出場推薦枠問題でヤリ玉にあげられていた宇野薫が、因縁の茨城コンビの片割れである石田光洋を撃破。このソウルメイトの敗北に川尻は、オラオラ度満点の凄みのある表情で感情のおもむくままに対戦表明！ しかし、翌日の会見で川尻は自分の行為に対して昨晩のヤンキーモードとはうって変わってペコリと謝罪。切れたジャックナイフから朴訥なバターナイフに戻ってしまったのだった。惜しい！（↑何が？）

< RADICAL 特選劇場 >

新弟子からやってるヒマはない！
元気式成り上がり術、ここにあり!!

no.43 元気本誌初登場!!



●須藤元気の本誌初登場はNo.43! リングスが活動停止直前に実施した軽量級への門戸開放により、矢野卓見、所英男らとともに、リングス参戦をはたした元気が、"元祖・逆輸入ファイター"としてビバリーヒルズでの修業時代から、ド派手なパフォーマンスへの思い入れを存分に語りまくった！

no.75 ホイラーKO記念!!



●No.75では、幻の大会『K-1 ROMANEX』で"ホイラー・グレイシーに初めてKO勝ちした男"となっての登場！ 当時の元気は、UFCとK-1 MAXに掛け持ちで出場しており、格闘家としての絶頂期！その勢いを駆ってホイス、ヒクソンへの挑戦、そして曙との対戦をブチ上げるなど、おおいにその心境を語った！

トリックスター須藤元気の格闘人生はRADICALで読める!!

注 No.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
販売元 (株)ダブルクロス 平日 13:00〜19:00



元祖！紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か？
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄祝・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL BACK NUMBER no.16〜87

格闘ノストラダムス！
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン──ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45 880yen '01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚"ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57 840yen '02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也&小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙：橋本&小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70 880yen '04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／草野仁

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83 880yen '05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙：前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

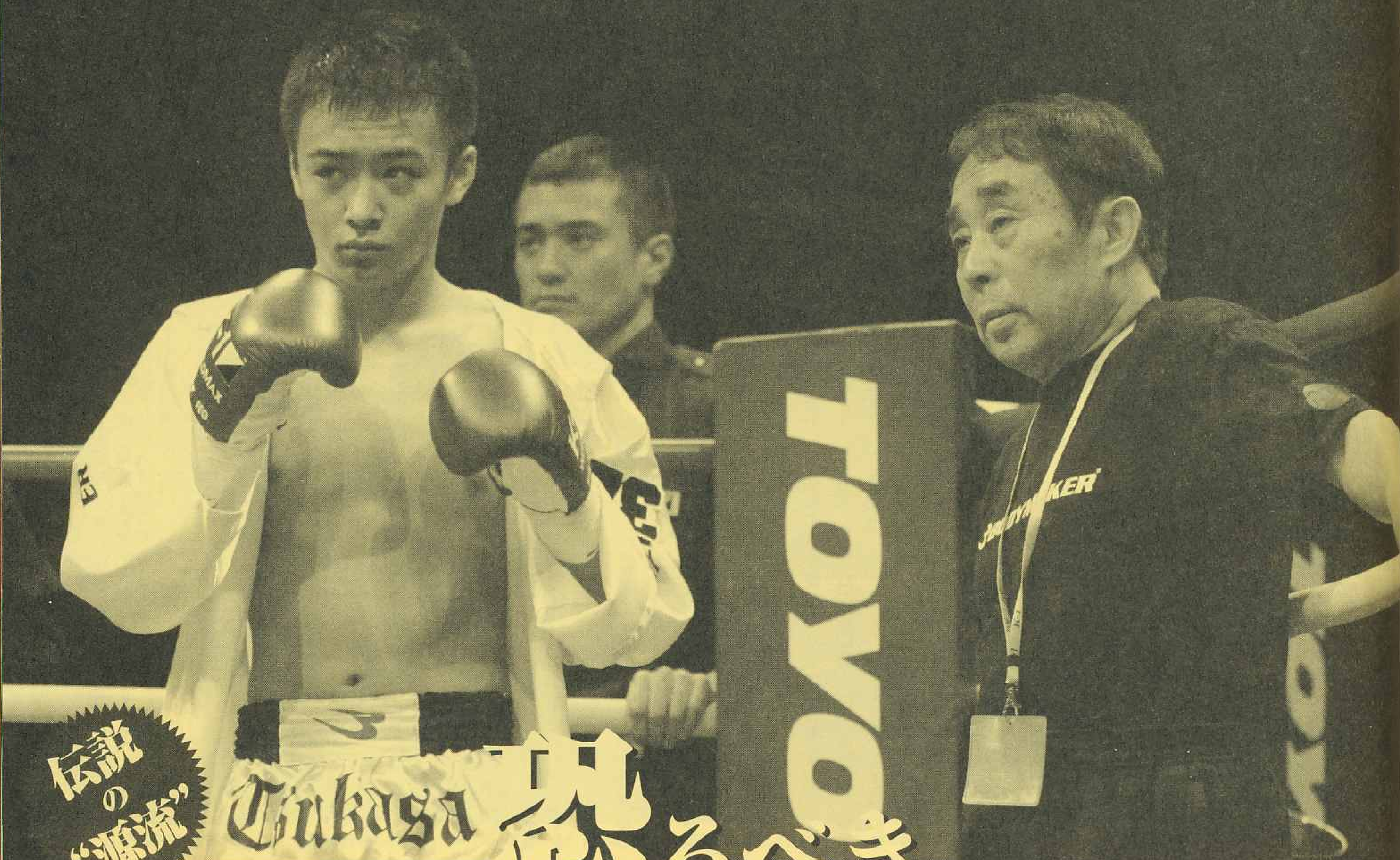
PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
!『kamipro Hand』で注文 " 電話注文 03-5368-1797 # メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。 ※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



松井館長、魔裟斗、そして藤門嘩裟を育てた
格闘業界屈指の名伯楽が激白!!



伝説の"源流"

恐るべき大山道場の世界とは?



藤ジム会長
加藤重夫

み〜んなふっ飛ばしちゃう! で毎度おなじみ、藤門嘩裟の"魂のトレーナー"こと加藤重夫会長のピン・インタビューがついに実現ッ!! 壮絶な真剣勝負となった4.9 HIROYA戦の後日談はもちろん、会長のルーツである伝説の大山道場のトンパチトークから、いまやジャンルを代表する存在となった数々の弟子たちまで存分に語りまくった!

聞き手/真下義之　試合撮影/乾晋也　写真協力/加藤重夫

HIROYA戦で鬥嘩裟は変わった 精神面も練習の姿勢も段違いです!!

——さて会長、今日はですね……。

会長　（さえぎって）あのね！　今日はぜひ、キミに食べてもらいたいものがあるんだよ！　このシンフォニーってヤツ！

——シ、シンフォニー!?（喫茶店のメニューを見て）あ、カフェシンフォニー（笑）。コーヒーゼリーの入ったパフェみたいなものですね。

会長　ま、こんな田舎でシンフォニーもクソもないんだけど。これがうまいんだよねぇ～。

——ぜひ、いただきます（笑）。今日は会長のルーツである極真空手時代の話なども聞きたいんですが、まずは、4月9日K－1MAX広島大会で素晴らしいシンフォニーを奏でたHIROYA vs藤鬥嘩裟戦から振り返っていただけますか？

会長　………（しばし考え込んで）。ま、非常にね。自分に対して勉強になったということです（しみじみと）。

——ほう、百戦錬磨の会長も勉強になりましたか！

会長　要するにね……。ちょっと俺は鬥嘩裟を買いかぶってた（キッパリ）。

——えええええ～～～～～～～～!!　そ、そうなんですか？　ウチは会長の熱に押されて、鬥嘩裟くんを何度も取り上げたんですが（笑）。

会長　これは、へんな意味じゃないよ！　もちろん彼の才能はズバ抜けているし、ホントに素晴らしい試合でした。ただ、なんといっても、あの子はまだ15歳ですからねぇ。

——ああ、そういった若さの部分も出てしまった、と。

会長　いままでにない大舞台ということもあったし、動きにしても、まったく本来の鬥嘩裟じゃなかったよね。ただし！　あの試合を観たとき、勝敗はどっちに転ぼうと、大きな意味を持つ、「鬥嘩裟の原点となるような試合になるな」と感じたんです。そしたら案の定ね、ずいぶん違います！

——あ、試合後に変わりましたか？

会長　変わった！　精神面もそう、練習に取り組む姿勢だって、もう段違いですから。

〈ここで、待望のカフェシンフォニーが到着〉

会長　（一口食べて）うん！　やっぱり、うまいッ！　キミも食べなさい。

——ダハハハハハ！　では、いただきながら失礼します。

会長　練習だって、広島から帰ってきた次の日からスタートしましたから。本人はな～んのダメージも受けてないんだから、正直言って!!

——ただ、鬥嘩裟くんの表情を一変させた3ラウンドのボディはかなり効いたと思うんですけど。

会長　本人は「効いてない」なんて言ってましたけど、自分は効いてると思いますよ。ただ、ボディは自分も経験はあるけどさ。疲れてる3ラウンドにヒットされてホントに効いてたならドーン！　と倒れるハズなんですよ。だから、俺はジーッと見てた！　なぜなら「ここで止めたら、ここまでの選手だな」と思ったんですよ。

——心が折れるかどうか？　という危険な状態ですよね。

会長　そう！　確かに効いてるかもしれないけど、残り時間はそんなにない。そこで最後まで踏ん張りぬきましたから。あの姿を観て、「あぁ、いい試合だったなぁ」と。「もう結果はどうでもいいや！」って。

——「なんていい試合なんだ」って、さわやかな感動がありましたよね。

会長　谷川さんも言ってたけどさ、16歳と15歳っていったらね、普通だったらあんな試合はできないですよ！　まして3分3ラウンドでお互い休まないでしょ。クリンチはしたけど両者ともいいヒザ蹴りを入れてる。だから、自分はほかのプロの選手に、あの姿勢を「おまえら、見習え！」って言いたいねぇ～。

——なるほど。

会長　これは一番大事なんだけど、プロと名のつく以上は迫力がなきゃいけないんですよ！　でも、こういうギリギリの試合をやれるプロが何人います？

——まさに相手の存在を奪い合うような、真剣勝負でしたから、

会長　そう！　それに自分が感心したのはお互いにヒザ蹴りを出してたけど、二人ともじ～つにさまになってるんです！　プロのキックボクサーだってヒザってのはさまにならない選手が多いでしょ。基本のできてないヒザ蹴りは、いっくら能書きここうとおもしろくないんだから。でも、これが本場のムエタイのヒザを見たら、ぜ～んぜん違う！　まるっきし違うんです！（興奮しながら）。ハッキリ言うなら、もう360度違うッ!!（キッパリ）

——会長、一周してます！（笑）。

会長　（聞かずに）まるっきり違うんだから!!　あとHIROYAくんだってね。あれだけ鬥嘩裟にバンバン前蹴りを蹴られて、その鼻血が鬥嘩裟のトランクスに飛び散ってたもんね。普通はあんなにバンバン蹴られてたら、グアーッと前に出てこれませんよぉ！　あんなに積極性のある選手はいまどき珍しい！　ジムを運営する人間としては、「これはほしい選手だなぁ」とまで思ったからねぇ。

——はぁ～。そこまで感心されましたか。

会長　それに試合後にHIROYAくんは「勉強が足らなかった」と言ったでしょ。その言葉を聞いたとき、「これは凄い選手になるなぁ」と思ったね。きちんと反省して次に活かすことができる。そのへんは鬥嘩裟も見習わなきゃいけない。ただ、HIROYAくんもああいう勝ち方じゃあ納得してねぇだろうし、鬥嘩裟もガックリきてたけど……。

——試合後はかなり落ち込んでいたみたいですね。

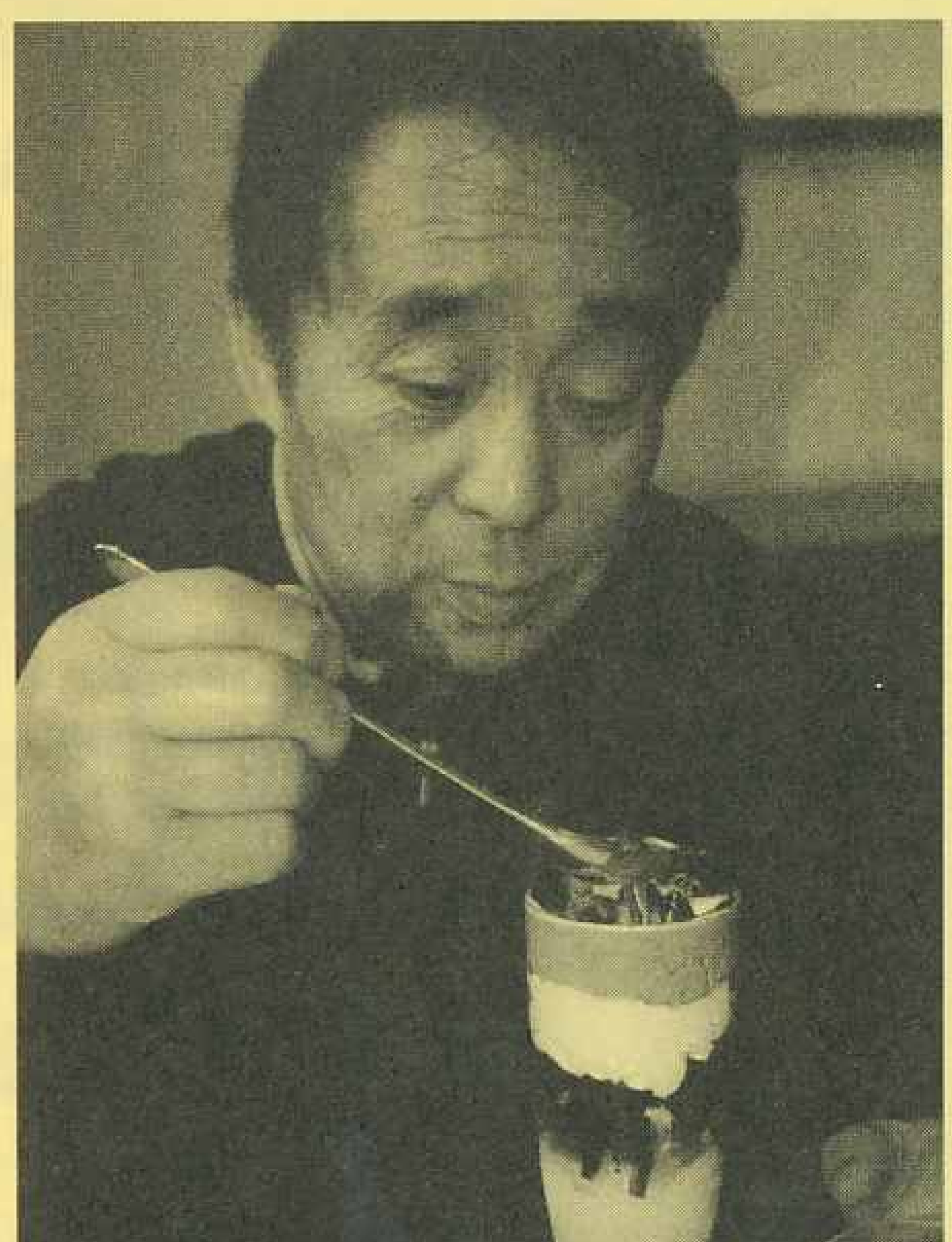
会長　じつは、鬥嘩裟はベストの状態でリングに上がるべきだったのに、ウェートコントロールに失敗してしまったんです。これは俺の責任なんだけど。

——二人の体格差はかなり言われてましたけど。調整がうまくいかなかったんですか？

会長　60キロ契約ということで、試合直前まで、体重をかなり上げて食事も好きに食べさせてたんです。練習量は落とさずに。試合の前々日に広島に行ったんだけど、行きの新幹線で鬥嘩裟を見て、「2キロくらい体重がオーバーしてるな」「これならロープ（縄跳び）とシャドウで落とせる」と。それで「2キロなら、前日の公開計量前に落としてもいいな」と思ったの。

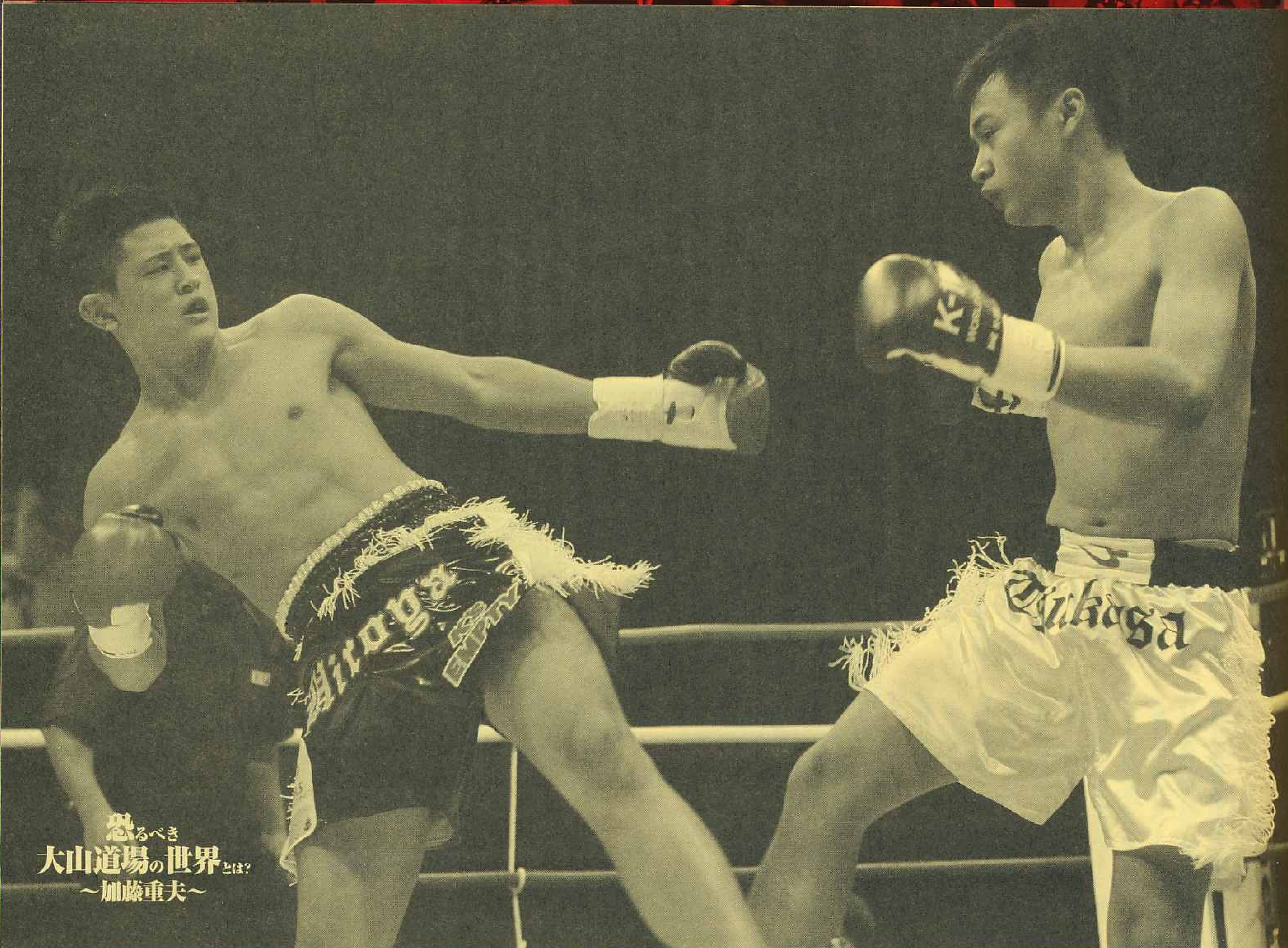
——どうせ落とすなら、ギリギリのほうがいい、と。

会長　ところが、広島のホテルに着



う～ん。うまいッ！　徹底した厳しい指導と炎上キャラでおなじみの会長だが、この日は、喫茶店チェーン『珈琲館』のコーヒーゼリーパフェが大好きであることも発覚！　店員に「いつものものですね」と言われるほどの大好物なんだって！





お互いの存在を奪い合う凄まじい真剣勝負となったHIROYA戦。試合に火をつけた門嘩裟くんの異様な負けん気のベースは、会長の原点である破天荒極まりない大山道場魂にあったのだ。

試合前々日に20キロも走っちゃった！それが失敗しちゃったんだよねぇ～

いたら、ヘルスメーターがなかった。ど～こ探してもないんだもん！

——ホテルに体重計がなかった？

会長　こんなの初めてだよ！　タイだって、ホテルに体重計はあるから。だから、その時点での体重はわからなかったんです。しょうがないから、軽く走らせようと思って、門嘩裟と一緒に出ようとしたら、携帯に電話がかかってきちゃった。そこで門嘩裟は「一人で走ってきます！」って行っちゃったの。それが失敗しちゃったんだよねぇ～。

——いったいどうされたんですか？

会長　本人いわく、道に迷っちゃって、地下道を通って、広島球場や原爆ドームに行ったり、もう市内をグルグル回っちゃったみたいで。その時点でイヤ～な予感はしたんですよ。そのときに、20キロくらいは確実に走っちゃった。

——道に迷って20キロも!!（笑）。

会長　で、次の日の計量がHIROYAくんは60キロジャスト、門嘩裟は58・1キロ！　計量時点でこれだけ差があるっていうのは、もう失敗なんです！　「俺の責任だ！」と落ち込んだねぇ。会見場で、谷川さんにも「20キロ以上、走っちゃったよ～」って言ったんだけど。意味はわかってなかっただろうね。

——谷川さんは、「20キロ走らせる」なんて、さすが極真魂！」と感心してましたけど、じつはグチみたいなものだった、と（笑）。

会長　そのオーバーワークの影響も試合で見えたんですよ。それでなくとも普通、試合の前々日はゆっくり休養をとるもんなんだから。

——でも実際、会長のハードな練習の基本は、極真からなんですよね。

会長　いや、極真というより大山道場ね！

——極真の前身であり、会長の原点でもある大山道場がメインですか。

会長　だけどね、ホントの大山道場の教え方じゃあ、誰もついてこない！　たとえば、〝足刀〟っていう足のカカトだけで蹴って、相手をあしらうような凄い人もいた。前蹴りが異様に得意なヤツ、回し蹴りや飛び蹴りはアイツが一番うまいって感じで、み～んな強烈な個性があったんですよ。

——流派としてバラバラだった。

会長　そう！　勝手に好きなことばっかりやってるんだから。なぜかと言うと、その大山道場が「素手で顔面を殴っていい」「髪をつかんでもいい」「金的もあり」というとんでもないルールだったから、自然とそうなっちゃったんです。そんなやり方してる道場ないでしょ。

——初期の大山道場は、初期UFCもビックリの〝なんでもあり〟だったんですね。

会長　何をやってもいいんですよ！　あれはヒドかったなぁ。倒れてる相手にもおもいっきり、顔面に入れてるヤツもいたし。相手は歯が飛び出してたもんね（笑）。



——そんなにデンジャラスな道場でしたか（笑）。じゃあ、かなり実戦に近いんですね？

会長　実戦ですよ！　気性の荒っぽいヤツばっかりだもん。しかも当時、場所は池袋のキッタないところにあったんだけど、場所柄キャバレーとかが近くにあったから、そこの女の子たちが見学に来るんですよ。なんか知らないけど（笑）。

——はぁ〜。キャバレーの女性が大山道場を見学に！

会長　そういうときは、も〜う荒れ放題になっちゃう。弱いヤツも強くなってメッチャクチャですよ！

——異様に張りきるわけですね（笑）。小柄な会長もそんな中でサバイブするにはかなりムチャをしたわけですか？

会長　やったねぇ〜。よく覚えてるのは、まだ入って間もない頃、昔は白と赤のコーナーに分かれて、勝ち抜き対抗戦をやるんです！　それで館長が「やれ！」って観てるんだけど、俺の相手は180センチを楽に超す大きなヤツで、大山館長も「大変なことになるぞ！」って止めさせようとした。でも先輩が「加藤は大丈夫です。動きが速いから、マトモには食らわないですよ」と言ってやらせてもらった。そしたら、こっちは始まったとたん、そいつのチンチンを蹴っ飛ばしてKOですよ！

——ダハハハハ！　チンチンでKO（笑）。

会長　狙ってたから、楽なもんですよ！　大山館長は怪訝な顔をしてたけど（笑）。それに俺はまだ白帯だった時期に、入って3ヵ月で号令をかけてましたからね。

——白帯で仕切ってましたか（笑）

会長　こっちはその前に陸上も本格的にやってたから、普通の入門生とは違いますよ。陸上で毎日、30キロくらい走って、それが終わって、道場に行って夕方の5時から夜11時まで練習をやっても疲れなかったんだから！

——毎日、30キロ！

会長　当時は刺青が入ってるおかしなヤツとかゴロゴロしてたし、そんな中、俺は誰よりも早く通ってた。入って半年間、一日も休まなかったからね。そこで大山館長は始めて俺を「加藤！」と呼んでくれたし、「もう月謝を払わなくていい」と。

——半年で月謝も免除!!

会長　それにね。昔は稽古着なんかはな〜んだっていいんだから。俺は柔道部のヤツに「古くなった柔道着をよこせ！」って言って、柔道着を着てやってたの。黒帯なのに剣道着の人だっていたんだから、

——柔道着でも剣道着でも関係ねぇ！　と。

会長　昔は組手だって、お互いに納得するまでやるし、先手必勝で汚ねぇことばかりやってたから！

俺はまだ白帯で、入って3カ月の頃から号令をかけてましたからね



見てみぃ、この手刀！　大山道場の中心メンバーとして活躍していた若き日の加藤会長の勇姿。そのスピーディな動きから大山館長は著書の中で“牛若丸”と評し、周囲には“稽古の虫”と呼ばれていた超努力家だった。

——のちの大山館長の教えには、先に手を出してはいけない。「空手に先手なし」という有名な言葉もありますけど。

会長　俺が教わった当時は「空手は先手あり！」だったから（笑）。

——ダハハハ！　最高ですね（笑）。

会長　「とにかく先手をとれ」「勝つと思わなきゃ、絶対に勝てない」という精神を叩き込まれましたよ。

——そのへんは、まさに「負けることは考えたことがない」という門嘩裟くんにも引き継がれてますね。あと会長は『空手バカ一代』に登場する、芦原（英幸）さんとも仲がよかったみたいで。

会長　アイツは後輩で、一緒にヤンチャばっかかしてたんだけどさ。練習になったら、いつも「コノヤロー！」って、バチバチ組手をやってましたから。しかもアイツは組手をやりながら、しゃべるんだよ。で、あるとき女の子が見学に来てて張りきってて、「いらっしゃい、いらっしゃい」と挑発されたの。それで「よーし」と思って、アイツは長身だから、髪の毛をつかんで下からアッパーをガーン！　と打ってやったの。そしたら芦原が「ウーッ！」とうなって倒れちゃった。

——うわ〜。えげつないですねぇ。

会長　それを見てた館長が「キミィ、これが空手だよ！」って（笑）。

——ダハハハハ！　凄いなぁ。

会長　まぁ、昔は組手だって、大山道場なんかはお互いに納得するまでやってたからね。

——でも、会長は身体が小さいという点で、ご苦労もされたのでは？

会長　そりゃあ、研究しましたよ〜。外人選手を見て、「こんなでっけえヤツをどうやって倒したらいいんだろう？」って途方にくれたりさ。でも、あるとき悟りを開いたんですよ。「マトモに行ったら勝てねぇんだから、ヤラれたときに耐えられる

加藤会長、トンパチ列伝!!

証言から発掘した「ヤンチャしてた」時代の加藤会長の驚愕エピソードをお届け!!



【入門初日からボコボコに！】

現在ももちろん、若いときも人一倍負けん気の強かった加藤会長。「生意気でしたよ〜。だから、道場に入った日からボコボコにされました」となんと大山道場入門初日からヒドイ目に遭った様子。まだ型も何も教わっていない時点で、『組手をやりたい人〜』って言うから、わけわかんないけど『はい！』って元気よく手を挙げちゃった（笑）」という会長。

最初は女子や学生、茶帯との組手からスタート。だが、入門前から陸上で「毎日、30キロは走ってた」と、鍛えまくっていた会長はちょっとやそっとでは息が上がらず、技もさほどもらわなかった。

なんと4番続けて組手を続けても、「まだ、やれます」と涼しい顔をしていたところ、「『生意気なヤローだ』って目をつけられて、黒帯の先輩にクチャクチャにやられちゃった」のだから、恐れ入る。

【米軍キャンプで米軍兵を撃墜！】

あるとき、大山館長からの指示で、神奈川県・座間の米軍キャンプに空手を指導しに行った会長。ところがいざキャンプに行ってみると、なぜか観客席もあるクリケットのコートで指導させられるという屈辱的な扱いだった。

型を教えても、つまらなそうでヤル気のない態度の米軍兵に会長は怒り心頭！さらに「クミテ！　クミテ！」「勝負してくれ」と不敵に対戦まで要求された会長は、「アッタマきたコノヤロー！」と怒りは沸点へ！　得意の前蹴りで「キンタマふっ飛ばしてやった！」と次々となぎ倒してしまったというのだから凄まじい。

だが練習の帰りに、その強さを認められた会長は米軍キャンプ内にある購買部で「おみやげをいっぱいいただいて帰ってきました。米軍キャンプ、サイコー」というから、ぬかりはないのだった。

【芦原氏と暴力バーを制裁ッ！】

『空手バカ一代』の登場人物としても知られる芦原カラテの創設者・芦原英幸氏とは、「大山道場時代、一番ヤンチャ



門嘩裟は800本蹴りですが、自分のときは千本蹴りでしたから

だけの身体を作ろう」と思って。それで、前転後転という練習を編み出したんです！

——前転後転……、つまり受け身的な練習ということですか。

会長　そう！　前転後転をとにかくやり続けましたよ～。目は回るし、気持ち悪くなるし。でも、これをやると肩も柔らかくなる、ヒザも柔らかくなる。これはいまのジムでもやらせてますから。そのおかげでオーストラリアに行ったとき、2メートルくらいあるデカいヤツにブッ飛ばされたときだって、ケガはしなかったから。

——ちなみに門嘩裟くんも練習で800本蹴りをやってますけど。これも大山道場ゆずりですか。

会長　やったねぇ！　ただし、自分のときは千本蹴りですけど。

——会長は千本蹴り！

会長　ほかのヤツは「やってらんないよ」って感じだったけど。大山館長に「千本蹴れば強くなる」って言われたのを、鵜呑みにしてやってましたよ。しかも練習中じゃないよ！　練習がぜ～んぶ終わったあとにやるんです。

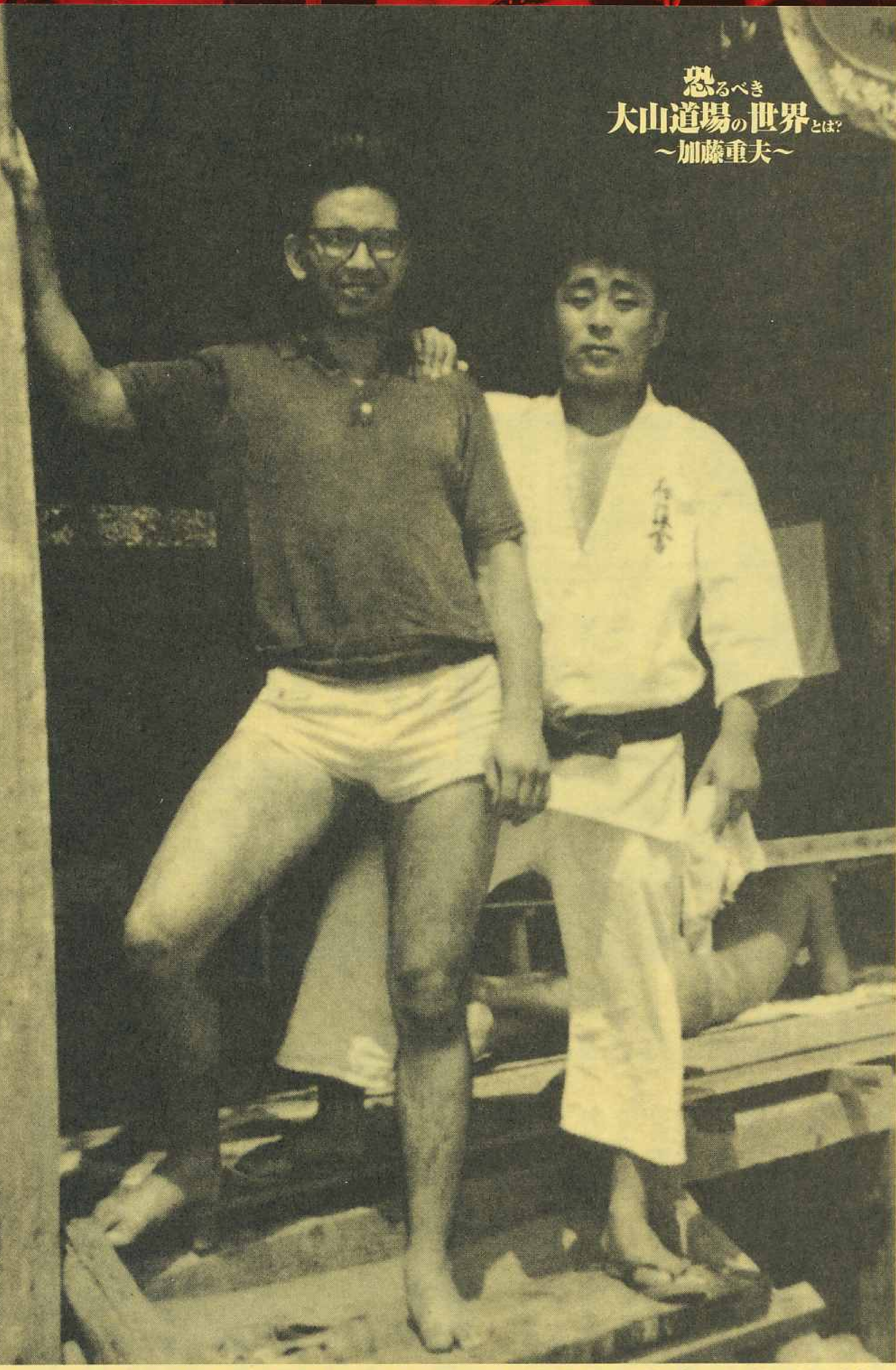
——ホントにクタクタのときから、スタートするわけですか。

会長　じゃないと意味ないんです。完全な千本蹴りってのはキッツイよぉ～！　前蹴りのカカトをつけないでやるんですから。

——そこで会長が藤門嘩裟くんに伝授した前蹴りが刷り込まれたわけですか。

会長　そう！　自分の技の原点は、前蹴りでしょうね。俺が46キロくらいのとき、100キロくらいのヤツ

恐るべき大山道場の世界とは？ ～加藤重夫～



ヤンチャ極まりなかった会長の若き日の姿。入門のきっかけはたまたま大山道場の近くを通っていた会長が、「ここが牛と闘った空手の先生のいるところか」とのぞきこんだところ、道場にいた大山館長から「入れよ」と直々に入門を薦められたというから最高だ。

をした」兄弟分的な仲であり、しょっちゅう一緒にケンカをしたり、「なぜかいつもウチでメシを食わせてた」という家族ぐるみの付き合いだった様子。

会長に負けず劣らずトンパチだった芦原氏は、池袋の暴力団とは知らずにケンカをふっかけてしまい、「もしかして今晩、教われるかもしれません。一緒に闘ってください」と懇願されて家に向かった会長。「なぜかベッドの下に自作の日本刀があった。アイツはなんでも作っちゃうんだよ！　またそれがキレるんだよねぇ～」と自作の日本刀を披露されたというから、物騒極まりない（結局、この日は暴力団は来なかった）。

またあるとき、板橋の町で二人で飲みに行き、ひとしきり飲んだあとでお勘定を見てビックリ！　なんとそこは陰湿な暴力バーだったのだ。「あの当時はけっこう、そういう店が多かったんだよ」。だが、ケンカ好きの二人は慌てず騒がず、丁重にボーイさんをボコボコにして帰ってきたというから、さすがなのだ。

【オーストラリアで無抵抗の大勝負！】

68年、大山館長から極真初の海外指導員として、オーストラリアの指導員に派遣された加藤会長。「大歓迎してくれる」という言葉を信じて渡航すると、その道場は極真会館とは名ばかり、巨漢のオーストラリア人がテコンドーなどを中心に勝手に練習を行なっていた。そこで、会長は「トップの人間を組手でやっつけてった。じゃないと誰も言うことを聞かねぇんだから」と実力行使に出る。

最終的に「言うことを聞くようになるまで3ヵ月かかった」というが、なんと一度は「無抵抗の俺をノックアウトしたら、おまえらの好きなようにやれ。ただし俺が倒れなかったら、言うことを聞け！」とガンジーもビックリの無抵抗主義の大勝負に出る。

小兵の会長に対して、立ち向かったのは190センチほどの巨体のピーター。自分の腹をおもいきり殴らせた会長は「ほとんど効かなかった。腹筋はメチャクチャ鍛えてたから」と見事に耐えたが、「そこで『もう下がっていいよ』、『かかってこい』」と勘違いしたピーターがノーガードの俺の顔にバコーン！　と入れやがった」と一撃で顔面は血だらけ状態に!!

その夜、大山館長にその出来事を手紙にしたためた会長は、「私は極真の未来のために絶対に倒れませんでした。でも、この手紙を書いているあいだも血が止まりません……」と、顔面から血を流しながら記したというのだから、壮絶すぎ！

松井館長は自分が教えた人間の中で全然別格!! レベルが違うんです!!

と試合をしたって、グーンと相手を押しちゃったんだから。あとはヒジ！　つかまえてヒジで足の指を折っちゃったらどんなデカイ外人だって、イチコロですから。

――外人の足の指を折っていた!?

会長　そうぉ！　どんなヤツだって、足の指が折れたら、立ってられませんから！　さすがにそういう技は教えてないけどさ（笑）。

――ただ、練習や勝負への厳しい精神性の部分は教えてらっしゃる、と。

会長　そうだね。ただ、これが空手だったら、礼に始まり礼に終わるっていう礼説があるけど、キックはそうじゃないから。門嗹裟は15歳だけど、キックってすぐ周りがチヤホヤしちゃうでしょ。礼儀正しい空手出身の選手が入ってくると、逆に態度は悪くなりますから。人間というのは、いい方向にはなかなか進まないけど、悪い方向にはいっぺんに進んじゃうんですよ。

――なるほど。同じく会長が10代から育ててあげた、松井章圭（極真会館・松井派館長）さんがいますけど。

会長　いやいや、松井館長は全然別格です！（キッパリ）。よく先生と弟子の関係で「おまえは、昔はどうのこうの」なんて言うけどさ、そういうレベルじゃないもん。なんたって極真会館の館長さんなんだから。自分が教えてきた人間の中では、はるかに段違いですから！

――段違い！　ただ門嗹裟くんと同じように、早くからその才能を見抜かれてますよね。12歳で知り合って、14歳のときに会長の独断で黒帯を渡されて。周囲は猛反対だったみたいですけど。

会長　もうねぇ～、各地の支部長とかからボロクソに言われましたよ！　大山館長にもさんざん怒られたしね。「加藤！　おまえ、何を勘違いしてるんだ！　何が黒帯だ！」と。でもそこで俺は絶対に曲げなかった。「この男は将来、必ず極真会館を背負って立つ男になります。だから黒帯にしたんです」と館長に手紙を送ったんです。

――それをまた、大山館長も机の中にずっと大切に取っておいたらしいですね。

会長　そうだね。ただ、各地の支部長連中もギャンギャン言ってるんだから。そしたらある師範が、「加藤くん、ウチに連れておいでよ」っていうから、連れていって組手をやらせたら、「加藤くん……黒帯だよ」って一発で認めてくれましたよ。

――実力で認めさせた、と。そこも門嗹裟くんと通じますね。

会長　でも、俺が小さい頃の松井館長に言ったのは、「人間というのは、こういうことやる以上は痛い、ツライ、苦しい、の3つは絶対に言うなよ」と。松井館長は、自分がそういったら一度も言わなかった。つまり、彼はレベルが違うんです！

――人間としてのレベルが違う！

会長　館長になったいまだって、会うと自分をしっかりと立ててくれるからね。……そういえば、このあいだK-1MAXでは、ホテルに入ったとたん、「会長～！」って声が聞こえて、走ってくるヤツがいたんだよ。よく見たら魔裟斗だったんだけど（笑）。

――もう一人の会長の伝説の弟子、魔裟斗選手でしたか。

会長　そういうふうに声をかけられると、嬉しいですよ（しみじみと）。

――魔裟斗さんは結果的に会長のもとから去ったかたちになりましたけど、関係も良好なんですね。

会長　なんの問題もないですよ。このあいだのMAXの記者会見のときも自分が座ってて居眠りこいてたら、隣に魔裟斗が座ってね。谷川さんが「あ、いい光景ですねぇ～」なんて言ってたけど（笑）。

――しかし、会長はホントに若くて、優秀な弟子との縁がありますねぇ。いまやジャンルを支えている人ばっかりですもんね。

会長　俺は魔裟斗のときも、まだデビュー前に「この選手は、キック界をし背負って立つ男になる！」と断言したんです。そしたら、「なるわけねぇや！」ってずいぶんと叩かれたんだから。

――ワールドユースでも10代の選手が多いことで、一部の格闘技雑誌では、危険性の部分を懸念している記事も出てるんです。「本来なら、ヘッドギアをするべきだ」とか。

会長　そういう意見は絶対に出ますよ！　だから門嗹裟が14歳のときにプロのリングに上げたときも、ずいぶん叩かれましたよ。力いっぱいね！　だけど、自分はいろんな練習を積ませてたし、やっぱりキックというのはボクシングなんかと比べたら、コミッショナーもない。組織的に小さい部分もあるし、地方で適当にやってるような、いいかげんなところもあるんです。

――いまのプロレス界とも通じる部分がありますね。

会長　ただ、自分が言いたいのは、サッカーや剣道、要するにほかの競技に危険性がないかって言ったらウソですよ！　だからオリンピックは何歳までは出れないとか、規定を引いているワケです。でもね、考えてごらんなさい！　じゃあ、少年野球は危なくないですか？　あのボールが顔面にバーンと当たったら、キックなんてもんじゃないよ。

――守備のときはヘルメットしているわけじゃないですし。

会長　サッカーだってそうじゃない？　試合中に蹴っ飛ばされて血を吹いちゃっているのなんか、なんべんも見たことありますよ。サッカーなんて、試合になったら「ボールじゃなくて、相手を蹴っちゃえ！」なんてことがあるでしょ。

――スライディングで相手を潰しにかかることもありますから。

会長　自分が言いたいのは、「危険性がある」という言葉が出た以上、やめるべきですよ！　でも、いまの門嗹裟の試合を観て、本当に危険性があると思います？

――会長はしっかりした練習をやっている自信があるわけですよね。





（写真上）まだ少年時代の松井館長と加藤会長のりりしい姿、この写真は大きく引き伸ばされ藤ジムの玄関に飾ってあるから、その思い入れの大きさがうかがい知れる。（写真下）同じく、"伝説の弟子" 魔裟斗との貴重なショット、屈指の名伯楽ぶりの証である。



あの練習量をこなす門嗟裟が試合で危険なら、大人だって危険ですよぉ!!

会長 そりゃ、ウチのジムに半年に一回来るような高校生を焚きつけて、リングに上げたら大変なことになっちゃいます! だから門嗟裟のことを見て、誰でもできるなんて勘違いしたら、これは困るんですよ。門嗟裟にはホントに毎日20キロ走らせてる。バック走も3〜4キロ走ってる。下半身の筋肉なんて一流のアスリートに負けないくらいの筋力がついてる! 練習だって、スパーリングを60ラウンドやらしてる。さっきも言ったように800本蹴りだってこなしている! こんな人間が試合をやって危険ならば、大人の連中だって、み〜んな危険ですよぉお!

——いや〜、確かにそうですね。

会長 それよりさ、取材のときだけエラそうなこと言ってさ。裏に行ったらタバコ吸って、ビール飲んで、ガバーッと寝てさ! 練習はチャッチャッと30分くらい適当にやって。「ベンチを100キロ持ち上げた!」とか。そんなヤツのほうがよ〜っぽど危険なんですよぉお!!(と大炎上して)。

——ダハハハハハ! 門嗟裟くんを見習わなきゃいけない選手はたくさんいますよね。

会長 ただしね。今後どうなるか知らんけど、K-1ワールドユースに出てる10代の選手も、同じように一生懸命練習しているだろうけど。いま出てる選手たちもドンドン、試合のチャンスを与えなかったら、ダメになっちゃいます。門嗟裟にはキックのリングもあるけどね。

——そのK-1との関係は今後、どうなっていきそうですか?

会長 自分は、絶対に選手に押しつけないんですよ。「やるか?」と聞いて「やる!」と言ったら、「じゃあ、やれ」と。門嗟裟が「やる」と言えばやらせます。ただし! やるからには、今度は負けるわけにはいかないですよ(ギロリと睨んで)。

——門嗟裟くんの気持ち的にはどうなんでしょう?

会長 気持ち的には、悔しいでしょう。HIROYA戦が終わったあと、駅前で一緒にメシを食って帰るときも、「試合を観たけど、いい試合でした!」とか、たくさん声をかけられたし、こういう言葉が出るってことはホントに素晴らしい試合だったってことなんだけど、負けた試合ですから、反省もしなくちゃいけない。だから、6月1日にタイ人とやるんだけど……。

——えっ! 次の試合がもう決まったんですか?

会長 うん。(チャンプア・)ゲッソンリットの名門ジムの選手で、元ルンピニー・フライ級ランカーの選手(ヨンユット・JTクラブジム)です。フライ級っていうのはトップレベルですから!



かとう・しげお■1942年5月4日、東京板橋区出身。58年に大山道場に入門。故大山倍達総裁の高弟として極真会館創草期を支えた。68年に"海外指導員第一号"としてオーストラリアに派遣。帰国後は後進の指導に従事。06年に天空キックボクシング協会を設立。あの松井章圭氏(極真会館松井派館長)、魔娑斗を育てた名伯楽として知られる。

——そんな選手とやらせるわけですか!

会長 やりますよぉぉぉぉ!! だから、今回の敗戦の悔しさをバネにできるか、その結果が6月1日に出ます。ただ、俺は今回の試合が、デビューした頃の魔娑斗が大爆発したようなターニングポイントの試合になると思うんですよ。フフフフフ(と不敵な笑みで)。

——なるほど〜。それから、HIROYAくんとの再戦も観たいですけど、ほかの選手、たとえば才賀紀左衛門との対戦はいかがですか?

会長 いいですよ! 門嗟裟がなんというか知らないけど、望むところですよ。まぁ、俺もやったらいい試合になると思うけどね。どっちも蹴り技が綺麗だから。それはK-1側に言ってくださいよ。やっぱりね、凄い選手になるにはライバルって必要なんだよね。魔娑斗だって、なんだかんだ言ったって最初に小比類巻(貴之)に負けたからこそ、いまの魔娑斗がある。だからHIROYAくんとはまたやらせたいけど……あるんですかねぇ。

——う〜ん。その可能性は高いでしょうけど。(取材の後日、『K-1甲子園』の開催が決定。谷川代表はHIROYAや藤門嗟裟の参戦を示唆)。

会長 ただし、俺にとっては今回、門嗟裟がK-1という大舞台に出た、それによって門嗟裟が変わった。そこを一番期待してたし、そういうふうになったからね。こちらも怒るときは前以上に、より気合いを入れて怒ってるからね!

——さらに気合いを入れてますか。

会長 だから申し訳ないけど、今度のタイ人は完全に次のステップへの試験台です! しかもね、もう一つHIROYA戦に備えて、もの凄い技を教えたんですよ。これには俺もビックリしたんだけどさ。

——さらなる新必殺技を伝授したんですか?

会長 そう、試合の二日前に教えたんです。ハッキリ言っちゃうと……カカト落しね!

——カカト落とし!! まさに極真の代名詞的な技じゃないですか。

会長 これがまた綺麗に決まっちゃったんですよ。もうちょっと深く入ったら、完全にイッちゃってた! しかもテレビで谷川さんが解説しながら、つぶやいてるんですよ。「あっ、カカト落とし」って(笑)。

——極真大好きのサダハルンバも反応してましたか(笑)。

会長 門嗟裟がコーナーを背にして、HIROYAくんと顔と顔がくっついているところから、スーッと入ってパーン! とやったんです! こんなのは普通の選手ではできませんッ!

——二日前に教えて、見事に披露!

会長 「おまえはカカト落とし、できるよ」と。「アンディ・フグよりうまいよ」って。今度はこれを完成させますから! その試験台がタイ人ですよ(ニヤリと笑って)。

——う〜ん。またまた門嗟裟くんの幻想が膨らむなぁ〜〜。では会長、今後もご活躍を期待してます!

会長 まぁ、任せてちょうだいよ! これからも誰だって、ふっ飛ばしちゃうから!

【08年4月23日/埼玉県・藤ジム近くの喫茶店『珈琲館』にて収録】

今度はムエタイ! 門嗟裟くんの次戦を見届けろ!

J-NETWORK
『Let's Kick with J the 3rd』
東京・ディファ有明 開場15:30 開始16:00

【対戦カード】
[日泰3vs3対抗戦 ライト級]
細野岳範(チームドラゴン)VSシラー・トーバンセン(センモラコットジム)
[日泰3vs3対抗戦 59kg契約]
AKIRA(チームドラゴン)VSヨーユット(NJKF/センチャイジム)
[日泰3vs3対抗戦 56kg契約]
藤門嗟裟(天空/藤ジム)VSヨンユット・JTクラブジム(JTクラブ厚木)

【お問い合わせ】
J-NETWORK/TEL.03-3419-0536

kamipro SHOPPING

Back Number

< RADICAL 特選劇場 >
新弟子からやってるヒマはない！
元気式成り上がり術、ここにあり!!

●須藤元気の本誌初登場は

トリックスター
須藤元気の
格闘人生は

なん

テリー・ファンクが辞めるまで私は引退しない！



四六判ハードカバー　328ページ　定価＝2,520円（本体2,400円＋税）

アメリカン・ドリーム
ダスティ・ローデス自伝

DUSTY

ダスティ・ローデス&ハワード・ブロディ 著

これぞ、ショーマンシップの真髄!!

この体型で、このルックスで、なぜトップに君臨できたのか？
そして60歳をすぎてもなお現役を続ける理由とは、
さらにはプロレスラーの教訓「ビジネスはビジネス」とは、
プロレスにおける「アメリカン・ドリーム」とは何か？



全国書店にて
“バイオニック・エルボー”
炸裂の勢いで **絶賛発売中!!**

好評既刊　エンターブレインのプロレス書籍

オフィシャル自伝シリーズで“レジェンド”の生きざまを学べ！

“プロレス”に魅せられた
“レジェンド”の激白！



テリー・ファンク自伝
人生は超ハードコア！
テリー・ファンク&スコット・E・ウィリアムス 著

四六判ハードカバー　500ページ
定価＝2,520円（本体2,400円＋税）

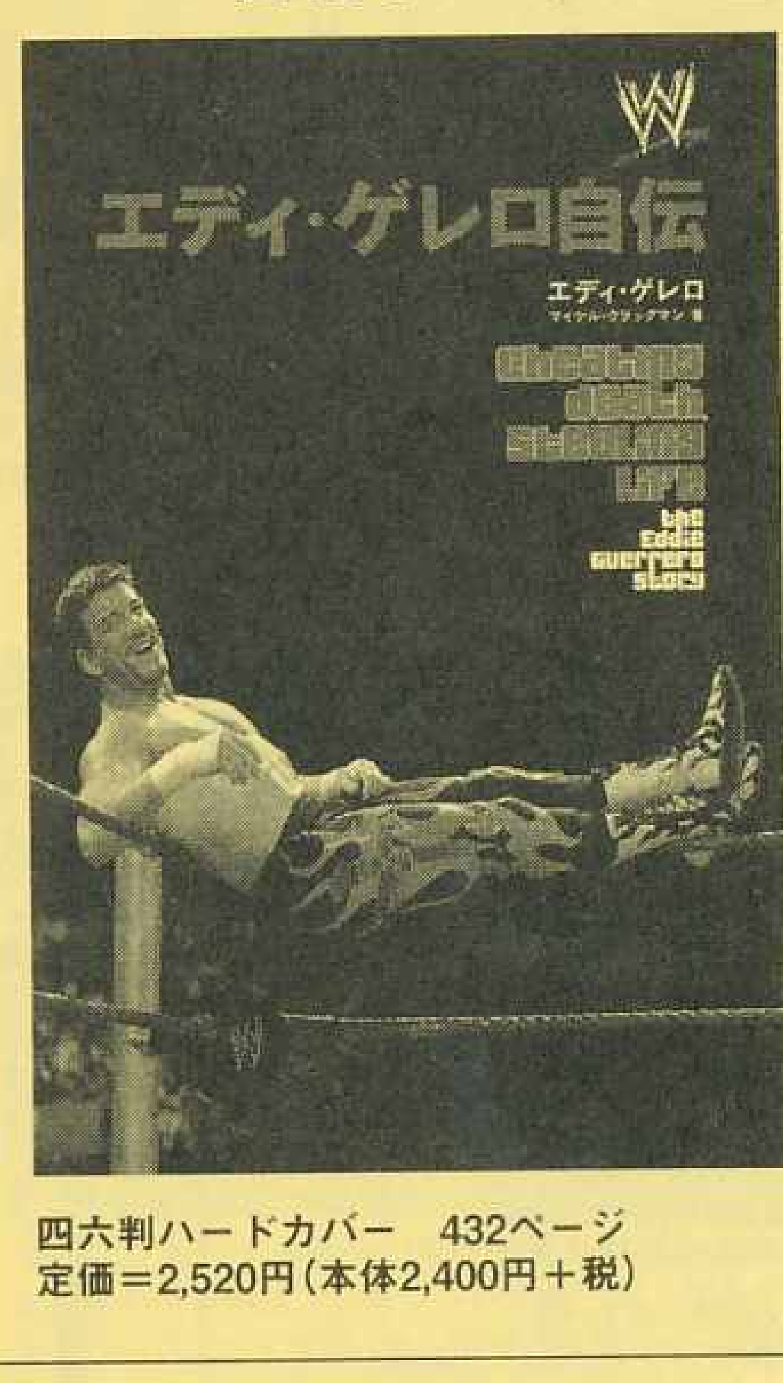
リングの上だけでなく
人生のすべてがまさにキング！



ハーリー・レイス自伝
キング・オブ・ザ・リング
ハーリー・レイス&ジェリー・トリッツ 著

四六判ハードカバー　328ページ
定価＝2,520円（本体2,400円＋税）

酒とドラッグと愛と勇気の
壮絶なレスラー人生!!



エディ・ゲレロ自伝
エディ・ゲレロ&マイケル・クラッグマン 著

四六判ハードカバー　432ページ
定価＝2,520円（本体2,400円＋税）

enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）　■通信販売のお問い合わせ先　http://www.enterbrain.co.jp/

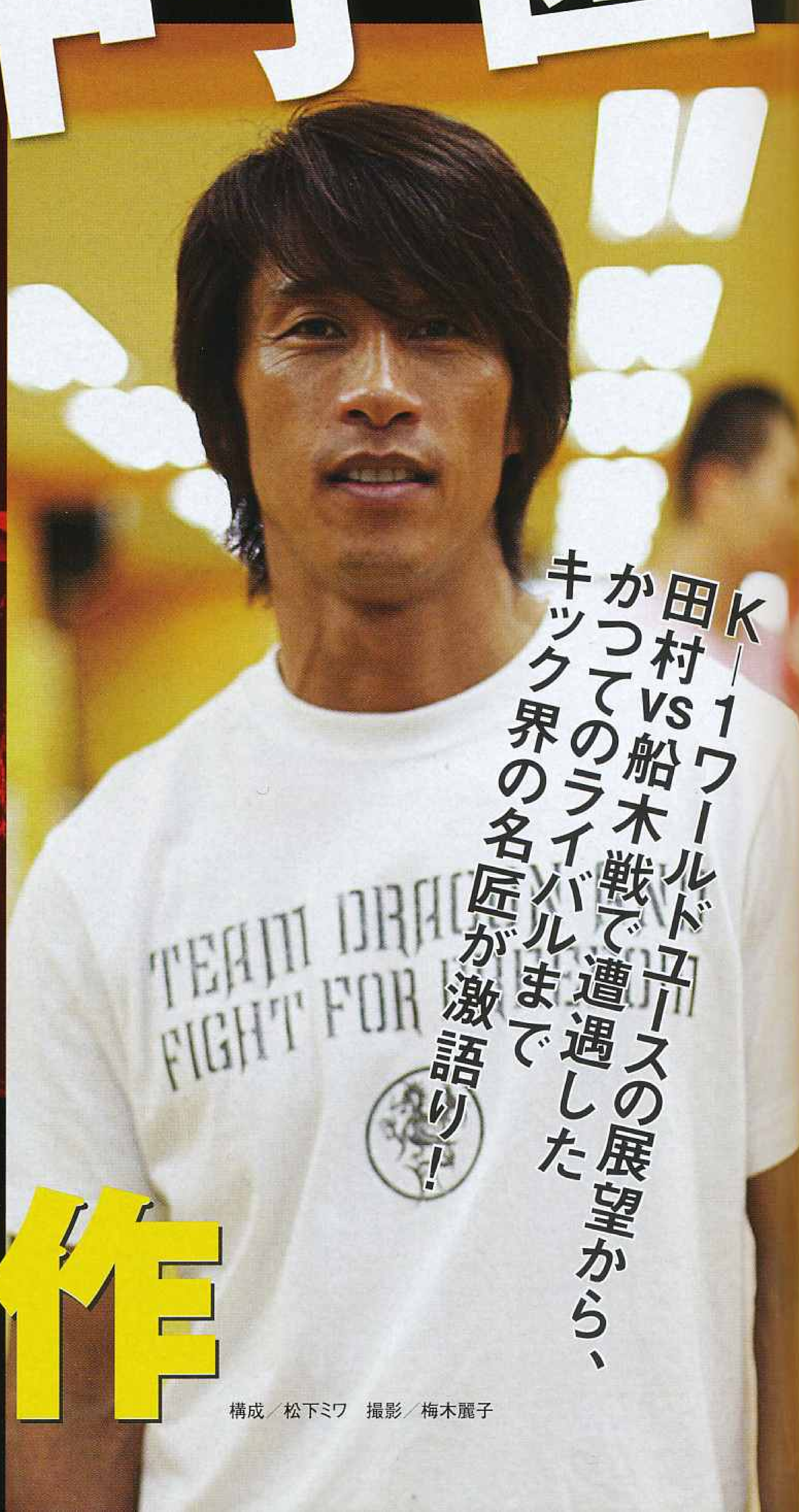


熱狂！

6月には全国行脚がスタート！

K-1甲子園





K―1ワールドユースの展望から、
田村vs船木戦で遭遇した
かつてのライバルまで
キック界の名匠が激語り！

K-1ワールドユース監督

前田憲作

構成／松下ミワ　撮影／梅木麗子

我らがK−1ワールドユースの〝ボス〟がついに登場〜ッ！

これまでHIROYA vs 藤門嘩裟戦をはじめ、〝おしゃべり野郎〟才賀紀左衛門や、藤門嘩裟の名師匠・加藤会長など、K−1ワールドユースをとりまくさまざまな、そしてヒリヒリとした人間模様をお伝えしてきた『kamipro』だが、ユースをクローズアップするにあたりK−1ワールドユース監督に就任した前田憲作氏を取り上げないわけにはいかない！

そもそもK−1ワールドユースといえば、07年大晦日に行なわれた『K−1甲子園』を皮切りに、HIROYAをはじめとする次世代のK−1ファイターを育てるべく行なわれているプロジェクト。今年1月にはそれに本腰を入れるべく、「ボクの中でユースは本当にイキイキやってる物件だよお！」と胸を張る〝ジャニー谷川〟ことサダハルンバは、ここに登場する前田氏を監督に据え、ユース勢の育成にさらに力を入れはじめたのである。

その前田氏の一番最初の仕事となったのが、2月K−1MAX日本武道館大会で行なわれた日本vsオランダの3vs3の対抗戦。ここでいきなり日本が3戦3勝という好成績を残した。そして、今年6月からは『K−1甲子園』が全国スケールで展開されることが発表されるではないか！ 本家・甲子園の高校野球のように全国各ブロックで優勝者を決定し、9月には07年『K−1甲子園』チャンピオンである雄大やHIROYAら交えてトーナメントを開催することとなっているのだ。

こうして着々とプロジェクトを遂行するK−1ワールドユース。その監督である前田氏はユース勢にどんな夢を抱いているのか!? かつての〝ライバル〟たちと繰り広げた〝熱戦〟の様子など、自身の現役時代の経験を交えて語ってくれた！

——今日はK−1ワールドユースの監督であり、現役時代はキック界で一世を風靡した前田憲作さんにお話をうかがいに参りました。よろしくお願いします！

前田 はい！

——いろいろお聞きしたいことはあるんですが、まず、K−1ユースの監督になられた経緯から教えてもらえますか？

前田 いや、もうそのまま、谷川さんから話がありました。「監督やってよ」って感じで。

——ああ、谷川さんがお願いしている姿は凄く想像できます（笑）。でも、前田さん的には二つ返事でOKだったんでしょうか？

前田 いや、やっぱりどういう主旨なのかがわからなかったから、いろいろ話を聞きました。でも、将来のK−1選手を育てる上で今回の仕事ってやっぱり大事なことじゃないですか。自分も格闘技界にはずっとお世話になってきたんで、格闘技に恩返しをするために強い選手をK−1に送り込むことでそれが達成できればと思ったんですよ。それが一番の恩返しだって。だから、お役に立てたら嬉しいなと思って、よく考えてから返事をしました。



まえだ・けんさく■1968年5月9日、神奈川県出身。1990年代にキックボクシング界を牽引したキック界のスーパースター。最大のライバルである立嶋篤史とは、92年7月にタイトル戦を闘い、見事に全日本フェザー級王座獲得。翌年、同じく立嶋とのタイトルマッチではNKホールを満員にするなど、二人の闘いはキック界において当時としては異例の大フィーバーを巻き起こした。02年に現役引退。その後、龍道場（ドラゴンドージョー）を立ち上げ、現在は澤屋敷純一をはじめ数々の名ファイターを育て上げている。K-1ワールドユースの監督には08年1月に就任。

僕が求めているのはK−1MAXができた当時のスタイルなんですよ

——最初、監督って言われてどんなものをイメージしました？ たとえば、誰かを思い浮かべたりとかは？

前田 ……（しばらく考えて）ない！

——ないですか！

前田 僕、あんまりほかの人を意識しないんですよね、昔から。

——そうでしたか。実際、監督になられたのは1月下旬ですよね。その前の07年大晦日で一度『K−1甲子園』が行なわれましたが、それはご覧になってました？

前田 観てました。でも、そのときは「若さがないなあ」って思いながら観てましたね。

——もの足りない感じでしたか。

前田 僕が求めてる世界は、K−1MAXができた当時の、あの魔裟斗ががむしゃらに闘ってたスタイルが理想的という感じですから。だから、もっと彼らにはガツガツいってほしかったです。あんまり若いうちから技術に走らないでほしいです。それより、もっといく姿勢を見せてほしいし、そうあってほしいですね。

——でも、最近のマット界ではK−1ユースが一番ガッガツしてるように見えるんですけど（笑）。

前田 そう！ だから、今年に入ってからはおもしろいですよ。HIROYA vs 藤門嘩裟戦もおもしろかったですしねえ。ああいう試合がもっと増えてこないと。

——それで、前田さんが現役時代のときのお話も混ぜながらうかがいたいんですけど、さきほど、K−1MAXが出てきた頃のガッガツ感じが足りないという話がありましたが、前田さんのキック全盛時代というのは、ちょうどK−1が出てきた頃と重なりますよね。

前田 そうですね。

——全日本キックでバチバチ闘っている一方で、K−1が盛り上がってるという当時の状況についてはどんなふうにご覧になってました？

前田 うーん、当時ってけっこうK−1を批判する人は多かったと思うんですけど、でも、僕はイベントとしてK−1の興行は、キックは見習わないといけないんじゃないかって思ってました。

——イベント全体を考えたときにってことですね。

前田 あーだこーだ言うんじゃなくてね。みんな選手はそれを求めてるんだから。

熱狂! K-1甲子園



10代の高校生によって繰り広げられる『K-1甲子園』。残念ながら、もはや高校生ではない紀左衛門はアウト! ということになるが、HIROYAや藤門嘩裟らの参戦の可能性もあるこの大会。あの"殺伐"とした空間がよみがえるなんて。考えただけでも鳥肌モノである!

――でも、いまでもやっぱりキックとK―1って大きく違うものですか? もちろんルールは違うと思いますけど。

前田　別ものですね。まったく違うものだと思います。

――ただ、キックでチャンピオンになると、それからK―1に参戦する選手って多いじゃないですか。そういうのって、ある意味"上がり"的なイメージもありますが、キックボクサーからすると、そういう風潮をあまりよく思ってない人が多いんですかね。

前田　うーん。そこも分かれるんじゃないですか? K―1に興味がない人と、K―1に上がりたいという人と。

――そのポイントになるのはメディアへの露出だったりするんでしょうか。

前田　だと思いますね。僕はもし自分が現役のときにK―1があったらやっぱり上がりたかったですから。でも、ムエタイに走る人もいれば、K―1という舞台に向かう人もいる。そこが分かれ目ですよね。

――K―1ワールドユースができたいま、もうキックを通過しないでそのままK―1に上がる選手とかも出てきますよね。

前田　そうでしょうね。『K―1甲子園』を通過して、ユースに選抜されて。それでK―1MAXだったり、WGPに出て行くパターンもあるかもしれないです。

――純粋なK―1選手が生まれる可能性は増えると思うんですけど、そのメリットってどんなことがあると思いますか?

前田　それは本当にいい選手がどんどん育ってくれるだろうし、そうなると単純にK―1がもっとおもしろくなりますよ。

――なるほど。では、逆にデメリット……というと凄くへんな質問になりますけど。

前田　悪い面ですか? うーん、僕はいまのところ見当たらないですね。けっこう楽しみのほうが多いです。現に、レベル高いですよ、10代は。うちの道場でも、アマチュア大会とか新空手の選手がたくさん練習に来てるんですけど、10代が活躍してるんですよ。

――そうなんですか。

前田　10代が20代の子を倒しちゃってるんですもん。で、優勝してるんです。だから、ああいう子たちって絶対に見逃しちゃいけないと思うんですよ。だから僕としては『K―1甲子園』ができたことで、全国いろんな現場に出向いて行って、自分の目でしっかり選手を見て、ダイアモンドの原石をしっかり発掘していきたいなと思ってるんですよ。それが僕の仕事です。

――前田さん自ら全国を回る、と!?

前田　はい。そこで発掘して育てるのが僕の仕事です。

――でも高校生となると、時折、就職だとかなんとかでもの凄い逸材がK―1を離れていく可能性も考えられますよねえ。

前田　ああ～。それを考えると、いいことばっかりじゃないですね(苦笑)。でも、僕はやっぱりユースをおもしろくしたいし、ユースを卒業してもK―1MAXに送り込んだりWGPに送り込んだり、K―1全体をおもしろくしたい。それしか考えてないです。自分はやりますよ(眼光鋭く)。

――ただ、紀左衛門選手はよく考えるとあと1年でユースを卒業しちゃうんですけどね(笑)。

前田　そこは、野球の甲子園と同じでいいんですよ。甲子園と同じようにスターがどんどん出てきて、卒業したらどんどんプロに挑戦すればいい。MAX、WGPに挑戦してスターが生まれる。そのスターがプロの世界で揉まれていくというのがおもしろいと思うんですよ。いままではそれがなかったじゃないですか。だから、自分はやります。道場を作った当初と同じくらいやります!

――それにしても、前田さんが選手の育成に目覚めたのはどうしてですか? 今日、道場をのぞいたときも、凄い数の練習生がいてビックリしたんですけど。

前田　現役でやってるときに魔裟斗というスターが出てきて、もう現役の世界を魔裟斗に託せると思ったんです。そのときに、自分のやれることってやっぱり自分がお世話になった格闘技界に恩返しをすることじゃないかと思ったんですよね。

――では、第2、第3の魔裟斗を育成するという感じですか。

前田　そうですね。いろんなカラーの選手を育てたいです。でも、うちの道場は本当に多いんですよ。プロの選手は30人以上いますからね。

――30人も! ちなみに、選手を育てる上で、ユースと大人の選手って教え方って違います?

前田　一緒です。たとえば、いまプロコースにいる澤屋敷(純一)とかもイチから教えてたんですよ、僕。あの子、18歳から道場に入ったんですけど、それまで何もやってなかったですからね。いまや、そういう子たちが30人以上って感じなんで(笑)。



「魔裟斗に託して現役を引退した」と語る前田氏。キック界でもK-1へ進む選手とそうでない選手がパックリ分かれるというが、K-1参戦にしろ、今回のK-1ワールドユース監督就任にしろ、さまざまな"雑音"をよそに、前田氏の行く道は常に先進的であり挑戦的である!



現役時代、90年代のキック界において一大フィーバーを巻き起こした前田氏。全日本フェザー級王座を争う立嶋とのタイトルマッチでは、NKホールを満員にするという当時のキック界としては異例の"快挙"をはたしたている。



——よく「名選手は名指導者にあらず」ということを言いますけど、前田さんにはそれは当てはまらないですね。

前田　僕、名選手じゃないし、名指導者でもないですよ。

——ホントですか!?　でも、なかなか30人は育てられないですよ。それに、その結果がK—1で出てるわけですからね。

前田　選手と一緒に頑張ってきたその成果だと思います。

——ところで、ユースの選手に関しては「身体ができてないうちから試合をするのは、ちょっと」とかそういう意見もありますけど、それはどう思ってますか？

前田　ま、そうかもしれないですけど、でもユース同士で闘うならそれは何も問題ないんじゃないですか？　さっきも言ったとおり、あんまり技術に走るんじゃなくて、若さですよ。行く姿勢を見せてくれる試合のほうが僕は観ておもしろいと思います。で、K—1ワールドユースというのはやっぱりチーム対抗の世界戦じゃないですか。だから、いろんな人を選抜できるんですよ。そんなの、絶対におもしろいに決まってますよ！

——あの藤門曄裟とHIROYAが同じチームになるわけですからね（笑）。

前田　そう！　このあいだは敵同士だったけど、今度はチームとして味方になるパターンもあるわけです。おもしろくないですか？

——おもしろいと思います！　それにHIROYA vs藤門曄裟戦も凄くおもしろかったんで、けっこう本誌でも取り上げてたんですよ。だけど、ほかの専門誌では「身体ができてないからよくない」とかで、あまり盛り上がってない感じがあるんですよねえ。

身体ができてない？でもユース同士で闘うなら問題ないですよ

前田　でも、実際にはああいう子たちがけっこうアマチュア大会で活躍してるんです。さっきも言ったけど、20代の大人を倒してるんですよ。それに、ユースの子たちは身体ができてないかもしれないですけど、その子たちがいきなりMAXとかに上がるほうが僕は危ないと思いますね。WGPに上がるほうが危ないと思います。

——そのあたり、ユースはルールもMAXやWGPとは違いますもんね。

前田　そう。それに、今回のユースなんか、これからのK—1を考える上で一番大事なことですよ。いままでそれができてなかったんですから。K—1をおもしろくするためにやっぱ頑張らなきゃいけないです。

——ちなみに、谷川さんとはよくお話されるんですか？

前田　そうですね。っていっても、ホントにいま話した内容なんですけど。

——ユースの中で谷川さんのお気に入りの選手っているんでしょうか？

前田　うーん。やっぱりHIROYAじゃないですか？

——へえ〜。前田さん自身はどうですか？

前田　自分は監督なんで……。ただ、（才賀）紀左衛門と卜部（弘崇）に関しては、いま龍道場で練習してますし、だいぶシゴいてますけどね（笑）。

——鍛え上げてますか！

熱狂！K-1甲子園

前田　相当シゴいてます。だいぶ変わってきてますよ。紀左衛門なんかは、いままで足技しかなかったじゃないですか。手が使えないで苦しんでる部分がありましたけど、今度、紀左衛門がもしユースで試合するんだったらやっぱその違いを見せられると思いますし。

——また、HIROYA選手はタイを拠点に練習されてますけど、前田さんもタイ修行に行かれた方として、若い頃からタイで修行をするというのはどう思いますか？

前田　……（しばらく考えて）いいことだと思います。でも、タイに行くとムエタイしかなくなりますからね。やり方次第だとは思いますけど、一つ心配なのは、やっぱりK—1とムエタイって違うんですよね。だから、K—1でやっていくのであれば、あまりムエタイに走りすぎてはよくないなと思いますね。

——そういう意味では、藤門曄裟選手もキックとユースを両立している状態ですけど、ユースならユースに専念したほうがいいと思いますか？

前田　本人次第だと思います。本人がキックもやりたければやればいいし。でも、僕個人の考えは、やっぱりK—1とキックは違うんで。K—1でやっていくのであれば、ユースに専念するほうがいいと思いますね。

——簡単に切り替えられるものでもないということですか。

前田　まあ、でも個々の選手がどんどん育つのはいいことだと思います。

——確かにもっとキャラクターはほしいですよね！

前田　だから自分は選手を育成して、もっともっと競争を激しくするように努力するだけですね。戦争にするだけです（サラリと）。

——せ、戦争！

前田　なかなかユースに上がれないよってくらいにしないとね。それこそ、うちの道場ぐらい（笑）。

——でも、そうなると、またユースは人間関係がギスギスしそうですよねえ。

前田　それがいいんですよ！　逆にそれがなきゃダメだと思います。その人数がもっともっと集まったほうが僕はいいと思います。

——さすが監督！　では、監督としては、いい意味で選手を管理しない、と。

前田　そうですね。一人だけかわいがるということは僕は絶対にしませんから。うちの道場でもそうですけど。

——それにしても、ユースに関しては、「こっちが挨拶しても、返ってこない」とか、そういうレベルの話が聞こえてくるので、いいなあと思ってるんですよ（笑）。

前田　本当ですか？　誰が？　誰が？（急に身を乗り出して）。

——アハハハハ！　興味津々ですね（笑）。いや、前回雄大さんにインタビューしたときに、藤門曄裟選手に挨拶しても返ってこないって言ってたんです。

前田　ホントですか⁉　でも、いいんじゃないですか。だって、敵ですからね。そんなの、僕が現役だった当時のキック界なんて、あたりまえでしたから。目も合わせないという感じでしたから。

——目も！　それはべつに対戦相手じゃなくても、ということですか？

前田　だって、いつ闘うかわからないじゃないですか。そんなヤツと仲良くしてたら情が出てきますし。だから、いっさい口を利かないというのはキック時代の常識でしたね。

——では、最近のキック界に限らず、格闘技界の風潮というのは前田さんからすると生ぬるいですか。



4.29『DREAM.2』田村vs船木戦では、船木のセコンドについた前田氏。一方、田村のセコンドにかつてのライバルである立嶋がついていたのだが……。「気づかなかったです！」とさわやかに言い放つ前田氏は、とってもステキである！

僕が現役だった当時のキック界は目も合わせないという感じでしたよ

前田　もっと殺伐としたほうがいいなって（キッパリ）。

——アハハハハ！　また、さわやかにおっしゃいますね（笑）。

前田　そういうのは必要なんですよ。僕が現役の頃なんか、もっと殺伐としてましたよ。俺のこと目ぇつけてるヤツっていたじゃないですか。

——は、はあ。では、先日の『DREAM.2』田村潔司vs船木誠勝戦はどうでした？　田村さんのセコンドに立嶋篤史さんがいたんですけど。

前田　……あ、いたんですか？　まったく気づかなかったです（笑）。

——ホントですか⁉　でも、やっぱりいいですね。リング上でもリング外でもそういう殺伐とした空気は。

前田　格闘家ですからね。引退しても敵が多いですから、僕は。

——そうなですか？

前田　だって、みんなうちを狙ってるじゃないですか。だから、あんまり仲良くできないですよね。

——ちなみに、そのDREAMに向けて船木さんを教えるようになったのはどんなきっかけだったんですか？

前田　じつは、船木さんとは昔からの知り合いなんですよ。現役のときから知り合いで、一緒に練習してたんですよ。で、今回に関しては谷川さんから連絡がありました。ホントに急だったんですけど。一ヵ月前とか（笑）。

——そんなに！　あと、いつもはミノワマンも練習してると聞いたんですけど。

前田　はい。でも、今回は来なかったですけどね。だって、トーナメントで船木さんと当たるかもしれないじゃないですか。

——ああ。そういうことまで気にしてたんですね。それは、谷川さんの配慮だったんですかね？

前田　そうだと思います。

——勝手に気にしてる谷川さんというのは、凄く素敵ですね（笑）。総合格闘技について教えるというのは前田さん的にはどうですか？

前田　いや、総合は難しいですね。打撃はもちろん教えられますけど、寝技があるから。それはちょっと僕には難しいです。それより、ユースのことを考えたいですね。

——では最後に、前田さんが考える、K−1ユースをやることでキック界に還元できることって、たとえばどんなことだと思いますか？

前田　それはもちろキックボクサーからもユースに参戦するだろうし、そこで活躍していけばキック界も盛り上がるだろうし。それで活性化するんじゃないかと思います。

——そういう点ではキック界にもメリットはありますよね。

前田　だって、いまってほとんどそうじゃないですか。キックからユースに入るパターンが多いでしょ？　それもアリだと思います。ユースからスタートするのも、もちろんアリだと思いますけど。とにかく、たくさんの選手をK−1に上げる、そしてそこで育てていくことが僕の役目なんで、その仕事を僕は頑張るだけですよ。やりますよ、僕は。

——そういう前田さんが監督されるワールドユースは本当に楽しみです！　今日はありがとうございました。

【08年5月9日／神奈川・龍道場にて収録】

kamipro.com独占インタビュー
本誌じゃ読めない記事が掲載!!

いますぐアクセス

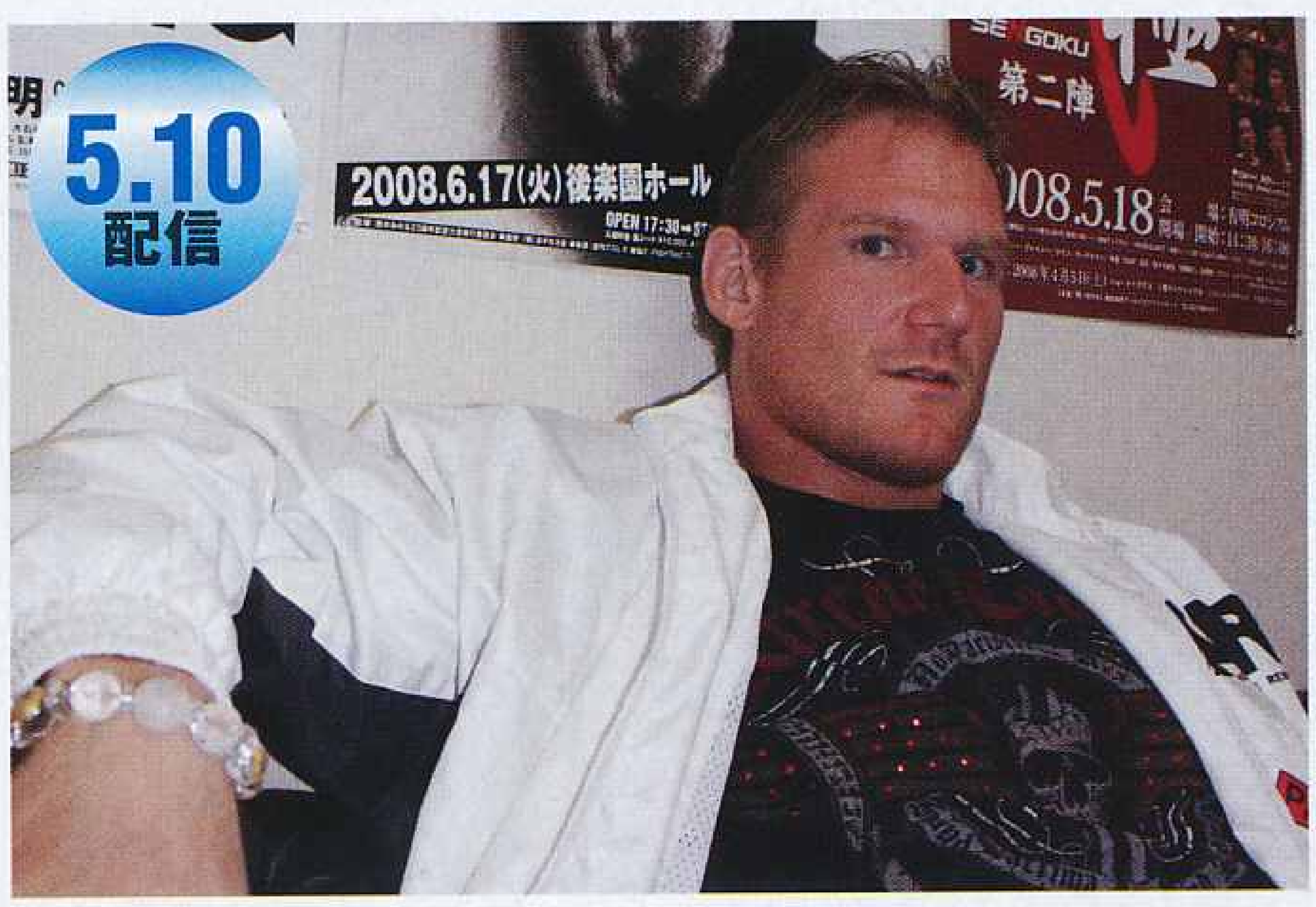


5.7 配信

所英男×奥出雅之

「前はよくダブルデートとかしたよね」（所）
「一緒にいると楽しくてラクですね」（奥出）

撮影／菊池茂夫



5.10 配信

ジョシュ・バーネット

「戦極のアナウンサー!?　VTRの声!?
あれはシャアの声優だったの?」



撮影／金山フヒト

5.14 配信

海川ひとみ

「もし川田さんがHGさんに負けたら
歌のお兄さんのイメージが強くなっちゃう」

http://www.kamipro.com

濃厚なニュース、インタビュー、ポッドキャスト
とにかく毎日更新!! しかも、すべて無料です!!

kamipro.com
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
カミプロドットコム

podcast



サプライズゲストがバンバン乱入する前代未聞の超豪華番組

カリスマ司会者原タコヤキ君presents

mimipro



カリスマ司会者・原タコヤキ君がお送りするポッドキャスト番組「mimipro」は毎週一回配信です。司会者や週替わりゲストの知らないところで、勝手にサプライズゲストが送り込まれる緊迫の展開はスリル満点!! 5月9日配信ではマッスル坂井が怒鳴り込み!! 毎週聞き逃せません。週替わりゲストはペールワンズ代表・井上崇宏、ハッスル事情通ライター・八木賢太郎、本誌編集部・阿修羅チョロなど。

このほかにもコーナーが充実! 毎日アクセスしてください!

最新号情報

「いつ発売するんですか?」「誰のインタビューが載ってるんですか?」「売り切れちゃってて買えなかったんですけど、どこに行けば買えますか?」そんな悩みを一発で解消! 本誌の表紙や掲載内容を大公開。「発売日前に知りたい!」という人は、ぜひkamipro.comでチェックしてください。またエンターブレインの通販サイト「eb!ストア」へリンクが貼ってあり、そちらで購入も可能です。



ニュース

日々、大小のニュースであふれかえっているマット界。プロレスファン、格闘技ファンのニーズにいっぺんに応えるニュースを毎日大放出。重大カードを発表する記者会見、衝撃的な参戦選手の発表、気になってご飯もノドを通らないような情報などをいち早くお届けしています。



フォトニュース

毎日、編集部員が駆けずり回って取材活動をしている中でポロっと出てきたナイスな写真。世に出る前に葬り去られてしまう前に、ここでポンとお蔵出し! ギターを抱えて歌う木口先生、初勝利にはにかんだ笑みを浮かべる若翔洋、復帰戦を見事な敬礼ポーズで締めくくった永田さんなど、思わず心が温まるナイスな写真ばかりをピックアップしています。



大会速報

注目の大会が目白押しの5月。毎週のようにビッグマッチが開催されています。本誌も日々いろんな大会に取材に行っているので、大会の模様をドドーンとお届けします。写真、試合内容、試合後のコメントまでしっかり取材。会場まで行けない大会は、ここでチェックしよう!



あなたの知らないkamiproがここにある!!

kamipro SHOPPING





インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[M・L・XL グレー]¥3,990（税込）



インリン様女神「FIGHT」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト×ブラック]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[M・L・XL ホワイト]¥3,990（税込）



インリン様女神「LOVE」Tシャツ[☆]
[Lady's M ホワイト]¥3,990（税込）



高田総統パロディTシャツNO.3
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



高田総統パロディTシャツNO.2
[M・L・XL グレー]¥3,990（税込）



MONSTER°C Tシャツ
[M・L・XL ブラック]¥3,675（税込）



インリン様女神「LOVE」バッグ[☆]
[ベージュ]¥1,980（税込）



Kamiproマスクtシャツ[☆]
[S・M・L・XL ホワイト×レッド]¥3,990（税込）



青木フンドシ Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,990（税込）



マッスル スターウォーズ Tシャツ[☆]
[S・M・L・XL イエロー]¥3,150（税込）

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。
（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合わせください）

★代引き手数料は315円です。
（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
（株）ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]
☆マークのものがKamiproオリジナルTシャツです

（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24





I編集長“殺し”Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブルー]¥3,990（税込）



マサ斎藤Tシャツ[☆]
[M・L・XL ブラック]¥3,150（税込）

ケータイサイトでセール実施中！いますぐアクセス!!

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索

au　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

vodafone　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM　趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです

爆発中の老舗団体をおっとり刀で大特集!!

新日本プロレスがおもしろいだなんてけしからん!!

絶好調の秘密をさっそく調査!

最近、新日本がおもしろいらしい? そんな声を耳にした本誌は、
設立から36年のこの老舗団体をなんと16ページに渡っていまさらながら大特集!
多くのファンを熱狂&失望させてきた新日本にいま何が起こっているのか?
ライオンマークのおもしろさの理由を徹底解明ダーッ!

最近の新日の“仕掛け”は白目をむくほどおもしろい!







大会運営を手がける裏方が激白!

阿部タケシ×武田有弘

(ライセンス事業部 ディレクター)　(ライセンス事業部 宣伝・渉外担当)

新日本プロレスが元気ですよー! 昨今のプロレス不況のあおりを受けて、会社の身売りや観客動員の減少、所属選手の相次ぐ離脱など暗い話題の多かった新日が、どうやら最近は勢いを取り戻しつつあるらしい! そこに隠されたキーワードとはいったいなんなのか? ここでは日本マット界のメジャー団体復興のカラクリを知るため、内部関係者の二人に直撃! これが現実だ!(真壁刀義調)。

聞き手／ジャン斉藤、坂井ノブ　試合写真／平工幸雄

——最近、新日本プロレスがおもしろいという話を聞きつけまして、裏方のお二人にいろいろとお話を聞きたいと思います!

武田　『kami-pro』にしては、また急な展開ですね(笑)。

——ダハハハ! 何をおっしゃいますか!

阿部　ここは素直に喜ばせていただきます(笑)。

——いやいや、なんか「おもしろそう」な雰囲気があるんですよね。実際に「おもしろい」ことも重要ですけど、いまのプロレスっていかに「おもしろそう!」な雰囲気をもってファンを惹きつけるのかが問われると思うんです。

阿部　あ〜、そうかもしれませんね。

——で、先日、全日本プロレスの武藤(敬司)さんがIWGPヘビー級王座を中邑(真輔)さんから奪取したのを見て、これは「おもしろい」し、「おもしろそう!!」なことになっているな、と。かなり本気で新日本は何かを仕掛けようとしてるんじゃないかと思いまして。

阿部　なるほど。ちゃんと『kami-pro』にも届いてるんですねぇ。

——まずはお二人の新日本における立場を簡単に説明していただきたいんですが。

武田　いま僕は自分で会社を構えているので正式には新日本の社員じゃないんですが、仕事内容としては通常の社員と変わらないですね。具体的には広報や渉外を中心に雑用全般をやってます。……新日衰退の原因の一つに、雑用をやる人がいなかったっていうのがあると思うんですよね(笑)。

——ダハハハ! もともと武田さんは新日本の社員だったんですよね?

武田　はい。正直、その頃は雑用は嫌で

新日本に足りなかったものは選手の個性の打ち出し方だった（阿部）

したけどいまは生まれ変わりまして（笑）。よそに行って「あ、雑用はやんなきゃいけないんだな」って理解しました。

――武田さんは02年の武藤さんの全日本移籍のときに行動をともにしたんですよね？

武田　そうです。でも、僕は全日本を1年ぐらいで辞めたんですけどね。全日本に移る前は新日本に7年ほど勤めてました。で、ここ3年ほどまた新日本で仕事をしているので、合わせて10年ぐらい関わってますね。

――最初の7年といまの3年で違いはありますか？

武田　全然違いますよ。あの当時は永島（勝司）さんや上井（文彦）さんをはじめとして、上司はみんな豪快な人ばっかりで。いまはほとんど誰も残ってないですね。僕が戻ってきたときに知ってる人は、いま社長を務めている菅林さんと総務の方ぐらいで（笑）。

――じゃあまるで違う会社だったと？

武田　はい、リングアナをされてた田中（秀和）さんもいなかったし、山中（秀明）さんもいなかったですし。

――なるほど。阿部さんは新日本とはどういった関わりで？

阿部　最初、ユークスが新日本とビジネスを始めるきっかけがオフィシャル携帯サイトの運営だったんですけど、そのときに僕にはプロレスのライターがいないから手伝ってほしいということで声がかかりまして。サイト運営のために人を集めたり骨組を作ったりしたのがきっかけですね。ほかにはパンフやポスターのデザインだったり……。

武田　（さえぎるように）阿部さんといえば、やっぱり「レッスルランド」のブレーンですよね（笑）。

――あのエンタメ系イベントの！

阿部　それだけに集約されるとどうも（笑）。僕はユークスから送り込まれるかたちなんで。僕も会見資料を作ったり雑用全般ですね。あとは後楽園大会の演出から、煽りVの構成、東京ドームを中心としたビッグマッチの構成なんかを考えたりもしてます。

――いまの新日って、以前とは何が違うと思いますか？

武田　僕は一番ダメだったとされる時代の新日本を知らないんですよ。武藤さんとともに辞めて、少し新日本がよくなってきてから戻ってるので。

阿部　一番重要なのは、単純に会場に来たお客さんを満足させて帰してるのかってことじゃないですかね。それがそれまでできていたのかどうか。ちなみに00年以降、僕はお金払って新日本って観たことなかったんですよ（笑）。

――ダハハハハ！　よく新日本が衰退したのは武藤さんたちが抜けてからみたいなことを言われますけど？

武田　……一緒に抜けた身としてはそう言われるとつらいんですけど（笑）。どうなんでしょう？　僕は違うと思うけどなあ。

――その移籍劇がたまたま衰退の象徴になってるって感じなんですかね？

武田　一つ言えるのは、あれでちょっと社内のチームバランスが崩れちゃったんでしょうね。それをきっかけに猪木さんがガーッと入ってきて、社員も疑心暗鬼になっちゃって。





いまの新日の勢いを表わすのが“聖地”後楽園の熱気！　5.2大会ではわれらが永田さんが復帰、煽りVも青義仕様！　応援ボードを抱える俗にいう“ナガラー”は、永田さんがオーナーを務めるリラクゼーションサロン「eni shing（エニシング）」の方角に向けて、一日5回敬礼をする義務があるとか（嘘八百）。

――なるほど。逆に新日本の風が変わった瞬間っていうのはユークスに身売りをしてからなんですかね。

阿部　僕はその時期に新日本で仕事を始めました。やっぱりメジャー復興の意味も込めて、イベントを一つ一つ成功させなきゃいけないという使命で仕事に取り組んでます。

――そもそも新日本が新基軸として打ち出した単発興行の『レッスルランド』は阿部さんが中心になっていたんですか？

阿部　いまFEGで働かれている渡辺（秀幸）さんを中心として行なって、僕は演出プランと、中期からは興行の進行もやってました。

武田　僕が新日本を手伝いだしたのも『レッスルランド』と『ロックアップ』っていう別ブランドをやるから、その運営をやってくれってお願いされたのがきっかけでしたね。

――でも、『レッスルランド』のようなエンタメ色の強いイベントをやるっていうのはかなりおもいきりが必要だったんじゃないですか？

阿部　「新日本にないもの、新日本が取り入れなきゃいけないことを全面的にやっていいから」って、当時副社長だった菅林（直樹）社長から言われたんですよ。で、新日本にいま足りないものってなんだろうなと考えたら、選手の個性があまり打ち出されてないなと思って。やはりキャラクターづけっていうのは大事ですし。

――そういえば、棚橋さんをはじめ、飯塚さんにしろ天山にしろ、レスラーの個性がとくに際立ってきてますね。

阿部　あとは演出面で言えば視覚や聴覚に訴えるものですね。だからお客さんに楽しんでもらうためにちょっと丁寧に構図を描きました。まぁそんなようないろんな経験をして、いまは新日本本隊の興行に多数反映できてると思います。

――興行を手がけるうえで幅が広がった感じですか？

阿部　本音はもうちょっといろいろやりたいんですけどね……、難しいですよ。新日本プロレスも36年続いている会社なんで。それを根底から覆してもよくないことでしょうし。ただ、いままでだったら煽りVなんていらないって話だったでしょうし、そういう部分では変化は感じますね。

――新しいことをやりたいけど、伝統が重くてなかなか動けないようなところもある、と。

武田　新日本って90年代前半から演出面でも画期的なことやってたんですよね。それがいつのまにかなんで退化しちゃったかっていうと、一説によると95年の10月9日の東京ドームが原因らしいです。

――伝説の新日本プロレスvsUWFインターナショナルの対抗戦ですね。

武田　あのときになんにもしなくてもチケットが売れたので、じゃあ演出なんかいらないやっていう話になったって聞きました。

――それもまたずいぶんと安直な（笑）。でも、いきなり『レッスルランド』的な演出を新日本本隊でやってたら反発はあったと思うんですよね。

阿部　それでもやっぱり一部の選手やスタッフからは反発もありましたよ。新日本は『ハッスル』や『マッスル』のようないわゆるエンタメ系とは対極にいたわけじゃないですか。で、「俺たちは俺たちのプロレスを追求しているのに、なんでわざわざ向こうさんと同じ目線でやってくの？」みたいな意見も出て。

――要は仮想敵であったものを「俺らもそれをやれっていうの？」っていう。

阿部　そうですね。だから強制はしなかったんですよ。コンセプトを説明して、やりたい人だけやる、と。こちらから参加してほしい選手もいたので、声をかけたら理解して出てくれたのは嬉しかったですね。ああいうイベントってスタッフが3〜4人集まって「さあ、やろうか」ってことでもないんですよね。僕はWWEを間近で見てたんでわかるんですけど、時代が経過するにつれて、興行の見せ方も進化させなきゃいけないですから。いいものを作ろうとすればするほどもの凄くバイタリティと人員を必要としますし。

——各分野の専門知識や経験も必要になりますもんね。

阿部　後楽園ホール規模の興行ですけど、両国国技館か東京ドームぐらいの打ち合わせをずっとしてましたね。毎日7〜8時間かけて照明や舞台演出や映像、みんな集まって毎日のように。

武田　そのときのノウハウがいまの新日本本隊の興行にも活かされてますよね。

——阿部さんがやろうとしたのはエンタメ色の強いものというよりは、選手の個性を引き出す作業ってことですか？

阿部　そうですね、僕は新日本の選手個々にとても魅力を感じてたんで。地方の大会とかを観に行ったときに凄くおもしろい試合をしてるのに、なんでこれがもうちょっと打ち出されないんだろうって思ってました。邪道さんと外道さんなんか、もっともっと評価されるべきだとか。永田さんとか天山さん、中西さんや金本さんは相当なキャリアがあってオーラも放ってますが、それ以外にもおもしろい選手がいましたからね。

時代が経過するにつれて興行の見せ方も進化させる必要がある（阿部）

武田　新日本は磨けば光る選手が取りそろえてますからね。

——最近の選手の個性が光った出来事といえば、飯塚さんと天山さんの友情タッグがおもしろかったですね。4月27日の大阪大会で真壁（刀義）さんと矢野（通）さんが保持するIWGPタッグに挑戦したのに、試合中に飯塚さんが天山さんを裏切るという思いもよらない急転直下な結末で（笑）。



藤波辰爾、長州力に挟まれているのが現在の社長である菅林直樹氏。社員離脱が相次ぐ中でも新日愛を貫き通し、新日がユークスの子会社になったと同時に副社長に。その後、サイモン猪木氏の突然の辞任を受けて07年4月には社長に就任。ヨッ！　ライオンマークの社長ッ！

阿部　お客さんがシーンと静まり返っちゃったので、僕らもその光景を観てて怖かったですよ！

——反応がなさすぎて（笑）。お客さんもそれだけア然としちゃったんでしょうね。

阿部　なんかお客さんも「飯塚、何やってんだ？」って空気になってましたね。

——わりと、あそこまでの急なヒールターンって最近ないですもんね。

武田　だってあれ、友情タッグが勝ってたら凄いハッピーエンドでしたよ。

阿部　誰も望んでない結果じゃないですか。あの試合は。愛、勇気、友情がテーマでしたから。

武田　友情タッグのTシャツ着てるお客さんもたくさんいましたからね。

阿部　前日にはサイン会までやって……悪いヤツだ、飯塚高史！（笑）。

——近年稀にみる日本人ヒールの誕生でしょうか（笑）。

阿部　絵に描いたようなヒールっていうと、普通はタイガー・ジェット・シンとかじゃないですか？　いるだけで場内の空気が変わるっていうか。

——観客が震え上がるような。

武田　飯塚さんのやってる悪いことって、ちょっとそういうのとは種類違いますもんね。

——精神的にくる感じですね。

武田　そうそう、凶器とかそういうレベルではなく。

——坊主で眉毛剃って、後藤達俊みたいな顔になっちゃって（笑）。

武田　いま、新日本の客層って若い女性が多いんですけど、どう思われてるのか気になりましたね。

——具体的にどういった反響が？

武田　苦情の電話やメールが、それはそれはいっぱい（笑）。

——ダハハハハ！　「天山がかわいそうだ」とかですか？

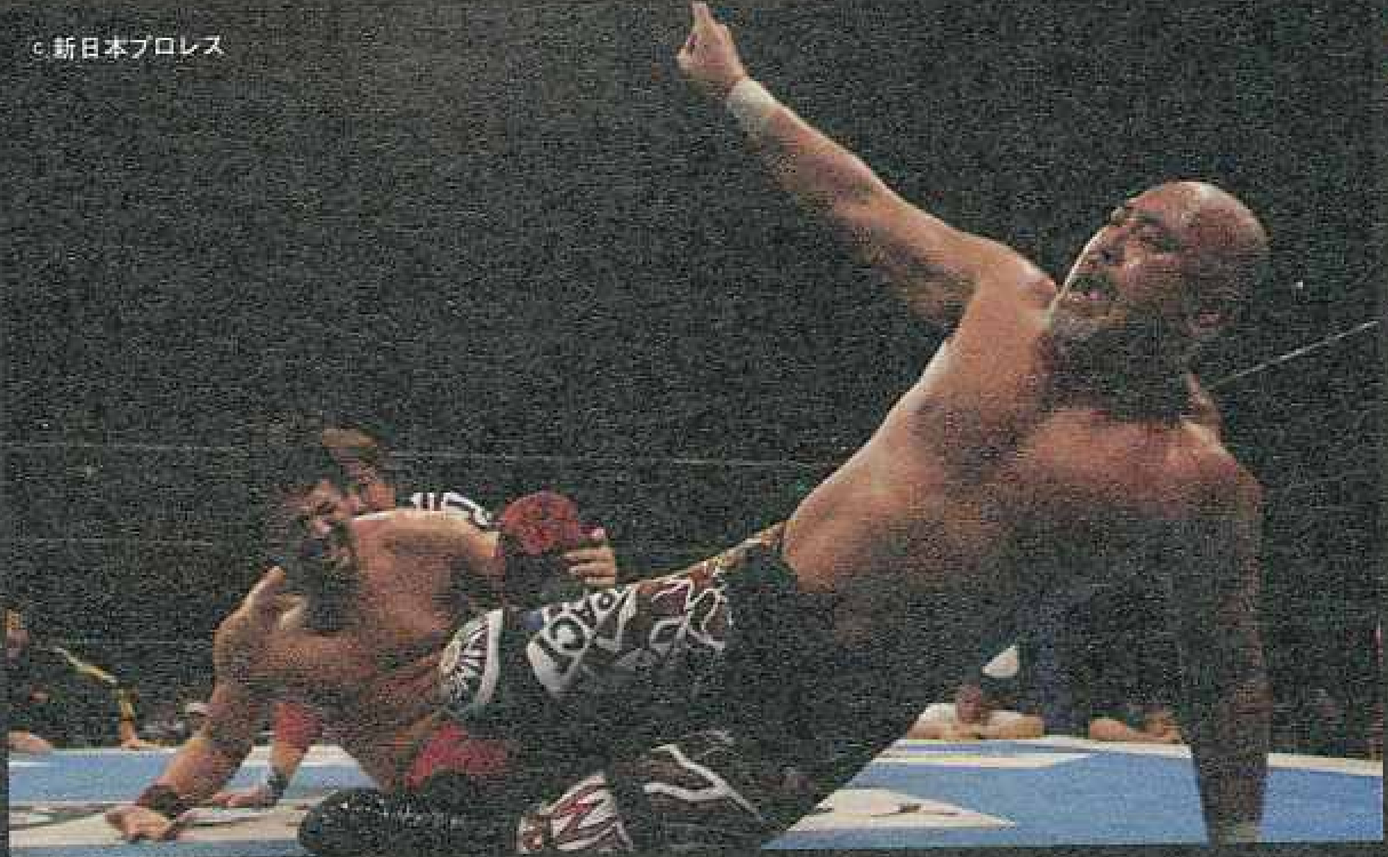
武田　そういうのもあるし。

阿部　「飯塚ふざけんな！」とか。

——それは団体とファンの関係性とし

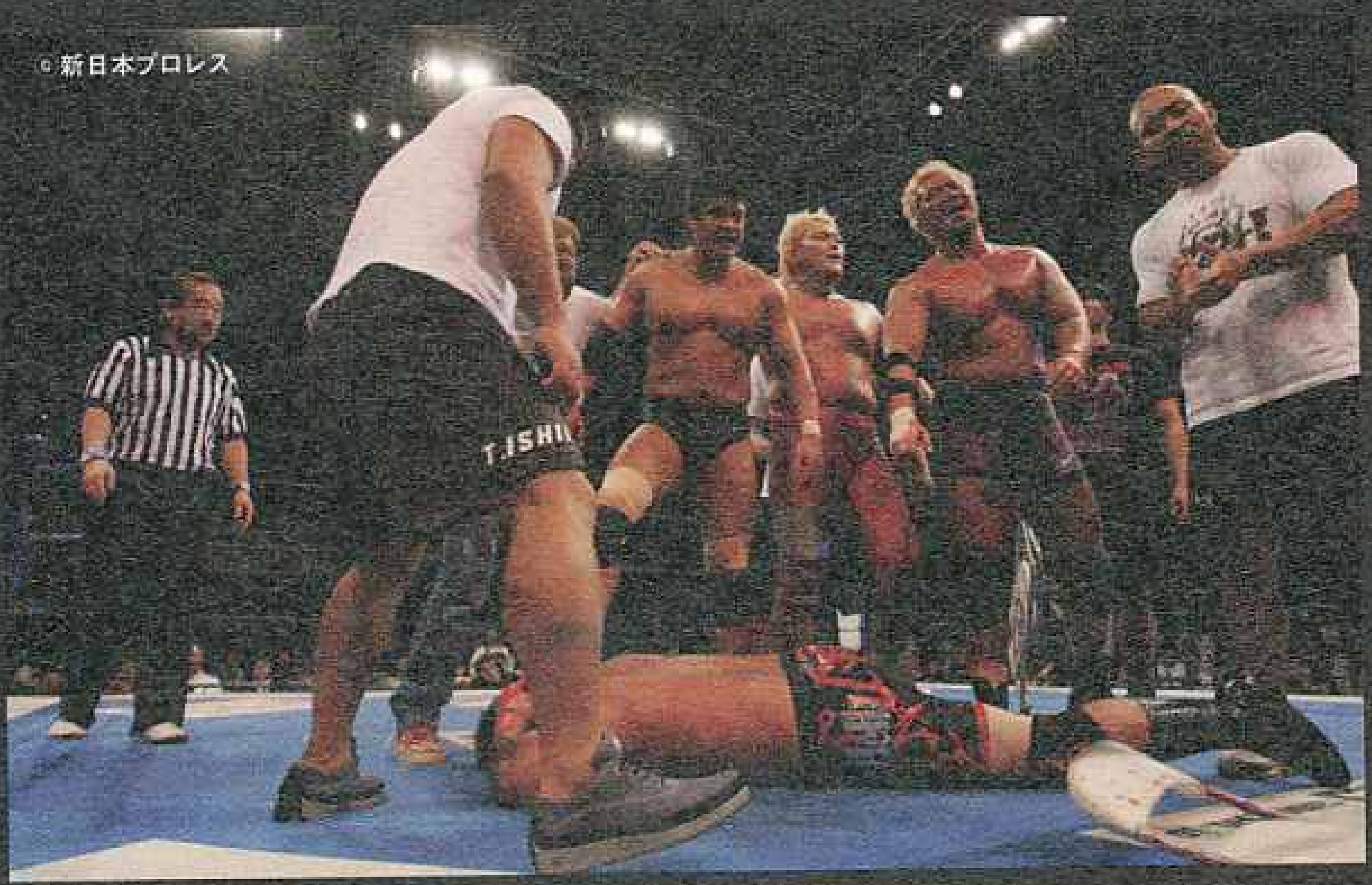
の新日はこんなことになってますよ！

1 新日の至宝・IWGPヘビー級王座をさしあたって全日の社長が巻いてます！



現在のIWGPヘビー級王者は、6年前に新日本を電撃退団し、いまは全日本プロレスの社長である武藤敬司！　武藤は今年4.27大阪大会で下馬評を覆して中邑真輔に勝利、99年以来となる3度目の王者戴冠をはたした。今年2月に新調された同級ベルトには、以前にブロック・レスナーに米国に持ち逃げされた教訓をいかしてか、防止措置としてGPS機能（全地球測位システム）が搭載。だが、こともあろうにその途端にベルトが他団体に流出するとはなんたる皮肉。しかし、新日本育ちの武藤は古巣を思ってか、「俺が新日本プロレスを潤してやる!」と、男前なコメント。昨年は後楽園を中心にマッチメイクされた同王座戦だが、今年は潤いのためにも大きな仕掛けがなされるか?

2 友情のバカヤロー！　飯塚に裏切られた“いい人”天山が“極悪”GBHと抗争中！



お人好しの天山広吉がダマされた！　新弟子にも「どっから来はりましたん?」と敬語で話すほどの“いい人”天山が、飯塚とタッグを結成したのは今年3月。きっかけは天山がGBHにのけ者にされていたのを飯塚が救出したこと。その後、天山は飯塚に誕生日を祝ってもらったり、「友情」Tシャツを発売するほどに仲睦まじかったのだが……。蜜月は長続きせず、わずか1ヵ月で飯塚がGBHに寝返る裏切り行為！　天山にとってこの心の痛みは、額に楊枝を突き刺す痛み以上であろう。その後、「ホンモノの友情を作っていくから」と、天山はタイガーマスクと接近。しかし元々タイガーマスクの異名は“黄色い悪魔”……。天山にさらなる不幸が訪れないのを祈るばかり!

新日本プロレスがおもしろいだなんてけしからん!!

新日本が活気づいてきた理由としてファンからの電話が多くなった（武田）



キャリア22年目にして自身初のヒールターンをはたした飯塚。頭を剃って顔をゆがめたらアラ不思議、「ジ・アウトサイダーズ」も顔負けのすっかり極悪ヅラに! やらされた感が満載だった、かつての"日本の陽気なヤツら"（J・J・JACKS）時代とは隔世の感あり……。



ては健康的ですよね。

武田　最近、新日本が活気づいたなと思う理由の一つとして、ファンからの電話がけっこうあるんですよね。

――へえ～。一番多いのはどういった内容ですか？

武田　やっぱり飯塚さんの件と武藤さんの件ですね。「社長がこんな挑戦を許可するからいけねえんだ！」みたいな。

――そういう反応があるっていうのは作り手としては大事なことですよね。波風立てないよりは、いい意味での波紋が起きるというか。

武田　そうですね。でも、あれはバッドエンドじゃなくてハッピーエンドになっちゃったのが、ちょっと複雑な気持ちではあるんですけどね。

阿部　あれはホントに想定外でしたね。もうちょっと「ふざけんな、武藤！」っていう声がファンから挙がるかと思ったら、大歓迎だったんで。

武田　武藤さんの持つ絶対的なカリスマ性によるものでしょうね。

――武藤さんは「新日本の関係者を潤してやる」って言ってましたけど（笑）。

武田　心配しなくても食えてるんだけどな、新日本の社員（笑）。

阿部　ボーナスとか出てないような言い方してたけど、「そこまで貧乏じゃないよ！」って聞いてて思いましたね（笑）。

武田　「新日本より全日本の社員のこと気にしろよ」って全日本の社員が言ってました。（笑）。まあ、あの人の中ではチャンピオンっていうのはすべてを背負うってことなんでしょうね。

――巻いたベルトの団体の社員を食わせる、と。

阿部　要するにNWAとかテリトリー制の頃のアメリカのチャンピオンの考

新日本プロレスNOW!!　この頃はやりの 新

3 後楽園が大盛況のワケを話そうか？そこに新日vsZERO1があるからです！



古くは『国際プロレス』に『UWF』、そして平成の世になってからは『WAR』に『UWFインター』と、いつの時代も新日本の団体対抗戦は大盛り上がり！　部分的に交流を続けていた新日本とZERO1が、越境タッグを結成していた中西（学）と大森（隆男）が今年元旦に仲間割れをしたことをきっかけに本格的に対抗戦を開始。会場に一体感が生まれやすい後楽園を舞台に抗争は過熱の一途だ。ZERO・1中村祥之氏のブログで「青大将」として登場する永田さんも、復帰戦と同時にこの闘いの輪に参加。今後、ますます両団体の意地の張り合いはエスカレートするだろう。現在の新日本の熱に触れたいならば、後楽園での対抗戦を観戦するのが一番！　大谷晋二郎ばりに「あちち～!」となること必至だ!

4 ワンランク上の黒い新ブランド設立！蝶野プロデュース『PREMIUM』だ、オラッ！



©新日本プロレス

"黒のカリスマ"蝶野正洋がGMを務める新イベント『PREMIUM』が5月5日に旗揚げ! 昨年夏に結成された「レジェンド」を中心に、ZERO1やドラディション、大日本プロレス勢が集結。「団体の乱立を逆利用し、エゴを取り除く」が理念の同大会は、垣根を取っぱらったカードと演出で新たな熱を生み出した！　現在は休止中だが、いまの新日の演出面での礎となった「レッスルランド」、さらには"長州ランド"ともいえるアクの強さを持つ「ロックアップ」に続く、活気のある新日本が打ち出した新基軸。旗揚げは成功を収めただけに、この仕掛けをどう転がしていくのか気になるところ。蝶野が笹原圭一・元ハッスルGMばりに「アイ・アム・GM!」と咆哮する日も近いか？　ガッデム!!



これはVシネマのワンシーンではありません！　夕陽をバックにスーツで決めた"新日の一世風靡セピア"とでも称したくなるほどフォトジェニックな彼らこそ、人気No.1ユニットの「RISE」だ！（名称の由来は各自調査）。中邑真輔を中心に勢力を拡大、セルリアンブルーのマットを席巻中！　ソイヤソイヤソイヤソイヤ!

えっぽいですよね。ひいては業界全体を盛り上げるみたいな。マット界の起爆剤としてそういうことをちょっと期待したいですね。

——そうですね。いわゆる〝武藤越え〟が興行のテーマになるわけですし。

武田　新日本の選手はみんな野心家だから、これはおいしいって思うでしょうね。

——こういったかたちで観る側が追いたくなるようなストーリーラインが展開されているのが新日本に活気がある原因なんでしょうね。

武田　それに素材となる新日本の選手のプロレス的なスキルは、やっぱり業界でも随一だと思いますしね。あとは選手のモチベーションですね。草間政一さんが社長のときは、あの永田さんですら「やる気が出なかった」って言ってましたから（笑）。

——やっぱりレスラーって表現者ですから、モチベーションは大切ですよね。

阿部　そうそう、表現者なんですよ。その表現の場を妨げられたら、そりゃやる気はなくなりますよね。

——格闘技だったらモチベーションが低くても競技だから勝たなきゃなんないですけど。

阿部　昔の猪木さんの試合はテレビを観てても「次はどうなるんだろう?」って感じで終わったじゃないですか。あれってプロレスの一番大事な部分かなと思うんですね。お客さんに「次はどうなっちゃうんだろう?」って少しでも思わせれば、今後につながると思うんで。

——その〝点〟だったものを集めて〝線〟にしていくっていう作業ですね。

阿部　興味を持ってもらえなかったら意味ないですから。だって格闘技ですらいろいろテーマがあるわけですし。記者会見のときに因縁が生まれたり、マッチメイクするときにこの二人が何年ぶりに闘うとか、意味づけをしたほうが盛り上がるじゃないですか。これってそもそもプロレスの感覚ですよね。

プロレスの大事な部分はお客さんに次がどうなるか期待させること（阿部）

——闘う必然性を提示するっていうことですね。

阿部　そうそう、それこそプロレスのお家芸なわけで。最低限必要な部分じゃないですかね。

——こういうのって選手とフロントの意思疎通も重要になってきますよね。

阿部　そうですね。フロントとしてはお客さんが支持すればなんでもいいから「レスラーの皆さん、思う存分に表現してくださいね」ってスタンスですね。

——なるほど。気持ちよくレスラーたちが活躍する場を与える、と。

武田　いまの菅林社長はみんなが信頼を置ける人だと思いますよ。一昔前の新日本だと、選手がみんなベビーフェイスで、役員の人がみんなヒールでしたからね（笑）。

——ダハハハハ！　確かに場合によっては選手とフロントのいがみ合いがリング上よりヒートアップしてた感もありましたね（笑）。

武田　草間さん、永島さん、上井さんとか皆さんアクの強い方ばかりで（笑）。本来はリング上が注目されてしかるべきなのに。

——リング上に変化の兆しが見えると同時に、客層も変わってきたように思うんですが。

阿部　確かに昔は男性ファンが圧倒的に多かったかもしれませんね。

武田　いま女性と子どもが凄く多くなって。

阿部　女性は本当に多いですね。ここ3～4年、多いんじゃないですか？

——いったい誰目当てなんですかね？

阿部　ジュニア選手のファンは多いですね。あとはRISEや棚橋（弘至）さんだったり。

武田　客層の変化は驚きましたね。自分が観てた頃と客層が、半分どころか80パーセントぐらいは入れ替わっちゃってんじゃないかなって。それでいて観客動員を増やしてるんだから、着実に新しいファン層を開拓してるってことですよね。

——また動員数も上がってきてるんですか？

武田　一昨年ぐらいから上がってきてますね。一昨年でたぶん発表した年間入場者数が35万人ぐらいだと思うんですよ。去年はそれを超えてるだろうし、今年はまた更新するんじゃないですかね。

——いまって昔の猪木さんみたいにどこの世代にも通用するスーパースターって不在だと思うんですね。逆にいうと新日本には幅広い層に対応できるっていう強さがあるということなんですかね。永田さんと棚橋さんに同じファンがいるとは思えないですし（笑）。

武田　衰退していた時期はそういう客層のターゲットもおそらくうまくいってなかったんでしょうね。一時期は外から見てると、どう見ても格闘技ファン向けにやってるのかなっていう。

後楽園に来てるお客さんを大事にすることが信頼回復の第一歩（武田）

――それはそれで格闘技ファンにはなかなか届きづらかったりもして。

武田　たとえばUSJってオープン当初は若者向けに怖いアトラクションとかいろいろ作ってたんですって。そしたら2年目からガクッて集客が減って、よくよく調べたら来場者は家族連れと女性が多数を占めてたらしく。それなのに怖いのばかり作っちゃって。

阿部　そりゃニーズに合わないですね。

武田　だから新日本もまずは後楽園に来てるお客さんを大事にすることが信頼回復の第一歩ですよね。ビジネスの規模としては小さいかもしれないですけど、まずその基盤固めが必要ですね。

阿部　先ほども言いましたが、なにごともお客さんを満足させて帰さなきゃダメですよ。単純な話、後楽園も入らないのにドームなんて入らないわけですし。

武田　いまは昔の両国クラスのカードをいま後楽園でやらなきゃいけない。で、昔のドームクラスのカードを、両国でやる。ということは、ドームでやるときはどうしたらいいんだっていうのが、いま一年に一回の悩みの種なんですけどね。去年が全日本、今年がTNAと対抗戦をやって、来年はまたなんか考えなきゃいけないんですけど。

――そういう意味でいえば、いまは他団体との交流もうまくいってる感じがしますね。

阿部　他団体っていっても元新日本の方々が多いですけどね（笑）。

――一時期は東京ドームのカードを組むために、言葉は悪いですけど土下座外交的なのがあったじゃないですか。大きな団体やフリーの大物に、向こうにとって好条件を提示して協力してもらうという。

武田　あれもかばうわけではないですけど、結局新日本が抱えてる選手、社員の人数を考えるとそれに見合う興行をやるっていう前提があるので、やらざるをえなかったわけですよね。いまはもうだいぶその規模が小さくなっているので、そんな無茶はしなくていいっていうか。でもまたどっかで無茶をしなきゃいけない時代になったら、そういうこともありえるのかもしれませんけどね。さっそく来年ドームを二回できないかっていう話もあったりなかったり……（苦笑）。

――ガハハハハ！　そうなると厳しいですよね。「こういうカードがあるからドームでやろう」じゃなくて、「ドームがあるからなんか考えなきゃ」って本末転倒ですもんね。

武田　そういうことですよね。

阿部　それ、一番悪いスパイラルのパターンですよね。また土下座外交になっちゃいますよ（笑）。

――で、これからどういった方向を目指していきますか？

武田　菅林社長はやっぱり強い新日本を作りたいとは言ってましたよ。新日本が一番強いんだっていうイメージ作りをしていきたい、と。「強い」っていうのはリング上だけでなく組織的にもビジネス的にもってことなんでしょうけど。

阿部　「一番強い＝最強」ですけど、いろんな意味で最強になるってことを菅林社長は目指してると思います。

――「新日本だけはガチ！」みたいな（笑）。昔、新日本が元気で業界にもいい影響があったっていう時代がありましたけど、そういった状態ってことですかね。

阿部　そうですね。

武田　やっぱりデカいことやりたいですよね！　ドームやめようって話になったときに「いや、やらせてくれ」って言ったのは菅林社長なんですよね。当時はまだ副社長だったのかな？　ユークスの人もみんな「ドームはやめましょう」って言ったときに、「いや、ドームだけはやらせてくれ」って。やっぱり業界の盟主としてのプライドですよね。プロレスが盛況を取り戻すのも本当にきっかけだと思いますよ。たとえば不可能かもしれないけど、またプロレス団体で集まって国立競技場で一回だけでもオールスター戦をやるとか。

――そういうダイナミックな仕掛けは必要ですよね。

武田　個人的にプロレスが格闘技にあきらかに負けたと思ったのが、やっぱりあの国立競技場の『Dynamite!』ですね（2002年8月28日）。

阿部　あれはスケールが大きかった！

武田　あれをやられたのが新日衰退の原因なんじゃないですか？　だから武藤さんが辞めたことが原因じゃないんですよ！（笑）。

――なるほど（笑）。『Dynamite!』では新日本の創業者である猪木さんが空からパラシュートで降りてきて。

阿部　あれは本当は新日本がやらなきゃいけないんじゃないかなって思いましたね

武田　新日本のドームで降ってくれれば、みたいな。

――そういう意味では新日本って攻撃的な会社だったわけですよね。何かしら仕掛けを施して。今回、武藤さんがベルトを獲ったっていうのは、そういう兆しにも思えてくるんですよね。

武田　そうですね。いまの若い社員だって新日本が好きで入ってるということは攻撃的なところがあるんでしょうし、彼らがもうちょっとしていろんなことをやりだしたら、おもしろいことになると思いますよ。新日本って人材育成力が凄いですから！

【08年5月5日／都内・東京ドームホテル内『シズラー』にて収録】



いつの時代も人材豊富な新日本。現在、抜群の存在感なのは、"中西原人"とでも呼びたくなるセオリー無視の独特なムーブで、観るものを不思議な空間へ誘う中西学！　合い言葉の「ホーッ!」は、北京原人でいうところの「ウパーッ!」みたいなものか。



ヒールユニット「GBH」を率いる真壁刀義。中邑や棚橋など後輩が台頭していく中、昨年初めてIWGPヘビーに挑戦をはたした叩き上げの苦労人！　流血ファイトでたかぶった夜には女を抱いて身体を鎮めるという、劇画から飛び出したかのようなワルだ！



あべ・たけし■1972年7月16日、東京都出身。99年よりWWE関連書物に携わるフリーライターとして活動。05年より株式会社ユークスのグループ会社、株式会社ファインに所属し、新日本携帯サイト、会場演出の進行等に関わる。



たけだ・なりひろ■1971年11月13日、大分県出身。95年、新日本プロレス入社。02年に武藤敬司らとともに新日本を退社し、その後、レッグロックの立ち上げに携わり、06年4月に外部ブレーンとして新日本に復帰した。

新日本プロレスがおもしろいだなんてけしからん!!

なぜか、この男が現在の新日本の魅力を語った!



「冗談抜きで、最近バックステージでは新日本さんの話題でもちきりです」



マッスル坂井

“いま、新日本プロレスがおもしろい”ということで、その魅力をたっぷりと語ってもらったのが『マッスル』の頭脳にして自称DDTの中堅レスラー、マッスル坂井だ。5.6『マッスルハウス6』では、新日本の象徴ともいえる蝶野正洋を参戦させてしまった坂井が語る、現在の新日本はここがおもしろい!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／平工幸雄



一応、同じ業界にいますけど、いまの新日本の勢いは凄く伝わってきます

――ここ最近、「いま新日本がおもしろい」と多方面から耳に入ってきまして、このタイミングで特集をやろうということになったんですよ。

坂井 それはナイスタイミングだと思います！ でも、なんでまたボクのところに？ 新日本さんとは、それほど接点もないんですけど。

――以前、話を聞いたときに坂井さんも最近の新日本はおもしろいと熱弁してたじゃないですか？

坂井 あ、そうでしたね。確かに、ここ最近の新日本プロレスが、かなり凄いことになってるっていうのは、一応、同じ業界にいさせてもらってますけど、ひしひしと伝わってきますから。

――やはり、伝わってきてますか！

坂井 はい。でも、その前に、ひと言いわせてもらっていいですか？

――どうしました、突然。

坂井 新日本絡みでもあるんですけど、5月末に発売された『kamipro』No・122で、煽りVについて語らせてもらったじゃないですか。その中で、新日本の映像関係を作っている「ウッドベル」の鈴木さんの話をしたんですけど、じつは鈴木さんは昨年お亡くなりになられていたんですよ。

――え、そうだったんですか。

坂井 関係者の皆さん、失礼しました（深々と頭を下げる）。……ただ、鈴木さんの後輩の方々が作っている煽りビデオが評判がいいのは確かなんで、鈴木さんの遺伝子が受け継がれているんだなぁっていうのは凄く感じますね。『マッスル』に出ているミスター・マジックも「ウッドベル」出身なんですけど。

――いろいろとつながっているんですね。で、早速ですが、ここ最近の新日本の魅力を教えてください！



5.5後楽園から始動した蝶野プロデュース興行『プレミアム』。この大会は新日本の別ブランドではなく、新日本、ZERO1・MAX、ドラディションのスタッフがPREMIUM実行委員として行なうイベントで、場内には、おそらく日本プロレス界初のダブルビジョンが設置されるなど演出面もプレミアムだ、オラッ！

坂井 いきなり腰を折るようで申し訳ないんですけど、僕一人が「おもしろい」って言ってるわけじゃなくて、控室ではみんなが話してることなんですよ。

――それは坂井さんが所属するDDTのレスラーたちが、ということですか？

坂井 そうです、そうです。最近のDDTの控室では「いま、新日本が凄いことになってる」って話題でもちきりなんですよ。

――それは『ワールドプロレスリング』を観てってことですか？

坂井 テレビに限らず、なんかしらのかたちで観てるんでしょうね。地獄突きサックがどうしたとか、そんな話ばっかりですよ。

――天山（広吉）さんを裏切った飯塚（高史）さんが使っている凶器ですね。



5.6『マッスル』の最後にサプライズとして登場したのが新日本の象徴的存在でもある蝶野正洋。『東スポ』によると蝶野は前日の『プレミアム』で忘れ物をし、それを取りに来たところ『マッスル』を目撃し「ファッキン・ガッデム！」モードに。来場理由はともかく、なんだか凄い2ショットだ、オラオラッ！

坂井 とにかく、ここ最近の流れがとんでもなくおもしろい、みたいな感じで。お客さんが100パーセント理解してるかしてないかわかんないですけど、とにかく評判がいいです。まあ、DDTなんて言ってしまえば、みんなプロレスマニアなので、最近の話題は、みんな「新日本、新日本」一色ですから。

――一応、確認しておきますが、5月6日は後楽園ホールで昼にDDT、夜は『マッスル』があって、DDTに獣神サンダー・ライガーさん、『マッスル』に蝶野正洋さんが出場してくれたから言ってるわけではないですよね？ いわゆる、ヨイショ的な感じで。

坂井 いやいや、そんなことないです。まあ、シンクロニシティでしょうね。

――あ、そうでしたか（笑）。

坂井 いまのDDTだったら、ライガーさんとか、もっと早いタイミングでも、オファーできてたと思いますし。でも、いまの新日本って、マジでおもしろくないですか？ もちろん、昔はおもしろくなかったってことではなくて。

――いろいろと変わってきているなっていうのは、リング上もリング外でも感じますね。

坂井 新日本関連で言うと、5月5日に蝶野さんのプロデュース興行の『プレミアム』ってあったじゃないですか？

――ありましたね。

坂井 僕が又聞きした控室での雑談によると、新日本とZERO1・MAXはリング上の対抗戦だけじゃなくてスタッフも対抗戦をしてるみたいなんですよ。

――バックステージでも闘っていると？

坂井 そうみたいです。前号の『kamipro』でも言ったんですけど、要は新日本で流してる試合の煽りビデオは新日本視点で新日本サイドのスタッフが制作してるわけですよ。で、ZERO1の興行での対抗戦では、今度はZERO1サイドのスタッフがZERO1視点で作っている、と。だけど！

――だけど？

坂井 『プレミアム』はですね、いまはやりの大連立なんですよ！

――又聞きのクセにキッパリと言いきりますね（笑）。

坂井 （無視して）会見のときに蝶野さんが「『プレミアム』では、いろんな団体のフロントを集めてやっていく。大連立だ」とかおっしゃっていたみたいなんですけど、どうやら『プレミアム』のVTRを作ったのはZERO1を担当している古武ディレクターらしいんですよ。

――あ、そうなんですか。

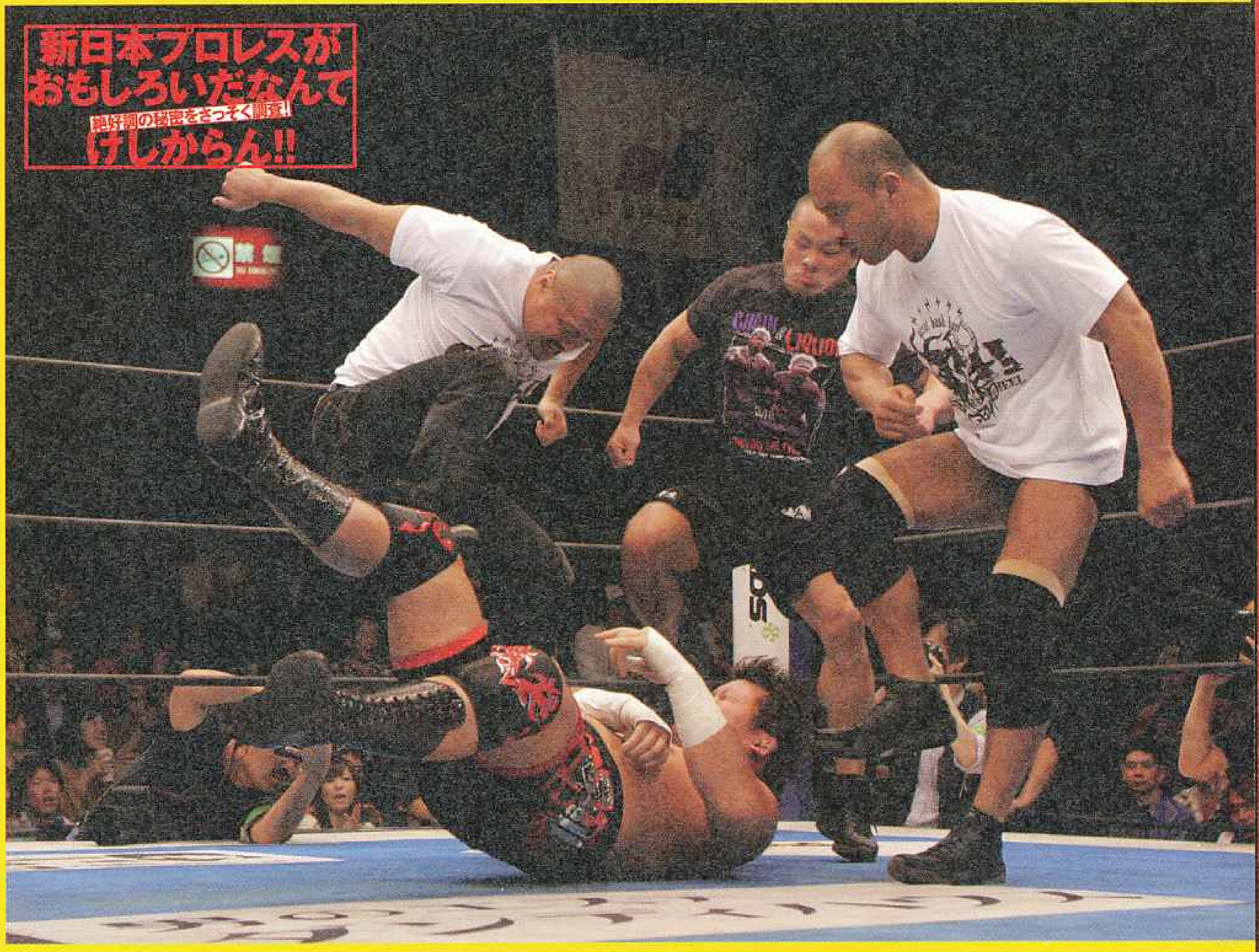
坂井 詳しいことはよくわかんないですけど、対抗しながらも、お互いが認め合ってる部分もあるってことなんでしょうね。だから、対抗戦を通して、スタッフ同士も大連立してやっているのが『プレミアム』なんですよ。まさにプレミアムですよ！

――マッチメイク的には、プレミアム





ご覧のとおり、5.6『マッスルハウス』で開催されたIMGP世界ヘビー級選手権、坂井vsディーノvsサソリの煽りVと『ワールドプロレスリング』の煽りVはうり二つ。おそらく、映像も手がける坂井のリスペクトの表われなんだろうなと思います。



感はちょっと控えめな感じでしたけどね。大会後、蝶野さんは「これから、いろんな団体を視察しに行く」と言っていて、早速、翌日同じ後楽園での『マッスル』に現われたわけですが。

坂井 なんか蝶野さんは前の日に忘れ物をしたんで後楽園に来たって言ってたんですよね？

――『東スポ』報道によると、そうみたいです（笑）。でも、新日本というかプロレス界のレジェンドの蝶野さんと実際にリングで対峙してみていかがでした？

坂井 蝶野さんに関してはリング上はもちろん、『ガキの使いやあらへんで』の一挙手一投足等を含めて「凄いなぁ」って思ってたんですけど、リングで向かい合って、身をもってその凄さを実感しましたね。

――具体的にはどういう部分ですか？

坂井 今回の『マッスル』には、僕らみたいなインディーレスラー、西口プロレスのお笑い芸人さん、あと学生プロレスラーとかいろいろ出ましたけど、学プロは『ガチ☆ボーイ』とかで話題になって、『マッスル』や西口プロレスさんも、世間にちょっとずつ浸透してきて、プロレスファン以外にも観てもらえるみたいな感じになってきてるじゃないですか。でも、結局は蝶野さんが一番凄いんだっていうことを、たった1分で知らしめたわけですよ。

――わずか1分で、観客のハートを鷲づかみにしちゃいましたからね。

坂井 ですよね。僕らは3時間の興行を通してそれがわかったっていうことが、何か今後の道しるべになるんじゃないかなって。そういう意味では、蝶野さんもそうですけど、やっぱり新日本のトップレスラーはみんな凄いんですよ。これは間違いないです！

――さすが、レジェンドだですよね。

坂井 ホント、リアルレジェンドですよ。だから『マッスル』とか観に来るような、ちょっとオシャレなプロレスユーザーたちは、実際、生で蝶野選手を見たことあるのか、と。蝶野選手のシャウトを聞いたことがあるのか、みたいなことですよね。ハチミツ二郎さんも「蝶野は年々カッコよくなってきてる」って言ってましたけど、まさにそうで。知ってはいても、実際にウチの会場で生で観て、「これはモノが違う」って思ったと思うんですよ。


最近の新日本マットで一、二を争うホットな話題といえば、やはり飯塚に裏切られた悲劇の男・天山絡みだろう。そして、その様子をレスラー仲間に嬉々として語りまくっているのが"ヌルヌル男"松永智充だ。

蝶野さんはmixiをやってるんですよ。しかもマイミクが999人！

――いままでの『マッスル』とは違うベクトルの説得力というか、圧倒的なパワーみたいなものはありましたよね。

坂井 そうですね。もっと凄いのは蝶野さんはmixiもやってるんですよ。しかもマイミクが999人！

――えっ、蝶野さんってmixiやってるんですか？

坂井 そうなんです。その情報を知って、ウチの藤岡メガネに「おまえ、マイミク申請しろよ」って言ったら、翌日にはもうマイミクになってましたからね。

――藤岡メガネと蝶野さんがマイミク仲間（笑）。

坂井 最近の新日本でいえば棚橋選手も、かなり弾けてますよね。

――そうですね。残念ながら現在は欠場中ですけど、自意識過剰キャラも含めて評価が高いですよね。

坂井 いろんな識者たちが「棚橋選手はヒールになるべきだ」みたいなことを言ってた時期があったじゃないですか。『週プロ』のタナ番を含めて。だけどまた、いまはベビーでもヒールでもないような感じで受け入れられてますよね。

――本人もそれを楽しんで使い分けているような感じもありますしね。

坂井 ボクが思うに、それって間違いなくレジェンドへの第一歩だと思うんですよ。

――レジェンドへの第一歩？

坂井 はい。これまで、学生プロレス出身でプロレス界のレジェンドになれた人はいないと思うんですけど、それに一番近いのが棚橋さんとHGさんじゃないか、と。男色ディーノは、ちょっと難しいような気もするんで（笑）。

――確かに、学プロ出身をカミングアウトしたのはメンズ・テイオーさんが最初ぐらいで、テイオーさん自身、まだ40歳ちょっとですからね。

坂井 そうなんですよ。まだプロレス界で前例がないんですよ。そういう意味でも、棚橋選手のこれからの動向は非常に興味深いですね。

――でも、棚橋さんとは同世代でもありますし、プライベートでも、ちょっとした交流もあるんですよね。

坂井 そうなんです。前にハチミツ二郎さんから「坂井君、メシ食いに行こうよ」って、行ったらなぜかそこに棚橋さんがいたことがあって。

――それは驚きますよね。

坂井 驚きましたよ。二郎さんは「坂井君とタナを会わせたかったんだよ」ってお食事会を開いてくれたんですけど、そのときにけっこう話をしましたね。

――噂によると棚橋さんは松尾スズキとかゲッツ板谷が好きなんですよね。

坂井 そう言ってましたね。その二人も連載してますし、世代的にも間違いなく『SPA!』世代だと思います。



いまの新日本の魅力をウチの松永に語らせたら凄いことになりますよ！

――坂井さんは『SPA!』には何回か登場してますし、『Hot SPA!』では連載もしてますし、話が合うんじゃないですか。

坂井　そういう意味では話が合うかもしれないですね。中邑（真輔）選手も一度サムライTVの収録でご一緒させていただいたことがあるんですけど、なんか、頑張れば……仲良くなれそうな気はしました。

――頑張ってください（笑）。

坂井　二人とも同世代っていうのもありますけど、プロレスが凄く好きな人たちじゃないですか。逆に言うと、同世代でも佐藤耕平さんとかは全然違うわけですよ、タイプ的には。どっちかっていうと怖いわけです。

――怖いですか（笑）。耕平さんは破壊王の付き人を長く務めていたっていうのもありますし、いろんな意味で破壊王イズムを受け継いでますからね。

坂井　そうなんです！　凄く体育会なんですよね。でも中邑さんとか棚橋さんとかは、こんなこと言ったら起こられるかもしれないですけど、わりとDDTのみんなと、じつは意外と近いというか同じなのかなって。

――どちらかといえば文化系レスラーだ、と？

坂井　そうですね。二人とも一日中、家でサムライTVをつけてんじゃないかっていうタイプじゃないですか。

――あながち間違ってないと思います。

坂井　そういう世代の人たちの意見も聞いて盛り上げていこうっていう感じが、いまの新日本さんからはビンビン伝わってきますね。

――徐々に成果が現われて来ているって感じなんですかね。

坂井　そうだと思います。だから、蝶野さんのようなレジェンドの皆さんたちのナチュラルな人間力に、棚橋選手たちが持ってる、24時間サムライTV……301チャンネルをつけることで蓄積されたデータがプラスされると、ストロングスタイル×サムライTVで凄いことになるんじゃないですかね。

――ストロングスタイルに301を掛けたら相当な数になりますよね（笑）。そこにテレ朝の10も掛けたら……。

坂井　とんでもない数になりますよ！　BS朝日さんもありますし。一応、同じ業界でやらせてもらってますけど、逆に言うと脅威でもありますよね。

――ライバルでもあるわけですからね。

坂井　ライバルなんて、おこがましいですけど（笑）。そういえば、いまの新日本の一番ホットな話題は、天山さんが裏切られて、飯塚さんがヒールになってという流れじゃないですか。

――まあ、そうですね。

坂井　『マッスル』の練習で道場に行ったら、ウチの松永（智充）がずっとその話をしてるんですよ。しかもデカい&甲高い声で（笑）。

――なぜだ！（笑）。

坂井　もう、来るヤツ来るヤツに試合の流れをこと細かに、1試合丸々全部再現してるんですよ。延々と1時間ぐらいぶっ続けで。

――それぐらい「おもしろいんだぜ！」ってことを伝えたいんですね？

坂井　そうなんだと思います。純粋に、おもしろかったっていうことをみんなに伝えたくて、飯塚さんが天山さんを裏切った、その1試合を身振り手振りを交えて説明しまくってましたからね。さすがに頭おかしいんじゃないかと心配になりましたけど（笑）。

――ついこのあいだまでDDTのタッグチャンピオンだった現役レスラーなんですけどね（笑）。

坂井　知名度はいまいちかもしれませんけど、いまの新日本さんの魅力を松永に語らせたら凄いことになりますよ。

――機会があれば、話を聞いてみたいと思います（笑）。

坂井　そういえば、このあいだ『マッスル』をやったときに、後楽園ホールの控室で、薄いブラインドみたいなカーテン型の壁を隔てた奥でも、西口プロレスと思われる人たちが、ずっと新日本の話をしてましたね。

――DDTはおろか、プロレスごっこ界の頂点である西口プロレスも含めて、あちこちで新日本の話題でもちきりになっている、と？

坂井　そうです。……まあ、その2カ所では確実に。あと、僕は先日2週間ちょっと入院してたんですけど、病室で消灯時間を過ぎてテレビの光が漏れると看護婦に怒られるんですよ。

――まあ、それは普通ですよね。

坂井　だからテレビにタオルケットかけて、光が漏れないように棚橋vs中邑戦を観てましたからね。

――そこまでして、『ワールドプロレスリング』を観てましたか（笑）。たしか、入院する前も「何もする気が起こらないけど、プロレスだけは観られる」みたいなことを言ってましたよね。

坂井　そうなんですよ！　いつも観てるお笑いの番組とかは頭に入ってこないんですけど、なぜかプロレスだけはべつで。歯が痛いと『やりすぎコージー』とかいつもはおもしろいのに、全然しゃべってることの意味がわかんなくて。でもなぜかそんなときでも『ワールドプロレスリング』はおもしろかったんですよ。「ずっと観てられるなあ」みたいな。

――へぇ～。でも、ここまで他団体のことをベタぼめしてると、なんかもらってるんじゃないかって疑われるかもしれませんね（笑）。

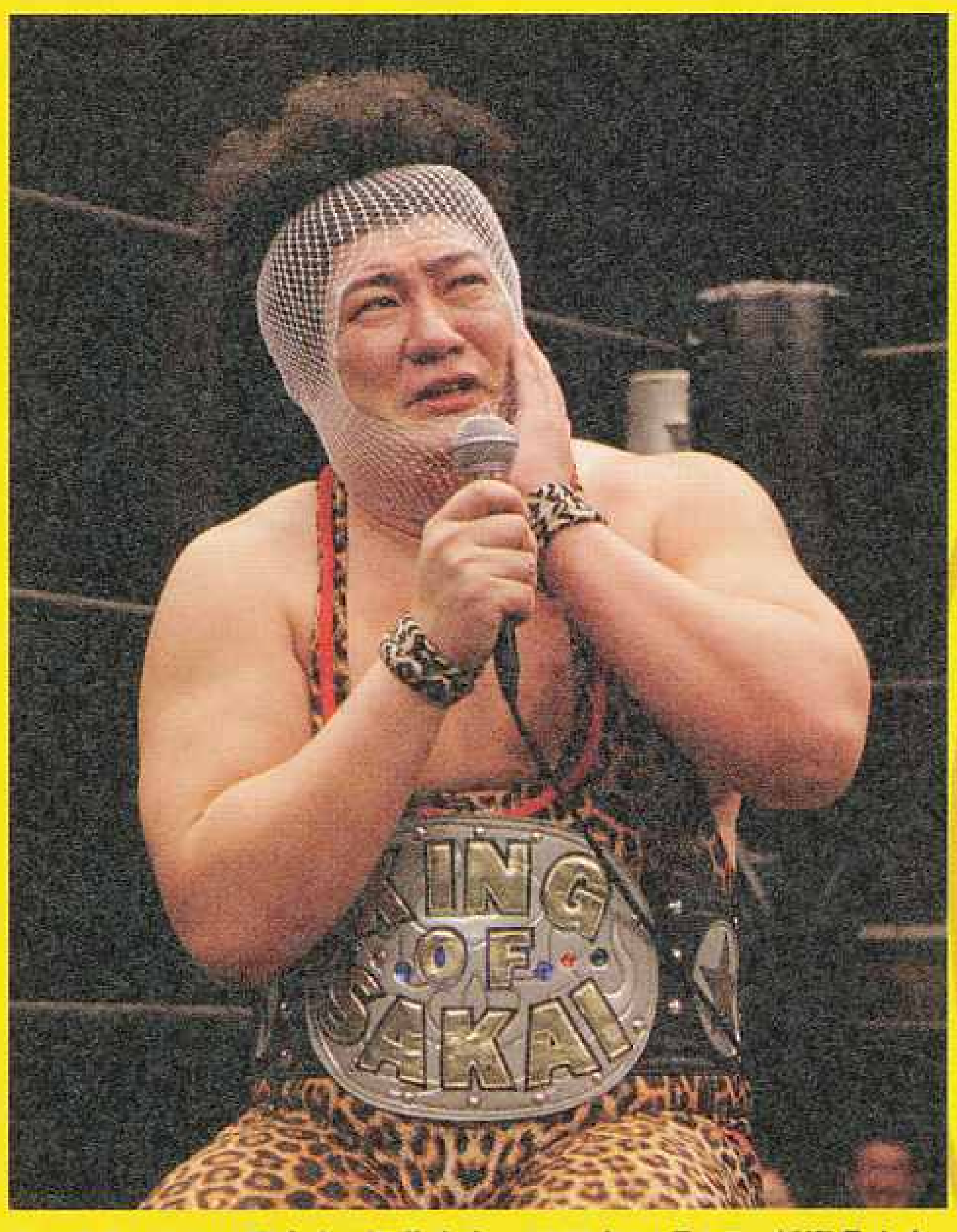
坂井　いや、じつは……。

――（さえぎって）えっ、まさか!?

坂井　いえ、何ももらってませんでした（笑）。……（小声で）でも、これだけ言ったら、ひょっとして試合のオファーとか来るかもしれないですよね？

――いや、それはないと思います（笑）。今日はありがとうございました！

【08年5月7日／都内某所にて収録】



まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県出身。早稲田大学在学中に映像班としてDDTに関わり、気がつけばプロレスラーに。現在は『マッスル』のほかにも、執筆活動からお笑いイベント出演、映画監督など多方面で活躍中。08年4月には親知らずからバイ菌が入り、下アゴが巨大に腫れあがった上に骨が壊死しかけるという蜂窩織炎により緊急入院&手術。約3週間にわたる入院生活を経て、5.6『マッスル』で本格復帰をはたした。186cm、120kg。



『YOSHIMOTO DIRECTOR'S 100』でマッスル坂井が映画監督デビュー！

昨年7月より吉本興業の各劇場にて順次公開中の『YOSHIMOTO DIRECTOR'S 100』にて、マッスル坂井が映画監督デビューすることが5.6『マッスルハウス6』のエンディングで発表された。坂井が監督を務めたのは『シルバーホストG』というホストもの。出演は村上ショージ、杉本彩、さらには鶴見亜門こと今林久弥やゴージャス松野、美月凛音といった『マッスル』でおなじみの面々も出るぞ！　お見逃しなく!!

■作品名／『シルバーホストG』
■上映日時／6月7日（土）～6月13日（金）
■チケット料金／前売800円、当日1,000円
■上映場所／
神保町花月、ヨシモト∞ホール、ルミネtheよしもとにて公開

この男、いったいどこまで本気なのだろうか？

僕のプロレスはモテるプロレス。略してモテプロで〜す！





自称“モテプロ”が『kamipro』初登場!

新日本プロレスがおもしろいだなんて
絶好調の秘密をさっそく調査!
けしからん!!

虚実入り交じるナルシスト

棚橋弘至

新日本きってのベビーフェイスだったにもかかわらず、突如としてヒールチックなナルシストキャラに変貌を遂げた棚橋弘至が『kamipro』初登場! 新日本生え抜きなのに従来の“ストロングスタイル”の匂いをあまり感じさせないこの男に、いまの新日本のおもしろさが凝縮してると感じた本誌は直撃インタビューを敢行! しかし、聞けば聞くほど話は迷走、“平成のコンニャク野郎”がここにいた!?

聞き手/ジャン斉藤　撮影・試合写真/平工幸雄

——最近はプロレス団体の中でも新日本プロレスがおもしろいんじゃないかっていう話を聞きまして、そのおもしろさの象徴でもある棚橋さんにお話をうかがいに来ました!

棚橋　ありがとうございます。

——いきなりですけど、棚橋さんって試行錯誤というか、いろいろチャレンジされてる印象が強いんですよね。

棚橋　本当ですか? とくに何も考えてないですよ。考えてないというか鼻が利くんで、一番目立てそうなところへ動いてる結果だと思うんですけど。

——それはプロとしてどうすれば光れるかということですか?

棚橋　他人よりは自己顕示欲が強いですね。いまは欠場中なんでその欲望がマックスまで溜まってますよ。そのうち渋谷かどこかで全裸になってるかもしれない(ニヤリ)。

——そこまでして人前に立ちたい、と(笑)。最近の棚橋さんってその自己顕示欲がいい方向に表われてますよね。

棚橋　自己顕示欲は昔から変わらずなので、まあ、劣等感がなくなったというか。

——劣等感?

棚橋　はい。劣等感です。それがあったんですけど、鏡とかを見たら「俺って意外にかっこいいな~」と思って。

——はあ。

棚橋　「もっと自信を持っていこうよ!!」っていうような感じになって。昔はホントに劣等感の塊だったんですよ。

——たとえばどういうところに?

棚橋　昔は野球をやっていたんですよ。それで野球があんまりうまくなかったっていうのもあったし。あとはなんだろう? 理由はないですけど、屈折

僕は自己肯定と否定の波が分刻みなのでつかみどころがないと思います

した劣等感というか。小学校の頃に上靴を買うと、「ああ、この上靴、俺に買われちゃったなあ」ってそういう……。

—もの凄く病んでますね。

棚橋　でも、明るいは明るいんですよ。ただ、自己肯定と自己否定の波が分刻みでくるんで。

—ええと、それって俗にいう躁鬱なんじゃ……。

棚橋　かもしんないです（アッサリ）。

—しれませんか！（笑）。

棚橋　だから発言に統一性がないんですよ。つかみどころがないというか、ファンにしたら生理的に嫌う人も多いかもしんないですね。僕、凄いブーイングをもらってた時期があって。去年ぐらいまで2年間ずっとブーイングだったんですよ。

—IWGPヘビー級チャンピオンだった時期も。

棚橋　「この野郎、俺はチャンピオンなのになんでブーイングしてんだよ！」って腹の中では思っていたんですけど。あるとき「声援もブーイングも俺が引き出してるんだ」って思えるようになって。「俺が引き出してるリアクションだからそれでいいじゃん」って。

—いわゆるヒールとして考えれば、ブーイングは声援みたいなものですしね。

棚橋　べつに自分の中では俺以上のベビーフェイスはいないって思っているんですけど。そこらへんの感覚のズレがあるみたいですね。

—そもそも棚橋さんってプロレスファンだったんですよね？

棚橋　プロレスファンでしたよ。

—じゃあ、ファン気質っていうものは、ある程度は理解しているつもりだったんですか？

棚橋　まあ、ファンは自分勝手なもんですよね。

—なるほど。

棚橋　けっこうその場のノリで盛り上がったり、みんなが応援しているから応援したり。そのへんを好き勝手楽しむのがプロレスだと思うんですけど。

—じゃあ、棚橋さんにブーイングしてたのはノリなんですかね？

棚橋　うーん、僕が嫌いだったからじゃないですか（ニヤリ）。

—ノリじゃなかった！　と（笑）。

棚橋　もしくは新日本のプロレスはこうじゃないんだっていう気持ちがファンの中にはあったんじゃないですかね。それに合わなかったっていうのはあったかも。だから、一時期の中邑（真輔）のほうがそういう感じは顕著だったんですけど、なぜか彼にはブーイングがないんですよ。

—どうしてですかね？

棚橋　それは人柄じゃないですかね。

—人柄の問題!!（笑）。

棚橋　しょうがないですね。持って生まれたものなんで（淡々と）。

—棚橋さん、なんか達観しすぎてるんじゃないですか？

棚橋　いや、全然そんなことないですよ。でも、プロレスラーである以上、完璧なコメントをして、完璧な試合をしていたらおもしろくないじゃないですか。まあ、試合はおもしろいにこしたことはないんですけど。

—要するに、ファンの妄想を働かせる余地を残しておくとでもいうか。

棚橋　まあ、あえて突っ込まれようとするのはダメですけどね。「何を言ってるんだコイツ？」っていう感じのほうがおもしろいんで。

—棚橋さんは学生プロレス出身ですけど、それも先ほど言われた劣等感だったりするんですか？　学生プロレス出身って、タブーだったときもあったじゃないですか。

棚橋　ありましたね。でも、それは劣等感っていうか、「学生プロレスをやってたって言わないほうがいいよ」って周りの友だちから言われたんで。でも、新日本に入って1ヵ月ぐらいでもうバレていましたね。永田（裕志）さんはもう知ってましたね。

—何か言われました？

棚橋　なんて言われたかな。「学生プロレスやってたんだろ？　リングネームなんだったんだ？　言えよ!!」って。しかも合同練習中に。

—それはイヤですねぇ（笑）。

棚橋　イジメですね（ニヤリ）。まあ、学生プロレスはやってたんですけど、そのぶんしっかりウェートトレーニングやレスリングにしてもこなしてたんで、誰よりもいい身体で入門してやろうっていうのがあったし、逆にいまが凄ければそれでいいじゃんっていうか。

—で、同時期に学プロで一緒だったのがHGとRGのお二人だったという。

棚橋　いま考えると凄い人たちが集まってたなあって。HGさんは昔から運動神経もよかったんで、動きがきれいですよね。ただ、サイコロジーはRGさんのほうが持ってますね。

—そんなにほめると、RGは図に乗りそうな気がしますけど。

棚橋　きっと電話かかってきますよ。「ありがとう」って。僕からコメントを出したことはたぶん一回もないですけどね。

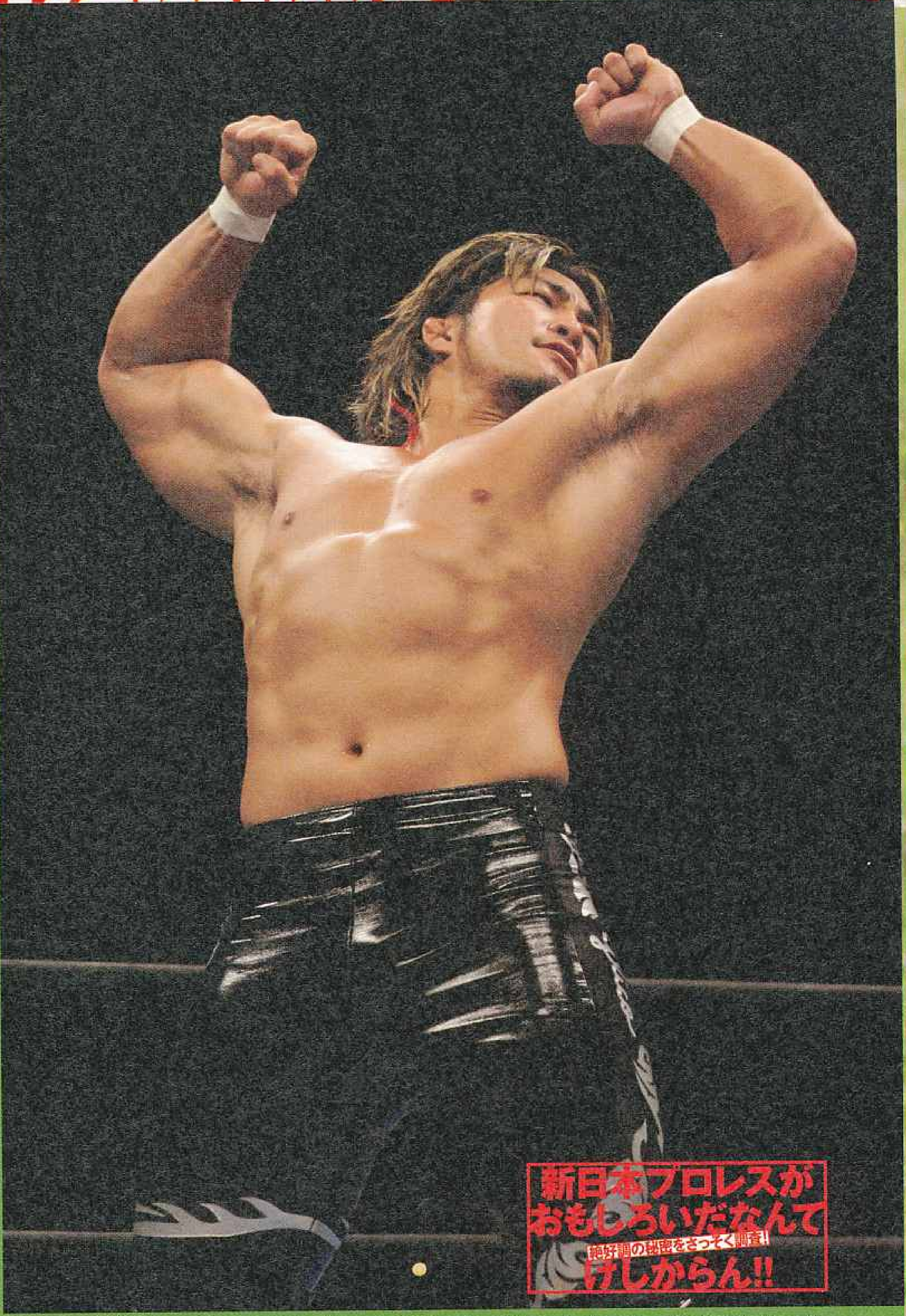
—あ、ないんですか。

棚橋　向こうはいろいろ言ってきたんですけど。

—それはわざと出さないんですか？

棚橋　放置プレイですよ（ニヤリ）。

—ダハハハハハ！　一応RGは先輩ですよね？



グっとくるほどナイスバディ!　常にグッドシェイプを誇っている棚橋。きっと毎日、鏡の前でポージングして自分にウットリしていることだろう。ちなみに同じキザ系キャラで好きなのは“ナルシスト”レックス・ルガーよりも“ザ・モデル”リック・マーテルだとか。意外とゲキ渋ッ!



プロレスに対する哲学はありますが根底にストロングスタイルはないです

棚橋　先輩です。凄い尊敬してましたよ。過去形ですけど。

――はあ（笑）。どういう部分を尊敬してたんですか？

棚橋　RGさんのよさっていうのは、長い時間一緒にいるとわかるんですよ。時間をかけるとジワーっとくるんですよ。

――……バカにしてるでしょ？

棚橋　いやいや。スルメみたいな人なんですよ。「あ、この人おもしろいなあ」っていうところに到達するまでに時間がかかるんですよ。

――絶対にバカにしてる（笑）。で、RGさんのほうがサイコロジーはわかる？

棚橋　サイコロジーっていうか、いかにかっこ悪い姿をさらせるかとか、いかに恥ずかしい姿をさらせるかっていう部分でプロだなあと思いますよね。

――棚橋さんはデビュー当初はどういう自分をさらけ出したいと思っていたんですか？

棚橋　デビュー当時はモテたいなあとは思っていましたね。

――はっはー。でも、よくよく考えたら男としてあたりまえの動機だったりしますけど（笑）。

棚橋　そうですね。凄くシンプルな。棚橋のプロレスはモテるプロレス、略してモテプロです。

――はあ。普段の生活の中でも、モテるということが自分の中の選択する条件になるんですか？

棚橋　ですね。プロレスにしても私生活にしても、僕の中の尺度はかっこいいか、かっこ悪いかしかないです。

――あの、電車に乗るってかっこいいですか？

棚橋　かっこいいです！

――あ、かっこいいですか（笑）。

棚橋　はい。僕はもっぱら電車移動です。

――車は乗らないんですか？

棚橋　車も乗るんですけど、しょっちゅうぶつけるんで「乗るな！」っていう声がちらほら……。

――それはかっこいいとかの話じゃないですね。最近やってしまったかっこ悪いことってなんですか？



同日デビューの井上亘、柴田勝頼と一緒に記念撮影! 現在の姿からは考えられないほどアカ抜けない棚橋が初々しい。棚橋と柴田のあどけない表情とは裏腹に、デビューにも関わらず「何年選手だと思ってんだ!?」と聞きたくなるような井上の凄みのあるツラがまえもいい感じ!

棚橋　うーん、なんだろう？　思い浮かばないですね。

――じゃあ、人生最大のかっこ悪いことってなんですか？

棚橋　それはいろいろありますよ。市川海老蔵以上の修羅場をくぐってますから……（遠い目で）。

――ダハハハハハ！　皆まで言うな、と（笑）。しかし、棚橋さんの主張って、新弟子時代に言ったら怒られますよね？

棚橋　怒られると思いますよ。僕、昔のインタビューは凄い真面目なことを言ってたんで。

――凄く真面目ですよね。ちなみにファンの声とかって気になりますか。

棚橋　僕はあんまり気にしないですね。自分がかっこいいと思ってることをやるだけで。新聞も週刊誌も自分が載ってるとこしか読まないですし。

――う～ん、ナルシストに徹してますね（笑）。新日本っていうとストロングスタイルが根底にあると思うんですが、棚橋さんにとって足かせになったりしないですか？

棚橋　ストロングスタイルは根底にないですよ（アッサリ）。プロレスに対する哲学はありますけど、「俺はストロングスタイルだ」って言ったことは一度もないですし。だって、ストロングスタイルって何もないじゃないですか。



棚橋はPRIDEにも上がっていた! と言っても試合ではなく、本文中にある「市川海老蔵以上の修羅場」をくぐり抜けた後日、PRIDE24(02年12月23日)のアントン劇場に呼び込まれたかたち。あの猪木に「元気がありすぎるとスキャンダルが起きる」と言わせた棚橋は本物ダーッ!

――またハッキリ言いますね（笑）。

棚橋　何もないっていうか説明できる人がいないじゃないですか。

――誤解を恐れずに言うと、ファッションで使ってる人もいるでしょうね。じゃあ、棚橋さんの中に（アントニオ）猪木さんの影っていうのはあるんですか？

棚橋　ないです（キッパリ）。猪木さんは新日本を離れられているのに、まだ道場には猪木さんのパネルがあるんですよ。あれをいつかはがしてやろうと思って。

――ダハハハハハ！

棚橋　あれをはがせるのは俺しかいないなあと思って。いつか小林（邦昭）さんの目を盗んで処分しようと思ってるんですよ（ニヤリ）。

――棚橋さん、おもしろいですね（笑）。棚橋さんってサブカル系のものに対して興味があるって聞いたんですけど、そんなことないですか？

棚橋　いや、全然浅いですよ、俺。でも、そういうオシャレっぽい知識は常に持っておきたいですね。

――それはかっこよく見せるためっていうことですか？

棚橋　はい。

――はあ。奥さんと話は合いますか？「何バカなこと言ってんの！」とか言われないですか？

棚橋　嫁さんですか。嫁さんにはシュートで「キモい！」って言われますよ。

自分のことを愛してま～す！ 棚橋ナルシスト発言集

「棚橋弘至を手に入れるということは、未来を手に入れるということです」
【08年2月14日（宮城大会）試合後】

いけしゃあしゃあと契約を保留して、まるで宗教の勧誘を思わせるようなこの言葉。しかし、「この言葉の意味が伝わればいい」と、ちょっぴりタナ節の伝達度に不安げなところを見せるなど、まだそのキャラ設定には迷いが見られた時期。ちなみに次回の話し合いで契約に至ったときには「俺の成長は、光より速い」という物理学そっちのけのコメントも残した。

「もう、『セクシーニポンプロレス』でいいんじゃないかな？」
【08年2月14日（宮城大会）試合後】

バレンタインデーの夜、「今日も（自分の魅力で）セクシーな夜になったな」と悦に入る棚橋は、勢いに乗じて社名変更を提案！　しかし会社思いの棚橋は、『新日本セクシー』だと、プロレスじゃなくなっちゃうからな」と、アフターフォローもぬかりない。ダルビッシュ有のヌード写真掲載に、「では次は俺が」と、名乗りを挙げたのもこの頃。

「再認識したけど、世界は俺を中心に回っている」
【3月21日（千葉大会）試合後】

自ら「セクシーvsファンキー」と銘打った田口隆祐との試合を制したあとにタナ流のセカチュー宣言！　続けて「時代が棚橋弘至を求めてる。いくらでも供給してやる、棚橋弘至は無限だから」と、詩情あふれるコメント。たとえ武藤敬司に「『愛してま～す』って、オカマに見えちゃうぞ」とツッこまれても、「無差別の愛ですよ」と切り返すなど段々そのキャラも乗ってきた！

「宇宙的なベビーフェイスは、どこに行っても人気者だな」
【4月5日（全日本プロレス・後楽園ホール大会）試合後】

チャンピオンカーニバル開幕戦を終えての言葉。1月25日の沖縄大会で「棚橋弘至を新日本に収めておくのはもったいないよね」という発言を残した棚橋は、敵地で自分の価値を再確認。折しも2月17日の両国大会後には「今年のテーマは宇宙。俺はどこでも通用する」と、長州力なら「あいつは宇宙人か？」と言いたくなる表現で他団体出撃を匂わせる発言も。

「序盤で俺がカッコよすぎたから、判定でイーブンだ」
【4月9日（全日本プロレス・後楽園ホール大会）試合後】

同じくチャンピオンカーニバル中の発言。この日、棚橋はかつて付き人を務め、自分を全日本に誘ったこともある武藤と対戦したが、結果は時間切れドローに。棚橋は「後半、武藤マジックにはめられた」としながらも、見出しのような独特なタナ理論を展開。なお「文句があるヤツは武藤敬司まで」と、責任転嫁するなど巧妙なタナマジックも披露した。

「（じん帯を）つなげて見せる。人類を超えてみせる」
【5月5日（後楽園ホール大会）テレビ解説にて】

左ヒザ前十字じん帯断裂の重傷を負った棚橋が、手術を回避してリハビリでの回復を誓ってコメント。「手術をしないとじん帯はつながらない」と、医学的に無茶があるのを理解したうえでの威勢のいいタナ節だ。宇宙に人類と、いちいちむやみに大きいそのスケール感。いったいどこまで行くのか気になるところ。鼻につくキャラもすっかり板についてま～す！

——ダハハハハ！　お子さんはどうですか？

棚橋　元気ですよ。いまは俺が幼稚園の送り迎えしてるんですけど、自転車こいでいいリハビリになってます。

——足のほうはどうなんですか？

棚橋　足は痛くて全然駄目ですね。今日でケガしてから1カ月経つんですけど、痛みがまだあるんで。

——手術はされるんですか？

棚橋　まだ決めてないです。でも、周りは手術したほうがいいって言いますけどね。

——でも、手術しちゃうと年内の活動は……。

棚橋　そうなんですよ。究極の選択ですね。

——新日本ってユークスさんに買われてだいぶ変わったと思うんですけど、中から見てどうですか？

棚橋　あんまり変わらないですね。会社としては健全なんですけど、ユークスが新日本の政治的な部分に直接入ってきてるっていうことはないんで。

——精神的にはどうですか？　一時期ユークスさんの前の新日本って猪木さんの介入を含めて、いろいろゴタゴタしていたと思うんですけど。

棚橋　べつに。僕は自己犠牲に凄く満足感を覚える人間なんで。

——それは苦境に立たされてる自分がかっこいい、と？

棚橋　そうですね、最高にカタルシス。「泣いた赤鬼」って昔話知ってます？　赤鬼と青鬼がいて、赤鬼が村人と仲良くなりたいんですよね。で、青鬼が村人をいじめて、赤鬼に村人を助けさせて自分は去っていくっていう話で。俺はその青鬼のほうに惹かれるんですよね。

——そんな青鬼になりたい、と（笑）。

棚橋　はい。だから僕は全然不満を抱いたことはないですね。本当に大事なのは自己犠牲の精神ですよ。

——それって滅びの美学的なところもあります？

棚橋　一番必要なものじゃないかなとは思うんですけどね。自分を犠牲にして試合を盛り上げるというか。一方的に勝ったっておもしろくないじゃないですか。

——そもそもプロレスってそういうもんですもんね。



たなはし・ひろし■1976年11月13日、岐阜県出身。99年10月10日、後楽園ホールでの真壁信也（現・刀義）戦でデビュー。05、08年「NEW JAPAN CUP」優勝。07年にG1 CLIMAX初制覇、その年の10月にIWGPヘビー級47代王者に君臨。08年4月に全日本プロレス「チャンピオンカーニバル」に参戦、準優勝をはたす。現在は「左ヒザ前十字じん帯断裂」および「外側半月板断裂」で欠場中、復帰が待たれる新日本プロレスきっての人気レスラー。181cm、103kg。

棚橋　だから僕はプロレスラーに一番大事なものを持ってるんですよ、きっと。自分で言いますからね（笑）。

——周りで言ってくれる人っています？

棚橋　あんまりいないですね。

——そうでしょうね（笑）。

棚橋　全然評価されてないですね。

——棚橋さんが無理してそういう自意識過剰なことを言ってるんじゃないかっていう見方も一部ではあるんですけど、それはないですか？

棚橋　無理はしてないですね。楽しんでますよ。むしろまだ徹しきれないっていうか、もっと出せればいいんじゃないかなと思いますね。まだ、自分の中でブレーキをかけてる部分があるんで。

——じゃあ、もっと変態的だったりするんですか？

棚橋　もっと凄いですよ!!　奥さんに「マジ、キモい！」って言われますからね。

——いまの状態は棚橋さんの変態のマックスを100とするとどのぐらいなんですか？

棚橋　いまはゼロですよ。全然普通です。

——どんなときに普通じゃなくなるんですか？

棚橋　いや、全部この延長線上ですよ。あんまり無理してることってないです。ノってるかノってないかなんで。「あ、今日はおもしろいこと言いたいな」とか「今日は適当でいいかな」とか。

——ちなみに今日はどっちで？

棚橋　そりゃ、今日は気合い入ってますよ（サラリと）。

——本当ですか？？　とてもそうは見えないですよ（笑）。

プロレスで本当に大事なのは自己を犠牲にする精神ですよ

棚橋　気合い入ってますよ。だって表紙でしょ？

——おもしろくない冗談だ。

棚橋　表紙じゃないんですか！　ああ〜、落ちた（ボソっと）。

——まあ、そろそろ終わりだからいいですけど。

棚橋　そうか。てっきり表紙&巻頭だと思ってました。

——しれっと凄いこといいますね。

棚橋　「kamiproさんから取材の依頼来てますよ。表紙&巻頭だって」って聞いたんですよ。

——（無視して）いまの棚橋さんの姿というかキャラクターってプロレス専門誌で伝えやすいんですかね？

棚橋　どうなんですかね？　一つ誤解してほしくないのは、僕はプロレスで遊んでいるわけじゃなくて、プロレスを愛しているってことです。それだけは言っておきたいですね。プロレスに対して斜に構えずに真摯な態度だと。どうしてもこういうキャラだとプロレスを利用しやがってみたいになってきますけど。

——なるほど。単純に観てる側として長州（力）さんと棚橋さんが同じ団体にいるっていうのが興味深いんですけど。

棚橋　ああ、長州さんは僕のことをどう思ってるんですかね。

——しゃべったりはしないんですか？

棚橋　挨拶ぐらいですね。

——長州さんと深い話をジックリしたことは？

棚橋　長州さんの行きつけの焼鳥屋に二人で行ったことはありますね。「ちょっと二人で話をしよう」って呼び出されて。

——それは興深い話ですね。いつぐらいですか？

棚橋　たぶん1〜2年ぐらい前ですかね。おいしい焼鳥屋さんでしたよ、おみやげまでもらって。

——おみやげのことはいいです（笑）。具体的にどんな話を？

棚橋　……それは忘れましたね（遠い目で）。

——……棚橋さん、つかみどころがないですね。

棚橋　そうですか？

——どこまでが虚で、どこまでが実かわからないです。

棚橋　よく本人もわかってないですけど。でも、気合い入ってますよ。kamipro初登場でしょ？

——そうなんですよ。最近はなかなかプロレスを取り上げる機会がなかったんですけど。

棚橋　「紙のプロレス」と言いながらプロレスを取り上げない……、虚々実々って感じですね。

——あ、さっき棚橋さんに言ったフレーズをそのまま返しましたね。

棚橋　そういう意味では虚実が僕との共通項なわけだし、お似合いの雑誌なのかも知れませんね。

——そう思っていただけると光栄です。

棚橋　よくわかんないですけど（ニヤリ）。

——RG並みにバカにしてるでしょ？

【08年5月7日／東京・新日本プロレス道場にて収録】



最狂！昭和新日本イタズラ伝説

デビュー20周年記念対談

鈴木みのる×獣神サンダー・ライガー

掲載不可能!? 超過激発言連発!!

40回目の誕生日となる6月17日、後楽園ホールで『風になれ〜SUZUKI MINORU 20×2th Birthday Party〜』と題したデビュー20周年記念興行を行なうことが決定した鈴木みのる。それを記念して、新日本プロレス時代の先輩であり、船木誠勝を含めた伝説の道場内いじめっ子ユニットとしても知られるライガーとの対談が実現！ “世界一性格の悪い男”の原点ともいえる、ハチャメチャなエピソードがいまよみがえる!!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山剛史

みのる　いやあ、この道場に来るのもひさしぶりですね。

ライガー　いつ以来だっけ？

みのる　僕がUWFに行ってから全然来てなくて、03年に新日本に参戦するときに来たんですよ。巡業バスの集合場所がここだったんで（笑）。でも、それ以来ですね。

――鈴木さんが新日本を辞めたあと、道場のコシティがなくなって、泥棒疑惑がかけられたんですよね？（笑）。

みのる　そうそう。猪木さんが「鈴木が持っていきやがったんじゃねえか」って言ってたらしくて（笑）。

ライガー　だいたい辞めたヤツに容疑がかけられるんですよ。前にコシティとかプッシュアップボードがなくなったときは「西村（修）が持っていったんじゃねえか」とか。

――でも、鈴木さんは猪木さんに泥棒疑惑をかけられるぐらい……、やっぱり新弟子時代からワルだったんですか？

ライガー　悪かったってわけじゃないんだけど、こっちについたほうがうまいんだわ。

――あ、そうなんですか（笑）。

ライガー　こっちについたほうが有利だっていうほうに、必ずつくんだよ！

みのる　基本的に当時の道場のいじめっ子はライガーさんと船木さんなんですよ。だから入門してすぐ、二人の様子を見た瞬間、こっち側についたほうがいいなって。そうすりゃやられないだろうって（笑）。

ライガー　なぜかこっち側にいるんだよ！　立ち位置おかしくないか!?

俺とか船木は当時、もう4年ぐらい先に入ってるから、若い人間が入ってきたらいろいろ言うじゃないですか。でも、鈴木は入ったばかりなのに、なぜか俺たちと横並びでいるんだよ！

――なぜか新弟子がいじめっ子側にいましたか（笑）。

ライガー　あれが不思議なんですよ。なぜか俺たちと対等。いつも俺の横に船木がいて、鈴木もいるから、「あ、このラインか」って。

みのる　謎のラインがありましたよね（笑）。

――なぜかユニットができあがっていた、と（笑）。鈴木さんが入門したとき、パンチパーマで来たっていうのはホントなんですか？

みのる　パンチパーマで来たわけじゃないです。パンチパーマが伸びた状態で入門したんです。

――元パンチパーマでしたか（笑）。

ライガー　そのとき俺は日本にいなかったよね？

みのる　たしかイギリスに行ってて、俺が入って2カ月ぐらいして、帰ってきたんですよ。

ライガー　そう。そのときに飲み会やったんだ。俺の帰国パーティってことで、いまは亡き後藤（達俊）さんちでね。

みのる　「いまは亡き」って、こないだ会ったよ！

ライガー　俺も会ったような記憶はあるな（笑）。で、その飲み会でこいつが飲むんだ。

みのる　いやいや、自発的にじゃなく、飲まされたんですよ（笑）。テキーラのストレートを一気させられて、飲んだあと「よし、ジャンピングスクワット」って間髪入れずにジャンピングスクワットやらされて。で、

ライガーさん側につけば、いじめられないなって思いましたから（笑）

トイレに行って吐いたら「吐いたからもう一杯」って言われて。

ライガー　ひでえ！

みのる　飲んで、ジャンピングスクワットやらされて、吐いて、また飲んでの繰り返し。それを何回やったか記憶にないですよ。

ライガー　それやらせたの船木だろ？

みのる　そうです（笑）。

ライガー　そうだよな！

俺がやらせたことになってるけど、そういうことをやらせるのは、いっつも船木だから！　新弟子をチョークで落として、風呂に沈めたのも船木だから！

――でも、風呂のフタの上に乗っかってたのは、ライガーさんですよね？

ライガー　うん、乗っかってたのは俺だけどね（笑）。でも、首絞めて落としたのは船木だし、だいたい船木の仕業だから。それが俺のせいになってるんだもん。ある意味、俺は被害者だよ！

みのる　被害者じゃない！　テキーラ一気させたときも、大爆笑してたじゃん！

ライガー　おまえ、覚えてるの？

みのる　後藤さんの家のカーペットにゲロ吐いて、怒られたところまでは、なんとか断片的に記憶あるんで



鈴木は新弟子なのに、なぜか俺や船木と最初から同格だったんだよ

"世界一性格の悪い男" 鈴木みのる 20年の歩み

87年3月　新日本プロレスに入門。アントニオ猪木の付き人となる。
87年11月　船木と六本木で大暴れ。謹慎処分となる。
88年6月　横浜文化体育館において、飯塚孝之（現・高史）戦でデビュー。
89年3月　横浜文化体育館の第一試合でアントニオ猪木と対戦。これが鈴木の新日本最後の試合となる。
89年3月　新日本プロレスとの契約切れを待って退団。第二次UWFへ移籍。
89年11月　モーリス・スミスを相手に初の異種格闘技戦。KO負けを喫する。
90年12月　第二次UWF崩壊。
91年2月　プロフェッショナル・レスリング藤原組に参加。
91年4月　SWS神戸大会でのアポロ菅原戦が不可解な試合となる。
92年10月　藤原組の東京ドーム大会で、ソウル五輪金メダリスト、ゴビリシビリ・ダビドにスリーパーで勝利。
93年1月　船木らと藤原組離脱。
93年9月　パンクラスを旗揚げ。
93年11月　モーリス・スミスとキックルールで再戦。KO負けを喫する。
94年10月　船木誠勝と対戦。チョークで一本負け。



リング内外で大暴れしながらも、その将来性を買われてか、新日本プロレスをクビになることはなかった鈴木と船木。しかし、89年に二人揃って新生UWFに移籍。その大胆な行動は、ファンの注目を浴びるとともに、旧来のプロレス関係者をおおいに困惑させた。

すよ。俺が酔っぱらってきたら、船木さんがまた煽ってね。「おまえ、先輩に対してなんか言いたいことあるだろ」とか。

――ガハハハハ！ 焚きつけられましたか。

みのる まだデビュー前だったんですけど、先輩方に「いいか、松田！ 片山！ 俺がデビューしたら、おまえらなんかに負けねえぞ」みたいなことを言ったら、ライガーさんに「先輩に対して生意気なこと言うな！」ってぶん殴られて。鼻と口から血を流しながら倒れて、そこから記憶がないですね。

――船木さんに言わされたのに、ライガーさんにぶん殴られましたか。なんと理不尽な（笑）。

ライガー そのあと鈴木は酔い潰れてひっくり返ってたな。でも、そんなのお構いなしで宴会は進むわけですよ。

みのる それ、普通に考えたら急性アルコール中毒ですよ！

ライガー 危ないよね。死んでもおかしくない（笑）。

――新弟子が急性アルコール中毒になったぐらい関係ない、と（笑）。

ライガー 鈴木がぶっ倒れてる最中も、こっちはこっちで楽しいわけだから（笑）。ただ、宴会が終わって帰ろうかってなったときに、血だらけで潰れた鈴木をどうやって連れて帰ろうかって話になって。とりあえず全裸にしたんですよ。

――なぜ全裸（笑）。

ライガー ゲロまみれで汚いからさ（笑）。それで後藤さんちはエレベーターがなかったから、みんなで両手両足を持って、撃たれた熊状態で下まで運んでさ。でも、下まで運んでる最中、ずっと頭がゴーンゴーンって階段にぶつかってたね（笑）。

――ガハハ！ 危ないですよ！

みのる ちょっと待って！ ライガーさんはそのとき手持ってました？ 足持ってました？

ライガー どっちだったかなあ？

みのる 頭ぶつけてたのは、手を持ってた人の責任ですよ。これ、どっちを持ってたかは、凄く大事な問題。

ライガー ……じゃあ俺、足だ。

みのる ハハハハハハ！ 逃げた！ 責任逃れだ！

ライガー いや、俺が足持って先に降りたんだよ。そうすると頭が上にあるから、どうしても階段にゴーンゴーンってぶつかってさ。それが4階から1階に降りるまで、ずっとぶつかってるんで、それがまたおもしろくてね。

――おもしろがってる場合じゃないですよ！（笑）。

みのる たしか、1階がセブンイレブンだったんですよね。

ライガー そう。その前を素っ裸で血を流してるヤツが運ばれていくんだよ。

――それ、目撃者がいたら、間違いなく通報されてますよ（笑）。

みのる 事件ですよね。

ライガー それで道場まで運んできて、船木が「汚いから洗おう」って言いだして、ホースで水ぶっかけて、そこらへんを掃除するデッキブラシで鈴木をゴシゴシ洗いだしてな（笑）。

みのる ガラス用の洗剤とかかけられたんですよね？ 全然、記憶にないですけど。

――デッキブラシで洗う必要がなぜあるんですか（笑）。

ライガー それが不思議なんだよ。道場まで連れてきたんだから、隣の風呂場でお湯をかけてやりゃあいいんだけど。船木が道場の前で水洗いし始めてさ。

――そこでもやっぱり船木さんの仕業ですか（笑）。

ライガー だから、だいたい船木なんだって！

みのる それで朝起きたら、全裸で道場のリングのコーナーに、テーピング用のテープで、手足ぐるぐる巻きに縛りつけられてたんですよ。し

95年5月 ウェイン・シャムロックを破り、第2代キング・オブ・パンクラシストとなる。
95年9月 バス・ルッテンに敗れ、王座転落。その後、腰痛の悪化もあり低迷。
02年6月 エル・ソラールに金的を蹴られ反則勝ち。
02年11月 パンクラスで獣神サンダー・ライガーと対戦し、チョークで勝利。
03年4月 パンクラスMISSION所属となり、プロレス復帰を宣言。
03年6月 日本武道館で14年ぶりに新日本プロレス登場。
04年2月 高山善廣とのタッグで、天山&西村組を破り、IWGPタッグ王座を奪取。
04年7月 NOAH東京ドーム大会でNOAH初登場。
05年1月 小橋建太の持つGHCヘビー級王座に挑戦も敗れる。
05年6月 丸藤正道と組んでGHCタッグ王座を奪取。
06年4月 全日本プロレスのチャンピオンカーニバルに出場。
06年6月 メカマミーと対戦。ミネラルウォーターでメカをショートさせ勝利。
06年9月 太陽ケアを破り、三冠ヘビー級王座奪取。
06年12月 2006年度プロレス大賞のMVPを受賞。
07年8月 佐々木健介に敗れ、三冠ヘビー級王座陥落。
08年4月 太陽ケア、TAKEMURA、NOSAWA論外、MAZATAも加え、GURENTAIを結成。

かも、なぜかテープで目と口が塞がれてて、鼻だけ開いてたの。

――一応、死なないように（笑）。

みのる　あと、チンポにもテープがぐるぐる巻きにしてあってね（笑）。

ライガー　くだらねえ（笑）。

――でも、鈴木さんもよくそんな目に遭って辞めませんでしたね。

みのる　いや、そういうのがあたりまえだと思ってたんで。

ライガー　そんなの日常茶飯事だったもんな。当時で言ったら「ああ、日常的」みたいな。

――どんな日常ですか（笑）。

みのる　まあ、昭和ならではというか、俺らが最後の昭和世代ですよね。僕が六本木でケンカして捕まったときって、ライガーさんは日本にいませんでしたよね？

ライガー　ああ。気がついたら留置場だったってやつだろ？

――ガハハハ！　気がついたら留置場！

ライガー　そのとき、俺はいなかったけど、あとで話は聞いた。「気がついたら鉄格子の中だった」って（笑）。バカじゃねぇの？　六本木で大暴れしたんだろ？

みのる　はい。パトカー呼ばれて、お巡りさんが15人ぐらいで囲んで、俺と船木さんを押さえつけたらしいんですよ。

ライガー　警察相手に2対15で大暴れだろ？　こいつらアホだよ！

みのる　そして手錠かけられて（笑）。

ライガー　手錠だよ！　普通、経験しねえよ！

みのる　で、取り調べを受けるとき、船木さんとちょっと話して「これは演技をして酔っぱらってることにしよう」って。

ライガー　冷静だなあ……。

みのる　冷静ですよ。それで「俺らの気持ちは誰もわかってくれないんだ！」とか船木さんが言いだして、小芝居してるうちに、俺、本気で感情が昂ぶってきちゃって（笑）。

ライガー　バカだ（笑）。

みのる　それで「迎えは誰が来れるんだ？」って聞かれたとき、「猪木呼んでこい、猪木！　猪木だったら俺の気持ちがわかるんだ！」って言ったらしいんですよ、お巡りに向かって。それを見てビビッたもう一人の人間がなぜか坂口さんに電話しちゃったらしいんです。「鈴木と船木が捕まりました」って。そんなことも知らずに、取調室で「バカ野郎！」とか

酔っぱらって全裸で殴られるのが日常茶飯事でしたからね（笑）



叫んでたら、うしろにデッカい人が立ってて、坂口さんだって気がついた瞬間、バァァァァンッ！ってぶん殴られて、壁まで吹っ飛ばされて。もう一気にしらふですよ（笑）。

ライガー　強い！　さすがビッグ・サカだ（笑）。

みのる　船木さんはそのとき、吐いたりして、机に突っ伏して寝てたんですよ。坂口さんは、その頭を上からおもいきりぶっ叩いて、船木さん、机に頭ぶつけて跳ね上がりましたからね。

ライガー　脳挫傷で死ぬぞ（笑）。

みのる　で、坂口さんは「もう、こいつら帰ってこなくていい」とか言って。現実問題、酔っぱらってて帰れないから「とりあえず泊まってけ」って話になって、上の階にある留置場に行ったんですよ。でも、船木さんは歩けないから、坂口さんがおぶって上がったの（笑）。

――ガハハハ！

みのる　だから、僕は「気づいたら鉄格子」じゃないんですよ。それは船木さんです。

ライガー　一緒だよ、そんなもの。気づこうが、気づくまいが。鉄格子の中に入ってるんだから。

みのる　次の日の朝飯とか昼飯のメニューも覚えてますよ。朝はパンとパックの牛乳でね、昼は黄色っぽいご飯と煮つけ。船木さんは食えなかったらしいんですよ。

ライガー　気持ち悪くて？

みのる　いや、反省で。俺は「すいません、これお替わりないですか？」って言って。

――臭い飯のお替わり（笑）。

ライガー　おまえ最低だよ！　でも、それでもクビにならない新日本プロレスって凄いよな。

みのる　いや、そのとき「クビ」って言われたんですよ。会社の会議室に俺と船木さんが一人ずつ呼ばれて、僕が最初だったんですよ。そしたらテレ朝から出向で来てた役員の人に「おまえ、練習生だからわかってるよな？　クビだ」って言われて。部屋から出たあと、船木さんに「どうした？」って聞かれたんで「『クビだ』って言われました」って言って。で、次に部屋に入った船木さんが「鈴木がクビなら、僕もクビでいいです」って言ったら、収まったんですよ。

ライガー　まあ、船木に対しては「ちょっと待てよ」ってなるだろうね。

みのる　船木さんは「僕と鈴木は同じことをやったんだから、僕もクビにしてください」って話して。そのおかげで僕はクビにならずに済んだんですけど、そのあと二人で頭剃って、坊主頭にして反省して。道場に帰って一緒に風呂に入ったとき、船木さんが「あんなのさ、俺がクビになるわけねえじゃん。そう言えば収まると思って」って言うんですよ（笑）。

ライガー　船木最低！　あいつは最低だよ！

みのる　でも、おかげでそのあとの僕のプロレス人生があったんですから。

――ワルですねえ……。

ライガー　あいつ越後屋みてえなヤツだなあ。一番悪いヤツだね。

――そこまでしてクビを回避しといて、二人とも1年後ぐらいに新日本を離脱してるんですからね（笑）。

ライガー　そうだよ！　おまえら最低じゃん！

みのる　ホントすいません（笑）。

――そりゃ坂口さんも怒りますよね。

ライガー　怒るよ！　俺もいま冷静に聞いたら、そりゃ怒るよ！　ホントこいつら最低だよ！

みのる　言い訳していいですか？　若かったんですよ（笑）。

――ガハハハ！

ライガー　若かったで済むか！　最低だよ！

みのる　だってその時点で俺も船木さんも10代ですよ。

ライガー　10代でそんな悪知恵働くの？　どんなヤツなんだよ、おまえら！

――ライガー、船木、鈴木が〝ユニッ

ト〟だったのに、ライガーさんは、そういったやんちゃには参加してなかったんですか？

ライガー　僕は海外に行ってたし、鈴木はしばらくしたら新日本を辞めちゃったしで、長く一緒にいたわけじゃないんですよ。ただ、鈴木が辞めたあと、六本木で飲んだりはしましたけどね。俺が天山（広吉）と小原（道由）なんか連れてて、こいつは若い人と一緒にいて。

みのる　たしか、船木さんと冨宅（飛駈）と垣原（賢人）ですよ。

ライガー　あれは六本木で偶然会ったんだっけ？

みのる　違う違う、船木さんとライガーさんが「飲みに行こう」ってことになって。ライガーさんが「鈴木も若いヤツも連れてこいよ。俺んとこもおもしろいのいるから」って、天山を連れてきたんですよ。

——おもしろ要員を（笑）。

みのる　それで、天山にビール瓶の中にションベンさせて、「隣の席の女の子に飲ませてこい！」って言ったんですよね（笑）。

ライガー　ああ、そうだ！　そしたら天山は逆に女の子に「あなたが飲みなさいよ」みたいに言われて。俺らも「あ、そっちのほうがおもしろいや」って、みんなで「天山飲め！」って言ってな。それであいつ、てめえのションベン飲んでんだよ。バカだよなあ。

——自分で出して自分で飲んで（笑）。

ライガー　ありえねえ！　それで鈴木がさ、「いまウチの道場で流行ってることがあるんですよ」って言って、新弟子の額に爪楊枝をポンポン刺し始めたんだよ。それ見て「すげえ！」って思ってさ、こっちも負けてられないと思って「おい、天山！」って言って刺し始めたの（笑）。

——あの天山の名人芸はそこから始まったんですか！（笑）。

みのる　そう。天山の持ちネタのように雑誌に出てたけど、あれは俺らが始めたの。それも元をたどると、船木さんが最初に「爪楊枝って刺さる」って話をし始めて。

——そこでもやっぱり船木さんが大元ですか（笑）。

ライガー　元は常に船木なんだよ。俺たちじゃないんだよ！

みのる　でも、そのときは僕とライガーさんで、どっちがたくさん爪楊枝を刺せるか勝負してましたよね（笑）。

ライガー　こっちも負けるわけにいかないからさ、どんどん爪楊枝刺して、天山の顔が爪楊枝だらけになったんだよな。

みのる　最終的にライターで火をつけてましたからね。やってることメチャクチャですよ（笑）。

ライガー　あと、あのとき小原が酔っぱらってひっくり返ったんだよな。

みのる　あれは僕がカラオケを歌ってたんですよ。そしたら小原と船木さんがなんか言い合ってて。そのうち小原が船木さんに「強くなりたい」「一緒に練習してくれ」とか言いだしたんですよ。

ライガー　いいねえ！

みのる　そしたらなぜか「いまここでやろう」ってなって。

ライガー　なんで！

みのる　俺は一生懸命、TUBEかなんか歌ってたんですけど、横でなんかゴッゴッ殴り合いしてるんですよ。それでふと横を見たら、血だらけの小原がいて。人がカラオケ歌ってるところに倒れかかってきたんで、バンバーンってぶん殴って。

ライガー　ひでえ！

みのる　でも、小原もヤンキーだったから「この野郎！」って僕に向かってきたんで、さらに殴って、ポーンと放り投げたら、小原がちょうどソファーで寝転がってたライガーさんの上に倒れ込んじゃったんですよ。そしたらライガーさんが、突然、スッと骨法の構えになって。下から掌底でババババッと殴って（笑）。

——ガハハハハ！　そんなわけないでしょう（笑）。

みのる　ホントですよ！　ババババッて。

ライガー　俺が小原にトドメ刺したんか（笑）。

みのる　それで小原がドサッて倒れたんですからね。

ライガー　でも、血だらけの小原を殴ったのは鈴木じゃん。普通、歌ってる横に血だらけのヤツがいたら「大丈夫か？」ってなるはずじゃん。それを殴るんだぜ。おかしいと思わねえか？

みのる　その何日かあとに「負傷のため小原欠場」って記事が出てたんですよ（笑）。

——ダハハハハ！　オフなのに謎の負傷欠場（笑）。

みのる　僕も「あれっ？」と思って新日本の道場に電話したら、そのとき後藤さんが出て「おまえ、小原に何やったんだよ」って言われて。「え、どうしたんですか？」って聞いたら「顔面骨折でシリーズ休みだぞ」って（笑）。

——顔面骨折って、どんな過激な飲み会なんですか（笑）。

ライガー　でも、俺らはいっつもそんなもんだったけどな。必ず酒と殴り合いでね。不思議と女関係の話はないんですよ。

みのる　そうですよね。みんなで女のとこに行こうとか、そういうのなかったですよね。だいたい飲んでバカやって、最後は殴る。あとは最後に泣きながら抱き合って。なんか熱いんですよね、やってることがね。

ライガー　もうね、青春ドラマ。アホな青春ドラマ。

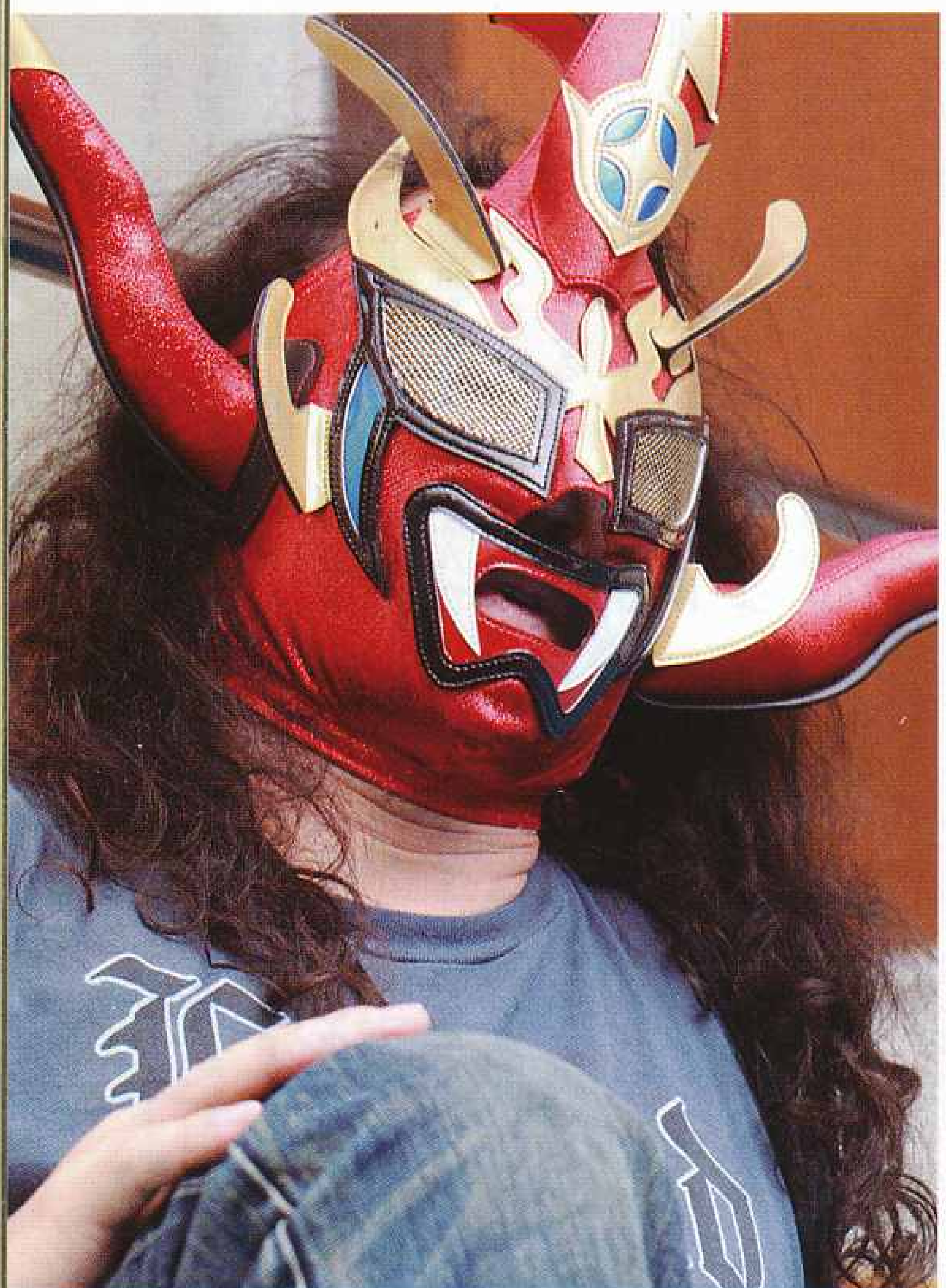
みのる　ちょっと間違った、テレビじゃ流せない青春ドラマですよ（笑）。僕は楽しかった思い出なんですけど。たぶん付き合わされたヤツは嫌な思い出として残ってるんだろうな……。

ライガー　そりゃそうだよ。小原は顔面骨折して顔が変形してるしさ、天山は爪楊枝刺されて血だらけでションベン飲まされてるしさ。

みのる　天山は六本木の『アマンド』のところで、酔っぱらって動けなくなったこともありましたよね。そしたらライガーさんが「じゃあ、脱がそう」って言いだして。

——なぜ脱がせる（笑）。

みのる　それで『アマンド』の前で下半身スッポンポンにして歩かせたら、二本の道路標識のあいだに天山が挟まって、下スッポンポンのまま動けなくなって（笑）。



鈴木はカラオケしながら血だらけの小原を殴って顔面骨折させたよな

ライガー　思い出した！　そうそうそうそう、『アマンド』のとこだ。こういうのやられた人間は覚えてるんだろうな。

みのる　こんなこと笑って話してると、絶対に投書来ますよ。「子どもがマネしたらどうするんだ」とか。

ライガー　PTAから苦情来るな、これ。

みのる　『kamipro』廃刊になりますよ（笑）。

ライガー　俺たちが廃刊に追い込んだ、みたいな（笑）。ページの欄外かなんかに「これは過去の話であり、決しておすすめできることじゃありません」とか書いておかないとな。

みのる　「本人たちは非常に反省しております」とかね。

ライガー　反省なんかしてねえじゃん、おまえ！　爆笑してんじゃねえかよ！　この対談、天山には見せられねえよ。

みのる　天山はリング上でも飯塚に裏切られたばっかりなんだから（笑）。

ライガー　そうだよな！　昔、六本木で俺らにやられたこと、いまリング上でやられてるんだよ。

みのる　血だらけにされて、置き去りにされてね（笑）。

――スッポンポンにされないだけで、昔と一緒ですか（笑）。

ライガー　天山、何回裏切られるんだろう。バカだよな、あいつ。「気づけよ、いいかげん！」みたいな。

――天山が裏切られるのは、年季入ってるわけですね（笑）。

ライガー　年季が入ったバカだね。

みのる　もうひどい目に遭う免疫ができちゃってるんじゃないですか？

ライガー　いや、俺は船木と鈴木がいなくなってからは、そんなにアホなことやってないから。でも、船木と鈴木はUWFに行ってからもかなりの期間、〝伝統〟を守ってたんだろ？

――聞くところによると、そのあとUWF、藤原組、パンクラスって3団体あるのに、ちゃんとその3団体目まで受け継がれてるらしいですよね（笑）。

ライガー　4団体もかよ！

みのる　最近はときどきしか道場に行かないんですけど、ちゃんと守られてますね（笑）。

――新日本道場の伝統がまだパンクラスには生きてますか。

ライガー　最近は全日本に行っても同じことやってるんだろ？　このあいだ突然、夜中に電話がかかってきて、「いま、僕のそばにライガーさんのオモチャが二つありますよ」って言うんで、何かと思ったら……。

みのる　TAKEMURA（竹村豪氏）とエル・サムライと飲んでたんですよね。

ライガー　それは留守電だったんだけど、最後まで聞いたら「この電話を聞いたからってかけ直さないでください、面倒くせえから。じゃあ。ピッ」て入っててさあ。

――ダハハハハ！　かけ直さないでください（笑）。

ライガー　朝からムカーッときたよ。こいつメシ食ったり、飲んだりすると、なんか電話よこすのよ。「いまアップルみゆきちゃんと一緒です」とかさ。「あ、そう。ほんで？」って聞いたら「それじゃあ」って切れて、「なんだよ、いまの！」って。

みのる　あのときはアップルがライガーさんから受けたセクハラの数々を俺は相談されてたんですよ。

ライガー　嘘こけ！　俺、なんにもしてないよ！　これ録音されてるんだから、やめろよ！

みのる　いやあ……けっこうヤバいですよ。だってハンカチで涙拭きながら話してましたもん（笑）。

ライガー　これ嘘だからな！　ないない！

みのる　恐ろしいですよね、目をキラキラさせながらセクハラしたらしいですよ。

ライガー　おまえ、バカじゃねえの？　やってねえよ！

みのる　「食いもの何が好き？」　俺、いいとこ知ってんだよ」とか言ったでしょ？（笑）。

ライガー　あっ……それは「焼肉かお寿司でも食べに行こうや」って話で……。やっぱり彼女もそんなに自由になるお金がないから。で、俺はTAKAみちのく選手の許可取ってんのよ。「連れてっていいかな？」って……。ちょっと、俺、なんでまじめに弁解してるんだよ！

一同　ガハハハハ！

みのる　ダセえ！　俺、アップルの話なんかすっかり忘れてたのに自分で言っちゃってるよ（笑）。

ライガー　ふざけんなよ！　大っ嫌いだよ、ホントに！　俺は船木も鈴木も大っ嫌いだ！　だからなんにもしてないんだよ！

――当然です（笑）。

ライガー　だから、そういう人をおちょくるような電話をこいつはかけてくるって話だよ。

みのる　想像どおりの反応をしてくれるから、楽しいんですよね。

ライガー　うるせえ！　最悪だよ！

みのる　でも、先輩なんでちゃんと立てるとこは立ててますから。

ライガー　どこ立ててんだよ！　おまえに立てられたためし一回もないよ！　こいつウチのカミさんとも仲がいいんだよ。飲みに行ったり飯行ったりさ。もうホントに俺、呪われてんだよ！

みのる　だって弱みとか教えてくれんだもん。「ここを突っつけばいいよ」とか、全部教えてくれんだもん。

――なんで身内から！（笑）。

ライガー　なぜかカミさんとグルになってんだよ。ホント大嫌いだよ！　前にウチに泊まりに来たときも、なぜかウチのカミさんと、カミさんのお母さんと仲良くなっちゃってさ。ウチの家族、みんな自分の味方につけてるんだよ。俺が居候みたくなってるんだぜ。おかしくないか？

みのる　自分の家みたいに寝転がって、くつろがせてもらいました（笑）。

ライガー　ウチの坊主まで味方に引き入れてるんだよ。ウチの坊主も単純だから、サインもらったりなんかしてさ、「鈴木さんってカッコいいね」とか言ってさ。ホントにウチに味方いないよ……。

――ガハハハハ！

みのる　家族の前で犬のチンポしごくからいけないんだよ（笑）。

――ガハハハハ！　何をやってるんですか！

自宅で息子に「ライガー、キモい」って言われてましたよね（笑）



すずき・みのる■1968年6月17日、神奈川県出身。レスリング国体2位の実績を残し新日本プロレスに入門。89年３月UWFに移籍。藤原組を経て、93年にパンクラスを旗揚げ。95年には第2代キング・オブ・パンクラシストに輝く。現在は全日本を中心に各プロレス団体で大活躍中。178cm、100kg。

ライガー　だって孤独なんだもん。考えてごらん？　自分の家にお客さん呼んだら、そのお客さんがいつの間にか家族と同化しちゃって、俺が部外者みたいになってんだよ!?　そしたら、しゃあないじゃん、犬と遊ぶしか。

――その遊び方が問題ですよ（笑）。

ライガー　未経験だったから、かわいそうじゃん。女も知らないでさ。だからちょっとしごいて出させて、ティッシュで拭いて、「はい、ご苦労さん」って。

みのる　「はい、ご苦労さん」じゃねえじゃん（笑）。途中まで誰も気づかなかったんだけど、息子がそれに気づいたときの反応が凄かったですよね。「キモい！　ライガー、キモい！」。家で「ライガー、キモい」って言われてんの（笑）。で、カミさんに「何やってんの、あんた！」って怒られて。

ライガー　こっちは「おまえらがかまってくれねえんじゃねえか」って思いながらさ、「俺、先寝るわ」ってふて寝だよ。世帯主の座を奪われたようなもんだからね。これホントの話だよ。

みのる　脚色なしですよね（笑）。

――ガハハハハ！　つらいですね。

ライガー　でさ、こんな話ばっかりしてるけど、今日はなんの対談なの？

――鈴木みのるデビュー20周年記念対談です（笑）。

ライガー　どんな記念だよ！　そういや今度、20周年の記念興行やるんだよな、いつ？

みのる　「いつ？」じゃねえよ。自分も出るんだから。6月17日、後楽園ホール。ライガーさんには素晴らしいカードを用意しましたから。

――大先輩が第一試合に登場なんですよね（笑）。

ライガー　第一試合はおいしいなと思うんだけど、相手がなあ……。

――メカマミー&菊タロー組と対戦ですね（笑）。

ライガー　どうすりゃいいんだよ！

みのる　だって新日本に電話したら「いいですよ」って即答されましたよ。

ライガー　おい、新日本！　仕事選べ！

――「断れよ」と（笑）。

ライガー　（中邑）真輔とか棚橋にはちゃんとステータスが上がる話を持ってくるのに、俺には無理難題ばかりだよ！

みのる　でも、ライガーさんに最初「出てくださいよ」って電話したら「いいよいいよ。なんでもやる」って言ったじゃないですか。

ライガー　言ったけどさ……、メカマミーと菊ちゃんだよ!?　どうすりゃいいんだよ！

みのる　パートナーの冨宅もライガーさんの知らないとこで、カルト的、局地的な受けをしてるんですよ。FUCKっていう団体知ってます？

ライガー　へ？　知らない。

みのる　そういう団体で怪しいお笑いレスラーになってるんですよ。ホント、一歩間違うと飲まれますよ。

ライガー　彼らにでしょ？

みのる　対戦相手にもパートナーにも（笑）。だからね、これはライガーとしての威信を懸けた闘いになると思うんですよ。

――なぜか「鈴木みのるデビュー20周年記念興行」の第一試合で、そんな大事な試合が組まれてますか（笑）。

みのる　ライガーのプロレスラーとしての幅と感性が試されるから。しょっぱかったら、ギャラ払わないから（笑）。

ライガー　ひでえ！　俺、こいつからギャラもらわなきゃいけねえのか。まあ、つかみはOKになるように頑張りますよ。出場選手全員、食ってやるから！

――いやあ、6月17日の後楽園ホールはホントに楽しみですね。試合後の打ち上げも凄いことになりそうですけど（笑）

ライガー　打ち上げやんの？

みのる　いまのところやらないですけど、ライガーさん主催で打ち上げやるんならいいですよ。

ライガー　なんで俺が主催で打ち上げやるんだよ！

みのる　東京ドームホテルでやりましょうよ。

ライガー　たけえよ！

みのる　たぶん次の日の朝、東京ドームホテルが斜めになってますよ（笑）。

ライガー　こいつやるからね、実際。

――店とかホテルをぶっ壊すほど飲んで騒ぎますか（笑）。

ライガー　ホント、こいつと一緒にいると「俺、先輩じゃなかったかな？」って疑問に思うからね。たまに俺が下なんじゃないかと思うときさえあるんだよ。「はい、鈴木さん」みたいな。

みのる　まあ、それだけ信頼関係を築いてきたということですね（笑）。

ライガー　信頼関係じゃねえよ！　踏んだり蹴ったりだよ！

――では、20年経ってもお二人が変わらぬ素晴らしい関係であることがわかったところで、今日はお開きにしたいと思います。ありがとうございました！

【08年5月1日／新日本プロレス道場にて収録】

鈴木はなぜかウチのカミさんともグルになってるんだよ。最悪だよ！



じゅうしん・さんだー・らいがー■89年4月、小林邦昭戦でデビュー。翌年5月には馳浩を破り、IWGPジュニアヘビー級王座奪取。その後、10年以上の長きにわたり、ジュニアヘビー級の中心人物として、世界を股にかけて活躍。現在は蝶野正洋の呼びかけに応えレジェンドに所属している。170cm,95kg。

『風になれ』
~SUZUKI MINORU 20×2th Birthday Party~
東京・後楽園ホール
6月17日（火）17:30開場　18:30開始

主要対戦カード

■タッグマッチ
冨宅飛駈（パンクラスMission）、獣神サンダーライガー（新日本）vsメカマミー（ユニオン）、菊タロー

■シングルマッチ
中嶋勝彦（健介オフィス）vs 佐藤光留（パンクラスMission）

■エキシビジョンマッチ　5分1ラウンド制
鈴木みのる（パンクラスMission）vs モーリス・スミス

■バトルロイヤル
内藤哲也（新日本）、真田聖也（全日本）、太田一平（NOAH）、KUSHIDA（ハッスル）、山口竜志（健介オフィス）ほか

■6人タッグマッチ
NOSAWA論外（東京愚連隊）、MAZADA（東京愚連隊）、丸藤正道（NOAH）vsカズ・ハヤシ（全日本）、ザ・グレート・サスケ（みちのく）、TAKAみちのく（K-DOJO）

■メインイベント
鈴木みのるvs 高山善廣

チケット料金

風シート 10,000円／A 7,000円／B 5,000円
※当日券は一律500円増し。

お問い合わせ

お問い合せ:パンクラス　TEL.03-5792-0815

快挙!! エリートXC、地上波放送CBSで放送開始!!
驚愕!! 本当のメジャー化はいまから始まる!!

またもやMMA大変革の大津波到来!!



日本で言えばNHKで放送するくらいの衝撃ですよ!!



テレビプロデューサー
デーブ・スペクター
DAVE SPECTOR

全世界震撼！ エリートXCのCBSでの地上派放送は、MMAシーンを一変させる巨大な大津波になる!? そこで、今回はひさびさにアメリカのテレビ事情に詳しく、じつは世界的なテレビプロデューサーであるデーブ・スペクターさんに直撃！ CBSとはなんなんだ?

聞き手／真下義之　写真／ Tom Casino（Elite XC）

――もしも～し。デーブさん、おひさしぶりです！

デーブ　どもども。どうですか、格闘技の世界は？

――というと、デーブさんはあまりご存知じゃないんですか？

デーブ　そうだねぇ。いまは朝青龍がおもしろいよねぇ～。

――朝青龍にクギづけですか（笑）。で、今回はですね、CBSというアメリカの3大ネットの地上波放送で、『エリートXC』という総合格闘技の番組がスタートすることについてうかがいたいんです。デーブさん、CBSってどれくらい凄いんですか？

デーブ　そうねぇ～。CBSっていうのは日本で言うならば……テレビ瀬戸内くらいには値するんじゃない？

――ダハハハハ！　なぜテレビ瀬戸内（笑）。

デーブ　あるいはめんこいテレビとか、チューリップテレビとかさ（笑）。ま、冗談はさておき、CBSっていうのはもうアメリカの地上波の老舗中の老舗ですよ！

――老舗中の老舗！

デーブ　そう。古くはテレビがまだないラジオ時代からの放送局ですので。1927年創立ですから、ざっと80年以上の歴史があるんです。なんといってもCBSには、〝ティファニー・ネットワーク〟というニックネームまでついているんですから。

――テ、ティファニー!?　あの宝石の高級ブランドのことですか？

デーブ　そう！　なぜかというとクオリティが高い！　非常に品があって、綺麗っていうイメージがある。そのぐらい歴史的に一番品位をキッチリと保ってきたネットワークなんです。だからね、今回こういった野蛮なスポーツを放送するっていうのは……。

――もうティファニーとは言えない、と？（笑）。

デーブ　そういう感じもあることはあるんだけど（笑）。でも、もはやアメリカの3大ネットワークの輝きは、どっちみちないんですよ！　いまは新興のFOXテレビも加わって3大ネットから、4大ネットになってるんですけど。そのFOXが実質上のトップなんです。

――後発のFOXテレビが一番人気でしたか。

デーブ　いまやCBSも視聴率で抜かれてしまってますから。結局、もう綺麗事を言ってられない事情もあるんです。それに、日本でも地上波離れは始まってますけど、アメリカではもはや地上波の占有率とか影響力は以前の半分くらい！

――半分！　アメリカでは、ケーブルテレビとか衛星放送が異常発達してるからなんですかね？

デーブ　そう。昔はまったくライバル媒体なんかなかったんだけどね。当然インターネットやWiiみたいなゲーム機や、携帯メールもなかったし。

――そのへんは日本の事情とも似てますね。

デーブ　ただ、そういう事情はあるにせよ、4大ネットのうちで一番上品な歴史を持っているCBSでこの総合格闘技の番組がスタートするということは、ある意味で市民権を得られたと言っていいんですよ！

――ついにアメリカでもMMAが市民権を！

デーブ　その一方、CBS自体の番組内容は「低下してる」という言い方もあるんだけど（笑）。

――現地では「あのCBSがこんな番組を放送するのか？」っていう衝撃性はあるんですか？

デーブ　あ、それは当然ありますね！　やっぱりメディア側からの驚きはあります。これがケーブルテレビとかマイナー系のテレビ局だったら、全然驚かないけど、もっとも歴史のあるCBSですから。

――ちなみに、こういったCBSの状況というのは、日本の放送局事情でたとえると、どのぐらいの衝撃になるんでしょう？

デーブ　そうねぇ～。単純に比較するのは難しいけど、やっぱり……NHKじゃないですか？

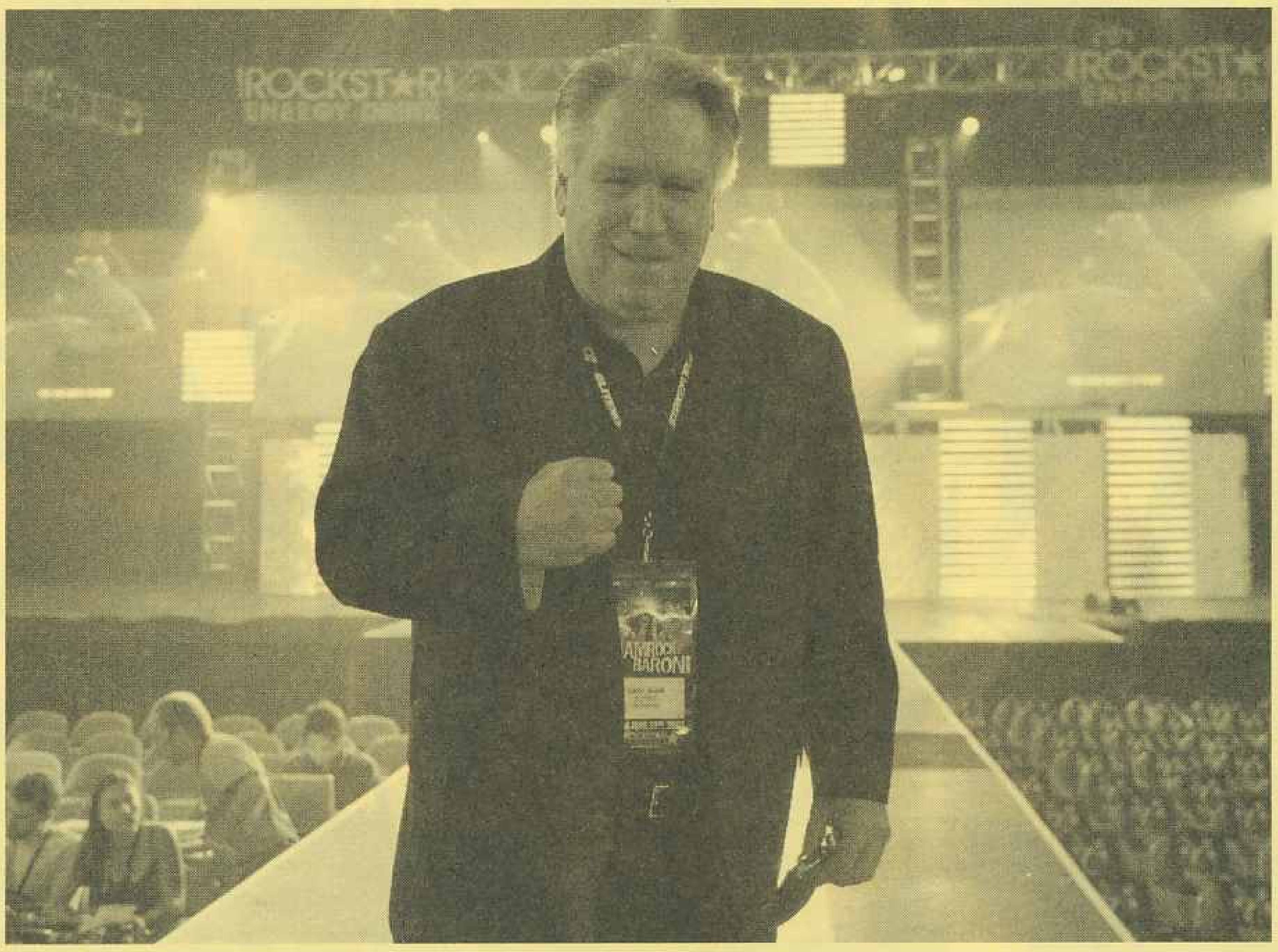
――あ、日本ならNHKで放送されるぐらいの衝撃。

デーブ　そう。NHKのゴールデンタイムで『ためしてガッテン』とかをやっているあとに、すぐMMAの放送をやるようなもんじゃない？（笑）。

――ダハハハハハ！　『ためしてガッテン』のあとに総合がおっぱじまる、と。

デーブ　『鶴瓶の家族に乾杯』のあととかさ（笑）。ただ、視聴率を獲らなきゃいけないという部分では、いまの時代は通常のボクシング中継なんかよりも、こういった総合格闘技のほうが獲れるんでしょう。

――ええ。よっぽどのビックマッチ



エリートXCの運営会社のプロエリート社長、ゲイリー・ショウ。もともとはプロボクシングのプロモーターとして活躍していたが、MMAのブームに乗ってエリートXCを旗揚げ！　地上波放送決定からは超多忙な生活を送っている模様だ。

CBSで放送されるということは、市民権を得られたと言っていいです

全米のお茶の間で、MMAが放送開始!!　エリートXC、CBSとの提携実現まで！

エリートXCは07年2月にケーブルテレビのShowTimeをバックに誕生した新興団体。07年5月に株式公開して巨額の資金を獲得、ランブル・オン・ザ・ロックやキング・オブ・ザ・ケージ、アイコン・ファイトを傘下に、韓国のスピリットMCやイギリスのケージ・レージにも資本投下して一気に規模を拡張！　あの『Dynamite USA！』にも協力した。ケン&フランクのシャムロック兄弟や『DREAM.3』に参戦したニック・ディアス、新世代の"怪物"キンボ・スライスを擁して、UFCを猛追！　4大ネットの老舗CBSは当初、UFCの地上波放送が確定的と見られたが、UFCが番組制作の主導権を譲らず交渉が難航、またShowTimeがCBS系列の会社であることから、エリートXCとの契約が電撃決定！　年4回、土曜日の夜9時から2時間ワクの放送という快挙を成し遂げた。

こういう暴力的コンテンツの番組は、地上波で必ず画面に警告が出ます

ならば別でしょうけど。

デーブ　いまのボクシングはほとんど一発勝負、PPV放送がメインですから。ただ、一般層がボクシングだけで満足しないのは、格闘ゲームの影響とか、あとアメリカ人はいま香港のカンフー映画なんかもけっこう観てますから。まぁ、亀田（大毅）と内藤（大助）みたいなストーリーや演出があれば観るんだろうけど。

――演出度の高いボクシングなら、ニーズはありますよね。

デーブ　そういう話題性の高いものだったら観るけど。ただのボクシング中継だけだと、一般的にもの足りなさもあるわけですよね。でもMMAはキックとかパンチとかいろんな要素が入ってるでしょ。

――UFCやエリートXCを筆頭としたMMAは、いまのアメリカの時代のニーズに合ってると？

デーブ　そうね。そこでUFCがイヤだったら、KFC（ケンタッキーフライドチキン）に行ってチキンを食べるとかさ。

――は？

デーブ　いや、一文字違いなんだけど（笑）。

――あ～、そういうことですか（笑）。

デーブ　KFCだって、厨房ではニワトリがケンカしてるかもしれないよ。ククククク！

MMAに大変革の大津波!!

――話を戻すと、こういった老舗中の老舗の局でMMAのような暴力的なコンテンツを放送するにあたって、内容的な規制はないんでしょうか？

デーブ　やっぱり暴力的なコンテンツですから、ルールがどこまで守られるかは重要でしょう。というのもCBSで放送が始まると、おそらくたくさんの評論家が雑誌や新聞で「CBSの黄金時代は終わった」と書くだろうし。あの～、MMAを批判する知識人はよく〝人間闘犬〟なんて言ってるんですよ（笑）。

――人間闘犬!?　確かにUFCも、州によっては規制をされて試合が開催できないところもありましたから。

デーブ　ただし、向こうの地上波のテレビ番組は、始まる前に必ず警告が画面の左上に出るんですよ。ケーブルは自分がお金を払っているわけだから規制するような管轄はないんですけど。誰でも観れる地上波だからこそ、そこは一番うるさいんですよ。

――それを親御さんが「これはウチの子どもには、まだダメだ」とか判断するわけですね。

デーブ　そう。だから、今回も告知が出て「13歳未満は観ないほうがいい」とか「バイオレンスを含んでますので、あらかじめご了承ください」ってメッセージが出るでしょう。ま、実際はポケモンのときに「明るい部屋で観てね！」って程度の強制力しかないんだけど（笑）。

――じゃあ、そういうエクスキューズが出るくらいだ、と。

デーブ　そうですね。でもね、別の言い方をするとこういう多少ミーハーな番組で数字が獲れると、CBSはまた良質なドラマが作れるわけですから。そういう相互効果はあるんですよ。テレビってくっだらないのをやったら、またいい番組も作るわけで。しかも地上波なんて観たくない人はどっちみち観ないわけじゃないですか？　とくにアメリカは多チャンネル時代で100チャンネル以上、ほかの選択肢がいっぱいある。だから、いまの時代はCBSで何を放送しても問題にする必要はホントはないんですよ。

――ガタガタ言わず、観たくなければ観るな！　って感じで。

デーブ　さっきも言ったようにすでに地上波のブランドは崩れてますから。たとえば地上波で夕方の7時からやってる全米ニュースって、かつては絶大な影響力があったけど、いまの視聴率は6～7パーセントくらい。いまはCSでニュースを観る時代ですから。もちろん、20年前だったら、ありえなかったでしょうけど。

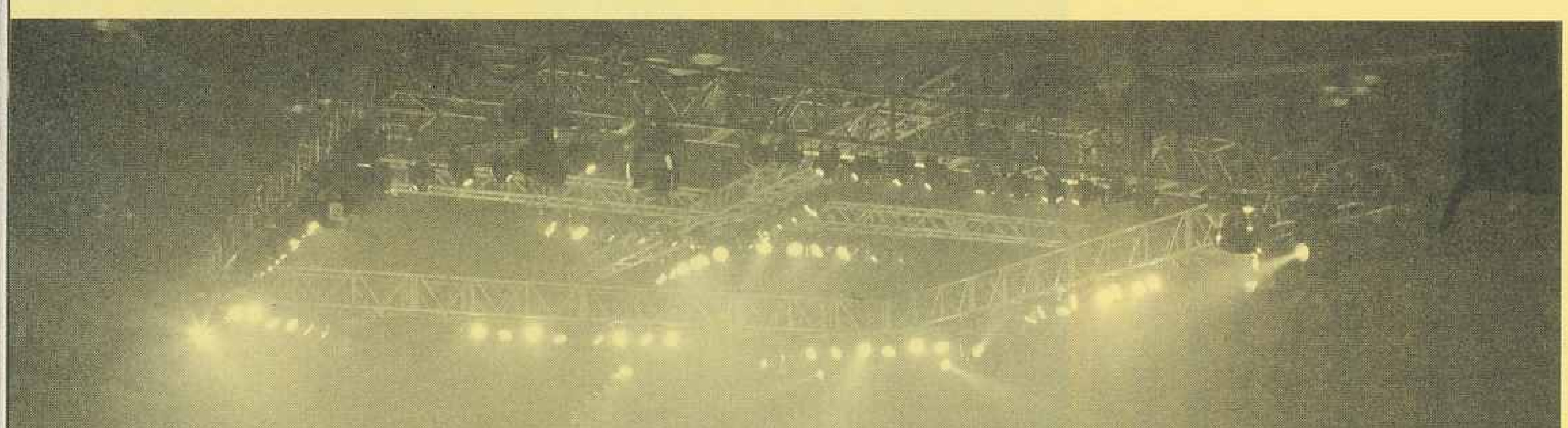
――じゃあ、多チャンネル時代だからこそ、こういった価値観の転倒が起きたんですね。

デーブ　そうです、そうです。もちろん団体側も一番お金が獲れる放送局ですので。PPVもおいしいけど、アメリカ全体の普及率という面ではまだまだですし。浸透度という意味では段違いですから！

――地上波は段違い！　確かにアメリカ中、電波が受信できればどこだって映るわけですからね。

デーブ　ザッピングしながらも目に入るし、広告も入る、番宣だって入るから、絶対においしいじゃないですか？　そういう露出が将来的にPPVにもつながるし。それにCBSの番組はホームページでも一部が観られるし、宣伝もかなりやってますからネット上での広がりも期待できる。若い人なんか、テレビよりむしろネットで観るかもしれないよね。

――計り知れない効果がありそうですね。以前、デーブさんからアメリカより日本のほうが、格闘家やプロレスラーの一般の認知度や知名度が高い、という話もありましたが、そこも変わってくる？



あのストライク・フォースとも大会を共催するなど、アメリカはもちろん、イギリス、韓国と幅広いネットワークが強みのエリートXC。5.11『DREAM.3』にはニック・ディアスを派遣しただけでなく、幹部が来日してDREAMとの協力体制も発表するなど、さらに動きは活発化。

MMAはターゲットが絞りやすい CMワクが凄く売りやすいんです!!

デーブ　そうかもしれないね。前も言いましたけど、日本は芸能と一緒になってるから、猪木さんとかジャガー横田とか、プロレスラーや格闘家の有名人は一般人の認知度も高いんですけど、アメリカはホントに好きな人しか知らないから。

――一般的な認知度はなくても、人口のパイ自体が大きいから好きな人の人数も異常に多い。だから、マニアックなジャンルでもビジネスになるわけですよね。アメリカではUFCやWWEが筆頭だと思いますけど。

デーブ　ストーンコールド（スティーブ・オースチン）なんて、普通の人はホントに知らないですから。ただ、日本も同じかもしれないけど、エンターテインメントばっかり観ていると、今度はガチンコを観たくなるんですよ。ある意味、WWEのやり方は、ちょっと飽きられた部分もあるんです。

――アメリカでもガチンコ指向が強まっているんですか?

デーブ　WWEはあまりにもエンターテインメントのレベルが高くなりすぎちゃった。でもそのクオリティを永遠に維持するのは無理に決まってるんですよ。人気番組と同じで、いずれ寿命がくる。

――確かに永遠の人気番組ってないですよね。

デーブ　寿命がきて、またしばらくして再開する。そこで新しい人材も増えるし、そういうサイクルがいまMMAのほうにきちゃってる。ただ、MMAもシリアスすぎて引く人が増えたら、安心して観られるWWE的なものの出番はあるでしょうし。（ビンス・）マクマホンだってさ、あんなにお金があれば、もういちいち頑張る必要はないじゃない!

――ええ。ビンスの資産は10億ドル以上、アメリカを代表する億万長者ですから。

デーブ　テリー伊藤だって、もう『元気が出るテレビ』（日本テレビ系）とかやってないでしょ?

――最近は悠々自適な感じですし（笑）。ちなみに、エリートXCが放送されるのは土曜日の夜9時から、2時間ワクなんです。このワクっていうのは、アメリカ人にとってはどうなんでしょう?

デーブ　まぁ、基本的にお出かけの曜日ですので、テレビはそれほどは観ないですよね。一番、アメリカ人がテレビを観るのは日曜日の夜と月曜日の夜なんです。一週間でいろいろ出かけて、お金も使って疲れちゃってますし。これは日本もそうですけど、一番テレビを観ないのは金曜日ですね。だから、金曜日と土曜日の夜というのは基本的に若い人は家にいない。

――土曜の夜は遊びにくり出しちゃいますか。

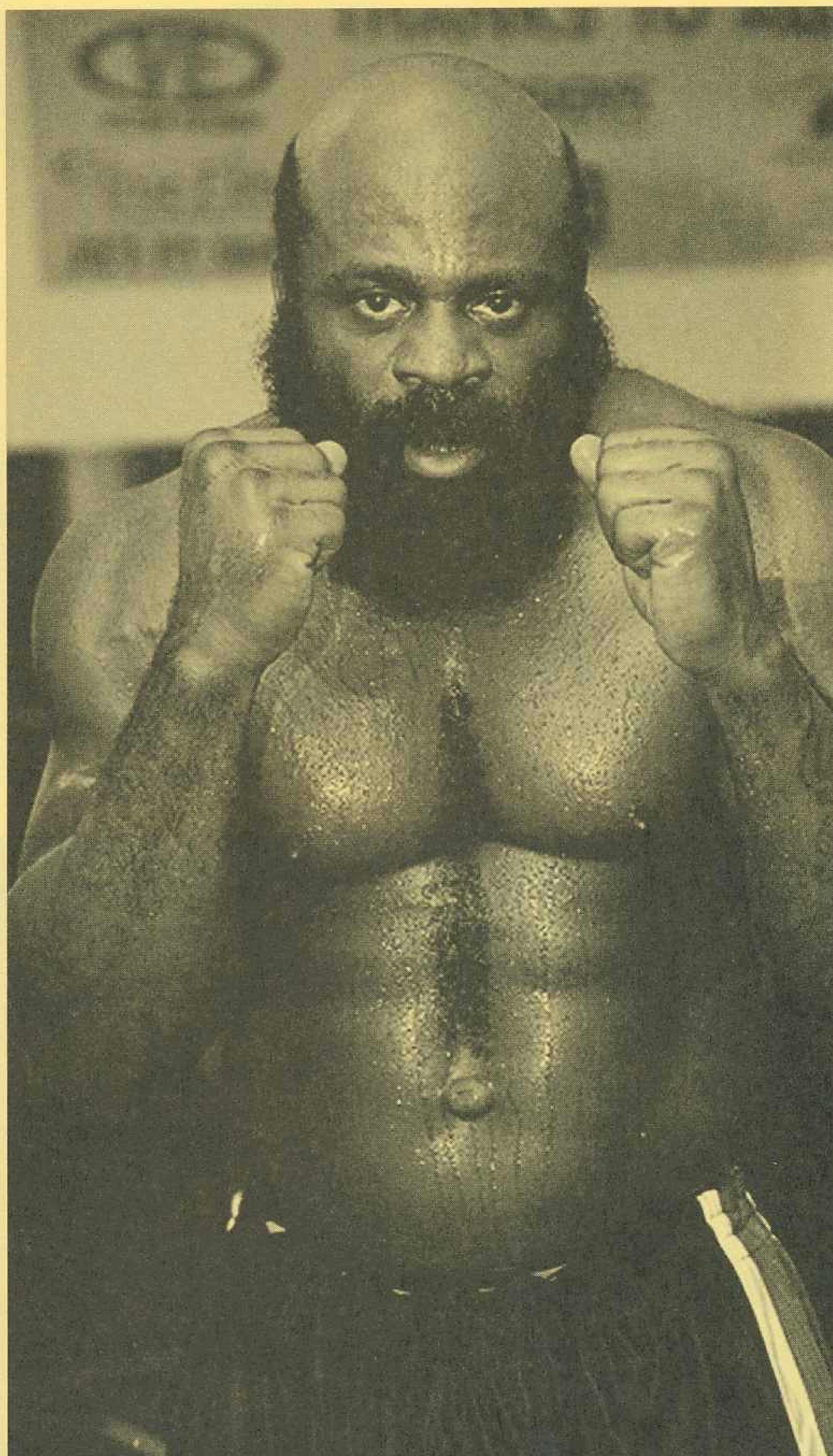
デーブ　プライムタイムだから、遊びから帰ってくる時間帯かもしれないけど、アメリカでは土曜の夜に映画を観に行く人もかなり多いですから。でもいまは生で観る人より、録画をする人が多いから、それほど問題はないんじゃないですか?

――ええ、ビデオ視聴率とかもありますし。

デーブ　それから、もう一つ大きいのは、こういったMMAの番組は基本的に男が観るわけでしょ?　だから、ゲータレードの飲料水とか、トラック系や四駆の自動車とかマッチョ系のスポンサーにコマーシャルのワクを売りやすいんですよ!　へんな話、男のワキの下の防臭剤とか、あとはヒゲ剃りとか。視聴者には確実にその層が入っているわけだから。ターゲットが絞りやすいし、コマーシャルを売るときの営業面でもの凄くやりやすい。番組っていうのは視聴率がすべてではないんです。だから、生理用ナプキンのコマーシャルは流れないでしょ。

――ダハハハ!　確かに流す意味は低いですよね。

デーブ　日本でも、BS放送なんかでは保険会社の退屈～な長いコマーシャルが多いんですよ。それはBSを観ている人はある程度の収入があるから。しかもヒマで、ザッピングもあまりしない高齢者なんかが多い。そういうターゲットを限定できるジャンルという意味で、営業面では強いんですよ!　これが男女や年齢がハッキリしない場合は、もっと漠然とした営業になる。だか



エリートXC地上波放送の絶対的な看板選手と目されるのが、"『You Tube』から生まれた怪物" キンボ・スライス。マッチョ&ハゲ&ヒゲもじゃという異様な風貌と怒濤の突進ファイトで大ブレイク中だが、地上波デビューの5.31 J・トンプソン戦でも問答無用の乱打戦で全米を熱狂させられるか!?

MMAに大変革の大津波!!

ら、放送局的には女性とか男性ばっかり観るコマーシャルというのは売りやすいメリットがある。たとえば、MMAの番組だったら、ビール会社のバドワイザーなんかピッタリでしょ。

——そういえば、UFCも最近バドワイザーを冠スポンサーにしたばっかりですから。

デーブ　それから、この放送の翌日は日曜日ですので、男にアピールするようなアクション映画のコマーシャルなんかも多いでしょう。あと家族がある人には、ファミレスとか、レッドロブスターとか……。こんなのボクでも売れる！　こんなにイージーな営業の番組はないです。サルでもできるよ！（キッパリ）。

——ククククク！　そんなにラクチンですか（笑）。

デーブ　いま、アメリカでこれだけ視聴者が分散している時代、地上波にとってMMA番組は視聴者のターゲットが絞れる、非常に貴重な番組でもあるんですよねぇ。それから大きなメリットはもう一つあるんです。

——ぜひ、教えてください！

デーブ　じつはね、CBSで放送するということは、CBSは全世界的に番組を配給する会社も持ってますから、そこが非常〜に大きいんです！　日本でもCBSの人気ドラマもCS放送や地上波で放送してるでしょ。『CSI：科学捜査班』とかさ。

——WOWOWとか、テレビ東京でやってましたね。

デーブ　つまり、「CBSでMMAを放送する」ってことは権利関係的に日本でも非常〜に配給しやすくなるんですよ！

——はぁ〜。日本のお茶の間でもキンボ・スライスが観られる日は近い、と。確かに世界的に信頼のおける配給ラインでしょうし。

デーブ　もちろん料金が高すぎて払えない場合もあるでしょうけど、CBSには世界的にしっかりした配給システムがある。だから取引がメチャクチャしやすいんですよ！　たとえば、日本のテレビ局がちょっと深夜で放送しようと思ったら、ルート的にはすぐ手に入る。やる気なら、いますぐにでも買えるぐらいですから。

——いますぐ買えますか（笑）。確かにいままで、UFCやWWEみたいに団体側が日本の放送局に売り込むケースだと値段がつり上がって、うまくいかないケースが多いですけど、CBSのルートなら安心感があるし、交渉しやすいわけですね。

デーブ　そう！　だから日本の格闘技ファンにとっては、CBSでやることで距離が近くなるんじゃないですか？　それに、いまはアメリカの4大ネットにとっても日本の市場の存在はもの凄く大きいんです。昔は日本のテレビ事情を知らなくて、足下を見てふっかけてる場合もありましたけど、いまなら妥当な値段で収まるんじゃない。なぜかと言うと、いま日本では海外ドラマがもの凄いブームじゃないですか？



DAVE SPECTOR■米国・イリノイ州シカゴ出身。83年に来日。ワイドショーなどに連日登場するダジャレが得意な"超日本通"外国人タレントとして知られるが、じつは本業はテレビプロデューサー兼、放送作家。アメリカのABC、NBC、CBSの地上波放送などで日本国内の取材やレポート、日本のテレビなどを海外に紹介。流暢な日本語はあくまで独学！

——あ、『24』に『LOST』、『HEROES』……続々とヒット作が出てますし、DVDも大ヒットしてますからね。

デーブ　だから、日本のマーケットが重要だという認識がありますし、いまのアメリカは国内のシェアと収益がもの凄〜く減っているんですよ。つまり媒体が増えすぎちゃって。

——放送局が増えすぎて、全体の収益は尻すぼみになってしまっているんですね。

CBSの配給システムを考えたら、日本でも番組はすぐに手に入ります

デーブ　そう。テレビを観る人自体が減ってるから、国外のマーケットがとても重視されるようになってきてるんです。だから、いまのアメリカには「コンテンツを海外に売りたい」という姿勢がもの凄くある。現実的にも売らざるをえないから、昔みたいに必要以上にもったいつけたりしない時代に入ってきてるんですよ。

——じゃあ、日本の放送局にはホントに適正価格で手に入るかもしれない、と。

デーブ　だから、この番組も観られる日が近いかもね。ま、そのときはゲストをどうするか。藤原紀香なんか出したら、放送の権利よりも高いんじゃない（笑）。

——ダハハハハハ！　紀香のほうが上ですか（笑）。そういえば、CBSはTBSと提携してますよね。

デーブ　そうです。だから、TBSは一番チャンスがあるでしょうし、あとは大晦日とか亀田の番組で味をしめてるじゃないですか。そしたら、高橋ジョージがゲストでもいいんじゃない？

——ダハハハハ！　エリートXCのゲストが高橋ジョージ（笑）。

デーブ　ただし、日本の放送局とアメリカのネットワークとの業務提携は、報道系やニュースの素材交換とかがほとんどなんですよ。フジテレビとNHKはABC。日本テレビはNBCと提携してる。TBSはCBSに一番近い位置にいることは確かではあるんだけど、提携しているからといって、買うとは限らないし、予算やワクや、ほかの番組とかぶるかどうかでしょう。

——ええ。TBSはDREAMという MMAの番組も放送してますから。可能性は低いでしょうけど。

デーブ　最終的に、どこが手をつけるかわかりませんけど。手に入りやすいことは間違いないですから。まぁ、CBSにとっては、社会的に暴力を煽っているというマイナス面もあるでしょうけど、それを除けばビジネス的にはいろいろプラス面も大きいんじゃないかなぁ？

——なるほど〜。今回もいろいろと勉強になりました！

デーブ　フフフフ。わかった？　またいつでも電話くださいね〜。

【08年4月5日／電話取材で収録】

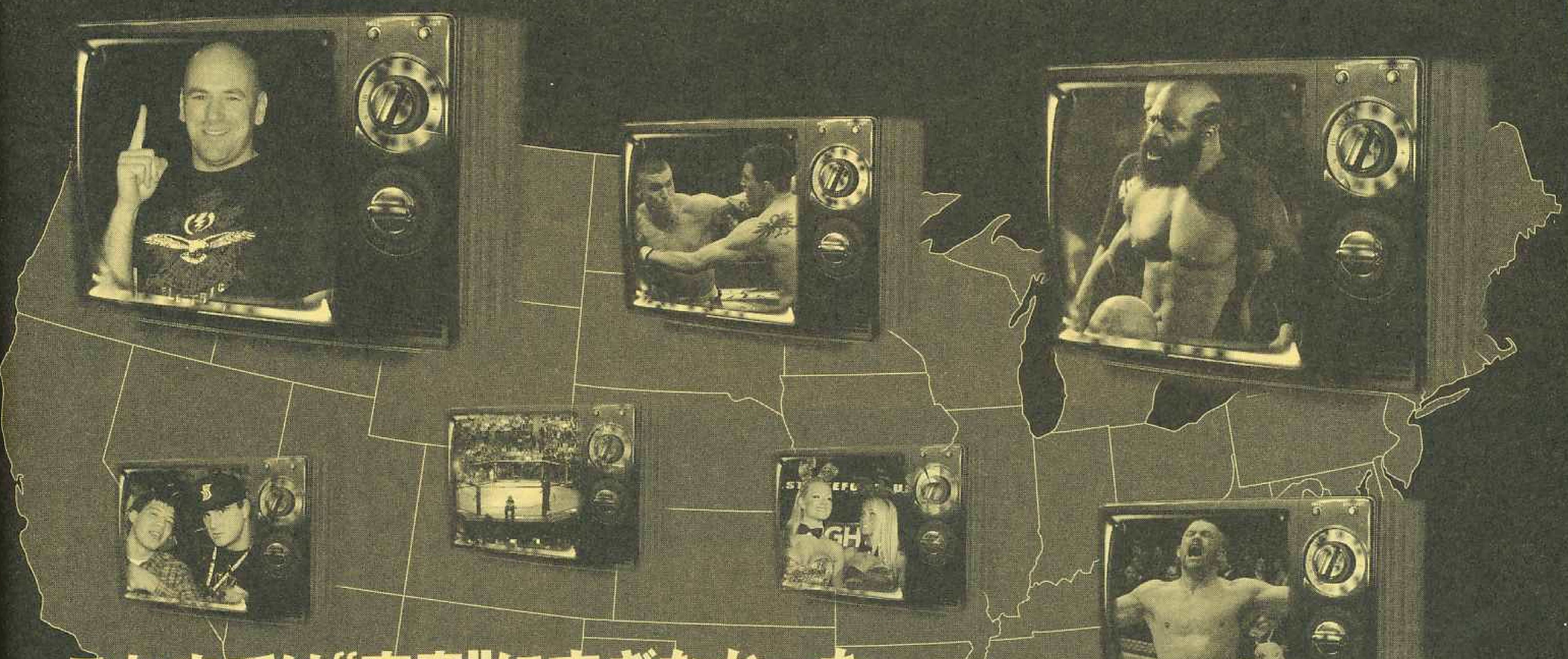
CBS放送第一弾はキンボvsトンプソンで勝負!!

5.31『CBS ELITEXC SATURDAY NIGHT FIGHTS』

米国ニュージャージー州
ニューアーク・プルデンセンター

対戦カード

［EXC ミドル級タイトルマッチ］
（王者）ロビー・ローラー vs スコット・スミス（挑戦者）
キンボ・スライス vs ジェームス・トンプソン
ジーナ・カラーノ vs カイトリン・ヤング
フィル・バローニ vs ムリーロ・ニンジャ
ジョン・マーフィー vs ブレッド・ロジャース



これまでは“序章”にすぎなかった……
さらに怪物化する

USA格闘テレビ事情!!

文／高橋ターヤン　構成／真下義之

地上波獲得はアメリカMMAシーンを〝ネクスト・レベル〟に引き上げる

2006年の大晦日、UFCのペイ・パー・ビュー（以下、PPV）購入数が100万件を超えたというビッグニュースが世界を席巻し、アメリカ国外ではMMAというマイナースポーツがついにメジャーシーンへと浮上したエポックメイキングな出来事として好意的に捉えられたのは記憶に新しい。しかし、じつはこのニュースは人口2億8000万人以上という巨大なパイを誇るアメリカ国内においては、MMA界巨大化の序章でしかなかったのだ。

2008年2月27日、かねてから交渉中であったUFCを出し抜いて、エリートXCがCBSとの地上波放送の契約を締結したことがニュースとして全米で報道された。

地上波で無料放送される格闘技観戦に慣れた日本人にとってはあまりピンとこないニュースではあるが、地上波放送はアメリカのMMAシーンにとっては業界が〝ネクスト・レベル〟に上がるための非常に重要なステップとされてきた。そしてその〝ネクスト・レベル〟への一番槍を突ける団体がどこなのかは、今後の北米MMA市場の動向を占う上でとても重大ファクターとなる。

だからこそ、その団体は選手層・資金力・歴史のどれをとってもナンバーワンの団体であるUFCであると、あらゆる関係者が考えていた。しかしUFCは、PPV放送を支える独自の製作スタッフをプロテクトし、興行の主導権を握ろうとするCBS側との交渉を決裂させた。それはPRIDE亡きあと、地上波放送に耐えうるだけのクオリティを持つショーを行なえる団体はUFCのみであるという自信の表われであったと思われるし、またテレビ局側も唯一無二のメジャー団体であるUFC以外に興味を示すはずはないとの思い込みもあったのだろう。今回のCBSとエリートXCの契約はそんなUFC側の油断の間隙を縫って急転直下結ばれたものだった（もちろんエリートXCがCBS系列の会社であることも大きな要因となったであろう）。

では、なぜアメリカ格闘技界は熾烈な争いを繰り返しながら地上波放送を目指すのか？　今回は現代のアメリカのテレビ事情からそのあたりを読み解いてみようと思う。

アメリカの娯楽の王者はテレビである。意外に思われるかもしれないが、アメリカには一般庶民が楽しめる娯楽が圧倒的に少ないのだ。識字率が低いので本を読むという習慣もなく、国土が広すぎて一、二日程度の休みではドライブで行ける場所など限られる。カジノは日本のパチンコのように気軽に行ける類のものではないし、競馬はそもそも上流階級の嗜み。大人にとってスポーツは〝やる〟ものではなく〝観る〟ものとなっている。そんなアメリカでの休日のすごし方の王道と言えば、昼間はショッピングモールでの

MMAに大変革の大津波!!

CBSはスポーツ放送では劣勢状態 エリートXCで状況打破なるか？

買い物&映画、そして夜はバーベキューとテレビなのだ。

現在のアメリカのテレビ業界は大きく分けて地上波放送のネットワークTVと有料のペイTV（ケーブルテレビや衛星放送、電話会社によるIPテレビなど）の二つに分かれる。ネットワークTVはいわゆる4大ネットワークと呼ばれるNBC、CBS、ABC、FOXのほかに、日本のNHK的な公共放送であるPBS、『WWE SMACKDOWN』を放送するThe CW、新進のMy NetworkなどがメジャーネットワークTVとして存在している（そのほかスペイン語放送や数十のネットワークTVが存在するが、多くは一日の大半でテレビ・ショッピングを流しているような代物）。

そんな中で歴史と実績があり業界の盟主とも言える存在が、今回エリートXCと地上波放送契約を締結したCBSだ。大人気テレビドラマ『CSI』シリーズや、リアリティショーの火つけ役『サバイバー』シリーズで安定した人気を誇る。しかしNFLの放送権をライバルのFOXに奪われるなど20〜30代向けのスポーツ番組では劣勢に立たされており、今回のエリートXCとの契約はそんな状況を打破しようという目論見もあったと思われる。

そして、そのCBSを猛追するのがFOXだ。ほかのメジャー放送局より設立が50年遅いこの放送局は、それまでテレビが縛られ続けた放送倫理を完全に無視した番組作りで有名。たとえば日本の『密着！警察24時』的番組の元祖である『COPS』、アメリカでテロが起きまくる『24』や脱獄モノの『プリズン・ブレイク』といった反社会的ドラマ、さらに政府寄りの偏向報道が大問題となったニュース番組など、「楽しくなければテレビじゃない！」的な番組作りで一気にメジャー入りをはたしたテレビ界の問題児だ。

FOXはスポーツ番組に関しても豪快で、前述のとおりCBSが4年で約3000億円の放送権料で放送していたNFLの放送権を約2000億円で強奪するなど、金に糸目をつけないやり方で批判を浴びても涼しい顔だ。現在、UFCとの交渉を行なっているネットワークTVの中でも、契約締結の最有力候補とも言われている。ほかに老舗のNBC、ABCも、それぞれゼネラル・エレクトリック社、ウォルト・ディズニー社といった巨大企業をオーナーとし、UFCと水面下での交渉を行なっていると思われる。

しかし日本ではどの家庭でも電波障害さえなければ良好な受信状態で視聴できるのと違って、広大な国土と峻険な地形を持つアメリカでは、よほどの好条件でなければネットワークTVは受信状態が悪くて視聴に耐えられない場合が多い。そんな状況下で加入者を猛烈に増やしているのが、アメリカのテレビ業界を支えるもう一方の雄であるペイTVだ。

ペイTVにはすでに500チャンネル以上のラインナップが揃っており、一時期は地域性の強いラインナップを誇るケーブルテレビ局が隆盛だったが、現在では高精細放送（HD放送）などの付加価値が充実している衛星放送業者（ディレクTVなど）と、IPテレビ業者（UTスターコムなど）が顧客拡大に向けて大攻勢をかけている真っ最中。いずれにしてもアメリカではなんらかのかたちでのペイTVに加入している世帯は全世帯数の70パーセント以上となっており、一部の極貧家庭などなんらかの事情で加入できない家庭以外のほとんど全米の家庭でペイTVの視聴ができるようになっているのが現状だ。

ペイTVにはベーシック・チャンネルと呼ばれる契約時に無料で視聴できるようになる約50チャンネルが準備されており、その中にはCNNやMTV、ディスカバリーチャンネルといった日本でもおなじみのチャンネルのほか、裁判中継専門のコートTVや黒人エンターテインメント専門のBETといった特定ユーザ向けのチャンネル、そしてスポーツ専門局の代名詞ESPNや、『WWE RAW』を放送中のUSA Networkなど基本料だけでもおなかいっぱいなラインナップ（契約するケーブル業者や衛星放送業者によってベーシック・チャンネルの番組は微妙に異なる）。

ペイTV（ケーブル&衛星放送など）ミニガイド

HBO
タイム・ワーナー傘下のプレミアム・チャンネル最大手。『セックス・アンド・ザ・シティ』や『ザ・ソプラノズ』のような人気ドラマや、新作映画、そして数々のボクシング放送で名を馳せた。

Showtime
CBS傘下のプレミアム・チャンネルでHBOのライバル。ボクシング中継を中心に格闘技番組を編成していたが、プロデューサーのゲイリー・ショウが新団体エリートXCを立ち上げた。

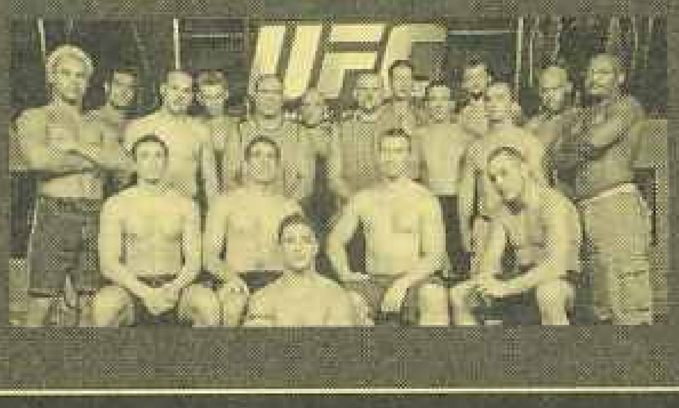
ION Television
IONグループ傘下。『ボードッグ・ファイト』や『ケージ・レージ』を放送するなど、新興のMMA番組を放送していたが、現在はMMAの番組からは距離を置いている。

SPIKE TV
CBS系のMTV傘下。UFCとタッグを組んで『THE ULTIMATE FIGHTER』（写真右）を成功させたことで知られる。ほかにはWWEのライバル団体であるTNAを放送中。

HDNet
マーク・キューバン傘下。『やれんのか!』、DREAM、IFLといったHDNet Fightの提供興行を多く放送。今後も新しく結成されるMMA興行の受け皿となると思われる。

Verrses
コムキャスト傘下。NHLの放送も行なっているが、ウリはエクストリーム・スポーツとなっている。Zuffa傘下で軽量級中心のWECも放送しているが視聴者獲得には苦戦。

USA Network
NBC傘下で1977年設立の老舗のペイTV局。『WWE RAW』とテレビドラマ『ロー&オーダー』が二枚看板の男性向けエンターテインメント・チャンネルとして知られる。



ネットワークTV（地上波放送）プチガイド

CBS
バイアコム社傘下のアメリカ最大のテレビ放送局。ドラマの『CSI』シリーズ、リアリティショーの『サバイバー』などで業界を牽引している。近年、新興のFOXに追い上げられており、20〜30代向けのテレビコンテンツを必要とする中、MMAに進出。エリートXCの放送に乗り出した。

NBC
ゼネラル・エレクトリック社傘下でアメリカ最古参のテレビ放送局。一時低迷していたが、ドラマ『ER』の人気で復活した。オリンピック中継などのナショナル・スポーツ（国家間スポーツ）を多く放送している。また深夜枠の枠買い放送ながら毎週日曜日にストライク・フォースを放送中。

ABC
ウォルト・ディズニー社傘下のテレビ会社で、1940年にNBCから分社した。ディズニー社の出資が入ってからは健全な番組製作を行なっていたため人気が低迷していたが、近年はドラマ『LOST』などの人気番組で視聴率を回復している。スポーツ部門はESPNが担当している。

FOX
ニューズ・コーポレーション傘下。『24』『プリズン・ブレイク』といったドラマ、リアリティショーの『アメリカン・アイドル』、NFL、MLB、NASCARなどの国民的スポーツ番組を抱えるイケイケ放送局。イラク戦争の偏向報道で大批判を浴びるもどこ吹く風でさらなる拡大路線を敷く。

The CW
準大手のワーナー・ブラザースとUPNが合併して設立された会社。ティーン向けのドラマや『WWE SMACKDOWN』など世代を狙い撃ちしたラインナップを放送中。

PBS
日本のNHKにあたる公共放送局。ただし日本のように強制徴収する受信料ではなく、寄付で運営されている。子ども向けの『テレタビーズ』や『セサミ・ストリート』を放送する。

この勢力拡大を機に日本のシーンは草木も生えない荒野と化すかも!?

MMAに大変革の大津波!!

また、一チャンネルごとに契約するプレミアム・チャンネルと呼ばれるチャンネルは、さらに玉石混淆なチャンネルが目白押しとなっている。ボクシング中継で名を馳せたペイTV界の老舗にして最大手のHBO、その強力なライバルであるShowtime、20～30代の男性向けのSpike TV、セレブゴシップ専門のE! TVや、ひたすら過去のクイズ番組を放送し続けるGSNなど百花繚乱状態。また日本のスカパー!でもおなじみの一番組ごとに料金が発生するPPV放送もあり、こちらは週末の夜には近所の仲間が集まってスポーツ番組のPPVを共同購入して楽しむというスタイルが完全に定着している（ただアメリカでも一家に複数台のテレビがある家庭が増えており、アメリカのテレビライフの根幹が変化し始めているのも確かだ）。

そんなペイTVへ進出してUFC躍進の大きな原動力となったのが、2005年に放送を開始したリアリティショーの『THE ULTIMATE FIGHTER』（以下、『TUF』）だったのだ。

『TUF』はそれまで一部の好事家がPPVでしか観ることがなかったMMA（SEG時代はPPVからも追放されていた）を、プレミアム・チャンネルとはいえ雑多な放送が混在する一般放送局であるSpike TVで放送し、しかもそのフィナーレ興行では全米で200万人以上の視聴者を獲得することに成功。

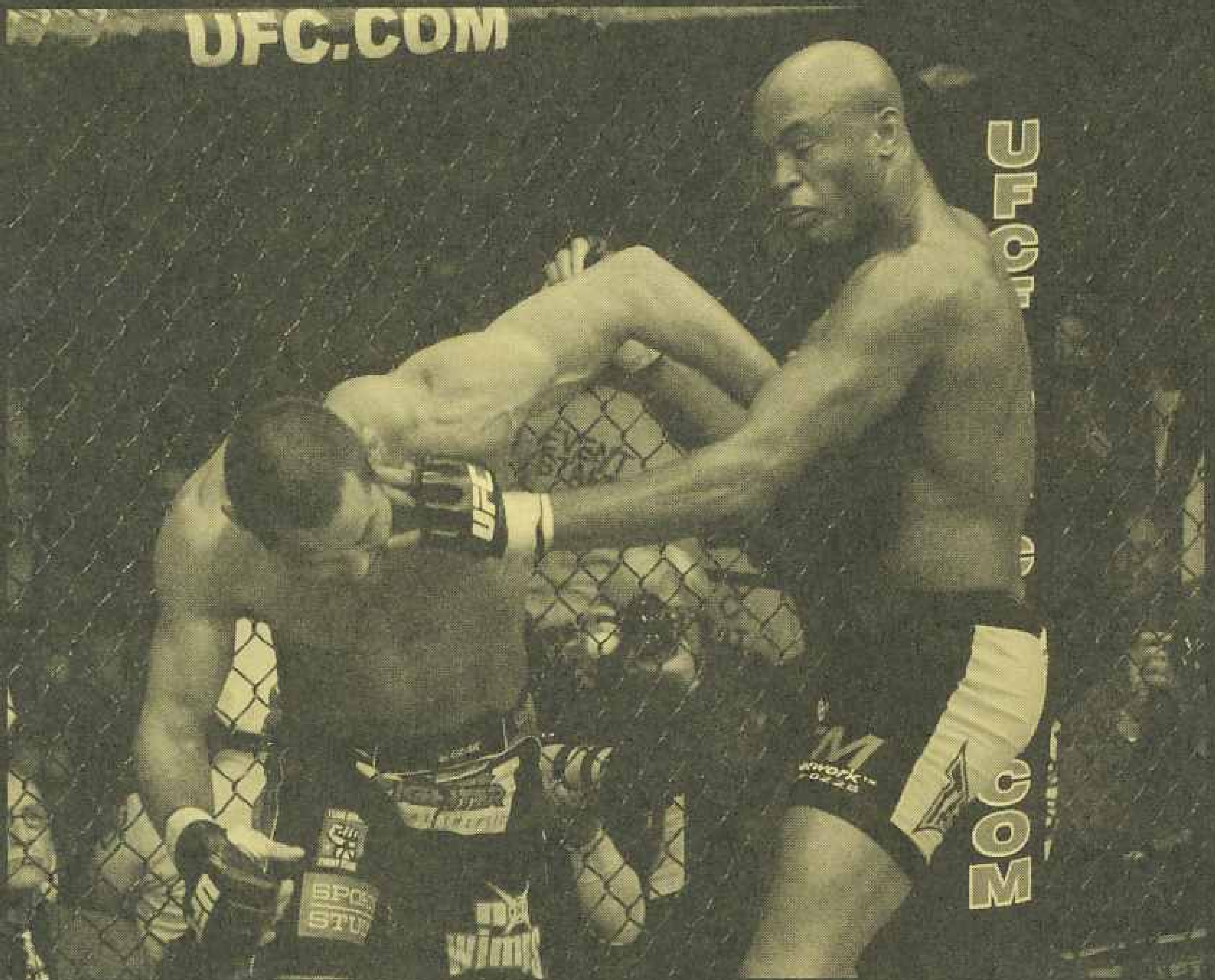
これはMMA界を揺るがす大事件となっていた。ちょうど日本では『HERO'S』が旗揚げし、PRIDEではヒョードル対ミルコの機運がこれ以上ないほど盛り上がるなど、日本の総合格闘技人気が一つの頂点を極めようとしているときだったが、地球の裏側では世界制覇に向けてUFCが大きく胎動し始めていたことになる。いずれにせよ、これによって北米でのUFCの認知度は一気に上がり、以後Spike TVで放送される『TUF』はいまに至るまで人気番組の座を譲らず（現在はシーズン7、チーム・ランペイジ対チーム・グリフィンを放送中）、キンボ・スライスに勝利したショーン・ギャノンやレジェンドのホイス・グレイシーを投入するなど話題性が高いマッチメイクも功を奏して、本戦のPPV販売数も飛躍的に増大していくことになる。

それではなぜアメリカの総合格闘技団体は、ここまでペイTVが発展したアメリカで、劣勢が伝えられるネットワークTVでの地上波放送にこだわるのか?

それは圧倒的な認知度の差と、爆発的な製作費の確保にほかならない。アメリカのネットワークTV、とくに4大ネットワークで放送されて大ヒットすることができれば、ペイTVの数倍の視聴者を獲得できる可能性があるのだ。

具体例を挙げてみよう（アメリカはチャンネルが多すぎて、日本ではポピュラーな視聴率での比較ではわかりづらいと思うので、推定視聴者数でお話しする）。2008年4月の第4週に放送された全番組で、ペイTVで最高視聴者数を叩き出したのはESPNで放送されたNFLのドラフト会議の模様で、のべ視聴者数は約500万人。

しかし同週に放送されたFOX製作の化け物リアリティショー『アメリカン・アイドル』はじつに2500万人の視聴者を獲得しているのだ（ちなみにこれは火曜日の回で、翌日にも放送されてそちらも約2300万人が視聴）。ほかにも視聴者数トップ10には1500万人以上の視聴者数を誇る番組がゴロゴロしているのだ。中でもスポーツ部門の視聴者数は上昇しており、今年のNFLスーパーボウルはアメリカだけで9800万人の視聴者を獲得している。



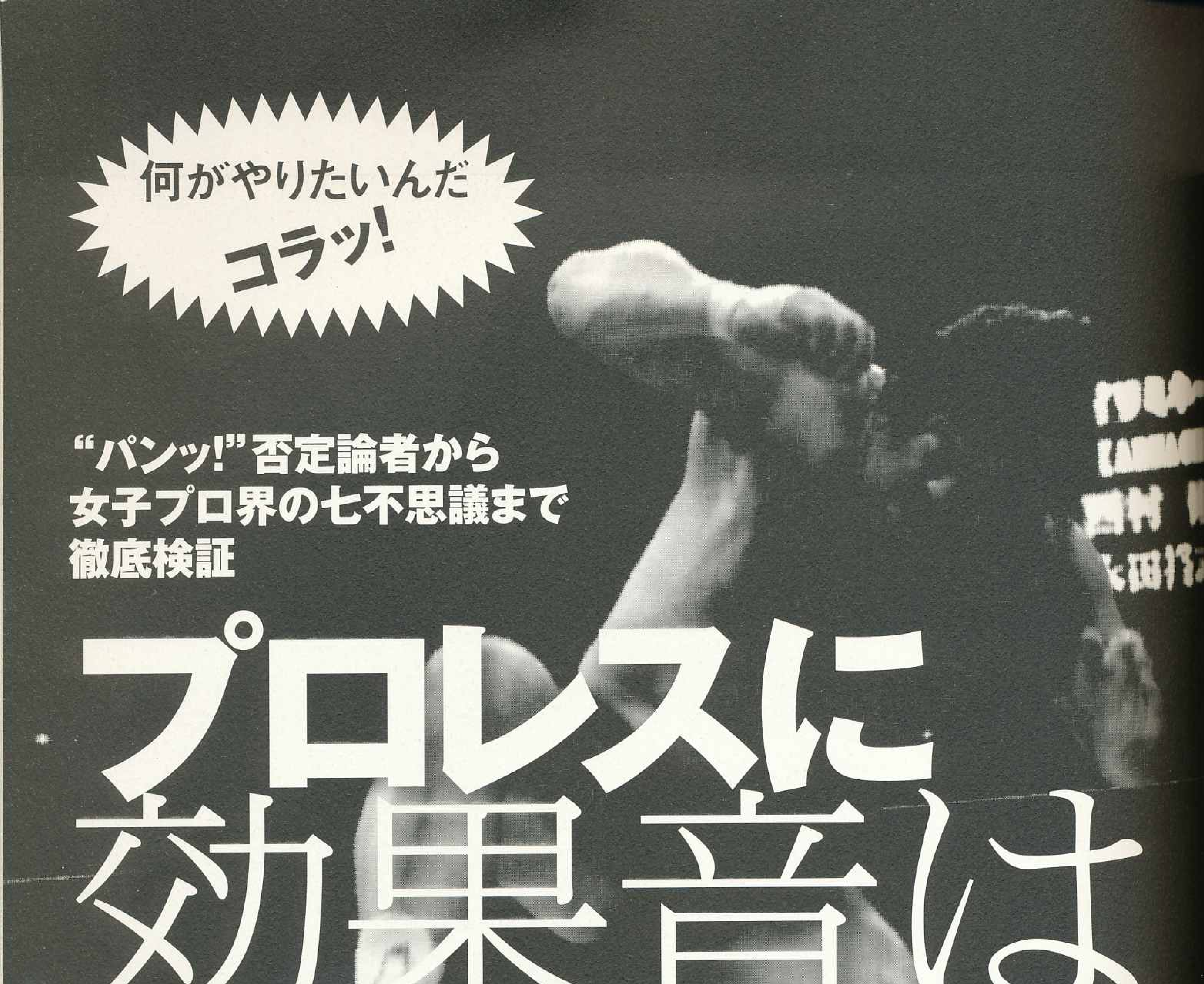
ケーブルテレビの『TUF』を出発点に、その人気を爆発させてMMAブームを巻き起こしたUFC。それでもアメリカの一般社会的にはまだまだコアなスポーツにすぎなかったが、今回の地上波進出で"本当のメジャー化"が始まってしまう!

爆発的にマーケットを拡大し続けているUFCだが、上記の視聴者数に比べればまだまだ微々たるもの。じつはまだMMAのアメリカでの認知度は限りなく低く、いまだにマイナースポーツの域を出ていない。さらなる"眠れる視聴者"を掘り起こすためにも、ネットワークTVでの放送は非常に魅力的なのだ。

またネットワークTV各社は日本では考えられないような巨額の資本を持つ巨大企業がオーナーとなっており、天井知らずの製作費も大きな魅力となる。前述したとおりNFLの放送権料は4年間で約2000億円という莫大なものだし、テレビドラマでも『24』は50億円以上、『CSI』は1話あたり2億5000万円もの製作費をかけて作られている。

じつは好調に見えるUFCも340億円という莫大な借金を抱えており、プレミアム・チャンネルや日本のテレビ局の番組製作とは比較にならない莫大な放送権料が発生するネットワークTVとの契約は是が非でも締結したいはずだ。

こうして見るとネットワークTVでの放送という"ネクスト・レベル"への階段を手に入れた北米MMAシーンの覇者たちは、さらなる莫大な富を得て拡大を続け、日本の総合格闘技界から選手と資本を根こそぎ奪いつくして日本のシーンを草木も生えない荒野と変えるモンスターとなっていくのかもしれない。ただし"MMAのスポーツとしての定着"がなければ、これまで多くの新興スポーツがたどった運命そのままに、その覇権も泡沫の夢となってしまう可能性は少なくないのだ。



何がやりたいんだ
コラッ！

“パンッ!”否定論者から
女子プロ界の七不思議まで
徹底検証

プロレスに効果音は必要か？

構成／阿修羅チョロ

〝プロレスに効果音は必要か？〟

今回、この特集をやるきっかけとなったのは、現在、『バチバチ』を主宰するフーテン・プロモーション代表の池田大輔が会場にて、「ウチの団体では大腿部を叩くようなキックは禁じます」というようなことが書かれたパンフレットを配布していると耳にしたからです。

〝大腿部を叩くようなキック〟と聞いて、ニヤリとした人もいるかもしれません。ピンとこないというあなた！　ここ最近、プロレスの試合を観ていて「あのキック、いい音がするなぁ」と感じたことはないですか？　もっと言うなら「あれ？　いまのキック、かすっただけなのに、いい音がしたんだけど、なぜ？」などと、首をかしげたことがある人だっているはずです。

そうなんです。大きな声では言えませんが、〝大腿部を叩くようなキック〟をはじめ、プロレスには技の威力をより多くの人に伝えるための、さまざまなテクニックが存在するんです。

種類はちょっと違いますが、女子プロレスの試合で頻繁に聞かれる髪の毛をつかんでの〝バカヤロー！〟、〝コノヤロー！〟といった絶叫系アピールも、ある意味、プロレスにおける効果音の一つと言えるでしょう。

それ以外にも、プロレスファンにはおなじみの重低音ストンピング攻撃や、技の迫力をよりわかりやすく伝えるためテレビ中継等でリング下にマイクが設置されることも珍しくありません。古くはジャンボ鶴田の「オーー！」や谷津嘉章の「オリャー！」、最近では「C！」コールを叫ばずにはいられないモンスター。Cなんていう選手も存在するぐらい〝プロレスと効果音〟というのは切っても切れない関係と言えるかもしれません（かなり強引）。

というわけで、今回は、ある種プロレス界に問題提起を投げかけ、特集を組むきっかけとなった張本人の池田大輔、そして、〝バカヤローー！〟とともに成長してきた（？）全女出身の井上京子に、〝プロレスに効果音は必要か？〟というバカバカしくも、ちょっときわどいテーマでインタビューを敢行しました！

大腿部を叩くことを禁ず!?
“生音”にこだわる
バチバチ戦士の本音



「自分で音を出すようなプロレスは大嫌いなんで」

“パンッ!”不要論者

池田大輔

“大腿部を叩くようなキックは禁ずる”という、ある種、現在のプロレス界へのアンチテーゼを唱えた池田大輔。藤原組長率いる藤原組でデビューし、その後はバトラーツ、全日本、ノアといったさまざまな団体を渡り歩いてきた池田が“生音”にこだわり3年前に立ち上げたのが『バチバチ』。そんな池田に『バチバチ』への思いと“大腿部”発言の真意を直撃!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／吉田みちこ

プロレスに効果音は必要か?

——今回、「プロレスに効果音は必要か?」という特集を組んだんですが、きっかけは池田さんがやられている『バチバチ』のパンフレットに「このリングではキックをするときに大腿部を叩くことは禁じます」というようなことが書かれていると耳にしたからなんですよ。

池田 そんな宣言みたいには書いてないんですけど、まあでも、そんな感じですね（笑）。

——もうちょっとソフトな感じでしたか（笑）。

池田 ソフトな感じっていうか。基本的にですね……、まず、何から説明しよう?

——いろいろ聞きたいことはあるんですけどね。

池田 自分が言いたいのはですね、まず、俺は真剣勝負とは、殺し合いだと思ってるんですよ。

——いきなり〝真剣勝負論〟ですか（笑）。まあ、〝真剣勝負〟にも、いろいろな受け取り方があるとは思いますけど、単純に勝ち負けではない、と?

池田 そうですね。俺は殺し合いだと思ってるんで、殺し合いをしない限りは真剣勝負じゃない、と。で、ルールが決められた中で勝負して、それができないってなると、じゃあ負けたら辞めるしかないと思ってるんで。なので、自分がやってる『バチバチ』っていうのは真剣勝負ではないです。

——『バチバチ』は真剣勝負ではない。いきなり、衝撃発言が飛び出しましたね（笑）。

池田 でも、そこはちゃんと言っとかないと、すげえ誤解されるんで。もちろん、〝真剣〟には闘ってますけどね。

——〝真剣〟にバチバチ殴り合ったりしてるわけですよね。

池田 そうですね。やっぱり、いまの時代って「プロレスって真剣勝負じゃないですよね?」とか「最初から勝敗は決まってるんでしょ?」って普通に聞かれますからね。

——まあ、昔もそういうことを言う人はいたでしょうけど、やっぱり、ミスター高橋本や総合格闘技が認知されてからは、そういうことを言う人も多くなってるみたいですね。

池田 そうなんですよね。自分は、その本は読んでないですけど、いまはプロレスは観なくなったって人でも読んでる人が多いんで、モロに来ますよね。

——やっぱり、影響はあるわけですね?

池田 影響ありますよ。たまたま会ったような人にも言われますから。質問されて「あぁ、そういうことが書いてあるんだ」とか、逆に知るぐらいで（笑）。

——そうでしたか（笑）。

池田 俺はプロレスや総合格闘技に限らず、お金を取ってお客さんに見せるものは全部エンターテインメントだと思うんですよ。でも、いま世間的には総合を観る目線は〝真剣勝負〟っていう目線じゃないですか。

——まあ、そうですね。

池田 それでプロレスは〝作りもの〟だという見方を世間はしてると思うんですよ。で、いまプロレス界が低迷してるとか言われていて、「じゃあ、総合が潰れるのを待つのか?」って、そんなことじゃないと思うし。そこで、どうするかっていうのを考えた結果、俺らにしかできないプロレスをやればいいんじゃないか、と。

——それで、「俺らにしかできないプロレス」っていうのが、いまやってる『バチバチ』なんですね。

池田 そういうことです。俺は藤原組を辞める・辞めないっていう時期に、（藤原）組長から「レスラーはジプシーなんだから、好きなことやっていい」って言われて。俺はプロレスラーなんだから、プロレスの世界で渡り歩いていければいいなぁって思って、これまでいろいろやってきましたけど、一回辞めとうと思ったこともあったんですよ。そういうプロレスがもう嫌だと思って。

——「そういうプロレス」っていうのは具体的に言うと?

池田 さっき言った「大腿部うんぬん」だけじゃなく、要は自分がやりたいことをやれないプロレスっていうか……、いろいろと矛盾が溜まっていって、お金の面では満たされますけど、心が満たされてないっていう状態が続いて。

——どちらかを選択しなければいけない状況になったわけですね。

池田 そうそう。どっちかを選ぶっていうありがちなパターンに俺も立たされて、いまに至ると（苦笑）。

——『バチバチ』を始める前にはノアやZERO1・MAXとかにも上がっていましたけど、具体的にどこの団体が、というわけではなく?

池田 そうですね。要は、昔からあるプロレスのやり方っていうのが「俺は好きじゃねえよ」って思っちゃって。で、その一つが〝大腿部〟になるんですけど（笑）。

——では〝大腿部〟の話を具体的にお願いします！（笑）。

池田 いま、プロレスっていっても、にもいろんなスタイルがあると思うんですけど、そんなに蹴ってなくても、大腿部を叩いて蹴り音を出すとかあるじゃないですか。

——ありますね。大腿部に限らず、いろんなテクニックもあるみたいですけど（笑）。

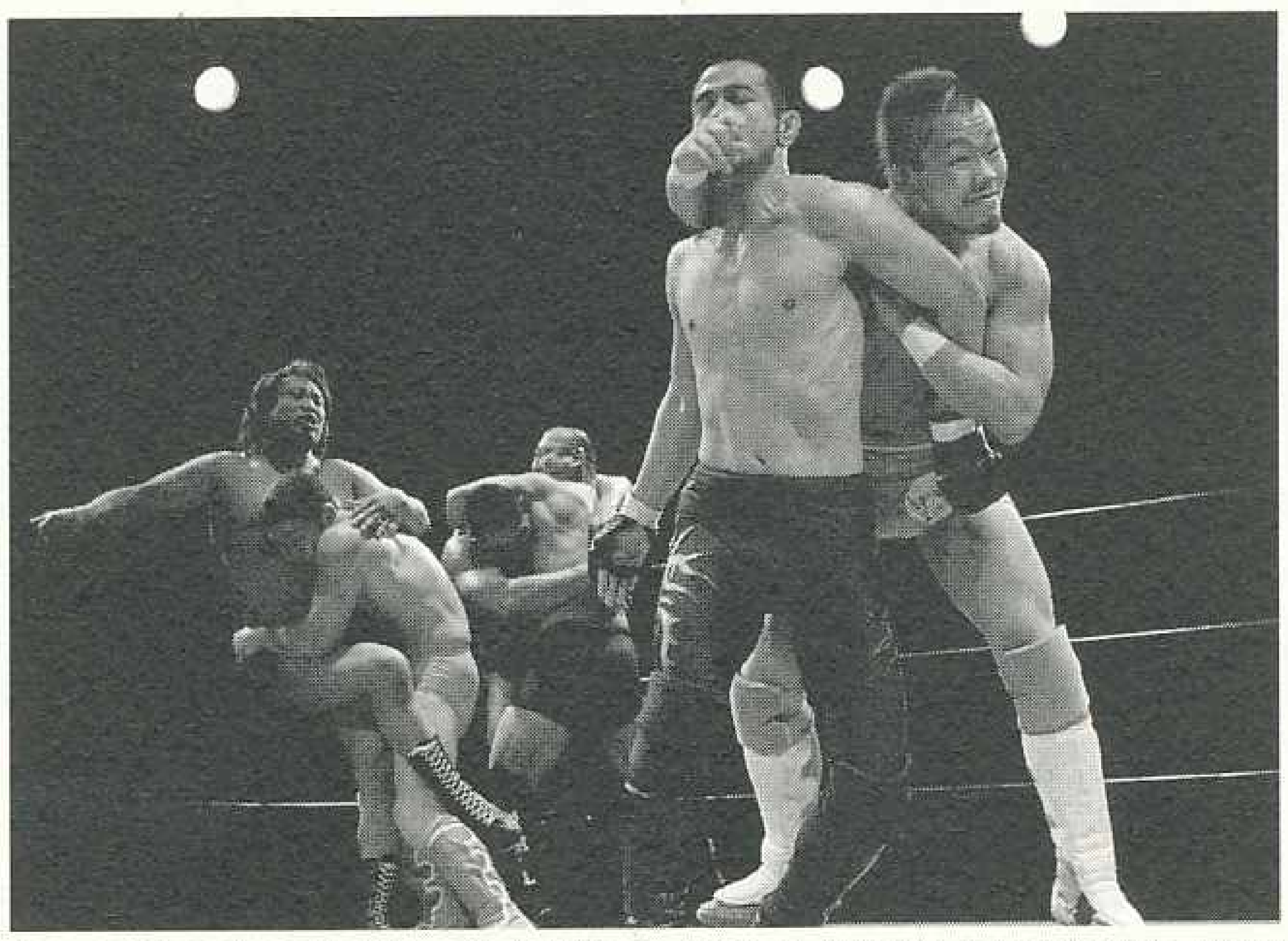
池田 そういうのを観てると、ちょっと……。だって、こっちはちゃんと蹴ってるわけじゃないですか。「ちゃんと」っていうのもおかしな話ですけど（笑）。

——確かに（笑）。でも、ちゃんと蹴ってる人からしたら「ふざけんな」とか「一緒にするな」っていう気持ちになるのはよくわかります。

池田 そういうのもあって、最初に真剣勝負の定義を言ったんですよ。そこだと思いますね、すべては。たとえば、プロレスファンはプロレスというものを理解しようとして、そういうのも理解した上で観て楽しんでる人もいるじゃないですか。

——そうですね。一方では、プロレスに矛盾を感じて卒業する人もいますし、総合格闘技を観るようになって「これこそが真剣勝負だ」っていう人もいますけど。

池田 それでまったく興味がない人もいる。でもまったく興味がない人のほうが日本では人口が多いわけじゃないですか。



「狂ってるヤツのところには狂ってるヤツが集まってくる」と池田は語っていたが、現在、池田が代表を務めるフーテン・プロモーションには、かつてバトラーツでタッグパートナーだった小野武志をはじめ、佐々木恭介、大場貴弘、ホワイト森山の５名の同士が所属している。

自分がやってる『バチバチ』っていうのは真剣勝負ではないです。ただ……



――圧倒的に多いでしょうね。

池田　俺はそっちに訴えていきたいんですよ。いま"プロレス"って言葉は悪いイメージもあると思うんですけど、自分たちはプロレスを知らない人たちにも届くようなことをやってる自負もあるんで。

――池田さんの考える、悪いイメージのある"プロレス"と『バチバチ』の"プロレス"の違いってどこになるんですかね?

池田　俺はあんまり、ほかの団体とかも観ないんですけど、たまたまテレビで観て「これは"プロレス"じゃない」って思ったことがあって。

――たまたま観た"プロレス"と自分が考える"プロレス"はまったくの別ものと感じた、と?

池田　そうですね。世間様がそれを"プロレス"と言うなら、俺は自分で思った"プロレス"をやろうっていうのが、そもそも『バチバチ』の始まりですから。

――過去に歩んできた道だと、それこそ藤原組から始まって、リングス、FMW、バトラーツからノアまで、だいたいのスタイルは経験してるじゃないですか。

池田　なにげに、いろんなとこに出てますよね(笑)。

――それでたどり着いたのが……。

池田　やっぱり最初の原点だったっていうことですね。

――原点というと、やはり藤原組長率いる藤原組になりますかね。

池田　そうですね。あと、原点っていう意味では、自分が高校生の頃に観てた旧UWFのビデオとかですかね。それぐらいでストップしてるんで。

いまは"プロレスラー"ってことにプライドを持てない選手が多いと思う

――旧UWFや藤原組は、いまの『バチバチ』に通じる部分はありますよね。ゴツゴツした格闘スタイルというか。

池田　格闘スタイルですか(笑)。でも、藤原組も旧UWFも、さっき言ったようなことはしてなかったですからね。

――確かに、大腿部を叩くようなキックはなかったですよね(笑)。ちなみに、そのテクニックは池田さんは習得されてるんですか?

池田　いや、してないです。教える人もいなかったし、どっから誰がやり出したのかもわかんないですけど。

――やっぱり、難しいものなんですかね?

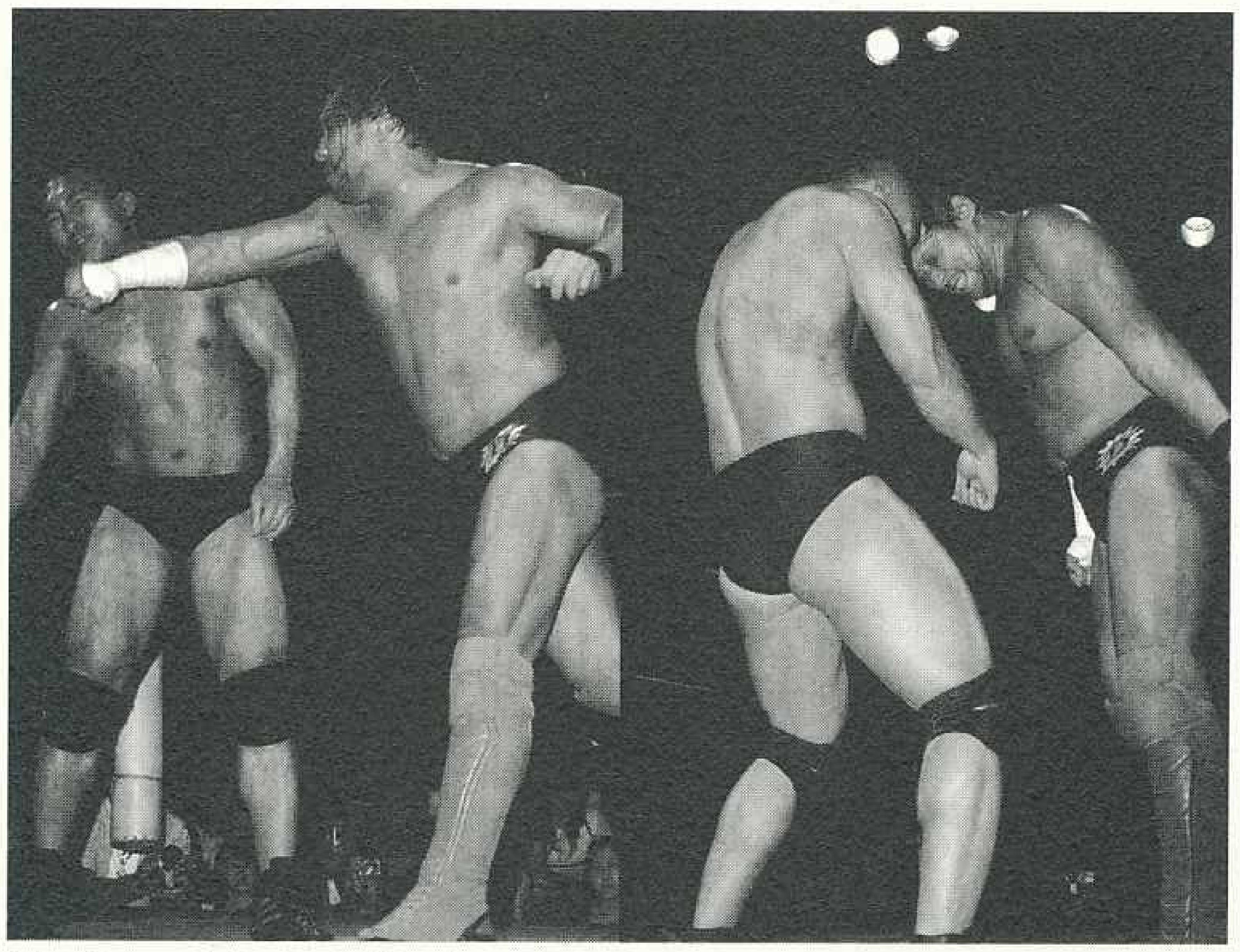
池田　いや、難しいというか、自分はやりたくないんです。そんなことするんだったら最初から蹴らないし。

――音に頼るようなキックを出すつもりはない、と?

池田　そうですね。

――そういった、大腿部を叩く以外にもプロレスには見せる技術っていうのがいくつかあると思うんですけど、そういうことはやりたくないと?

池田　俺はそういうのはやりたくないです。プロレスラーだったら自分の身体で表現してみようよ、と。プロとしてはそこが一番大事じゃないかと思うんで。



今年4月27日に"バチバチの聖地"ラゾーナ川崎プラザソルで行なわれた3周年記念興行では、バトラーツ時代の後輩の大場貴弘と対戦した池田。試合序盤で意識が飛んでしまったという大場が泣きながら池田を殴れば「泣くんじゃねえ!」と池田も殴り返すという壮絶な一戦に。結局、試合は23分過ぎ、大場のチキンウイングアームロックでレフェリーが試合をストップ。大場が見事、先輩越えをはたしたのだった。

――プロとして表現するにあたって、それこそ効果音じゃなくて、本当に殴り合う生の音を伝えたいっていうのが『バチバチ』なんですね。

池田　そうです。自分は大腿部とか叩いたりすることによって、嘘くさい作りものに見えちゃうのが一番ダメじゃないかと思うんで。あくまでも個人的な意見ですけど(笑)。

――よくわかります。

池田　ウチでは使ってる会場が凄く狭いんで、その距離がすべてを物語ると思ってやってるし、嘘くさいことはすべて見えちゃいますからね(笑)。

――ごまかしが利かないというか。

池田　そうそう。でも、ウチに出てる選手は、ほかの団体に出てる選手も多いですけど、そういうごまかした動きとかするヤツがいるんですよ。

――いつものクセで出ちゃうんですかね(笑)。

池田　そういうことは、ウチのリングでは認めないってことは言い聞かせてますけどね。そこは徹底してるつもりです。

――それを認めていたら、ほかの団体と差別化できないですからね。

池田　そうですね。あと、よく聞かれてムカつくのが「あの技、痛くないんでしょ?」って。そういうことを、プロレスラーの人って普段言われたことないのかなって。俺の周りはけっこう言う人がいますから(笑)。

――聞くほうも聞くほうですけど、言われたら当然カチンと来ますよね。

池田　もう聞かれすぎてるんで、「あ、またか」みたいな感じですけど(笑)。ウチのリングでの試合を観たら絶対そんなことは言われないと思うんで。そこは自信があるんで。

――そういうことを言われて、うしろめたいプロレスラーもいるかもしれないですね。

池田　いると思いますよ。ただ、殴る蹴るっていうのは単純に伝わるんですけど、関節技だけは近くでも見ても痛いかどうかはなかなか伝わらないみたいなんで、たまにリングに上げてかけてやったりするんですけどね(笑)。

――そうなんですか(笑)。

池田　プロレスラーを名乗る人の中にも「強くなりたいから格闘技道場に通ってます」とか言う人もいるんですよ。そういうのを聞くと、「プロレスラーっていう自覚があるんだったらプロレスの道場で強くなることを磨くのが普通じゃねえのか」って俺は思うんですけど。そこらへんからして矛盾してますよね、やる側が。"プロレスラー"っていうものにプライドを持ててない選手も多いと思うし。

――それはあるかもしれませんね。

池田　最近、思うのは、そういうプライドがほしくて俺は藤原組に入ったんですよ。自分が思う"プロレス"っていうのは俺は好きなんですけど、いまの"プロレス"は好きになれないっていうのはありますね。観るとしても、昔のヤツしか観ないですから。

—昔のプロレスってどれぐらいの時期ですか？

池田　俺が観てた旧UWFのビデオとか、もっと昔のものとか。

—『バチバチ』はラゾーナ川崎という小さい会場を中心に大会をやっているわけですけど、もっと大きな会場に進出する考えも当然あるわけですよね。それとも〝生音〟を伝えるには、いまのキャパがベストという考えなんですか？

池田　いろいろと考えてはいるんですけど、どうなんですかね？「3年やったら辞めっかな」ぐらいに思ってたんで（笑）。

—でも下の世代でバチバチ志望の選手も増えているわけじゃないですか。

池田　俺みたいな気の狂ったヤツが何人か集まって来ちゃいましたからね（笑）。

—『バチバチ』は気の狂った選手の集団だと？（笑）。

池田　そうですね（笑）。石川雄規さんがこないだ言ってましたよ。「このスタイルはキ○○イだから、キ○○イしか集まって来ねえよ」って。「アンタに言われたらなんか嫌な感じするな」みたいな（笑）。

—まあでも、キ○○イを何人も観られる場所って、そうそうないですからね（笑）。

大腿部を叩いたキックで客が「ワーッ！」ってなろうが、いまは興味がないです

池田　そうですね。よくプロレスラーって「選ばれし者」とか言われますけど、いまは誰でもなれるような風潮もあるじゃないですか。

—まあ、そうですよね。

池田　「選ばれし者」までいかなくても、ある意味、キ○○イじゃないと、プロレスを知らない人に振り向いてもらえないと思うんですよ。いわゆる世間一般の人をビックリさせたり、泣かせたり、喜ばせたりするっていうのは、普通の人間じゃ無理だと思うし。

—それは言えますよね。

池田　あと、「総合とプロレスはどこが違うの？」って聞かれたら自分は『バチバチ』はプロレスなんで、相手の技を受けます」って答えるんですけど、たとえばパンチとか相手の技を受けてKOされたら、べつにそれでもいいと思ってやってるんで。

—技を受けた結果、それこそ秒殺で負ける可能性もあるのが『バチバチ』のリングだと？

池田　そうですね。それがホントの〝受け〟だと思うんで。それがプロレスにはあって、総合にはないところですよね。このあいだの大場（貴弘）戦でも凶器とかも使わずに大流血しましたからね（笑）。

—パンチで切れたってことですか？

池田　そうです。もともとあった傷口をグーで殴られて、頭から大流血しましたから（笑）。



いけだ・だいすけ■1968年2月13日、熊本県出身。プロレスラーを目指し、新日本プロレス学校に通うもケガにより挫折。その後、藤原組に入門し、93年12月5日、後楽園大会でのドン荒川戦でデビュー。藤原組解散後はバトラーツ、全日本プロレス、ノアで活躍。04年にノアを退団し、05年3月にフーテン・プロモーションを設立。現在は代表も務める。180cm、105kg。

プロレスに効果音は必要か？

—グーパンチで大流血。それは凄いですね。

池田　で、アイツは俺に殴られて試合が始まってすぐに記憶を飛ばして。試合後もほとんど記憶がなかったみたいで、朝起きたらバトラーツの合宿所にいたらしくて、「なんで俺、バトラーツにいるんだ！」って大騒ぎしてましたから（笑）。

—もうバトラーツを辞めて、だいぶ経つのに、なぜか合宿所にいたと（笑）。

池田　そんなヤツらが集まってやってるのが、いまの『バチバチ』なんですけどね（笑）。だからって、あっち側のプロレスをべつに否定するつもりはないんですけど、ただ単に、俺はつまんないんで、やめただけなんで。大腿部を叩いたキックで、どんだけ客が「ワーッ！」ってなろうが、いまは興味がないです。

—これからは、そういうプロレスをするつもりはないんですか？

池田　オファーも来なくなりましたしね（笑）。まあ、来たら考えますけど、自分ではそういうプロレスはするつもりはないです。それに、そういうプロレスが〝プロレス〟って言うんだったら、俺は〝プロレス〟は好きじゃない。俺がやりたいプロレスは試合後に「ありがとうございました」って笑い合えるぐらい気持ちよく殴り合い、蹴り合い、観てる人がワクワクするような闘いなんで。

—池田さんは選手としてだけではなく、プロデューサーでもあるわけですけど、『バチバチ』の理念というか心構えを、ほかの選手に伝えるのって大変なんじゃないですか？

池田　そのへんは、なんとか口八丁手八丁で（笑）。よく言うのは「俺らは名もなきラーメン屋だから『ここは美味しい』って行列ができるぐらいのことをやろうよ」って言ったりはしてるんですけど。


—『バチバチ』というラーメン屋に、いままで以上の行列ができるよう期待してます！

池田　頑張ります。これぐらいの毒でいいですかね？（笑）。

—問題ないです（笑）。ありがとうございました！

【08年5月5日／都内某所にて収録】

女子プロ界の七不思議
"バカヤロー!"プロレスのルーツとは!?



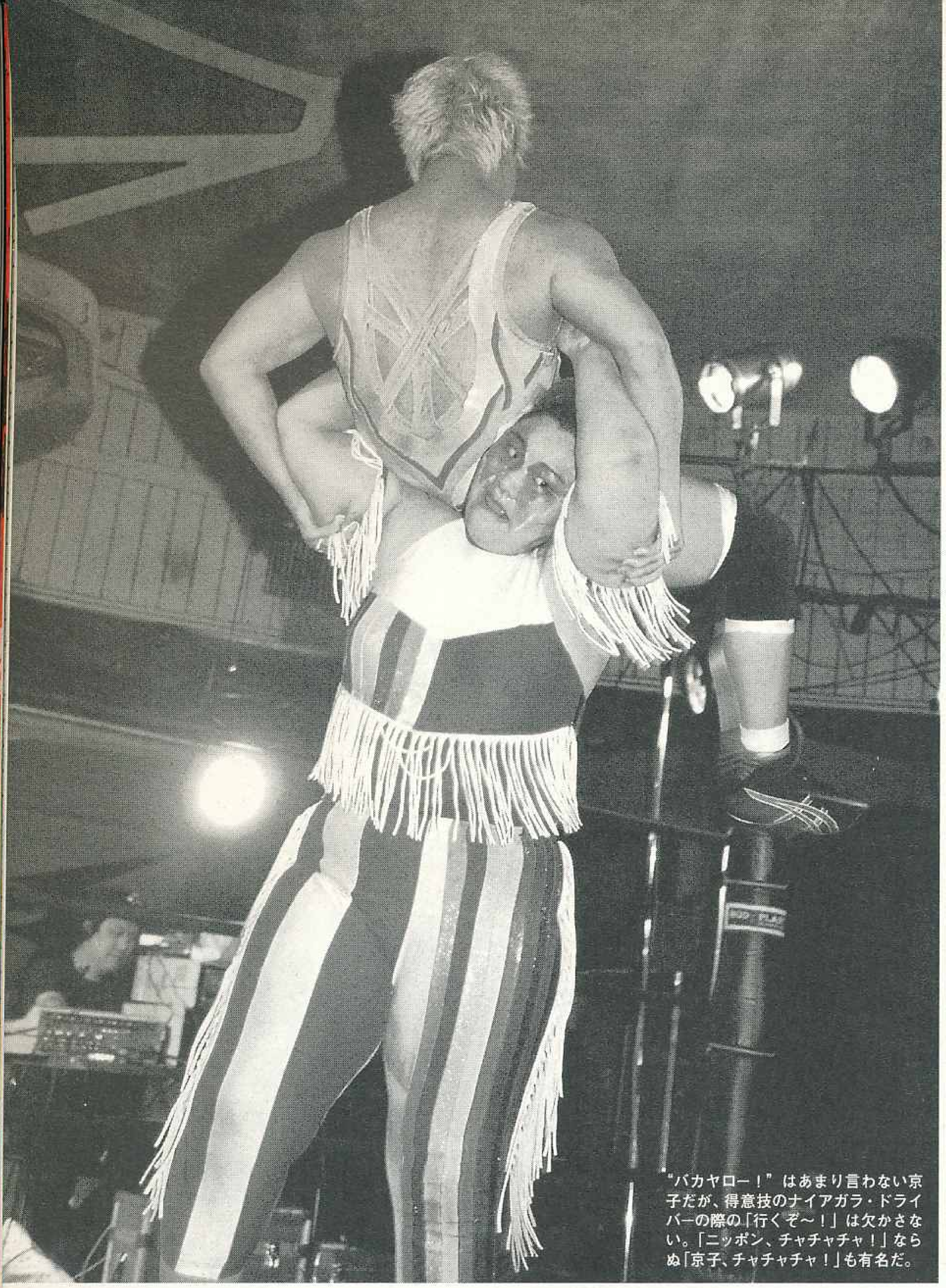
「おかしいとは思ってたけど
基本は"バカヤロー!"
"コノヤロー!"
"立て!""いくぞー!"の
4つなんだよね」

ママでもチャンピオン
井上京子

「プロレスに効果音は必要か?」特集、続いて調査するのは"バカヤロー!"でおなじみの女子プロレス界だ。登場するのは"バカヤロー!"プロレスのルーツ(?)全女出身で、取材日前日の5.5 NEO後楽園大会では、松尾永遠を破り二冠王者となった一児のママ・井上京子! なんで女子プロではみんながみんな"バカヤロー!"って言うのか、京子さん、教えてくださ〜い!

聞き手/阿修羅チョロ　試合写真/平工幸雄　写真協力/NEO

新人のときから「なんで〝バカヤロー！〟って言うんだろう？」って思ってたの



〝バカヤロー！〟はあまり言わない京子だが、得意技のナイアガラ・ドライバーの際の「行くぞ〜！」は欠かさない。「ニッポン、チャチャチャ！」ならぬ「京子、チャチャチャ！」も有名だ。

京子　今日はなんの話すればいいんだっけ？

――今回、「プロレスに効果音は必要か？」という企画をやってるんですけど、女子プロレスと効果音といえば、やっぱり「バカヤロー！　コノヤロー！」かと思いまして、そのへんをうかがえればと。

京子　アハハハハハ！　でも、女子プロって、言うね、言うね。

――現在、京子さんはＮＥＯに所属してますが、〝バカヤロー！〟プロレスの発祥はおそらく全女からだと思うんですが。

京子　きっと、そうだよね。私も新人のときから「なんで〝バカヤロー！〟って言うんだろう？」って思ってたんだよね。

――あ、疑問を感じてたわけですか？

京子　そうそう。で、全女に入ったときに、そこのルールに従えじゃないけど、ロープに振るときは「コノヤロー！」とか、相手を起こすときは「バカヤロー！」って言うのが決まりだったのね。

――一応、決まりがあるわけですね（笑）。

京子　そうなの。「バカヤロー！」か「コノヤロー！」を必ず言わなきゃいけない。声を出すときはそれを必ず言うみたいのがあったの。「なんで言わなきゃいけないんだろう？」ってずっと疑問に思ってたんだけど、私は元々女子プロが好きで入ってきていないから、不思議で不思議でしょうがなかったの。

――そうか、京子さんは男子プロレスでプロレスに興味を持って、この世界に入ったんでしたよね。

京子　そうそう。でも、当時はみんなは女子プロが好きで入ってきてるから、言うのがあたりまえだったと思うし、前から女子プロを観てるからなんとも思わないんだけど、私は言うのが恥ずかしいなと思ってた（笑）。

――恥ずかしながら、決まりに従って叫んでいた、と（笑）。

京子　ホント、そうだよ。私はなんで言うのかわからないみたいな感じだったんだよね。だから、いまも「コノヤロー！」とか、「死ね！」とか、「ワー！」とか、みんないろいろ言ってるけど、私は相手を起こすときに「バカヤロー！」とか「コノヤロー！」とかは言ってないと思う。

――京子さんは「バカヤロー！」とか「コノヤロー！」っていう印象はあまりないですね。一番叫んでる印象があるのは豊田真奈美さんですかね（笑）。

京子　言うねえ、言うねえ（笑）。

――先ほど、全女の指導法では、練習段階から「バカヤロー！」とか言わないと怒られたりもするんですか？

京子　怒られるっていうより、言うのがあたりまえっていうか……、ホントにそれがあたりまえだったから。

プロレスに効果音は必要か？

――じゃあ、言うしかないですね（笑）。

京子　そうだね。私たちにしてみれば、ロープに振ったら返ってくるとか、野球で言ったら打ったら一塁に走るっていうぐらいあたりまえみたいな感じだったんだよね。たとえば、ドロップキックの練習をするとロープに振って「バカヤロー！」って言って蹴って、「ありがとうございました！」って言って、次の人が入ってまたロープに振って「バカヤロー！」っていう感じで、延々と「バカヤロー！」とドロップキックの繰り返し。

――試合に限らず、練習段階から技と掛け声はセットになっていたと？

京子　うん。セットになってた。でも、そんなことを聞くのもおもしろいね（笑）。

――すみません、チャンピオンになった翌日にへんな話を聞きに来ちゃって（笑）。

京子　いやいや（笑）。私も「おもしろいなぁ」って思ってたんだけど、もう慣れちゃったよね。入るときは疑問だったけど、みんなは疑問には思ってなかったと思う。女子プロを昔から観続けて、女子プロに入った人は思わないと思うけど、私みたいに男子のプロレスを観て女子プロを観るようになった人は、それが凄くおもしろいらしいよ。「なんで『バカヤロー！　バカヤロー！』言ってるの？」みたいな（笑）。

――男子のプロレスでも「バカヤロー！」とか「いくぞー！」とか言う選手はいますし、全日本の小島聡選手

「いくぞー！」って聞くと、やっぱり豊田さんって感じがするよね（笑）

のように、それをミックスして「いっちゃうぞ、バカヤロー！」なんて言う選手もいますけど（笑）、やっぱり女子プロの「バカヤロー！」は独特のモノがありますよね。

京子 そうだよね。全女ならではだと思うんだけど。

――いまは全女から分かれるかたちでたくさんの団体がありますけど、NEOでも、やっぱり練習のときから「バカヤロー！」とかも言うような感じなんですか？

京子 私も会場とかでは、たまに教えたりもするんだけど、「バカヤロー！」とかに関していえば「ご自由にどうぞ」って（笑）。声は出したいように出してくれって感じかな。

――ご自由にどうぞ、ですか（笑）。

京子 ただ、お客さんがいてやることだから、声を出したほうが無言でやるよりもいいかなと。やっぱり、元気よく見えるじゃないですか。だから「バカヤロー！」とか「コノヤロー！」じゃなくても「ターッ！」でも「ワー！」でもべつにいいと思うよ。私は豊田さんみたいにあんまり言わない女子プロレスラーだからさ（笑）。

――やっぱり、豊田さんが一番言ってるイメージはありますよね。

京子 豊田さんって「THE女子プロレス」っていうか、女子プロレスの象徴みたいな感じじゃない？「いくぞー！」とかもよく言うし。

――「いくぞー！」も基本ですよね。

京子 でしょ。「いくぞー！」も豊田さんっていう感じがするよね（笑）。

――そうですね。「いくぞー！」、「バカヤロー！」、「コノヤロー！」のほかには何かありましたっけ？

京子 あとは「起きろー！」とか。ドロップキックを連発するとき「起きろー！起きろー！」って言うじゃない？あれも基本だよね。やられるんだから起きなきゃいいのになあっていつも思うんだけど（笑）。

――確かに（笑）。あと「死ね！」も言いますよね？

京子 「死ね！」は最近じゃない？だいたい、プロレスの試合でもない限り「死ね！」なんて普通言わないよね（笑）。

――物騒な世界ですよね（笑）。

京子 でもたぶん「死ね！」は男子から入ってきたんじゃない？いまうちの新人で「いてまうぞ！」って言うのがいますけど。

――「いてまうぞ！」。関西系の方ですか？

京子 勇気彩っていう子なんですけど、関西のほうです（笑）。昔からあるのは「いくぞー！」、「バカヤロー！」、「コノヤロー！」、「起きろー！」の四つじゃないかな。

――女子プロ界の定番ワードですね。プロレスにおける声って、ある種、武器の一つになりえるんですかね？

京子 う〜ん、なるんじゃない？迫力がやっぱり違うと思うし、何も言わないで、そーっと来られるのと、「ウワ〜ッ！」って言って来られるのじゃ違うでしょ。

――それは違うでしょうね。

京子 あと、声を出すことによって、自分の気合いも入るし。私もナイガラ（ドライバー）にいくときは「いくぞー！」って必ず言うんだけど、自分の気合いも入るみたいな。あとはお客さんにわかりやすいかなっていうのもあるよね。

――「いくぞー！」はフィニッシュに行く前のアピールっていう意味ではわかりやすいですよね。

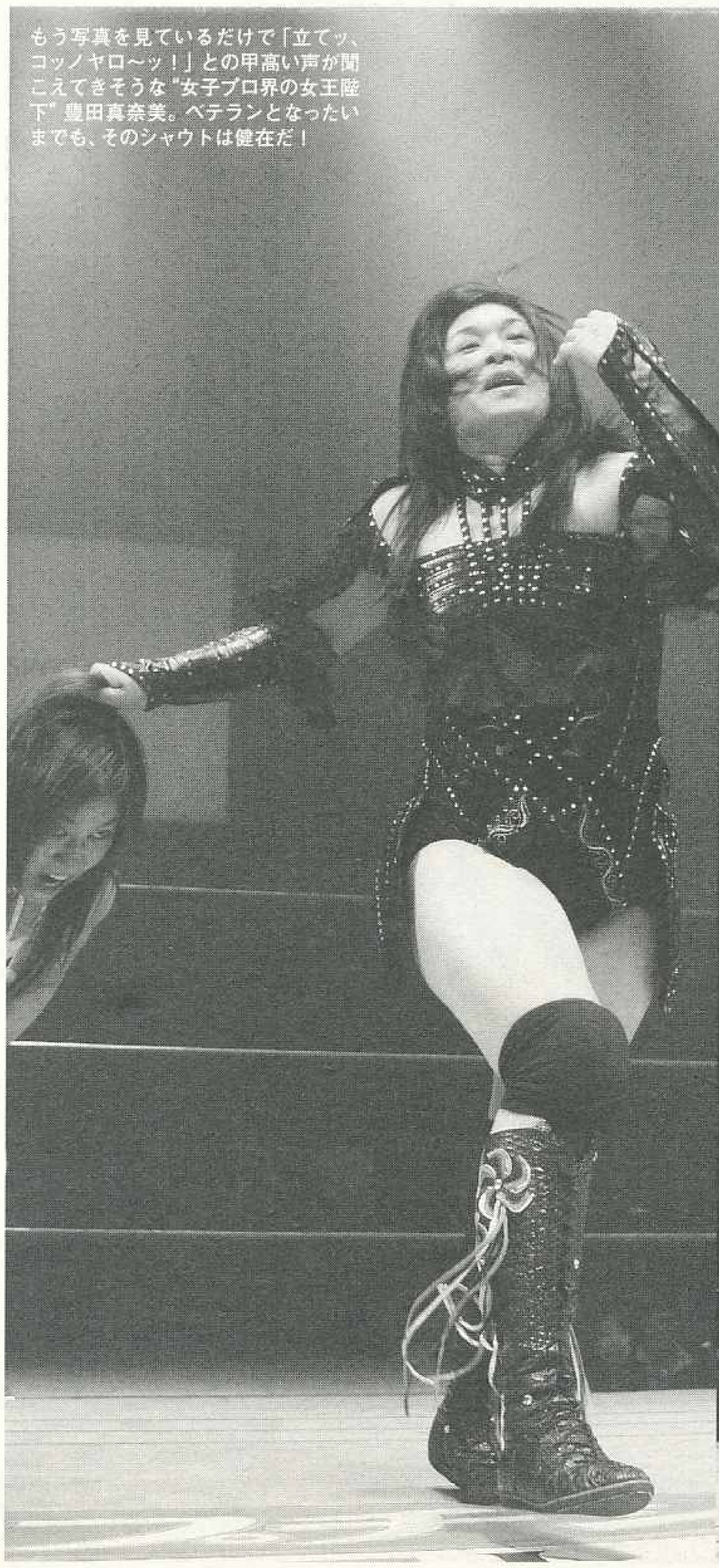
京子 でもさ、「いくぞー！」って言っても、いけなかったりすることも多いんだけど（笑）。

――アハハハハ！

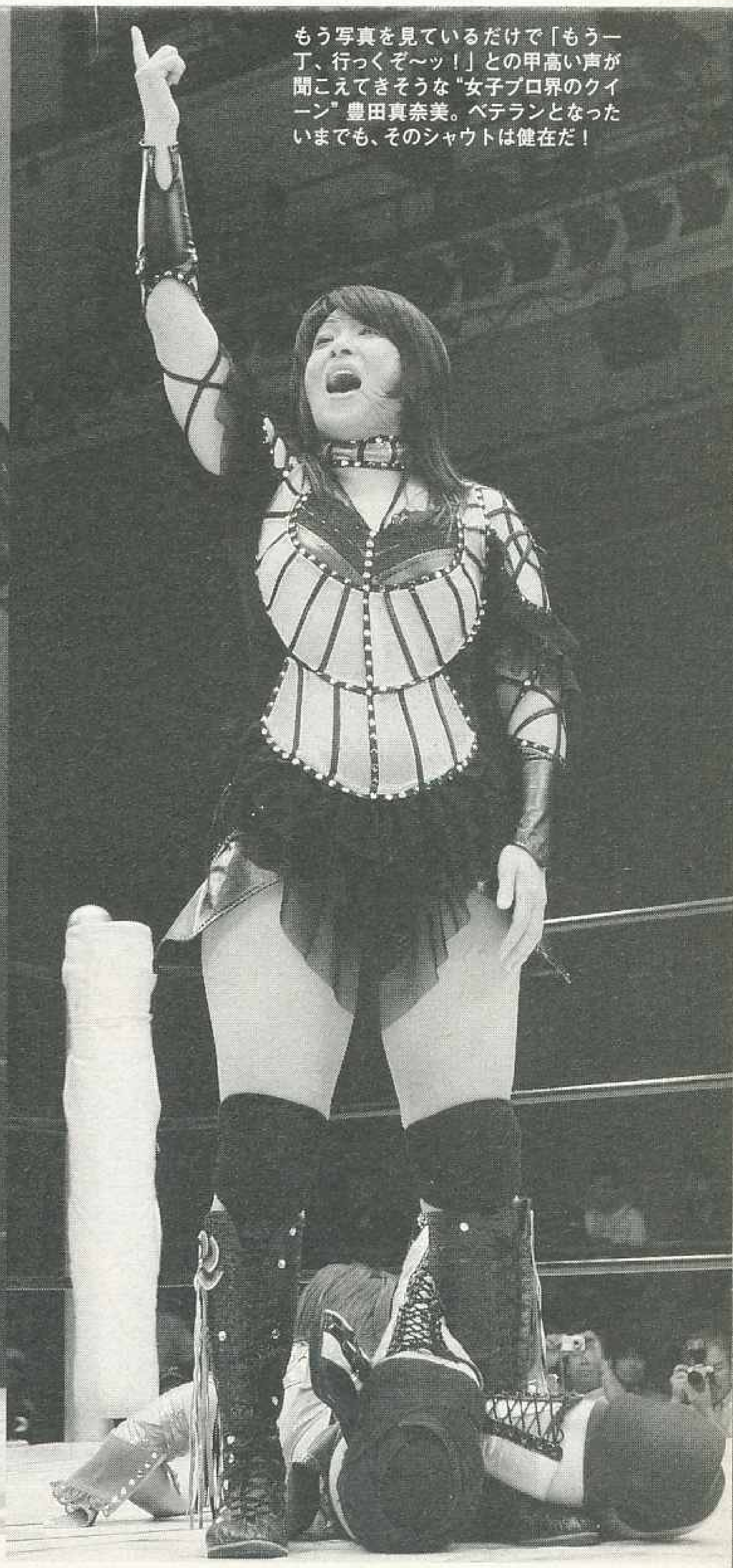
京子 でも、「バカヤロー！コノヤロー！」ってよく考えたら恥ずかしいよね。恥ずかしくない？

――あまり連発するとリアリティがなくなっちゃうっていうか、『怒りすぎだろ』みたいな気もしますよね（笑）。

京子 「いくぞー！」って言ったら、



もう写真を見ているだけで「立てッ、コッノヤロ〜ッ！」との甲高い声が聞こえてきそうな"女子プロ界の女王陛下"豊田真奈美。ベテランとなったいまでも、そのシャウトは健在だ！



もう写真を見ているだけで「もう一丁、行っくぞ〜ッ！」との甲高い声が聞こえてきそうな"女子プロ界のクイーン"豊田真奈美。ベテランとなったいまでも、そのシャウトは健在だ！

プロレスに効果音は必要か？

お客さんから「どこへ？」って言われるときもあるし（笑）。

——身も蓋もないですね（笑）。

京子 初めて観る人とかはそう思うんだろうね。

——豊田さんのほかに「バカヤロー！」で思い出す選手は誰かいます？

京子 う〜ん、誰だろ？ 「キャッキャ、キャッキャ」する人だよね。

——女の子女の子したタイプの選手のほうが叫ぶイメージがありますよね。

京子 そうだね。でも、いまのウチの子はあまり言うイメージがないし誰だろうなぁ。でも「いくぞー！」で思い浮かぶのが豊田さんしかいないって、ある意味、凄いよね（笑）。

——やっぱり、闘っている最中に叫ばれると「うるせえな！」とか思うもんなんですか？

京子 そうだね。耳が痛くなるときはあるよね（笑）。

——全女を生んだ松永兄弟の指導で、言うようになったところってあるんですかね？

京子 最初はそこからなのかなぁ。少なくとも私が入った頃は「バカヤロー！」、「コノヤロー！」、「起きろー！」、「いくぞー！」はあたりまえにみんな言ってたから。練習でも試合でも新人はドロップキックぐらいしか技がないんで、反対の人が攻撃したら、その選手はもちろんセコンドも「バカヤロー！」って言って、倒れたら「起きろー！」を連発して、フォールを返したら今度は「起きろー！ 起きろー！」を連発するみたいな。

——スパーリングでも試合でも闘ってる者以外の人も常に声を出すのが基本なんですね。

京子 よく「声を出せ！」とか言われるんだけど、なんて言っていいかわからないんで、見よう見まねで「バカヤロー！」になったんじゃないかな。まあ、「バカヤロー！」っていうのは間違ってはいないと思うけど（笑）。

——まあ、闘っているときは、だいたい〝バカヤロー！〟モードでしょうし。

京子 怒るときは「バカヤロー！」だからね（笑）。なんか本当におもしろいテーマだね。さすが『kamipro』！

——いえいえ（笑）。でも、女子プロの選手って、その延長でプライベートでも「バカヤロー！」とか言っちゃわないのかなって思うんですけど（笑）。

京子 いや〜、私はプライベートでも「バカヤロー！」は言わないなあ。

——豊田さんにプライベートであのテンションで「バカヤロー！」って怒られたら本当に怖いですけど（笑）。

京子 友だちいなくなっちゃうよね（笑）。でも、女子プロレスって声を出してナンボみたいなところがあるじゃない？ 男子の選手だったら寝技をしているときとかには、筋肉とか肉体で魅せられると思うんだけど、女子の場合には寝技で動きが止まってるときに筋肉とかがないんで何も魅せられないっていうのがあるんだよね。

——あ〜、それはあるかもしれないですね。

京子 誤魔化すっていうわけじゃないけど、観ていて寂しいんでそこで声を出すみたいな。「ギブアップしろ！ ギブアップしろ！」って感じで、女子は何回も聞くじゃない？

——確かに、男子以上にアピールしますよね。

京子 それは教わったわけじゃないんだけど、やっぱり、黙っていても男子は絵になるじゃない？ 逆エビでも太い腕でグッて絞れば絵になるけど、女子は普通に逆エビしていてもつまらないから「ギブアップ？ ギブアップ？」って何回も聞く、みたいな（笑）。女子が男子以上に声を出すのって、そういうのもあるんじゃないかな。

——男子プロレスとの差別化って意味合いもあるんでしょうね。

京子 そうそう。そういう意味で、私は同じプロレスでも全然違うなあって思うんだよね。

——その女子プロレス界の中でも京子さんが育った全女っていうのは世界のどこにもない、独特のスタイルだってよく言われますよね。

京子 あんな独特なところないよ。もう、どれだけ反発したことか。ホント〝バカヤロー！〟の世界だよ（笑）。

——うまくまとめていただきありがとうございました（笑）。〝ママでも世界チャンピオン〟ということで、今後の活躍も期待してます！

【08年5月6日／都内某所にて収録】

全女？ あんな独特なところないよ。ホント〝バカヤロー！〟の世界だよ（笑）



いのうえ・きょうこ■1969年4月22日、山形県出身。幼少の頃から父親からのスポーツ英才教育を受け、全日本女子プロレスに入団。88年10月の井上貴子戦でデビュー。その後は数々のベルトを獲得し、97年にネオレディース（現NEO）に移籍。07年11月に男児を出産、今年5月5日の後楽園大会で松尾永遠を下し2冠王者に輝く。166cm、100kg。

プロレスに効果音は必要か?



で、結局のところ プロレスには効果音は必要なの? バトルトーク

今回の「プロレスに効果音は必要なのか?」企画の最後は、元プロレス専門誌記者のX氏、プロレス&格闘技系のフリーライターY氏、スポーツ新聞でプロレス担当をしていたZ氏という"パンッ!"事情(?)に詳しい業界関係者3名に集まってもらい、「で、結局のところプロレスには効果音は必要なの?」というテーマで、好き勝手に語ってもらいました。どうぞ!

X でも今回、わりと思い切った企画をしたよね、『kami-pro』も。

Y そうだよね。いままで暴露本系で流血の仕組みや「ガチだヤオだ」っていうのは書かれたことは何度かあったけど、〝パンッ!〟っていうのをクローズアップした専門誌はなかったんじゃない?

Z まあ、自分はスポーツ新聞のプロレス担当をやってるんだけど、いかにも〝パンッ!〟っていう写真はよくあるんだよ。でも、自主規制ってことで、そういう写真はセレクトしないからね。

X へぇ〜、いろいろと気を遣ってるんだね(笑)。

Y いまはなくなった某プロレス専門誌でも、一応、タブーだったみたいだよ。それこそ池田大輔が言ってるような大腿部を叩いてる写真、あとは、なぜか自分の胸を叩いてるものとか、相手の背中を叩いている不自然な写真は使わないようにしてたんだって。

Z でも、気にして観てみると、最近のプロレス専門誌には、それっぽい写真はけっこう載ってるんだよね。なんか、そういう写真を見ると、こっちが気まずい思いをしちゃうんだけど(笑)。

X おいおい、専門誌って、いまはあそこしかないからバレバレだろ!

Y いや、『kami-pro』にもよく登場しているGKの『Gリング』や、そのライバルの『Gスピリット』なんかもあるだろ。

X あ、そうだった(笑)。

Z でも、いわゆる〝パンッ!〟って、いつぐらいからやるようになったんだろう?

X それこそ、昭和の時代のプロレスでは、いまみたいに目立たなかった気がするんだけど。豊登の〝カッポン〟はべつとして(笑)。

Y わりと最近のテクニックなんじゃない?

Z でもテクニックって言っていいのかな。

X まあ、TAJIRIなんかも「トリプルHの鼻に打つパンチは相手の2ミリ手前で止まる」なんて言ってるし、説得力さえあれば、それもテクニックの一つって言えるんじゃないかな?

Y グレート・カブキのアッパーカットなんかも、ちっちゃい頃はよくマネしたもんなぁ。なかなか、カブキのように、いい音が出なくて、毒霧以上に謎だったんだけど(笑)。

X でも、プロレスファン歴の長い人のプロレスごっこって、ヒザとか胸とか叩いて、それこそ〝パンッ!〟をやったりするよね。

Z そうそう。ストンピングとか、反対側の足で音を出しつつ、ヒザを叩いたりだとか。

X バックステージで選手同士が話をしてたのを聞いてたら「この素材は、いい音するよ!」って言ってて、「へぇ〜」って感心したこともある(笑)。

Z そう言われると、〝パンッ!〟をよくするイメージが強い選手は同じような素材のタイツを穿いてる気がするなぁ。

Y 俺が某選手に聞いたのは、その選手はトラースキックとか低空ドロップキックとかで〝パンッ!〟するみたいなんだけど、やっぱりタイミングよく〝パンッ!〟が決まったら、お客さんも沸くし、自分でも「決まったぜ!」って満足するらしいよ。

X そうやって自然な感じで決まればいいんだけど、なんか時間差で〝パンッ!〟って聞こえたり、ぶっちゃけ、当たってもいないのに音がしたりするときって、けっこうあるでしょ?

Z あるある。さっきも言ったけど、「アチャー!」って、観てるこっちが気まずくなるよね。

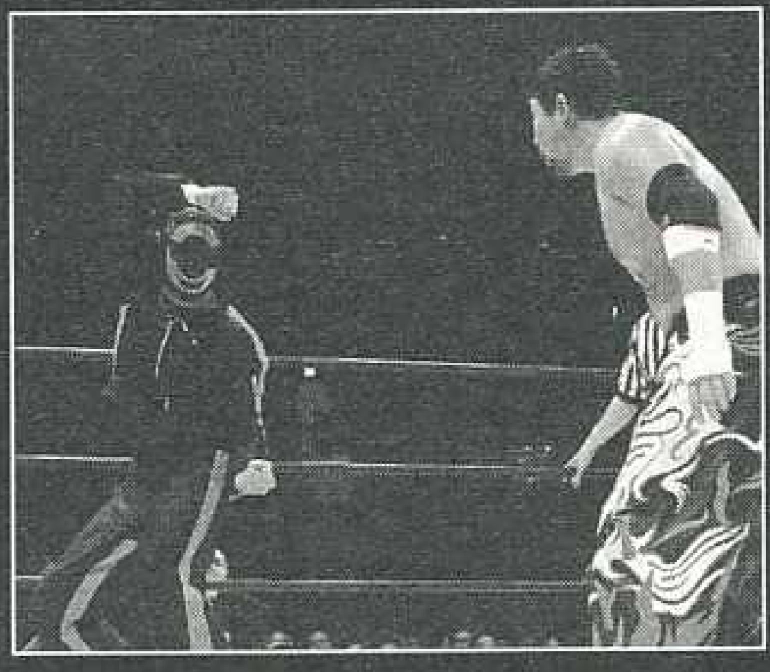
Y 気まずいのはわかるけど、「アチャー!」って、おまえはターザンか!

X でも、某団体のファンサイトでは〝パンッ!〟の存在を最近知ったファンが「そういうことをする団体もあるみたいだけど、○○はそんなことをする選手はいない」って、かなり熱くなってて、ほかの人から一斉にツッコミを受けてたけど(笑)。

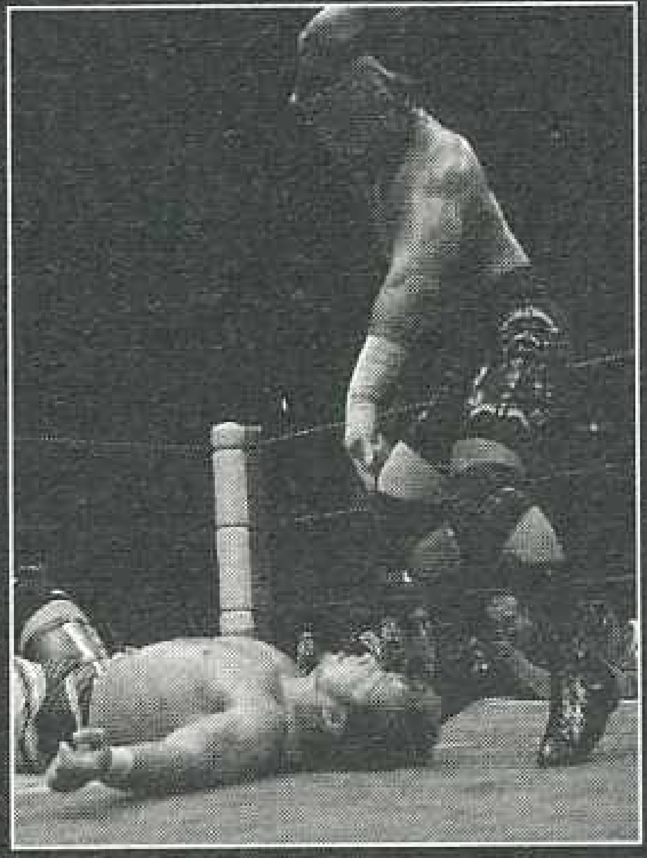
〜プロレスにおける効果音の一例〜



大会の締めとして、さまざまな団体が取り入れているのが"キメポーズ"。「3、2、1、ゼロ、ワ〜ン!」や、腰をグラインドさせてのトルネードハッスルなど破壊王は何をやらせても最高!



モンスター°Cの身体を「C」の字にしての攻撃に場内からは「C!」コールの大合唱。対戦相手がモンスターKの場合は「K!」と掛け声をかけるのが『ハッスル』のお約束。



いまやすっかり騙されキャラとなった感のある天山だが、チョップを放つ際の「シュ〜!」との雄叫びに観客も呼応し、「シュ〜! シュ〜!」とレスポンスするのは数年前から定番ムーブ。



場外乱闘の際の定番シャウト、ZERO1・MAXのオッキー沖田の「危ないですから、下がってくださいッ!!」などなど、やはりプロレスにおけるリングアナの存在は重要なのだ!

Z やっぱり、〝○○だけはガチ〟なんだ(笑)。でも、カンフー映画とかに出てる役者さんとかは、そういう〝パンッ!〟もテクニックの一つとして身につけてるって言うけどね。

X へぇ〜、そうなんだ。じゃあ、このあいだ、『ハッスル』に出てた、あの人なんかも?

Y 『ハッスル』に出てたカンフーくんは、まだ8歳だし、棒術とかバク宙は披露してたけど〝パンッ!〟なんてやる場面はなかっただろ!

Z じゃあ、このあいだ香港にカンフー修行に行った中邑真輔の特訓目的もやっぱり……?

Y あれは、ただのサムライTVの企画! まあ、中邑はジャッキー・チェン好きっていうのもあったみたいだけど、〝パンッ!〟修得が目的じゃないだろ。

X でも、さすがに総合の試合では〝パンッ!〟やる選手っていないよね?

Y あたりまえだろ!

Z 逆に総合で〝パンッ!〟をやってくれる選手がいたら、リアルプロレスラーって呼んであげたいよ(笑)。

Y なんでだよ! でも、池田みたいに、自分のキックに自信を持ってる選手が「自分で音を出すようなキックと一緒にされたくない」って気持ちはわかるよね。違いがわからない人からすれば、いい音がするキックのほうが威力がありそうに見えるし。

X まあでも、わからない程度にやるのはありだと思うけど、バレバレなのは確かに興ざめするよなぁ。

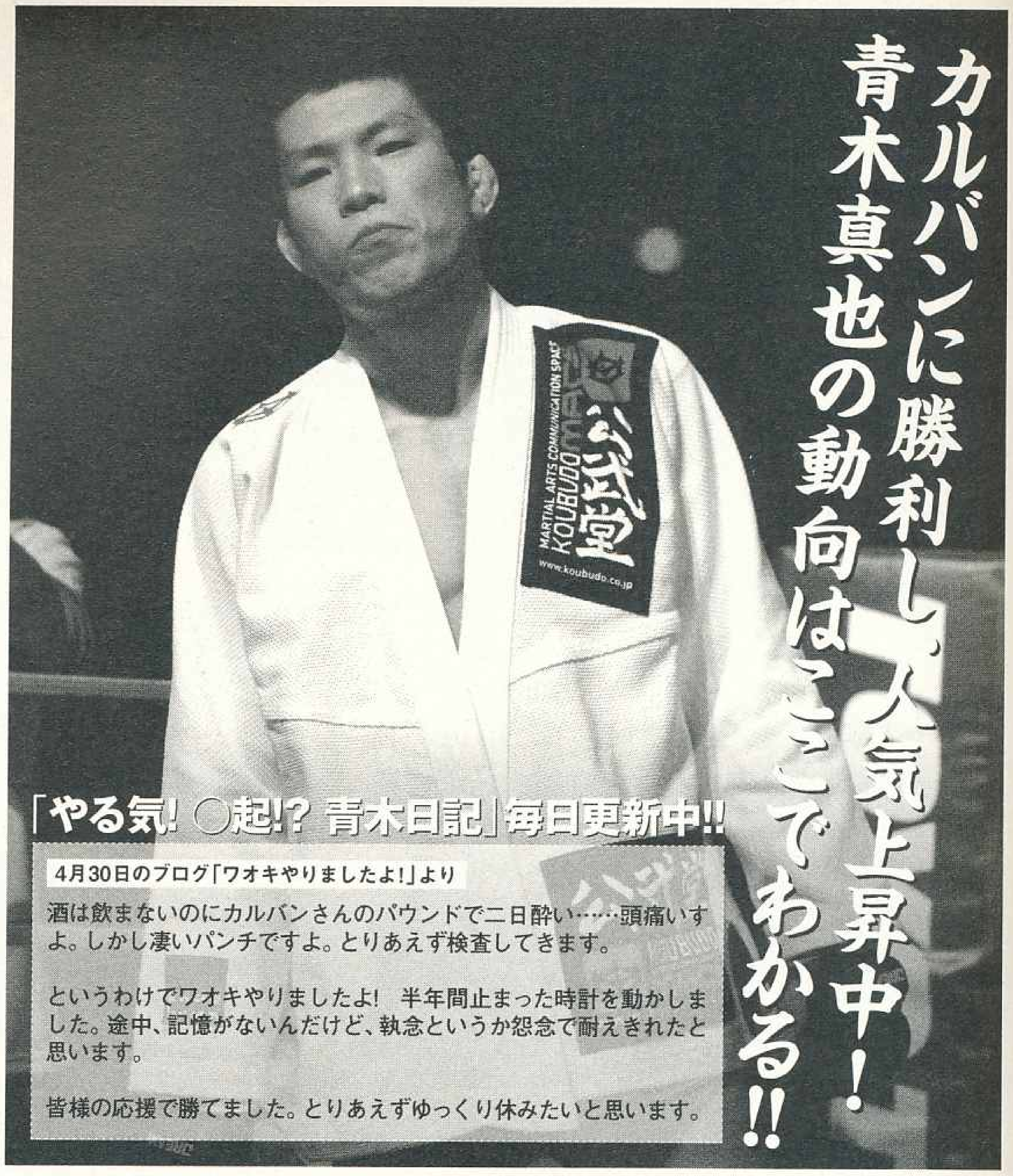
Z たとえるなら、それほど感じてないのに喘ぎ声を出す女の子と、メチャメチャ感じてるんだけども、あまり声は出さないタイプの女の子とでもいうか……。

X (さえぎって)意味わかんねえよ! この、バッカヤローーーーッ!(豊田真奈美ばりの甲高い声で)。

【08年5月10日/都内某所にて収録】

kamiproの携帯サイト

kamipro Hand



カルバンに勝利し、人気上昇中！青木真也の動向はここでわかる!!

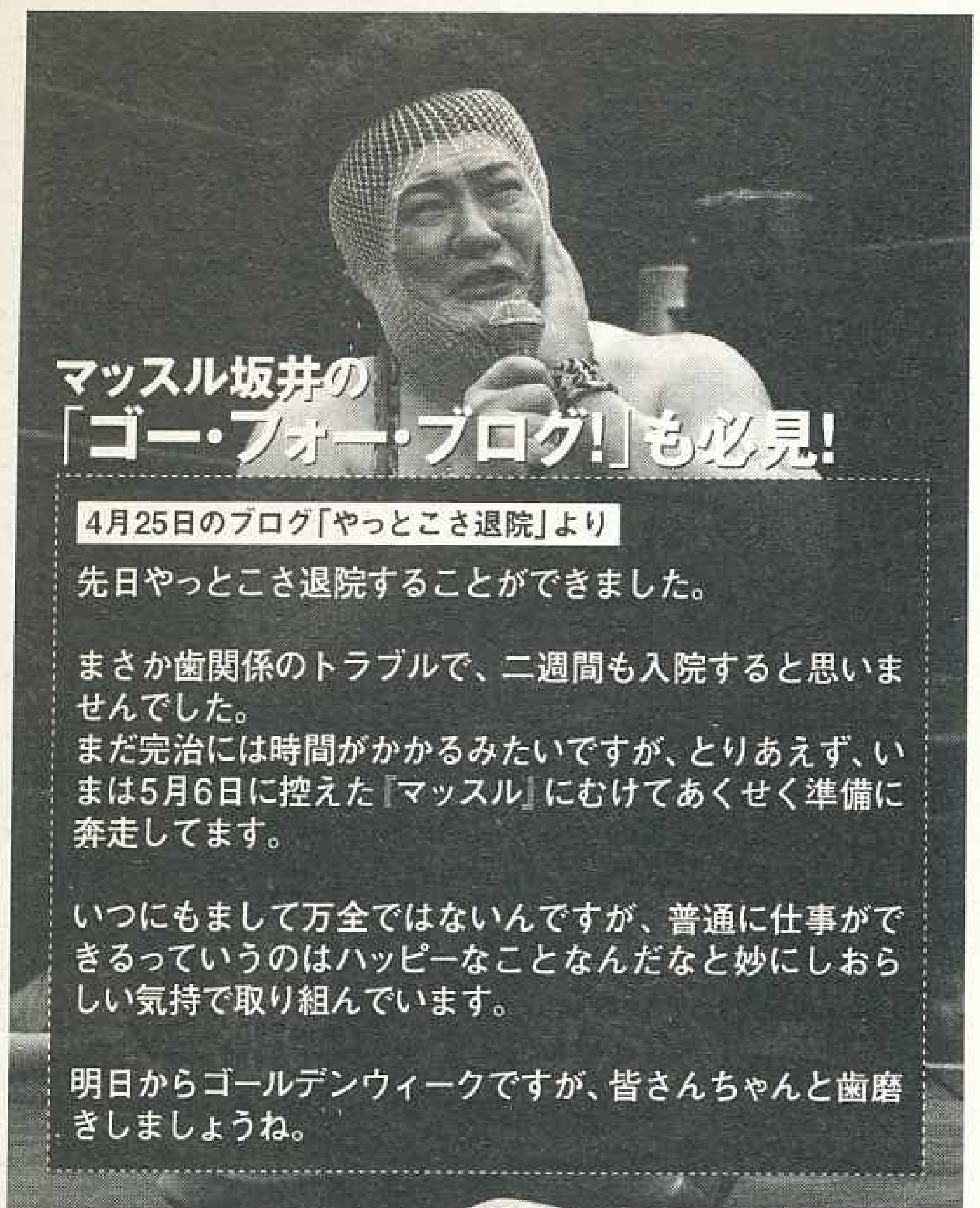
「やる気！〇起!? 青木日記」毎日更新中!!

4月30日のブログ「ワオキやりましたよ！」より

酒は飲まないのにカルバンさんのパウンドで二日酔い……頭痛いすよ。しかし凄いパンチですよ。とりあえず検査してきます。

というわけでワオキやりましたよ！ 半年間止まった時計を動かしました。途中、記憶がないんだけど、執念というか怨念で耐えきれたと思います。

皆様の応援で勝てました。とりあえずゆっくり休みたいと思います。



マッスル坂井の「ゴー・フォー・ブログ！」も必見！

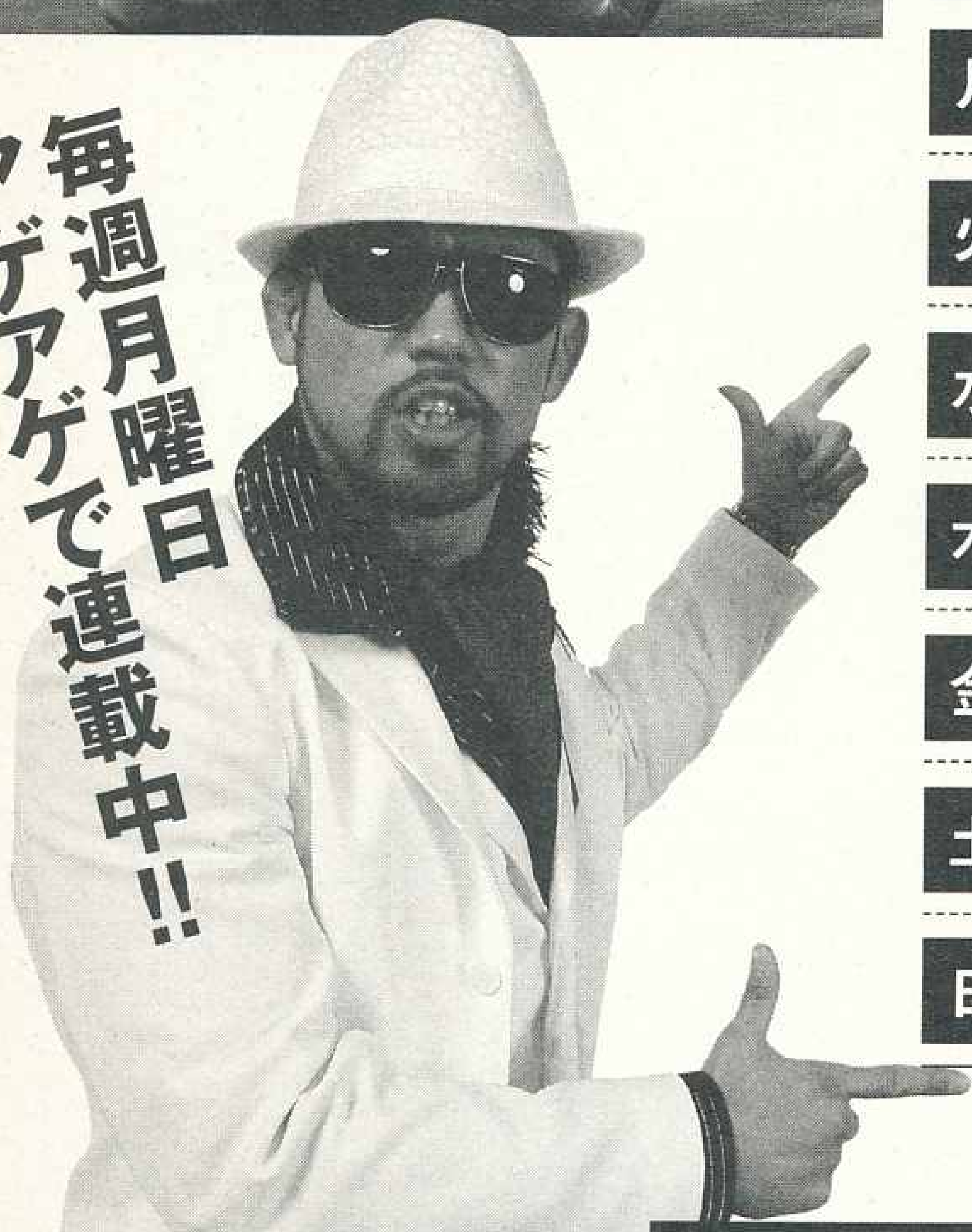
4月25日のブログ「やっとこさ退院」より

先日やっとこさ退院することができました。

まさか歯関係のトラブルで、二週間も入院すると思いませんでした。
まだ完治には時間がかかるみたいですが、とりあえず、いまは5月6日に控えた『マッスル』にむけてあくせく準備に奔走してます。

いつにもまして万全ではないんですが、普通に仕事ができるっていうのはハッピーなことなんだなと妙にしおらしい気持で取り組んでいます。

明日からゴールデンウィークですが、皆さんちゃんと歯磨きしましょうね。



毎週月曜日アゲアゲで連載中!!

最狂布陣の連載コラムはコチラ!!

月 "マット界随一の文豪"がついに参戦!!
"DJ GOZMA"郷野聡寛の『MONDAY NIGHT FEVER』

火 毎週のニュースを独断と偏見でランキング！
ニュース特選！『kami の一週間』

水 マニア格闘技の真髄を読め！
橋本宗洋の『格闘裏グルメ』

木 アメリカMMA事情を週イチでお届け
デューク東郷の『USA Cool 宅急便モバイル』

金 "プロレス冒険家"がマット界を斬る！
金沢"GK"克彦の『こちらプロレス村役場』

土 マット界の事件を徹底追求！
kamipro事件簿

日 インディー界をぶった斬る！
プロレスキャスター三田佐代子の『サムライな日々』

大会、会見も即日速報！ 編集部員の日替わりkamiblogも必見!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス
3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶ メニュー／検索 ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶ ※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au	トップメニュー ▶ カテゴリ検索 ▶ スポーツ・レジャー ▶ 格闘技 ▶
Soft bank	メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶ / エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

[お問い合わせ]（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1795

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

「あしたのために、その1」と言われて取っ組み合いのケンカが始まってもしょうがないご時世ですが、皆さまいかがおすごしでしょうか? でも、たまには人の言うことも聞いてみようと改心すると、逆にドツボにハマる小島家のようになるので、久子の言うことにだけは気をつけましょう! それでは今号もスタート! 3、2、1、力石、力石、う~、岡倉家!(出現)。

kamipro122号へのお便り紹介

『HERO'S』検証の企画がおもしろかった。宇野薫選手のファンの私としては、いろいろな是非はありますが、おもしろかったと思います。DREAMでも頑張ってもらいたいです。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・34歳】

↓なんと意外なことに、『HERO'S』企画が『kamipro』No.122の人気企画ランキングで1位に君臨! まさか、"エロい" or "エロくない" が『HERO'S』を考える上で重要なポイントだったとは……。勉強になります!

ミノワマン×須藤元気の対談がおもしろかった。いち男として巨乳好きのミノワマン選手の話や、須藤元気さんの話を受けたミノワマン選手の天然の返しがたまらなかったです。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・28歳】

↓「それ、本で読んだんですか?」というミノワマンの素朴なツッコミといい、須藤元気のはしゃぎっぷりといい、意外(?)にもスイングしまくったこの対談。今号には元気対談第2弾・青木真也編が掲載されていまーす。

K-1の記事がよかったです。読んでいて、早く7月7日(月)になってほしくなったから。将来、HIROYA選手vs藤選手のリマッチも観たいなと思いました。
【福井県・大平一さん・無職・30歳】

↓7・7K-1MAXでは、まだK-1ワールドユースのカードは未発表ですが、『kamipro Special』掲載の紀左衛門インタビューでは「『kamipro』さんからも、ボクをプッシュしてくださいよ~」と猛アピール。K-1甲子園は年齢的にアウトですが、こっちには出られるんでしょうか?

宮戸優光インタビューは目からウロコでした。「シュート・ワーク論」「真剣勝負論」——。我々すれっからしのプロレスファンは冷水をかけられたような気がします。金ちゃんのコラムにもありましたが、「いまの世の中、宮戸優光が足りない」! 田村vs船木戦も心して観戦します。
【神奈川県・廣木和宣さん・会社員・34歳】



↓私のようなPRIDEから観始めた人間からすると、宮戸氏のインタビューはズバリ言ってめちゃくちゃ勉強になりました! ーI編集長的な感じにも見えたのは気のせいでしょーか?

もくじの船木のイラストは本当に怖いよ~。うわ~ん。メガネを描き足すと、若かりし頃の故・I編集長に似ていてあら不思議。
【宮城県・壽柴さん・社内ホームレス・37歳】

↓もくじを描いてくださっているみのもけんじ先生は、昔のプロレスはもちろん、ちゃんとDREAMも押さえているそうです。というわけで、今号は「3、2、1、ワニ! ワニ!!」のホナウド・ジャカレイです!

木村浩一郎のインタビューがよかった。いま、このタイミングで木村浩一郎とは! 『kamipro』サイコー! しかしこの人、幻想が膨らむなあ。もう一度、MMAの世界で観たい。
【三重県・ボルタレンさん・会社員・34歳】

↓前回の若林太郎氏に続き、またまたリングス秘話が炸裂! リングス話も興味深いですが、ご本人の人生にも驚きです。



煽りVとは何か? 企画を読んで、その功罪を考えさせられました。あらためて考えてみると、いまやゴルフや陸上競技にまで同じ手法を使ってますね。NHKの大相撲中継で佐藤&立木コンビで「朝青龍vs白鵬」の煽りVが観られたら楽しそうです。
【栃木県・稲葉修さん・会社員・35歳】

↓確かに、大相撲に煽りVがついたらとんでもない! でも、朝青龍vs白鵬の煽りV&試合はDREAMで観るのもいいかも? んあ~。

井上譲二さんインタビューがよかった。いままで知らなかったI編集長の人柄が、そして井上氏のI編集長に対する思いが伝わった感動もののインタビューでした。
【福島県・長谷川隆さん・会社員・44歳】

↓それと同時に、ターザンに対する恨みつらみが伝わってくるインタビューでした。それにしても、I編集長が胸に秘めた恋話があったとは! ある意味、安心です。

永田裕志×克彦の永田兄弟対談が最高でした。さすが裕志兄さんは克彦さんの試合がダイジェストだったのを不満に思っていたのですね。見事な兄弟愛を感じましたよ。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・41歳】

↓青木真也、『DREAM・3』欠場に対するご兄弟のコメントはサイコー! 今年の大晦日は、ぜひ青木真也vs永田裕志でお願いしますっ!?





122号・おもしろかった記事ランキング

1位	検証・HERO'S
2位	宮戸優光
3位	ミノワマン×須藤元気
4位	K-1ワールドユース特集
5位	木村浩一郎

なんと『kamipro』では珍しく『HERO'S』企画がトップに君臨! "変態"座談会から前田日明語録まで、盛りだくさんでお送りしました~。続く第2位は「真剣勝負とは何か?」を語った宮戸優光大先生のインタビュー。異色の顔合わせとなったミノワマン×須藤元気は3位にランクインしました。そしてそして、大注目のHIROYAvs藤ツカサ戦特集は4位に! さすがです!

徹底解剖HIROYAvs藤門嘩裟がおもしろかったです。自分とたいして歳が変わらないのに、本当に凄いと思いました。
【広島県・岡部怜央さん・学生・16歳】

広島県出身でこの投稿内容ということは、HIROYAvs藤つかさ戦は会場に行かれたのでしょうか? 青木真也vsJZカルバン並の延期となったこの一戦、ズバリ編集部視聴率100パーセント!

谷川さんのインタビューが凄く気になった。ミドル級GPについて話しているところで、「一番大きなきっかけになると思うのは、●●●●●●●●●●ことじゃないかなあ」って、●が多すぎてわかりませんよ!
【福岡県・まる地獄さん・会社員・22歳】

申し訳ありませんが、一生懸命考えてください。

僕は『HERO'S』検証の企画がおもしろかったと思います。ベスト50を見ていると、やっぱりヤマヨシが目立つなと思いました。PRIDEベスト100のときもそうでしたが、ヤマヨシはどこにいっても素晴らしいと思います。DREAMか『戦極』でも頑張ってほしいと思います。
【埼玉県・匿名希望さん】

PRIDEベスト100と同様、小さいカコミで山本宜久ベスト5をやろうと思ったんですが、なんとベスト50の中にすべて収まってしまいました~。今後のファイター人生にもぜひ期待したいと思います!

サスケのインタビューはいつもサイコーです。どうやったらあんなにインチキ臭くできるのかが不思議なくらいです。でも、サスケの周りにいる人って、いろんな意味で大物ぞろいですよねえ。凄いけど、見習いたくはないと思います!
【北海道・じゃがいもさん・会社員・35歳】

確かにサスケさんは素晴らしいと思います。でも、個人的にはUFOの話をしているサスケさんが最も輝いていると思います。もしくは移動パスタ屋的なことも素敵です。



大阪府・剣洋人さん↓誰のイラストなのか無記入でしたが、それは読者の皆さまのご想像にお任せしまーす!



読者ページのヒーロー
森嶋猛の大応援コーナー
紙の森嶋

GHC王座獲得で調子づいた我らが森嶋だったが、グローバルタッグリーグ戦'08ではなんと勝ち点8と、なかなか振るわずに終了――。これはなんとも難しい局面になってきた。……しかしっ!! 森嶋にはそんなことで落ち込んでいるヒマはない! 6月14日の横浜大会で杉浦貴と初の防衛戦を闘うのである! これを受け、森嶋は「タッグとシングルは違う」と吐き捨て、「一日何試合でも防衛戦をやる覚悟はできている!」と貫禄のコメントを言い放ったというではないか。次の『kamipro』で結果をご報告できるかどうかわからないが、とにかく6月も森嶋を応援しよう!



神奈川県・亜衣さん➡5.18『戦極』にてジェフ・モンソン戦が決定〜ッ! ホワタッ!!



福岡県・江本洋さん➡青木選手には見えませんが、一生懸命描いてくださってありがとうございます。

スクープ! ザ・目撃!!



●難波でカリム・バイロンさんを見ました。『kamipro』のインタビューのときにかぶってたニット帽姿だたので、すぐにわかりました! しかも、インタビューでは語られなかった日本人の小柄な女性と一緒でした。もしや彼女かと思ったのですが……、バイロンさんの記事をアンケートの"つまらない記事"に挙げてハガキを送ってしまったので後ろめたくて声をかけられませんでした。惜しいことをしましたぁ。
【大阪府・おやびんびんさん・25歳】

●先日行なわれた『DREAM.2』で『ハッスル』でおなじみのジャイアント・バボを見かけました。なにやら女性と一緒だったようですが、おやつを買い込んで会場の中に向かっていました。ちなみに、ボクは『DREAM.1』の会場でもジャイアント・バボを見かけました。参戦するのかわかりませんが、「ハッスル・エイド」では頑張ってほしいと思います。
【kamipro Hand投稿】

●ゴールデンウィークに岐阜にキャンプに行ったときのことですが、なんと「所クリーニング」という名前のクリーニング店を何件も発見しました! これはほかならぬ所英男の実家が営む「所クリーニング」だと思うのですが……。それにしても、意外にも手広くやってるなと感心しました。商売繁盛で何よりです。
【kamipro Hand投稿】

●先日、大阪は道頓堀で、ジョシュ・バーネット選手を発見しました! ジョシュは白人女性と一緒に歩いていたのですが、あれはいったい誰だったんでしょうか? 凄く気になりましたが、なんとなく声はかけませんでした。5.18『戦極』は頑張ってほしいと思います。
【kamipro Hand投稿】

衝撃ショット!!

『kamipro.com』ポッドキャストの収録中になんとRGが編集部に乱入!

『kamipro.com』で絶賛配信中のポッドキャスト収録中に、なんと『ハッスル』のやられキャラでおなじみ、RGさんが突然乱入! この回のゲストで『ハッスル』情報通ライターの八木賢太郎さんは、このサプライズに本気でビックリ。子どものようにキュンとした目でRGさんを見つめていたみたいです〜。というわけで、詳しくはポッドキャストをお聴きくださーい。ちなみに、写真は収録語に編集部で撮影したものです。





さあ、明るい未来への列車に乗ろう!
上井駅長の人生相談

さあ、駅長相談の時間がやってまいりました。今回は子育て真っ最中のお母さんからのお悩みが届いているようですね。異色の質問ですが、上井さんにバシッと答えていただきましょう! それではスタート!!

子どもの反抗期がヒドすぎます!

お悩みごと

■子育てに関するお悩み
(玉県・ようちゃんママさん・30歳・主婦・♀)

6歳になる息子がいます。この子が反抗期でたいへん困っています。一度怒り出すと、暴れまくり、私が大切にしていた柴田勝頼選手のプロレスのビデオとかも全部破壊してしまうような勢いなのです。上井さんにこんなことを相談するのもなんですが、反抗期の子どもの怒りを鎮める場合ってどうしたらいいんでしょうか? また、上井さんの子育て論なんかがありましたら、ぜひ教えてください!

上井駅長

いやあ、でも男の子はそのくらい元気があってちょうどいいんじゃないの? ボクはそう思いますけどねえ。でもね、しつけって難しいと思うんですけど、やっぱり怒るだけじゃダメだと思うんですよ。怒るんじゃなくて、叱るということが大事。いまは子どもを叱れない親が多いから、将来的に家庭内暴力とかになると思うんだよね。そう、怒るのは誰だってできることだから、ちゃんと叱ることで子どもを正しい道に行かせるのがいいと思うんだよね。だから、たとえばお父さんが凄く厳しくて、お母さんが優しいとか、そういうアメとムチじゃないけど、バランスですよ。そうやって育てるのが、ボクは理想的だと思います。

ボク? ボクは子どもの面倒とか見るのは凄く飽きると思うなあ(苦笑)。だって、子どもって同じことを飽きずに何回も何回も繰り返したりするでしょう。まあ、大人はそういうのを辛抱しないといけないんだろうとは思うんだけどねえ。それに、ボクは叱ったりできないと思うなあ(笑)。

あ! そういえば、最近こんなことを聞いたんですけど、子どもの脳って、5歳までは本当に柔軟でいろんな可能性を秘めてるらしいですよ。凄いよね! お悩みを送ってくれた方は6歳の息子さんということだけど、この頃の環境というのは本当に大事なんだから、親の立場にある人は、そういうことをちゃんとわかってたほうがいいと思いますね。

でも、こんな悩みがあるのは、息子さんが順調に育っている証拠なんじゃないですか? これは嬉しい悩みですよ! うん!

ママさん、おわかりになりましたでしょうか? 反抗期は順調に育っている証拠だそうです! なので、残念ですが、プロレスのビデオはあきらめましょう〜。

※人生相談ドシドシ送ってください! また、悩みが解決した人もぜひ結果をご報告ください!!

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください! ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう! お便り、お待ちしています!

こんな情報お待ちしています!

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは

radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「要求メール」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

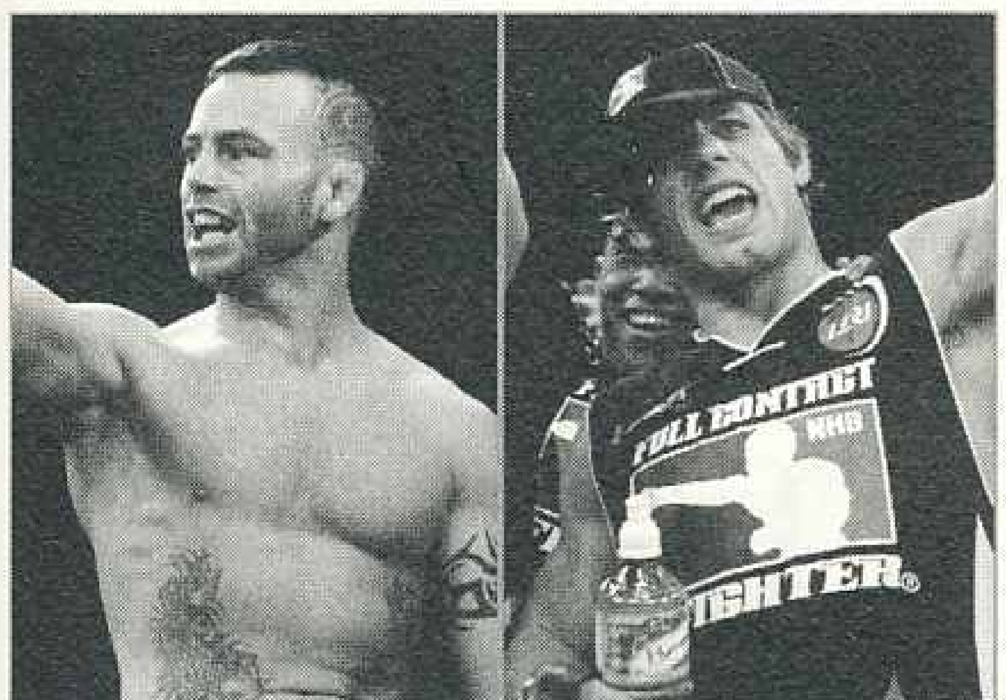
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event June 6

1 SUN.

カリフォルニア・キッドとパルヴァーが激突!
前田吉朗がタイトルマッチに挑戦!!



『WORLD EXTREME CAGEFIGHTING Faber vs Pulver』
米国カリフォルニア州、サクラメント・アルコアリーナ

決定対戦カード
【WEC世界フェザー級タイトルマッチ】
(王者)ユライア・フェイバー vs ジェンス・パルバー(挑戦者)
【WEC世界バンタム級タイトルマッチ】
(王者)ミゲール・トーレス vs 前田吉朗(挑戦者)

◆新日本/東京・後楽園ホール(18:30)
◆NOAH/北海道・北海道立総合体育館(17:00)
◆DRAGON GATE/愛媛・テクスポート今治(17:00)
◆DRADITION/大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆DDT/東京・新宿FACE(13:00)
◆バトラーツ/東京・北千住シアター(18:00)
◆大阪/京都・KBSホール(15:00)
◆パンクラス/東京・後楽園ホール(12:00)
◆DEEP/イベントプラザ富山(16:00)
◆NEO/北海道・小樽市民会館(17:00)
◆J-NETWORK/東京・ディファ有明(16:00)

2 MON.

◆NEO/北海道・旭川市地場産業振興センター(18:30)

3 TUE.

◆NEO/北海道・伊達市体育館(18:30)

4 WED.

◆新日本/富山・富山産業展示館テクノホール(18:30)
◆NEO/北海道・函館市民体育館(18:30)
◆WAVE/東京・新木場1stRING(19:00)

25 SUN.

◆全日本/兵庫・神戸サンボーホール(17:00)
◆DRAGON GATE/静岡・アクトシティ浜松(18:00)
◆ZERO1・MAX/愛知・テレピアホール(18:00)
◆大日本&El Dorado合同興行/愛知・中村スポーツセンター(12:00)
◆DDT/愛知・中村スポーツセンター(17:00)
◆大阪/大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆IWAジャパン/東京・新宿FACE(12:00&18:30)
◆パンクラス/大阪・アゼリア大正(16:00)
◆修斗/北海道・Zepp SAPPORO(15:00)
◆新日本キック/東京・後楽園ホール(17:00)
◆WAVE/東京・新木場1stRING(18:00)

26 MON.

◆新日本/東京・Zepp Tokyo(19:00)
◆NOAH/青森・青森産業会館(18:30)

27 TUE.

◆新日本/東京・Zepp Tokyo(19:00)
◆NOAH/北海道・函館市民体育館(18:30)
◆NEO/北海道・北見市立体育センター(18:30)

28 WED.

◆SEM/北海道・札幌コンカリーニョ(19:00)
◆シュートボクシング/東京・後楽園ホール(18:00)
◆NEO/北海道・釧路市慣行国際交流センター(18:30)

29 THU.

◆ZERO1・MAX/東京・後楽園ホール(19:00)
◆NEO/北海道・静内ウエリントンホテル(18:30)

30 FRI.

◆NOAH/北海道・釧路市コミュニティ体育館(18:00)
◆El Dorado/東京・新宿FACE(19:00)
◆VKF/大阪・アゼリア大正(19:00)
◆NEO/北海道・札幌テイセンホール(18:30)

31 SAT.

◆ELITE XC/米国ニュージャージー州、ニューアーク・プルデンシャルセンター
◆新日本/埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館(18:30)
◆ドラディション/岐阜・岐阜商工会議所(18:30)
◆DRAGON GATE/兵庫・神戸サンボーホール(18:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆大阪・大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆全日本キック/東京・新宿FACE(18:00)
◆NEO/北海道・共和町民センター(18:00)
◆LLPW/東京・後楽園ホール(18:30)

Fight & Event May 5

22 THU.

◆ZERO1・MAX/鹿児島・大口市総合体育館(18:30)

23 FRI.

◆全日本/山口・柳井市体育館(18:30)
◆NOAH/新潟・新潟市体育館(18:30)
◆ZERO1・MAX/鹿児島・鹿児島市民体育館(18:30)
◆大日本/東京・後楽園ホール(19:00)
◆仙台女子/宮城・Zepp Sendai(19:00)

24 SAT.

インリン様ついに引退!
宇宙一の親子ゲンカ完結!?



『KYORAKU presents ハッスル・エイド2008』
東京・有明コロシアム(17:00)

決定対戦カード
インリン様 vs ボノちゃん、ボブサップ vs 坂田亘
出場予定選手
髙田総統、川田利明、天龍源一郎、HG、RG、TAJIRI
チケット料金
ハッスルVIP=20,000円、RSS=10,000円、S=7,000円、A=5,000円、B=3,000円、こどもB=1,500円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆UFC/米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランドガーデン
◆全日本/岡山・岡山県卸センター(18:30)
◆NOAH/宮城・仙台サンプラザホール(18:00)
◆DRAGON GATE/長野・松本やまびこドーム(18:00)
◆ハードヒット/東京・新木場1stRING(19:00)
◆K-DOJO/千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆大阪/大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆DEEP/東京・新宿FACE(14:00)

20 FRI.

◆みちのく／東京・後楽園ホール（18:30）
◆K-DOJO／大阪・デルフィンアリーナ（18:30）
◆VKF／大阪・アゼリア大正（19:00）

21 SAT.

◆NOAH／英国コベントリー・スカイドーム
◆DRAGON GATE／岐阜・岐阜商工会議所（18:30）
◆K-DOJO／熊本・熊本市流通情報会館（18:30）
◆修斗／東京・新宿FACE（18:00）
◆NEO／東京・板橋区立グリーンホール（18:00）

22 SUN.

◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／長野運動公園総合体育館（17:00）
◆DDT／福岡・博多スターレーン（13:00）
◆K-DOJO／福岡・博多スターレーン（17:00）
◆RIKI OFFICE／大阪・世界館（18:00）
◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明（未定）
◆全日本キック／東京・後楽園ホール（18:00）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（17:00）

23 MON.

◆IGF／北海道・月寒アルファコートドーム（19:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）

24 TUE.

◆全日本／山形・米沢市営体育館（18:30）

25 WED.

◆全日本／山形・酒田市営体育館（18:30）
◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）
◆El Dorado／東京・後楽園ホール（19:00）

26 THU.

◆修斗／東京・北沢タウンホール（未定）

27 FRI.

◆新日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆大日本／北海道・釧路桜ヶ岡青雲台体育館（18:30）
◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai（19:00）

28 SAT.

◆全日本／大阪・大阪府立体育会館（18:00）
◆DRAGON GATE／愛知・テレピアホール（18:00）
◆大日本／北海道・厚岸町社会福祉センター（18:30）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆NEO／東京・板橋区立グリーンホール（18:00）

29 SUN.

◆K-1／福岡・マリンメッセ福岡（未定）
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
◆El Dorado／北海道・札幌テイセンホール（13:00）
◆大日本プロレス／北海道・札幌テイセンホール（17:00）
◆DEEP／愛知・Zepp Nagoya（未定）
◆パンクラス／沖縄・天下一スタジアム（未定）
◆新日本キック／東京・ディファ有明（未定）
◆仙台女子／宮城・色麻町民体育館（15:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（18:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

10 TUE.

◆全日本／東京・後楽園ホール（19:00）

11 WED.

◆東京・新木場1stRING（19:30）

12 THU.

◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）
◆K-DOJO／東京・新宿FACE（19:00）

13 FRI.

◆新日本プロレス／茨城・水戸市民体育館（18:30）
◆DRAGON GATE／山形・山形国際ホテル（18:30）
◆健介オフィス／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）
◆JWP／東京・板橋区立グリーンホール（19:00）

14 SAT.

◆新日本／茨城・霞ヶ浦文化体育会館（18:00）
◆NOAH／神奈川・横浜文化体育館（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆武勇伝／東京・新木場1stRING（18:30）

15 SUN.

ミドル級GPベスト4に残るのは誰だ!?
青木vs永田もついに決着!!



『OLYMPIA DREAM.4 ミドル級グランプリ2008 2nd ROUND』
神奈川・横浜アリーナ（17:00）

決定対戦カード
青木真也 vs 永田克彦
出場予定選手
桜庭和志、田村潔司、ユン・ドンシク、金泰泳、ホナウド・ジャカレイ、ゲガール・ムサシ、ゼルグ"弁慶"ガレシック
チケット料金
VIP＝100,000円、RRS＝30,000円、スタンドA＝17,000円、スタンドA＝7,000円
◎問＝DREAM事務局 03-5775-5065

◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆DRAGON GATE／福井・ウェルサンピア敦賀（17:00）
◆DDT／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／長野・信州プロレスアリーナ（15:00）
◆パワーゲート／大阪・大阪IMPホール（未定）

17 TUE.

◆パンクラス／東京・後楽園ホール（18:30）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

18 WED.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール（19:00）
◆ユニオン／東京・新木場1stRING（19:30）

19 THU.

◆K-1／会場未定（台湾orマカオの予定）
◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール（18:30）

5 THU.

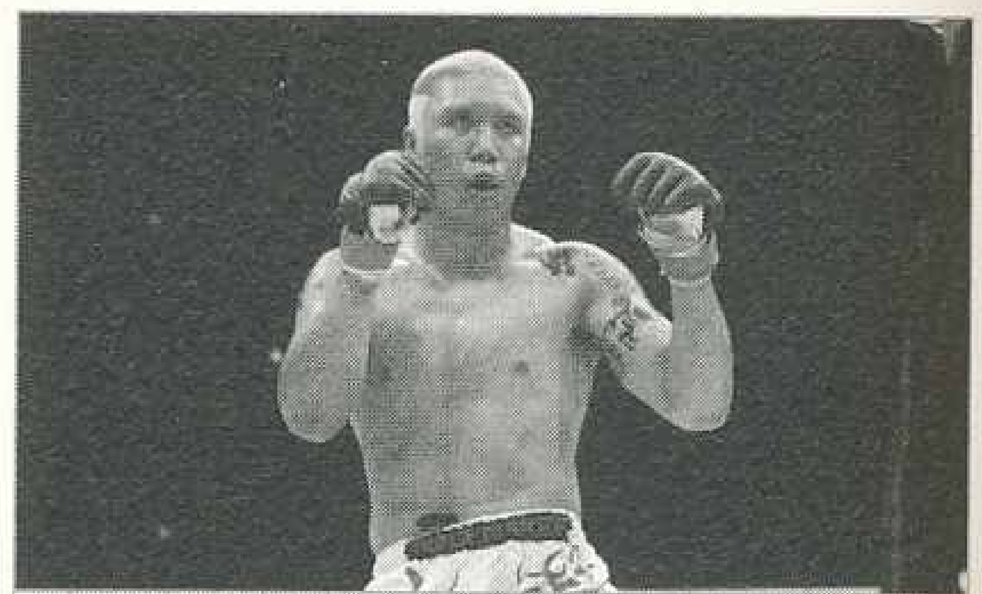
◆新日本プロレス／石川・石川県産業展示場（18:30）
◆DRADITION／東京・後楽園ホール（18:30）

6 FRI.

◆新日本／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
◆DRAGON GATE／大阪・関西テレビ社屋内なんでもアリーナ（18:30）
◆666／東京・新木場1stRING（19:06）

7 SAT.

長南亮の第2戦が決定！
ヴェウドゥムにマーコートも出場!!



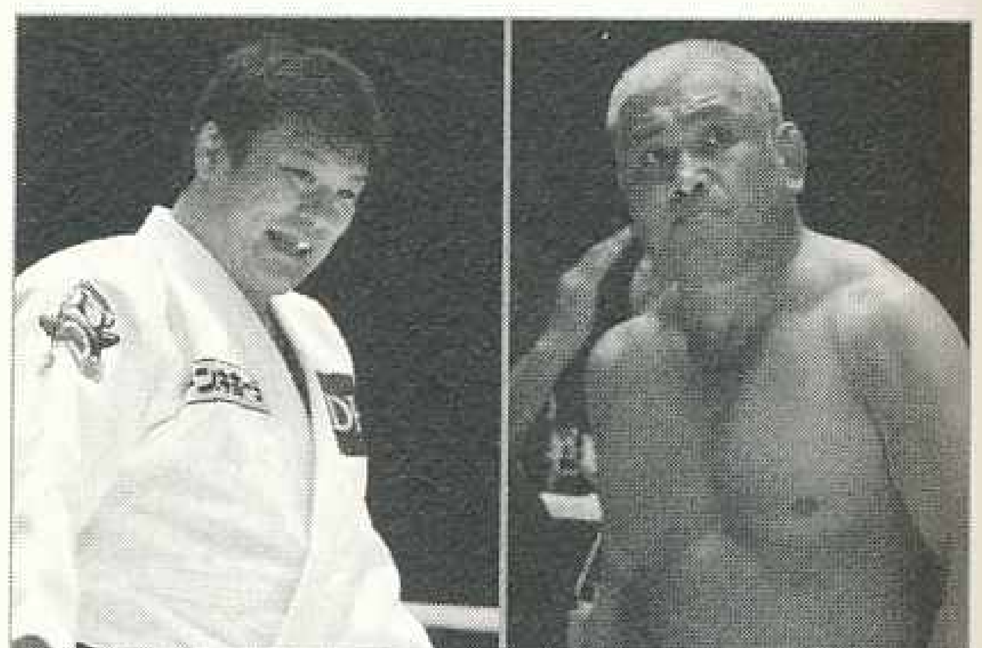
『UFC 85 BEDLAM』
英国ロンドン、O2アリーナ

決定対戦カード
長南亮 vs ホアン・ジュカオン・カルネイロ
ファブリシオ・ヴェウドゥム vs ブランドン・ベラ
ネイサン・マーコート vs ターレス・レイチ
チアゴ・タバレス vs マットウィーマン

◆新日本／広島・広島県立ふくやま産業交流館（18:00）
◆DRAGON GATE／鳥取・鳥取県立鳥取産業体育館（18:30）
◆でら名古屋／愛知・Zepp Nagoya（19:00）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（18:00）

8 SUN.

吉田、藤田が出るぞ！
戦極がたまアリで開催!!



『戦極 ～第三陣～』
埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）

決定対戦カード
ニック・トンプソン vs マイケル・コスタ
出場予定選手
吉田秀彦、藤田和之、ファビオ・シウバ、ホドリゴ・ダム
チケット料金
VIP席＝100,000円、RRS席＝30,000円、戦極シート＝17,000円、S席＝17,000円、A席＝7,000円
◎問＝ワールドビクトリーロード 03-3369-2211

◆新日本／兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
◆DRAGON GATE／香川・高松シンボルタワー（17:00）
◆大日本／埼玉・桂スタジオ（13:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（15:00&19:00）
◆バトラーツ／東京・北千住シアター（18:00）
◆JWP／大阪・アゼリア大正（12:30）
◆OZアカデミー／大阪・アゼリア大正（17:00）

団体INDEX

50音順及び
アルファベット順

Event

タイガーの遺伝子が続々登場!!
リアルジャパンプロレス3周年特別興行開催!



おまえも虎になれ! 6.19リアルジャパンプロレス3周年特別興行で、初代vs四代目のタイガーマスク対決が実現!! また、かつてスーパー・タイガージムに通っていた長井満也、二代目スーパータイガー、"仮面シューター" スーパー・ライダーなど、タイガーの遺伝子を受け継ぐ選手が勢揃い! ダブルメインではバトラーツの黄金カード、石川雄規vsアレクサンダー大塚も実現!! 虎づくしの大会に駆けつけろ!!

★リアルジャパンプロレス3周年特別興行 ★場所/東京・後楽園ホール
★開催日/6月19日(木) 開始18:30 ★問/03-3833-3662

Event

来たれ、若人! K-1甲子園開催!
全国のスポ魂青年よ!! K-1ファイターを目指せ!



大人顔負けの "真剣勝負" の凄みを見せつけたHIROYA vs 藤門嗶裟戦の興奮を全国展開! K-1が今年から10代の高校生たちの頂点を決める大会『K-1甲子園』を大々的に開催!! 6〜8月のあいだに日本全国各地にて地区予選大会を開催し、勝ち抜いた選手は9月の『K-1甲子園トーナメント』への出場権、そしてHIROYAなどK-1 ワールドユース戦士と対戦するチャンスをゲット! 腕に自信のある高校生、目立ちたい人は、いますぐ応募だッ!!

★『K-1甲子園』 ★開催日/6月15日(日) ★場所/大阪市中央体育館
★出場申込期限/5月30日(金)必着 ★参加費用/10,000円 ★問/03-3796-5060

Event

秘蔵映像、豪華ゲストも登場!
総合格闘技トークショー好評につき、第二弾開催!



青木真也、近藤有己、佐伯繁DEEP代表、ゆでたまご嶋田先生など、豪華ゲスト陣を迎えて好評を博した総合格闘技トークイベント『日本総合格闘技大復活祭』の第二弾イベントが決定! 本誌でおなじみの高橋ターヤン、橋本宗洋、高崎計三が司会を務め、豪華ゲストとともに、激レアトークに秘蔵映像、DREAM、『戦極』、UFCの開催直前情報などを熱く語る! 7月に第三弾も決定している好評トークショーに、行けんのか!?

★「格闘秘宝館」 ★出演/高橋ターヤン、橋本宗洋、高崎計三、豪華ゲスト多数
★開催日/6月4日(水)開始19:00 ★会場/新宿ロフト・プラス・ワン ★料金1,500円

Event

若林アナがイベントを開催!!
元全日本プロレス実況の名調子に酔いしれろ!



「プロレスの実況がしたいんです!」本誌121号にも登場した若林健治アナは、プロレスの実況をやりたい一心で、50歳にして日本テレビを退社した筋金入りのプロレス実況バカ。フリーとしてプロレス実況を再開した現在では、失なわれた青春を取り戻すかのように、大仁田厚と生き生きと "新大仁田劇場" を展開中! そんな若林アナがファン・イベントを開催! 名フレーズ満載の名調子をライブで体験すべし!

★「若林フリー健治の胸突き八丁! 十番勝負!!」 ★出演/若林健治、他
★日時/5月26日(月) ★会場/Aasagaya/Loft A ★開始/19:30 ★料金2,500円

Event

プロレスファン爆笑必至!
プロレスネタ満載の漫談ライブを体感せよ!



ドラゴン、ドラゴン、マッチョドラゴン! 芸能界屈指のプロレスファンで、われらがドラゴン、藤波辰爾のモノマネ第一人者のユリオカ超特Qが新宿シアターブラッツで漫談単独ライブを敢行ッ!! (料金:前売り3,000円、当日3500円)。もちろん、今回のライブでもプロレスネタ満載! ドラゴン、金本浩二、中西学をはじめ、幅広いモノマネレパートリーがライブで見られるかも? プロレス&お笑いファンは必見!!

★「90分ノンストップ漫談単独ライブ」ユリオカ超特Q
★開催日/6月14日(土)開始19:00、15日(日)開始14:00&18:00

Event

DVD発売記念イベント実施!!
萌え系空手家・小林由佳のサイン会に集え! 押忍!!



"地上最萌の空手家" がやってくる! 数々の世界大会で優勝し、現在は芸能活動もしている小林由佳 (芦原会館西山道場) が、新作DVD「小林由佳のキセキ」の発売に伴い、渋谷・大盛堂書店駅前店、名古屋・公武堂MACSにてDVD発売記念イベント&サイン会を実施する! 3月に大学を卒業した由佳ちゃんに会えるチャンス! イベントに来場した人には特典のプレゼントもあるぞ! ファンは発売中のDVDもチェック!!

★DVD『小林由佳のキセキ』発売記念イベント&サイン会
★開催日/6月1日(日)開始14:00、6月 7日(土)開始14:00 ★問/03-3360-3810

Dvd

日本で唯一オクタゴン使用!
『CAGE FORCE』の名勝負の数々がDVDに!

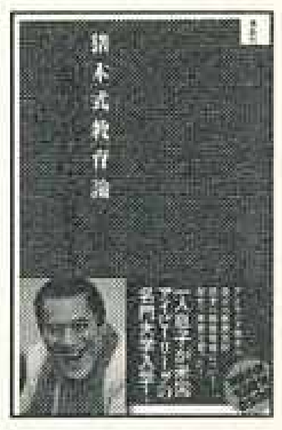


「日本人にケージの経験不足で負けたと言わせたくない!」という思いから、UFCなどが採用する北米MMAレギュレーションに則り、日本で唯一オクタゴンマットを使用する『CAGE FORCE』。2006年11月の旗揚げ戦から現在まで、高谷裕之、吉田善行、アルトゥール・ウマハノフ、朴光哲、門馬秀貴らの熱き闘いを厳選してDVDに収録! UFCのパイオニア、宇野薫がプロデュースするケージ&ヒジありルールの最新型MMAの世界を堪能すべし!

★CAGE FORCE 金網オクタゴン総合格闘技(クエスト)
★定価4,351円(税込) ★発売日/6月20日 ★収録時間/200分

Book

亀田親子、朝青龍問題にも喝!
息子を名門大学に送ったアントンが教育論を熱弁!



アントンが子育て、日本の社会問題に喝ッ! 今年の3月に一人息子がコロンビア大学(「世界大学ランキング」で11位!)に合格したことを告白したアントン。「俺と違って成績がよかったみたいだね。ンムフフフ」とゴキゲンに語っていたが、この本ではアントンの祖父、父、そしてプロレスの師・力道山との絆を振り返りつつ、アントン流子育て術、さらには亀田親子や朝青龍問題などをズバリ熱弁! 必ず読むんダーッ!!

★『猪木式教育論「父親の背中」の見せ方』アントニオ猪木著(講談社)
★定価1,000円(税込)発売中



イラスト◎師岡とおる

第31回

ぼくのゴールデンウィーク日記

花くまゆうさく

リングの汁 ミニ

4月29日　スカパー！のPPVでDREAM観る。今回は、第1試合の青木vsカルバンにつきる。試合のレベル、ドキドキ感などほかの試合とえらい違った。今回はカルバンが前に出てきてくれたので組み合う機会も多く、試合になっていておもしろかった。ラバーガード大活躍で〝俺様〟エディ・ブラボーも喜んでいることでしょう。

金vsミノワマンは金が勝ってうれしくなった。昔、プロレスファンだった頃から、プロレスvs空手になると、なぜか空手のほうを応援したくなる（猪木vsウィリー、小林邦昭vs誠心会館、大仁田vs青柳など）。空手が好きなわけじゃないが、異種格闘技戦でプロレスが勝つ図式が嫌いだった。唯一の例外は、漫画『1・2の三四郎』（小林まこと著）で、あれはプロレス側を応援できる。

この日、一番強さを披露したジャカレイ。次から次と怒濤の攻めを観てうっとりした。vs桜庭戦が観たいけど、DREAMは組んでくれなそうな気がする。

田村vs船木の前フリVTR、映像の懐かしさにセンチメンタルになるが、ナレーションの内容などは、「それはどうかな？」と思うところがいくつかあった。

4月30日　道場に練習に行くと、クロン・グレイシー、アンドレ・ガウヴァオン、マルコス・バルボーザら豪華な組み合わせのスパーが実現していた。

5月1日　クロン・グレイシーのセミナーを受ける。あまりの貫禄に、まだ19歳ということをすっかり忘れていた。あらためて、19歳と知ったときビックリしちゃった。質問では、あのマウントキープと絞めについてなどが、やはりありました。

5月2日　道場に行くと、どこかで見たことのある人がいるなと思ったが、スパー見て思い出した。去年、アブダビでガルシアに一本勝ちした人だった。

5月4日　吉田豪さんの『バンドライフ』（メディアックス刊）読みながら、浜松へ向かう。この本のおかげで次から、『ニューイヤーロックフェスティバル』での氏神一番をやさしい目で見れそう。

5月5日　今日はヒクソン柔術杯。クロンがとんでもない強さを発揮していた。ガウヴァオンも強いし、亀ガードの教祖（エドゥアルド・）テレスの妙技にしびれた。僕はシニアですが黒帯デビュー戦を一本勝ちで優勝できてめでたしめでたし。次は10日のヒクソンセミナー。11日の泉谷（しげる）ライブだ。



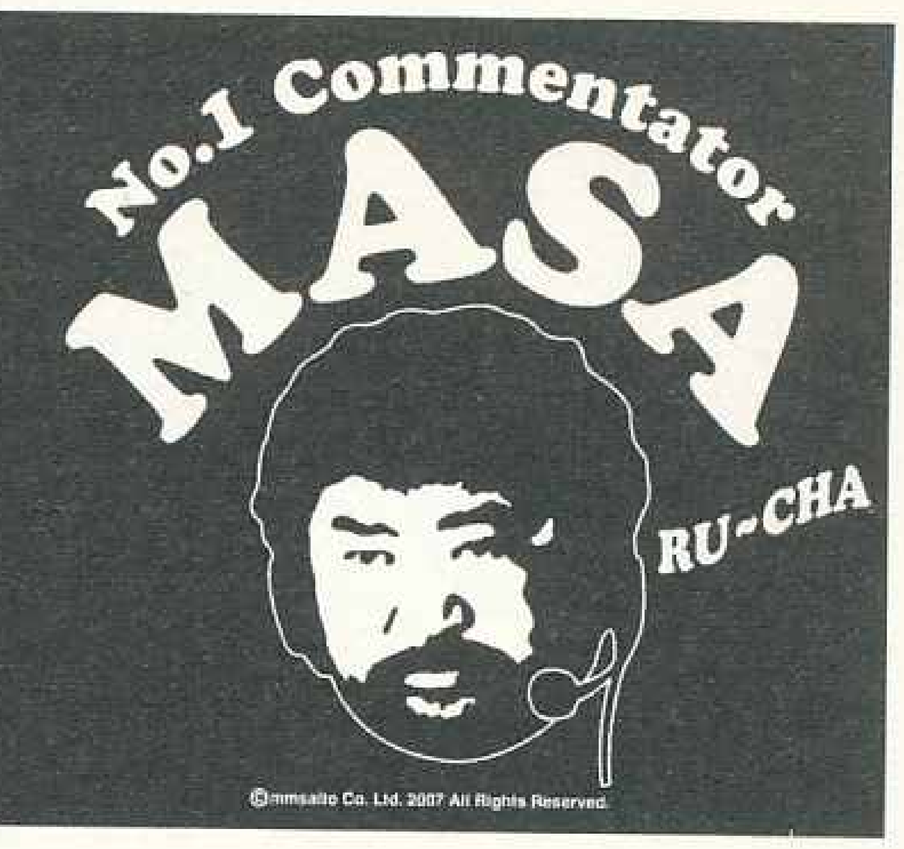
泥沼の神



Hanakuma Yusaku
◎試合前だったので5月3日の修斗見なかったけど、ルミナ見たかった。

“男の憧れ”
マサ斎藤の

GO FOR BROKE!
〜獄門記〜



No.3 エリック・ビショフと築いたWCWとのビジネス

——前回はマサさんが90年代の新日本プロレスで、外国人選手のブッカーとして大活躍するきっかけとなった、ブラッド・レイガンズとの交流についてお話しいただきましたが、今回もブッカー時代の話を聞かせてください！

マサ　あの頃、俺はいろんな人間と手を組んでやってたのよ。まずブラッドと組んで彼が育てたレスラーをいろいろ呼んで。あとブラッドとエリック・ビショフ（当時のWCW副社長）がハイスクールの友だちだった関係で、日本に連れてきて、一緒に仕事するようになってね。あとは、俺が昔からお世話になってたフロリダのヒロ・マツダさんとも組んでたし、マツダさんの紹介で、ダスティ・ローデスとも組んでた。

——へぇ、ローデスですか。ローデスからは、どんな選手を送ってもらったんですか？

マサ　ローデスはエリックよりもっと前のWCWだね。まだNWAだった頃かな。その頃、ローデスがヘッドブッカーだったのよ。だから、そこからWCWとのルートもできた。そのあと、エリックだね。

——ホントにマサさんの人のつながり、人脈でガイジン招聘ルートができていたんですね。

マサ　そうね。最初にエリックと新日本をくっつけたとき、浅草の屋形船に乗ったりして、いい雰囲気になったんだよ。

——エリック・ビショフと屋形船に行きましたか（笑）。

マサ　エリックの家族や、武藤、蝶野、それから新日本の幹部も一緒でね。長州とか倍賞（鉄夫）とか、ああいう連中と握手させてね。でも、あんときは花見で混んでる時期で、船もフル回転。いきなりエンジンから煙が出っちゃって、焦ったよ。沈むんじゃないかと思ってさ。

——それはまた縁起が悪いですね（笑）。

マサ　エリックは「タイタニックは最初に揺れて、それから電気が消えるんだ」なんて冗談でカバーしてくれたけどね。エリックとはいまでもたまに連絡するけど、あの屋形船は思い出になってるらしいよ。

——新日本プロレスとWCWの提携が、屋形船の中で行なわれていたとは知りませんでした（笑）。

マサ　それが90年代の前半だったかな。エリックは俺の結婚パーティにも来てくれて、家族ぐるみの付き合いになったからね。あの頃、スティングとかフレアーとか、有名なヤツがみんな新日本に来てくれたよ。逆に日本からも10人ぐらいWCWに送り込んだかな。ライガーが出たり、大谷が出たり、健介やチャコちゃん（北斗晶）も出たり、ブル中野なんかも出したりしたな。



90年代中盤から後半にかけ、日米両方で大ブームを巻き起こしたNWO。このムーブメントを日本に持ち込んだのは、マサさんとビショフの力が大きかったのだ。

——ブル中野をWCWにブッキングしたのもマサさんだったんですか。

マサ　そう。ほかにもいろいろ送り込んだよ。中西（学）とか永田（裕志）なんかも、1年ぐらい預けてね。

——WCWみたいなメジャーで海外修行ができるって、素晴らしい経験ですよね。

マサ　中西の（アメリカでの）リングネームも俺がつけたんだよな。

——ああ、「クロサワ」っていうリングネームの名付け親はマサさんでしたか！　あれはもちろん、映画監督の黒澤明から来てるんですよね？

マサ　そう。アメリカ人が知ってる日本人の名前にしようってことで、「じゃあ、クロサワでいいじゃん」って、俺が決めちゃったの（笑）。中西はもっとリングネームらしい、カッコいい名前がよかったらしいけど、「覚えやすくていいんだ！」で終わりよ。

——「クロサワ」は中西さんの本意ではありませんでしたか（笑）。

マサ　エリックもいろんなアイデアをくれて、こっちもビジネスやりやすかったよ。

——武藤さんと蝶野さんが、NWO入りしたのも、その延長ですか？

マサ　そうそう。NWOって一時期、流行ったでしょ？　あれエリックが作ったんだよね。Tシャツが当たってさ、日本にも持ってきて、ずいぶん儲かったんだよな。俺は全然、儲からなかったけどな（笑）。あの頃のプロレスはアメリカでも日本でもメジャーだったよ。

——そうですね。まだ、日本でも格闘技人気が盛り上がる前ですし。

マサ　そうね。格闘技といえば、エリックと一緒にK—1の会場に行ったことがあるんだよ。

——マサさんがK—1ですか⁉

マサ　なんかエリックがK—1に招待されたんだよ。K—1がまだアメリカで全然知られてなかった頃、K—1をアメリカのテレビに乗せたいってことで、エリックに協力を要請したんだよ。

——K—1がWCWのルートでアメリカでのテレビを獲得しようとしてましたか。

マサ　そう。それで、エリックに「一緒に行こう」って誘われてさ、しょうがないからK—1の武道館大会に行ったんだよ。着いたら館長室かなんかに連れていかれてさ、VIP待遇よ。

——マサさんとエリック・ビショフが館長室にいるって、凄いですね（笑）。

マサ　それで客席に行ったら、リングサイド一列目のど真ん中なんだよ。テレビカメラの真正面だったから、試合中、ずっと俺が映ってるんだよ（笑）。

——マサさんがリングサイドにいたら、そりゃ目立ちますよね（笑）。

マサ　それで、あとで新日本に「勝手にK—1の会場に行かないでください」って怒られちゃったよ（笑）。

——あ、新日本には言ってなかったんですか（笑）。マサさんもいろいろやってるんですね。

マサ　そうね。あとはクリス・ベノワをWCWに上げたのも俺なのよ。

——クリスはリック・フレアーのフォーホースメンに入ったんですよね。

マサ　フレアーとかスティング、WCWのトップ選手を新日本に貸してもらう代わりに、クリスとかエディ・ゲレロ、そのへんのジュニアの選手をWCWに上げたのよ。クリスやエディも黙って新日本にいたら、ジュニアのままだったけど、アメリカに行ってよかったよ。WCWじゃそんなでもなかったけど、ニューヨークに行ってからオーバーしたからね。

——WWEでホントにスーパースターになりましたもんね。

マサ　でも、その二人が死んじゃってるんだから、信じらんねえよな。

——そういえば、そうですね。

マサ　ま、そんな感じでエリックとは、いろいろやってたのよ。ビジネスが凄くうまくいって、楽しかったよ。でも、エリックみたいなやり手は敵も多くなるから、最後は失脚しちゃったけどね。あのままWCWが続いてたら、新日本も全然違ってたんだけどな。日本もアメリカも凄くプロレスのいい時代だったな。

——新日本も豪華メンバーで華やかでしたよね。あらためて90年代の新日本黄金期、マサさんの役割の大きさを感じましたよ。次回もよろしくお願いします！

Masa Saito◎60年代末〜80年代前半、アメリカン・プロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第29回

私だけが知っているランペイジのワークファイト?

UFCライトヘビー級王者にして、現在『TUF』のコーチを務めるクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン。アメリカでの認知度も高まり、いまやすっかり人気者ですが、彼に関して間違った情報がウェブ上でさも真実であるかのように囁かれております。事実にはあらゆる側面があり、それぞれの立場によって見え方は異なりますが、恣意的にねじ曲げてファンに伝えようとするのは感心しません。今回はその誤解を解きたいと思います。

そもそも〝間違った情報〟とは何かといえば、それはかつてPRIDEが彼にワークファイトを持ちかけたということです。

ジャクソンのPRIDEデビュー戦は、2001年7月の桜庭和志選手との試合でした。当時は無名だったジャクソンですが、ケン・シャムロックはすでに「コイツは将来チャンピオンになる」と言っていたほど、ポテンシャルを持ってました。桜庭選手の〝かませ犬〟と捉えるファンも少なからずいましたが、持ち前の怪力を活かして大善戦。チョークスリーパーによる一本負けで敗れましたが、日本定着の足がかりとなる好内容となったのです。

ところが、ジャクソンは当時のことを振り返って、「PRIDEからノックアウトかサブミッションでタップしてくれたらボーナスを支払うと持ちかけられた」と報道されているじゃありませんか。

これは完全に誤解です。当時、交渉に当った担当者の説明不足だったのかはいまとなってはわかりません。ただ、ジャクソン側の代理人的な役割だったKOTCの代表やマッチメイカーの名誉のためにも話しておきたいのですが、真実はただ一つ。当時のPRIDEの契約書には、「勝っても負けても一本で決着がついたらボーナスを支払う。判定勝ちはボーナスなし」――、つまり、負けても一本負けならボーナスが払われるという画期的なものだったのです。当時のジャクソンのファイトマネーからすればそれはけっこうな金額だったと推測されます。

いまのMMAではこのような考えはないでしょうけど、一番の理由はアグレッシブファイトを促すために導入されたものでした。

当時はまだMMAというジャンルが完全に確立していたわけじゃない。どうすれば、お客さんに喜んでもらえるか、また観に来てくれるか。選手が勝負にこだわれば、MMAは得てして退屈な攻防になりがちです。その工夫の一つが先に挙げた契約項目だった。おそらく、それがねじ曲がってジャクソンに伝わったのか、理解度の足りない素人ライターが書いてしまったのでしょう。

あの試合がワークファイトだったかどうかは彼が一番よく知っているはずです。私はヘンゾ・グレイシーと一緒に観戦していましたが、力で押しまくるジャクソンに対抗する桜庭選手を絶賛しておりました。それは完全なリアルファイトだったのです。

話は戻りますが、選手たちの意識が高くなったからでしょうか、あの項目がしばらくしてなくなりました。いまに至るMMAというジャンルはそういった細かい積み重ねから成り立っているのです。

金ちゃんのどこまでやるの?

第23回 格闘技界に物申す！の巻

イラスト◎中川画伯

6月1日、パンクラス後楽園ホール大会での試合が決まりました。相手はKEI山宮くん。また強い相手だけど、頑張りますよ。

今回もミドル級の84キロ契約。でも、山宮くんって、このあいだまで90キロのライトヘビー級でやってじゃん。だからホントはその中間ぐらいの86キロ契約ぐらいがよかったんだけど（笑）。ちゃんと84キロまで落とさなきゃいけないみたいだから、またメシを我慢しないとなあ。

いま総合格闘技って、階級に分かれて減量があたりまえになって、試合時間も5分3ラウンドとかになったけど、最近、それがつらいんだよね～。

俺はもともとUWFインターに入った頃は、「とにかく体重を増やせ」っていう教育を受けてたからさ。ちゃんこ食べる前に食欲増進のためにビールを飲むっていう生活をしてたからね。練習後のビールっておいしそうに思うかもしれないけど、極限まで練習したあとのビールって苦いだけなんだよね。それでも、体重増やすために飲んでたのよ。

そうやって長年かけて、ヘビー級の身体を作り上げたんだけど、総合格闘技の時代になって今度は減量しなきゃならなくなったわけだからね（苦笑）。しかも、この歳になると体重が落ちないんだ。

あと5分3ラウンドの試合時間だと、若くて体力がある選手のほうが絶対に有利なんだよね。若いと5分間フルに動いて、1分休んで、それを3回やるとかできるんだよ。3ラウンドぐらいだと、体力で押しきられちゃうことが多いんだよね。

このあいだもTKのジムに行ったら、ジェイソン・ミラーとか、ダン・ヘンダーソンのジムの連中が来てたのよ。その中に、俺と同じ84キロ級の黒人選手がいたの。全米レスリング王者で、この夏以降に本格的に総合に転向するらしいんだけど、彼が「ちょっと練習やってくれ」っていうから、スパーリングしたのよ。

もうね、運動能力がもの凄くて驚いたよ！ まだまだ極めの技術はないけど、ガードポジションで守る技術とか、寝技から立ち上がることなんかはできるから、殴り勝つぐらいしかできないんだよね。こういうヤツが総合始めて、5分3ラウンドで闘ったら、キツいな、と感じたよ。30分一本勝負とかで、粘って粘って疲れたところで、なんとか極めるとかじゃないと無理だな～とか思ってね。

いま、5分3ラウンド制っていうのが、世界に定着しつつあるけど、それって絶対に欧米人が有利だから、そのルールなんだと思うよ。だから逆に日本は、30分一本勝負とかに変える方向にいったほうがいいんじゃない？ リングス時代の30分一本勝負でエスケープがいっぱいあるのは、もの凄くキツかったけどね（笑）。

まあでも、次の山宮くんは、そんなに世代的に違わないし、いい試合ができるんじゃないかと期待してるんだけどね。

ただ、彼はいま勢いがあるからね。俺は近藤くんと川村くんに負けてるけど、彼はその二人に勝ってるから。でも、格闘技は三段論法が成り立たない世界だってことを証明しないとね。

とにかく、今度こそ会場が盛り上がるようなプロの試合をして、ぜひ勝ちたいね。パンクラスってさぁ、試合前のコールのとき「パンクラス戦績○勝○敗」とかコールするじゃん。俺、まだパンクラスで勝ってないから、あれを言われるのがイヤでたまらないんだよね（苦笑）。生涯戦績で言ってくれればいいのにさ～。まあ、そんなこと言ってもしょうがないから、パンクラス戦績でも勝利が上回るように頑張りますよ！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

kamipro Handで好評連載中！ **kamipro事件簿"出張版"**

アチャー！ターザン山本！を偲ぶ
葛飾・立石探訪記
～"カツオ"の店『与作』とは何か？～



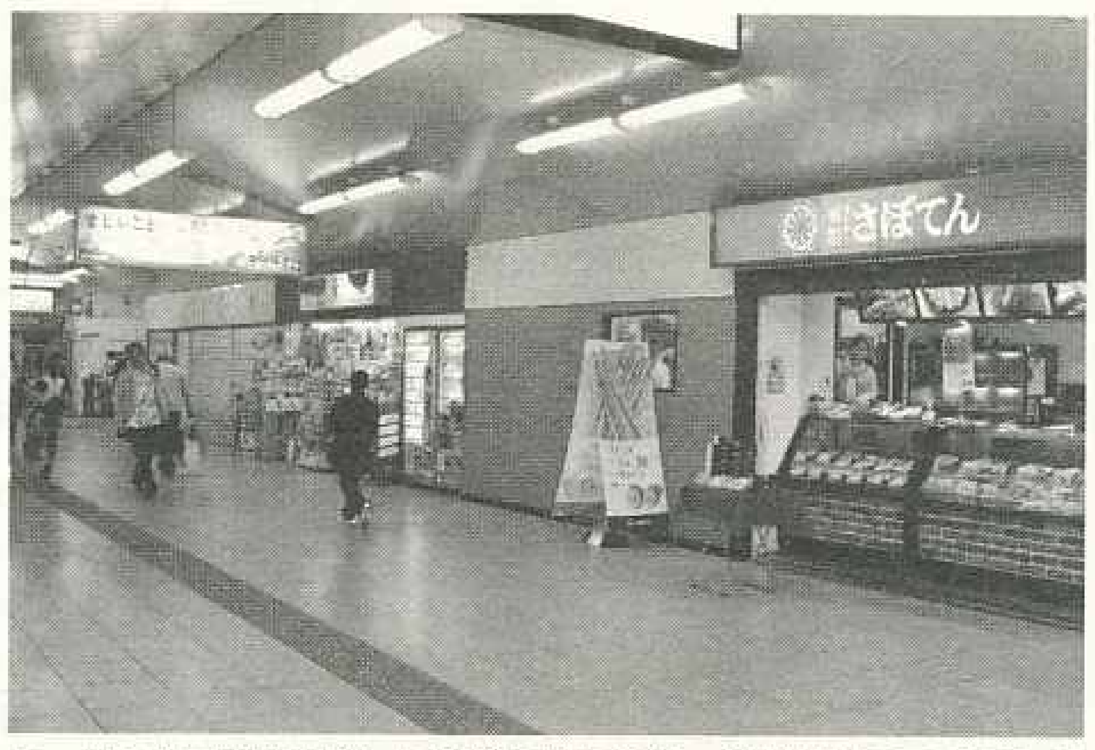
生前追悼本も増刷が決まるなど、亡くなって絶好調のターザン山本！さん。そんなターザンが生前（?）まで住んでいた立石を、かつて同じ職場で働いていたこともあるライターの高崎計三氏が探訪するというこの企画を増刷記念で再掲載。続きが気になる方は、いますぐ『kamipro Hand』にアクセスですよぉぉ！

さて、そんなわけで立石である。総武線・浅草橋駅から都営浅草線経由で京成線に乗り入れ、各駅で約13分。改札を出ると、いきなり駅事務所の窓口で酔っぱらいのオヤジが駅員に絡んでいる。いいぞ、いきなりムード満点だあ！

今回の散策に同行する予定のM女史が少し遅れるというので、駅周辺をちょびっとだけ歩いてみようと出口へ向かう……と、まずは駅構内に「新宿さぼてん」が！

ターザン邸を訪れる人たちが、揃いも揃って「さぼてん」でトンカツ弁当を買うのがなぜなのか、ずっと不思議だったんだが、一目で納得！ そりゃあ駅の中にあれば、「ここでいいか」となるわな。しかし晩年は糖尿病を患っていたターザンに、どうしてみんな高カロリーのトンカツ弁当を差し入れていたのか……。思わず藤子・F・不二雄の短編「コロリころげた木の根っこ」（内容は各自調査）を思い出したりして。

とまあ、そんなことを思いながら短い階段を下りると……いきなり、衝撃の発見が待っていた！ 階段の左手、ホントに駅から1秒のところに、「与作」の看板があるではないか！ えーっ、こんなに駅から近かったの？ しかも、日記からはわりと普通の、テーブルがある定食屋をイメージしてたんだが、カウンターだけの本当にこぢんまりした店だった！ 興奮を隠せないオレはM女史が到着するなり、予定を変更して『与作』を最初に訪問！ 狩猟民族はいつでも臨機応変なのだ！



ターザンの最寄り駅だったのが京成立石駅。改札を出てすぐのところにターザンも愛用していたトンカツ屋さんがあるんですよぉぉ！

あ、ちなみにこちらのM女史はターザン日記のレギュラーであるS女史と違って、オレにメガネやジーパンを買ってくれたりはしない。ま、普通はしないか。

で、『与作』。表のホワイトボードに「八丈島産・極上初カツオ刺身定食」の文字を見つけて、また興奮！ これが、『与作』の〝お兄ちゃん〟が入荷のたびにターザンに電話で連絡をくれていたという〝カツオ〟か！ 店に入ると、迷うことなく二人でカツオ定食を注文したのは言うまでもない。

料理が出るまでの間、店内を見渡す。カウンターは手前が5席、奥が4席で9人入ると満員。ホントにコンパクトだ。マジで、ターザンの日記からはこんなふうだとは思ってなかった。ということはターザンの描写力って……（以下略）。

メニューを見ると、定食類は400～600円台が中心という良心価格。おつまみの一品メニューも豊富で、ちょっと立ち飲み屋っぽい存在でもあるのだろう。家に帰る前に、一杯だけ引っかけていくか、って感じで。おっ、キタキタ、〝カツオ〟キターッ！ 新鮮でうまそうです。ということでまずは写真をバシャバシャ撮っていると、〝お母さん〟が「先生のファンの方?」ということで、ハンディタイプのノートを一冊出してくれた。

表紙には「ターザン山本！ 先生へ一言」のタイトルとともに、「Ⅳ」の文字が。もう4冊目なのか！ 中をパラパラ開くと、初期一揆塾生「八兵衛」なんかも先生あてにメッセージを残している。そしてすべてのメッセージに、殴り書きのサインが。これは、ターザンが「見ましたよ」という印かぁ。いちいち感心しながらカツオ定食をパクパク。ウワー、おいしい！

家庭的な味に大満足したところで、〝お母さん〟、〝お兄ちゃん〟にお話をうかがう。

っつーか〝お母さん〟、「先生いなかった。いつもは電話したらすぐ来るんだけどね」って、電話したんすか！ じつは先生はもう……（シクシク）。ま、これは知らせないほうがみんなのためにもいいか。

「先生がインターネットの日記に書いてくれるとかで、プロレスファンの方がけっこう来られるんですよ。だからノートを用意してね。でもなんだか、最近はいい方ができてルンルンだから（笑）。夢香さんとは付き合うようになる前からよく来てましたね。1時間ぐらい、ジーッと見つめ合いながらご飯食べたりしてね（笑）」

と、〝お兄ちゃん〟。ちなみに、日記にいつも〝お兄ちゃん〟とあるのでもうちょっと若い方を想像していたのだが、会ってみた印象は立派な〝大将〟。ま、ターザンはずっと前からの付き合いだろうから〝お兄ちゃん〟のままなんだろうけど。それにしても、1時間、見つめ合いながらご飯！ しかもお客の回転率が命のカウンターで！ うーん、やっぱりターザン&夢香、恐るべし！

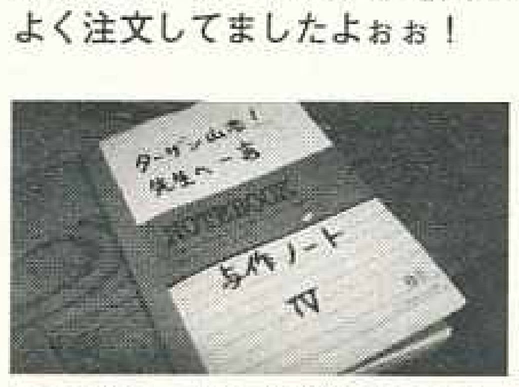
店内を見回してみると、テレビ横には桜庭和志のフィギュアが。これは「プロレスファンなら誰でも知っている店に、プロレスグッズがないのはおかしい」と、お客さんが寄贈してくれたモノだとか。それから、ドラゴンゲートのCIMAと一緒に来店したときの写真も。ターザンがCIMAの本を出したときのものだとか。

そんなこんなで定食のおいしさにも、ターザン情報にも大満足でお店をあとに。ホントに駅近なので、立石を訪れた方はまずここで腹ごしらえするとイイと思います。イヤしかし、最後まで納得いかないのはターザンの描写力……。

ターザンチルドレンにはたまらない!?
これが噂の『与作』ですよぉぉぉ!!



こちらの、うまそうな八丈島産・極上初カツオ刺身定食は、ごはん、みそ汁、おしんこ、コンブがついて、なんと税込810円ポッキリ。ターザンはとん汁定食もよく注文してましたよぉぉ！



これがターザン日記を読んで、お店に足を運んだ人がメッセージをしたためる与作ノートだ。書いて書いて書きまくれッ！



こちらがインターネットでターザン日記を読んでいる人には、おなじみの『与作』の店内。タイトル横の写真に写っているのが、ターザンが言うところの"与作のお兄ちゃん"。熱心なジャイアンツファンとしても有名だ。立石を訪れた方はゼヒどうぞ！

椎名基樹のサムライ二味

第26回

ジャカレイをKOした私

ジャカレイすげぇ!

DREAMミドル級グランプリに参戦した〝キング・アリゲーター〟ホナウド・ジャカレイの動きには度肝を抜かれた。いきなり飛びヒザに行ってそれをかわされて下になったときの足の動き! 身体が空中にあるうちから次の動きに移っているようだった。結局、下になっても、そのまま休むことなく動き続けて、その動きっぱなしの中で極めてしまった印象だ。

ヒップスローのような最近あまり総合では見ていなかったスイープもジャカレイがやると、もの凄く強力で新鮮ですらあった。打撃もけっこうできるみたいだし、パウンドもきれいなフォームで力強いし、身体能力も高そうだし、勝利のあとの鰐（ワニ）パフォーマンスもいいし、言うことなし!

だがこのジャカレイ、総合成績7勝1敗とのことだが、じつは筆者は数年前この鰐男を見事KOしたことがあるのだ! あれは数年前、柔術セミナーに筆者が参加したとき、ジャカレイが講師として来日したのだった。

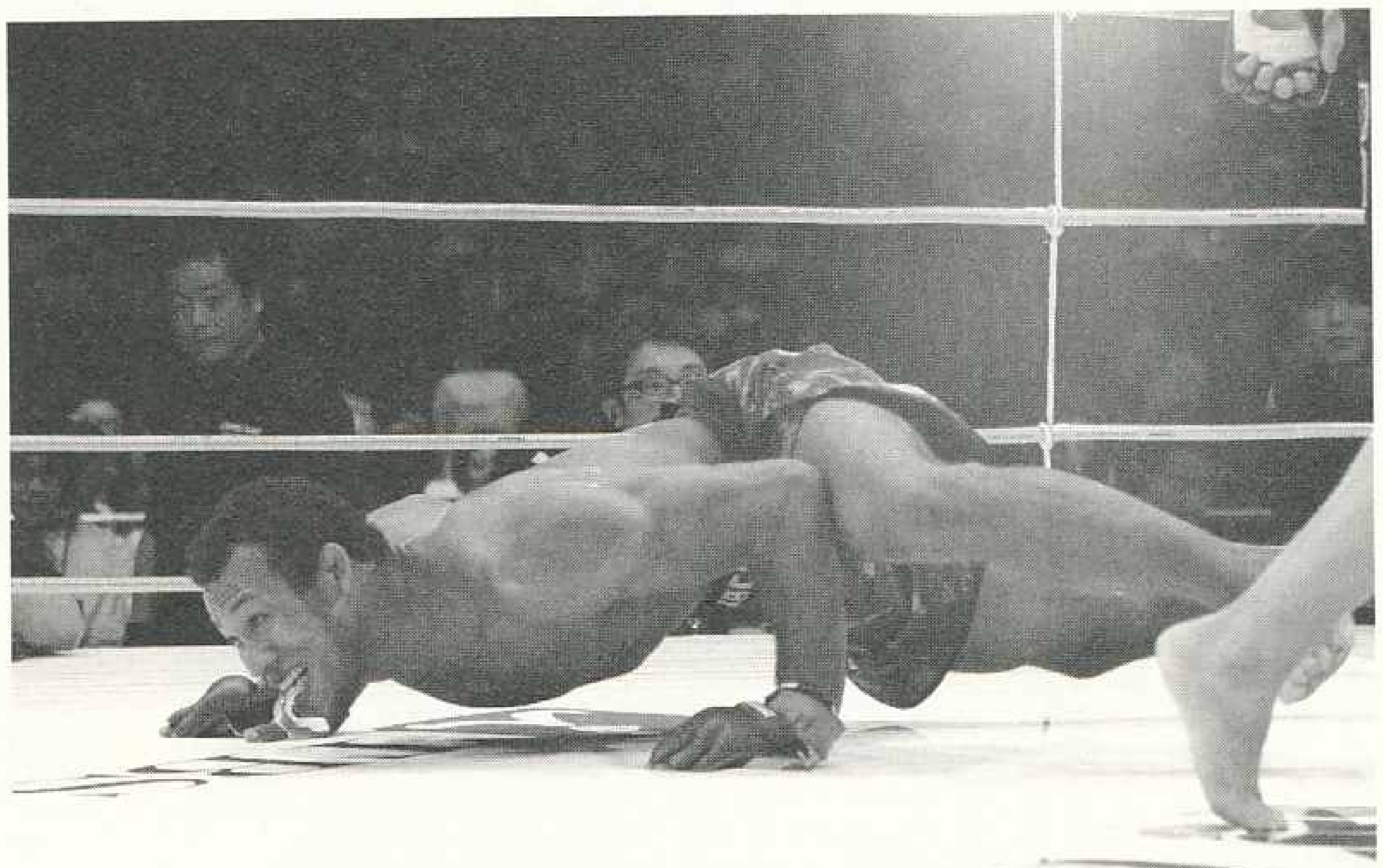
言っときますが、筆者はそのとき友だちに誘われてなんとなくセミナーに参加したのであって、柔術なんてできないし、からっきし弱い。しかも、いま現在じゃ数年前に比べ、体力気力も急低下。ただの太ったおっさんであるのだよ。

話は戻るが、そのセミナーのお好み乱取りで、筆者はジャカレイと対戦できる幸運をつかんだのだ。猪木×アリ状態で筆者が上、ジャガレイが下から始めたスパーリング。相手はデカいし、強いに決まっているので、筆者は思いっきり最初からMAXで飛ばそうと決意し、パスガードを狙った瞬間、どこでどーなったか知らないが、彼の股間にニードロップを落としてしまったのだった。うめき声をあげて悶絶するジャカレイ。

しばらく身体をくねらせていた。一瞬、仕返しされると思ったが、もちろんそんなことはなく、痛みが引いたあと、とりあえず平謝り。

しかし、謝りながらも筆者の中では、あいつは強いかもしれないが、オレにKOされたヤツというズーズーシー（ZZC）インプットが、ジャカレイに対してされたのであった。それどころか、時が経つにつれて、さらに話はでかくなり、人にそのことを話すときには、ジャカレイから一本取ったくらい言う勢い。

極真の試合でアンディ・フグvsフランシスコ・フィリォのとき、試合終了の合図のあとの蹴りでフグがKOされ、セコンドが怒りの抗議をしたとき、大山倍達総裁が、「空手は闘いである。闘いの中で油断は許されない。よって蹴りが試合後であったなどという言い訳は通用しない」という裁定が下されたということが、『グラップラー刃牙』に書いてあったことを思い出し、ジャカレイに対しても、油断したアイツの負けだ、くらいに思っていたのであった。



MMA日本初登場となった『DREAM.2』では見事な一本勝ちでイアン・マーフィーを下したジャカレイ。マニアには、その強さとワニパフォーマンスはおなじみだったが、まさか椎名氏にKOされた過去があったとは!?

今回、ジャカレイの試合を見て、あのときの金的で彼がキレなくて本当によかったと、胸をなで下ろした次第である。つーことで、オレの勝ち!

『UFC83』は『kamipro』編集部に呼んでいただいて、前回同様、日曜の午前中に男ばっかし集まって、ネット配信観戦。好きだねえ。メインはジョルジュ・サンピエール（GSP）vsマット・セラのウェルター王者決定戦。やっぱ、GSP凄すぎ&カッコよすぎ。あまりのカッコよさに、試合前、「思わず負けちまえ!」と叫んでしまった。

会場はGSPの母国カナダで、UFC初開催。フランス語圏ということで会場には「ジュテーム♡ GSP」のボードを掲げた女どもがうじゃうじゃ。こんな格闘家いままで、ほかにいたか?

こちら呪詛（じゅそ）の言葉も虚しく、もちろんGSPのパーフェクトな勝利。TKが「GSPの何が凄いって全部凄い」と言っていたが、まさにそんな感じ。羽生の将棋のようにいつの間にかなんとなく、しかし圧倒的に試合を支配してしまい勝ってしまうので、凄さを説明するのが難しい。ようーするに全部凄いんだな。

あえて言うなら、やっぱテイクダウン。そのテイクダウンの凄さも、アマチュアレスラーとか、体幹の強いヒョードルみたいのともまた違う。うまく誘っていつの間にか倒してしまう。

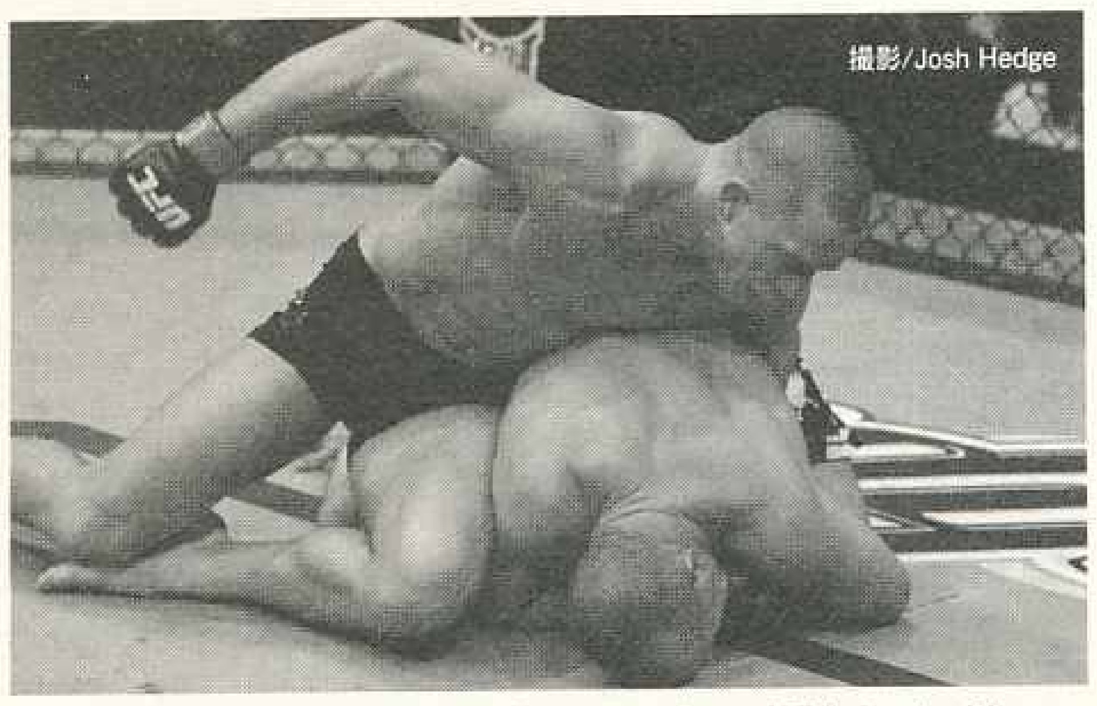
うまく説明できないので試合のほうの説明は置いとくが、GSPで今回一番気になったのが、入場のとき着ていた士道館の刺繍が入った赤の空手着。なぜ、士道館? 士道館といえば、マイケル・ジャクソンに黒帯を授与したり、ときどきビックリするような話題を提供してくれるが、今回もそーゆー活動の一環だろうか? 謎だ。教えて、添野館長!

しかし、このネット配信、画像が悪い上にかなりの頻度で固まってしまう。今回もGSPの試合のフィニッシュ直前で固まり、止まった画像が何分かおきに送られてくる紙芝居状態に。これは筆者たちの間ではボラギノール状態と呼ばれている。

☆馬乗りになるGSP。
○GSP「ほ〜ら殴っちゃうぞ」

☆セラの脇腹にニーを突き刺す、GSP。
○GSP「ほ〜らこうすると痛いだろ?」
○セラ「本当だ〜。あったま、いい〜!」

などと、痔薬のCMのごときアテレコはさすがに虚しいからしないが、大の大人が日曜日の午前中に集まって、ここまで劣悪な条件でしか現在最高峰の総合の試合が観られないなんて、長年にわたり総合を応援し、ファンとして微力ながらその発展を祈ってきたことを考えると、どー考えてもおかしいと思うのである。それでもUFCは観たいので、また誘ってください!



撮影/Josh Hedge

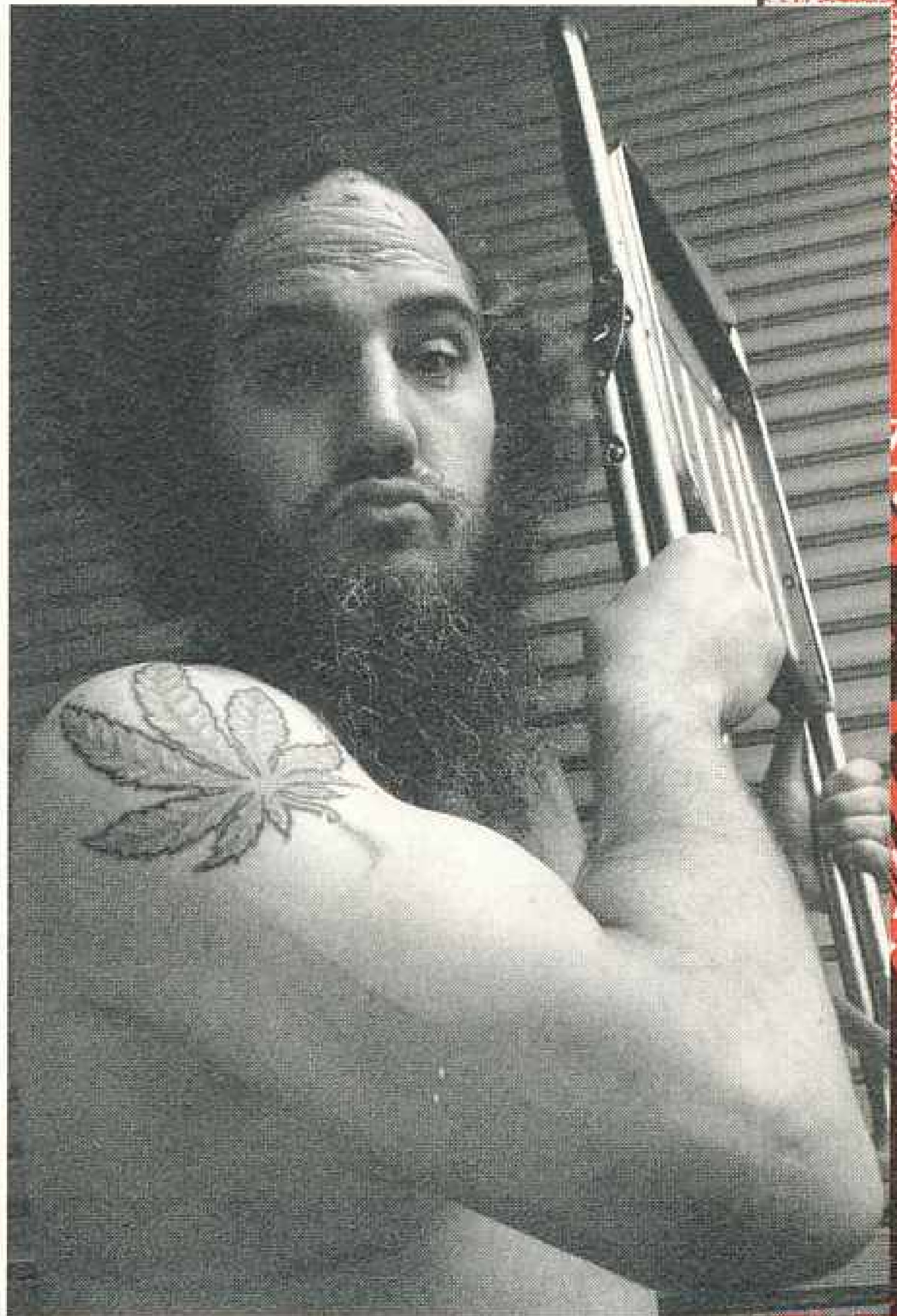
本文中でも触れられているが、『UFC』のネット観戦は、なぜかいい場面で固まってしまうことが多い（『kamipro』編集部だけ?）。それでもGSPの凄さはビンビンに伝わってきますYO!!

イナズマKの ハードコアドージョー Special

血みどろ〝愛され親父〟は元プヲタ!

壮絶な受けっぷりの〝デスマッチ・ジーザス〟が降臨!

ネクロ・ブッチャー



NECRO BUTCHER■本名はディラン・サマーズ。1974年7月13日生まれ。99年、プロレスデビュー。CZWなどアメリカのインディー団体を中心に、どんな技や凶器攻撃でも受けきる過激なファイトスタイルでカルト人気を獲得。04年9月にマニア待望の初来日、大日本プロレスでの激しい受け身とその頑丈さで支持を得る。またCZW、IWAミッドサウス、IWAディープサウスの3つの団体のデスマッチトーナメントを制覇した実績を誇るデスマッチ界のリビングレジェンド。195cm、105kg。

脳天ハゲのヨレヨレ長髪に白髪まじりのヒゲ。右腕にはリーフのタトゥーをほどこした、見事なビール腹のデスマッチ親父が登場だ！　およそスター性とはまったくかけ離れたルックスながら、そのクレイジーなバンプをはじめ、メチャクチャなやられっぷりで来日するたびにファンを増やしているネクロ・ブッチャーに直撃！

ハードコア列伝1 離婚が理由でレスラー転身!

見た目はかなりオヤジ度が高いものの、現在33歳と意外と若いネクロに、まずはプロレスとの出会いから聞いてみた。「小さい頃に両親が離婚して、オレはオヤジに引き取られたんだけど、いつも一緒にプロレスを観てたよ。小学校前くらいにはホーガンのマネをしてたな」。根っからのプロレス好きであるネクロは、「以前はインターネットで世界中のいろんな団体のビデオを買ってたんだ。テキサスに住んでたときは、当時は違法だったけど家の庭にデカいパラボラアンテナを立てて、メキシコのルチャを観てたほどのマニアさ（笑）。その頃は、毎日スーパーのレジで働いてて、休憩時間になるとプロレスを観てたなぁ」と、筋金入りのプヲタっぷりを告白。

そんなネクロのデスマッチの入り口は日本のプロレスだったとか。「FMWやIWA JAPAN、大日本プロレスの試合をビデオで観て衝撃を受けた。テリー・ファンク、ミスター・ポーゴ、マツナガ（松永光弘）、ヘッドハンターズとか大好きだったよ」と、当時を懐かしむ。その後、軍隊を経て、レスラーを志したネクロ。そのきっかけを聞くと、「96年に最初のワイフと離婚して、やけっぱちになって自分の好きなプロレスをやってやる!って思ったんだ」と苦笑い。まるで彼氏にフラれたショックでAVに出ちゃう女の子的なふっ切れ方をしたのち、99年に憧れであったプロレスラーとしてデビュー。

最初はプロモーターにアーミーキャラにさせられ、〝プライベート・ライアン〟ディラン・サマーズ（本名）として活動していたが、「オレは本当の軍隊にいたから、それが凄くイヤでさ。で、次のプロモーターがネクロ・ブッチャーって名前をつけてくれて、ペイントしてヘンな動きで試合をやり始めたら観客の反応がよくなって。それからネクロ・ブッチャーでいくことに決めたんだ」と、その原点を打ち明ける。

ハードコア列伝2 え？ GHC王者と激突!?

やがてデスマッチの道を歩みはじめるネクロだが、それもやっぱりマニアらしくビデオがきっかけ。「当時はアメリカにデスマッチ団体はないと思ってたし、自分でやれるとも思わなかった。でも、デスマッチをウリとするCZWやIWAミッドサウスの存在をビデオで知って、『オレにもできるぞ』と思ったんだ」。その後、一躍アメリカのデスマッチシーンの重要人物となったネクロは、04年9月に大日本プロレスに初来日をはたす。

ネクロのファイトスタイルは、相手の攻撃を食らいまくり、破天荒な受け身をひたすら取るのが特徴！　逆にネクロ自身が繰り出す技といえばほぼパンチのみ。テーブル、画鋲、有刺鉄線、蛍光灯といったアイテムも、ネクロは〝使う〟というより、〝食らう〟と言ったほうがベター。普通ならダメレスラーの烙印を押されそうなものだが、彼はそのヤラレっぷりのよさで観客の支持を受ける稀有な存在なのだ。血まみれのボロボロな姿で哀愁を感じさせつつ、なぜか観る者をほのぼのとした気持ちにさせてくれるネクロは、デスマッチの魅力を「普通のプロレスよりデンジャラスだしドラマチックだろ。ファンも映画を観るように恐怖を味わえるしな」と語る。

数々の修羅場をくぐってきたネクロに、もっとも危険だった試合を聞いてみると「デスマッチじゃないけど、サモア・ジョーとやった試合はデンジャラスだったな」と振り返る。その試合内容はジョーが場外にネクロをブン投げて、コンクリートフロアに脳天から落下するなど、通常のプロレスにも関わらず壮絶な受けっぷりでデスマッチと見間違えてしまうほど。

ちなみに5月9日（現地時間）には米国の団体ROHで、本誌読者ページでもプッシュ中の森嶋猛（ノア）とシングルマッチを敢行！　この取材は森嶋戦直前だったので、試合への意気込みを聞いたところ「彼はビッグモンスターだよな……（遠い目）」と力なくポツリ。試合結果はネクロのピンフォール負けだったものの、森嶋の豪快なバックドロップにもネクロは見事な〝受け〟を披露！　〝デスマッチ・ジーザス〟の面目躍如たる活躍を見せたのであった。

COLUMN

ハードコア列伝3 愛する嫁は〝抜き〟の名人?

この無類のデスマッチ好きと話をしていて感じたのは、リング上とオフではまったくの別人だということ。通常はとっても気さくな〝いい人〟であるネクロを、狂気のデスマッチに駆り立てるものとは？「それがオレの仕事だからさ。シェフが料理をするようにオレはデスマッチをする。ケガの恐怖？　ヘヴィすぎる？　だからこそ、オレがやるんだよ」と、ネクロは男っぷりを発揮！　闘うのはそこにデスマッチがあるからだと言わんばかりだ。

「最近、再婚して夏には子どもが産まれるけど、自分はリングで闘い続けるよ。まあ、最初の嫁はデスマッチ嫌いだったけど、いまの嫁はデスマッチに理解があるしね。いつも、オレの背中に刺さった破片を抜いてくれるんだ。けっこううまいぜ（笑）。でも、日本だと嫁がいないから一人でシャワーを浴びながら『ウォ～！』って叫んでるよ」と、家族のことを語るときのネクロは優しげな表情だ。まさにアメリカの正しきホームパパ。ヨレヨレで血まみれだけど、とにかく憎めない好漢なのだ。

デスマッチLOVEにあふれるネクロは、「リスペクトするマツナガとはいつか試合をしてみたい。彼は恐怖に動じないハートの強い選手さ。すごーい高いところで試合がやりたいぜ」と、〝ミスター・デンジャー〟との闘いを願う。いつの日か日米デスマッチ・バンプ合戦が実現することを願いつつ、ネクロのさらなるド肝を抜く闘いに期待しようじゃないか！



リング上にとどまらず、会場全体を闘いのフィールドとするネクロ。流血しながらフラフラとさまよう姿はまさにデスマッチの求道者。どこかトボけた感じの風貌も人気の秘密！



イラスト◎ゴローちゃん

もうネクロしか愛せない!! ボロクソになるまで技も兇器攻撃も全受け&単なる暴力に近い雑な攻撃で、現代のプロレスに失なわれたものが奴にはすべて入ってるからだ! というわけで今月の『萌え女々苑』は、「隣のページでネクロのインタビューが載ってるからもういいですよ」という担当の阿修羅チョロの声も聞かず、番外編「ネクロ・ブッチャー試合観戦記&飲みながらネクロから直で聞いた話」をおすそわけ! デカくて怪しくてカッコいい、デスマッチの心を持つ男・ネクロ・ブッチャーに君も血迷え!!

ネクロの具体的な経歴やアレな風貌の説明なんかは、右の『ハードコアードージョー』を参照してもらうこととして、ここでは5月5日の埼玉・桂スタジオでの試合と打ち上げの模様を書く。現在ネクロはアメリカン・ハードコアマット界で超ひっぱりだこの人気レスラーであり、まとまったスケジュールを押さえるのが至難。いまや年に一度、GW期間に一週間ほどまとめて来日するのがやっとの状態。

つまり今年のGWに見逃すとまた向こう一年ぐらい見れっかどうかわかんねぇわけ。とくに昨年4月の大日本プロレスでのバカ外人タッグ対決は、ネクロが血まみれで死にかけながら危険なバンプを取り続け、サムライTVのカメラマンまでもがパイプイスの誤爆で大流血するなど、奇跡的に素晴らしいデスマッチだったこともあり、俺内期待値は異常に高まっていたのである。

この日はネクロvsマッドマン・ポンドvsMASADAの3WAYバカ外人直接対決という豪華カード。まずは試合開始と同時に、バカ外人3人がお互い急所蹴りの応酬。いきなり全員の動きが鈍くなるという恐ろしい展開に。その後もコーナーのMASADA目がけて猛ダッシュしたネクロが、裸足で有刺鉄線パイプイスを踏んづけて自爆。しばらく立ち上がれなかったり、かなりバカな展開が多かったものの、いつもどおり後頭部をがっつりラダーでブン殴られたり、ラダーに頭を突っ込んだままラダーごとコーナーポストに激突したりしてやっぱりヘロヘロに。さすがだ!

で、ラストは……スモールパッケージホールド!? 正直唐突だったが、そこも昭和っぽいどうしようもなさが溢れててたまらんかった。ああ、こんな終わり方、昔よくあったよな、みたいな。ずさんなラストもまたネクロ・ブッチャーには似合うから困る。

で、なぜか打ち上げにも参加させてもらうことになり、埼玉県の僻地の『庄や』でネクロを囲んで、平均身長の低い我々プロレスファンと近所の女子大生というメチャクチャな取り合わせで飲むことに。素顔のネクロはプロレス好きの好青年とは聞いてたものの、あのリング上のキ●イ丸出しのヒゲオヤジと同一人物とは思えない気さくな人で、嬉しくなっていろいろ聞いてみました! 隣のページにインタビューが載ってるのにこっちにもこぼれネクロ話を無理矢理掲載!



本来ならば、ここにはネクロのプロフィールが入るところですが、ネクロの詳細は『ハードコアドージョー』参照でお願いします。上の写真は本文中に出てくる『庄や』での2ショット。試合での暴れっぷりとは違い、私服姿は知的な感じも漂うネクロ。一方の掟氏はサマンサ・フォックスTシャツ姿で得意の白目!

●ネクロ・ブッチャーというリングネームの由来は、おそらくメンバー間で殺人事件が起きたノルウェーのブラックメタルバンド『メイヘム』のベーシスト、ネクロ・ブッチャーから来ているんではないかと当たりをつけた俺は、まず、ネクロに「初期ネクロといえばペイントレスラーでしたけど、そのサタニックなペイントはやっぱりメイヘムから来てるんですか?」と質問。それに対してネクロは「ああ、同じ名前のヤツだろ? 知ってるよ」と。「ブラックメタルは好きなんですか?」と聞くと「うーん、ちょっとぐらいは」と、それほどでもないという返事。で、率直にリングネームのことを聞いたら、謎が解けた。

●若き日のディラン・サマーズ(ネクロの本名)は、「おまえ! うちのリングに上げてやっから来い!」というプロモーターに呼ばれて、そのカンパニーまで出向いた。ネクロ含む2名が呼ばれて、IHW(Insane Hardcore Wrestring……酷い名前の団体! ネクロですら半笑いで団体名を言ってた)へ。プロモーターは言った。「おまえら、試合決まったから!」。

他団体でデビューしたもののパッとせず、試合も少なかったディラン青年は狂喜乱舞した。プロモーターはこともなげに続けた。「で、おまえのリングネームはヘルハマー! で、おまえはネクロ・ブッチャーだ!」。たぶん面白半分で適当に、凶悪なリアル殺人ブラックメタルバンドのメンバー名をリングネームに流用(ヘルハマーはドラマーの名前)しただけで、相当イージーなネーミング。

が、なんせ仕事をくれるっていうので「マジっすか! ありがとうございやす!」と揉み手をしながらそのリングネームを歓迎した。その後、2試合しただけでヘルハマーのほうだけプロレスをやめた。結果、ネクロ・ブッチャーというリングネームが残ったという。……そんないいかげんな話だったのかよ!

●ネクロは一度だけMMAの試合に出たことがある。2000年か2001年ぐらいのことだ。「べつにそれ用の練習とか全然してねーんだけど、まぁ、ぶっちゃけ、金がほしかったんだよな」というかなりどうしようもない理由で(そこもネクロらしくていい)。

しかし、その相手がすげぇ! なんと! ヴァリッジ・イズマイウ!! こんなところまでイズマイウの名前が! ホント、日本のプロレスファンの気を引きすぎだよイズマイウ! 結果は言うまでもなく、あっさりタックルに入られセオリーどおりにマウント取られてコントロールされて負けたらしい。「殴れば勝てると思ったんだけどな～」だとか。そ、そうか? それにしてもイズマイウって、ねぇ……。試合組むほうもセンスありすぎだよそれ(だが、この試合のことは日本のネクロファンたちがいくら調べても、ネットにさえ全然情報がないとか。ビデオとか撮ってないの?)。

「試合用の練習はしない。ビールを飲むのが練習だ。この身体はビールで作られている」。そんなギターウルフみてぇなことを得意げに言いきって、レスラーとは思えない逆ステロイドな肉体でダルダルの力瘤を作ったネクロさん。カッコよすぎて涙が出た。あまりにもいい奴なので、ネクロのぶんの飲み代はおごっておいた。

ネクロさん、忙しいだろうけど、早いとこ再来日待ってます!


こちらは互いに正装(?)での2ショットだ。ネクロは日本遠征からの帰国後すぐにROHニューヨーク大会で森嶋猛と一騎討ち。やられてもやられても起き上がるネクロに場内は大「ネクロ」コールに包まれたという。再来日をみんなで待とう!

Okite Porsche◎掟ポルシェ■5・30(金)宇都宮PLANET(028-649-5999)、6・6(金)神戸TroopCafe(078-321-3130)、6・13(金)代官山UNIT(03-5459-8630)、6・14(土)郡山GEORGIA(024-933-6969)、6・28(土)盛岡プレイヤーズ・カフェ(019-626-2176)。その他の予定は掟ポルシェブログを死ぬほどチェック! 【http://blog.excite.co.jp/porsche/】



イラスト◎エロコエロオ

桜庭和志とレイヴ世代

Yuzuru Sato◎1976年、静岡県生まれ、千葉県育ち。クラブ・ミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家をやったりしています。地上波では入場シーンがあまり映らないので困っています。

ジェームス・ブラウンのリミックスで幕を開けた『DREAM・2』。大山峻護の"男"な煽りV（しかも入場曲『メリー・クリスマス・ミスター・ローレンス』は、デヴィッド・ボウイと坂本龍一のBL映画『戦場のメリー・クリスマス』のテーマ曲！）に、田村vs船木の連合赤軍煽りVと、衝撃の映像が最高でした！

中でもメインを務めた桜庭和志の入場曲で、CD総売上1億7000枚を誇る怪物、小室哲哉による『SPEED TK CLUB MIX』の、懐かしい盛り上がりはじつに興味深かったです。

往時のPRIDEの記憶をくすぐる演出から入場曲へ流れるようにつながる佐藤大輔の愛情たっぷりの煽りVと、客との一体感を高めるレイヴ・サウンドとの相性は格別。その様を見て、あらためてPRIDEは観客と作り上げる「共同幻想」が軸のイベントで、佐藤大輔と桜庭和志はその祭りの触媒となるシャーマンだったんだなぁ、と思った次第です。

じつは『DREAM・2』では、さまざまな世代の戦士が揃うことで「フュージョン＋ハードロック」（U時代／船木、田村）、「レイヴ／トランス系ダンス・ミュージック」（PRIDE時代／ミノワマン、桜庭）、「ヒップホップ」（現在／JZカルバン、ジャカレイ）と時代を代表する入場曲を聴き比べられ、それぞれの音楽の役割がよりクリアになった気がしたから。

あえて言葉にするなら、それは「幻想の提供」から「幻想の共有」、そして「リアルの追求」への推移でしょうか。

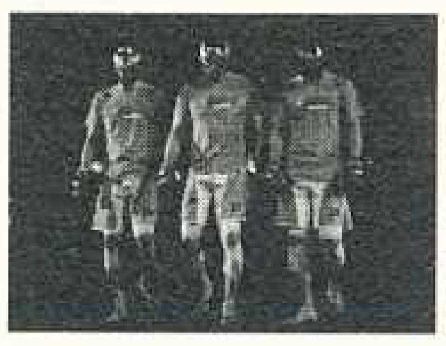
PRIDEは髙田延彦という「最強という名の幻想」の敗北からスタートしています。そして新たな幻想の提供者、グレイシー一族を破った桜庭の登場でブレイク。以降、彼を触媒にし、観客がイベントを作り上げていく雰囲気が生まれ、それがPRIDEという興行そのものの神格化へとつながっていきました。「90年代はオーディエンスの時代だ」というレイヴ世代のバンド、ストーン・ローゼズの名言を借りるなら、「PRIDEはオーディエンスの興行だ」ということ。つまり、レイヴの思想を体現していたのです。そして、多くの観客に一体感を持たせるため、その機能に特化したレイヴ／トランスはまさに最適の音でした。

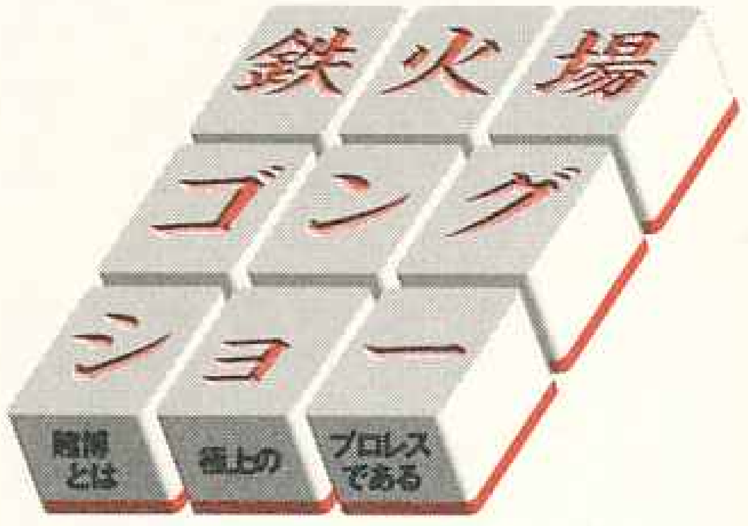
そうした流れの中で、UWF時代にはディープ・パープル『スピード・キング』やXジャパン『WEEK END』とハードロックを入場曲に使っていた桜庭がPRIDE出場を機に、『SPEED』に変えたのは、時代が要請した変化、そして観客を楽しませたいという彼の願望が交わった結果だったのかもしれません。

ちなみに絶頂期には『PRIDE・1』公式読本で、「極真会館の黒澤師範の友人です」とアピールをしていた小室哲哉は、先日iTunes限定で18年ぶりのソロアルバムを2枚連続で発売。聴くと『天命』『悟』と怪しい曲名が並び、すっかり俗世のカルマや欲が抜け落ちた精進料理みたいなアンビエント。絶賛迷走中です。

一方、ピークが過ぎても、全盛期と同じ役割を背負わされ、かさぶたネタを引っぱったりと、周囲の状況や自身の発言も含め、現在の桜庭もかなりモヤモヤ中。

私的には総合の馬場さんとして、2試合目ぐらいで明るく楽しいIQファイトが見たいところ。それで過去の名勝負が色褪せることはないし、メインでへんに思い出モードになるよりは、『SPEED』も永遠の名曲としてもっと楽しめると思うのです。





田中太陽の三本場／ターザン山本！の狂気

Taiyou Tanaka
◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「ふとボクはパチンコ屋に入った。旅人は存在が人生を寄り返しまくっているのに、さらにボクはパチンコをして寄り道しようとする」

今回はインターネット上で好評連載中の『ターザンカフェ』から、ターザン山本！氏の印象的な言葉をピックアップしてみた。パチンコという刹那的なギャンブルを、いかにも氏らしい叙情的な感覚でとらえた表現である。じつは単なる夢日記の一節でしかなかったりするのだが、それはそれで氏の深層心理が表われているような、いないような。

賭博にまつわるロマンチシズムをもってしてプロレスという"文化"を語ろうとするとき、このターザン山本！という人物のことはどうしても外せない。かつての敏腕編集長の現状は、自ら「乞食」「お布施人生」と宣言するほどの貧困生活であるという。その背景には間違いなく氏の、"ギャンブル中毒"ではすまされないほどに激しいパチンコと競馬への傾倒がある。

パチンコに関しては勝負事というよりも、ノスタルジックな娯楽として楽しんでいるふしがあるようだ。『ターザンカフェ』にてたびたび書かれる夢日記の中では、そこに登場する50年前の風景とともに、パチンコへの思い入れが語られることが多い。

「チューリップがなつかしい。そのチューリップを見てボクは興奮していた。まるで昔の友だちに会ったみたいな気持ちである」


このような記述や「最近のパチンコはつまらない」という発言から、どうやらパチンコを寺山修司的リリシズムでとらえているらしいこともうかがえる。しかし、種目が競馬に変わったとき、我々のよく知るターザンの"狂気"は一気に爆発するのだ。

『儲けること』と『楽しむこと』の二元論で馬券に立ち向かっていく」という、一見もっともな競馬観をもつターザンだが、同時に「ボクはわざと負けている」などの突拍子もない主張をも行なっていたりする。「たとえ競馬に負けてもそれにかわるべきものが、絶大にあるのだからどうってことないのだ」と言い張り、競馬仲間に対しては「君たちは馬券で勝つことでやっとターザン山本！と同じ土俵に立てるのだ」と暴言を吐く。『ターザンカフェ』における競馬日記は、万事このような調子である。

かつて著した『ターザン山本の俺は天下の馬券下手!!』なる奇書にもまた、氏の暴力的な競馬論が存分に詰めこまれている。「世にある必勝法はすべて余計なお世話」と言いきったかと思えば、いきなり「枠順と騎手を考えて予想せよ」とセオリーを勧めてきたりもする。そして最終的には「念力で馬券を当てろ」とくるのだから、まさしく狂気である。

これらの文献から推測するに、勝ち負けを度外視してギャンブルを楽しんでいるというよりは、勝ちを得られなすぎて狂ってしまったというのがターザンの実情だろう。敗北の歴史を文章に換え、競馬関係の原稿につなげてしまうシブトさだけはさすがといえるが、ギャンブラーとしての氏は完全なる"破滅型"であることもまた確かだ。

こんな姿勢を貫いていれば、おそらく収支は大変なことになっているだろう。伊達や酔狂をも通り越して、いまや賭博という"もう一つの底なし沼"に溺れつつあるターザン。やはり"プロレスの論理"を"勝ち負けの世界"に持ち込むべきではないのだ。我々がMMAを通じて学んだ"プロレスの本来あるべき姿"は、こんなところでも証明されているのだった。



PRIDEでもHERO'Sでもない

DREAM
見えてきた!
格闘新世界

2008.5.11 DREAM.3
SAITAMA SUPER ARENA



RAM印”の名勝負
とも勝者」になった理由——

エディ・アルバレスが殴る。ヨアキム・ハンセンがそれに耐え、関節技を仕掛ける。お互い体力を使いはたし、それでも気力は失なわれることがなく、攻防ははてしなくヴォルテージを上げていった。試合を終えた両者を、観客は総立ちの拍手でたたえた——。

アメリカ人とノルウェー人の闘いに、日本人の観客が熱狂する。これは確かに〝いつか見た光景〟だった。舞台はもちろんPRIDEである。打撃を何発も食らいながら〝極め〟のチャンスをうかがうアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラに、相手を失神させるまでヒザ蹴りをやめないヴァンダレイ・シウバに、ファンは喝采を送ったものだ。国籍や肌の色を超え、真に強さと個性が競い合われる。それがPRIDEだった。

アルバレスとハンセンが見せた激闘、そこに我々が感じた興奮は、まさにPRIDEのようだった。PRIDEの世界観がDREAMで再現された。そう言ってもおかしくはないだろう。だが、決定的に違うことがある。アルバレスvsハンセンは、ライト級の試合だったのだ。

PRIDEマットにおいて外国人トップファイター同士が繰り広げる世界最高峰の闘いは、ほぼ重量級に限定されていた。ノゲイラやエメリヤーエンコ・ヒョードル、ミルコ・クロコップはヘビー級で、シウバやマウリシオ・ショーグン、クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンはミドル級だった。

それに対し、中量級であるライト級で脚光を浴びたのは五味隆典や川尻達也、桜井〝マッハ〟速人である。そこで我々が見たのは〝日本人スター誕生の物語〟だったのだ。もちろん、彼らが世界トップの選手だったからこそ、その物語は成立した。だが一方で、ライト級の外国人ファイターはどうしても脇役に甘んじてしまっていた。

その脇役の一人だったハンセンと、PRIDEのリングには上がったことのないア





まぎれもない“DREA

ハンセンvsアルバレスが「二人とも

IDEのリングには上がったことのないアルバレスの試合が大会ベストバウトとなったのは興味深い。この試合は、PRIDEと同質の興奮を感じさせながらもPRIDEにはなかった、つまりまぎれもない〝DREAM印〟の名勝負だったのである。この一戦を制したアルバレスは、大会翌日の記者会見でPRIDEに対する愛情をこう語っている。

「昨日の大会は、『DREAM・1』と比べて確実に進化していたね。『1』から出場している人間として、僕は最後の大会までDREAMに出続けたい」

言うまでもなく、DREAMは旧PRIDEと『HERO'S』が合体してできたイベントである。それぞれの財産はもちろん活かされなければならないだろう。ただ、それだけでは絶対にいけない。DREAMはDREAMの道を進むべきであり、PRIDEや『HERO'S』を再現することが目的ではないのだ。その象徴が〝DREAMファイター〟アルバレスなのである。

続くメインイベントでは、宇野薫が石田光洋をチョークスリーパーで下した。外国人同士のハイレベルな攻防から、遺恨に満ちた日本人対決へ。見事すぎるほどの流れである。

宇野も石田も背負うべきものを背負ってリングに上がり、闘った。何よりも大事なのは、そのことだ。〝出場する、しない〟といった〝噂〟や〝政治〟の世界を、宇野と石田の闘いは完全に吹き飛ばした。確かに試合の結果は宇野の勝利、石田の敗北と出た。HERO'Sファイターが勝ち、PRIDEファイターが負けたのである。だが、それよりも重要なのは二人が〝DREAMにおける闘いのドラマ〟を演じてみせたことにある。アルバレスのマイクアピールにならうなら、この一戦も「二人とも勝者」だったのだ。

旗揚げから2カ月、DREAMはついに観客に〝夢〟を見させてくれた。（橋本宗洋）



[08.05.11 DREAM.3 ライト級グランプリ 2回戦]
さいたまスーパーアリーナ

○エディ・アルバレス vs ヨアキム・ハンセン×
（2R 判定3-0）

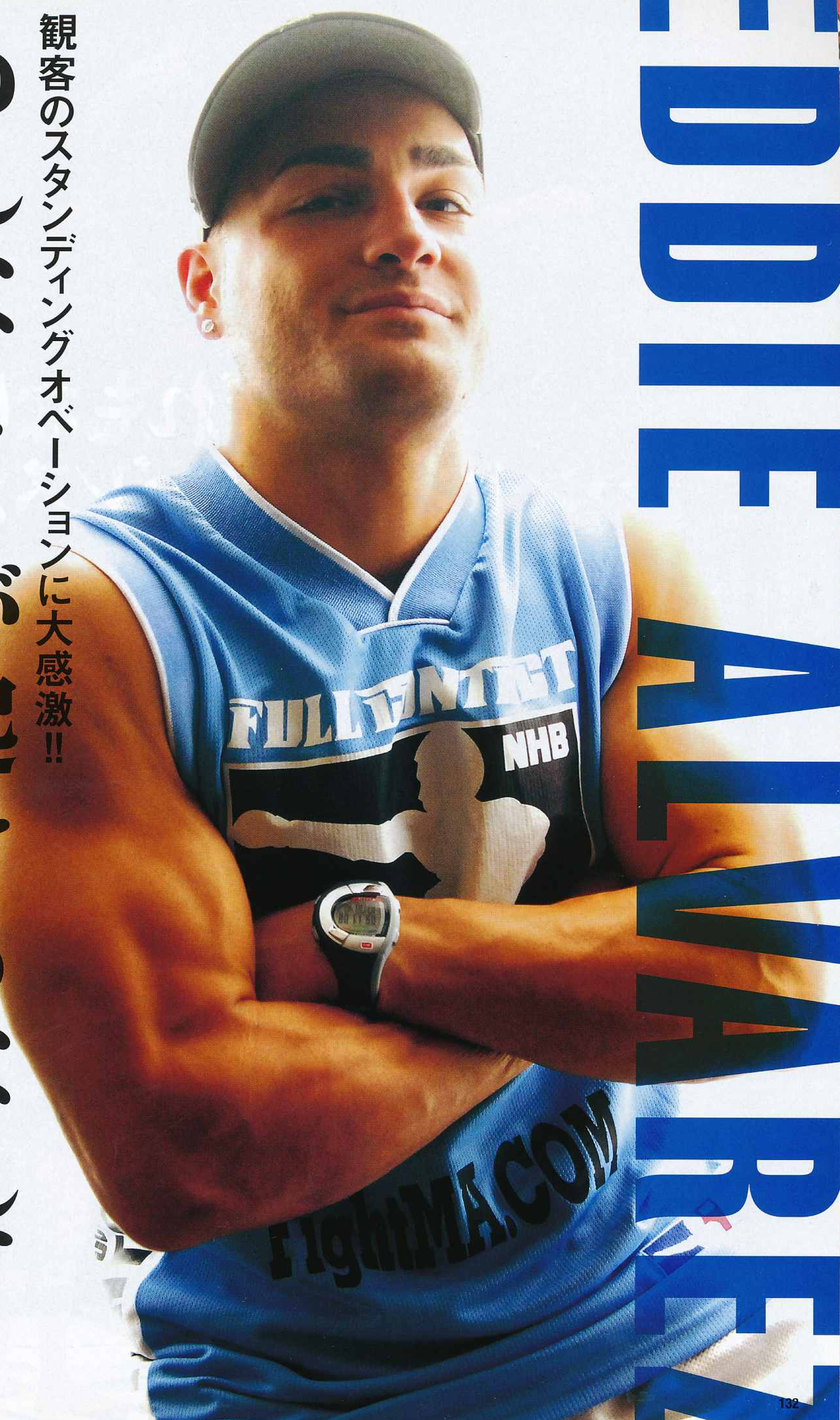
2回戦、屈指の好カードとなった注目のガイジン対決は、1Rから問答無用に攻め立てるアルバレスがハンセンから衝撃のダウン奪取！ だがねばったハンセンは 2R、再三腕十字を仕掛けて大逆襲！ 観客を熱狂させた極上の名勝負は、判定でアルバレスに凱歌があがった。

EDDIE ALVAREZ

観客のスタンディングオベーションに大感激!!

あんなことが起きるなんて……まさに〝ドリーム〟だよ!

最先端の〝名勝負製造機〟が激白!!



最先端の〝名勝負製造機〟が激白!!

エディ・アルバレス

ライト級GP事実上の決勝戦（?）とまで言われた実力伯仲のガイジン対決は超スリリングな展開で観客を魅了！感動的な試合を制した新世代の〝名勝負製造機〟アルバレスに、ファイトスタイルのルーツから、日米の観客の違いまでを、試合翌日の朝に直撃ッ！

聞き手／真下義之　撮影／菊池茂夫　大会撮影／乾晋也

――アルバレス選手、昨日のハンセン戦はホントに凄い試合でした！

アルバレス　サンキュー！　会う人、会う人みんなにそう言ってもらえて、ホントにハッピーだよ（とニコニコ顔で）。

――歴史に残るグッドマッチでしたからね。ちなみに我々は『DREAM・1』のときに取材させていただいた『kamipro』という雑誌なんですが……（と掲載誌を出す）。

アルバレス　あっ、知ってる、知ってる！　アイ・ライク・ディス・マガジン！

――えっ！　ホントですか。

アルバレス　だってこの前、自分で本屋で買ったばかりだもん（笑）。

――すでに自腹で購入していただいてましたか。嬉しいというか、申し訳ないというか。とにかくありがとうございます！

アルバレス　ヘイ、ジェイミー！　この写真、見てよ（と自分の写真を同席した彼女のジェイミーに自慢する無邪気なアルバレス）。どう、グッド・ポーズでしょ？

ジェイミー　フフフフ。格好いいわよ、エディ（と笑顔で見つめ合って）。

――いや～。ラブラブだなぁ！　ジェイミーさんの話はあとでうかがうとして、まずハンセンとの試合を振り返ってもらってもいいですか？

アルバレス　（一転して、真剣な表情で）オーケー。ハンセンはベリー・ストロングだったね。タフマッチができたし、ハンセンにはホントに感謝してるよ。

――試合後に観客が感激のあまり、スタンディングオベーションをしてましたけど、あれには気がつきました？

アルバレス　いや、じつはリングの上では気がつかなかったんだよ。ロッカールームでケガをアイシングしてるときにその話を聞いて、ホントにビックリしたよ。ボクにとって、さいたまスーパーアリーナという憧れの地で、あんなことが起こるなんて……まさに〝ドリーム〟だよ。

――アルバレス選手は、元PRIDEファンですから、感慨もひとしおでしょうね。

アルバレス　イエス！　ボクは毎朝、目が覚めると「今日も自分のベストをつくすぞ」と心に誓うんだけど。その結果、ジャパンのファンが自分たちの試合にあそこまでリスペクトを示してくれた。ハードな練習が報われたし、ホントに幸せ者だよね（しみじみと）。

――2大会続けてベストバウトを連発したことで、早くも〝名勝負製造機〟なんて声も挙がってますけど。

アルバレス　ホント？　フフフフ。そいつは光栄だな。でもさぁ、そうやってスリリングな試合になるっていうのは、「もう、エディはここまでか！」ってくらい、ギリギリまで追い込まれたあとに復活するってことじゃない。だから、一人の選手としては、今後はああいう試合はやめなきゃいけない！（キッパリ）。

――ええっ、それは残念ですよ！

アルバレス　というのはジョークだけどね（笑）。ファンがエキサイトしてくれるならオーケーさ。ただ、あんまりダメージをもらいすぎるのは、ヤバイけど。

――これからもよろしくお願いします。しかし、試合ではあのハンセンと打撃で真っ向勝負して打ち負かしたし、ダウンさせたのも凄かったですね。

アルバレス　じつはね、正直に言うと……そのへんはあんまり覚えていないんだよ（笑）。

――あ、試合を覚えてないんですか？

アルバレス　気がついたら、「あれ！　ハンセンが倒れてる！」って感じでね。そこで、ちょっと躊躇しちゃったのは失敗したけど。

――確かに、ダウンしたときにもっと攻め込める場面はありましたけど。あれはビックリしてたんですか（笑）。

アルバレス　ボクは凄く本能的な部分で動いてパンチを繰り出してるから、いつもビデオを見直すまではよくわからないんだよ（笑）。ただ、コンビネーションの練習はメチャクチャやってるから。もう打撃は完全に身体に染み込んじゃってるんだよね。

――なるほど。しかも、その必殺のパンチを教えてくれたのは、もともとアルバレス選手のお父さんらしいですね。



アルバレスはハンセン戦の激闘からの一夜明け会見では、いたって謙虚に挨拶。PRIDE大好きっ子だったアルバレスだけに「DREAMは地球上でもっとも素晴らしいイベント」と真顔でコメント。DREAM愛に満ちあふれた、新世代のガイジンエースが誕生した！

アルバレス　イエス！　じつはウチのおじいちゃんがプロボクサーだったから、パパもパンチのテクニックを学んでるんだ。それでボクは身体がちっちゃかったし、地元がかなり物騒な町だったら、自分を守るためにコーチしてくれた。もの凄く本格的にパンチの打ち方をトレーニングされたんだよ。

――あの必殺パンチはアルバレス家の一子相伝でしたか。

アルバレス　イヤ～。パパは自分の胸を差し出して、「もっとこい！　もっとこい！」とパンチを打たせてくれたんだ。とにかく、子どもの頃はパパにくっついてたし、『ティーンエイジ・ミュータント・ニンジャ・タートルズ』と並んでパパは僕のヒーローだったんだよ。

――パパは『ニンジャ・タートルズ』と双璧のアイドルでしたか（笑）。

アルバレス　でも、ボクが10歳くらいの頃になって、やっぱり胸にパンチを打ち込んでいたら、パパは「エディ、もう無理だ……」って。

――10歳で大人をギブアップさせるパンチを修得してしまった、と。

アルバレス　イエス。それで、じつはいまも彼女とはすでに子どもが二人いるんだけど……。

――あ、9月に結婚式があるそうですね。おめでとうございます！

アルバレス　サンキュー。それでこの前、「ハッ！」と気づいたら、僕もウチの子どもにパンチを教えてたんだよね（笑）。しかも息子のいまの一番のお気に入りも『ニンジャ・タートルズ』なんだよ。

ボクにとっての〝勝利〟は、ファンの気持ちをつかむこと 試合は、ただ勝つためだけにするものじゃないんだ!!

――そこもやっぱりアルバレス家の〝血〟なんでしょうね（笑）。話を戻すと、試合では2ラウンドにハンセン選手の腕十字など関節技に苦しみましたけど、スタミナが切れた部分もありました？



試合後のマイク劇場では泣かせる言葉を連発し、ファンの涙腺をゆるませたアルバレス。「ハンセン選手が負けてしまったと言いましたけど、それは違うと思います。二人とも勝者です!」とシビれまくる名セリフを炸裂!!

アルバレス　う～ん。スタミナは切れてなかったつもりだけど、少しリラックスしすぎた部分はあるかもね。そのスキをハンセンに突かれちゃったのかもしれない。でも選手としては、あのサブミッション地獄から抜け出てきたっていうのは凄く自信になったよね。

――あの攻防のときは、会場は「ウォォォーッ！」という大歓声で揺れ動いてたんですが、聞こえました？

アルバレス　イエス！　あれは凄かったなぁ。ボクはいつだって、ファンをああやってヒートアップさせたいんだ。いいかい？　試合は勝つためにするんじゃない。ボクにとっての〝勝利〟は、ファンの気持ちを勝ち取ることなんだ。ファンに感情移入してもらって、ボクのことなんか全然知らない人にも興奮してもらえるようなパフォーマンスを心がけてる。だから自分が勝つため、リングに上がるなんてのは自己中心的な話だよ。

――素晴らしいなぁ～。その言葉を肝に命じてほしい選手がいっぱいいますよ。でも、日本で闘ってみてアメリカとの観客の違いは感じますか？

アルバレス　もう、まったく違うね！（キッパリ）。

――あ、そんなに違いますか。

アルバレス　（首を振って）まったく比較にならないよ！　日本のファンは、とにかくMMAに対しての知識が豊富なんだ。それが試合をしててもリアクションでヒシヒシと感じる。でもアメリカのファンはワーワー騒いでるだけで、寝技のことなんかよくわかってないよね。それに一番大事なことは日本のファンは試合中、静かにしてくれるだろ？

――ええ、熱狂しながらも、大事な攻防では息を飲むようにシーンとしてますよね。

アルバレス　そう！　だから試合中にセコンドの指示がもの凄くよく聞こえるんだ。試合中にコミュニケートできるのは、選手にとってはホントに助かるもんなんだよ。

――言われてみればそうですね。それから、試合後にはハンセンが「いままで闘った選手の中で一番強かった」と言えば、アルバレス選手は「二人とも勝者です！」と、お互いをたたえ合ったマイクや礼をし合ったシーンも素晴らしかったですよ。ちょっと涙腺がゆるみましたから。

アルバレス　サンキュー（やや照れながら）。あそこはボクも感情が高ぶってしまったし、最後はお互いの気持ちが通じ合った、ハンセンからのリスペクトを感じたよ。

――〝努力、友情、勝利〟って感じで、80年代の『少年ジャンプ』ばりの感動でしたよ！　もしかして、日本のマンガとか読んでます？

アルバレス　ノー。申し訳ないけど、コミックの類は読まないんだ。どちらかというと僕のメンタルの根源は『タオ（道教）・スポーツ・アスリート』という本によって、形成されてるんだよね。

――ほう。そんなにやんちゃなルックスなのに、道教の本で精神を学ばれてましたか。

アルバレス　イエス。その本の中には「勝とう、勝とうと思って試合をするな、自分のパフォーマンスに集中しろ」とか、「魂を込めた試合をしろ」とか、じつにためになる言葉が並んでいるんだよ

――ちなみにアルバレスさんは、UFCよりPRIDEが好きだ、と公言されて

ォーッ！」という大歓声で揺れ動いてた

だ。試合中にコミュニケートできるのは、

――ちなみにアルバレスさんは、UFCよりPRIDEが好きだ、と公言されて





会場のビジョンにも大映しになったが、試合後のアルバレスに駆け寄った金髪美女がジェイミーさん。前回の来日では、ホームシックならぬ、ジェイミーシックになったアルバレスが、海外遠征時の破壊王ばりに国際電話をかけまくったというから最高だ。

EDDIE ALVAREZ

ますけど、ケージファイトとリングファイトでは、やっぱり違うもんですか？

アルバレス　う〜ん。どうだろうね。ボクは確かにリングのほうが好きだったけど、ケージとリングで闘うことは大きな違いはないと思ってる。準備をしっかりして集中して闘えば、リングだろうとケージだろうと変わらない。たとえストリートファイトだって変わらないさ！

――地元のストリートファイトでも変わりませんか（笑）。それから決勝ラウンドで闘いたい相手は？

アルバレス　誰だってオーケーだよ。どっちにしても優勝するためには、3人のうち二人とは闘わなきゃいけないんだろ？

――自信マンマンのようですね。そんなアルバレス選手ですが、さっきから目配せしたりして、ホントに彼女とはラブラブでうらやましいですよ！

アルバレス　フフフ。ジェイミーはキュートでしょ？　彼女とは運命の糸で結ばれてるし、ボクらは5日間以上は絶対に離れられないんだ！

――ダハハハハ！　5日以上は無理ですか。

アルバレス　イエス！　それに彼女はボクの闘いの女神なんだ。これまでだって、いつも試合のときは傍らにいてくれたんだから（と再び、見つめ合って）。

――ハンセン戦でも、リングサイドにいらっしゃいましたもんね。

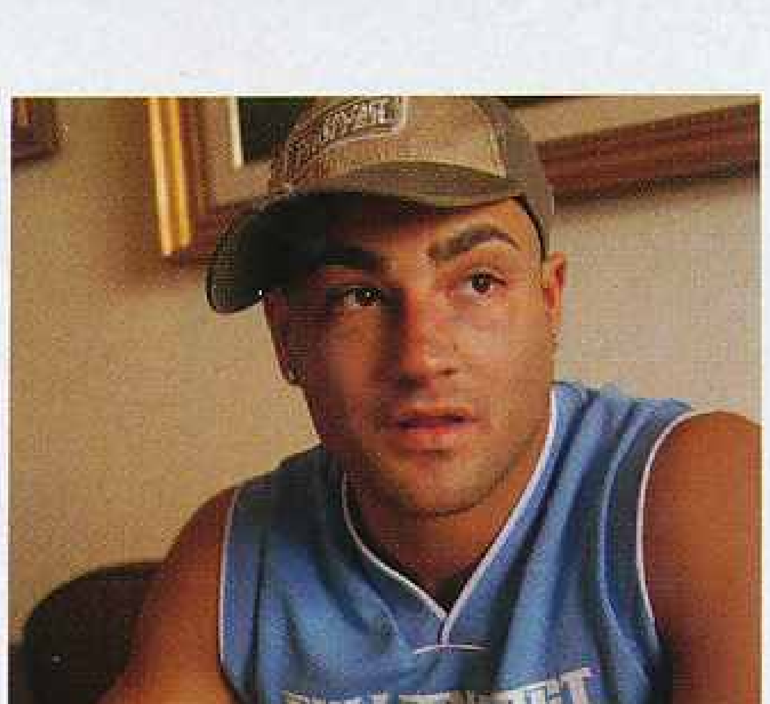
アルバレス　それだけじゃない。地元のストリートファイトのときだって、いつも彼女が側にいてくれるんだからね。だからボクは負けたことはないんだよ。

――ストリートファイトのときも一緒!?

アルバレス　だから、前の試合のときに一緒に来れなかったのは、二人にとって凄く大きな試練だったんだ。まぁ結局、日本からは何回も長電話しちゃったんだけど（笑）。

――ダハハハ！　末永くお幸せに。そして、決勝ラウンドも期待してます！

【08年5月12日／都内・ホテルにて収録】



EDDIE ALVAREZ■1984年1月11日、アメリカ出身。恐るべき身体能力を持ち、寝ても立っても打撃で攻めまくるスタイルは脅威の一言。ライト級GPをかき回し、優勝候補に飛び出した"新星"。177センチ、70キロ。

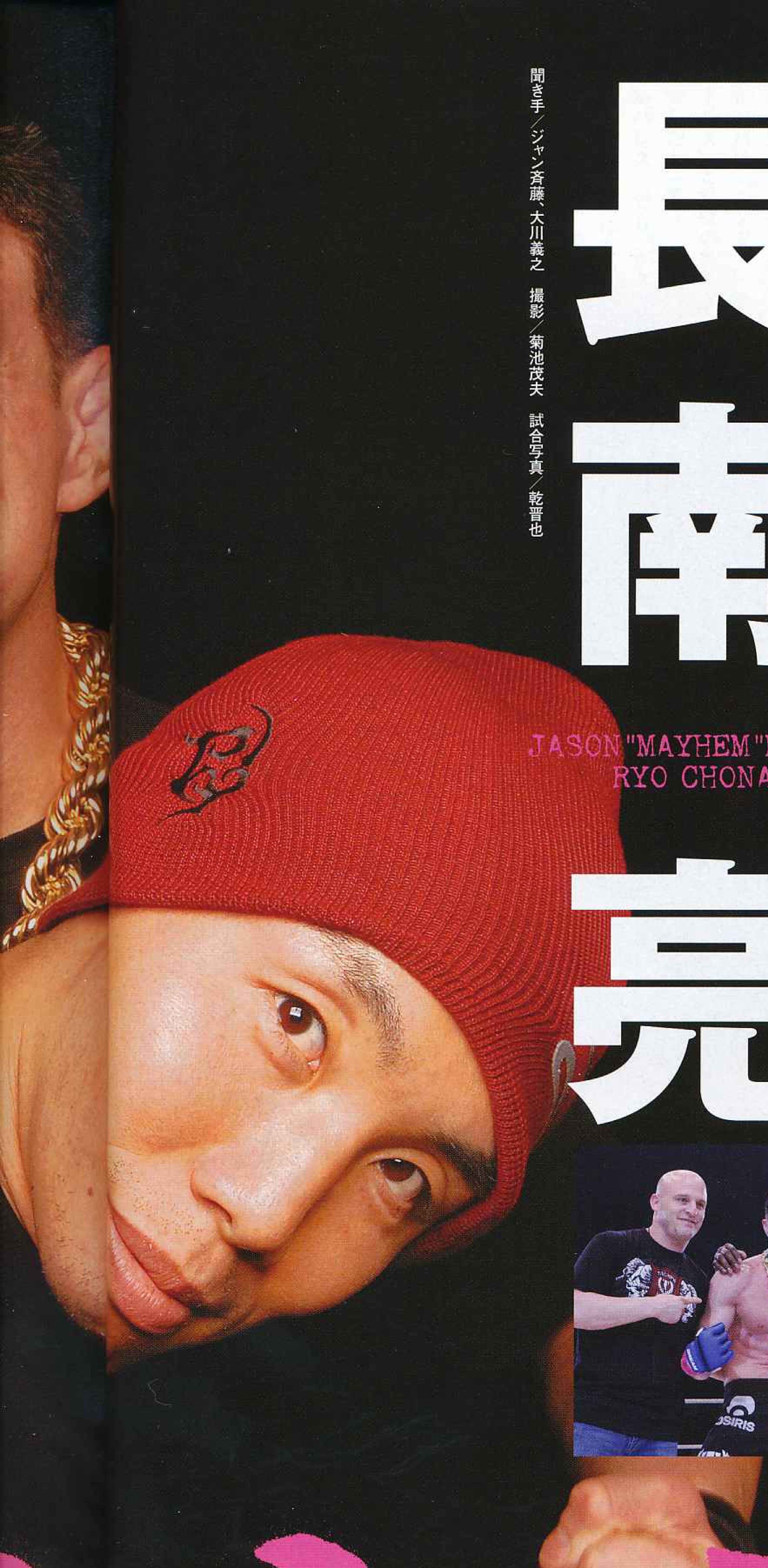
噂のバカが日本初上陸!!

〝保護者〟のピラニアが舞台裏を暴露！

ジェイソン・ミラー×長南亮

JASON "MAYHEM" MILLER
RYO CHONAN

聞き手／ジャン斉藤、大川義之　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也





カ対談

激烈バ



メイヘムって、なんてバカなんだ!! ジェイソン・ミラーのニックネーム〝メイヘム（MAYHEM）〟には、破壊行為、混乱、傷害罪など、いろんな訳し方があるが、彼の〝サービス精神旺盛な愛すべきトンパチ〟ぶりを見るかぎり、〝バカ騒ぎ〟と訳すのが似合いそうだ。

桜庭和志や須藤元気へのリスペクトを感じさせる趣向を凝らした入場シーン、そしてどこまでもおバカなトークとその特異なキャラで、米・HDnetの格闘技番組「insideMMA」に、たびたび登場するカルト的な人気者だ。

もちろん、ただのお調子者ではなく、周囲の人間が「じつは非常にスマート」というように、きちんとオンとオフの切り替えができるアクターでもある。

また、かつてはローカル団体でプロレスの試合をしたこともある変わり種。でありながら、チーム・クエストで練習する凸凹コンビの相棒・長南亮に「鬼強」と言わしめる寝技の技術で、デニス・カーン、ロビー・ローラー、ロナルド・ジューン、イーゲン井上からことごとくタップを奪った実力の持ち主だ。

今回、DREAMミドル級GPの最後の枠に登場したミラーは、まっさらなDREAMのリングにぴったりの、まったく新しいファイター、いや、〝プロレスラー〟と言えよう。その摩訶不思議な〝メイヘムワールド〟を盟友・長南との対談で堪能せよ!

「長南はオレのアニキ。オレのミスは長南が責任を持つ（笑）」（ミラー）「何を言ってるんだよ、このバカ!!」（長南）

——今日は長南さんとメイヘムさんの〝日米マブダチ対談〟が実現しましたが、先ほど『GONKAKU』でも同じ対談企画をやったそうで。どうせだったら、ウチだけの独占にしてくださいよ!

長南　まあ、『GONKAKU』ではバカな話はしてないので、『kamipro』的には問題ないと思いますよ。グフフフ。

——それなら安心だ……って、ウチをなんだと思ってるんですか!

メイヘム　（日本語で）バカァ!?

——はい、今日はメイヘムさんのバカぶりに迫りたいと思ってます（笑）。そもそも二人は、どうやって知り合ったんですか?

メイヘム　さっそく教えてやる! 出会いはちょっとオシャレなバーだったよ。彼氏、キレイな瞳をしてるなぁって……（遠い目で）。それが恋の始まり、キャッ!!

——いきなり何を言いだしてるんだ、このバガイジンは（笑）。

長南　そうだ。いいかげんなことを言うな、このオカマ野郎!!（笑）。

メイヘム　ガハハハハハ! まあ、それは冗談だけど、きっかけは彼がチーム・クエストにやってきたことだよな。チョーナンはほとんど英語がしゃべれなかったんだけど、なぜかウマが合ってダチになったんだ。オレがチョーナンに英語を教える代わりに、彼から日本語を教えてもらうようになったってわけ。いまじゃ、チョーナンはオレのアニキ!!（日本語で）。

——ウマが合ったのは長南さんもバカだったりするからですかね?

メイヘム　イエス! イエスッ!!（満足

バカ対談

げにうなずきながら）。

長南　イエスじゃないよ！

メイヘム　チーム・クエストで、自分よりブサイクなのは、チョーナンしかいないからね！

——長南さん、とんでもないこと言われてますよ！（笑）。

長南　いやあ……、ホントにバカだなあ（しみじみと）。

メイヘム　オイッ！　通訳がなくても何を言ったかわかったぞ!!

長南　グフフフフ。

——語学交流を越えて、心も通じ合ってますか！（笑）。

長南　いや、語学で交流したということではなく、遊びの範疇ですね。だから、郷野（聡寛）さんみたいに、真剣に学校で勉強したり、そういうレベルじゃないんで。日本人って普通、英語を学ぼうとすると、まず挨拶とか、身近で必要とされることから覚えようとするじゃないですか。でも、メイヘムたちは「オカマ」とか「バカ」とか、そんな言葉から覚えるんですよ。

——なぜだ（笑）。

メイヘム　まあ、オレたちはお互いをののしり合うために覚えるからな！　やっぱり、一番大事なのは、どうやってチームの仲間をからかうかってことなんだ。「オカマ」だったら、英語、フランス語、日本語、スペイン語、アラビア語、エジプト語で言えるぜ！　どうだ!!

——そこまで究めると逆に凄い（笑）。

長南　コイツら、ホントにへんなんですよ。アメリカ人は「ゲイ」っていう言葉が大好きで、「なんで日本人は、人をバカにするとき、『オカマ！』って言わないんだ？」って言うんですよ（あきれたように）。

メイヘム　うんうん。日本人はもっとオカマという言葉を使うべきだな！

——どうして、そんなにオカマが好きなんですか？

メイヘム　こほん。説明に時間がかかるがよろしいかね？（妙にかしこまって）。

——はい。さっさとお願いします。

メイヘム　アメリカで「オカマ」っていうと、いわゆる侮蔑の言葉になるんだ。でも、お互いをののしるときに「このオカマ野郎！」って言うのは、ちょっと日本と感覚が違うんだな。じつはもの凄く失礼なことなんだ。でも、それを相手にわざわざ言うことに、なんとも言えないおもしろさがあるんだよ〜！　わかったか、おい！



[08.05.11 DREAM.3]
さいたまスーパーアリーナ

○ジェイソン・“メイヘム”・ミラー vs 柴田勝頼×

（1R 6分57秒 レフェリーストップ）

ついに実現したジェイソンの日本初試合。序盤にスタンドで柴田のパンチを数発被弾するも、寝技では一気に本領発揮！　マウントでVサインを決め、モンゴリアンチョップ、ヒザ、パウンドの猛爆で柴田に何もさせず完全勝利！

——なんとなく。しかし、ここまで「オカマ」について力説するファイターは聞いたことがない（笑）。

長南　要するに幼稚ってことですね（笑）。

メイヘム　は〜ん？　オレのことを幼稚って言ったけど、チョーナンは、オレの車に乗ってるときにわざわざ窓を閉めてオナラするんだぜ！　それで「ガハハハハ!!」って笑うんだ！

長南　オマエも同じことするじゃねーか！

メイヘム　フン！　いつもオレと一緒にいたがるくせに！

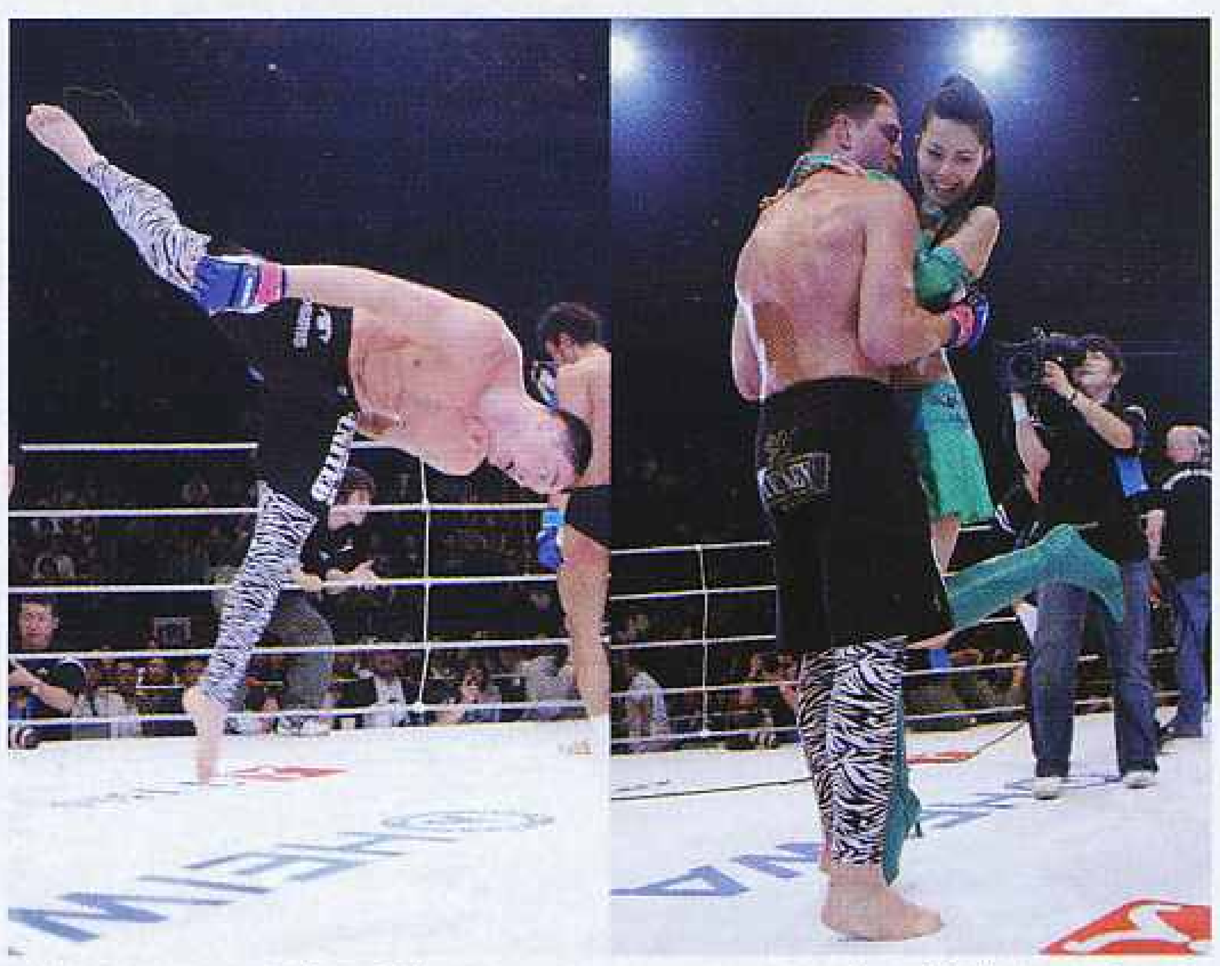
——あら、お熱いこと（笑）。

長南　何を言ってるんだ、このバカ（笑）。

トレーナーのライアン　類は友を呼ぶってことだな！

——そんな親友のために、長南さんはわざわざ日本に戻ってきたんですよね？

長南　はい。それは心配なことが何点か



試合後には、お得意の側宙キックからニセカンフーポーズを決め、ラウンドガールに抱きついて喜びを表現。マイクでは長南直伝の日本語で「ワタシハ、アクマ！　バケモノ！　スーパーサルッ!!」と絶叫して“ハイテンション・メイヘム劇場”を展開するなど、強烈なインパクトを残したのだった。

あったので。まず日本語で、なんかへんなことを言いだしかねない。

——それは長南さんがいっぱいへんな言葉を教えたからですね？

メイヘム　（いきなり立ち上がって）そうだぁぁ！　チョーナンがへんなことばっかり教えるのが悪いんだぁぁ！　ギャハハハハ!!

長南　それから、同じトーナメントに出ている、ある選手に『オレと闘え！』とか言いだしたりする心配が……。″ある選手″っていうのは、想像にお任せしますけど（笑）。

——あっという間に想像できました（笑）。悪ノリして「チョーナンから命令されたんだよ!!」と言いだしかねないんですよね。

長南　ホントに。

ライアン　メイヘムが日本で何か間違いを起こしたら、それは全部チョーナンのせいだな！（笑）。

メイヘム　そのとおりっ！

長南　（無視して）それも経緯があって、メイヘムの昔の師匠はティト・オーティズなんですよ。ティトって、昔のオレの師匠と似たタイプらしいんですよね（苦笑）。

メイヘム　うんうん。だからお互いの苦労がよくわかるんだよなあ。

——そんなところで意気投合!!（笑）。

長南　だから、コイツのことだから、ホントによけいなことを言いだしかねないなあ、と（笑）。いまは離れてから何年も経って自分一人でやってるわけだし、ただの思い出話ですからね。

——しかし、そんなことだけのために戻ってきたんですか？（笑）。

長南　まあ、それだけじゃないですけどね（笑）。

メイヘム　ダイジョーブ！　いまは女の子をナンパする言葉だけを覚えようと思ってるから！　カワイイオンナノコ！

長南　コイツ、日本人と結婚したいみたいですよ。

メイヘム　うん、アメリカの女の子は怠け者でダメだ！

長南　料理してくれて、掃除してくれてっていうのがいいんだって。

メイヘム　ハイッ！（日本語で）。

——誰か日本人で知り合いがいたりするんですか？

長南　自分の同級生がロサンゼルスにい

激烈バカ

るけど、その子を気に入ってましたね。

メイヘム でも、彼女には彼氏がいたからなあ（残念そうに）。

長南 それで、その友だちをいま狙ってるんですよ。

メイヘム そうそう！

――ホントに大変な人だなあ。ほかに何か心配事はありましたか？

長南 セコンドが入場でダンスをやったじゃないですか。あれ、当日はちゃんとかたちになってましたけど、大変だったんですよ！ じつはmy space（世界中に会員が存在する大規模なコミュニティ・サイト）でダンサーを探して、大会当日に初めて会ったんですよ。

メイヘム いやあ、ラッキーだったなあ。試合前日にやっと連絡があったんだよな！ ガハハハハ！

――じつにムチャクチャですね！（笑）。

長南 しかもコイツ、試合前に近くのそば屋にごはんを食べに行ったんですよ。

メイヘム うんうん。あのそば、メチャうまかったぜ!!

――けやき広場の地下のそば屋だ（笑）。

長南 ただでさえ、第2試合なんで時間ないじゃないですか。ドクターチェックがあって、バンデージ巻いて、そしてダンスのヤツらと打ち合わせをやって。それでメシ食いにまで行くんだから、あきらかに時間がない。なので、オレが全部仕切ったんですよ。ダンスの人と演出の相談をして、バンデージもオレが巻いて。んで、やっと食い終わったと思ったら、今度はスターバックスに行きだして。

――試合前に？（笑）。

長南 そう！ 試合前に！ それで、「早くしろ、早くしろ!!」って急かして。

メイヘム ガハハハハハ！ いやあ、スマンかった!!

長南 いやあ、ホンット、疲れましたよ！ いままでセコンドした試合の中で一番疲れましたね。

メイヘム もうチョーナンはオレのアニキだから。ただのセコンドじゃないっ!!

長南 うるさいよ!!（笑）。

――メイヘムさんに逆にお聞きしますが、長南さんの悪いところってなんですか？

メイヘム ク……ク、クサイ！（日本語で）。

――ダハハハハハ！ 何がそんなに臭いんですか？

メイヘム いやいや、ジョーダンだよ（笑）。チョーナンに悪いところなんてないよ。大人になったら、チョーナンみたいになりたいよ。

――アンタだって、大人でしょう（笑）。

メイヘム＆ライアン ノー！ ノー!!（声を揃えて）。

――否定しないでください（笑）。いまは一緒に住んでるんですか？

長南 いまは週末だけですね。

ライアン ブハハハハハ！ その言い方はヤバイ！

長南 なんで？

ライアン 「週末はいつも一緒にいる」って表現は、英語だとホモ同士の会話みたいな意味になるんだよ！

長南 何を言ってるんだよ、このホモヤロー！（笑）。



ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。01年にプロデビュー。03年に桜井“マッハ”速人をTKOで破って頭角を現わし、『PRIDE武士道』で活躍したのち、07年からUFCに主戦場を移す。6.7『UFC85』でホアン・“ジュカオン”・カルネイロ戦が決定している。175cm、80kg。

JASON MILLER■1980年12月24日、アメリカ出身。MMA戦績21勝5敗。奇天烈な性格と極めの強い寝技力でカルト的人気を誇るトンパチファイター。『UFC53』ではジョルジュ・サンピエールに判定負けしたものの、強烈なインパクトを残してその名を知らしめた。185cm、84kg。

「チョーナンがへんなことばっかり教えるのが悪いんだぁぁ!!」（ミラー）

「ホンット、いままでセコンドした中で、一番疲れましたね」（長南）

――でも、長南さんのブログを見ると、メイヘムと二人でよく外に出かけに行くんですよね？

長南 ライアンに隠れてハンバーガーを食いに行くんですよ。

メイヘム ライアンがそばにいないと、二人でこっそりと食べに行くんだよ（笑）。

――そこでも、ホモっ気をアピールすると（笑）。メイヘムさんはモノマネも上手だって聞いたんですけど？

ライアン ダン（・ヘンダーソン）のモノマネをやれよ！ 手を貸してやろうか？

メイヘム （眠そうな声で耳と鼻を押さえて）右を……、ずっと入れてぇ……しばらくしたらぁ、ダウンとれてぇ……。

ライアン ギャハハハハハ！

――これはビデオじゃないとわからないなあ。長南さん、似てるんですか？

長南 似てますね（笑）。

メイヘム （ちょっと真顔になって）あのね、オレはおかしなヤツだっていう悪名が高いんだけど、ただチームのみんなで楽しくいたいんだ。誰かが落ち込んでたりしたら、幸せな気持ちになってほしいし、自分がちょっと悲しいときでも、みんなが幸せだったら、悲しくないだろ？

――あのバカっぷりにはそんな配慮があるんですねぇ。メイヘムさんの闘い方は、柔術的な理詰めの部分と、ひらめきが混ざっているような気がしたんですが。

長南 いや、むしろ、そういうひらめきは少ないような気がしますね。あんまりリスキーなことはしないですよ。それを補うのが、入場であったり、トークであったり、表情であったりするんじゃないですか？ 技自体は、凄く真面目だと思います。全部がただのバカだったら、たぶん、練習とかでも交われないと思うんですよ。練習とか、試合とかは凄いシリアスですね。

メイヘム オレはバカな振る舞いもしてるけど、じつはオレが身につけた技は、規律をもとにして何回も何回も繰り返して練習したものであって、バカな真似とかおバカな行動とかは、オレの規律を持っている自分のおまけの部分なんだよ。

ライアン メイヘムは、みんなに「ただの頭のイカれた男だ」と見られているけど、じつは本当に頭がよくて、チームの中でも非常によく練習するグループの中にいるんだ。練習が始まる前と終わったあとは、おバカになるんだけど、非常にまじめで指導のしやすい選手になるね。

長南 そうですね。だから、日本のファンも〝ただのバカ〟だと思わないでほしいですね。

――〝スーパーなバカ〟ってことでよろしいですか？（笑）。

メイヘム ギャハハハハ!! カワイイオンナンコ！

【08年5月12日／都内・某ホテルにて収録】

助走期間終了! 夢の舞台がいよいよフルスロットル!



DREAM
『ようこそ!宇野薫さん』座談会

主催者推薦枠問題で渦中にあった“プリンス”宇野薫が因縁の石田光洋に激勝!
外国人同士の格闘史に残る死闘に観客総立ち! 大会前の期待値とは裏腹に、
まさに「夢ならさめないで〜!」と叫びたくなるほどの盛り上がりを見せた『DREAM.3』を、
DREAMウォッチャーの夢追い人(?)たちが興奮冷めやらぬ大会直後に語りたおします! 夢がモリモリ!

試合写真/乾普也

ライト級GPは闘いを積み重ねて興味が出てきたことに価値がある

――前回の『DREAM・2』からわずか2週間足らずで『DREAM・3』を迎えたわけですけど、こっちも大会終了から1時間もないうちに会場付近のファミレスで座談会をやるという強行スケジュールですよ。

橋本 まだ会場じゃメインの選手あたりが試合後のコメントを出してるんだろうな～。

――そうですよね。もしかしたら宇野（薫）と川尻（達也）がバックステージで乱闘しているかもしれない（笑）。

ガンツ まぁ、何はともあれファミレスで語るのはもったいないぐらいに今回はいい試合を見せてもらいました！

橋本 できれば、この大会を肴に飲みたいくらいだねぇ。

ガンツ じゃあ飲みますか！

――（おもいきり無視して）DREAMも3回終わって助走期間も終わった感じじゃないですか。『DREAM・4』からは総力戦になるような雰囲気もあって。

橋本 『DREAM・2』の青木（真也）vs（JZ）カルバン戦で扉が開いて、今日の大会で一歩目を踏み出したかなっていう。

――そうですね。ただ、今回は大会前のワクワク感を恐ろしいほど感じなかったんですよね。何か一つの原因があったというわけじゃなくて、カード発表が遅いとか試合がスライドしたりして焦点がボヤけたりとか、複合的な理由なんでしょうけど。

ガンツ 試合前日にこんなに〝試合前日感〟がない大会も珍しいよね（笑）。

橋本 『DREAM・2』から短いスパンということもあって〝溜め〟もないからね。でも、入場者数の公式発表は『DREAM・2』より4000人くらい多いんだよ。

――大爆発のドサクサに紛れてそんな発表を!!（笑）。

ガンツ まあ、成功に乗じていろんなドタバタが記憶から飛んでるねぇ。

――恐ろしいですよ！ マヌーフの肺にチューブがまだ入ったままで闘った件とかにしても、とんでもない話じゃないですか（笑）。

ガンツ 一歩間違えなくてもやっちゃダメだよ！

――まあ、なんだかんだ言ってメチャクチャおもしろかったですけどね。とくにライト級!!

橋本 見ごたえのある階級ってことを再確認したね。

――大会前はゴタゴタでイメージが悪かったんですけど、フタを開けてみればって感じですね。もしここで青木vsカルバン戦もやっていたとしたら……。

橋本 凄まじい興行になってたと思うよ。削ぎ落とされてGPの役者が揃ったっていうのもあるしさ。

ガンツ 今回は勝ち進んでも、いわゆる夢のカードが待ってるわけじゃなかったのに、闘いを積み重ねることによって次への興味が出てきたっていうのは価値があるよね。



『HERO'S』最後の砦として万感の思いが胸に去来したのか、入場時の王子の目には涙がキラリ。公開練習では「この世代がもう通用しないとは思われなくない」と、宇野は〝総合格闘技界のパイオニア〟として悲壮な決意。これぞドラマチック格闘技!

橋本 そうだね。だからまさにDREAMの世界観が構築されていく過程っていうのが、『DREAM・2』の第1試合と今日の後半3試合で見えて。

ガンツ 説得力ありましたもんね、どの試合も。あとはDREAMになってから参戦した新しい選手がよかった。

橋本 今回からDREAMファイターっていうのが生まれた感じがする。

ガンツ メイヘムとかもキャラもあるし。

橋本 俺、プレスルームでPPVを観てたんだけど、試合開始時点でもうメイヘムはうっすら汗かいてるんだよ（笑）。それを須藤元気が見て、「ダンスって疲れるんですよね。柴田選手、攻めるならいまですよ。僕もそうだったんでわかります。ダンスやる選手は先入場のほうがいいんですよ」という思わぬ技術論が展開されて（笑）。

――自称・実況評論家のボクから言わせれば、TK&元気コンビは新しい解説スタイルです！ 二人とも〝やる側〟で硬めに見えるけど、なんだか間が抜けているとふうで心地よいというか。

橋本 そうそう、忘れちゃいけない、中村（大介）vs（チョン・）ブギョン戦もおもしろかったよ。

――いいですよね、中村は。「強い！」ってたたえることができる人はたくさんいるけど、「エライ！」とまでほめたい選手はひさしぶりですよ。だって、いまのMMAであそこまでUWFにこだわるんですから。う～ん、エライ!!

ガンツ 中村なんて普段は西調布で40人の観客の前でU-STYLEの試合してるんだよ。このあいだ数えたらホントに40人しかいなかった（笑）。

橋本 水増ししてないんだ（笑）。

ガンツ でも、その40人の前で凄くいい試合しているんだよ。

橋本 そういうとこで鍛えられた選手がこういう大舞台で光るのって、やっぱ嬉しいよね。

ガンツ あと今日はなんと言ってもハンセンがよかったな～（しみじみ）。

橋本 夢枕獏さんばりに「よかったね～」って言いたいね（笑）。

ガンツ 前号の本誌のハンセンのインタビューで、5段階評価の戦力分析ゲージのサブミッションが3になってたことを、「俺のサブミッションが低すぎる!!」って文句言ってたけど……ホントにすいませんでした！

橋本 今回のハンセンは、ノゲイラみたいに耐え忍んで極めて勝つていう、格闘技特有のスリリングさを見せてくれそうだったよね。

ガンツ そして、あのモンキーフリップからの腕十字!!

橋本 モンキーフリップじゃないよ！ 柔術の技術だよ（笑）。

ガンツ そのほうがわかりやすいでしょ、あの腕十字にしたってきっとジャベ（ルチャリブレの関節技）だよ、アレ（笑）。

橋本 コラコラ、ジャベじゃない、

座談会出席者

橋本宗洋
日本最重量級ライターであり、局地的に話題沸騰中の「DEEPメガトンGP」の実行委員も務める。最近は変態座談会にもすっかり仲間入り。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主宰者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『Kamipro』編集部へ。永久電機など、アントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。



宇野の“プリンス”らしからぬ鬼気迫る表情を見よ！ 試合後に宇野は「練習したとおりの動きができてびっくりした」と語ったように試合を終始支配。負けた石田は頭にタオルをすっぽり被り、山田トレーナーに抱きかかえられながら退場。勝者と敗者のコントラストが残酷なまでに美しい一戦！

ジャベじゃない（笑）。

――なるほど。「3」をつける理由がわかった（笑）。

ガンツ 試合後も美しかったねぇ。観客がスタンディングオベーションでさ。

橋本 また二人とも泣かせるマイクで。「努力・友情・勝利」の世界だよ。「俺たち二人が勝者だ」って、ホントに『週刊少年ジャンプ』の漫画の最終回みたいだったもんね。

ガンツ いやあ、二人ともいい人だ！ 本当にいい人だ！ ジョー・ディートンばりに（笑）。

橋本 ハンセンだけに「ディートンはとってもウィー（いい）やつだから」って（笑）。

――アルバレスの「皆さん、メインカードが待ち遠しいでしょうからこれくらいで引き上げます」という締めも、いい人ぶりがにじみ出てるけど、宇野と石田からすればもの凄いプレッシャーですよね（笑）。

ガンツ 15分フルタイム完全燃焼の試合をやられたあとにメインを張るわけだし（笑）。

――でも、宇野と石田も質は違いましたけど、〝ディス・イズ・DREAM〟な試合をやったじゃないですか。

橋本 二人とも闘ってたねぇ。宇野は強くて格好よかったし、石田の姿もグッときた。

――ついでにあの試合の煽り映像、佐藤大輔も闘ってましたよ！

ガンツ あの煽り映像は凄かった！ 『DREAM・1』で、試合後の川尻と欠場した宇野がバッタリ会って、川尻が宇野に絡んだという噂は流れてたんだけど、まさかその場面が煽り映像の中で出てくるとは（笑）。

――あくまで噂レベルのエピソードだったんですけど。まさか現場を押さえるとは思わなかったし、さらに使用するなんて、各方面に波紋が起きるのは目に見えるじゃないですか。ムチャするな～。

橋本 あと川尻も試合では印象を強く残せなかったけど、試合後の宇野と握手したときになかなか手を離さなかったり、マイクで鬼気迫る対戦表明をしたり、かなりその存在感が増したよね。

――完全に〝非日常〟ですよね。川尻のやり方に顔を背けたり、きっと批判する人もいると思いますけど、そんなちっぽけな世間の常識で計ってくれるなっていう。娑婆じゃないんだから！

ガンツ まあ、茨城のヤンキーではありふれた行為なんだろうけど（笑）。

――川尻って、まばたきをあんまりしないからメチャクチャ怖いし（笑）。

橋本 基本、目が座ってるしね。「やれんのか？」じゃなく「やりすぎだ！」っていうか（笑）。その川尻の対戦表明に「検討します」って冷静に切り返す宇野も絶妙だったよ。

ガンツ やっぱり本来、宇野は我々〝変態〟の世界がよく似合うんだよ（キッパリ）。ようやく帰ってきてくれた。

――あ、宇野のほうから離れていたんだ。さすが変態、都合のいい論理だ（笑）。



格闘技が最後に問われるのは リングで決着つけようとする姿勢

ガンツ　お帰りなさい!!　宇野はUWFがメチャチャ大好きじゃない。ホントは変態座談会に参加したいはずなんだよ。

橋本　ククク。それはどうかは知らないけど、宇野って基本的にえげつないんだよね。（佐藤）ルミナをフック一発でKOしたあと、あっさり修斗のタイトル返上しちゃったり。ああいうえげつないことやるのがハマるというか。

ガンツ　でも、相当緊張してたよね。

橋本　試合前の入場時の顔っていままで見たこともない表情だったよ。

ガンツ　裏側から煽りVを見てメーターが上がったのか、すでに涙目だったでしょ。それに対して石田は気合いの入った凄くいい顔で。

橋本　だって『やれんのか！』のパーカー着込んじゃってたもん。

ガンツ　何かを背負うことによってモチベーションにするというのは、変態の大好物ですからね。

——宇野は勝ったあとに「『HERO.S』代表の宇野薫です」ってマイクアピールしてたけど、その"HERO.S愛"はホンモノらしくて。宇野が『HERO.S』がなくなるって聞いたのは、DREAMができる直前だったらしいんですね。それで谷川さんに「もっと大事にしてください」と言ったらしくて（笑）。

ガンツ　んあ〜！　やっぱり谷川さんは大事にしてなかったんだっていう（笑）。

橋本　『HERO.S』の選手にも、自分のホームリングだった『HERO.S』への思い入れみたいなのが当然あったんだよね。宇野ってクールなイメージだから、そういうのは関係ないのかと思ったけど、じつは人一倍持ってたんだな。

——それがあぶり出されたのは、試合前の舌戦を含めた一連の流れでしょうね。

ガンツ　それと同時に感覚的にDREAMはアウェイなんだって理解していたろうし。

橋本　そうそう。

ガンツ　試合後も興奮してガッツポーズとか決めてたけど、あんな宇野は見たことないよね。

——やっぱりおもしろいのは、その人の本性が丸裸になった瞬間ですよ！　川尻はヤンキーだったし、宇野薫の皮を剥いだら変態だったのは驚きですけど（笑）。

ガンツ　ホントはプリンスはプリンスでも、魔界のプリンスですよ（笑）

橋本　アシュラマンだ（笑）。

——しかし、これで7月の決勝は盛り上がるでしょう。青木はアルバレスとやりたいみたいだし。

橋本　いいねぇ！　青木vsアルバレスっていうMMAの超未来型の試合、そして川尻vs宇野の超変態向けの対決。実現すれば最高だよね（笑）。

——なぜか、永田さんが青木に負けることを前提に話が進んでますけど（笑）。

ガンツ　しかしさ、DREAMってちゃんとイベント運営をしてたらもっと盛り上がってたよ。

橋本　こんだけドタバタしててもおもしろいんだからね。

——一連のドタバタは三崎（和雄）vs秋山（成勲）戦の裁定ヒックリ返しからスタートしてるところがあるじゃないですか。

橋本　あそこから負の連鎖が始まった感じはするよね。

——なんか、あれからリング下がモヤモヤモヤモヤしてきたんですよ。でも、格闘技が最後に問われるのは、やっぱりリング上で決着をつけようとする姿勢じゃないですか。宇野は言葉には出さなかったけど、熱い思いが見えたし、川尻なんかもあそこまで暴走してまで決着を求めた。青木やカルバンも決着をつけたいからこそ無理して闘った。石田も背負わなくてもよかったけど、あえて背負った。みんな男ですよ！

橋本　行き着くところはそこだよね。たとえばプロレスだと事情があって実現不可能みたいなカードが、ままあるわけだよね。格闘技ってそれがないのが魅力だったりしたんだけど、今年に入ってからのDREAMや『戦極』って、『週プロ』の宍倉次長ばりに「いまはわけがあって書けないが……」っていう状態が続いて。そこにやっぱり凄く違和感があったんだけど、こうして宇野とかが出てきてくれると、ちゃんとかたちになるんだなって思ったね。

——やっぱり今日の川尻じゃないけど、「とにかくやろうぜ！」的な狂った純粋性は格闘技の醍醐味ですよ。だから宇野vs石田戦とか青木vsカルバンの再戦なんて、もっと盛り上がってもよかったんですよね。ただ、あまりにもゴタゴタが続いたせいで、ホントは楽しめるドタバタも質が悪いもんだっていう認識のファンってかなりいたと思うんですよね。

橋本　宇野vs石田戦とかに関しては上質のゴタゴタなんだけどね。

——上質のゴタゴタなのに、あまりにもほかのゴタゴタが尾を引きすぎてて。悪貨は良貨を駆逐する感じで。

橋本　あと俺が今回嬉しかったのは、ちゃんと宇野に対して女性ファンの声援が飛んでたことだね。DREAMにはあれが必要だったんですよ。

——そういう意味ではKIDvs今成正和戦が実現したりでもしたら、会場はとんでもない雰囲気になりますよ！

ガンツ　KIDの女性ファンvs変態!!

——今成とか盟友の青木は見かけからして、大変態ですし（笑）。

ガンツ　しかし、あらためて言うのもなんだけど、宇野薫のテーマ曲は腹立つぐらいカッコいいよね。宇野はセンスよすぎなんだよ。中村大介を見習えって。中村なんて『西部警察』のテーマだぜ（笑）。

橋本　宇野はインタビューするときも、NIKEとコラボして作った自分のパーカーみたいなの上下着て、キャップと時計と靴を白で揃えてっていう見事なコーディネートでさ。参考にしちゃうぞ、このヤローって感じで（笑）。

ガンツ　やっぱり変態は『やれんのか！』パーカーでしょう（笑）。

橋本　しかもご丁寧にスポンサーのロゴは黒テープで隠してあったよ（笑）

——石田の国旗を持っての入場も変態向けですよね。

橋本　T-BLOODのロゴ入りのね。あれ、最初は川尻が「俺、旗



じつはアルバレスはハンセンの大ファンだったとか。自分が尊敬するファイターと名勝負を演じ、なおかつ勝利を収めたとあっては夢が実現したようなもの？　そして、本来は一階級上のアルバレス相手に真っ向勝負を挑んだハンセンは、今大会の"裏MVP"に勝手に決定！

ライト級やフェザー級は完全に未来にベクトルが向かっている

持って入場しようかな」って作ったんだけど、本人が一向に使う気配がないから、石田が「せっかくだから」「もったいないし」って自分で持つようになったらしいよ。

――いい話ですね、石田らしくて（笑）。

ガンツ　まあ、そんな宇野でもいわゆるDREAMでファンにも受け入れられる可能性が十二分に見えましたよね。

橋本　うん、あったあった。

ガンツ　PRIDEしか認めないド変態以外の、まともな格闘技ファンに（笑）。

橋本　うん。あの石田から一本取っちゃうんだっていう衝撃ってあると思うし。

ガンツ　まあ、もう融合して一緒のリングだしね。それになんだかんだいって、宇野だってPRIDEに参戦してたらPRIDEファンは大歓迎だっただろうから（笑）。山本〝KID〟郁徳だって所（英男）だって（須藤）元気だって、PRIDEに来たらバンバンザイだっただろうし。

――いまはあのPRIDEでもできなかったことをやろうとしてるわけですよ。IGFでもできなかったズンドコはやりとげましたけど（笑）。

ガンツ　だからようやくその夢が始まろうとしてるんじゃない？　この本が発売される頃にはどうなってるかわからないけど、6月の大会には（エメリヤーエンコ）・ヒョードルやミルコ（・クロコップ）が出るっていう話もチラホラ流れてるからね。

――〝ただの試合〟じゃないかたちで出るとか、出ないとか。

橋本　青木vs永田さんは確定だし、あとKIDも出るんでしょ？

ガンツ　ほぼ内定しているみたいですね。

――いいや、DREAMの予定や内定は、パンクラスのタイトルマッチ並みに信用ならん（笑）。

橋本　そういえば、前号の魔王表紙、とんでもないことになってたね（笑）。



JZカルバン戦での負傷により、ライト級GP2回戦の青木vs永田の"元警官対決"は6.15『DREAM.4』にスライド。ちなみに永田はこの試合から二週間足らずでなんと挙式予定！　下馬評は青木有利だが、永田には負けられない理由がある（TBSナレーション調）。

ガンツ　まあ、昭和プロレスみたいに、せめて「秋山成勲DNA」で済ませてほしかったですよね。昭和プロレスでそれをやったら抗議はなかったみたいだし。

――DREAMでやったら暴動になるよ！

ガンツ　（無視して）KIDが主人公となるフェザー級は今回から始まったんだけど、まだ体重が何キロになるかも決まらずにスタートしてるっていう（笑）。今回の山崎vs昇侍は67キロみたいな。

橋本　じゃあそれはフェザー級とは言わないよね（笑）。

ガンツ　普通に67キロ契約だろ！って（笑）。あとはミドル級がどうなるか。

橋本　ライト級やフェザー級は完全に未来にベクトルが向かってるけど、ミドル級は過去をいろいろ引っぱってるからね。だからホナウド・ジャカレイとかメイヘムとか、ユン・ドンシクとかが活躍すれば、未来に向かう大会にはなる。過去の精算との折り合いがつけば、さらに盛り上がるよね。

ガンツ　折り合いどころか、いまだに桜庭どころか田村も出るかどうかもわからないっていう（笑）。

――発売する頃には組み合わせが決まってますよ……たぶん。

橋本　これ、22日発売だっけ？　さすがにそれまでには……。

――いやいや、6月6日の『カミスペ』のほう。

橋本　そっちかよ！

――いや、そこでも間に合わないか。

ガンツ　ありえるね、充分（笑）。

――そのカミスペは、5・18『戦極』、5・24『ハッスル・エイド』&UFC84の速報、そしておそらくDREAM直前情報満載！……のはずです。

ガンツ　宇野薫が参加する変態座談会も載っています！

――ないないない！（笑）。

【08年5月11日／『DREAM・3』直後にさいたまスーパーアリーナ近くの『デニーズ』にて収録】

もしも“夢”なら〜、さめないで〜!!
5.11 DREAM.3 クロスレビュー

構成／真下義之
撮影／乾晋也
イラスト／北出裕貴

第1試合 [フェザー級ワンマッチ]

◯山崎 剛
[2R終了 判定3-0]
昇侍×



“KID階級”の新設に向け、GRABAKAの山崎剛とパンクラスの現役ライト級王者である昇侍が激突! 試合は打撃で攻める昇侍を何度もテイクダウンし、苦しみながらもグラウンドで優位に進めた山崎が判定で勝利!

第2試合 [ミドル級GP 1回戦]

◯ジェイソン・“メイヘム”・ミラー
[1R 6分57秒 レフェリーストップ]
柴田勝頼×



噂のトンパチ野郎がついに日本上陸! メイヘムはプロレスラーの柴田を相手に寝技でモンゴリアンチョップ、ヒザやパウンドを次から次へ残酷にブチ込んで完勝! 試合後のマイクでも強烈な印象を残した。

第3試合 [ミドル級GP リザーブマッチ]

◯メルヴィン・マヌーフ
[1R 4分8秒 TKO]
キム・デウォン×



“猛獣”マヌーフが、K-1欧州大会から2週間という短いスパンながらミドル級リザーブマッチ緊急出場! 屈強なデウォンにスタンドで押される場面もあったが、グラウンドのヒザとパウンドで見事に逆転勝ち!

第4試合 [ライト級 ワンマッチ]

◯中村大介
[2R 1分5秒 KO]
チョン・ブギョン×



田村潔司の弟子vs韓流腕十字職人の寝技対決! 試合は期待を裏切らない高度な腕十字合戦が展開されたが、2Rに中村が右フックでブギョンからダウンを奪い、そのままパウンドを落としまくってのTKO勝利!!

“世界のTK” 会場観戦 髙阪 剛



こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年にリングスに入団。その後、日本人初のUFCレギュラーとなる。06年に現役引退。現在、代表を務める『A-SQUARE』にて後進を育成。名解説者としても知られる。

昇侍はこれから伸びる
山崎はスタンドに付き合ったり、ヒザ蹴りを警戒して距離を取ったりしていたら判定のポイントももっと割れたかもしれない。自分のできる土俵のところを最大限使ってなんとか勝てたって感じでしたね。昇侍は足首をケガしてたみたいですけど、これから全然伸びる選手だと思いましたね。

ジェイソンは“強いバカ”
キャリアや技術の差もあると思うけど、ハッキリ言って地力の差が出ましたね。ジェイソンは計量パス後、当日は93キロとかに戻ってたと思うんで。ジェイソンのことは前から知ってるんですけど、ああいう“強いバカ”っていうのはアメリカのジムには必ず2〜3人いるんですよ(笑)。

マヌーフを見直した
マヌーフが大会前に手術してたのは試合後に知ったんですけど、単純によくやりましたよね。選手としてはケガを隠してやるのはダメだけど、格闘家としてはちょっと見直しましたね。そういう状況での今回の闘い方はマヌーフにとって、いいヒントになったんじゃないかと思いますね。

連携ができている中村
中村は腕十字もそうですけど、足関とかも寝技を連携させる部分がしっかりできているので、それもあって最後のストレートが当たったと思うんですよね。ブギョンはテイクダウンのバリエーションもまだ少ないし、あとは打撃に対する練習不足と経験値のなさが出ちゃったって感じですね。

ドラァグクイーン 会場観戦 アナニーナ・K



あなにーな・けー■19XX年6月10日、日本国生まれ。本業であるWeb系ライターの傍ら、見た目は派手なのにしょっぱい活動がウリという地味女装(ジミージョ)としても活動中。色白、体毛薄、痩せ〜ちょいガッチリくらいが大好物。

髪型対決は三十路の勝ち
何が見ものって、二人の髪型でしょ。上地雄輔ばりのブロックカラー対決! 山崎(博多華丸似のほう)が6つも年上なのに、ハイブリーチってのにグッときたわ〜。あと、山崎のサポーター・パンツのゴムらしきモノがずっと見えていて、ドキドキ・ハラハラしていたのはナイショ。

センスの違いが格の違い
入場パフォーマンスやゼブラのレギンスを穿くあたり、ただの外国人じゃないわねって感じだったんだけど、いざ試合が始まると、一枚も二枚も上手なのねって思っちゃったわ。マウントをとってのピースサインにMCの内容、すべてにおいてセンス抜群! 顔は好みじゃないけどね……。

セコンドとの妄想爆発
入場時にはセコンドと見つめ合ったり、首輪を着けたり、なんだか怪しい雰囲気じゃないの〜? なんて思わせてくれたマヌーフ。最後にはオデコにキスまでされちゃって、もう妄想するしかないじゃない、こういうのって。え? 試合内容? 妄想してたら知らないあいだに終わってたわ……。

腕十字はどこへ……
煽りVで「勝っても負けても、腕十字」って言われたら期待するじゃない、普通。それがアゴ殴って終わりなのよ!? どうなのよ、コレ!? 看板に偽りありじゃないの〜? それと中村の太ももの肉のたるみが気になってしょうがなかったわ。短いパンツ穿くなら気を使ってちょーだいな。

流浪の本誌編集者 会場観戦 阿修羅チョロ



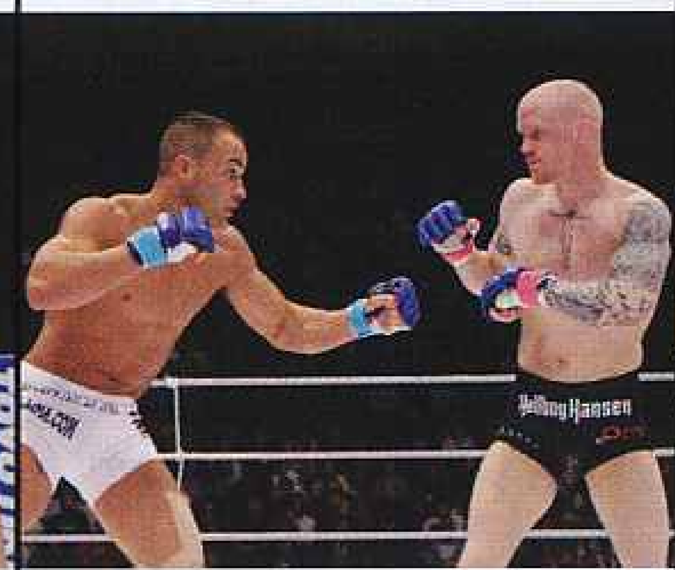
あしゅら・ちょろ■1972年1月16日。岩手県生まれ。本誌編集部。07年より、なぜか“阿修羅”名を語り、一部では“ホームレス編集者”疑惑もある36歳。最近は自らが考案した『戦極』ポーズやDREAMポーズの普及に邁進中。

プチ・プレミアム
煽りVでも煽ってたように、GRABAKA勢はあの『やれんのか!』から130日ぶりのさいたま登場! 三崎も見れたし、昇侍のセコンドには所がついてたりとプレミアムな感じ。ところで昇侍といえば……、たまたまトイレに行ったら、PRIDE初期を支えた小路(晃)に遭遇したのもプチ・プレミアムでした。

柴田応援団長的には……
煽りVで流れた江頭2:50&男色ディーノのテーマ、布袋の『スリル』がメイヘムの“狂人”キャラにハマってました。試合後の柴田には「プロレスに戻るつもりはないの?」なんてキツイ質問も飛んでましたが、柴田応援団長的には、DEEPあたりでシノギを削って、再浮上を狙ってほしい!

好感度は急上昇!
メイヘムのあとでインパクトは弱め? いや、肺にチューブが入ったまま試合に出たマヌーフもトンデモないって! 入場ではふとっちょのトレーナー・マイクの説教シーンがおなじみだけど、あの場面はマヌーフを更生させたガチな師弟関係がベースと聞いてマヌーフへの好感度は急上昇!

見えないリザーブマッチ
中村はエライ! 大舞台でも打算も気負いもなく、シッカリ勝っちゃうのがエライ! この試合はリザーブマッチではなかったんだけど“見えないリザーブマッチ”としての権利は得たかな、と。青木vs永田は元・警官同士対決で、中村の入場テーマも『西部警察』だしね(敬礼)。

大会総評	第8試合 [ライト級GP 2回戦] ○宇野 薫 [2R 1分39秒 チョークスリーパー] 石田光洋×	第7試合 [ライト級GP 2回戦] ○エディ・アルバレス [2R終了 判定3-0] ヨアキム・ハンセン×	第6試合 [ライト級GP 2回戦] ○川尻達也 [2R終了 判定3-0] ルイス・ブスカペ×	第5試合 [ウェルター級チャンピオンシップ代表決定戦] ○ニック・ディアス [1R 6分45秒 TKO] 井上克也×
				
3回目を迎えたDREAMがついに大爆発!! 笹原EPも「一本やKO狙いの姿勢が感じられた」と語るようにアグレッシブな試合が連発、とくにセミとメインはPRIDEでも『HERO'S』でもない新世代の名勝負となった。	2回戦から主催者推薦枠で出場の宇野に納得できない石田は、キレのある打撃とタックルで攻め立てるが、宇野は冷静に先を読んでこれを制し、2Rには見事にチョークで石田からタップを奪い、因縁の一戦に激勝!	戦前には"事実上の決勝戦"とも言われた外国人対決は、期待を裏切らない名勝負に! ハイレベルな大熱戦を制したのは、2度のダウンを奪ったアルバレス。試合後、観客はスタンディングオベーションで両者をたたえた。	ライト級GP2回戦で3年前の『PRIDE武士道』の再戦が実現! リベンジに燃えるブスカペだが、"クラッシャー"川尻が、持ち前の強力なパウンドで相手を圧倒し、判定勝ち。GP準決勝にコマを進めてみせた。	ウェルター級タイトルの挑戦権を懸け、"五味に勝った男"として知られるディアスと元パンクラス王者の井上が激突! 試合はリーチで勝るディアスがジャブでダメージを奪いTKO勝利。マッハとの対戦権をゲット!
いい流れになってきた 主催者側とお客さんと選手が噛み合わないといい大会にならないってよく思うんだけど、今回はその3つが噛み合ったなって気がしましたね。1試合目からメインまで観る側の期待感に選手も応えていた感じで、前回と今回でDREAMはいい流れになってきてるなって凄く思いましたね。	**誰も何も言えない** 大会前は試合以外の部分でいろいろと騒がれてましたけど、これはもう試合の中身を観たら誰も何も言えないでしょ。石田も凄いよかったんだけど、最後の宇野のスリーパーは、あそこで"判定じゃなく絶対に極めてやる"って気持ちとこだわりがあったからこそ一本取れたと思いますね。	**よくぞカードを組んだ** 試合前は、よくぞ、このカードを組んだものだと思いましたよ(笑)。打撃を打ちにいくもん同士だから、勝ち優先で距離を取って試合をされたらトンデモなくつまらない試合になった可能性もありましたからね。まあでも、結果的にはメチャメチャ凄い試合になったんでよかったですけどね。	**とても川尻らしい試合** 凄く川尻らしい試合だなって思いましたね。結果としてKOはできなかったけど、ブスカペがディフェンスのやり方とか失敗してたらKOされてたと思うんで。川尻の試合って凄い不器用なんですが、その不器用なことを器用にやりのけたっていうのが、ちょっと自分は観てて響きましたね。	**ディアスの計算勝ち** ディアスは減量苦があってか、身体つきを見てもあんまり調子よさそうではなかったですね。逆に自分は井上にタックルにいってほしかったなぁって。そこから寝技の展開っていうのを個人的には見たかったんですけどね。結果的にはボディを効かせたディアスの完全な計算勝ちでしょうね。
地味さがクセになる!? 全体的に静かな展開が多かったのが残念。でも、次は何かスゴイのが見れるかもって期待して通っちゃいそう。そういう意味では、その地味さがいい塩梅になってるってことかしら。個人的にはタイプの選手がいなかったのが痛いわ。もう少し若い選手のレビューしたかったわ〜!	**永遠のプリンス……** 宇野って、『DREAM.3』に出ている選手の中で最年長(32歳!)なのよねぇ。それでプリンスっていうのはどうなのよ? 確かに童顔だけどさ。まぁ、カラダの綺麗さはあいかわらずだし、2万人以上のお客さんに見守られながら、金的の痛みを耐える姿が個人的にはキュンときたわねぇ〜。	**見所満載でお腹いっぱい** 序盤の見所は、スリップして露呈したお尻をピシィッと蹴ったアルバレス。中盤は鼻血でどんどん色づいていくハンセンのタトゥー。最後は満身創痍の中、抱き合ったまま崩れる二人……。闘いっぷり、二人のMC、そしてたっぷりの萌えポイントと、素晴らしい試合だったわ〜!	**長原成樹って知ってる?** うしろから抱きつかれて、川尻(『探偵ナイトスクープ』の長原成樹に似てる)が股間に手を当てて、必死にほどこうとしてるのがよかったわ〜。男子校の休み時間に「オメー、やめろよー」って笑いながらやってそうな感じ。この二人に関してはその先にムフフな展開がないんだけどさ……。	**素直なニックに萌え** 両者ともリーチが長いためか、密着する時間が短かかったわね。なんというか、セクシーさが足りなくて欲求不満な感じ。でも、レフェリーの口頭注意を受けて頭を下げるニックがかわいかったから、よしとするわ。なんだかアメリカB級青春映画の主役周辺にいそうな顔よねぇ。
誰かDREAMポーズを 1回、2回とやってきて3回目の正直。ようやくDREAMも大会名に試合内容が合致してきたかな、と。大会に文句はないんですけどあえて言うなら、僕が発案した『戦極』ポーズはジョシュに託しましたけど、「夢なら〜、さめないで〜。DREAM、DREAMER、DREAMING!」のDREAMポーズも誰かにやってほしいなぁ〜。	**涙腺ゆるみました** 宇野選手は昔から取材してて、じつは「似てる」って言われた時期もあったけど(照)。初めてのヒール的な流れで不安もあったけど、入場の戦闘モードの顔だけで涙腺ゆるみました。最後の「お母さんに捧げます」って言葉も、大会前にお母さんにバッタリ会ったから……泣けたなぁ。	**極上のガイジン対決!** "浮沈艦"までいかないが、こちらのハンセンも常連ガイジンっぽさが届いてきて、21世紀のハンセンvsベイダーばりの極上ガイジン対決に! ちなみに俺の斜め前でスタンディングオベーションしてたドレッド野郎は『THE OUTSIDER』で"新宿のカリスマ"瓜田純士と対戦したaym-jet選手でした。	**川尻は助演男優賞** 川尻はブスカペ戦は勝つことに意義があったから、最大の見せ場はメインのあと。気持ちを押さえきれず暴発した宇野への対戦アピールは、間違いなくドラマをつなげた大会の助演男優賞だったと思います。これからも予定調和をブチ壊してほしいですね。クラッシャーだけに(弱火)。	**ピー音が気になりました** 煽りVでのピー音は気になりました。五味戦が●リファ●陽性反応でノーコンテストになったのがネタでしょうが。ディアスは"悪童"で売ってるから、「どんだけワルなの?」と思ったら試合中の口頭注意で「すみません」ってペコリと頭を下げ、凄く礼儀正しかった。いいヤツじゃん!

―今月もまた〝格闘技評論家〟の谷川さんにマット界を総括していただこうと思います！

谷川 んあ～。でも、じつは『DREAM・3』の全カードが出た瞬間、5月11日のあとにインタビューを受けるのをやめようかと思ったんだよねえ。

―ダハハハハ！ 正直言って、まったく盛り上がってなかったですし（笑）。

谷川 でしょ？ だってボク、大会前日に熱が出たもん。ひさびさに体調が悪くてさあ、身体が拒否反応を起こしたんだよね。

―そこまで!!（笑）。今回、谷川さんがインタビューを受けたくないと思った一番の理由ってなんですか？

谷川 やっぱり、まだうまく回らないというかさあ。なんて言うのかな、本来なら青木vsカルバンはやっぱり大晦日にやりたかったよね！

―また、ずいぶん遡りましたねぇ。

谷川 だって、それが『DREAM・2』にズレ込んだでしょ。それをちゃんと大晦日にやってれば、どんな結果になろうが『DREAM・1』から違うドラマをスタートできたのになって。

―青木vsJZといい、魔王（秋山成勲）のことといい、確かに歯車が噛み合ってない感じがしてましたよね。

谷川 デコボコな感じなんだよお。決してマッチメイクの努力不足とかじゃなくて、なんだか運がもの凄く悪いというかさあ。

―そこを無理やりまとめようとすると、それはそれで綻びが出そうですもんね。でも、『DREAM・2』からは確実によくなってきてるんじゃないですか？

谷川 ウフフフフ。本当によかった。前に、「興行に神が舞い降りる」という話をしたと思うんだけど、『DREAM・3』はわりとそうだったよね。

―『DREAM・2』も『DREAM・3』も終わってみると本当におもしろかったし語りがいがあるなって思うんですけど、問題は試合前のワクワク感というか、高揚感が薄かったことだと思うんですよ。

谷川 ああ、カード発表があんなに遅れていたら、ファンもどう楽しめばいいのかわからないしねぇ。まあ、今回のことで言うと、宇野くんに関してはボクの中でもちょっといろいろあったからさ。

―そうだったんですか？

谷川 『DREAM・1』は最初だから、FEGが宇野くんの窓口だったんです。「なんとか『DREAM・1』に出れない？」みたいな交渉をしてたんだけど、やっぱりアゴのケガで出られないから「今年はスーパーファイトにしてださい」って話をしてきたんですよ。宇野くん本人も「1回戦から出られないのに、途中で出るのは自分がほかの参戦選手の立場だったらおかしいと思うんで」って言ってたけど、結局、ボクのほうから主催推薦枠の話になってさ。

―宇野選手にしてみたら、本意じゃなかったわけですか。

谷川 だから、実際に出ることになったら、宇野くんが批判されてさあ。そしたら、なんか固くなっちゃってボクの電話にも出てくれなくなったんですよ！

―まあ、DREAMにいいようにダマされたと思ったんでしょうね。

谷川 『HERO'S』側の選手は「旧PRIDEスタッフに潰されちゃう」という感覚が凄くあったみたい。昨日の煽り映像でもKIDが判定に首をかしげてる映像がバンバン流れてたけど、10分、5分の2ラウンド制だしルールが違うことによって判定基準も違ってくるからねえ。ボクなんかも石田光洋vsチョン・ブギョンとか、昨日の昇侍vs山崎剛の試合なんかも、逆をつけてたかもしれないくらいだし。

―そこは細かい基準の違いなんですかね。

谷川 そういうことを含めて不信感があるのかなって。逆に、石田くんとか川尻くんにしてみれば、やっぱりFEGは『HERO'S』の選手をかわいがってるって思ってるんじゃない？ 「秋山とかKIDとか宇野くんだけ優遇してスターにしようとして、自分たちにはこんなに厳しいことやらせて」とかさ。

―まあ、少なからずそういう感情はあるでしょうね。

谷川 でもさ、そういう話でいうと、今回驚いたのは、じつは宇野くんとかが凄く『HERO'S』愛を持ってたことなんだよね。

―今回は、自ら「『HERO'S』代表の宇野です！」って挨拶をしてましたもんね。

谷川 うん。じつを言うと『HERO'S』がなくなってDREAMになることは、一番最初のDREAM会見の二日前にみんなに言ったんだけどさあ……。

―その噂は本当だったですか!!（笑）。

谷川 うん。本当に誰にも伝えてなかったんですよ。最初から相談するつもりもなかったし、最初から相談しなくてもいいと思ってたから。ボク、関係者に対して根回しとか一切しないしね!!

―んあ～！ 根回しゼロ（笑）。

谷川 で、二日前ぐらいに、「『HERO'S』をやめて、新しくDREAMやるから」ってことをみんなに電話し始めたの。「前田さん、こういうわけなんで、一つよろしくお願いします」とか、「秋山くん、このままの流れで今年も頑張ってよ」とかね。で、驚いたことに宇野くんに話をしたときに凄くショックを受けてたんですよ。なんか、『HERO'S』ってものに愛着があったみたい。それはボク、凄く意外だったなあ。

―んあ～！ 谷川さんのそういう仕業が結果的に『HERO'S』愛を芽生えさせたのかもしれない（笑）。

谷川 「残念です！ なんでなくすんですか!? 凄く楽しかったのに！」って言うから、なんか凄く嬉しいなあって思ったし、「ホントにごめ～ん」って思った。

―「ごめ～ん！」じゃすみませんよ（笑）。

谷川 で、宇野くんに関してはブラックマンバとかジダとかカルバンたちがDREAMで負けることに対して凄く悔しい気持ちがあるみたいで、そこでまた驚いたんだよね。キャラ的にそういう気持ちがあると思わなかったからさ。もっと言うと、KIDくんにもあるみたいだし。

―解説席では旧PRIDEの選手に対して辛口ですもんねぇ。

谷川 それはビックリしたし、ヒリヒリした緊張感を感じて嬉しかったですね。で、これはあとから聞いたんですけど、石田くんと闘ううえで、宮田（和幸）選手がずっと宇野くんのところに練習に行ってたらしいんですよ。

―それは、どういう意図があったんですか？

谷川 要は宮田選手と石田くんはタイプ的に似てるし、タックルは宮田選手のほうがぜんぜん速いからね。スタイル的に二人ともタックルしてパウンドするのが凄くうまいタイプだから、今回宇野くんに協力してたのかなって。

―なんか、いい話じゃないですか。

谷川 そういう意味では、PRIDE vs『HERO'S』って構図は選手の中では残



サダハルンバ、『DREAM.3』で実感!!

HERO'Sに愛はあったよ〜

“格闘技評論家”にしてK-1ワールドユース総帥

谷川貞治

サダハルンバ、『HERO'S』愛に感激!?
5.11『DREAM.3』にて大決闘を演じた宇野薫vs石田光洋戦。この闘いにおける宇野の一連の言動から『HERO'S』愛をビンビン感じたと話すサダハルンバであるが、その真意はいったいなんなのか!?
3大会目にしてようやく軌道に乗った感のあるDREAMを、今号も“格闘技評論家”谷川貞治が愛をもって語りつくす!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

ってるんだよね。ボクとかスタッフはわりとお互いの良さも悪さもわかりながら、もう完全に打ち解けて協力してやってるんだけど。

――ちなみに、谷川さんの中で『HERO'S』勢が負けることに対して悔しいという思いはなかったんですか？

谷川　もちろん愛着があるから悔しいんだけど、それよりも一番思ってるのは、ボクはストーリーが逆だと思ってるんだよなあ。

――逆といいますと？

谷川　プロモーターの立場から見ると、本当は旧PRIDE勢がどんどん負けて、たとえば最後に青木くんとか川尻くんが勝つのが絶対に正解なんですよ。だから1回戦はやっぱり『HERO'S』の選手が勝たないといけなかった。で、たとえばカルバン、ジダ、エディが残ってる中で、決勝で青木なり川尻なりが優勝するとか、そういうのが最高に盛り上がるパターンだと思ったんだけどなあ。

――でも、ライト級に関しては川尻選手と宇野選手はかなりいい流れじゃないですか？

谷川　いい流れだけど、昨日の宇野くんの役割は、ボクの中では旧PRIDEの選手がやることなんだよね。そしたらPRIDEのファンって、7月も観に行こうって感覚になると思う。宇野くんがあんな試合をしても、『HERO'S』のファンがたくさん戻ってくるかといったら、そういうムードになってくれればいいけどなかなか難しいしね。『HERO'S』のファンってPRIDEは行きにくいと思うし、そういう意味では逆なんだよね。

――でも、PRIDEとか『HERO'S』のカラーを抜きに、新たにDREAMファンというのがつきそうな感じがありましたよね。

谷川　うん。そういう気配はあったよね。ボクはDREAMのポイントはエディ・アルバレスだと思うなあ。あれは凄く新しいよ！　あとは、ミドル級でいうと、（ホナウド・）ジャカレイとか、なんだっけ昨日の頭のいい子……。

――ジェイソン・ミラーですか？

谷川　そうそう。PRIDE vs『HERO'S』って、どっかで絶対に消化されちゃうから、そのときに必要なのは外国人も日本人も問われるのは〝新しさ〟だよね。

――谷川さんが言うとおり、昨日のライト級でも何がよかったかって、〝新しい〟って感じがしましたもんね。

谷川　絶対にそれは必要なんですよ。そこがDREAMのポイントだよね。あとは『kamipro』だから言うけど、昨日のセミ、メインはスタン・ハンセンvsブルーザー・ブロディ（ヨアキムvsアルバレス）を観たあとの藤波辰爾vs長州力みたいな感じだったよね。

――ああ、本当にそんな感じでしたね。川尻が宇野くんに噛みつくさまはまさに長州っぽくて。

谷川　石田くんもいい試合をしたよ。感情も見えたし、ボク、石田くんの中で一番いい試合だったんじゃないかなって。それに川尻くんもよかった。

――メイン後のマイクがまた盛り上げましたもんね。ただし、川尻さんはあのマイクに関して今日の会見でも謝ってましたけど。

谷川　んあ～！　なんで謝るんだろう？ボクは謝る必要はない思うんだけどなあ。

きだ。彼は何が好きなのかわかりにくい人だから





――まったく同感ですね。

谷川　むしろ川尻選手はあの場面があったからこそ凄味があったわけだから。それに、あのときの宇野くんがまたたっつぁん（藤波）っぽかったよね！

――そうそうそうそう!!（笑）。

谷川　「いまは試合が終わったばっかりなんで、あとでちゃんと考えます」って（笑）。そう言えば、宇野くんにもう一つムッとされたことがあってさあ。宇野くんってプロレス好きで前田（日明）さんとか船木（誠勝）さんとか、アントニオ猪木とか佐山聡とか、そういうのが好きなんですよ。だから、その宇野くんに対して「宇野くんって、藤波辰爾みたいな人だね」って言ったらちょっとムッとされたんだよね。

――んあ～。どっちかといえば、いい意味に受け取られないからなあ（笑）。

谷川　それはともかく、宇野くんに『HERO'S』に対する愛があったのは驚きだったし、しゃべってても宇野くんってわかりにくいからさ。何が好きなのかがわかりにくい人だからね。

――本当に感情がないわけじゃなくて、胸に秘めてる感情があるのがいいですよね。あのやりとりは結論的に凄く子どもっぽいんですけど、腕っ節の強さがモノサシになるのは子どもと格闘家だけだからそれでいいんですよ（笑）。

谷川　そうだよね。

――で、今度は決勝ラウンドなわけですけど、谷川さんはどんな組み合わせが観たいですか？

谷川　もう、くじ引きでいいんじゃないの？（アッサリ）。個人的には宇野くんは青木くんが残ったら青木くんか川尻くんか、どっちかとやるべきだと思うけどね。

――谷川さん的にはどっちがいいですか？

谷川　ドラマが川尻、試合は青木かな。青木くんと宇野くんの試合なんか想像がつかないしさ。

――青木vsエディもいいですけどね。

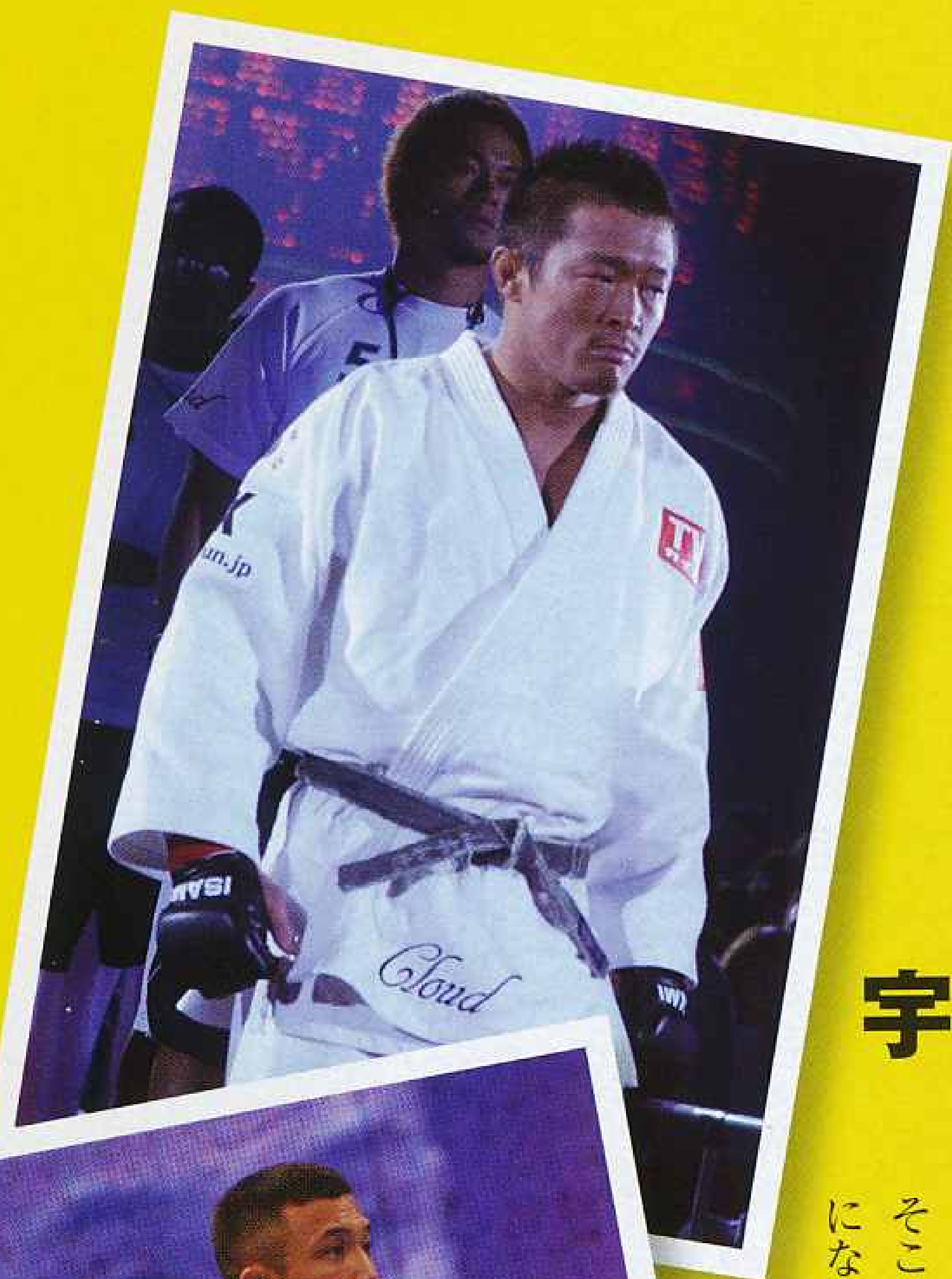
谷川　いいねえ～（しみじみと）。なんかさあ、ライト級っておもしろくない？（身を乗り出して）。

――主催者がいま頃何を言ってるんですか！（笑）。

谷川　だって、カルバンが1回戦で負けるんだもん。これは凄いよ～（目を丸くして）。

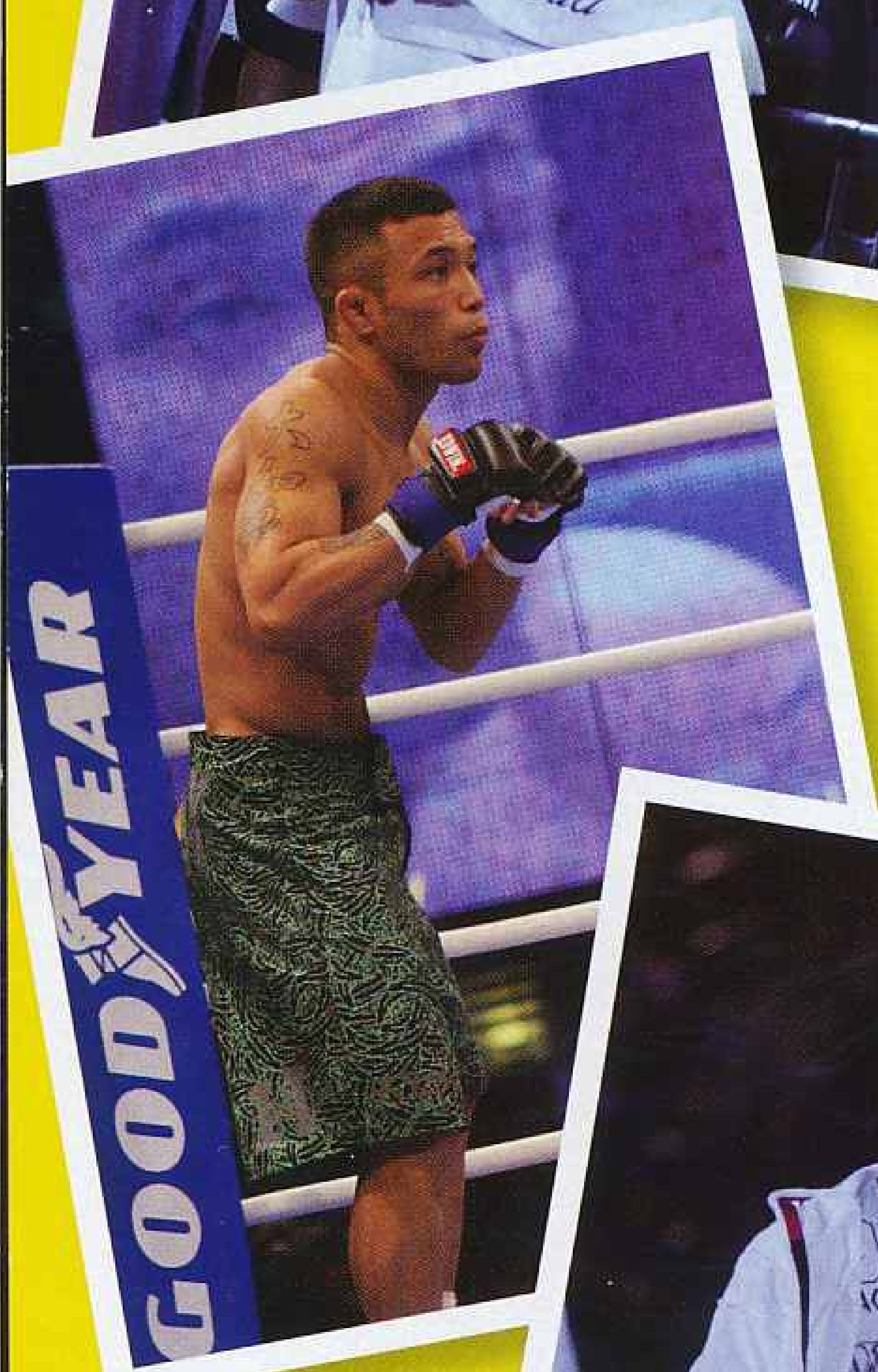
――ただ、青木さんとか川尻さんも石田

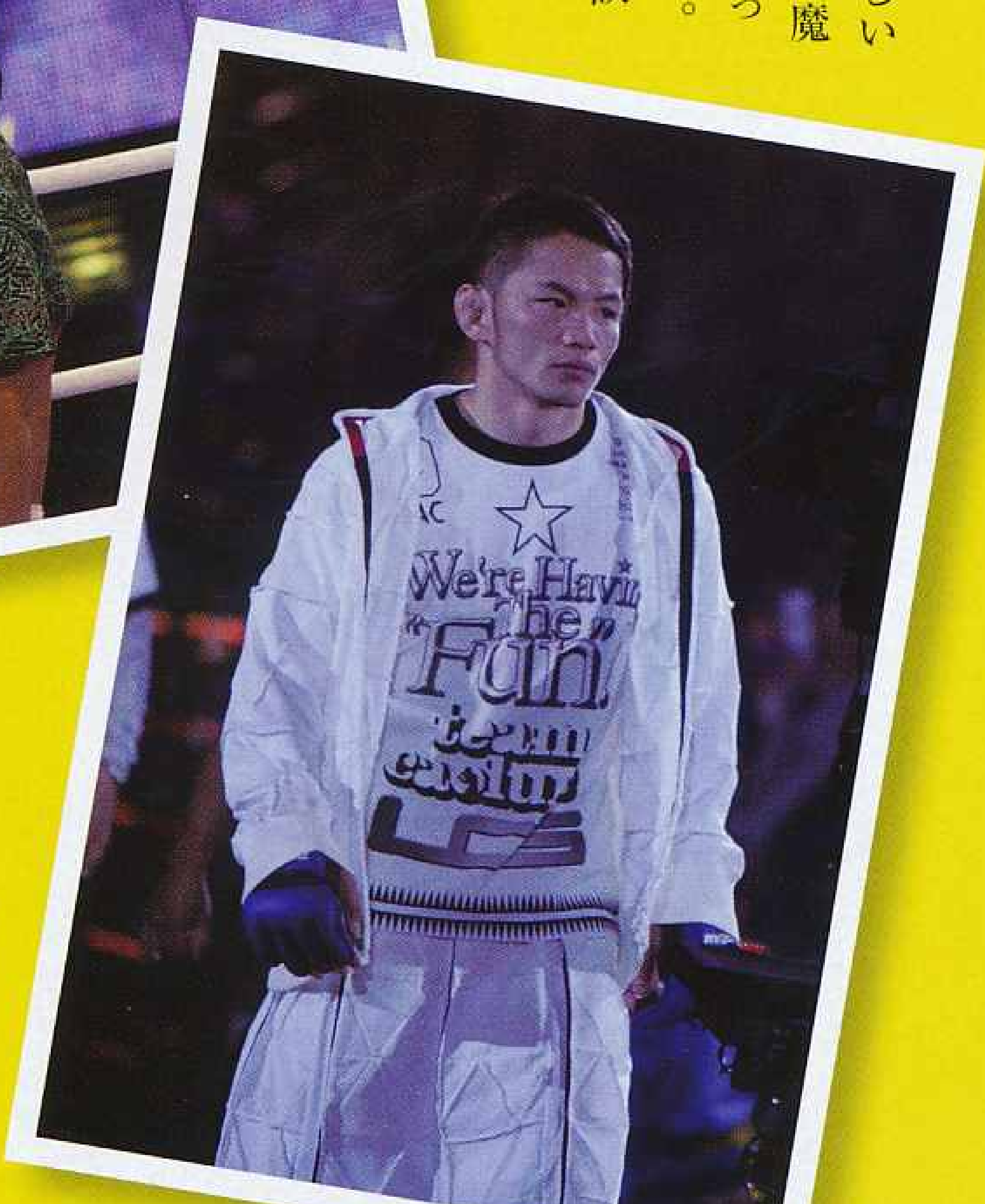
さんの〝やれんのか！　三銃士〟もキャラとしてもうワンステップ上がってほしいというのはありますよね。
谷川　でも、石田くんは今回で上がれる気がするなあ。青木くんはもともと凄くスターになりやすい選手だなって思ってたんだけどねぇ。スタイルも独自のものを持ってるし、頭もいいし。だけど、対世間から見たときに3人とも一緒に見えるよね。
――PRIDEというイメージに埋もれかねないところはありますね。
谷川　そこをバラバラにしないといけないですよ。だって、青木くんと川尻くんはめっちゃめちゃ違うでしょ？
――ええ、ぜんぜん違いますね。
谷川　なんか、〝チーム修斗〟ってイメージもあるというかさ。もちろんKIDだって本籍＝修斗なんだけど、KIDはもう修斗って感じがしないじゃない。あそこまで突き抜けるといいんだけどね。
――そこはどうすればいいと思いますか？
谷川　やっぱり（佐藤）大輔くんの演出だったり、マッチメイクとかで見せていくことだよね。
――青木さんは一世代下なんですけどね。五味さんや川尻さん、宇野さんとかの世代じゃない。そこがポイントかもしれないですね。
谷川　もしかしたら、青木くんの世代がどんどん出てくればいいのかもしれないしね。要は、青木選手のライバルになりえる同世代の選手が出てきたり、それか川尻、宇野に迫る新世代というのが作れればいいんだけどなあ。
――新世代といえば、谷川さん。10代が活躍する『K－1甲子園』もまたおもしろいことになってますね～。
谷川　ウフフフフ。でしょ？　今度さ、小学生出すからね!!（急にテンションを上げて）。
――しょ、小学生って本当ですか⁉
谷川　うん。小学校1年生と小学校3年生で、すんごい逸材を見つけたんですよ。あの、〝HIROYAが認めた天才児〟ってことで打ち出そうと思ってるんだけど。
――ワハハハハ！　ウチはK－1とK－1MAXはあんまりアレですけど、ワールドユースに関してはどこよりも熱いですから（笑）。
谷川　ボクの中でも本当にイキイキしてやってる物件だからさ！　で、その小学生がすっごい強いの！（目を輝かせて）。
――んあ～！　目が危な～い（笑）。
谷川　（無視して）驚くよ!!　小学校3年生の子なんか全国大会総ナメなんだもん。どの大会も優勝してて、もう小学校3年の世界では神格化されてるんですよ。「小学校3年生ではアイツが日本で一番強い！」っていうね。
――いいなあ、全国に名を轟かせている小学生。
谷川　それを7月のK－1MAXのエキシビジョンでやろうと思ってるですよ。そういうことをK－1のリングでやると、本当に問い合わせが圧倒的に増えるし、層が厚くなるからいいよね。



宇野くんに『HERO'S』愛があったのは驚きだった。

――やっぱり文化の発展なくして競技の定着や拡がりはありえないところはありますよね。
谷川　うん。
――そこはMMAよりもやりやすいですよね。DREAMワールドユースは絶対にありえないし（笑）。そういう意味ではK－1というジャンルはやっぱり大衆との接点が大きいという。
谷川　マスコンテンツとしては、K－1はいいよ。で、DREAMはその逆だよね。マニアックな拡がりを展開できるから。
――で、昨日のDREAMはDREAMで世界観が確立されてきそうじゃないですか。先の話ですけど、大晦日、あの世界観が『Dynamite!!』に収まりますかね？
谷川　いやあ、それは難しいでしょ。逆にDREAMで魔裟斗くんとかが試合をやってもたぶん反応ないからね。そこは笹原くんたちと相談になるけど、大晦日は去年みたいに別々にやったほうがいいよね。
――立ち技と総合の二つに分けての開催？
谷川　まあ、まだどうなるかわからないけどね。もうさ、何をやってるかわからなくなるから。K－1、MAX、DREAMにユースでしょ。
――そのうち小学生も始まって（笑）。不安な点ってあります？
谷川　うん。なんかさ、ユースとか小学生の親御さんたちとどういう話をすればいいのかなって。
――ああ、いまはモンスターペアレントが話題になっていますし（笑）。
谷川　ボクはいままでいろんな関係者や選手とハードな交渉してきたけど、親御さんたちは未知の領域だからなあ。なんだか大変な予感がするなあ……。
――ダハハハハ！　今月はここまでだ！（ダナ・ホワイト調）。
【08年5月12日／都内某所にて収録】





いまだにDREAMの根底に流れるのは『HERO'S』vs旧PRIDEという対立構造。旧PRIDE勢のPRIDEへの愛はすでに知るところであるが、『HERO'S』勢にも同じ思いがあったことについてはどこか嬉しい驚きを覚える。



韓国で『kamipro』バッシング!?

魔王表紙騒動@韓国

**4月23日に発売された本誌No.122の表紙は、あの"魔王"秋山成勲!
秋山を表紙にしたのは、もちろんDREAMのミドル級GPに不可欠の存在だったからである。
しかし、発売日の直前、4月21日にDREAMの緊急記者会見が開かれ、
な、なんと! 秋山は、昨年大晦日の三崎和雄戦で負傷した鼻骨を再度骨折したとして、ミドル級GPへの不出場を表明!
本誌にとってもDREAMミドル級GPにとっても、非常に残念な発表となったのだった。
しかし、じつはこの秋山表紙の『kamipro』が、韓国で大問題になっていたという。**

文／大川義之

韓国で〝魔王〟秋山の表紙が大バッシング!

本誌の発売日から二日後、韓国の大手格闘技専門ニュースサイト『MFIGHT』が秋山表紙の本誌を写真入りで紹介し、「日本の雑誌が秋山を赤い目の〝魔王〟として表紙にした!」と報道。

この記事を見た韓国人や秋山ファンは、「我が国の英雄を〝魔王〟扱いするなんて! キーッ!!」と激しく怒り、秋山表紙の本誌は韓国で恐ろしい勢いでバッシングを受け始めたのだ! ヤベェ!

韓国人にとっては、ある意味ショッキングな秋山表紙の本誌は、猛烈な勢いでネット上に広まり、ここにはとても書けないような放送禁止用語を使用して「ふざけるな!」「優しくてナイスガイのチュ・ソンフン(秋山の韓国名)に〝魔王〟なんて似合わない!」「こんな雑誌、訴えてしまえ!」と、ありとあらゆる罵倒が投げかけられていたのである。

さらに、さらに! こうしたネット上の〝祭り状態〟を見て、なんと! インターネットテレビの『デイリアンTV』が、時事ニュース枠で5分近くにわたってこの問題を取り上げ、上記の韓国人の罵詈雑言を紹介しつつ「日本で激しい差別を受けている秋山、〝スポーツ民族主義〟に利用されている秋山、バッシングに負けずに頑張れ!」という趣旨で報道。秋山にはエールを、本誌には厳しい批判を投げかけたのだった。ただし、番組の批評者は本誌を購入しておらず、書かれた内容を見ずに、自分のイメージだけで「秋山はこう叩かれているに違いない!」という憶測で批評。感情が先走りすぎだよ!

しかし、こうした報道によって、韓国に

韓国の秋山ファンは『mimipro』もチェック！
原タコヤキ君の大阪弁は、うまく聞き取れなかったらしい

おける『kamipro』のイメージは一気に悪くなり、「秋山を糾弾する悪の雑誌」として認識されてしまう。やがて、この報道を目にした韓国の秋山公認ファンクラブのサイトで、本誌の素性を徹底的に調査する作戦がスタート！ 3月10日からオープンしたkamipro.comにある秋山関連記事をすべて調べ上げ、韓国語に翻訳し始めたのだった！ べつにやましいことはないので、それはいいのだが、彼らはポッドキャストで配信している『mimipro』第7回「〝魔王〟もビックリ!! なぜミドル級GPに出ない秋山が表紙になったのか」までチェック！ しかし、さすがにカリスマ司会者の原タコヤキ君の大阪弁は、うまく聞き取れなかったらしい……。

だが、ここで事態は急展開！ なんと！ このファンサイトの中から、実際に秋山表紙の本誌を入手した者が現われたのである。そして、彼らは田中太陽氏と僕の書いた秋山関連記事を全文翻訳し、徹底解剖を開始したのだった。『kamipro』危うし!?

ところが！ いざ内容を翻訳してみると、韓国人にとっては意外にも冷静な内容だったようで、「この雑誌の記事は、いままでの中で一番客観的」「表紙を見てムカついたけど、これはひさしぶりにいい内容」という驚きの反応へと変化していったのだった。

もちろん、もともと本誌にはむやみやたらに秋山をバッシングする意図はない。ただひたすら〝秋山成勲の本性〟に迫ってきただけだ。日本や韓国にしろ、秋山問題には脊髄反射でヒステリックになりがちだが、極端なことを言えば、本誌は秋山成勲自体はどうでもいいのだ。魔王を通して〝ものの見方〟についてアプローチしてきたのである。本誌にはよくマット界関係者から「どうして秋山を応援するんですか？」とか、逆に「秋山を叩くのはもうやめたら？」とかまったく正反対な声が届くが、そうやって二元論で語ること自体が見当違いなのである。



いつのまにかワールドワイドな番組になっていた『mimipro』。司会の原タコヤキ君はなぜか魔王とプールに行ったことがある黒い男だ。写真は番組に乱入したマッスル坂井と。近い将来、魔王にもぜひ出演してもらいたい!!

話を戻そう。実際に内容を読んだ韓国のファンたちは、バッシングをやめ、とたんに冷静になっていった。

たとえば、本誌が使用している秋山成勲の別称〝魔王〟についても、かつては否定的な意見ばかりだったが、「正義ばかりじゃおもしろくない。悪役のほうがもっと格好いい！」とか、「〝悪魔〟と言われてるわけじゃないし、強くないとなれない〝魔王〟は、秋山選手にピッタリ！」という意見も見られるようになった。まあ、あの言葉に秋山の〝黒〟を集約させようとする本誌の意図とはちょっとずれているんだが。

中には、あまりにも日韓両国で評価の違う秋山について「読んでいて、自分の好きな秋山が、彼の本当の姿なのだろうか？ 真実の秋山とはなんなのか？ と考えさせられました。この記事は本当に客観的に表現していますね。私たちも、もっと秋山選手のことについて、よく知らなければならないと思う」と、真摯に秋山と向き合おうと提案する意見も飛び出した。絶賛するのはいいけれど、意見が変わりすぎだって！

挙句のはてには「みんなでこの雑誌を共同購入しよう！」と、持ちかける者まで現われるなど、驚くほど無邪気な豹変ぶりが見られたのだった。少なくとも、秋山のファンサイトにおいては本誌の誤解が解けたようで、ホッと胸をなで下ろしたのだった。

〝魔王〟仕様にデフォルメした先月号の秋山の表紙や、〝魔王〟というキャッチフレーズだけを見て批判しようとすると、前記の時事ニュースのように的外れな意見になってしまうのだが、実際に内容を読んでいる日本の格闘技界の事情に詳しい格闘技専門ニュースサイトでは、先月号の本誌の表紙や〝魔王〟というフレーズについて、以下のような解説を加えている。

「秋山成勲は、日本の格闘技界で悪役のレッテルを貼られている。しかし、これを否定的に見る必要はない。〝黒の宴を止めるは誰だ!?〟という（『kamipro』の）コピーを見ても、日本の格闘技界が秋山を悪役にしようとするのは、彼が底知れぬ実力を持っていると評価されているためだ。スター選手不在で、低迷する日本の格闘技界において、秋山は活力源なのだ。秋山を〝魔王〟と称するのも、彼と対立する日本人選手とのライバル構造を興味深くするためのものである」（4月26日『MFIGHT』の記事より）

日本と韓国のあいだには、秋山成勲の評価について、いまも大きなギャップが存在している。韓国のメディアで歌を披露したり、ビールやバナナ牛乳（！）のコマーシャルなどに出演。このように韓国でポジティブスターとして活躍する姿は、日本では考えられないことだろう。深い、深すぎる恐るべき存在だ。だからこそ、〝ものの見方〟を追い求める本誌は、秋山成勲という魔王に今後も注目する次第である。



過激なコスチュームとハイヒールで華麗な試合をする秘密とは？

アン・ジョー司令長官＆野口大輔レフェリーが語る

インリン様の試合の作り方

『ハッスル』の独特の世界観を作り出した“母”――インリン様にスポットを当てた大特集「インリン様の作り方」シリーズ第二弾！
今回は「インリン様の試合」をテーマに、コーチ役のアン・ジョー司令長官と
レフェリーとして間近でインリン様の試合を見てきた野口大輔にインリン様の試合にまつわるエピソードを聞いてみた。
インリン様の試合はどのように構成され、どんな秘密があるのか？
いよいよフィナーレを迎えるインリン様の最後の試合は、これを読んでから観よう！

聞き手／坂井ノブ　撮影／山口比佐夫、平工幸雄　写真提供／ハッスルエンターテインメント

間の取り方はバッチリでしたね（野口）
熟練のレスラーよりもうまかったよ（アン）

――「インリン様の作り方」という特集を『kamiproSpecial2008 JUNE』でやらせていただいてキャラクターの部分にスポットを当てたんですが、今回はインリン様の試合の作り方をお二人にうかがいたいと思います。

アン・ジョー司令長官（以下アン） はい。

――司令長官はコーチとしてインリン様に指導してきた立場ですけど、なぜあんなに華奢なインリン様が大柄なプロレスラーと試合ができたんでしょうか？

アン ファイティング・オペラだからね（笑）。

――まあ、そうなんですけど（笑）。インリン様という素材はいかがでしたか？

アン 自分の与えられた役割をきっちりこなしてましたよ。出すぎず、やりすぎず、肝心なところをビシッとやった。基本的にやれる技は限られてるから、それをどう見せるかってことなんですよ。

野口 最初は「試合をさせちゃうのはどうなんだろう？」っていう不安はありましたよ。

アン 「インリン様が試合をして、はたして観客は乗れるのか？」っていうね。

野口 デビュー戦で小川（直也）さんと6人タッグで闘ったんですよね。小川さんと向き合っただけで凄く沸きましたけど、試合自体にはほとんど出てないんですよね。

――最後にM字固めでフォールしただけで、ほとんどダン・ボビッシュとアリシンZが試合をしてましたからね。

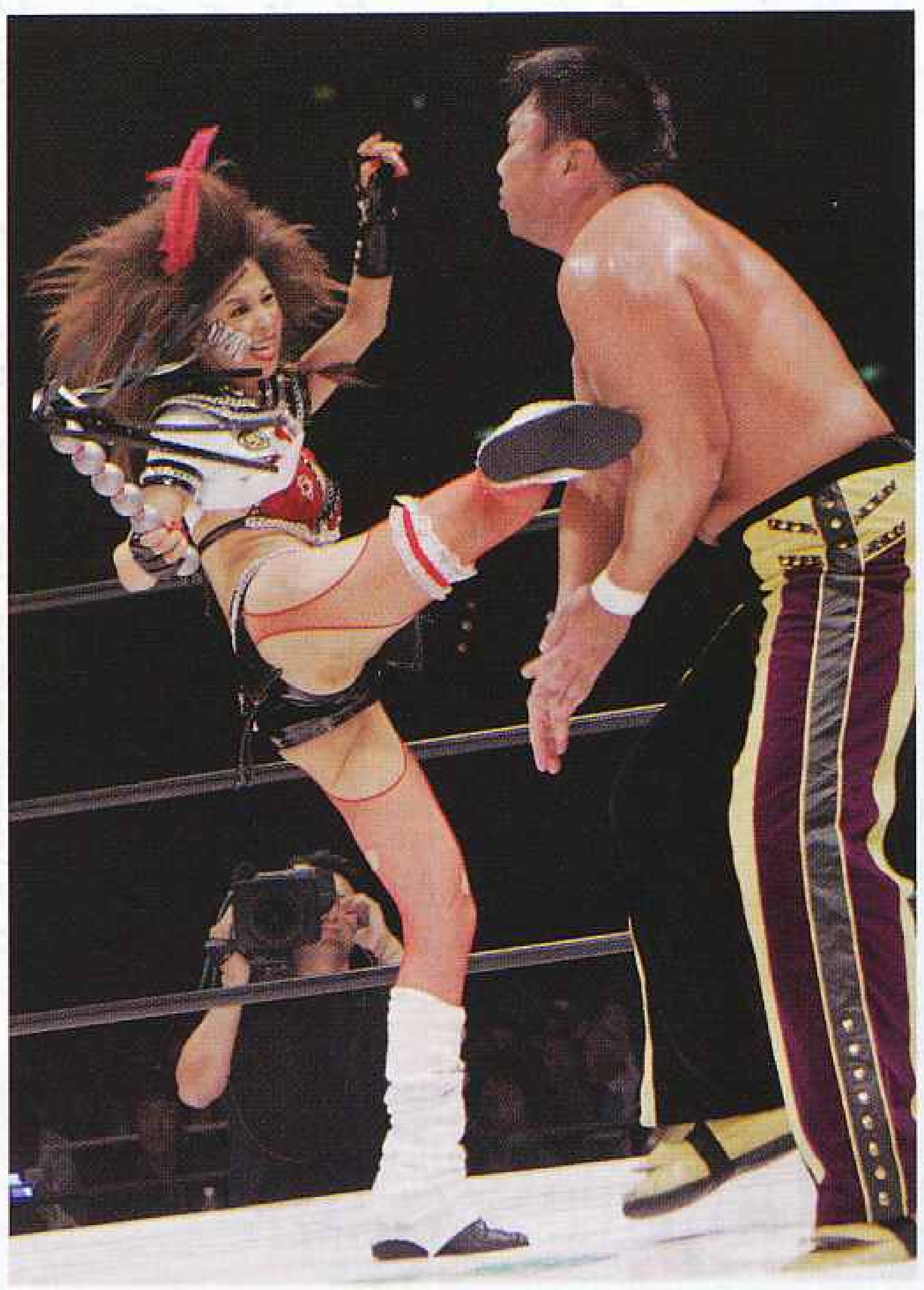
アン 普通の女の子がリング上で柔道銀メダリストと向かい合ったら怖がって何もできないからね。次長課長の河本（準一）さんじゃないけど、ちょっと絡んだだけでアバラが折れちゃう可能性もあるし。

野口 ヌルヌル相撲で小川さんに折られてますからね（笑）。

アン ちょっとでも怖がったらケガにつながるでしょ。舞台度胸がありますよね。焦っちゃったりすると間がへんになるし。試合ではケガをしてないはずですよ。

野口 間の取り方は最初からバッチリでしたね。

アン 熟練のレスラーよりもうまかったよ（笑）。



インリン様はムチとM字を駆使した技が多かったが、ニューリン様は鋭いミドルキックをやローリングクレイドルなど、多彩な技を繰り出していた。もちろん衣装はセクシー！ プロレスとしてはありえないことも実現してしまうファイティング・オペラの真骨頂だ。

――間の取り方というのは、具体的にいうとどんな動きのことなんですか？

アン う～ん。たとえば日常生活の中でも間を怖がる人は、誰か他人と接するときに間を空けずにずっとしゃべり続けたりするでしょう。

――ああ、沈黙恐怖症みたいな人ですよね。普段の島田（裕二）さんはそんな感じですけど（笑）。

アン 間を取るというのは、ゆったりと流れる空気感を自然と作れるってことですよ。

野口 あと、インリン様は試合中でも常に何かを表現してるんですよ。コーナーに控えてるときもムチを動かしたり片足をロープにかけてたり、相手とにらみ合ってるときも表情で「怒り」を表現したり。一瞬たりとも素に戻ることがないんですよ。いまの若いプロレスラーはすぐ素に戻っちゃうことが多いんですけど、インリン様にはそれが一切ないですね。リング上で誰も観てないときでも、一人で表情を作ってますから。挑発されたら怒るし、威嚇されたらちょっと引いたり、それが普通にできるところが凄いですね。

――ただ、腕を取られたりして受けに回ると普通の細い女性なんだぁという感じでしたよね。

野口 普通の細い女性ですからね（笑）。ただ、小川さんとか川田さんとかムタと対峙したときも、弱々しい姿だけは見せたことがないですよ。

アン 唯一、カイヤとやったときかな（笑）。

野口 あれは弱々しいというより、嫌がってたんじゃないですか（笑）。

アン 当たりが強かったよね。カイヤも嫌だったのかな（笑）。あのときは芸能人同士の試合は難しいと思ったなぁ。

――いろんな人と闘いましたけど、あれはプロレス未経験の芸能人対決でした。

野口 女同士、芸能人同士ということで意地がぶつかり合ってましたのかもしれないですけど。

――それと、インリン様ってやられて倒れるシーンが凄く印象に残ってるんですよね。HGに負けてステージに沈んでいったり、股間にムタの毒霧を受けて失神したり、TAJIRIのハイキックを受けて倒れたり、けっこうムチャをしていると思うんですけど。

アン 攻撃を受けて倒れるときの受け身の練習はけっこうやりましたからね。あのハイキックはTAJIRIだから受けたというところもありますよ。

野口 TAJIRIさんだから蹴れたというところもありますよね（笑）。あれをやろうと思うTAJIRIさんも変態ですよね。

アン 俺だったら絶対に嫌だなぁ（笑）。

――天龍さんにWARスペシャルを受けたというシーンもありましたね。

野口 天龍さんは過去に神取（忍）さんの顔

「えっ、こんなんでケガしちゃうの？」っていうことも練習中にはあった（アン）

面をグーパンチでボコボコに破壊したり、\(^o^)/チエをボコボコにしたイメージが脳裏に焼きついていたんで怖かったですけどね。

アン　そこは、ファイティング・オペラってことで、きっちり線引きしてくれてたので良かったですけどね。

野口　天龍さんもペットボトルで股間に水を吹きかけたりしてましたからね（笑）。

――ノリノリでしたよね。インリン様自身は〝変態〟をテーマにしていたので、『ハッスル』の求める方向性と合致していたのかもしれませんね。インリン様が出ることによって観客の雰囲気とか空気も変わりますよね。

野口　観客もそうなんですけどインリン様の存在感がほかのレスラーにも伝播して、しっかりとした空間ができてますよね。インリン様がリング上にいるって、おかしな空間じゃないですか？　もしもほかのプロレス団体のリングにインリン様がいたら浮くだけですよ。インリン様というフィルターを通して『ハッスル』の世界観は違和感なく、観客に伝わってると思うんですよね。

――なるほど。インリン様の存在感を演出するムチというアイテムも素晴らしいですよね。

野口　あれは攻撃の起点というよりも、インリン様の象徴としてのアイテムですよね。ムチを常に振り回したりしているから、必ずインリン様に目がいくようになるんです。

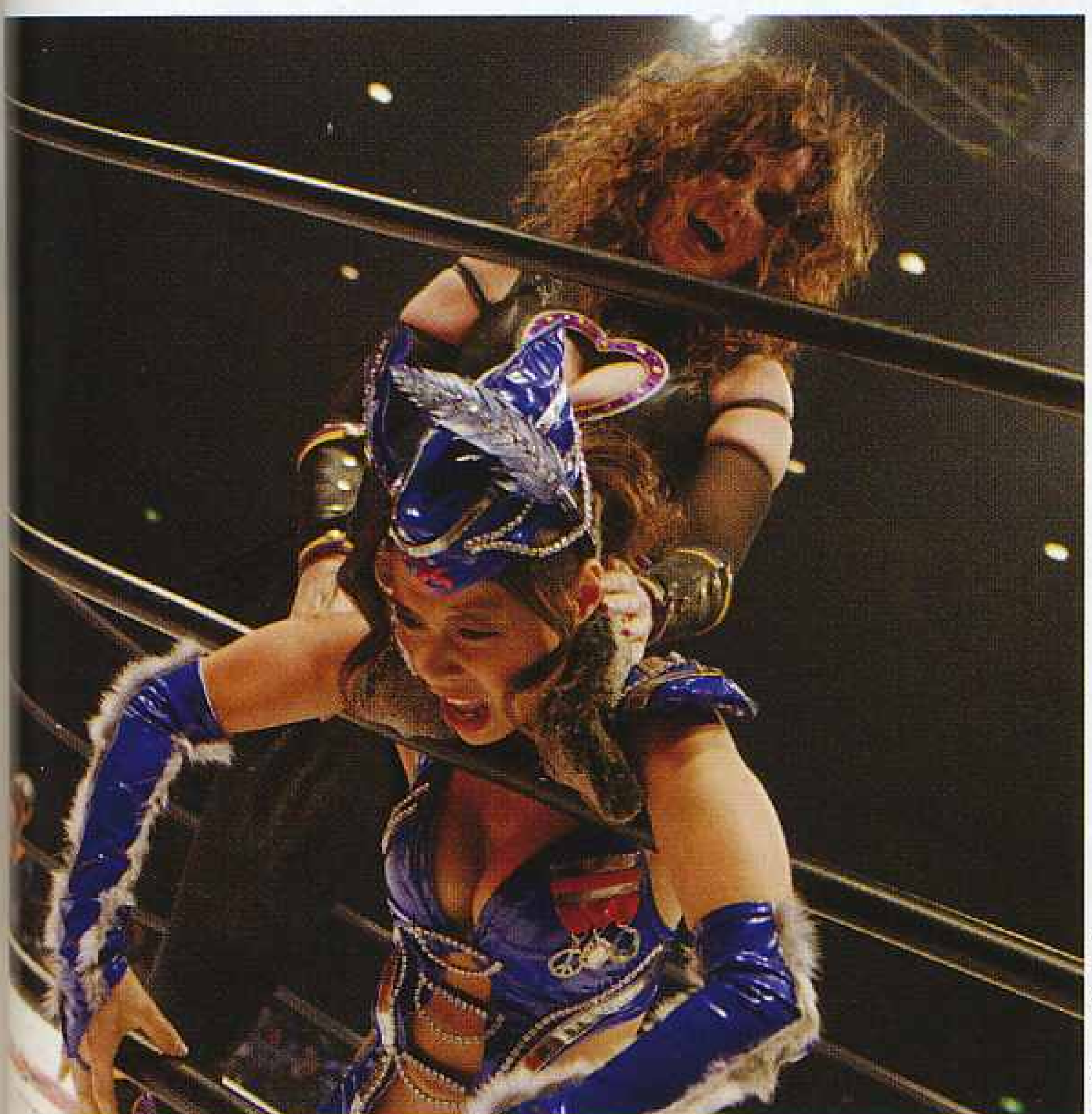
アン　それに攻撃するときも叩くだけじゃなくて、いろんなことができますからね。大の大人がムチを持ってああでもない、こうでもないって試行錯誤してますよ。「首を絞めるのにちょうどいいな」とか「居合い斬りみたいな使い方はどうかな」とか（笑）。

――ニューリン様のときは、意外にもプロレス技を繰り出す印象が強烈だったんですけど、あれも練習はけっこう大変だったんじゃないですか？

アン　ミドルキックをナチュラルに蹴れるんだから凄いセンスだよね。

野口　普通の女の子は汚く足を上げるだけですけど、足の振りと手の振りがしっかりできてましたよね。プライベートで蹴ってるんですかね？

アン　元Jリーガー仕込みのサッカーボールキック？



ニューリン様とカイヤの抗争はある意味でガチ！　控室でも両者間にはピリピリした空気が漂っていた。どちらもプロレス未経験ということもあり、試合をうまくリードすることができず消化不良の内容となった感は否めない。試合を成り立たせるのは凄く難しい。

野口　サッカーボーイに教わったサッカーボールキックですよ！

――まあ、ラブラブみたいなんでそれぐらいは教わってるかもしれないですけど（笑）。

アン　ただ、普通に試合をやるようになったのはいいんですけど、ケガが怖かったです。簡単にケガをしちゃいますからね。「えっ、こんなんでケガしちゃうの？」っていうことも練習中にはあったし。身体をグッとひねっただけで肋軟骨を痛めたりとか。

――インリン様はずっとピンヒールを履いて試合をしてたじゃないですか？　足をケガする不安は常にありましたよね。

アン　もちろん！　足首をケガする可能性が高いから最初は止めたんだけどね。

野口　本人は「ヒールのほうが動きやすいから」って言って。

アン　だから、初めての練習のときにピンヒールを履いた状態で「ちょっと走ってみてください」「ジャンプしてください」っていろいろ動いてもらったんだよ。そしたら、全然普通に動けてる（笑）。

野口　まあ、リングマットはボロボロになってましたけど（笑）。

アン　ついでに「踏んでもらっていいですか？」って言いそうになったからね（笑）。

野口　そういう意味では、僕らの常識は一切通用しませんね。

――ピンヒールもそうですけど、コスチュームも凄かったですよね。あれについては、とくに注文とかリクエストはつけなかったんですか？

アン　……リクエストをしたことは、とくにないよ。

野口　昔、安生さんは松井大二郎がデビュー戦のときにピンクのタイツを穿こうとして「おまえ、ホントにそれで試合するのか？」って、ずっとボールをぶつけてたらしいんですよ。

――Uインターの鬼コーチ時代ですね。

アン　そんなことあったっけ？（笑）。

野口　それで、松井大二郎は「すいません！」って練習用の青いスパッツに穿き替えて試合をしたという話です（笑）。あと、豊永（稔）がデビュー戦で踊ったときも、安生さんが「おまえ、ナメてんのか？」ってまたボールぶつけていたという話もありますね。

アン　世界観が変わると、考え方も変わ

アン　それに攻撃するときも叩くだけじ

野口　まあ、リングマットはボロボロになってましたけど（笑）。

アン　ありますね。世界観が変わると、考え方も変わ

るってことなんだよ（笑）。逆に表情だったり、動きだったり、雰囲気作りの面では徹底的に指導するけど。そんな指導は松井大二郎にはしないから。

──まあ、そうでしょうね（笑）。

野口　コスチュームは完全にお任せでした。どういうコスチュームなのかは一応、事前に聞くんですけど、具体的にどんなものなのかは大会直前までわからないですからね。でも、だいたい「その衣装でやるんですか？　凄いですねぇ」と言って終わりでしたね（笑）。

アン　コスチュームの形状によっては、できない技もあるんでやらないようになるんだよね。頭に何かを着けることが多いんで、「じゃあ、あの技を出すのはやめましょうか」とか。

野口　ただ、それによって試合がつまらなくなったり、不自然になったりすることはなかったですよ。それで成立してしまうんですね。普通のプロレスだったらコスチューム優先で試合をすることはまずないです（笑）。

アン　まあ、『ハッスル』は従来のプロレスじゃないからね。ファイティング・オペラなんですよ。

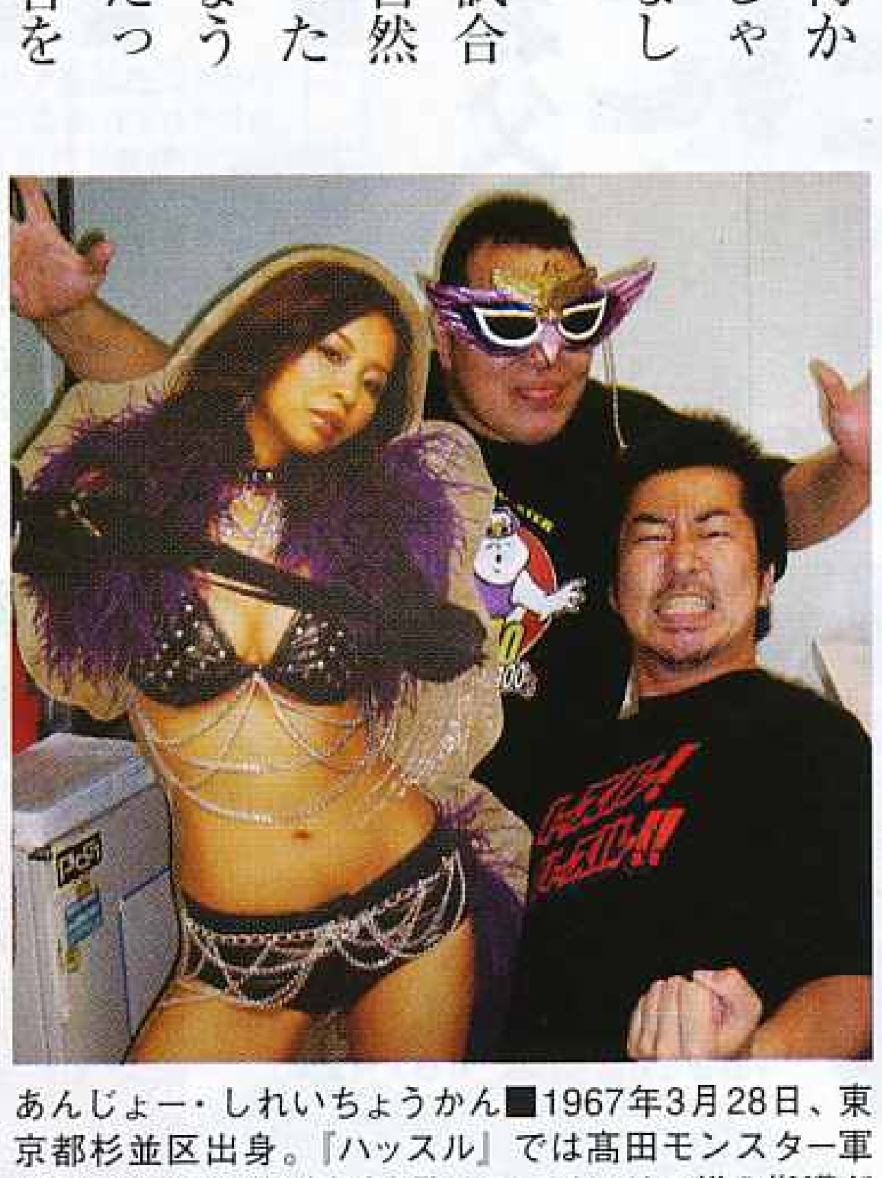
野口　インリン様の試合がしょっぱいということは、『ハッスル』全体がしょっぱいということになってしまいますから。その試合の完成度を高めるために全力をつくしますよね。

──インリン様のベストバウトはどの試合だと思いますか？

野口　ムタとの絡みはどれも凄かったですね。ムタと絡んでキャラクターを消されなかったのは木戸修とインリン様だけですよ。『ハッスル・エイド2007』で股間にミストを吹かれてますけどあれで3カウントが入るだけだったら、インリン様の存在を消されてたと思うんですけど、股間にミストを吹かれて失神したときの表情がすべてでしたよ。「ええ〜っ？」って誰もが思いましたからね。あの表情とか最高だったよなぁ。

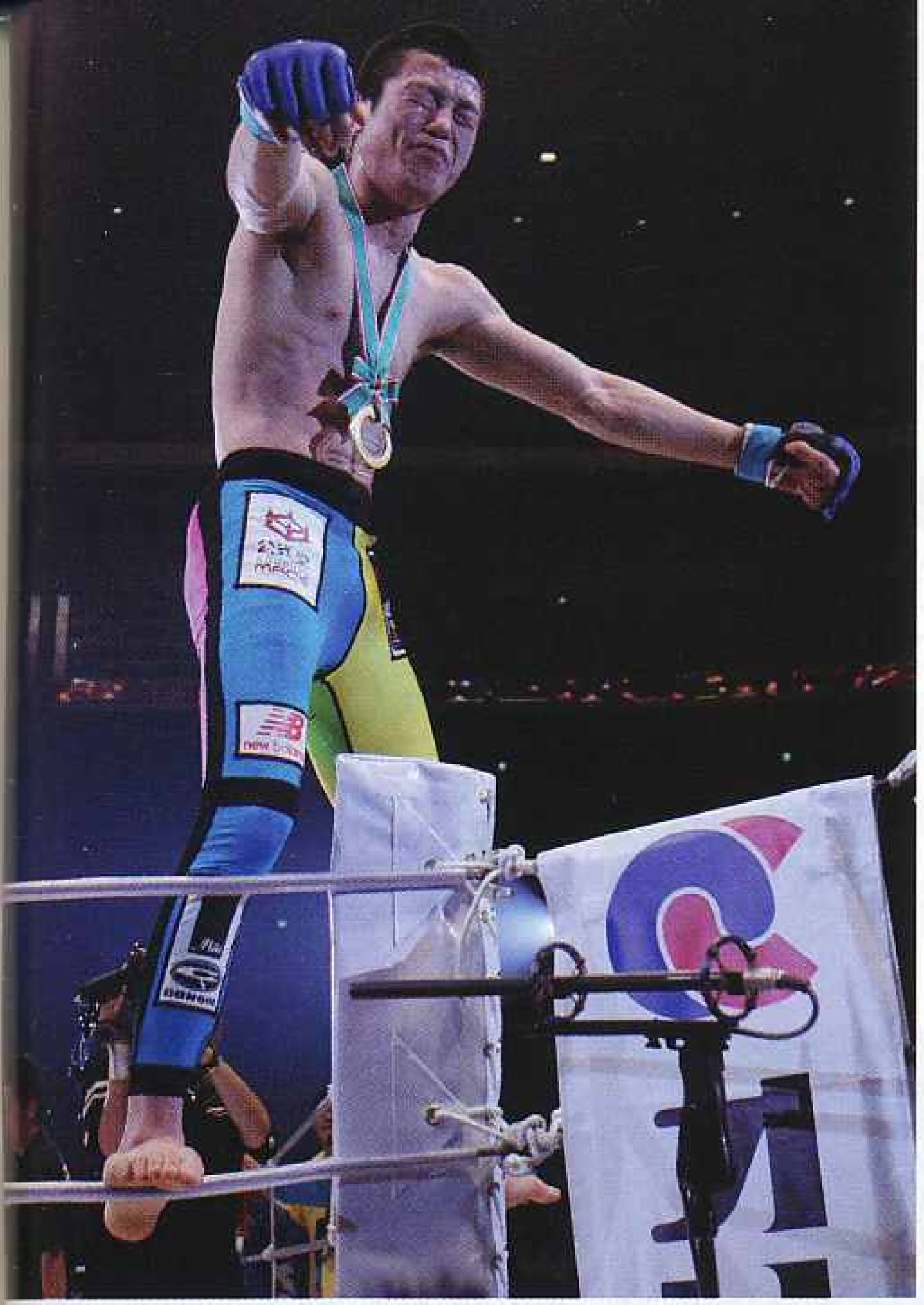
アン　おまえ、ホントに変態だなぁ（笑）。でも、この世のものではないような独特の雰囲気があったと思うんですよ。チャンスがあればWWEのアンダーテイカーとやらせてみたかったたね。たぶん、インリン様の存在感は消されないと思うよ。それぐらい凄い人でしたね。

【08年5月9日／都内・ハッスル道場にて収録】



あんじょー・しれいちょうかん■1967年3月28日、東京都杉並区出身。『ハッスル』では髙田モンスター軍を統率する総統の側近を務める。インリン様の指導だけでなく若手のコーチ役、外国人選手とのパイプ役として欠かせない存在になっている。
のぐち・だいすけ■1976年10月28日、栃木県那須塩原市出身。『ハッスル』、DREAM、DEEP、全日本キックなどさなざまな団体でレフェリーとして試合を裁く。

ムタと絡んでキャラを消されなかったのは木戸修とインリン様だけですよ！（野口）



ワーン、ワーン、お父ちゃ〜ん！
読プレに当選したよ〜!!

「俺の夢だ!」と叫べ!!
kamipro PRESENTS

応募要項
ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（商品は2008年5月23日以降発送予定です）。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事＆その理由⑥つまらなかった記事＆その理由⑦DREAMライト級で優勝するのは誰?⑧DREAMミドル級で優勝するのは誰?
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「夢のバカヤロー!」係まで
※締切は2008年6月23日（月）当日消印有効

kamipro
123
応募券
愛してま〜す!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

DREAM



DREAM アカウントTシャツ
1名様
［オレンジ／¥4,200（税込）］
6.15『DREAM.4』では青木vs永田も実現し、ライト級＆ミドル級グランプリもいよいよ佳境に突入して、KIDも参戦か？　さらなる盛り上がりは必至のDREAMのアカウントTシャツを1名様に。

ミノワマン "リアルプロレスラー" Tシャツ
2名様
［ブラック／¥4,200（税込）］
不思議な言動＆行動、奇想天外なトレーニング方法で毎度おなじみ。勝っても負けても観客を盛り上げることが身上の"リアルプロレスラー"ミノワマンのTシャツ。

DREAM.2 大会記念Tシャツ
1名様
［ホワイト／¥4,200（税込）］
青木vsカルバンのライト級頂上決戦に、田村vs船木のUWF対決。サクもひさびさに元気一杯でたまアリに凱旋するなど、まさに夢の続きが発進！『DREAM.2』の大会記念Tシャツが到着だ。

サイン入り青木Tシャツ
1名様
サイン入り
［イエロー／¥4,200（税込）］
4.29『DREAM.2』では、まさしく3度目の正直で"元・『HERO'S』絶対王者"カルバンを見事に完封！ DREAMライト級における主役の位置を死守した青木真也のサイン入りTシャツ。



青木真也＆須藤元気サイン色紙
2名様
今号で実現した青木真也＆須藤元気のDREAMな対談！ 大激戦となったカルバン戦やお互いの技術論などをおおいに語り合った二人の貴重すぎるサイン色紙を2名様にプレゼント。

DREAM■http://www.dreamofficial.com/

MINORU& LIGER
各1名様



ライガーTシャツ
［レッド／¥3,000（税込）］
今号の鈴木みのるとの対談では、青春の新日本プロレス道場での豪快なエピソードを赤裸々に語った"レジェンド"獣神サンダー・ライガーの真っ赤なTシャツを1名様に！

鈴木みのる デビュー20周年記念Tシャツ
［ブラック／¥3,000（税込）］
今号の対談では「全部、コイツのせい!」と、ライガーも途方にくれるほどのバイオレンスすぎる逸話を笑顔で暴露！ 6月17日には20周年記念興行を控える、鈴木みのるの記念Tシャツ。

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

K-1



K-1 "ALL OR NOTHING 1993" Tシャツ
各2名様
［¥3,675（税込）］
"立ち技最強"を決めるべく、世界的な規模で拡大を続けるK-1ワールド。その歴史がスタートした1993年という数字と、K-1のテーマ"ALL OR NOTHING"の文字が刻まれたTシャツ。

K-1 WORLD MAX タオルマフラー
［ブラック／¥1,575（税込）］
MAXの"絶対的主役"にして、08年度の世界王者に向けて邁進中の魔裟斗をはじめサワーやブアカーオなど、立ち技"世界最高峰"の中量級が集結！ K-1 WORLD MAXのタオルが到着だ。

FEG■http://www.k-1.co.jp/

SENGOKU



高田延彦＆三崎和雄サイン色紙

今号の対談では、07年大晦日『やれんのか!』の秋山成勲戦を振り返り、三崎のルーツにまで迫るなど、熱く深く語り合った高田延彦＆三崎和雄の貴重なサイン色紙を提供!

1名様



5名様

3.5 戦極 オフィシャルパンフレット

[¥2,100(税込)]

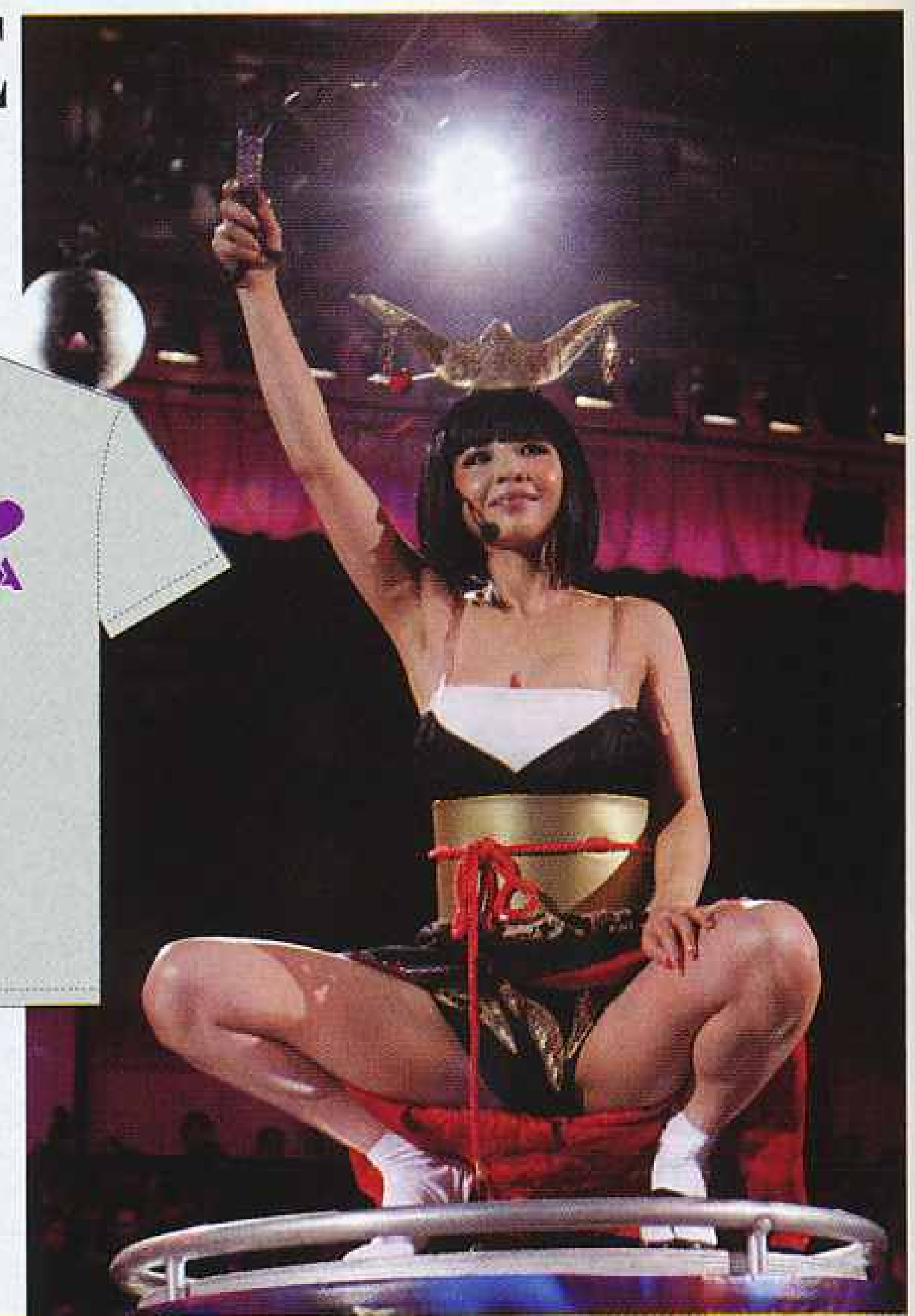
吉田vsジョシュをメインに五味、三崎、藤田など豪華なメンツが勢揃いした3.5『戦極』旗揚げ戦のパンフレットを5名様に提供するぞ! 吉田と古賀の柔道金メダリスト対談に、メイン選手のインタビューも収録だ。

戦極■http://www.sengoku-official.com/pc/

HUSTLE

1名様





インリン様女神「FIGHT」Tシャツ

[ホワイト／¥3,990(税込)]

「M字よ永遠なれ!」5.24『ハッスル・エイド2008』で、息子ボノちゃんとの試合を最後に引退することを表明した"官能の女神"インリン様のTシャツを1名様にプレゼント。

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

ART JUNKIE



1名様

ヌー・W・F ニューカラーTシャツ

[ブラック／¥3,675(税込)]

ART JUNKIEからはストロングスタイルのダブルスタンダードであるあの2団体をフィーチャー!? "N"と"U"を一つにしたロマンあふれる謎の団体ヌー・W・FのTシャツを1名様に!

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

REVERSAL



1名様

SPACE WAR? Tシャツ

[ブラック／¥5,040(税込)]

人気格闘技ブランドのreversalからは、またまた格好いいシャツが登場! 地球、土星、宇宙服、衛星、ビームといったスペーシーな要素を特色分解してプリントしたとってもオシャレなTシャツを1名様にプレゼント。

REVERSAL■http://www.rvddw.com/

PANCRASE



1名様

川村亮×ランボーコラボTシャツ(仮)

[ホワイト／¥3,675(税込・予定)]

パンクラスライトヘビー級の中心選手であり、『戦極』の第一陣、第二陣にもレギュラー参戦している"ランボー親善大使"川村亮の特製ランボー・コラボTシャツを1名様に。

PANCRASE■http://www.pancrase.co.jp/

QUEST



各1名様

小林由佳のキセキ

[235分／¥5,880(税込)]

由佳に萌え萌え〜! その愛らしい容姿からは想像できない実力ぶりで何度も優勝を飾り、新極真会全日本女子でも優勝している"天才女子空手家"小林由佳のDVDが到着!



『高阪剛 TK式格闘学会 実践編 vol.3』 [139分／¥5,880(税込)]
『新極真会重戦車塚越孝行』 [171分／¥5,880(税込)]
『初見良昭口伝その十二』 [103分／¥5,880(税込)]

QUEST■http://www.queststation.com/

WWE

各3名様



WWEレッスルマニア24大会記念Tシャツ

あのリック・フレアーの引退を懸けた歴史的ビッグマッチも行なわれ、ボクシング現役王者メイウェザーも電撃参戦した『レッスル・マニア24』の大会記念Tシャツを提供!

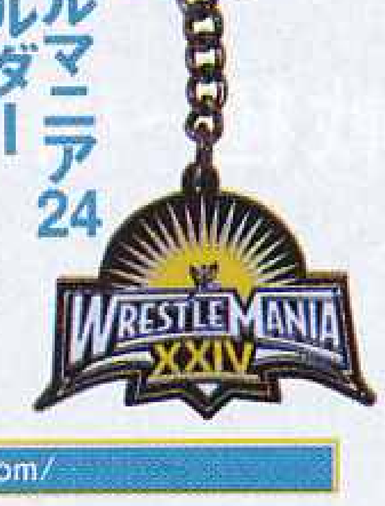


WWEレッスルマニア24バッグ

WWEの史上最高額となる、585万ドルのチケットセールスを記録し、7万5000人近いファンを動員したプロレス業界、世界最大のビッグイベント『レッスルマニア24』のバッグを3名様に。

WWE レッスルマニア24 キーホルダー

メインではジ・アンダーテイカーが『レッスルマニア』での無敗記録を驚愕の16に伸ばして、大盛り上がり! 『レッスルマニア24』の超貴重な記念キーホルダーが到着!!



WWE■http://www.wwe.com/

TOKIMEKIMALL

フィギュア HAO × RINGSIDE ジャイアント馬場

[¥3,990(税込)]

いまのプロレス界には馬場が足らない、とばかりにあのレジェンドの中のレジェンドのフィギュアが発売! 言わずと知れた"世界の巨人"ジャイアント馬場の特製フィギュアだ!



1名様



フィギュア HAO × RINGSIDE スタン・ハンセン

[¥3,990(税込)]

ロングホーンが止まらなウィ〜〜! さらに"レジェンド"ガイジンレスラー"浮沈艦"スタン・ハンセンのフィギュアが登場。必殺のラリアットのあとは、このポーズ!

ときめきドットコム■http://tokimekimall.jp/NASApp/

kamipro 紙のプロレス

No.123
2008年6月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
鈴木 佑
八木賢太郎(マジックなアワーのため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん
上杉出張中

編集次長(マッスルマニア?)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき(以上、TwoThree)

トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

初来日
ポール・入江・ポッツ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本"刷版トラブル"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

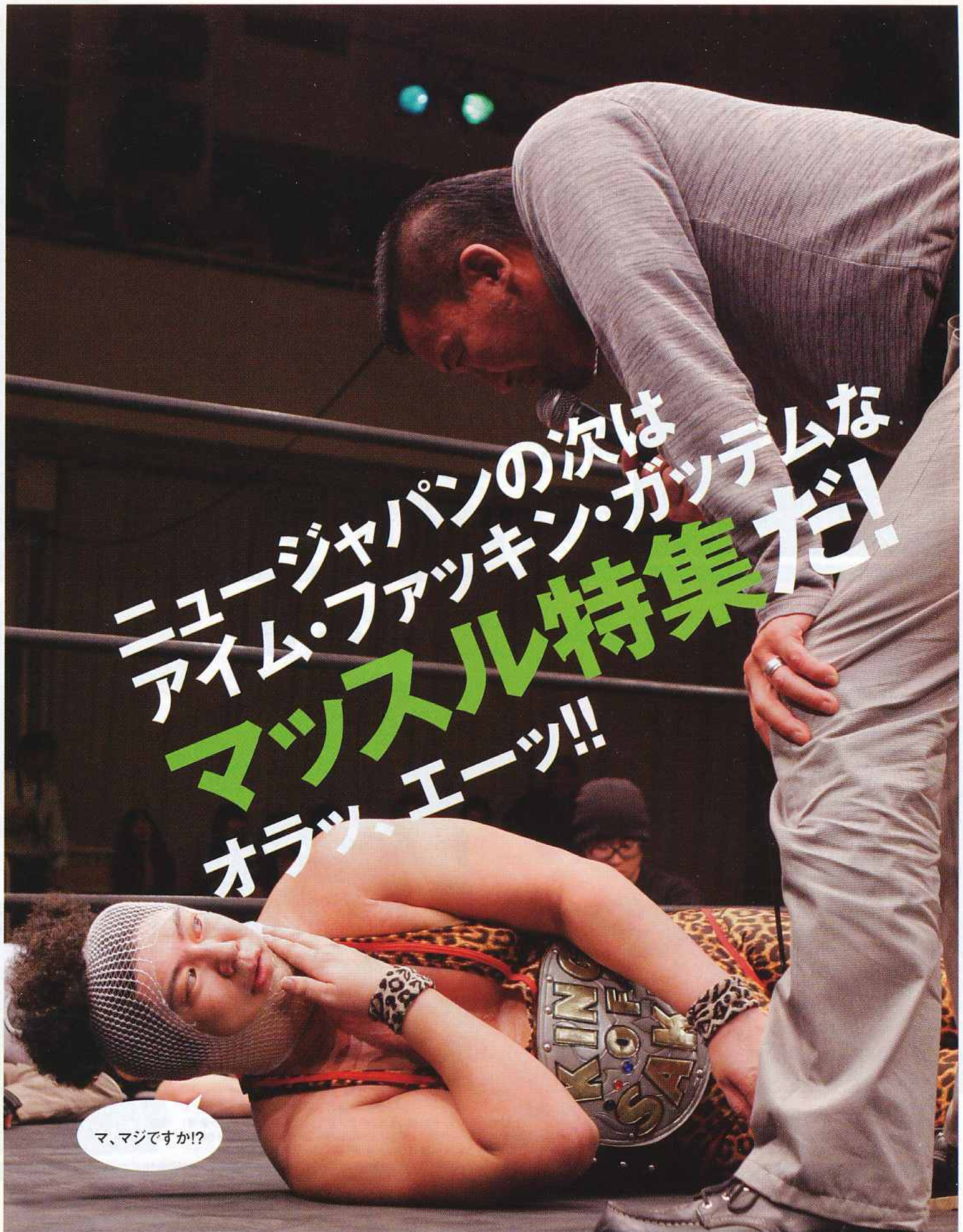
編集チアマダム
廣橋"キューティボブ"久美子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



NEXT ISSUE

5.18『戦極～第二陣～』詳報、
5.24『ハッスル・エイド2008』&『UFC84』速報、
6.15『DREAM.4』直前特集!!

kamipro Special 2008 JULYは
6月6日(金)発売予定だ、オラッ!

6.8『戦極～第三陣～』詳報&6.15『DREAM.4』速報!!

No.124は6月23日(月)発売予定だ、オラッ!

※地域によっては多少発売日が遅れるぞ、エーッ!!

ka
No.12
2008年6月
発行人
浜村弘
編集人
斉藤慎
編集統括
ジャン斉
編集スタッ
坂井ノ
堀江ガ
阿修羅
松下ミ
真下義
大川義
鈴木 佑
八木賢
終身名誉
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登くん
上杉出
編集次長(
松林 貴
デザイン大
出田さ
デザイン司
金井ヒ
デザイン
松坂マ
谷タニ
廣田ブ
野口ノ
白木し
トメさん
はなえ
カメラマン
乾 晋也
菊池茂
平工幸
山口比
黒田史
吉場正
平 専英
戸成嘉
梅木麗
大甲邦
お勘定&衣
ニュー
初来日
ポール・
雑誌営業
堂前秀
中村宣
助っ人営業
上野宏
業務部
樽本"
編集庶務
原 正典
山内ユ
終身名誉
高木由
編集チアガ
金川奈
編集チアマ
廣橋"キ
広告営業
株式会
(広告掲載
発行所
株式会
〒102-
☎0570
印刷
図書印
協力
BUSH
FightS

kamipro 2008 123
こんな夢がもっと見たい!! DREAM奇跡の大爆発!!
2008年6月5日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
印刷・製本／図書印刷株式会社 ©2008 ENTERBRAIN,INC. ©2008 DOUBLECROSS
enterbrain

9784757742611
定価：本体838円＋税
雑誌 61956-16 Ⓗ2008.9
ISBN978-4-7577-4261-1
C9476 ¥838E
1929476008381
Printed in Japan 図書印刷